

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.4.2 放水による溢水</p> <p>1.4.2.1 放水による溢水源</p> <p>溢水ガイドに記載のとおり発電所内で生じる異常状態の拡大防止のために設置される系統からの放水による溢水を想定し、防護対象設備に対する影響を評価した。</p> <p>1.4.2.2.1 放水による溢水影響評価のうち没水影響評価</p> <p>発電所内で生じる異常状態の拡大防止のために設置される系統からの放水のうち、消火活動のために設置される消火栓からの放水及びスプリンクラーからの放水による溢水を想定した。</p> <p>消防活動における溢水量については、防護対象設備が設置されているすべての建屋（原子炉周辺建屋及び制御建屋）において、消火活動が連続して実施される時間及びスプリンクラーの放水時間を次のとおり見込んで算出した。</p> <p>発電所内で生じる異常状態（火災を含む。）の拡大防止のために設置される系統からの放水のうち、消火栓からの放水、スプリンクラーからの放水及び格納容器スプレイ系からの放水があるが、格納容器スプレイ系については原子炉格納容器内のみで生じ、防護対象設備は耐環境性があることから格納容器スプレイ系の動作により発生する溢水により原子炉格納容器内の防護対象設備が安全機能を損なうことはない。なお、格納容器スプレイ系の作動回路は、チャンネルの单一故障を想定してもその機能を失うことがなく、かつ、誤信号発生による誤動作を防止する設計とする。</p> <p>具体的には、原子炉格納容器圧力異常高の「2 out of 4」信号による自動動作又は中央制御室盤上の操作スイッチ2個を同時に操作することによる手動作動とする設計とする。</p>	<p>6 消火水の放水評価に用いる各項目の算出及び溢水影響評価</p> <p>6. 1 消火水の放水による溢水源</p> <p>女川原子力発電所2号炉には、自動動作するスプリンクラーが設置されていないことから、火災発生時に消火栓による消火活動を行う区画における放水による溢水を想定し、防護対象設備に対する影響を評価した。</p> <p>格納容器スプレイについては、单一故障による誤作動が発生しないように設計上考慮されていることから、溢水源として考慮しない。</p> <p>6. 2 消火水の放水による没水影響評価</p> <p>発電所内で生じる異常状態の拡大防止のために設置される系統からの放水のうち、消火活動のために設置される消火栓からの放水による溢水を想定した。</p> <p>消火水の放水による溢水影響評価対象区画を添付資料24に示す。火災が発生した区画（以下「溢水発生区画」という。）に存在する防護対象設備は、保守的に火災に伴う放水の影響により機能喪失しているものと想定した。ただし、火災発生箇所からの離隔距離が十分大きい場合や、同一区画内で火災が発生しても影響がないような対策がとられている場合はその限りではないものとした。</p>	<p>6 消火水の放水評価に用いる各項目の算出及び溢水影響評価</p> <p>6. 1 消火水の放水による溢水源</p> <p>泊発電所3号炉には、自動動作するスプリンクラーが設置されていないことから、火災発生時に消火栓による消火活動を行う区画における放水による溢水を想定し、防護対象設備に対する影響を評価した。</p> <p>格納容器スプレイについては、单一故障による誤作動が発生しないように設計上考慮されていることから、溢水源として考慮しない。</p> <p>6. 2 消火水の放水による没水影響評価</p> <p>発電所内で生じる異常状態の拡大防止のために設置される系統からの放水のうち、消火活動のために設置される消火栓からの放水による溢水を想定した。</p> <p>消火水の放水による溢水影響評価対象区画を添付資料20に示す。</p>	<p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p>設備名称の相違</p> <p>【女川・大飯】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は防護対象設備が設置される建屋内にスプリンクラーが設置されているが、女川及び泊には設置されていない。</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊では消火活動時に防護対象設備へ配慮して放水する運用であること、消火水放水に対しても被水防護対策を実施していることから、消火水の放水により防護対象設備が機能喪失することは想定していない。（大飯と同様）</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>記載箇所の相違</p> <p>泊は前頁6. 1項にスプリンクラー及び格納容器スプレイについて記載している。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

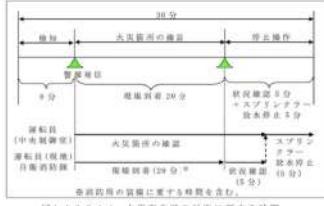
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 消火栓からの放水による溢水</p> <p>原則として3時間の消火活動を想定して溢水量を算出するが、火災源が小さいエリアについては、日本電気協会電気指針「原子力発電所の火災防護指針 (JEAG4607-2010)」解説-4-5(1)の規定による「火災荷重」及び「等価火災時間」を考慮し、消火活動における溢水量を以下のとおり評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>260\text{L}/\text{min} \times 0.5\text{時間} = 7.8\text{m}^3</math></li> <li>・ <math>260\text{L}/\text{min} \times 1.0\text{時間} = 15.6\text{m}^3</math></li> <li>・ <math>260\text{L}/\text{min} \times 1.5\text{時間} = 23.4\text{m}^3</math></li> <li>・ <math>260\text{L}/\text{min} \times 2.0\text{時間} = 31.2\text{m}^3</math></li> <li>・ <math>260\text{L}/\text{min} \times 3.0\text{時間} = 46.8\text{m}^3</math></li> </ul> <p>消防活動における消火栓からのホース引き回し経路から、扉の開放が想定される場合には、隣接エリアについても滞留エリアとして考慮した。</p> <p>流水経路については放水がある当該フロア及び下階等影響の及ぶエリアを考慮した。</p> <p>消防活動による放水量をもとに放水による溢水影響を各防護区画について評価した結果、防護対象設備が機能喪失に至らないことを確認した。</p> <p>各建屋、各フロアで管理区域、非管理区域ごとに、当該エリアで機能喪失高さが最も低い防護対象設備を選定し、消防活動による溢水量から算出される溢水水位と、防護対象設備の機能喪失高さを比較することで、評価を実施した結果、防護対象設備が機能喪失に至らないことを確認した。</p>	<p>消防活動における溢水量については、3時間の放水により想定される溢水量を、消防法施行令に基づく必要水量及び実放水試験の結果を踏まえ屋内は<math>54\text{m}^3</math>、屋外は<math>141\text{m}^3</math>とそれぞれ設定した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【島根2号炉】</b></p> <p>まとめ資料 p9条-別添1-6-1より抜粋</p> <p>6.1 溢水量の算定</p> <p><b>(2) 放水時間</b></p> <p>消防活動における消火水の放水時間は、評価ガイドに従い原則3時間に設定した。ただし、火災源が小さい一部の区画については、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針 (JEAG4607-2010)」解説-4-5(1) (表4-3 火災荷重と等価時間について)に従い、放水時間を設定した。</p> <p><b>(3) 溢水量</b></p> <p>溢水流量と放水時間から評価に用いる消火栓からの溢水量を以下のとおりとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溢水量 (屋内消火栓) = <math>15.6 [\text{m}^3/\text{h}] \times \text{放水時間}</math></li> <li>・ 溢水量 (屋外消火栓) = <math>42.0 [\text{m}^3/\text{h}] \times \text{放水時間}</math></li> </ul> <p>溢水量算出の考え方について、添付資料25に示す。</p> </div> <p>溢水経路については放水がある当該フロア及び下階など影響の及ぶエリアを考慮した。</p> <p>消防活動による放水量をもとに放水による溢水影響を各防護区画について評価した結果、防護対象設備が機能喪失に至らないことを確認した。</p> <p>各建屋、各フロアで管理区域、非管理区域ごとに、当該エリアで機能喪失高さが最も低い防護対象設備を選定し、消防活動による溢水量から算出される溢水水位と、防護対象設備の機能喪失高さを比較することで、評価を実施した結果、防護対象設備が機能喪失に至らないことを確認した。</p> <p>消防水の放水による没水影響評価結果を添付資料26に示す。</p>	<p>消防活動における消火水の放水時間は、評価ガイドに従い原則3時間に設定した。ただし、火災源が小さい一部の区画については、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針 (JEAG4607-2010)」解説-4-5(1) (表4-3 火災荷重と等価時間について)に従い、放水時間を設定した。溢水流量と放水時間から評価に用いる消火栓からの溢水量を以下のとおりとした。</p> <p><b>【島根】</b></p> <p>・ 消火水の放水時間について、女川は一律3時間の放水を想定しているのに対し、泊は3時間の放水により想定される溢水量を基本とするが、火災源が小さいエリアについては可燃物量を考慮し、「原子力発電所の火災防護指針」の規定による「火災荷重」及び「等価時間」を用いて放水量を算定している。(先行PWR、島根2号炉と同様)</p> <p><b>【女川】</b></p> <p>・ 記載表現の相違</p> <p><b>【島根・大飯】</b></p> <p>・ 設計方針の相違</p> <p>・ 消火水の放水量については、女川の審査実績を反映した。(詳細は添付資料 21「消火水の放水における放水量について」に記載している。)</p> <p><b>【記載方針の相違】</b></p> <p>女川審査実績の反映</p> <p><b>【女川】</b></p> <p>・ 記載方針の相違</p> <p>・ 大飯審査実績の反映</p> <p>・ 泊では消火水放水時の溢水伝播について、消火栓からのホース引き回し経路を考慮していることを記載している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b></p> <p>・ 記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p><b>【女川】</b></p> <p>・ 記載表現の相違</p>	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) スプリンクラーからの放水による溢水</p> <p>a. 溢水量の設定</p> <p>溢水量については、火災防護に関する基本方針で示されている放水量を用いるとともに、火災発生時の中央制御室での警報発信後からスプリンクラーの放水停止に要する時間(30分)までを放水時間として設定し以下のとおり評価した。</p> $720^{**}/\text{min} \times 30\text{min} = 21,600$ $= 21.6\text{m}^3$ <p>※今回、原則として火災防護に関する基本方針で示されている放水量を用いる。ただし、詳細評価を実施する場合には、現場での消火設備の設置状況に応じた評価を行う。</p> <p>b. 放水時間の設定</p> <p>(a) 火災発生時の対応に要する時間</p>  <p>図1.4.2.2.1-1 火災発生時の対応に要する時間</p> <p>(b) 時間評価における保守性について</p> <p>時間評価における保守性については、火災発生時の中央制御室での警報発信後から、(1)現場到着時間の設定について、現場到着までの時間が長くなるように、中央制御室からの移動距離が長いE.L. + 26.0mエリアを選定し評価を実施した。さらに、(2)スプリンクラーの放水時間について、運転員は現場到着後に火災状況をすぐに確認でき、現場より中央制御室の運転員に予作動弁閉止(閉止時間約1分)を依頼して、放水の停止を行うので溢水量の低減は可能であるが、余裕を見てスプリンクラーの放水停止までの時間を10分と設定した。</p> <p>また、溢水防護区画外のスプリンクラーが動作し、溢水防護区画に消防水が流入する可能性も考慮した。</p> <p>なお、複数区画でのスプリンクラーからの同時放水が想定されるのは、耐震B、Cクラスの機器の地震随伴火災、及び高エネルギー配管破損による誤動作であるが、以下の設計に</p>	<p>なお、火災そのものによる防護対象設備への影響に関しては設置許可基準規則第八条「火災による損傷の防止」に関する審査にて評価することとし、ここでは放水による溢水影響を評価した。</p> <p>なお、火災そのものによる防護対象設備への影響に関しては設置許可基準規則第八条「火災による損傷の防止」に関する審査にて評価することとし、ここでは放水による溢水影響を評価した。</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は防護対象設備が設置される建屋内にスプリンクラーが設置されているが、女川及び泊には設置されていない</li> </ul>	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>より、複数区画でのスプリンクラーからの同時放水は想定しない。</p> <p>○地震時に火災源になるおそれがあるB, Cクラス機器（油内包機器及び電気盤）について、火災の発生防止対策を講じる設計としている。具体的には、油内包機器について、基準地震動 S s による地震力に対して、当該機器が損壊し内包している油が外部へ漏えいしないことを確認し、その結果、損壊する機器に対しては、損壊しないような改良、もしくはガス式消火装置を設置する設計としている。電気盤については、火災の発生に備えて、ハロンガス消火装置、又は盤内にエアロゾル消火装置を設置し、早期に自動消火できる設計としている。</p> <p>○高エネルギー配管破損時の誤動作を防止するため、スプリンクラーヘッドの開放温度は、高エネルギー配管破損時の室内温度の評価値を上回る設計としている。</p> <p>(添付資料1.4.2-1) 消火活動に係る時間設定の考え方          (添付資料1.4.2-2) 消火活動に係る放水による溢水影響評価          (添付資料1.4.2-3) 消火活動に係る放水による溢水経路図(代表表)</p>	<p>6. 3 消火水の放水による被水影響評価</p> <p>消火水の放水に伴う被水影響は事象として想定し得るが、消火水の放水による溢水の伝播経路は、想定破損による溢水の伝播経路に包含されており、想定破損による被水影響評価に包含される。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【女川】 (再掲)</b></p> <p>5. 3 想定破損による被水影響評価</p> <p>(1) 想定破損による被水影響評価フロー</p> <p>評価対象区画内の通過配管の想定破損による直接の被水、天井面の開口部又は貫通部からの被水を考慮し、防護対象設備の機能維持の可否を評価した。</p> <p>飛散距離については、溢水ガイドでは管内圧力、重力を考慮した弾道計算モデルが示されているが、本評価では被水源との距離によらず、被水影響のある防護対象設備を検討対象とした。</p> <p>図 5-2 に想定破損による被水影響評価フローを示す。</p> <p>想定破損による被水影響評価結果について、添付資料 20 に示す。</p> </div>	<p>6. 3 消火水の放水による被水影響評価</p> <p>評価対象区画内の消火水の放水による直接の被水、天井面の開口部又は貫通部からの被水を考慮し、防護対象設備の機能維持の可否を評価した。</p> <p>飛散距離については、溢水ガイドでは管内圧力、重力を考慮した弾道計算モデルが示されているが、本評価では被水源との距離によらず、被水影響のある防護対象設備を検討対象とした。</p> <p>消火水の放水による被水影響評価フローは、図5-2と同じであり、被水源は「流体を内包する機器」から「消火水放水」に読み替える。</p> <p>消火水の放水による被水影響評価結果について、添付資料 18に示す。</p>	<p><b>【大飯】</b></p> <p><b>設計方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は防護対象設備が設置される建屋内にスプリンクラーが設置されているが、女川及び泊には設置されていない。</li> </ul> <p><b>設計方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は消火水放水に伴う被水は想定破損の評価に包絡されるとしているのに対し、泊では、消火水を放水するエリアの防護対象設備に対して被水影響を確認している。</li> <li>・評価は「5.3 想定破損による被水影響評価」の被水源を想定破損配管から消火水放水に置き換えたのみであるので、5.3項の記載を踏襲した。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

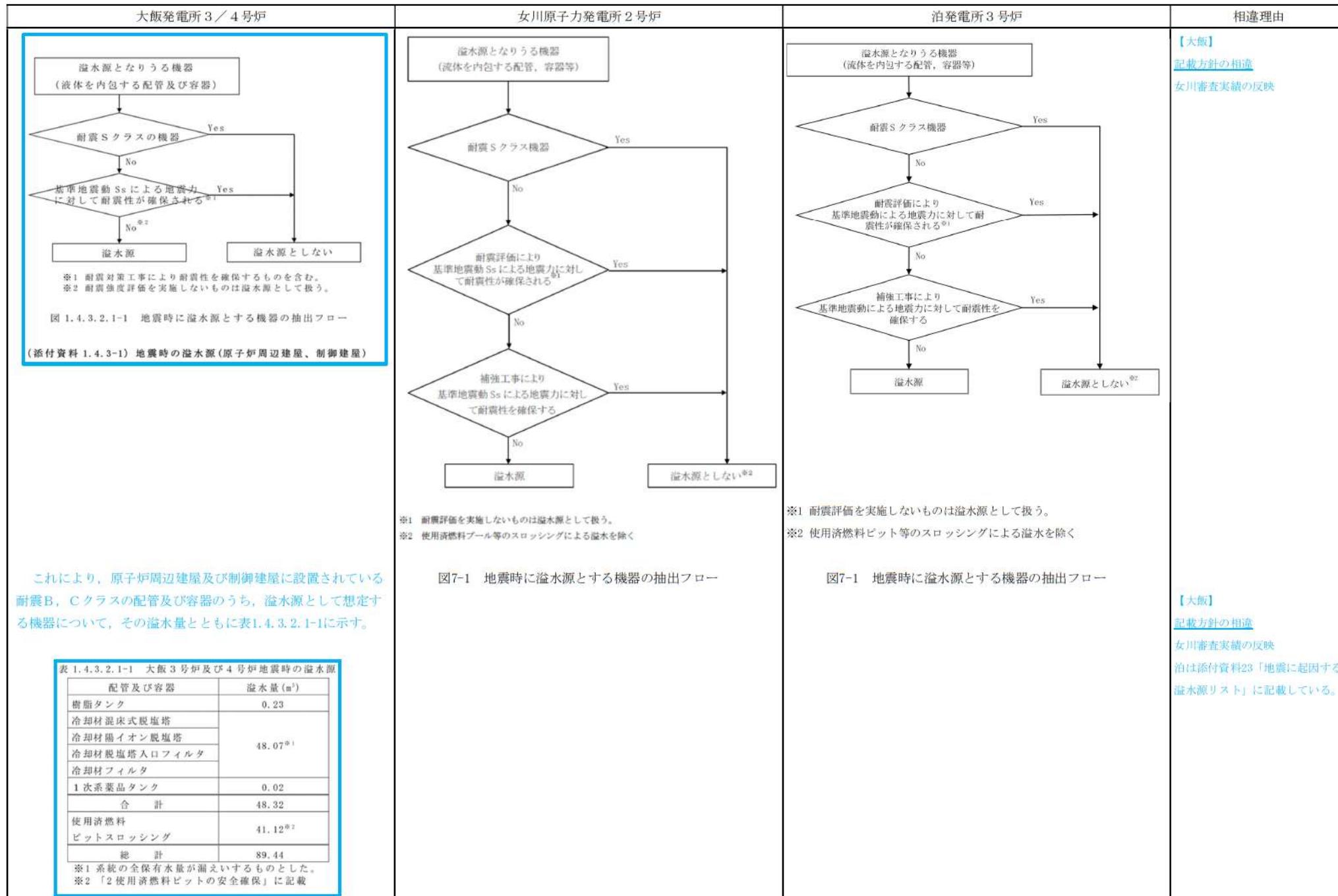
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.4.3 地震による溢水</p> <p>1.4.3.1 地震による溢水源</p> <p>溢水ガイドにしたがい、流体を内包する機器（配管及び容器）を溢水源の検討対象とした。</p> <p>1.4.3.2 地震による溢水影響評価</p> <p>1.4.3.2.1 地震による溢水影響評価のうち没水影響評価</p> <p>溢水ガイドにしたがい、耐震Sクラスの機器については、基準地震動Ssによる地震力によって破損は生じないことから地震による溢水源としない。また、耐震B, Cクラスの機器のうち、耐震Sクラスの機器と同様に基準地震動Ssによる地震力に対して耐震強度評価により耐震性が確保されるもの（水位制限によるものを含む。）又は耐震対策工事により耐震性を確保するものについては溢水源としない。</p> <p>一方、溢水源と想定する場合の機器の破損による溢水量は、漏えい検知による停止や配管ルートに基づく流出範囲の限定には期待せず、配管については完全全周破断により系統の全保有水量が流出、容器については容器内保有水の全量が流出するものとした。</p> <p>基準地震動Ssにおける溢水源とする機器の抽出フローを図1.4.3.2.1-1に示す。</p>	<p>7 地震時評価に用いる各項目の算出及び溢水影響評価</p> <p>7.1 地震起因による溢水源</p> <p>地震に起因する溢水は、地震により破損する機器（配管、容器等）及び使用済燃料プール等のスロッシングを溢水源として考慮した。なお、使用済燃料プール等のスロッシングによる溢水量については、「8 使用済燃料プール等のスロッシング後の機能維持評価」に算出結果を示す。</p> <p>また、以下の評価は、現状の基本設計段階にて想定しているものであり、今後詳細設計等を精査するに伴い、耐震評価等の変更が生じる可能性がある。</p> <p>7.2 地震起因による没水影響評価</p> <p>7.2.1 地震起因による没水影響評価の前提条件</p> <p>地震起因による没水影響評価において、基準地震動Ssによる地震力が作用した際のプラント状態を、以下のとおり想定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子炉は、「地震加速度大」によってスクラムしている</li> <li>・常用電源の喪失（外部電源喪失）</li> <li>・耐震 B, C クラス設備の機能喪失</li> </ul> <p>耐震Sクラス機器については、基準地震動Ssによる地震力によって破損は生じないことから地震による溢水源としない。また、耐震B, Cクラス機器のうち、耐震Sクラス機器と同様に基準地震動Ssによる地震力によって耐震評価を実施してバウンダリ機能の確保が確認されたもの、又は補強工事により耐震性を確保するものについては溢水源としない。</p> <p>地震時に溢水源とする機器の抽出フローを図7-1に示す。</p> <p>地震に起因する溢水源リストを添付資料27に示す。</p>	<p>7 地震時評価に用いる各項目の算出及び溢水影響評価</p> <p>7.1 地震起因による溢水源</p> <p>地震に起因する溢水は、地震により破損する機器（配管、容器等）及び使用済燃料ピット等のスロッシングを溢水源として考慮した。なお、使用済燃料ピット等のスロッシングによる溢水量については、「8. 使用済燃料ピット等のスロッシング後の機能維持評価」に算出結果を示す。</p> <p>また、以下の評価は、現状の基本設計段階にて想定しているものであり、今後詳細設計等を精査するに伴い、耐震評価等の変更が生じる可能性がある。</p> <p>7.2 地震起因による没水影響評価</p> <p>7.2.1 地震起因による没水影響評価の前提条件</p> <p>耐震 S クラス機器については、基準地震動による地震力によって破損は生じないことから地震による溢水源としない。また、耐震 B, C クラス機器のうち、耐震 S クラス機器と同様に基準地震動による地震力によって耐震評価を実施してバウンダリ機能の確保が確認されたもの、又は補強工事により耐震性を確保するものについては溢水源としない。</p> <p>一方、溢水源と想定する場合の機器の破損による溢水量は、漏えい検知による停止や配管ルートに基づく流出範囲の限定には期待せず、配管については完全全周破断により系統の全保有水量が流出、容器については容器内保有水の全量が流出するものとした。</p> <p>地震時に溢水源とする機器の抽出フローを図7-1に示す。</p> <p>地震に起因する溢水源リストを添付資料23に示す。</p>	<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p>設備名称の相違</p> <p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>・大飯審査実績の反映</p> <p>泊は基準地震動によるプラント状態によらず機器の耐震性から地震に起因する溢水源を判断することを前提条件としている。（大飯と同様）</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【大飯・女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>・大飯審査実績の反映</p> <p>泊は系統機器の保有水全量を溢水量として考慮していることを記載している。</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)



これにより、原子炉周辺建屋及び制御建屋に設置されている耐震B、Cクラスの配管及び容器のうち、溢水源として想定する機器について、その溢水量とともに表1.4.3.2.1-1に示す。

表 1.4.3.2.1-1 大飯3号炉及び4号炉地震時の溢水源	
配管及び容器	溢水量(m <sup>3</sup> )
樹脂タンク	0.23
冷却材混床式脱塩塔	48.07 <sup>※1</sup>
冷却材陽イオン脱塩塔	
冷却材脱塩塔入口フィルタ	
冷却材フィルタ	0.02
1次系薬品タンク	0.02
合 計	48.32
使用済燃料	41.12 <sup>※2</sup>
ピットスロッシング	
總 計	89.44

※1 統系统的全保有水量が漏えいするものとした。  
※2 「使用済燃料ピットの安全確保」に記載

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

## 第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																										
<p>原子炉周辺建屋及び制御建屋の溢水量を表1.4.3.2.1-2のとおり算出した。</p> <table border="1"> <caption>表1.4.3.2.1-2 地震時の溢水量</caption> <thead> <tr> <th colspan="3">溢水量 (m<sup>3</sup>)</th> </tr> <tr> <th>原子炉周辺建屋</th> <th>制御建屋</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大飯3号炉</td> <td>大飯4号炉</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>89.44</td> <td>89.44</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価対象の防護対象設備のある区画内で溢水が発生し、溢水が流出していく「溢水防護区画内漏えい」と評価対象の防護対象設備のある区画外で溢水が発生し、溢水が流入してくる「溢水防護区画外漏えい」を想定した溢水経路を設定した。</p> <p>影響評価に用いる溢水水位の算出は、溢水経路上の溢水防護区画のすべてに対して行い、溢水量から算出される溢水水位と、防護対象設備の機能喪失高さを比較することで、防護対象設備が機能喪失に至らないことを確認した (表1.4.3.2.1-3、表1.4.3.2.1-4)。</p> <p>表1.4.3.2.1-3 大飯3号炉 地震による没水影響評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th> <th>E.L. + 溢水水位 [m]</th> <th>① 防護対象設備 床面 喪失高さ [m]</th> <th>②機器 喪失高さ [床面[m]]</th> <th>影響 評価 値</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">原子炉周辺建屋</td> <td>39.0</td> <td>0.093</td> <td>3A原子炉補機冷却水 サーバンク水位 III, IV (GLT-1200, 1201)</td> <td>1.09</td> <td>①&lt;② ○</td> </tr> <tr> <td>33.6</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>防護対象無し ○</td> </tr> <tr> <td>26.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>防護対象無し ○</td> </tr> <tr> <td>17.1</td> <td>0.096</td> <td>3A, 3B よう素除去薬 品注入ライン第1止め弁 (3V-CP-054A, B) 3A, 3B よう素除去薬 品注入ライン第2止め弁 (3V-CP-056A, B)</td> <td>0.55</td> <td>①&lt;② ○</td> </tr> <tr> <td>0.096</td> <td>3A, 3B 燃料取扱 用水ポンプ</td> <td>0.47</td> <td>①&lt;② ○</td> </tr> <tr> <td>10.0</td> <td>0.154</td> <td>3C 充てんポンプ</td> <td>0.31</td> <td>①&lt;② ○</td> </tr> <tr> <td>3.5</td> <td>0.498</td> <td>3A, 3B 標用消燃料 ピットポンプ</td> <td>0.71</td> <td>①&lt;② ○</td> </tr> <tr> <td>3.5</td> <td>0.498</td> <td>3A 高圧注入ポンプ</td> <td>0.50</td> <td>①&lt;② ○</td> </tr> </tbody> </table> <p>お油用消燃料ピットの空を確保</p>	溢水量 (m <sup>3</sup> )			原子炉周辺建屋	制御建屋		大飯3号炉	大飯4号炉	0	89.44	89.44		建屋	E.L. + 溢水水位 [m]	① 防護対象設備 床面 喪失高さ [m]	②機器 喪失高さ [床面[m]]	影響 評価 値	判定	原子炉周辺建屋	39.0	0.093	3A原子炉補機冷却水 サーバンク水位 III, IV (GLT-1200, 1201)	1.09	①<② ○	33.6	-	-	-	防護対象無し ○	26.0	-	-	-	防護対象無し ○	17.1	0.096	3A, 3B よう素除去薬 品注入ライン第1止め弁 (3V-CP-054A, B) 3A, 3B よう素除去薬 品注入ライン第2止め弁 (3V-CP-056A, B)	0.55	①<② ○	0.096	3A, 3B 燃料取扱 用水ポンプ	0.47	①<② ○	10.0	0.154	3C 充てんポンプ	0.31	①<② ○	3.5	0.498	3A, 3B 標用消燃料 ピットポンプ	0.71	①<② ○	3.5	0.498	3A 高圧注入ポンプ	0.50	①<② ○			<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 泊は添付資料23「地震に起因する溢水源リスト」に記載している。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 泊は添付資料24「地震起因による没水影響評価結果」に記載している。</p>
溢水量 (m <sup>3</sup> )																																																													
原子炉周辺建屋	制御建屋																																																												
大飯3号炉	大飯4号炉	0																																																											
89.44	89.44																																																												
建屋	E.L. + 溢水水位 [m]	① 防護対象設備 床面 喪失高さ [m]	②機器 喪失高さ [床面[m]]	影響 評価 値	判定																																																								
原子炉周辺建屋	39.0	0.093	3A原子炉補機冷却水 サーバンク水位 III, IV (GLT-1200, 1201)	1.09	①<② ○																																																								
	33.6	-	-	-	防護対象無し ○																																																								
	26.0	-	-	-	防護対象無し ○																																																								
	17.1	0.096	3A, 3B よう素除去薬 品注入ライン第1止め弁 (3V-CP-054A, B) 3A, 3B よう素除去薬 品注入ライン第2止め弁 (3V-CP-056A, B)	0.55	①<② ○																																																								
	0.096	3A, 3B 燃料取扱 用水ポンプ	0.47	①<② ○																																																									
10.0	0.154	3C 充てんポンプ	0.31	①<② ○																																																									
3.5	0.498	3A, 3B 標用消燃料 ピットポンプ	0.71	①<② ○																																																									
3.5	0.498	3A 高圧注入ポンプ	0.50	①<② ○																																																									

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

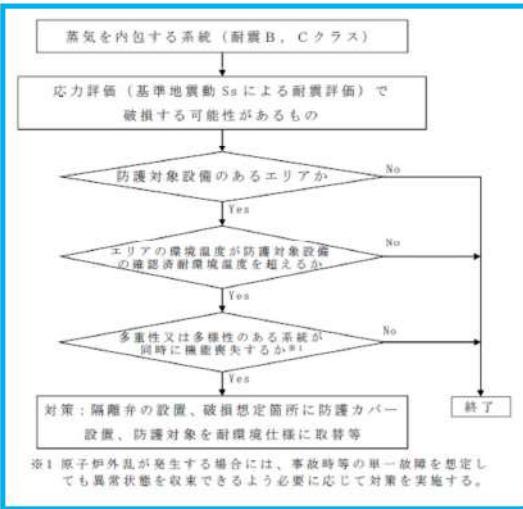
赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉							女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																							
<b>表1.4.3.2.1-4 大飯4号炉 地震による没水影響評価</b>																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th> <th>E.L. + [m]</th> <th>① 溢水水位 (床面[m])</th> <th>防護対象設備</th> <th>②機器 喪失高さ (床面[m])</th> <th>影響 評価</th> <th>判定</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">原子炉周辺建屋</td> <td>39.0</td> <td>0.004</td> <td>4原子炉補機冷却水 サージタンク水位 III, IV (4LT-1200, 1201)</td> <td>0.99</td> <td>①&lt;②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>33.6</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>防護対象無し</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>26.0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>防護対象無し</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17.1</td> <td>0.095</td> <td>4A, 4B よう素除ガス 品注入ライン第2止 め弁 (4V-CP-056A, B)</td> <td>0.82</td> <td>①&lt;②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.095</td> <td>4A, 4B 燃料取替 用水ポンプ#1</td> <td>0.47</td> <td>①&lt;②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.0</td> <td>0.170</td> <td>4C 充てんポンプ</td> <td>0.29</td> <td>①&lt;②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4A, 4B 使用済燃料 ピットポンプ#1</td> <td>0.72</td> <td>①&lt;②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.5</td> <td>0.516</td> <td>4A 高圧注入ポンプ (対策前)</td> <td>0.50</td> <td>①&gt;②</td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="7">※1 使用済燃料ピットの安全確保</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="7">※2 4A 高圧注入ポンプに対し、0.800m の堰の対策を実施する。</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>							建屋	E.L. + [m]	① 溢水水位 (床面[m])	防護対象設備	②機器 喪失高さ (床面[m])	影響 評価	判定				原子炉周辺建屋	39.0	0.004	4原子炉補機冷却水 サージタンク水位 III, IV (4LT-1200, 1201)	0.99	①<②	○				33.6	—	—	—	防護対象無し	○				26.0	—	—	—	防護対象無し	○				17.1	0.095	4A, 4B よう素除ガス 品注入ライン第2止 め弁 (4V-CP-056A, B)	0.82	①<②	○					0.095	4A, 4B 燃料取替 用水ポンプ#1	0.47	①<②	○				10.0	0.170	4C 充てんポンプ	0.29	①<②	○						4A, 4B 使用済燃料 ピットポンプ#1	0.72	①<②	○				3.5	0.516	4A 高圧注入ポンプ (対策前)	0.50	①>②	×				※1 使用済燃料ピットの安全確保										※2 4A 高圧注入ポンプに対し、0.800m の堰の対策を実施する。												
建屋	E.L. + [m]	① 溢水水位 (床面[m])	防護対象設備	②機器 喪失高さ (床面[m])	影響 評価	判定																																																																																																										
原子炉周辺建屋	39.0	0.004	4原子炉補機冷却水 サージタンク水位 III, IV (4LT-1200, 1201)	0.99	①<②	○																																																																																																										
	33.6	—	—	—	防護対象無し	○																																																																																																										
	26.0	—	—	—	防護対象無し	○																																																																																																										
	17.1	0.095	4A, 4B よう素除ガス 品注入ライン第2止 め弁 (4V-CP-056A, B)	0.82	①<②	○																																																																																																										
		0.095	4A, 4B 燃料取替 用水ポンプ#1	0.47	①<②	○																																																																																																										
	10.0	0.170	4C 充てんポンプ	0.29	①<②	○																																																																																																										
			4A, 4B 使用済燃料 ピットポンプ#1	0.72	①<②	○																																																																																																										
	3.5	0.516	4A 高圧注入ポンプ (対策前)	0.50	①>②	×																																																																																																										
※1 使用済燃料ピットの安全確保																																																																																																																
※2 4A 高圧注入ポンプに対し、0.800m の堰の対策を実施する。																																																																																																																
<b>1.4.3.2.2 地震による溢水影響評価のうち被水影響評価</b>																																																																																																																
被水については溢水源から溢水量を特定せずに評価するため、地震による被水影響評価は想定破損による被水影響評価と同じである。																																																																																																																
<b>【女川】(再掲)</b> <p><b>5.3 想定破損による被水影響評価</b></p> <p><b>(1) 想定破損による被水影響評価フロー</b></p> <p>評価対象区画内の通過配管の想定破損による直接の被水、天井面の開口部又は貫通部からの被水を考慮し、防護対象設備の機能維持の可否を評価した。</p> <p>飛散距離については、溢水ガイドでは管内圧力、重力を考慮した弾道計算モデルが示されているが、本評価では被水源との距離によらず、被水影響のある防護対象設備を検討対象とした。</p> <p>図5-2に想定破損による被水影響評価フローを示す。</p> <p>想定破損による被水影響評価結果について、添付資料20に示す。</p>																																																																																																																
<p><b>7.3 地震起因による被水影響評価</b></p> <p>地震起因による被水影響評価については、以下の理由により評価不要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防護対象設備が設置されている区画・エリアにおいて、地震時溢水源となるものは、①使用済燃料プール等のスロッシングによる溢水、②原子炉補機冷却水系防食剤添加タンク(A), (B), ③高圧炉心スプレイ補機冷却水系防食剤添加タンクである。</li> <li>・地震時溢水源の内、①については、区画番号:R-3F-1における想定破損による被水影響評価結果に包含される。</li> <li>・地震時溢水源②, ③については、通常時系統とは隔離されており静水頭であること、また、タンク容量がそれぞれ200L, 5Lと小さく、想定破損による被水評価に包含される。</li> </ul>																																																																																																																
<p><b>7.3 地震起因による被水影響評価</b></p> <p>評価対象区画内の地震起因による直接の被水、天井面の開口部又は貫通部からの被水を考慮し、防護対象設備の機能維持の可否を評価した。</p> <p>飛散距離については、溢水ガイドでは管内圧力、重力を考慮した弾道計算モデルが示されているが、本評価では被水源との距離によらず、被水影響のある防護対象設備を検討対象とした。</p> <p>地震起因による被水影響評価フローは図5-2と同じである。地震起因による被水影響評価結果について、添付資料18に示す。</p>																																																																																																																
<p><b>【大飯】</b></p> <p><b>記載表現の相違</b></p> <p><b>記載方針の相違</b></p> <p><b>女川審査実績の反映</b></p> <p><b>【女川】</b></p> <p><b>記載方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は地震起因による被水は想定破損の評価に包絡されるとしているのに対し、泊では、耐震B,Cクラス機器が設置されるリアの防護対象設備に対して被水影響を確認している。</li> <li>・評価は「5.3 想定破損による被水影響評価」の被水源を想定破損配管から地震起因による溢水源に置き換えたのみであるので、5.3項の記載を踏襲した。</li> </ul>																																																																																																																

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1.4.3.2.3 地震による溢水影響評価のうち蒸気影響評価 蒸気を内包する耐震B, Cクラスの系統については、溢水ガイドに基づく評価フロー(図 1.4.3.2.3-1)にしたがい、蒸気影響評価を実施する。</p> <p>蒸気を内包する耐震B, Cクラスの系統は、基準地震動Ssによる地震力に対して耐震性を確保する。(表1.4.3.2.3-1)。</p>  <pre> graph TD     A[蒸気を内包する系統（耐震B, Cクラス）] --&gt; B[応力評価（基準地震動 Ss による耐震評価）で 破損する可能性があるもの]     B --&gt; C{防護対象設備のあるエリアか}     C -- No --&gt; D{エリアの環境温度が防護対象設備 の確認済耐震度を越えるか}     D -- No --&gt; E{多重性又は多様性のある系統が 同時に機能喪失するか*1}     E -- No --&gt; F[終了]     E -- Yes --&gt; G[対策：隔離弁の設置、破損想定箇所に防護カバー 設置、防護対象を耐環境仕様に取替等]     G --&gt; F     C -- Yes --&gt; D     D -- Yes --&gt; E   </pre> <p>※1 原子炉外乱が発生する場合には、事故時等の單一故障を想定しても異常状態を収束できるよう必要に応じて対策を実施する。</p> <p>図 1.4.3.2.3-1 蒸気影響評価フロー</p> <p>表1.4.3.2.3-1 地震による蒸気影響評価対象系統</p>	<p>7. 4 地震起因による蒸気影響評価 高エネルギー流体を内包する機器のうち、基準地震動Ssによって破損が生じる可能性のある機器について破損を想定し、その発生蒸気による影響を評価する。</p> <p>ただし、本評価は、複数系統・複数箇所の同時破損を考慮する点が「5.4 想定破損による蒸気影響評価」と異なるのみで、蒸気の発生区域や影響範囲は想定破損時の評価と同様である。したがって、地震時の蒸気影響評価は想定破損による蒸気影響評価に包含される。</p> <p>なお、蒸気流出の可能性がある耐震B, Cクラス機器のうち、蒸気を内包する系統(加熱蒸気系)については、基準地震動Ssによる地震力に対して耐震評価を実施してバウンダリ機能の確保を確認する、若しくは補強工事を実施することにより耐震性を確保するため破損が発生せず、蒸気影響はない。</p>	<p>7. 4 地震起因による蒸気影響評価 高エネルギー流体を内包する機器のうち、基準地震動によって破損が生じる可能性のある機器について破損を想定し、その発生蒸気による影響を評価する。</p> <p>ただし、蒸気流出の可能性がある耐震B, Cクラス機器のうち、蒸気を内包する系統については、基準地震動による地震力に対して耐震評価を実施してバウンダリ機能の確保を確認する、若しくは補強工事を実施することにより耐震性を確保するため破損が発生せず、蒸気影響はない。</p>	<p>【大飯】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊は地震起因により蒸気流出する可能性がある耐震B, Cクラス機器については、すべて基準地震動に対する耐震性を確認しており、蒸気影響がないことを確認している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯・女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>泊は添付資料23「地震に起因する溢水源リスト」に記載している。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>系統名</th><th>溢水評価における 対象範囲</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">化学体積制御系</td><td>海水注入配管</td><td>蒸気を内包しないため、蒸気影響評価対象外。</td></tr> <tr> <td>充てん配管</td><td>蒸気を内包しないため、蒸気影響評価対象外。</td></tr> <tr> <td>抽出配管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td rowspan="5">主蒸気系</td><td>主蒸気管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>主蒸気逃がし管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>主蒸気隔離弁バイパス配管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>主蒸気リレン配管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>タービン動補助給水ポンプ動用蒸気配管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td rowspan="3">主給水系</td><td>主給水管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>主給水バイパス配管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>蒸気発生器 プローダウン系</td><td>蒸気発生器 プローダウン配管 (貫通部～アングル部)</td><td>—*</td></tr> <tr> <td rowspan="2">補助給水系</td><td>補助給水配管</td><td>—*</td></tr> <tr> <td>補助蒸気供給配管</td><td>—*</td></tr> </tbody> </table> <p>※ 蒸気影響評価フローにしたがい、応力評価(基準地震動Seによる耐震評価)で破損する可能性がないことを確認するため蒸気影響評価対象外とする。</p>	系統名	溢水評価における 対象範囲	備考	化学体積制御系	海水注入配管	蒸気を内包しないため、蒸気影響評価対象外。	充てん配管	蒸気を内包しないため、蒸気影響評価対象外。	抽出配管	—*	主蒸気系	主蒸気管	—*	主蒸気逃がし管	—*	主蒸気隔離弁バイパス配管	—*	主蒸気リレン配管	—*	タービン動補助給水ポンプ動用蒸気配管	—*	主給水系	主給水管	—*	主給水バイパス配管	—*	蒸気発生器 プローダウン系	蒸気発生器 プローダウン配管 (貫通部～アングル部)	—*	補助給水系	補助給水配管	—*	補助蒸気供給配管	—*		<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>泊は添付資料23「地震に起因する溢水源リスト」に記載している。</p>
系統名	溢水評価における 対象範囲	備考																																		
化学体積制御系	海水注入配管	蒸気を内包しないため、蒸気影響評価対象外。																																		
	充てん配管	蒸気を内包しないため、蒸気影響評価対象外。																																		
	抽出配管	—*																																		
主蒸気系	主蒸気管	—*																																		
	主蒸気逃がし管	—*																																		
	主蒸気隔離弁バイパス配管	—*																																		
	主蒸気リレン配管	—*																																		
	タービン動補助給水ポンプ動用蒸気配管	—*																																		
主給水系	主給水管	—*																																		
	主給水バイパス配管	—*																																		
	蒸気発生器 プローダウン系	蒸気発生器 プローダウン配管 (貫通部～アングル部)	—*																																	
補助給水系	補助給水配管	—*																																		
	補助蒸気供給配管	—*																																		

## 4 海水ポンプエリアの溢水影響評価

海水ポンプエリアの防護対象設備は海水ポンプである。海水ポンプエリアの溢水影響評価については、地震時の溢水及び放水による溢水においては、排水ルートが機能しないと仮定して評価する。

溢水影響評価として、海水ポンプエリアにある低エネルギー配管の想定破損による溢水、消火栓からの放水による溢水及び地震時のCクラス配管からの溢水を想定し、防護対象設備の機能喪失まで到達しないことを確認する。

## 4.1 海水ポンプエリアの溢水源と溢水量

海水ポンプエリアの流体を内包する耐震C クラス ( B クラスはない) の溢水源と溢水量を表4.1-1に記載する。

表 4.1-1 海水ポンプエリアの溢水源と溢水量	
	溢水量 (m <sup>3</sup> )
淡水系	169
海水電解装置系	4
合 計	173

【大飯】

記載方針の相違

- ・女川審査実績の反映
- ・泊の海水ポンプ室は循環水ポンプ建屋内に設置されているから、防護対象設備が設置される建屋における設計方針に包絡されている。
- ・泊の海水ポンプ室の没水影響評価の詳細については、補足説明資料34「循環水ポンプ建屋における溢水影響評価について」に記載している。

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

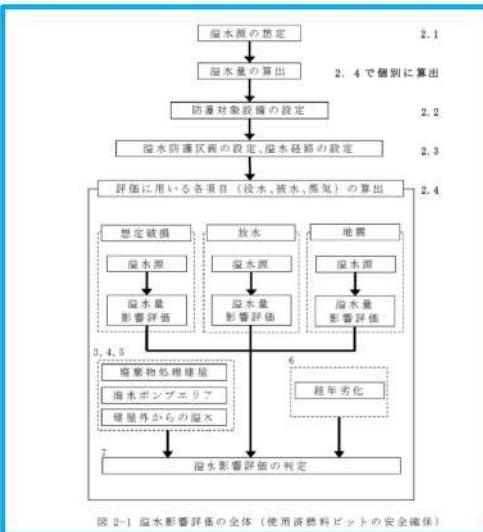
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p><b>4.2 海水ポンプエリアの想定破損による溢水影響評価</b></p> <p><b>4.2.1 海水ポンプエリアの想定破損による溢水影響評価のうち没水影響評価</b></p> <p>海水ポンプエリアにある低エネルギー配管の想定破損による溢水を考慮した。配管破損形状は、貫通クラックとして1系統における单一の破損を想定し、系統ごとに溢水流量が最も大きくなる位置での破損を想定して溢水流量を算出した。</p> <p>算出した溢水流量（20m<sup>3</sup>/h）と海水ポンプエリアの床面に設置されている海水ポンプエリア浸水防止蓋からの排水流量（115m<sup>3</sup>/h）を比較した結果、海水ポンプエリア浸水防止蓋からの排水流量の方が大きいことから、海水ポンプの機能喪失高さ（E.L.+4.65m）まで水位が上昇しないことを確認した。</p> <p><b>4.3 海水ポンプエリアの放水による溢水影響評価</b></p> <p><b>4.3.1 海水ポンプエリアの放水による溢水影響評価のうち没水影響評価</b></p> <p>消防栓からの溢水量を下記のとおり算出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 700/min×3時間 = 126m<sup>3</sup></li> </ul> <p>地震による没水影響評価では全機器の破損を想定した溢水量を173m<sup>3</sup>として評価を実施するため、放水による没水影響評価は、地震による没水影響評価で包絡されることを確認した。</p> <p><b>4.4 海水ポンプエリアの地震による溢水影響評価</b></p> <p><b>4.4.1 海水ポンプエリアの地震による溢水影響評価のうち没水影響評価</b></p> <p>全機器の破損を想定した溢水量(173m<sup>3</sup>)が流出したと仮定し、溢水水位を算出した。</p> <p>海水ポンプエリアの床面積：240m<sup>2</sup></p> <p>以上より、海水ポンプエリアの溢水水位を以下とおり評価した。</p> <p>海水ポンプエリアの溢水水位：約0.73m(=173m<sup>3</sup>/240m<sup>2</sup>)</p> <p>さらに、表4.4.1-1のとおり機能喪失高さに至らないことを確認した。</p> <p>表 4.4.1-1 海水ポンプエリアの没水影響評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>溢水水位</th> <th>機能喪失高さ</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海水ポンプ</td> <td>E.L.+3.23m*</td> <td>E.L.+4.65m</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>*※海水ポンプエリアの床面：E.L.+2.50m</p>		溢水水位	機能喪失高さ	判定	海水ポンプ	E.L.+3.23m*	E.L.+4.65m	○			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・泊の海水ポンプ室は循環水ポンプ建屋内に設置されていることから、防護対象設備が設置される建屋における設計方針に包絡されている。</li> <li>・泊の海水ポンプ室の没水影響評価の詳細については、補足説明資料34「循環水ポンプ建屋における溢水影響評価について」に記載している。</li> </ul>
	溢水水位	機能喪失高さ	判定								
海水ポンプ	E.L.+3.23m*	E.L.+4.65m	○								

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

## 第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>なお、3、4号炉海水ポンプ室前面の入力津波高さT.P.+6.3mに対し、海水ポンプエリア床面はT.P.+2.5mであるが、床面貫通部には海水ポンプエリア浸水防止蓋を設置しているため、津波による流入はない。</p> <p>(添付資料4) 海水ポンプエリアの溢水影響評価</p> <p>2 使用済燃料ピットの安全確保</p> <p>使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統の防護対象設備については、原子炉施設の溢水影響評価において、想定する機器の破損により生じる溢水、消火水系からの放水による溢水及び地震時の機器の破損による溢水に対して機能喪失しないことを確認する。</p> <p>なお、使用済燃料ピットの検討においては、防護対象設備が使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統に限られているものの、「原子炉施設の安全確保」であげた溢水源、溢水量、溢水経路等に影響を受ける可能性があるため、検討は「原子炉施設の安全確保」を含んだ全範囲について行う。</p> <p>ただし、検討内容及び結果が「原子炉施設の安全確保」と同じになる箇所は、内容が同様である旨を記載する。</p>  <pre> graph TD     A[溢水源の想定] --&gt; B[溢水量の算出]     B -- "2.4で個別に算出" --&gt; C[防護対象設備の設定]     C --&gt; D[溢水防護区域の設定、溢水経路の設定]     D --&gt; E[評価に用いる各項目(没水、被水、蒸気)の算出]     E -- "2.4" --&gt; F1[想定破損]     E -- "2.4" --&gt; F2[放水]     E -- "2.4" --&gt; F3[地震]     F1 --&gt; G1[溢水量影響評価]     F2 --&gt; G2[溢水量影響評価]     F3 --&gt; G3[溢水量影響評価]     G1 --&gt; H1[廃棄物処理建屋]     G1 --&gt; H2[海水ポンプエリア]     G1 --&gt; H3[建屋外からの溢水]     H1 --&gt; I[経年劣化]     H2 --&gt; I     H3 --&gt; I     I --&gt; J[溢水影響評価の判定]     </pre> <p>図 2-1 溢水影響評価の全体 (使用済燃料ピットの安全確保)</p>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>2.1 溢水源の想定</b>          「1.1 溢水源の想定」と同じである。溢水ガイドに記載のとおり、溢水の発生要因別に以下の溢水について影響を評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 溢水の影響を評価するために想定する機器の破損等により生じる溢水</li> <li>(2) 発電所内で生じる異常状態（火災を含む。）の拡大防止のために設置される系統からの放水による溢水</li> <li>(3) 地震に起因する機器の破損等により生じる溢水            (添付資料1.1) 溢水源（原子炉周辺建屋、制御建屋）</li> </ul> <p><b>2.2 防護対象設備の設定</b>          「1.2 防護対象設備の設定」と同じである。使用済燃料ピットを保安規定で定められた水温（65°C以下）に維持する必要があるため、使用済燃料ピットの冷却機能の維持に必要な設備を防護対象設備として選定した。          また、使用済燃料からの放射線に対する遮蔽機能に必要な水位が確保されるように、使用済燃料ピットへの給水機能の維持に必要な設備を防護対象設備として選定した。</p> <p>(添付資料1.2-1) 重要度の特に高い安全機能を有する系統並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統            (添付資料1.2-2) 防護対象設備と機能喪失高さ一覧</p> <p><b>2.3 溢水防護区画及び溢水経路の設定</b>          防護対象設備が設置されている、壁、扉及び堰又はそれらの組み合わせによって他の区画と分離されている区画並びに中央制御室及び現場操作が必要な設備へのアクセス通路を溢水防護区画として設定した。すべての防護対象設備が対象となっていることを確認するために、設置許可基準第1.2条で要求される重要度の特に高い安全機能を有する系統並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統について系統図から設備（機器）を抽出するとともに、それらの機器の配置状況を示す図書（弁は配管図、機器は機器配置図等）から溢水防護区画を設定した。また、溢水防護区画については設計図書（障壁、堰又はその組み合わせ）を用いて設定し、この中でアクセス通路については図面等で図示されていることを確認した。</p>			<p><b>【大飯】</b>  <u>記載方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 溢水防護区内漏えいの溢水経路</p> <p>溢水防護区画内漏えいでの溢水経路の評価を行う場合、防護区画内の水位が最も高くなるよう、当該区画から他区画への流出がないように溢水経路を設定した。</p> <p>a . 床ドレン</p> <p>床ドレン配管が設置され他の区画とつながっている場合であっても、他の区画への流出は想定しない。</p> <p>b . 床面開口部及び床面貫通部</p> <p>溢水防護区画床面に床面開口部又は床面貫通部が設置されている場合であっても床面開口部又は床面貫通部から他の区画への流出は考慮しない。ただし、明らかに流出が期待できることを定量的に確認できる場合は溢水防護区画から他の区画への流出を考慮する。</p> <p>c . 壁貫通部</p> <p>溢水防護区画の境界壁の貫通部が溢水による水位より低い位置にある場合であっても、その貫通部からの流出は考慮しない。</p> <p>d . 扉</p> <p>溢水防護区画に扉が設置されている場合であっても、当該扉から隣室への流出は考慮しない。</p> <p>e . 排水設備</p> <p>溢水防護区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しない。</p> <p>(2) 溢水防護区画外漏えいの溢水経路</p> <p>溢水防護区画外漏えいでの溢水経路の評価を行う場合、防護対象設備の存在する溢水防護区画の水位が最も高くなるように溢水経路を設定した。</p> <p>a . 床ドレン</p> <p>溢水防護区画の床ドレン配管が他の区画とつながっている場合は、水位差による流入量を考慮する。</p> <p>ただし、溢水防護区内に設置されているドレン配管に逆止弁を設置している場合は、その効果を考慮する。</p> <p>b . 天井面開口部及び貫通部</p> <p>溢水防護区画の天井面に開口部又は貫通部がある場合は、上部の区画で発生した溢水量の全量が流入するものとする。</p> <p>ただし、開口部又は貫通部に流出防止対策を施している場合は、溢水防護区画への流入は考慮しない。</p> <p>c . 壁貫通部</p> <p>溢水防護区画の境界壁に貫通部が設置されている場合であって、</p>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>隣の区画の溢水による水位が貫通部より高い位置にある場合は、隣室との水位差によって発生する流入量を考慮する。</p> <p>d . 扉 溢水防護区画に扉が設置されている場合は、水位差による流入量を考慮する。 ただし、水密扉については、水圧による水密性を確保でき、その水圧に耐えられる強度を有しており、流入を考慮しない。</p> <p>e . 堤 溢水が発生している区画に堤が設置され、他に流出経路が存在しない場合は、当該区画で発生した溢水は堤の高さまで蓄積されるものとする。</p> <p>f . 排水設備 溢水防護区画に排水設備が設置されている場合であっても、当該区画の排水は考慮しない。</p> <p>(3) 溢水伝播 上層階の溢水は階段あるいは機器ハッチを経由して下層階へ伝播する。下層階への伝播については、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとする。</p> <p>(添付資料1.3-1) 溢水防護区画の設定 (添付資料1.3-2) 溢水経路と溢水経路概念図 (添付資料1.3-3) 溢水影響評価で止水を期待できる設備</p> <p>2.4 評価に用いる各項目の溢水評価 2.4.1 想定破損による溢水 2.4.1.1 想定破損による溢水源 「1.4.1.1 想定破損による溢水源」と同じである。 (添付資料1.4.1-1) 想定破損による溢水源 2.4.1.2 想定破損による溢水影響評価 2.4.1.2.1 想定破損による溢水影響評価のうち没水影響評価 想定破損による没水評価フローを含め、「1.4.1.2.1 想定破損による溢水影響のうち没水影響評価」と同じである。</p>			<p>【大飯】 記載方針の相違 ・女川審査実績の反映 ・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<pre>     graph TD       A[溢水源となる系統の想定破損箇所を抽出] --&gt; B[応力評価と破損形状(貫通クラック、完全全周破断)*1の決定]       B --&gt; C[破損想定箇所ごとに隔離時間、溢水量と溢水経路の設定]       C --&gt; D[浸水評価を行うエリアの特定]       D --&gt; E{エリア内に防護対象設備があるか}       E -- No --&gt; F[終了]       E -- Yes --&gt; G{影響評価 防護対象設備の機能喪失高さく溢水水位}       G -- No --&gt; H{多重性又は多様性を有する系統か 同時にその機能を失うか*2}       H -- No --&gt; I[終了]       H -- Yes --&gt; J[対策実施]       J --&gt; K[終了]   </pre> <p>*1 ターミナルエンドは完全全周破断    *2 原子炉外乱が発生する場合には、事故時等の単一故障を想定しても異常状態を収束できるよう必要に応じて対策を実施する。</p> <p>図 2.4.1.2.1-1 想定破損による浸水評価フロー</p>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</li> </ul>

## (1) 高エネルギー配管の浸水影響評価

溢水源となりうる系統ごとに系統上の想定破損箇所に対して溢水経路図を作成し、フロアごとに溢水水位と防護対象設備の機能喪失高さの比較により浸水影響を評価した。

系統隔離により溢水量を制限しているものについては、検知及び隔離手段に応じた隔離時間を設定し溢水量を算出したところ、溢水源に基づいて評価した溢水防護区画における最高水位が、防護対象設備の機能喪失高さを超えないことを確認した。評価結果を表2.4.1.2.1-1、表2.4.1.2.1-2に示す。

また、中央制御室には運転員が常駐しており中央制御室からの運転操作が可能であり、現場確認が必要な設備へのアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位であること及び必要に応じて環境の温度、放射線量、薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。

泊発電所 3 号炉 DB 基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 第9条 溢水による損傷の防止等(別添資料1)

大飯発電所3／4号炉							女川原子力発電所2号炉							泊発電所3号炉							相違理由																																																												
<p>表 2.4.1.2-1-1 大飯3号炉 高エネルギー配管の没水影響評価 その1</p> <table border="1" data-bbox="157 479 678 485"> <thead> <tr> <th>基準名</th><th>想定範囲</th><th>漏泄時間</th><th>E.L.+ [m]</th><th>防護対象設備</th><th>①灌水水位 (E.L.+[m])</th><th>②機械喪失 高さ(E.L.[m])</th><th>影響 評価</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">生物学 活性 評価 結果</td><td rowspan="3">材木注入配管 内筒</td><td>1分</td><td>15.1</td><td>4A. 核燃料防護用ホースブレーパー</td><td>0.024</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10分</td><td>16.8</td><td>3A. 流使用燃料ビットボンプ</td><td>0.038</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>17.1</td><td>3A. 流使用燃料用ホースブレーパー</td><td>0.048</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td rowspan="3">光てん配管/ 高エネルギー 配管</td><td>1分</td><td>16.8</td><td>3A. 流使用燃料ビットボンプ</td><td>0.037</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10分</td><td>17.1</td><td>3A. 流使用燃料用ホースブレーパー</td><td>0.047</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>18.8</td><td>3A. 流使用燃料ビットボンプ</td><td>0.057</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td rowspan="3">鍋山配管／ 高エネルギー 配管 内筒</td><td>1分</td><td>17.1</td><td>3A. 流使用燃料用ホースブレーパー</td><td>0.033</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10分</td><td>18.8</td><td>3A. 流使用燃料ビットボンプ</td><td>0.047</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>19.8</td><td>3A. 流使用燃料ビットボンプ</td><td>0.057</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> </tbody> </table> <p>1. 評水水位は想定漏洩時間で漏洩した水を上部に蓄積すること。 2. ホースブレーパーは評水水位に漏洩を及ぼさない。</p>	基準名	想定範囲	漏泄時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定	生物学 活性 評価 結果	材木注入配管 内筒	1分	15.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.024	0.47	①②	A	10分	16.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.038	0.71	①②	A	100分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.048	0.47	①②	A	光てん配管/ 高エネルギー 配管	1分	16.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.037	0.71	①②	A	10分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.047	0.71	①②	A	100分	18.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.057	0.71	①②	A	鍋山配管／ 高エネルギー 配管 内筒	1分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.033	0.47	①②	A	10分	18.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.047	0.71	①②	A	100分	19.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.057	0.71	①②	A					
基準名	想定範囲	漏泄時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定																																																																									
生物学 活性 評価 結果	材木注入配管 内筒	1分	15.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.024	0.47	①②	A																																																																									
		10分	16.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.038	0.71	①②	A																																																																									
		100分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.048	0.47	①②	A																																																																									
	光てん配管/ 高エネルギー 配管	1分	16.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.037	0.71	①②	A																																																																									
		10分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.047	0.71	①②	A																																																																									
		100分	18.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.057	0.71	①②	A																																																																									
	鍋山配管／ 高エネルギー 配管 内筒	1分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.033	0.47	①②	A																																																																									
		10分	18.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.047	0.71	①②	A																																																																									
		100分	19.8	3A. 流使用燃料ビットボンプ	0.057	0.71	①②	A																																																																									
<p>表 2.4.1.2-1-2 大飯3号炉 高エネルギー配管の没水影響評価 その2</p> <table border="1" data-bbox="157 674 678 681"> <thead> <tr> <th>基準名</th><th>想定範囲</th><th>漏洩時間</th><th>E.L.+ [m]</th><th>防護対象設備</th><th>①灌水水位 (E.L.+[m])</th><th>②機械喪失 高さ(E.L.[m])</th><th>影響 評価</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="157 681 678 682" rowspan="2">生物学 活性 評価 結果</td><td data-bbox="157 682 678 682" rowspan="2">漏動燃気系統 配管</td><td>1分</td><td>17.1</td><td>3A. 流使用燃料用ホースブレーパー</td><td>0.008</td><td>0.47</td><td>②</td><td>B</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>17.1</td><td>3A. 流使用燃料用ホースブレーパー</td><td>0.008</td><td>0.47</td><td>②</td><td>B</td></tr> </tbody> </table> <p>1. 評水水位は想定漏洩時間で漏洩した水を上部に蓄積すること。 2. ホースブレーパーは評水水位に漏洩を及ぼさない。</p>	基準名	想定範囲	漏洩時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定	生物学 活性 評価 結果	漏動燃気系統 配管	1分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.008	0.47	②	B	100分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.008	0.47	②	B																																																								
基準名	想定範囲	漏洩時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定																																																																									
生物学 活性 評価 結果	漏動燃気系統 配管	1分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.008	0.47	②	B																																																																									
		100分	17.1	3A. 流使用燃料用ホースブレーパー	0.008	0.47	②	B																																																																									
<p>表 2.4.1.2-1-2 大飯4号伊 高エネルギー配管の没水影響評価 その1</p> <table border="1" data-bbox="157 979 678 984"> <thead> <tr> <th>基準名</th><th>想定範囲</th><th>漏洩時間</th><th>E.L.+ [m]</th><th>防護対象設備</th><th>①灌水水位 (E.L.+[m])</th><th>②機械喪失 高さ(E.L.[m])</th><th>影響 評価</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">生物学 活性 評価 結果</td><td rowspan="3">材木注入配管 内筒</td><td>1分</td><td>17.1</td><td>4A. 核燃料防護用ホースブレーパー</td><td>0.035</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10分</td><td>18.8</td><td>4A. 核燃料防護用ビットボンプ</td><td>0.042</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>19.8</td><td>4A. 核燃料防護用ビットボンプ</td><td>0.052</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td rowspan="3">光てん配管/ 高エネルギー 配管</td><td>1分</td><td>17.1</td><td>4A. 核燃料防護用ホースブレーパー</td><td>0.038</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10分</td><td>18.8</td><td>4A. 核燃料防護用ビットボンプ</td><td>0.045</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>19.8</td><td>4A. 核燃料防護用ビットボンプ</td><td>0.055</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td rowspan="3">鍋山配管／ 高エネルギー 配管 内筒</td><td>1分</td><td>17.1</td><td>4A. 核燃料防護用ホースブレーパー</td><td>0.023</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>10分</td><td>18.8</td><td>4A. 核燃料防護用ビットボンプ</td><td>0.030</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>19.8</td><td>4A. 核燃料防護用ビットボンプ</td><td>0.038</td><td>0.71</td><td>①②</td><td>A</td></tr> </tbody> </table> <p>1. 評水水位は想定漏洩時間で漏洩した水を上部に蓄積すること。 2. ホースブレーパーは評水水位に漏洩を及ぼさない。</p>	基準名	想定範囲	漏洩時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定	生物学 活性 評価 結果	材木注入配管 内筒	1分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.035	0.47	①②	A	10分	18.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.042	0.71	①②	A	100分	19.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.052	0.71	①②	A	光てん配管/ 高エネルギー 配管	1分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.038	0.47	①②	A	10分	18.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.045	0.71	①②	A	100分	19.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.055	0.71	①②	A	鍋山配管／ 高エネルギー 配管 内筒	1分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.023	0.47	①②	A	10分	18.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.030	0.71	①②	A	100分	19.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.038	0.71	①②	A					
基準名	想定範囲	漏洩時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定																																																																									
生物学 活性 評価 結果	材木注入配管 内筒	1分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.035	0.47	①②	A																																																																									
		10分	18.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.042	0.71	①②	A																																																																									
		100分	19.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.052	0.71	①②	A																																																																									
	光てん配管/ 高エネルギー 配管	1分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.038	0.47	①②	A																																																																									
		10分	18.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.045	0.71	①②	A																																																																									
		100分	19.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.055	0.71	①②	A																																																																									
	鍋山配管／ 高エネルギー 配管 内筒	1分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.023	0.47	①②	A																																																																									
		10分	18.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.030	0.71	①②	A																																																																									
		100分	19.8	4A. 核燃料防護用ビットボンプ	0.038	0.71	①②	A																																																																									
<p>表 2.4.1.2-1-2 大飯4号伊 高エネルギー配管の没水影響評価 その2</p> <table border="1" data-bbox="157 1162 678 1167"> <thead> <tr> <th>基準名</th><th>想定範囲</th><th>漏洩時間</th><th>E.L.+ [m]</th><th>防護対象設備</th><th>①灌水水位 (E.L.+[m])</th><th>②機械喪失 高さ(E.L.[m])</th><th>影響 評価</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="157 1167 678 1168" rowspan="2">生物学 活性 評価 結果</td><td data-bbox="157 1168 678 1170" rowspan="2">漏動燃気系統 配管</td><td>5分</td><td>17.1</td><td>4A. 核燃料防護用ホースブレーパー</td><td>0.004</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> <tr> <td>100分</td><td>17.1</td><td>4A. 核燃料防護用ホースブレーパー</td><td>0.004</td><td>0.47</td><td>①②</td><td>A</td></tr> </tbody> </table> <p>1. 評水水位は想定漏洩時間で漏洩した水を上部に蓄積すること。 2. ホースブレーパーは評水水位に漏洩を及ぼさない。</p>	基準名	想定範囲	漏洩時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定	生物学 活性 評価 結果	漏動燃気系統 配管	5分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.004	0.47	①②	A	100分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.004	0.47	①②	A																																																								
基準名	想定範囲	漏洩時間	E.L.+ [m]	防護対象設備	①灌水水位 (E.L.+[m])	②機械喪失 高さ(E.L.[m])	影響 評価	判定																																																																									
生物学 活性 評価 結果	漏動燃気系統 配管	5分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.004	0.47	①②	A																																																																									
		100分	17.1	4A. 核燃料防護用ホースブレーパー	0.004	0.47	①②	A																																																																									
<p>(2) 低エネルギー配管の没水影響評価</p> <p>低エネルギー配管は、対象配管の最大支持間隔における発生応力が、評価基準値以内にあり、破損の想定を要する低エネルギー配管系統ではなく、没水は発生しないことを確認した。</p> <p>(添付資料1.4.1-2 想定破損による溢水影響評価(没水影響評価))</p>																																																																																	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2.4.1.2.2 想定破損による溢水影響評価のうち被水影響評価          「1.4.1.2.2 想定破損による溢水影響評価のうち被水影響評価」と同じである。          (添付資料1.4.1-3) 想定破損による溢水影響評価(被水影響評価)</p> <p>2.4.1.2.3 想定破損による溢水影響評価のうち蒸気影響評価          「1.4.1.2.3 想定破損による溢水影響評価のうち蒸気影響評価」と同じである。          (添付資料1.4.1-4) 想定破損による溢水影響評価(蒸気影響評価)</p> <p>2.4.2 放水による溢水</p> <p>2.4.2.1 放水による溢水源          「1.4.2.1 放水による溢水源」と同じである。</p> <p>2.4.2.2 放水による溢水影響評価</p> <p>2.4.2.2.1 放水による溢水影響評価のうち没水影響評価          「1.4.2.2.1 放水による溢水影響評価のうち没水影響評価」と同じである。          (添付資料1.4.2-1) 消火活動に係る時間設定の考え方          (添付資料1.4.2-2) 消火活動に係る放水による溢水影響評価          (添付資料1.4.2-3) 消火活動に係る放水による溢水経路図（代表）</p> <p>2.4.3 地震による溢水</p> <p>2.4.3.1 地震による溢水源          「1.4.3.1 地震による溢水源」と同じである。          (添付資料1.4.3-1) 地震時の溢水源(原子炉周辺建屋、制御建屋)</p> <p>2.4.3.2 地震による溢水影響評価</p> <p>2.4.3.2.1 地震による溢水影響評価のうち没水影響評価          評価対象の防護対象設備のある区画内で溢水が発生し、溢水が流出していく「溢水防護区画内漏えい」と評価対象の防護対象設備のある区画外で溢水が発生し、溢水が流入してくる「溢水防護区画外漏えい」を想定した溢水経路を設定した。          影響評価に用いる溢水水位の算出は、溢水経路上の溢水防護区画に対してを行い、溢水量から算出される溢水水位と、防護対象設備の機能喪失高さを比較することで、防護対象設備が機能</p>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
<p>喪失に至らないことを確認した (表2.4.3.2.1-1、表2.4.3.2.1-2)。</p> <p>表 2.4.3.2.1-1 大飯3号炉 地震による溢水影響評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋 原子炉周辺建屋</th> <th>E.L. + [m]</th> <th>① 溢水水位 (床面[m])</th> <th>防護対象設備</th> <th>② 機能喪失 高さ (床面[m])</th> <th>影響 評価</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17.1</td> <td>0.096</td> <td>3A,3B 燃料取替 用水ポンプ</td> <td>0.47</td> <td>① &lt; ②</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.0</td> <td>0.154</td> <td>3A,3B 使用済燃 料ピットポンプ</td> <td>0.71</td> <td>① &lt; ②</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>表 2.4.3.2.1-2 大飯4号炉 地震による溢水影響評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋 原子炉周辺建屋</th> <th>E.L. + [m]</th> <th>① 溢水水位 (床面[m])</th> <th>防護対象設備</th> <th>② 機能喪失 高さ (床面[m])</th> <th>影響 評価</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17.1</td> <td>0.095</td> <td>4A,4B 燃料取替 用水ポンプ</td> <td>0.47</td> <td>① &lt; ②</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.0</td> <td>0.170</td> <td>4A,4B 使用済燃 料ピットポンプ</td> <td>0.72</td> <td>① &lt; ②</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(添付資料1.4.3-2) 施設B、Cクラス機器の耐震強度評価方法及び 評価結果 (添付資料1.4.3-3) 地震に起因する溢水影響評価結果及び溢水経路 図</p>	建屋 原子炉周辺建屋	E.L. + [m]	① 溢水水位 (床面[m])	防護対象設備	② 機能喪失 高さ (床面[m])	影響 評価	判定	17.1	0.096	3A,3B 燃料取替 用水ポンプ	0.47	① < ②	○		10.0	0.154	3A,3B 使用済燃 料ピットポンプ	0.71	① < ②	○		建屋 原子炉周辺建屋	E.L. + [m]	① 溢水水位 (床面[m])	防護対象設備	② 機能喪失 高さ (床面[m])	影響 評価	判定	17.1	0.095	4A,4B 燃料取替 用水ポンプ	0.47	① < ②	○		10.0	0.170	4A,4B 使用済燃 料ピットポンプ	0.72	① < ②	○				<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は「1 原子炉施設の安全確保」と「2 使用済燃料ピットの安全確保」に分けて記載している。</li> </ul>
建屋 原子炉周辺建屋	E.L. + [m]	① 溢水水位 (床面[m])	防護対象設備	② 機能喪失 高さ (床面[m])	影響 評価	判定																																							
17.1	0.096	3A,3B 燃料取替 用水ポンプ	0.47	① < ②	○																																								
10.0	0.154	3A,3B 使用済燃 料ピットポンプ	0.71	① < ②	○																																								
建屋 原子炉周辺建屋	E.L. + [m]	① 溢水水位 (床面[m])	防護対象設備	② 機能喪失 高さ (床面[m])	影響 評価	判定																																							
17.1	0.095	4A,4B 燃料取替 用水ポンプ	0.47	① < ②	○																																								
10.0	0.170	4A,4B 使用済燃 料ピットポンプ	0.72	① < ②	○																																								

## 2.4.3.2.2 地震による溢水影響評価のうち被水影響評価

被水については溢水源から溢水量を特定せずに評価するため、地震による被水影響の検討は想定破損による被水影響評価と同じである。

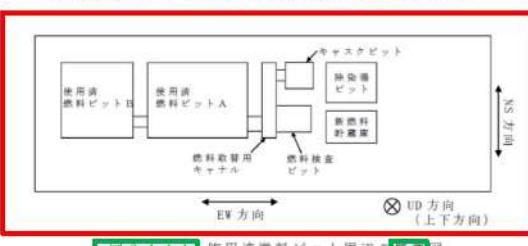
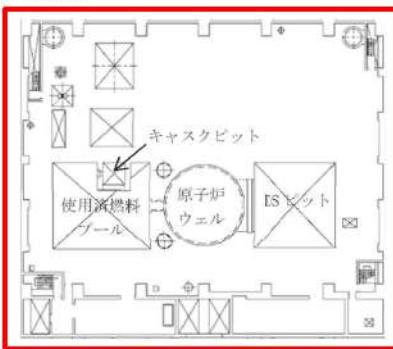
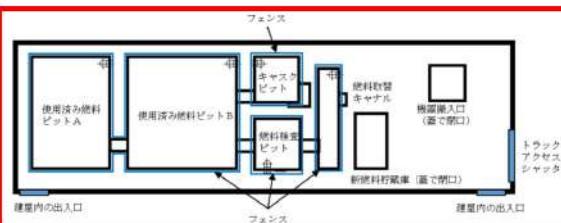
## 2.4.3.2.3 地震による溢水影響評価のうち蒸気影響評価

「1.4.3.2.3 地震による溢水影響評価のうち蒸気影響評価」と同じである。

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>2.4.4 使用済燃料ピットのスロッシングによる水位低下の評価</b></p> <p>基準地震動Ssによって発生する使用済燃料ピットからのスロッシングによる溢水量と機器の破損による溢水量を合計したものに対し、使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能を有する系統の防護対象設備が没水により機能喪失しないことを確認する。また、溢水後の水位に対し、使用済燃料ピットの冷却機能（保安規定で定められた水温65°C以下）及び遮蔽機能に必要な水位が確保されていることを確認する。</p> <p>使用済燃料ピットのあるプロアレベルの全体をモデル化範囲とし、スロッシングによる溢水量を評価するために、使用済燃料ピットだけでなく、燃料取替用キャナル、キャスクピット、燃料検査ピットのすべてが水張りされた状態で、初期水位を使用済燃料ピット水位高警報設定値(H.W.L.)とした3次元流動解析により溢水量を算出し、さらにそれら溢水量が使用済燃料ピットのみから流出したものとして保守的な評価を行う。</p> <p>使用済燃料ピット周辺の概要を図2.4.4-1に示す。</p>  <p>図2.4.4-1 使用済燃料ピット周辺の概要図</p>	<p>8 使用済燃料プール等のスロッシング後の機能維持評価 使用済燃料プールの冷却及び給水系統の防護対象設備については、これまでの溢水影響評価において、機能喪失しないことを確認している。</p> <p>ここでは、基準地震動Ssにおけるスロッシングによる使用済燃料プール等からの溢水量がプール外に流出した際の使用済燃料プール水位を求め、プール冷却（保安規定で定めた水温65°C以下）機能及び使用済燃料の遮蔽機能維持に必要な水位が確保されていることを確認する。</p> <p>なお、以下の評価は、現状の基本設計段階にて想定しているものであり、今後詳細設計等を精査するに伴い、耐震評価等の変更が生じる可能性がある。</p> <p>8.1 解析評価 基準地震動Ssに対する使用済燃料プール、原子炉ウェル及び蒸気乾燥器気水分離器ピット（以下「DSピット」という。）のスロッシングによる溢水量を推定するため、3次元流動解析を実施した。</p> <p>使用済燃料プール、原子炉ウェル及びDSピットが設置される原子炉建屋3階の機器配置図を図8-1、使用済燃料プールの概要図を図8-2に示す。</p>  <p>図8-1 原子炉建屋3階の機器配置図</p>	<p>8 使用済燃料ピット等のスロッシング後の機能維持評価 使用済燃料ピットの冷却及び給水系統の防護対象設備については、これまでの溢水影響評価において、機能喪失しないことを確認している。</p> <p>ここでは、基準地震動におけるスロッシングによる使用済燃料ピット等からの溢水量がピット外に流出した際の使用済燃料ピット水位を求め、ピット冷却（保安規定で定めた水温65°C以下）機能及び使用済燃料の遮蔽機能維持に必要な水位が確保されていることを確認する。</p> <p>なお、以下の評価は、現状の基本設計段階にて想定しているものであり、今後詳細設計等を精査するに伴い、耐震評価等の変更が生じる可能性がある。</p> <p>8.1 解析評価 基準地震動に対する使用済燃料ピット、燃料取替用キャナル、キャスクピット、燃料検査ピット（以下「使用済燃料ピット等」という）のスロッシングによる溢水量を推定するため、3次元流動解析を実施した。</p> <p>使用済燃料ピット等が設置される原子炉建屋（T.P.33.1m）の使用済燃料ピット周辺の機器配置図を図8-1、使用済燃料ピットの概要図を図8-2に示す。</p>  <p>図8-1 使用済燃料ピット周辺の機器配置図</p>	<p>【女川】 設備名称の相違</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <p>【女川】 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 設備名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>【大飯】 プラント設計の相違による。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違</p> <p>【女川】 女川審査実績の反映</p> <p>泊は「表8-1 解析条件」に解析方法を記載しているが、モデル化範囲、水張状態、初期水位の設定方法は大飯と同様である。</p> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>【大飯・女川】 設計方針の相違</p> <p>【大飯・女川】 プラント設計の相違による。</p> <p>【女川・大飯】 記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>評価用地震動は、基準地震動Ssによる原子炉周辺建屋(E.L. +33.6m)の応答を用い、水平1方向と鉛直方向の地震力の組合せ(EW方向及びUD方向、NS方向及びUD方向)を基本として、溢水量が多くなる地震動を地震波の継続時間の観点からSs-1を、ピットの水の固有周期における応答加速度の観点から、Ss-1, Ss-10を評価対象として選定した上で、使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水量を評価する。なお、水平2方向と鉛直方向の地震力の組合せ(EW方向、NS方向及びUD方向)については、別途影響確認を行う。</p>	<p>図8-2 使用済燃料プールの概略図</p>	<p>図8-2 使用済燃料ピット等の概要図</p> <p>追面【地震津波側審査の反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済燃料ピットのスロッシング評価については、現時点で確定している基準地震動のうち、使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水量が最大となるSs3-2(金ヶ崎地震動)を用いた評価結果を示す。</li> <li>・以下の[破線閉部分]は、基準振動確定後に評価を実施し、今後追加となる基準地震動によるスロッシング量がSs3-2によるスロッシング量を上回る場合には、記載の見直しを行う。</li> </ul>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の相違による。</p> <p>【女川】</p> <p>設備名称の相違 記載表現の相違</p> <p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違 (評価用地震動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊の使用済燃料ピットの固有周期において応答が大きいと考えられる地震動が複数あることから、現時点で確定している基準地震動については、代表ケースを選定せずにすべての地震動について解析を実施している。</li> <li>・女川は応答加速度の観点からSs-1の1波を評価用地震動としており、大飯は地震波継続時間の観点からSs-1、応答加速度の観点からSs-10をそれぞれ選定し、2波を評価用地震動としている。</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊は上記のとおり現時点で確定している基準地震動についてすべての地震動について解析を実施しているため、評価に用いた時刻歴波形は一例としてSs3-2のものを記載している。</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

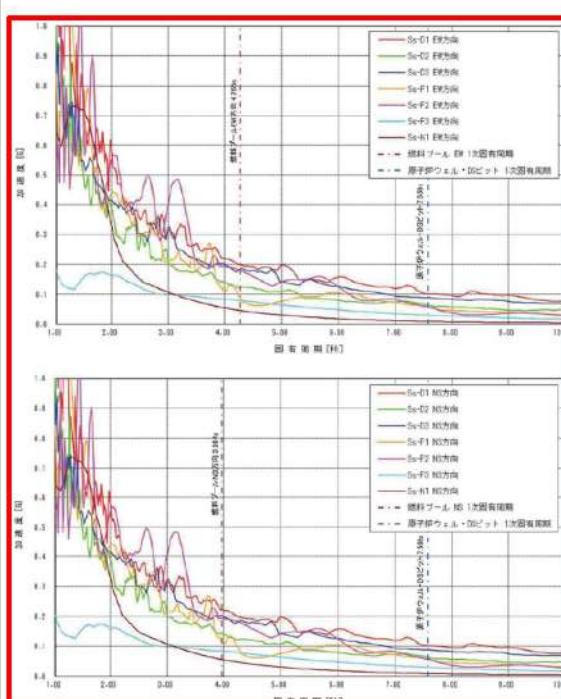
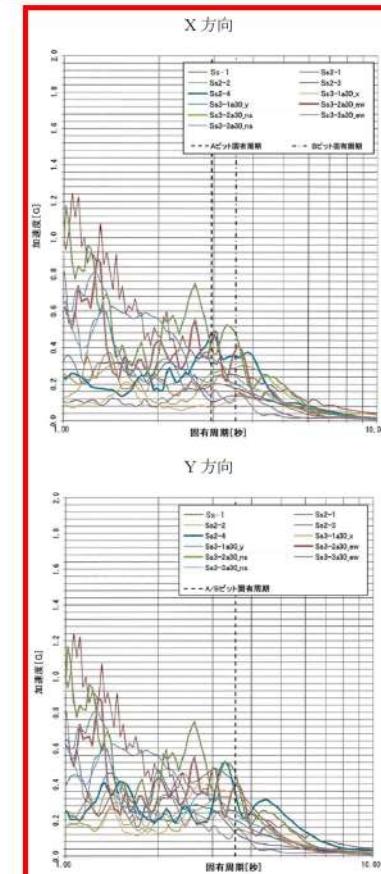
大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>追而【地震津波側審査の反映】 下図については基準地震動確定後に最新版を反映する。</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 プラント設計の相違による。</p>

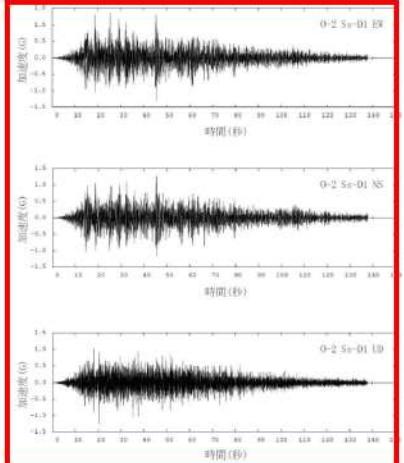
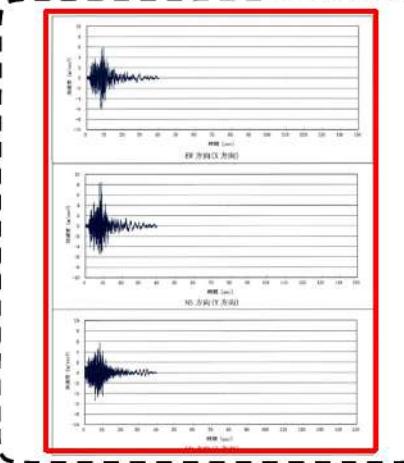
図8-3 水平方向の床応答スペクトル

図8-3 水平方向の床応答スペクトル

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(添付資料2「使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水影響評価」)</p> <p>2.2 解析条件</p> <p>解析条件は表1に示す通りである。なお、解析モデル諸元を表2、表3に、解析モデル図を図2、図3に示す。</p>	 <p>図8-4 評価用地震動 (Ss-D1) の時刻歴加速度波形</p>	<p>追而【地震津波側審査の反映】</p> <p>下図については基準地震動確定後の評価結果により必要に応じて見直しを行う。</p>  <p>図8-4 基準地震動Ss3-2の時刻歴加速度波形</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 プラント設計の相違による。</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違 大飯との比較のため、「添付資料2 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水影響評価」の記載を貼り付けた。 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【大飯・女川】 記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
<p><b>表1 モデル化範囲 解析条件 (1/2)</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>モデル化範囲</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベルの全体 (図1)</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>境界条件</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は開放とする。他は壁による境界を設定。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>初期水位</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>E.L. +33.21m (使用済燃料ピット水位高警報設定値 H.W.L.)</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>評価用地震動</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>応答スペクトルに基づく地震動評価結果による基準地震動 Ss(以下、応答スペクトルベース)、断層モデルを用いた手法による地震動評価結果による基準地震動 Ss 及び震源を特定せず策定する基準地震動 Ss(以下、断層モデルベース等)による原子炉周辺建屋 E.L. +33.6m の応答を使用する。</li> <li>応答スペクトルベース (1波)、断層モデルベース等 (18波)に対し、水平1方向と鉛直方向の地震力の組合せ (EW方向及びUD方向、NS方向及びUD方向) を基本として、時刻歴により評価する。</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table> <p><b>表1 モデル化範囲 解析条件 (2/2)</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>解析コード</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>FLOW-3D Ver. 9.2.1 (流体解析ソフトウェア 参照参照)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することを特徴としている。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。(2次元メッシュ図: 図3、解析モデル諸元: 表2、3)</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>その他</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットは考慮せず、ピット内の水が全て揺動するとした。</li> <li>ピット周りに設置されているフェンス等による流出に対する抵抗は考慮しない。</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>	モデル化範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベルの全体 (図1)</li> </ul>	境界条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は開放とする。他は壁による境界を設定。</li> </ul>	初期水位	<ul style="list-style-type: none"> <li>E.L. +33.21m (使用済燃料ピット水位高警報設定値 H.W.L.)</li> </ul>	評価用地震動	<ul style="list-style-type: none"> <li>応答スペクトルに基づく地震動評価結果による基準地震動 Ss(以下、応答スペクトルベース)、断層モデルを用いた手法による地震動評価結果による基準地震動 Ss 及び震源を特定せず策定する基準地震動 Ss(以下、断層モデルベース等)による原子炉周辺建屋 E.L. +33.6m の応答を使用する。</li> <li>応答スペクトルベース (1波)、断層モデルベース等 (18波)に対し、水平1方向と鉛直方向の地震力の組合せ (EW方向及びUD方向、NS方向及びUD方向) を基本として、時刻歴により評価する。</li> </ul>	解析コード	<ul style="list-style-type: none"> <li>FLOW-3D Ver. 9.2.1 (流体解析ソフトウェア 参照参照)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することを特徴としている。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。(2次元メッシュ図: 図3、解析モデル諸元: 表2、3)</li> </ul>	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットは考慮せず、ピット内の水が全て揺動するとした。</li> <li>ピット周りに設置されているフェンス等による流出に対する抵抗は考慮しない。</li> </ul>	<p><b>表8-1 解析条件</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>モデル化範囲</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベル全体</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>境界条件</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置及び室内からの出入口からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は大気開閉条件とする。</li> <li>その他のモデル化範囲外周は堤壠界を設定し、溢水の跳ね返りを考慮する。</li> <li>蓋で閉口している床面閉口部 (新燃料貯蔵庫、機器搬入口) からの流出は考慮しない。また、排水ドレンパンは全閉とする。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>初期水位</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>通常水位 (N.W.L.)、O.P.+32.895m (オーバーフロー水位)</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>評価用地震動</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋 0.P.+22.5m の応答を使用</li> <li>基準地震動 Ss (Ss=H.L.: 応答スペクトルに基づく地震動) に対し、NS 方向と UP 方向、EW 方向と UD 方向の時刻歴を用いる。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>解析コード</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Fluent Ver. 14.5 (汎用熱流体解析コード)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することができる。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>その他</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピット等の内部の構造物はキャスクピットと底面段差を考慮するが、使用済燃料貯蔵ラック、蒸気乾燥器及びシラウドヘッドは考慮しない。</li> <li>キャスクピット内ピットは中実構造とする。</li> <li>ピット周囲に設置されているフェンス等による溢水の抑制効果は考慮しない。</li> <li>使用済燃料ピット内部の水は通常水位で一定で管理されているものとする。</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>	モデル化範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベル全体</li> </ul>	境界条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置及び室内からの出入口からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は大気開閉条件とする。</li> <li>その他のモデル化範囲外周は堤壠界を設定し、溢水の跳ね返りを考慮する。</li> <li>蓋で閉口している床面閉口部 (新燃料貯蔵庫、機器搬入口) からの流出は考慮しない。また、排水ドレンパンは全閉とする。</li> </ul>	初期水位	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常水位 (N.W.L.)、O.P.+32.895m (オーバーフロー水位)</li> </ul>	評価用地震動	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋 0.P.+22.5m の応答を使用</li> <li>基準地震動 Ss (Ss=H.L.: 応答スペクトルに基づく地震動) に対し、NS 方向と UP 方向、EW 方向と UD 方向の時刻歴を用いる。</li> </ul>	解析コード	<ul style="list-style-type: none"> <li>Fluent Ver. 14.5 (汎用熱流体解析コード)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することができる。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。</li> </ul>	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピット等の内部の構造物はキャスクピットと底面段差を考慮するが、使用済燃料貯蔵ラック、蒸気乾燥器及びシラウドヘッドは考慮しない。</li> <li>キャスクピット内ピットは中実構造とする。</li> <li>ピット周囲に設置されているフェンス等による溢水の抑制効果は考慮しない。</li> <li>使用済燃料ピット内部の水は通常水位で一定で管理されているものとする。</li> </ul>	<p><b>表8-1 解析条件</b></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>モデル化範囲</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベル全体</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>境界条件</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置及び室内からの出入口からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は大気開閉条件とする。</li> <li>その他のモデル化範囲外周は堤壠界を設定し、溢水の跳ね返りを考慮する。</li> <li>蓋で閉口している床面閉口部 (新燃料貯蔵庫、機器搬入口) からの流出は考慮しない。また、排水ドレンパンは全閉とする。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>初期水位</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>T.P. 32.73m (使用済燃料ピット水位高警報設定値 H.W.L.)</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>評価用地震動</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の基準地震動による燃料取扱機 (T.P. 33.1m) の応答時刻歴を使用する。 応答スペクトルベース : Ss=1 断層モデルベース等 : Ss2-1, Ss2-2, Ss2-3, Ss2-4 Ss3-1a30_x, Ss3-1a30_y (巻ヶ崎地震動) Ss3-2a30_xw, Ss3-2a30_ns (金ヶ崎地震動) Ss3-3a30_xw, Ss3-3a30_ns (一関東地震動)</li> <li>特定の方向性を持たない応答スペクトルベースに対しては、水平1方向と鉛直方向 (NS+UD 及び EW+UD) を組合せ、時刻歴により評価を行う。</li> <li>断層モデルベース等に対しては、水平2方向 (NS 及び EW) と鉛直方向 (UD) を組合せ、時刻歴により評価を行う。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>解析コード</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>FLOW-3D Ver.9.2.1 (流体解析ソフトウェア)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することを特徴としている。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>その他</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ラックは考慮せず、ピット内の水がすべて運動するとした。</li> <li>ピット周りに設置されているフェンス等による流出に対する抵抗は考慮しない。</li> <li>使用済燃料ピットA: 使用済燃料ピットB: 燃料取扱用キャナル、キャスクピット、燃料検査ピットのすべてが水側リされた井戸とする。</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>	モデル化範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベル全体</li> </ul>	境界条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置及び室内からの出入口からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は大気開閉条件とする。</li> <li>その他のモデル化範囲外周は堤壠界を設定し、溢水の跳ね返りを考慮する。</li> <li>蓋で閉口している床面閉口部 (新燃料貯蔵庫、機器搬入口) からの流出は考慮しない。また、排水ドレンパンは全閉とする。</li> </ul>	初期水位	<ul style="list-style-type: none"> <li>T.P. 32.73m (使用済燃料ピット水位高警報設定値 H.W.L.)</li> </ul>	評価用地震動	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の基準地震動による燃料取扱機 (T.P. 33.1m) の応答時刻歴を使用する。 応答スペクトルベース : Ss=1 断層モデルベース等 : Ss2-1, Ss2-2, Ss2-3, Ss2-4 Ss3-1a30_x, Ss3-1a30_y (巻ヶ崎地震動) Ss3-2a30_xw, Ss3-2a30_ns (金ヶ崎地震動) Ss3-3a30_xw, Ss3-3a30_ns (一関東地震動)</li> <li>特定の方向性を持たない応答スペクトルベースに対しては、水平1方向と鉛直方向 (NS+UD 及び EW+UD) を組合せ、時刻歴により評価を行う。</li> <li>断層モデルベース等に対しては、水平2方向 (NS 及び EW) と鉛直方向 (UD) を組合せ、時刻歴により評価を行う。</li> </ul>	解析コード	<ul style="list-style-type: none"> <li>FLOW-3D Ver.9.2.1 (流体解析ソフトウェア)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することを特徴としている。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。</li> </ul>	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ラックは考慮せず、ピット内の水がすべて運動するとした。</li> <li>ピット周りに設置されているフェンス等による流出に対する抵抗は考慮しない。</li> <li>使用済燃料ピットA: 使用済燃料ピットB: 燃料取扱用キャナル、キャスクピット、燃料検査ピットのすべてが水側リされた井戸とする。</li> </ul>	<p><b>【女川】</b></p> <p><b>設計方針の相違</b></p> <p><b>【モデル化範囲、境界条件及びその他】(大飯と同様)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川は使用済燃料ピットのみをモデル化しているのに対し、泊は使用済燃料ピットのあるフロア全体をモデル化範囲とし、エリアの外壁からの溢水の跳ね返りを考慮しているが、泊では初期条件として使用済燃料ピットに接続されるすべてのピットに水張りされた条件としており、さらに、溢水量は、ピットからの溢水量が最大到達時のピーク値を用いることにより保守的な評価をしている。</li> </ul> <p><b>【初期水位】(大飯と同様)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラント設計の相違により、設定値が異なる。</li> </ul> <p><b>【評価用地震動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9-別添I-79の「設計方針の相違 (評価用地震動について)」と同様。</li> <li>泊の断層モデルベース等の地震動による評価では、断層モデルベース波は特定の方向性を有する地震動であることから、水平2方向+鉛直方向の同時入力により解析を実施している。</li> <li>なお、特定の方向性を持たないスペクトルベースの地震動については、女川と同様の評価手法としている。</li> </ul> <p><b>【解析コード】(大飯と同様)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用している解析コードが異なるが、共にVOF法を用いた解析コードであり、同様の検証を行っている。</li> </ul>
モデル化範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベルの全体 (図1)</li> </ul>																																						
境界条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は開放とする。他は壁による境界を設定。</li> </ul>																																						
初期水位	<ul style="list-style-type: none"> <li>E.L. +33.21m (使用済燃料ピット水位高警報設定値 H.W.L.)</li> </ul>																																						
評価用地震動	<ul style="list-style-type: none"> <li>応答スペクトルに基づく地震動評価結果による基準地震動 Ss(以下、応答スペクトルベース)、断層モデルを用いた手法による地震動評価結果による基準地震動 Ss 及び震源を特定せず策定する基準地震動 Ss(以下、断層モデルベース等)による原子炉周辺建屋 E.L. +33.6m の応答を使用する。</li> <li>応答スペクトルベース (1波)、断層モデルベース等 (18波)に対し、水平1方向と鉛直方向の地震力の組合せ (EW方向及びUD方向、NS方向及びUD方向) を基本として、時刻歴により評価する。</li> </ul>																																						
解析コード	<ul style="list-style-type: none"> <li>FLOW-3D Ver. 9.2.1 (流体解析ソフトウェア 参照参照)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することを特徴としている。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。(2次元メッシュ図: 図3、解析モデル諸元: 表2、3)</li> </ul>																																						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットは考慮せず、ピット内の水が全て揺動するとした。</li> <li>ピット周りに設置されているフェンス等による流出に対する抵抗は考慮しない。</li> </ul>																																						
モデル化範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベル全体</li> </ul>																																						
境界条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置及び室内からの出入口からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は大気開閉条件とする。</li> <li>その他のモデル化範囲外周は堤壠界を設定し、溢水の跳ね返りを考慮する。</li> <li>蓋で閉口している床面閉口部 (新燃料貯蔵庫、機器搬入口) からの流出は考慮しない。また、排水ドレンパンは全閉とする。</li> </ul>																																						
初期水位	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常水位 (N.W.L.)、O.P.+32.895m (オーバーフロー水位)</li> </ul>																																						
評価用地震動	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉建屋 0.P.+22.5m の応答を使用</li> <li>基準地震動 Ss (Ss=H.L.: 応答スペクトルに基づく地震動) に対し、NS 方向と UP 方向、EW 方向と UD 方向の時刻歴を用いる。</li> </ul>																																						
解析コード	<ul style="list-style-type: none"> <li>Fluent Ver. 14.5 (汎用熱流体解析コード)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することができる。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。</li> </ul>																																						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピット等の内部の構造物はキャスクピットと底面段差を考慮するが、使用済燃料貯蔵ラック、蒸気乾燥器及びシラウドヘッドは考慮しない。</li> <li>キャスクピット内ピットは中実構造とする。</li> <li>ピット周囲に設置されているフェンス等による溢水の抑制効果は考慮しない。</li> <li>使用済燃料ピット内部の水は通常水位で一定で管理されているものとする。</li> </ul>																																						
モデル化範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ピットのあるフロアレベル全体</li> </ul>																																						
境界条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャッター位置及び室内からの出入口からは水が流出するものとする。</li> <li>上部は大気開閉条件とする。</li> <li>その他のモデル化範囲外周は堤壠界を設定し、溢水の跳ね返りを考慮する。</li> <li>蓋で閉口している床面閉口部 (新燃料貯蔵庫、機器搬入口) からの流出は考慮しない。また、排水ドレンパンは全閉とする。</li> </ul>																																						
初期水位	<ul style="list-style-type: none"> <li>T.P. 32.73m (使用済燃料ピット水位高警報設定値 H.W.L.)</li> </ul>																																						
評価用地震動	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の基準地震動による燃料取扱機 (T.P. 33.1m) の応答時刻歴を使用する。 応答スペクトルベース : Ss=1 断層モデルベース等 : Ss2-1, Ss2-2, Ss2-3, Ss2-4 Ss3-1a30_x, Ss3-1a30_y (巻ヶ崎地震動) Ss3-2a30_xw, Ss3-2a30_ns (金ヶ崎地震動) Ss3-3a30_xw, Ss3-3a30_ns (一関東地震動)</li> <li>特定の方向性を持たない応答スペクトルベースに対しては、水平1方向と鉛直方向 (NS+UD 及び EW+UD) を組合せ、時刻歴により評価を行う。</li> <li>断層モデルベース等に対しては、水平2方向 (NS 及び EW) と鉛直方向 (UD) を組合せ、時刻歴により評価を行う。</li> </ul>																																						
解析コード	<ul style="list-style-type: none"> <li>FLOW-3D Ver.9.2.1 (流体解析ソフトウェア)</li> <li>自由表面 (及び2流体界面) の大変形を伴う複雑な3次元流動現象を精度よく計算することを特徴としている。</li> <li>一般産業施設の主要な解析実績としては、液体燃料やLNGタンクのスロッシング解析、インクジェット解析、铸造湯流れ凝固解析などが挙げられる。</li> </ul>																																						
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済燃料ラックは考慮せず、ピット内の水がすべて運動するとした。</li> <li>ピット周りに設置されているフェンス等による流出に対する抵抗は考慮しない。</li> <li>使用済燃料ピットA: 使用済燃料ピットB: 燃料取扱用キャナル、キャスクピット、燃料検査ピットのすべてが水側リされた井戸とする。</li> </ul>																																						

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

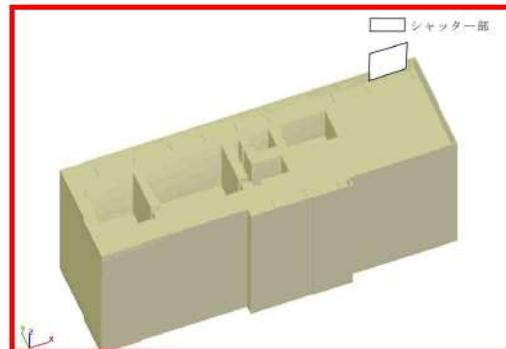
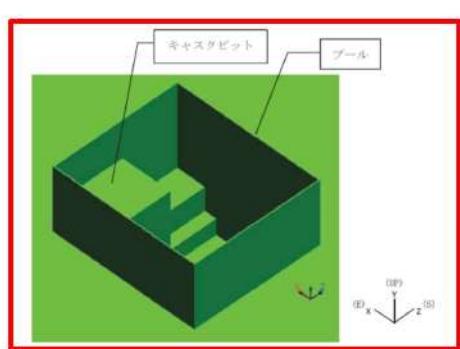
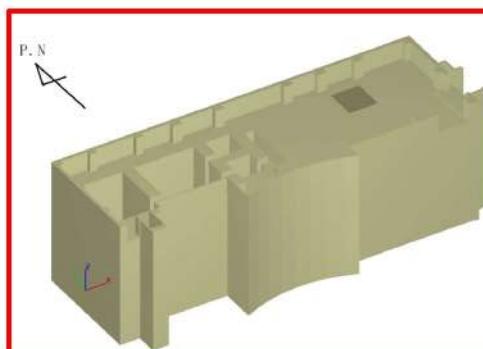
赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
<p><b>表2 解析領域とメッシュ数</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>解析領域</th><th>メッシュ数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>EW 方向 NS 方向 UD 方向</td><td>0.0~71.9 [m] -23.3~ 0.0 [m] 19.5~36.6 [m]</td></tr> <tr> <td></td><td>240 (EW) × 90 (NS) × 70 (UD) = 1,512,000</td></tr> </tbody> </table>	解析領域	メッシュ数	EW 方向 NS 方向 UD 方向	0.0~71.9 [m] -23.3~ 0.0 [m] 19.5~36.6 [m]		240 (EW) × 90 (NS) × 70 (UD) = 1,512,000	<p><b>表8-2 使用済燃料プールの解析領域とメッシュ数</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>解析領域</th><th>総メッシュ数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>NS 方向 EW 方向 UD 方向</td><td>0~92.4 [m] 0~94.235 [m] 0~26.92 [m]</td></tr> <tr> <td></td><td>5,730,000</td></tr> </tbody> </table>	解析領域	総メッシュ数	NS 方向 EW 方向 UD 方向	0~92.4 [m] 0~94.235 [m] 0~26.92 [m]		5,730,000	<p><b>表8-2 使用済燃料ピットの解析領域とメッシュ数</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>解析領域</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X 方向 Y 方向 Z 方向</td><td>-0.5~58.9 [m] -20.5~2.8 [m] 19.9~36.1 [m]</td></tr> </tbody> </table>	解析領域		X 方向 Y 方向 Z 方向	-0.5~58.9 [m] -20.5~2.8 [m] 19.9~36.1 [m]	<p><b>【大飯】</b> 記載箇所の相違 大飯との比較のため、「添付資料2 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水影響評価」の記載を貼り付けた。</p>		
解析領域	メッシュ数																				
EW 方向 NS 方向 UD 方向	0.0~71.9 [m] -23.3~ 0.0 [m] 19.5~36.6 [m]																				
	240 (EW) × 90 (NS) × 70 (UD) = 1,512,000																				
解析領域	総メッシュ数																				
NS 方向 EW 方向 UD 方向	0~92.4 [m] 0~94.235 [m] 0~26.92 [m]																				
	5,730,000																				
解析領域																					
X 方向 Y 方向 Z 方向	-0.5~58.9 [m] -20.5~2.8 [m] 19.9~36.1 [m]																				
<p><b>表3 物性値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">水 (SI 単位系)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粘性係数</td><td>0.001 [Pa·s]</td></tr> <tr> <td>密度</td><td>1,000 [kg/m³]</td></tr> </tbody> </table>	水 (SI 単位系)		粘性係数	0.001 [Pa·s]	密度	1,000 [kg/m³]	<p><b>表8-4 物性値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">水</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粘性係数</td><td>0.00067 [Pa·s]</td></tr> <tr> <td>密度</td><td>990 [kg/m³]</td></tr> </tbody> </table>	水		粘性係数	0.00067 [Pa·s]	密度	990 [kg/m³]	<p><b>表8-3 物性値</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">水 (SI 単位系)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粘性係数</td><td>0.001 [Pa·s]</td></tr> <tr> <td>密度</td><td>1,000 [kg/m³]</td></tr> </tbody> </table>	水 (SI 単位系)		粘性係数	0.001 [Pa·s]	密度	1,000 [kg/m³]	<p><b>【大飯・女川】</b> 記載表現の相違 <b>【女川】</b> 記載表現の相違</p>
水 (SI 単位系)																					
粘性係数	0.001 [Pa·s]																				
密度	1,000 [kg/m³]																				
水																					
粘性係数	0.00067 [Pa·s]																				
密度	990 [kg/m³]																				
水 (SI 単位系)																					
粘性係数	0.001 [Pa·s]																				
密度	1,000 [kg/m³]																				
			<p><b>【大飯・女川】</b> 記載方針の相違 泊は使用済燃料ピットのあるフロア全体をモデル化範囲としていることから、解析領域を図で示している。</p>																		

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯・女川】 設計方針の相違 プラント設計の相違による。</p>
			<p>【大飯・女川】 記載表現の相違 【女川】 設備名称の相違</p>
			<p>【女川】 設計方針の相違 女川は原子炉ウェル及びDSピットを使用済燃料プールとは別にモデル化し解析を実施しているのに対し、泊は使用済燃料ピット等を一体としてモデル化し解析を実施している。(大飯と同様)</p>
			<p>【大飯】 記載箇所の相違 大飯との比較のため、「添付資料2 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水影響評価」の記載（青破線枠内）を貼り付けた。 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																						
<p>基準地震動Ssにおける使用済燃料ピットのスロッシングによる最大到達溢水時の溢水量を表2.4.4-1に、使用済燃料ピット水位を表2.4.4-2に示す。</p> <p>表2.4.4-1 スロッシングによる溢水量</p> <table border="1"> <tr> <td>基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向</td><td>41.12m<sup>3</sup></td></tr> <tr> <td>基準地震動 Ss NS 方向、UD 方向</td><td>5.48m<sup>3</sup></td></tr> </table>	基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向	41.12m <sup>3</sup>	基準地震動 Ss NS 方向、UD 方向	5.48m <sup>3</sup>	<p>8. 2 スロッシングによる溢水量 (解析結果)</p> <p>基準地震動Ssに対する使用済燃料プール及び原子炉ウェル・DSピットのスロッシングによる溢水量を表8-5に示す。また、スロッシングによる溢水量の時間変化を図8-9及び図8-10に示す。</p> <p>地震起因による溢水影響評価に用いる溢水量は、使用済燃料プールの溢水量の多いEW+UD方向の解析結果にさらに10%の余裕を見込んだ上で、小数第1位を切り上げ処理し、41m<sup>3</sup>とした。また、同様に、定検時に水が張られる原子炉ウェル・DSピットも含めたスロッシングによる溢水量は107m<sup>3</sup>とした。</p> <p>表8-5 スロッシングによる溢水量 (解析結果)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価ケース</th> <th colspan="2">解析結果 [m<sup>3</sup>]</th> <th rowspan="2">評価に用いる溢水量 [m<sup>3</sup>]</th> </tr> <tr> <th>使用済燃料プール</th> <th>原子炉ウェル及びDSピット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ss-D1</td> <td>Case1 : EW+UD 方向 Case2 : NS+UD 方向</td> <td>37 34</td> <td>60 61</td> <td>41 (107*)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 原子炉ウェル・DSピットも含めた溢水量</p>	評価ケース	解析結果 [m <sup>3</sup> ]		評価に用いる溢水量 [m <sup>3</sup> ]	使用済燃料プール	原子炉ウェル及びDSピット	Ss-D1	Case1 : EW+UD 方向 Case2 : NS+UD 方向	37 34	60 61	41 (107*)	<p>8. 2 スロッシングによる溢水量 (解析結果)</p> <p>追面【地震津波側審査の反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スロッシングによる溢水量 (解析結果)については、現時点で確定している基準地震動のうち、溢水量が最大となる Ss3-2 (金ヶ崎地震動) を用いた評価結果を示す。</li> <li>以下の <u>破線囲部分</u> は、基準振動確定後に評価を実施し、今後追加となる基準地震動によるスロッシング量が Ss3-2 のスロッシング量を上回る場合には、記載の見直しを行う。</li> </ul> <p>基準地震動のうち、使用済燃料ピット等のスロッシングによる溢水量が最大となった <u>基準地震動 Ss3-2</u> における溢水量 (ピーク値) を表8-5に示す。また、スロッシングによる溢水量の時間変化を図8-8に示す。</p> <p>地震起因による溢水影響評価に用いる溢水量は、水平2方向 (EW及びNS) 及び鉛直方向 (UD) の組合せによる解析結果にさらに10%の余裕を見込んだ上で、小数第1位を切り上げ処理し、35m<sup>3</sup>とした。</p> <p>表8-5 スロッシングによる溢水量 (解析結果)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価ケース</th> <th>解析結果 [m<sup>3</sup>]</th> <th>評価に用いる溢水量 [m<sup>3</sup>]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ss3-2</td> <td>EW+NS+UD 方向</td> <td>31.30</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	評価ケース	解析結果 [m <sup>3</sup> ]	評価に用いる溢水量 [m <sup>3</sup> ]	Ss3-2	EW+NS+UD 方向	31.30	35	<p>【大飯・女川】 記載表現・設備名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊の使用済燃料ピットの固有周期において応答が大きいと考えられる地震動が複数あることから、現時点で確定している基準地震動については、代表ケースを選定せずにすべての地震動について解析を実施している。</li> <li>泊は使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水量は、ピットからの溢水量が最大となるピーク値を用いることにより保守的な評価としている。(大飯と同様)</li> </ul> <p>【大飯・女川】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価結果の相違による。</li> <li>プラント設計の相違による。</li> <li>評価に用いる地震動は、女川は特定の方向性を持たないスペクトルベースの地震動 (Ss-1)、泊は特定の方向性を有する断層モデルベース等の地震動 (Ss3-2) という相違がある。泊で用いるSs3-2は、EW方向及びNS方向それぞれに観測された地震波があるため、これらと鉛直方向との組合せにより、3方向同時入力により解析を実施している。なお、特定の方向性を持たないスペクトルベースの地震動 (Ss-1) については、女川と同様の評価手法にて評価を実施しており、Ss3-2による溢水量を超えないことを確認している。 (補足説明資料32で説明)</li> </ul>
基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向	41.12m <sup>3</sup>																								
基準地震動 Ss NS 方向、UD 方向	5.48m <sup>3</sup>																								
評価ケース	解析結果 [m <sup>3</sup> ]		評価に用いる溢水量 [m <sup>3</sup> ]																						
	使用済燃料プール	原子炉ウェル及びDSピット																							
Ss-D1	Case1 : EW+UD 方向 Case2 : NS+UD 方向	37 34	60 61	41 (107*)																					
評価ケース	解析結果 [m <sup>3</sup> ]	評価に用いる溢水量 [m <sup>3</sup> ]																							
Ss3-2	EW+NS+UD 方向	31.30	35																						

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

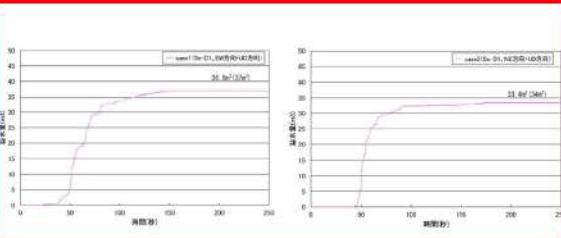
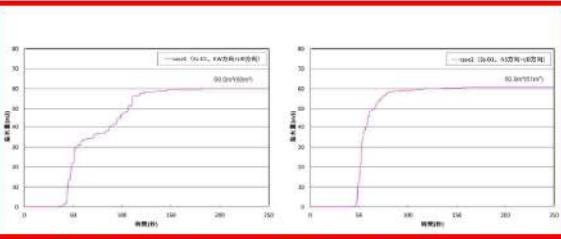
大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <b>図8-9 溢水量の時間変化 (使用済燃料プール)</b>	 <b>図8-8 溢水量の時間変化 (使用済燃料ピット)</b>	<b>【女川】</b> <u>設計方針の相違</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水量は、ピットからの溢水量が最大となるピーク値を用いることにより保守的な評価としている。(大飯と同様)</li> <li>評価結果の相違による。</li> </ul>
	 <b>図8-10 溢水量の時間変化 (原子炉ウェル及びDSピット)</b>		<b>【女川】</b> <u>設備名称の相違</u>
			<b>【女川】</b> <u>設計方針の相違</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラント設計の相違による。</li> </ul>
			<b>【大飯】</b> <u>記載箇所の相違</u> <p>女川審査実績の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は後述の8, 3にて使用済燃料ピットの水位を記載している。</li> </ul>

表2.4.4-2 溢水時の使用済燃料ピット水位

初期ピット水位	11.91m
使用済燃料ピット水位低警報設定値 (L.W.L.)	(E. L. + 33.06m)
地震後のピット水位	11.76m
基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向	(E. L. + 32.91m)
地震後のピット水位	11.89m
基準地震動 Ss NS 方向、UD 方向	(E. L. + 33.04m)

※1 ピット水位 (EW 方向、UD 方向) = 11.76m  
 $= 11.91\text{m}(\text{初期ピット水位}) - 41.12\text{m}^3(\text{溢水量}) / 290.08\text{m}^2(\text{ピットの面積})$

※2 ピット水位 (EW 方向、UD 方向) = 11.89m  
 $= 11.91\text{m}(\text{初期ピット水位}) - 5.48\text{m}^3(\text{溢水量}) / 290.08\text{m}^2(\text{ピットの面積})$

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																			
<p>2.4.5 使用済燃料ピットのスロッシングに対する冷却機能及び給水機能の維持の確認</p> <p>使用済燃料ピットの最大到達溢水時の溢水量が、使用済燃料ピット低水位警報設定値 (L.W.L.) からピット外に流出したと仮定した場合の使用済燃料ピット水位を求め、使用済燃料ピットの冷却機能 (保安規定で定められた水温65°C) の維持に必要な水位が確保されていることを確認した結果を表2.4.5-1に示す。</p> <p>また、使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な防護対象設備が没水により機能喪失しないことを確認した結果を表2.4.5-2に示す。</p> <p>表 2.4.5-1 溢水時における使用済燃料ピットの冷却機能の維持の確認結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th><th>地盤後のピット水位 [m]</th><th>冷却機能の維持に必要な水位<sup>※1</sup> [m]</th><th>評価結果</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向 (E.L. +32.91)</td><td>11.76<sup>※2</sup> (E.L. +32.14)</td><td>10.99</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 使用済燃料ピットの冷却機能 (保安規定で定められた水温 65°C) の維持に必要な水位を、使用済燃料ピットポンプ吸込側のピット接続配管の上端レベルとした。</p> <p>※2 ピット水位 (EW 方向、UD 方向) = 11.76m  <math>= 11.91m</math> (初期ピット水位) - 41.12m<sup>3</sup> (溢水量) / 290.08m<sup>2</sup> (ピットの面積)</p> <p>表 2.4.5-2 溢水時における使用済燃料ピットへの冷却機能及び給水機能維持の確認結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象機器</th><th>設置場所</th><th>溢水水位 [m]</th><th>機能喪失高さ [m]</th><th>評価結果</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用済燃料ピットポンプ</td><td>原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m</td><td>3号炉 0.154 4号炉 0.170</td><td>3号炉 0.71 4号炉 0.72</td><td>○</td></tr> <tr> <td>使用済燃料ピットポンプ現場操作盤</td><td>原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m</td><td>3号炉 0.154 4号炉 0.170</td><td>3号炉 1.20 4号炉 1.20</td><td>○</td></tr> <tr> <td>燃料取替用水ポンプ</td><td>原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m</td><td>3号炉 0.096 4号炉 0.095</td><td>3号炉 0.47 4号炉 0.47</td><td>○</td></tr> <tr> <td>燃料取替用水ポンプ現場操作箱</td><td>原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m</td><td>3号炉 0.096 4号炉 0.095</td><td>3号炉 1.20 4号炉 1.20</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>※「表 2.4.3.2.1-1 大飯3号炉 地震による没水影響評価」及び「表 2.4.3.2.1-2 大飯4号炉 地震による没水影響評価」より。</p>	方向	地盤後のピット水位 [m]	冷却機能の維持に必要な水位 <sup>※1</sup> [m]	評価結果	基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向 (E.L. +32.91)	11.76 <sup>※2</sup> (E.L. +32.14)	10.99	○	対象機器	設置場所	溢水水位 [m]	機能喪失高さ [m]	評価結果	使用済燃料ピットポンプ	原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m	3号炉 0.154 4号炉 0.170	3号炉 0.71 4号炉 0.72	○	使用済燃料ピットポンプ現場操作盤	原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m	3号炉 0.154 4号炉 0.170	3号炉 1.20 4号炉 1.20	○	燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m	3号炉 0.096 4号炉 0.095	3号炉 0.47 4号炉 0.47	○	燃料取替用水ポンプ現場操作箱	原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m	3号炉 0.096 4号炉 0.095	3号炉 1.20 4号炉 1.20	○	<p>8.3 使用済燃料プール等のスロッシングに対する冷却機能・給水機能・遮蔽機能維持の確認</p> <p>(1) スロッシングによる使用済燃料プール水位低下及び必要水位</p> <p>使用済燃料プール等からのスロッシングによる溢水がプール外に流出した際の使用済燃料プール水位及びプール冷却並びに遮蔽に必要な水位を表8-6に示す。使用済燃料プール単独でのスロッシング影響を考慮した場合の方が、使用済燃料プール水位がより低下するため、以下では使用済燃料プール単独のスロッシングによる影響を評価した。</p> <p>表8-6 スロッシング発生後の使用済燃料プール水位及び必要水位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期プール水位 [m]</th><th>11.515 (O.P.+32.895)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スロッシング発生後のプール水位<sup>※1</sup> [m] (使用済燃料プール単独のスロッシングを考慮した場合)</td><td>11.245 (O.P.+32.625)</td></tr> <tr> <td>スロッシング発生後のプール水位<sup>※2</sup> [m] (原子炉ウェル・BS ピットのスロッシングも考慮した場合)</td><td>11.255 (O.P.+32.635)</td></tr> <tr> <td>プール冷却に必要な水位<sup>※3</sup> [m]</td><td>11.515 (O.P.+32.895)</td></tr> <tr> <td>遮蔽に必要な水位<sup>※4</sup> [m]</td><td>7.958 (O.P.+29.338)</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 初期プール水位からの水位低下量 (0.27m) は、溢水量 (41m<sup>3</sup>) を使用済燃料プールの面積で除し、小数第3位を切り上げて算出した。      ※2 初期プール水位からの水位低下量 (0.29m) は、溢水量 (40.7m<sup>3</sup>) を使用済燃料プール・原子炉ウェル・BS ピットの合計面積で除し、小数第3位を切り上げて算出した。      ※3 保安規定で定められている。水温 (65°C以上) が保たれるために必要な水位として、保守的にオーバーフロー水位を設定した。      ※4 使用済燃料プールを考慮した。使用済燃料プール水面の設計基準線量率 (<math>\leq 0.01\text{mSv/h}</math>) を満足する水位。</p>	初期プール水位 [m]	11.515 (O.P.+32.895)	スロッシング発生後のプール水位 <sup>※1</sup> [m] (使用済燃料プール単独のスロッシングを考慮した場合)	11.245 (O.P.+32.625)	スロッシング発生後のプール水位 <sup>※2</sup> [m] (原子炉ウェル・BS ピットのスロッシングも考慮した場合)	11.255 (O.P.+32.635)	プール冷却に必要な水位 <sup>※3</sup> [m]	11.515 (O.P.+32.895)	遮蔽に必要な水位 <sup>※4</sup> [m]	7.958 (O.P.+29.338)	<p>8.3 使用済燃料ピット等のスロッシングに対する冷却機能・給水機能・遮蔽機能維持の確認</p> <p>(1) スロッシングによる使用済燃料ピット水位低下及び必要水位</p> <p>使用済燃料ピット等からのスロッシングによる溢水量 (ピーク値) が、使用済燃料ピット低水位警報設定値 (L.W.L.) からピット外に流出した際の使用済燃料ピット水位及びピット冷却並びに遮蔽に必要な水位を表8-6に示す。使用済燃料ピット単独でのスロッシング影響を考慮した場合の方が、使用済燃料ピット水位がより低下するため、以下では使用済燃料ピット単独のスロッシングによる影響を評価した。</p> <p>追而【地震津波側審査の反映】</p> <p>下表の[破線部分]については基準地震動確定後の評価結果により必要に応じて見直しを行う。</p> <p>表8-6 スロッシング発生後の使用済燃料ピット水位及び必要水位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期ピット水位 T.P. [m] <sup>※1</sup></th><th>32.58</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スロッシング発生後のピット水位 T.P. [m]</td><td>32.36</td></tr> <tr> <td>ピット冷却に必要な水位<sup>※2</sup> T.P. [m]</td><td>31.62</td></tr> <tr> <td>遮蔽に必要な水位<sup>※3</sup> T.P. [m]</td><td>29.74</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 使用済燃料ピット低水位警報設定値 (L.W.L.)      ※2 使用済燃料ピットの冷却機能 (保安規定で定められた水温 65°C) の維持に必要な水位 (使用済燃料ピットポンプ吸込側のピット接続配管の上端レベル)      ※3 使用済燃料の放射線に対する遮蔽機能 (水面の設計基準線量率 <math>\leq 0.01\text{mSv/h}</math>) に必要な水位</p>	初期ピット水位 T.P. [m] <sup>※1</sup>	32.58	スロッシング発生後のピット水位 T.P. [m]	32.36	ピット冷却に必要な水位 <sup>※2</sup> T.P. [m]	31.62	遮蔽に必要な水位 <sup>※3</sup> T.P. [m]	29.74	<p>【大飯】 記載表現の相違 【女川】 設備名称の相違 【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 【女川】 設計方針の相違 ・泊は使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水量は、ピットからの溢水量が最大となるピーク値を用いることにより保守的な評価としている。(大飯と同様)      ・また、解析の初期条件としては使用済燃料ピットの高水位レベルとして評価を行っているが、スロッシング発生後のピット水位の評価では、保守的に低水位警報レベルから水位低下するものとして評価を実施している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯・女川】 設計方針の相違 ・評価結果の相違による。      • プラント設計の相違による。</p> <p>【大飯】 記載箇所の相違 女川審査実績の反映 ・泊では使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能の維持に必要な防護対象設備が没水により機能喪失しないことの確認結果を添付資料24「地震起因による没水影響評価結果」に記載している。</p>
方向	地盤後のピット水位 [m]	冷却機能の維持に必要な水位 <sup>※1</sup> [m]	評価結果																																																			
基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向 (E.L. +32.91)	11.76 <sup>※2</sup> (E.L. +32.14)	10.99	○																																																			
対象機器	設置場所	溢水水位 [m]	機能喪失高さ [m]	評価結果																																																		
使用済燃料ピットポンプ	原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m	3号炉 0.154 4号炉 0.170	3号炉 0.71 4号炉 0.72	○																																																		
使用済燃料ピットポンプ現場操作盤	原子炉周辺建屋 E.L. +10.0m	3号炉 0.154 4号炉 0.170	3号炉 1.20 4号炉 1.20	○																																																		
燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m	3号炉 0.096 4号炉 0.095	3号炉 0.47 4号炉 0.47	○																																																		
燃料取替用水ポンプ現場操作箱	原子炉周辺建屋 E.L. +17.1m	3号炉 0.096 4号炉 0.095	3号炉 1.20 4号炉 1.20	○																																																		
初期プール水位 [m]	11.515 (O.P.+32.895)																																																					
スロッシング発生後のプール水位 <sup>※1</sup> [m] (使用済燃料プール単独のスロッシングを考慮した場合)	11.245 (O.P.+32.625)																																																					
スロッシング発生後のプール水位 <sup>※2</sup> [m] (原子炉ウェル・BS ピットのスロッシングも考慮した場合)	11.255 (O.P.+32.635)																																																					
プール冷却に必要な水位 <sup>※3</sup> [m]	11.515 (O.P.+32.895)																																																					
遮蔽に必要な水位 <sup>※4</sup> [m]	7.958 (O.P.+29.338)																																																					
初期ピット水位 T.P. [m] <sup>※1</sup>	32.58																																																					
スロッシング発生後のピット水位 T.P. [m]	32.36																																																					
ピット冷却に必要な水位 <sup>※2</sup> T.P. [m]	31.62																																																					
遮蔽に必要な水位 <sup>※3</sup> T.P. [m]	29.74																																																					

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
	<p>(2) プール冷却に必要な水位の確保について</p> <p>地震起因による溢水影響評価において、残留熱除去系による使用済燃料プールへの冷却機能・給水機能が維持されることを確認しているが、表8-6より、地震後の使用済燃料プール水位が一時的にオーバーフロー水位を下回るため、使用済燃料プール水の温度上昇に対する時間余裕と、系統切替操作にかかる時間を評価し、使用済燃料プール水温が保安規定で定める水温(65°C)を上回らないことを、以下のとおり確認した。</p> <p>使用済燃料プール水の温度上昇に対する時間余裕については、有効性評価で想定している、原子炉停止後に最短時間(原子炉停止後10日)で取り出された全炉心分の燃料と、過去に取り出された貯蔵燃料が、使用済燃料貯蔵ラックに最大数保管されていることを想定し、また地震に伴うスロッシングによる溢水量41(m<sup>3</sup>)を使用済燃料プールの初期保有水量から差し引いた状態にて算出した。使用済燃料プール水温度が65°Cに到達するまでの時間余裕を表8-7にまとめる。なお、初期水温は40°Cと想定した。また、残留熱除去系による使用済燃料プールへの給水に要する時間を表8-8示す。</p> <p>以上により、使用済燃料プール水温度上昇に対する時間余裕の中で、残留熱除去系によるプールへの給水が完了し、またプール冷却機能も維持されていることから、使用済燃料プール水温が保安規定で定める水温(65°C)を上回ることはない。</p> <p>表8-7 使用済燃料プール水温度と時間余裕</p> <table border="1"> <tr> <td>使用済燃料プール水</td><td>65°C到達時間(h)</td><td>100°C到達時間(h) (参考)</td></tr> <tr> <td></td><td>5</td><td>13</td></tr> </table> <p>表8-8 残留熱除去系による使用済燃料プールへの給水に要する時間</p> <table border="1"> <tr> <td>現場所要時間 (漏えい箇所の特定、系統切替操作)</td><td>50(分)<sup>*1</sup></td></tr> <tr> <td>給水流量</td><td>300 (m<sup>3</sup>/h) <sup>*2</sup></td></tr> <tr> <td>給水完了時間</td><td>2時間<sup>*3</sup></td></tr> </table> <p>*1 残留熱除去系への系統切替手順は運転手順書にて定められている。また現場所要時間(漏えい箇所の特定、系統切替操作)が50分程度であること及び系統切替操作時の運転員によるアクセス性について問題ないことを確認している(補足説明資料10参照)。</p> <p>*2 運転手順書にて定める、残留熱除去系ポンプ1台の運転時流量</p> <p>*3 現場所要時間(漏えい箇所の特定、系統切替操作)及び給水時間に余裕を考慮し設定</p>	使用済燃料プール水	65°C到達時間(h)	100°C到達時間(h) (参考)		5	13	現場所要時間 (漏えい箇所の特定、系統切替操作)	50(分) <sup>*1</sup>	給水流量	300 (m <sup>3</sup> /h) <sup>*2</sup>	給水完了時間	2時間 <sup>*3</sup>	<p>(2) ビット冷却に必要な水位の確保について</p> <p>表8-6より、使用済燃料ビットの冷却に必要な水位が確保されていることを確認した。</p>	<p>【女川】 設備名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川は使用済燃料プールのスロッシング後、燃料プールの水位が一時的にオーバーフロー水位を下回るため、燃料プール冷却ポンプが停止し、使用済燃料プール冷却機能が喪失する。そのため、系統切替操作によるプールへの給水が必要であることから、スロッシング後の使用済燃料プール冷却・給水に係る手順を定めている。</li> <li>泊では、使用済燃料ビットのスロッシング後においても使用済燃料ビットの冷却・給水機能が喪失することはないため、女川のようなビットの冷却・給水機能を維持するための運用手順は不要である。</li> </ul>
使用済燃料プール水	65°C到達時間(h)	100°C到達時間(h) (参考)													
	5	13													
現場所要時間 (漏えい箇所の特定、系統切替操作)	50(分) <sup>*1</sup>														
給水流量	300 (m <sup>3</sup> /h) <sup>*2</sup>														
給水完了時間	2時間 <sup>*3</sup>														

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

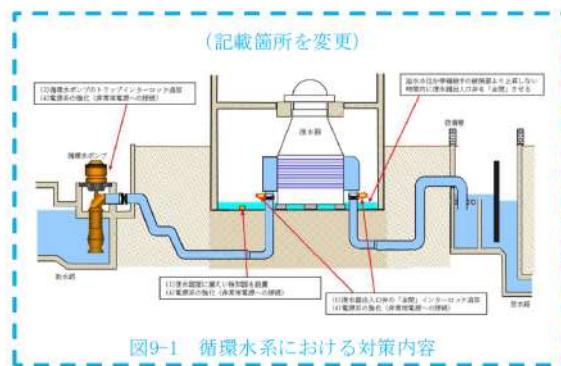
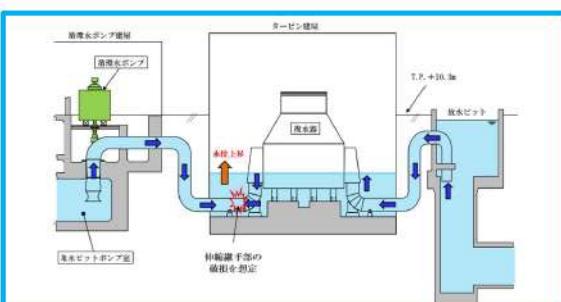
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
<p>使用済燃料ピットの最大到達溢水時の溢水量が、使用済燃料ピット低水位警報設定値 (L.W.L) からピット外に流出したと仮定した場合の使用済燃料ピット水位を求め、使用済燃料からの放射線に対する遮蔽に必要な水位が確保されていることを確認した結果を表2.4.5-3に示す。</p> <p>表 2.4.5-3 溢水時における使用済燃料からの放射線に対する遮蔽機能の確認結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th><th>地震後の ピット水位 [m]</th><th>遮蔽に 必要な水位<sup>※1</sup> [m]</th><th>評価 結果</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向</td><td>11.76<sup>※2</sup> (E.L. + 32.91)</td><td>9.24 (E.L. + 30.39)</td><td>○</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 使用済燃料ピットの水面の設計基準値 (<math>\leq 0.02\text{mSv/h}</math>) を満足するために必要な水位</p> <p>※2 ピット水位 (EW 方向、UD 方向) = 11.76m  <math>= 11.91\text{m}(\text{初期ピット水位}) - 41.12\text{m}^3(\text{溢水量}) / 290.08\text{m}^2(\text{ピットの面積})</math></p> <p>(添付資料2) 使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水影響評価</p>	方向	地震後の ピット水位 [m]	遮蔽に 必要な水位 <sup>※1</sup> [m]	評価 結果	基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向	11.76 <sup>※2</sup> (E.L. + 32.91)	9.24 (E.L. + 30.39)	○	<p>(3) 遮蔽に必要な水位の確保について          表8-6より、<b>使用済燃料プール</b>の遮蔽に必要な水位が確保されていることを確認した。</p>	<p>(3) 遮蔽に必要な水位の確保について          表8-6より、<b>使用済燃料ピット</b>の遮蔽に必要な水位が確保されていることを確認した。</p>	<p>【女川】  <u>設備名称の相違</u></p> <p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u>          女川審査実績の反映</p> <p>【大飯】  <u>記載箇所の相違</u>          女川審査実績の反映          ・泊では表8-6で遮蔽に必要な水位の確認結果を記載している。</p>
方向	地震後の ピット水位 [m]	遮蔽に 必要な水位 <sup>※1</sup> [m]	評価 結果								
基準地震動 Ss EW 方向、UD 方向	11.76 <sup>※2</sup> (E.L. + 32.91)	9.24 (E.L. + 30.39)	○								
<p>5. 防護対象設備が設置されている建屋の外からの溢水影響評価</p> <p>タービン建屋 (循環水管、津波)、屋外タンク及び湧水 (原子炉周辺建屋) からの溢水が、防護対象設備の設置されている建屋 (原子炉周辺建屋及び制御建屋) に及ぼす影響を確認した。</p>			<p>【大飯】  <u>記載方針の相違</u>          女川審査実績の反映</p>								

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
5.1 タービン建屋からの溢水影響評価 5.1.1 タービン建屋の溢水源と溢水量 循環水管の伸縮継手部及び2次系機器を溢水源とする。 循環水管の伸縮継手部からの溢水については、伸縮継手部の全円周状の破損を考慮する。算出した溢水流量は以下のとおり。	9. タービン建屋からの溢水影響評価 9. 1 評価条件 溢水源となりうる機器が存在するタービン建屋において、想定する機器の破損等により生じる溢水、消火水の放水により生じる溢水、地震による機器の破損によって生じる溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している原子炉建屋及び制御建屋に伝播するか否かについての溢水影響評価を行った。なお、タービン建屋における単一機器の破損により生じる溢水量及び消火水の放水により生じる溢水量は、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量に包含されることから、ここでは、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量について評価を行った。また、タービン建屋管理区域内に循環水系配管が設置されていることを考慮し、タービン建屋における事象進展を以下のとおり想定した。 (1) 地震により循環水系配管の伸縮継手部及び耐震B, Cクラス機器が破損し、溢水が発生する。 (2) 耐震B, Cクラス機器の破損による溢水は瞬時に滞留し、循環水系配管の伸縮継手部からの溢水は循環水ポンプ停止まで継続する。 (3) 地震に随伴し、津波が来襲することを考慮する。	9. タービン建屋からの溢水影響評価 9. 1 評価条件 溢水源となりうる機器が存在するタービン建屋において、想定する機器の破損等により生じる溢水、消火水の放水により生じる溢水、地震による機器の破損によって生じる溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している原子炉建屋及び制御建屋に伝播するか否かについての溢水影響評価を行った。なお、タービン建屋における単一機器の破損により生じる溢水量及び消火水の放水により生じる溢水量は、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量に包含されることから、ここでは、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量について評価を行った。また、タービン建屋内に循環水管が設置されていることを考慮し、タービン建屋における事象進展は以下のとおり想定した。 (1) 地震により循環水管の伸縮継手部及び耐震Cクラス機器が破損し、溢水が発生する。 (2) 耐震Cクラス機器の破損による溢水は瞬時に滞留し、循環水管の伸縮継手部からの溢水は循環水ポンプ停止まで継続する。 (3) 地震に随伴し、津波が来襲することを考慮する。	【大飯】 記載表現の相違 【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 ・タービン建屋における溢水評価方針は大飯と同様であり、大飯が記載している溢水量算出等の詳細については、補足説明資料35「タービン建屋からの溢水影響評価に用いる溢水量について」に記載している。 【女川】 建屋名称の相違 設備名称の相違 【女川】 設計方針の相違 泊のタービン建屋には管理区域は設置されていない。 設計方針の相違 泊のタービン建屋内にある機器・配管はすべてCクラス機器である。 【女川】 記載箇所・記載方針の相違 女川は後段の「(2) 循環水系における対策内容」に循環水系に自動隔離するためのインターロックの説明として本図を掲載しているが、泊は同様の対策は無いため、タービン建屋における循環水管からの溢水概念図として本図を掲載している。								
表5.1.1-1 循環水管の伸縮継手部の溢水量 <table border="1"><thead><tr><th>内径(mm)D</th><th>継手幅(mm)w</th><th>溢水量(m³/h)Q/ユニット</th></tr></thead><tbody><tr><td>4,200</td><td>150</td><td>102,112</td></tr></tbody></table>	内径(mm)D	継手幅(mm)w	溢水量(m³/h)Q/ユニット	4,200	150	102,112					
内径(mm)D	継手幅(mm)w	溢水量(m³/h)Q/ユニット									
4,200	150	102,112									
循環水ポンプ停止までの時間については、地震発生からポンプ停止までの時間を考慮する。想定した時間は以下のとおり。なお、中央制御室における遠隔停止機能が喪失した場合も考慮し、現地停止操作等の時間を②、③に含めている。											
表5.1.1-2 循環水ポンプ停止までの時間 <table border="1"><tbody><tr><td>①地震発生事象確認</td><td>10分</td></tr><tr><td>②地震発生による異常の認知時間</td><td>10分</td></tr><tr><td>③循環水ポンプ停止</td><td>6分</td></tr><tr><td>合計</td><td>26分</td></tr></tbody></table>	①地震発生事象確認	10分	②地震発生による異常の認知時間	10分	③循環水ポンプ停止	6分	合計	26分			
①地震発生事象確認	10分										
②地震発生による異常の認知時間	10分										
③循環水ポンプ停止	6分										
合計	26分										
算出した溢水流量及び想定したポンプ停止までの時間から溢水量を算出した結果は以下のとおり。 (溢水量) × (離隔までの時間) = (溢水量) 102,112(m³/h) × 26/60(h) = 約44,300(m³)											
表5.1.1-3 循環水管の伸縮継手部の溢水量 <table border="1"><thead><tr><th></th><th>溢水量(m³)</th></tr></thead><tbody><tr><td>地震による破損</td><td>約 44,300 × 2 ユニット = 約 88,600</td></tr></tbody></table>		溢水量(m³)	地震による破損	約 44,300 × 2 ユニット = 約 88,600							
	溢水量(m³)										
地震による破損	約 44,300 × 2 ユニット = 約 88,600										
2次系機器の保有水量を算出した主な機器は以下のとおり。 容器：復水器、主油タンク、低圧給水加熱器、高圧給水加熱器 脱気器タンク、タービン建屋周辺タンク等 配管：給水管、復水管、海水管、飲料水配管、消防水配管等	 図9-1 循環水系における対策内容	 図9-1 タービン建屋の溢水概念図									

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
表5.1.1-4 2次系機器の保有水量			
保有水量	保有水量合計(m <sup>3</sup> )※3		
配管(m <sup>3</sup> )※1	容器(m <sup>3</sup> )※2		
約3,260	約8,380	約11,700m <sup>3</sup>	
※1 配管: 約1,630m <sup>3</sup> ×2ユニット=3,260m <sup>3</sup>			
※2 容器: タービン建屋内機器+タービン建屋周辺タンク =タービン建屋内機器 (約2,940m <sup>3</sup> ×2ユニット) +タービン建屋周辺タンク (約2,500m <sup>3</sup> ) =約5,880m <sup>3</sup> +約2,500m <sup>3</sup> =約8,380m <sup>3</sup>			
※3 保有水量合計: 3,260m <sup>3</sup> +8,380m <sup>3</sup> <11,700m <sup>3</sup>			
	9. 2 評価に用いる各項目の算出 9. 2. 1 タービン建屋における溢水源 配管計装線図 (P&ID) を用いて、タービン建屋内に存在する溢水源となる系統を抽出した。抽出結果を添付資料13に示す。	9. 2 評価に用いる各項目の算出 9. 2. 1 タービン建屋における溢水源 系統図及び機器配置図を用いて、タービン建屋内に存在する溢水源となる系統を抽出した。抽出結果を添付資料12に示す。	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 ・タービン建屋における溢水評価方針は大飯と同様であり、大飯が記載している溢水量算出等の詳細については、補足説明資料35「タービン建屋からの溢水影響評価に用いる溢水量について」に記載している。
	9. 2. 2 タービン建屋における溢水量 以下のとおり、管理区域エリア、非管理区域エリア各々について地震に起因する機器の破損に伴う溢水量を算出した。算出結果を添付資料17に示す。 (1) 管理区域エリア 管理区域エリアにおいて、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量は、以下の条件に基づき算出した。その結果、各系統の溢水量の合計は、6,843m <sup>3</sup> となった。 a. 手動隔離は期待しない。 b. 系統保有水量には配管保有水量に加えて、機器の内容積も考慮する。 c. 給水系の溢水量算出は、①配管破断⇒②原子炉水位低(L2) ⇒③主蒸気隔離弁「閉」⇒④復水器ホットウェル水位低下⇒⑤低圧復水ポンプトリップ⇒⑥高圧復水ポンプトリップ⇒⑦原子炉給水ポンプトリップとし、③から⑦までの漏えい量は復水器ホットウェル水位の変化量 (NWL～LLWL) とした。また、①から③までの漏えい時間は60秒と想定した。 d. ヒータードレン系については地震スクラム⇒主蒸気隔離弁「閉」⇒タービントリップ⇒ドレン発生停止とした。 e. 循環水系については、今回追加設置するインターロックによる自動隔離を考慮し、復水器入口の伸縮継手部の全周破損に伴う漏えい開始20秒後に復水器室にて漏えいを検知し、循環水ポンプトリップ⇒漏えい検知の30秒後に循環水ポンプ吐き出し停止となり漏えいが止まるものとして算定した。	9. 2. 2 タービン建屋における溢水量 以下のとおり、タービン建屋における地震に起因する機器の破損に伴う溢水量を算出した。算出結果を添付資料16に示す。 地震に起因する機器の破損に伴う溢水量は、以下の条件下に基づき算出した。その結果、各系統の溢水量の合計は、28,370m <sup>3</sup> となった。 a. 系統保有水量には配管保有水量に加えて、機器の内容積も考慮する。	【女川】 記載表現の相違 記載表現の相違 【女川】 設計方針の相違 ・評価結果の相違。 ・泊のタービン建屋には管理区域は設置されていない。 ・泊ではタービン建屋における循環水管からの漏えいに対して運転員による手動隔離操作に期待している。 ・泊のタービン建屋内の耐震Cクラス機器のうち、隔離による漏えい停止に期待している系統は循環水系のみであることから、女川の給水系及びヒータードレン系に対応する系統はない。 ・女川は循環水系からの溢水に対して、インターロックによる自動隔離を考慮して溢水量を算出している。 ・一方泊では、運転員による手動操作による漏えい停止を実施することから、漏えい検知から隔離操作完了までの時間を保守的に設定している。(大飯と同様、大飯との比較結果は補足説明資料35にて説明する)
次に循環水ポンプ停止から津波襲来前までの溢水量を考慮する。朔望平均満潮位及び潮位のばらつきを考慮した水位 (E.L.+0.49m) とタービン建屋内の溢水水位 (E.L.+8.4m) を比較した結果、タービン建屋内の溢水水位の方が高いことから、この期間の外部からの流入はない。		b. 循環水管については、地震発生からポンプ停止までの時間を考慮し、循環水ポンプ出口の伸縮継手部の全周破損に伴う漏えい開始から46分後に循環水ポンプ吐き出し停止となり漏えいが止まるものとして算定した。	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

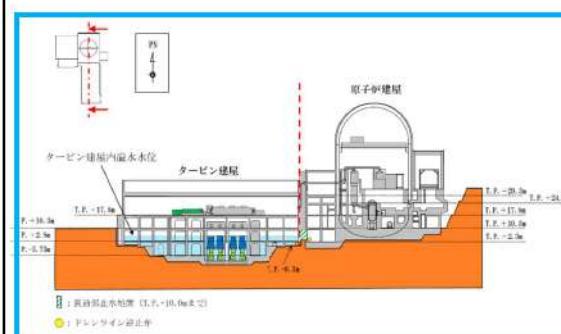
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>さらに津波襲来時の溢水量を考慮する。</p> <p>津波襲来時の取水側水位 (E.L. + 6.9m: 「津波に対する施設評価」による) 及び放水ピット水位 (E.L. + 8.3m: 「津波に対する施設評価」による) とタービン建屋内の溢水水位 (E.L. + 8.4m) を比較した結果、タービン建屋内の溢水水位の方が高いことから、この期間の外部からの流入はない。</p> <p>なお、敷地高さはE.L. + 9.7mであり、津波襲来による敷地への流入はない。</p> <p>5.1.2 タービン建屋の想定破損による溢水影響評価 5.1.2.1 タービン建屋の想定破損による溢水影響評価のうち没水影響評価</p> <p>想定破損は単一機器の破損を想定するが、地震による没水影響評価では全機器の破損を想定した溢水量で実施するため、地震による没水影響評価で包絡される。</p>	<p>なお、津波による影響に関しては、津波襲来前に復水器水室出入口弁を全閉することにより、津波がタービン建屋内に浸入しないため、影響はない。</p> <p>(2) 非管理区域エリア</p> <p>非管理区域エリアにおいて、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量は、以下の条件に基づき算出した。その結果、各系統の溢水量の合計は、824m<sup>3</sup>となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 手動隔離は期待しない。</li> <li>b. 系統保有水量には配管保有水量に加えて、機器の内容積も考慮する。</li> <li>c. タービン補機冷却海水系については、今回追加設置するインターロックによる自動隔離を考慮し、配管破損に伴う漏えい開始30秒後にタービン補機冷却海水系熱交換器・ポンプ室にて漏えいを検知し、タービン補機冷却海水ポンプトリップ⇒漏えい検知の30秒後にタービン補機冷却海水ポンプ吐き出し停止となり漏えいが止まるものとして算定した。なお、津波による影響に関しては、津波襲来前にタービン補機冷却海水ポンプ吐出弁を全閉することにより、津波がタービン建屋内に浸入しないため、影響はない。</li> </ul> <p>9. 2. 3 タービン建屋における溢水経路</p> <p>タービン建屋における、地震に起因する機器の破損に伴い発生した溢水は、階段室、床ハッチ、開口部等を経由し、最終的には最地下階に貯留される。タービン建屋における溢水経路図を添付資料30に示す。</p>	<p>追而【地震津波側審査の反映】</p> <p>タービン建屋からの溢水評価については、循環水管の伸縮継手破損部からの津波流入を考慮していることから、以下の [破線部分] は基準津波確定後の評価結果を反映する。</p> <p>さらに津波襲来時の溢水量を考慮する。</p> <p>津波襲来時の取水側水位 (T.P. [ ] m) 及び放水ピット水位 (T.P. [ ] m) とタービン建屋内の溢水水位 (T.P. 5.7m) を比較した結果、タービン建屋内への津波流入量は [11,870] m<sup>3</sup> となった。</p> <p>9. 2. 3 タービン建屋における溢水経路</p> <p>タービン建屋における、地震に起因する機器の破損に伴い発生した溢水は、階段室、グレーチングが設置された開口部等を経由し、最終的には最地下階に貯留される。タービン建屋における溢水経路を添付資料 26 に示す。</p>	<p>【女川・大飯】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川は津波來襲前に復水器水室出入口弁を全閉するため津波は流入しない。</li> <li>大飯はタービン建屋内溢水水位が取水・放水ピット水位よりも高いため、津波は流入しない。</li> <li>一方泊は、取水・放水ピット水位がタービン建屋内の溢水水位よりも高いことから、津波の流入を考慮している。</li> </ul> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>泊のタービン建屋には管理区域は設置されていないため、管理区域エリアと非管理区域エリアに分けた記載はしていない。</p> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>タービン建屋の床面はグレーチング構造となっている箇所が多数あり、溢水はグレーチング開口を経由し最地下階に滞留するため、当該記載をしている。</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																													
5.1.3 タービン建屋の放水による溢水影響評価 5.1.3.1 タービン建屋の放水による溢水影響評価のうち没水影響評価  地震による没水影響評価では全機器の破損を想定した溢水量で実施するため、地震による没水影響評価で包絡される。	9. 3 評価結果 9. 3. 1 タービン建屋からの溢水影響評価結果  (1) 管理区域エリア  管理区域エリアにおける没水水位は、最地下階（復水器室、共通エリア）で2.2mとなり、溢水経路上にある、原子炉建屋付属棟及び制御建屋との境界（貫通部等）に対しては、タービン建屋における没水水位との関係を考慮した。溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、タービン建屋からの溢水による影響がないことを確認した。  表9-1に管理区域エリアにおける評価結果を示す。	9. 3 評価結果 9. 3. 1 タービン建屋からの溢水影響評価結果  タービン建屋における没水水位は、T.P. 8.3mとなり、溢水経路上にある、原子炉建屋との境界（貫通部等）に対しては溢水防護措置（ドレンライン逆止弁の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、タービン建屋からの溢水による影響がないことを確認した。	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映により、泊はタービン建屋の溢水影響評価結果を補足説明資料35に記載している。  【女川】 設計方針の相違 ・ 泊のタービン建屋には管理区域は設置されていない。 ・ 評価結果の相違による。 ・ 対策設備の相違による。  【女川】 建屋名称の相違  【女川】 記載方針の相違 ・ 泊のタービン建屋には管理区域は設置されてないため、管理区域エリアと非管理区域エリアに分けた記載はしていない。 ・ 泊は防護対象設備が設置される原子炉建屋との境界を明示するため、タービン建屋の断面図を図9-2に示している。																													
5.1.4 タービン建屋の地震による溢水影響評価 5.1.4.1 タービン建屋の地震による溢水影響評価のうち没水影響評価  溢水を保有するためのタービン建屋の空間容積は、E.L. +9.7m（タービン建屋からの流出高さ）以下のタービン建屋体積から、欠損部体積を差し引き算出する。具体的には、タービン建屋体積は、柱スパン寸法から算出し、欠損部体積は、建屋構築物の体積、機器及び配管とし、複雑な形状のものは、保守的に最大寸法から体積を算出した。 欠損部体積を算出した主な設備は以下のとおり。 建屋構造物：柱基礎、壁、復水器基礎、タービン架台脚部、循環水管基礎等 機器：ポンプ、タンク、盤等 配管：循環水管、復水管等	表9-1 管理区域エリアにおける評価結果（没水）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画</th> <th>溢水量 (m³)</th> <th>滞留面積 (m²)</th> <th>没水水位 (m)</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>基準床レベル ①</th> <th>②</th> <th>① / ②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>復水器室</td> <td>0.P. +0.8m</td> <td>6,003<sup>①</sup></td> <td>2,761.9</td> </tr> <tr> <td>共通エリア</td> <td></td> <td></td> <td>2.2<sup>②</sup></td> </tr> </tbody> </table> ※1 復水器廻りの廊道部の容積、840m³を考慮した値 ※2 床面のコンクリート増し打ち分の最大値、55mmを考慮した値	区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)	名称	基準床レベル ①	②	① / ②	復水器室	0.P. +0.8m	6,003 <sup>①</sup>	2,761.9	共通エリア			2.2 <sup>②</sup>	表9-1 タービン建屋における評価結果（没水）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>フロア</th> <th>溢水量 (m³)</th> <th>空間容積 (m³)</th> <th>溢水水位 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B1F (T.P. 2.8m)</td> <td>52,860</td> <td>61,500</td> <td>T.P. 8.3m</td> </tr> <tr> <td>B2F (T.P. -1.7m)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	フロア	溢水量 (m³)	空間容積 (m³)	溢水水位 (m)	B1F (T.P. 2.8m)	52,860	61,500	T.P. 8.3m	B2F (T.P. -1.7m)				表9-1にタービン建屋における評価結果を示す。また、タービン建屋断面図を図9-2に示す。	表9-1にタービン建屋における評価結果を示す。また、タービン建屋断面図を図9-2に示す。
区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)																													
名称	基準床レベル ①	②	① / ②																													
復水器室	0.P. +0.8m	6,003 <sup>①</sup>	2,761.9																													
共通エリア			2.2 <sup>②</sup>																													
フロア	溢水量 (m³)	空間容積 (m³)	溢水水位 (m)																													
B1F (T.P. 2.8m)	52,860	61,500	T.P. 8.3m																													
B2F (T.P. -1.7m)																																
表5.1.1.4-1 タービン建屋内の溢水を保有可能な空間容積  <table border="1"> <thead> <tr> <th>ユニット</th> <th>地下体積(m³)</th> <th>欠損部体積(m³)</th> <th>空間容積(m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3号炉</td> <td>約 109,200</td> <td>約 43,000</td> <td>約 66,200</td> </tr> <tr> <td>4号炉</td> <td>約 76,800</td> <td>約 25,500</td> <td>約 51,300</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計約117,500m³</td><td></td></tr> </tbody> </table> 2次系機器の破損による溢水量と循環水管の伸縮緩手部からの溢水量を加算した場合においても、タービン建屋内の溢水を保有可能な空間容積より小さいことから、タービン建屋内に貯水可能であり、建屋外へ流出することがないことを確認した。  100,300m³ < 117,500m³ (溢水量) (タービン建屋内の溢水を保有可能な空間容積)  (添付資料5.1) タービン建屋からの溢水影響評価	ユニット	地下体積(m³)	欠損部体積(m³)	空間容積(m³)	3号炉	約 109,200	約 43,000	約 66,200	4号炉	約 76,800	約 25,500	約 51,300	合計約117,500m³				(2) 非管理区域エリア  非管理区域エリアにおける没水水位は、最地下階（タービン補機冷却水系熱交換室・ポンプ室）で2.1mとなり、溢水経路上にある、制御建屋との境界（貫通部等）に対しては、非管理区域エリアにおける没水水位との関係を考慮した。溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、非管理区域からの溢水による影響がないことを確認した。  表9-2に非管理区域エリアにおける評価結果を示す。	表9-2 非管理区域エリアにおける評価結果（没水）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画</th> <th>溢水量 (m³)</th> <th>滞留面積 (m²)</th> <th>没水水位 (m)</th> </tr> <tr> <th>名称</th> <th>基準床レベル ①</th> <th>②</th> <th>① / ②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タービン補機冷却水系熱交換室・ポンプ室</td> <td>0.P. -0.2m</td> <td>824</td> <td>410.9</td> </tr> </tbody> </table>	区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)	名称	基準床レベル ①	②	① / ②	タービン補機冷却水系熱交換室・ポンプ室	0.P. -0.2m	824	410.9	表9-2に非管理区域エリアにおける評価結果を示す。  図9-2 タービン建屋断面図   図9-2はタービン建屋の断面図です。左側はタービン建屋内、右側は原子炉建屋内です。各階の水位はT.P. 10.3m、T.P. 2.5m、T.P. 0.5m、T.P. -0.3mと示されています。水密扉の位置はT.P. -10.0mまでとあります。排水栓（ドレンライン逆止弁）の位置はT.P. -24.3mと示されています。	
ユニット	地下体積(m³)	欠損部体積(m³)	空間容積(m³)																													
3号炉	約 109,200	約 43,000	約 66,200																													
4号炉	約 76,800	約 25,500	約 51,300																													
合計約117,500m³																																
区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)																													
名称	基準床レベル ①	②	① / ②																													
タービン補機冷却水系熱交換室・ポンプ室	0.P. -0.2m	824	410.9																													

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																							
<p>9. 3. 2 タービン建屋からの溢水影響を防止する対策内容          (1) タービン建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備          タービン建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備について表9-3に整理する。</p> <p>表9-3 タービン建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>設置レベル</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉建屋</td><td rowspan="2">1F</td><td>T/B 連絡通路扉(東側)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>T/B 連絡通路扉(西側)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">制御建屋</td><td>1F</td><td>T/B 連絡通路扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>B1F</td><td>T/B 連絡通路扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>B2F</td><td>T/B 連絡通路扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="6">タービン建屋</td><td rowspan="4">1F</td><td>大物搬入用</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>大物搬入用横扉</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>共通エリア【東側】(No.1)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>共通エリア【東側】(No.2)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>B1F</td><td>T/B B1F エリア</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr><td>B2F</td><td>T/B B2F エリア</td><td>止水壁</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) 循環水系における対策内容</p> <p>循環水系における対策内容を図9-1に示す。なお、今回追加するインターロックは、誤動作を防止するために、地震スクラム信号と復水器室漏えい検知信号のand条件を設定することから、本インターロック動作時には、既にスクラムしており、安全解析への影響はないが、仮に誤動作した場合を想定し、以下のとおり検討を行った。</p> <p>本インターロックが誤動作した場合には、復水器の真空度が低下して、タービントリップのインターロックが作動し、一時的にタービンバイパス弁は作動するものの短時間で閉止する。この状況は「負荷の喪失（発電機負荷遮断、タービンバイパス弁不作動）」の解析結果に包絡する（原子炉圧力の上昇が緩慢であることから厳しい結果にはならない）ことから、安全解析への影響はない。</p> <p>(記載箇所を変更)</p> <p>図9-1 循環水系における対策内容</p>	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	原子炉建屋	1F	T/B 連絡通路扉(東側)	水密扉	新設	1	T/B 連絡通路扉(西側)	水密扉	新設	1	制御建屋	1F	T/B 連絡通路扉	水密扉	新設	1	B1F	T/B 連絡通路扉	水密扉	新設	1	B2F	T/B 連絡通路扉	水密扉	新設	1	タービン建屋	1F	大物搬入用	堰	新設	1	大物搬入用横扉	堰	新設	1	共通エリア【東側】(No.1)	堰	新設	1	共通エリア【東側】(No.2)	堰	新設	1	B1F	T/B B1F エリア	堰	新設	1	B2F	T/B B2F エリア	止水壁	既設 (改造)	1	<p>9. 3. 2 タービン建屋からの溢水影響を防止する対策内容          (1) タービン建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備          タービン建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備について表9-2に整理する。</p> <p>表9-2 タービン建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>設置レベル</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td><td>T.P. 2.3m</td><td>ドレンライン逆止弁</td><td>逆止弁</td><td>新設</td><td>4</td></tr> </tbody> </table>	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	原子炉建屋	T.P. 2.3m	ドレンライン逆止弁	逆止弁	新設	4	<p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違 対策設備の相違による。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊では、循環水管からの溢水に対しては、運転員による手動操作により漏えい停止を実施することから、女川のような循環水系における対策内容の記載はしていない。 (大飯と同様)</p> <p>【女川】 記載箇所・記載方針の相違 ・女川は「(2) 循環水系における対策内容」に循環水系を自動隔離するためのインターロックの説明として本図を掲載しているが、泊は同様の対策は無いため、前段の「9.1 評価条件」タービン建屋における循環水管からの溢水概念図として本図を掲載している。 ・女川の図9-1は泊との横並びのため移動した。</p>
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																																																					
原子炉建屋	1F	T/B 連絡通路扉(東側)	水密扉	新設	1																																																																					
		T/B 連絡通路扉(西側)	水密扉	新設	1																																																																					
制御建屋	1F	T/B 連絡通路扉	水密扉	新設	1																																																																					
	B1F	T/B 連絡通路扉	水密扉	新設	1																																																																					
	B2F	T/B 連絡通路扉	水密扉	新設	1																																																																					
タービン建屋	1F	大物搬入用	堰	新設	1																																																																					
		大物搬入用横扉	堰	新設	1																																																																					
		共通エリア【東側】(No.1)	堰	新設	1																																																																					
		共通エリア【東側】(No.2)	堰	新設	1																																																																					
	B1F	T/B B1F エリア	堰	新設	1																																																																					
	B2F	T/B B2F エリア	止水壁	既設 (改造)	1																																																																					
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																																																					
原子炉建屋	T.P. 2.3m	ドレンライン逆止弁	逆止弁	新設	4																																																																					

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<b>3 廃棄物処理建屋の溢水影響評価</b>		<b>10 電気建屋からの溢水影響評価</b>	<b>【大飯】</b>
<b>3.1 評価目的</b>	<b>(1)はじめに</b>  溢水源となりうる機器が存在する <b>原子炉建屋付属棟(廃棄物処理エリア(管理区域))</b> において、想定する機器の破損等により生じる溢水、消火水の放水により生じる溢水、地震による機器の破損によって生じる溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している <b>原子炉建屋</b> 及び <b>原子炉補助建屋</b> に伝播するか否かについての溢水影響評価を行う。  なお、 <b>原子炉建屋付属棟(廃棄物処理エリア(管理区域))</b> における单一機器の破損により生じる溢水量及び消火水の放水により生じる溢水量は、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量に包含されることから、ここでは、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量について評価を行う。	<b>(1)はじめに</b>  溢水源となりうる機器が存在する <b>電気建屋</b> において、想定する機器の破損等により生じる溢水、消火水の放水により生じる溢水、地震による機器の破損によって生じる溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している <b>原子炉建屋</b> 及び <b>原子炉補助建屋</b> に伝播するか否かについての溢水影響評価を行う。  なお、 <b>電気建屋</b> における单一機器の破損により生じる溢水量及び消火水の放水により生じる溢水量は、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量に包含されることから、ここでは、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量について評価を行う。	<b>記載表現の相違</b> <b>【大飯・女川】</b> <b>建屋名称の相違</b> 女川と泊で対象となる建屋は異なるが、どちらも防護対象設備が設置される建屋への伝播防止に対する評価であることから比較対象とした。 <b>【大飯】</b> <b>記載方針の相違</b> 女川審査実績の反映
<b>3.2 廃棄物処理建屋の溢水源</b>  系統図を用いて <b>廃棄物処理建屋</b> 内に存在する溢水源となる機器及び配管を抽出した。	<b>(2)原子炉建屋付属棟(廃棄物処理エリア(管理区域))における溢水源</b>  配管計装線図(P&ID)を用いて、 <b>原子炉建屋付属棟(廃棄物処理エリア(管理区域))</b> 内に存在する溢水源となる系統を抽出した。抽出結果を添付資料13に示す。	<b>(2)電気建屋における溢水源</b>  系統図及び機器配置図を用いて、 <b>電気建屋</b> 内に存在する溢水源となる系統を抽出した。抽出結果を添付資料12に示す。	<b>【大飯・女川】</b> <b>建屋名称の相違</b> <b>記載表現の相違</b>
<b>3.3 廃棄物処理建屋の想定破損による溢水影響評価</b>		<b>(3)電気建屋における溢水量</b>	<b>【大飯】</b>
<b>3.3.1 廃棄物処理建屋の想定破損による溢水影響評価のうち没水影響評価</b>  廃棄物処理建屋にある高エネルギー配管及び低エネルギー配管の想定破損による溢水を考慮した。  配管破損形状は、高エネルギー配管については完全全周破断とし、低エネルギー配管については貫通クラックとして、1系統における単一の破損を想定した。  また、系統ごとに溢水流量が最も大きくなる位置での破損を想定し溢水流量を算出するとともに、事象を検知し漏えい停止までの漏えい量を考慮して溢水量を算出した結果、消火水系の溢水量が最大であることから、貫通クラックが発生した場合について、溢水影響を評価したが、地震による没水影響評価では溢水量をE.L.+26.0mで117.7m <sup>3</sup> 、E.L.+17.5mで164.3m <sup>3</sup> として評価を実施するため、想定破損による没水影響評価は、地震による没水影響評価に包絡されることを確認した。	<b>(a)手動隔離は期待しない。</b>  <b>(b)系統保有水量には配管保有水量に加えて、機器の内容積も考慮する。</b>	<b>記載方針の相違</b> <b>女川審査実績の反映</b> ・泊の想定破損による溢水量は添付資料16「系統別溢水量算出結果」に記載している。  <b>【女川】</b> <b>設計方針の相違</b> ・評価結果の相違による。 ・泊は地震起因の溢水評価にて運転員の隔離操作による漏えい停止を考慮した評価としている。(補足説明資料14「地震時溢水評価の隔離時間の妥当性について」で説明)	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
<p>系統ごとの溢水量を表3.3.1-1に記載する。</p> <p>表 3.3.1-1 廃棄物処理建屋の想定破損による溢水量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>溢水量 (m<sup>3</sup>)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>消火水系</td><td>97.5</td></tr> <tr><td>化学体積制御系</td><td>47.3</td></tr> <tr><td>廃棄物処理系</td><td>43.7</td></tr> <tr><td>1次系補給水系</td><td>47.6</td></tr> <tr><td>1次系洗浄水系</td><td>31.3</td></tr> <tr><td>1次系温水、飲料水系</td><td>32.2</td></tr> <tr><td>補助蒸気系</td><td>51.5</td></tr> </tbody> </table> <p>3.4 廃棄物処理建屋の放水による溢水影響評価      3.4.1 廃棄物処理建屋の放水による溢水影響評価のうち没水影響評価      消火栓からの溢水量を下記のとおり算出した。          ・ <math>260/\text{min} \times 3.0\text{時間} = 46.8\text{m}^3</math>      また、スプリンクラーからの放水による溢水量を以下のとおり算出した。          ・ <math>720\text{pp}/\text{min} \times 30\text{min} = 21,600 = 21.6\text{m}^3</math>      ※ 今回、原則として火災防護に関する基本方針で示されている放水量を用いる。ただし、詳細評価を実施する場合には、現場での消防設備の設置状況に応じた評価を行う。      放水による没水影響を評価したが、地震による没水影響評価では溢水量をE.L. +26.0mで117.7m<sup>3</sup>、E.L. +17.5mで164.3m<sup>3</sup>として評価を実施するため、放水による没水影響評価は、地震による没水影響評価で包絡されることを確認した。</p> <p>3.5 廃棄物処理建屋の地震による溢水影響評価      3.5.1 廃棄物処理建屋の地震による溢水影響評価のうち没水影響評価      溢水ガイドにしたがい、流体を内包する機器（配管及び容器）を溢水源の対象とした。      廃棄物処理建屋E.L. +26.0m、E.L. +17.5m、E.L. +10.0m、E.L. +4.9mの各フロアにおいて、地震時の溢水量低減対策を考慮し、機器（配管及び容器）からの漏えい量を溢水量として算出した。（表3.5.1-1）</p>	系統	溢水量 (m <sup>3</sup> )	消火水系	97.5	化学体積制御系	47.3	廃棄物処理系	43.7	1次系補給水系	47.6	1次系洗浄水系	31.3	1次系温水、飲料水系	32.2	補助蒸気系	51.5			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊の消火水の放水における放水量は添付資料21「消火水の放水における放水量」に記載している。</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>記載箇所の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊の地震時の溢水量は前頁の「(3) 電気建屋における溢水量」に記載している。</li> </ul>
系統	溢水量 (m <sup>3</sup> )																		
消火水系	97.5																		
化学体積制御系	47.3																		
廃棄物処理系	43.7																		
1次系補給水系	47.6																		
1次系洗浄水系	31.3																		
1次系温水、飲料水系	32.2																		
補助蒸気系	51.5																		

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																												
<p>表 3.5.1-1 廃棄物処理建屋の地震による溢水量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>E. L. + (m)</th><th>溢水量 (m³)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>26.0</td><td>117.7</td></tr> <tr><td>17.5</td><td>164.3</td></tr> <tr><td>10.0</td><td>1,841.0</td></tr> <tr><td>4.9</td><td>1,875.3</td></tr> </tbody> </table> <p>溢水は、上層階から機器ハッチや階段を経由し、廃棄物処理建屋のE. L. +4.9m及び防護対象設備が設置されていない制御建屋のE. L. +7.0mに滞留する。</p> <p>機器（配管及び容器）から漏えいした溢水量がすべて流出したと仮定し、廃棄物処理建屋の各フロアの機器ハッチ及び階段堰から下層階へ流出することなく各フロアに滞留すると想定した場合の溢水水位を算出した結果、防護対象設備を設置している原子炉周辺建屋に溢水が伝播しないことを確認した。（表3.5.1-2）</p> <p>表 3.5.1-2 廃棄物処理建屋の地震による溢水影響評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>E. L. + (m)</th><th>フロア滞留面積 (m²)</th><th>溢水量 (m³) / 水位 (m)</th><th>時水可能量* (m³) / 堆高さ (m)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>26.0</td><td>1,115.4</td><td>117.7 / 0.106</td><td>278.8 / 0.25</td></tr> <tr><td>17.5</td><td>930.5</td><td>164.3 / 0.177</td><td>279.1 / 0.30</td></tr> <tr><td>10.0</td><td>—</td><td>1,841.0 / —</td><td>当該フロアに水密扉が設置されているので原子炉周辺建屋に伝播しない。 伝播経路なし。</td></tr> <tr><td>4.9</td><td>—</td><td>1,875.3 / —</td><td>※ E. L. +26.0m, E. L. +17.5mまでの時水可能量は、原子炉周辺建屋との通路部に設置した堰高さにより算出</td></tr> </tbody> </table>	E. L. + (m)	溢水量 (m³)	26.0	117.7	17.5	164.3	10.0	1,841.0	4.9	1,875.3	E. L. + (m)	フロア滞留面積 (m²)	溢水量 (m³) / 水位 (m)	時水可能量* (m³) / 堆高さ (m)	26.0	1,115.4	117.7 / 0.106	278.8 / 0.25	17.5	930.5	164.3 / 0.177	279.1 / 0.30	10.0	—	1,841.0 / —	当該フロアに水密扉が設置されているので原子炉周辺建屋に伝播しない。 伝播経路なし。	4.9	—	1,875.3 / —	※ E. L. +26.0m, E. L. +17.5mまでの時水可能量は、原子炉周辺建屋との通路部に設置した堰高さにより算出	<p>(4) 原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における溢水経路</p> <p>原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における、地震に起因する機器の破損に伴い発生した溢水は、階段室、床ハッチ、開口部等を経由し、最終的には最地下階である地下3階及び地下中3階に貯留される。原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における溢水経路図を添付資料27に示す。</p> <p>(5) 原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））からの溢水影響評価結果</p> <p>原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における没水水位は、地下3階エリアでは3.7m（満水）、地下中3階エリアでは1.6mとなり、溢水経路上にある、原子炉建屋原子炉棟、原子炉建屋付属棟、原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（非管理区域））及び制御建屋との境界（貫通部等）に対しては、原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における没水水位との関係を考慮した、溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））からの溢水による影響がないことを確認した。</p> <p>表10-1に原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における評価結果を示す。</p> <p>表10-1 原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア（管理区域））における評価結果（没水）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画</th><th>溢水量 (m³)</th><th>滞留面積 (m²)</th><th>没水水位 (m)</th></tr> <tr> <th>名称</th><th>基準床レベル ①</th><th>②</th><th>① / ②</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>地下3階エリア</td><td>0.P. -8.1m</td><td>2,701</td><td>730 3.7(満水)</td></tr> <tr><td>地下中3階エリア</td><td>0.P. -3.3m</td><td>856</td><td>556 1.6</td></tr> </tbody> </table>	区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)	名称	基準床レベル ①	②	① / ②	地下3階エリア	0.P. -8.1m	2,701	730 3.7(満水)	地下中3階エリア	0.P. -3.3m	856	556 1.6	<p>(4) 電気建屋における溢水経路</p> <p>電気建屋における、地震に起因する機器の破損に伴い発生した溢水は、階段室、開口部等を経由し、最終的には最地下階であるT.P. 2.3mに貯留される。電気建屋における溢水経路図を添付資料27に示す。</p> <p>(5) 電気建屋からの溢水影響評価結果</p> <p>電気建屋における没水水位は、最地下階であるT.P. 2.3mで5.5mとなるが、電気建屋地下部に設置された一次系放水ピット隔壁にひび割れが生じ、ピット内包水が電気建屋内に漏水する可能性を考慮し、没水水位は保守的に原子炉補機冷却海水放水路の流路開口上端のT.P. 8.7mとする。溢水経路上にある、原子炉建屋及び原子炉補助建屋との境界（貫通部等）に対しては、電気建屋における没水水位との関係を考慮した、溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、電気建屋からの溢水による影響がないことを確認した。</p> <p>表10-1に電気建屋における評価結果を示す。また、電気建屋の溢水概念図を図10-1に示す。</p> <p>表10-1 電気建屋における評価結果（没水）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>フロア</th><th>溢水量 (m³) ①</th><th>滞留面積 (m²) ②</th><th>溢水水位 (m) ① / ②</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="3">T.P. 2.3m</td><td>307</td><td>64 (T.P. 2.3m ~ T.P. 7.1m)</td><td>4.8 (満水)</td></tr> <tr><td>423</td><td>685 (T.P. 7.1m ~ T.P. 10.0m)</td><td>5.5 (4.8 ~ 0.7)</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>6.4<sup>③</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>*1 電気建屋地下部に設置された一次系放水ピットから電気建屋内へ漏水した場合を想定し、電気建屋内の溢水水位が一次系放水ピットと同じレベルまで上昇することを考慮。溢水水位は保守的に原子炉補機冷却海水放水路の流路開口上端のT.P. 8.7mとした。</p>	フロア	溢水量 (m³) ①	滞留面積 (m²) ②	溢水水位 (m) ① / ②	T.P. 2.3m	307	64 (T.P. 2.3m ~ T.P. 7.1m)	4.8 (満水)	423	685 (T.P. 7.1m ~ T.P. 10.0m)	5.5 (4.8 ~ 0.7)	—	—	6.4 <sup>③</sup>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 建屋名称の相違</p> <p>【大飯・女川】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊の電気建屋には床ハッチは設置されていないことから記載していない。</li> <li>・プラント設計の相違による。</li> </ul> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>泊の電気建屋には、图10-1に示す通り地下部に一次系放水ピットが設置されているため、電気建屋との隔壁にひび割れが生じ、ピット内包水が電気建屋内に漏水する可能性を考慮している。没水水位は保守的に一次系放水ピット開口部の上端（图10-1参照）のT.P. 11.9mとし、原子炉建屋及び原子炉補助建屋との境界にはT.P. 11.9mまで浸水防護措置を施している。</p> <p>【大飯・女川】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価結果の相違による。</li> </ul>
E. L. + (m)	溢水量 (m³)																																																														
26.0	117.7																																																														
17.5	164.3																																																														
10.0	1,841.0																																																														
4.9	1,875.3																																																														
E. L. + (m)	フロア滞留面積 (m²)	溢水量 (m³) / 水位 (m)	時水可能量* (m³) / 堆高さ (m)																																																												
26.0	1,115.4	117.7 / 0.106	278.8 / 0.25																																																												
17.5	930.5	164.3 / 0.177	279.1 / 0.30																																																												
10.0	—	1,841.0 / —	当該フロアに水密扉が設置されているので原子炉周辺建屋に伝播しない。 伝播経路なし。																																																												
4.9	—	1,875.3 / —	※ E. L. +26.0m, E. L. +17.5mまでの時水可能量は、原子炉周辺建屋との通路部に設置した堰高さにより算出																																																												
区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)																																																												
名称	基準床レベル ①	②	① / ②																																																												
地下3階エリア	0.P. -8.1m	2,701	730 3.7(満水)																																																												
地下中3階エリア	0.P. -3.3m	856	556 1.6																																																												
フロア	溢水量 (m³) ①	滞留面積 (m²) ②	溢水水位 (m) ① / ②																																																												
T.P. 2.3m	307	64 (T.P. 2.3m ~ T.P. 7.1m)	4.8 (満水)																																																												
	423	685 (T.P. 7.1m ~ T.P. 10.0m)	5.5 (4.8 ~ 0.7)																																																												
	—	—	6.4 <sup>③</sup>																																																												

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																														
<p>(6) 原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域)) からの溢水影響を防止する対策内容</p> <p>原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域)) からの溢水伝播に対して、止水を期待する設備について表10-2に整理する。</p> <p>表10-2 原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域)) からの溢水伝播に対して止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>設置レベル</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域))</td><td>BSF</td><td>2T-1 トレチ</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="5">IF</td><td>RW 調節室扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>IF 共通エリア</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>IF 共通エリア (大物搬入用)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>BMI 熱交換器・ポンプ室</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T/B 連絡通路扉(東側)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <p>3.6 廃棄物処理建屋の溢水影響評価のまとめ</p> <p>想定破損、地震及び放水による溢水量をフロアごとに評価し、廃棄物処理建屋から原子炉周辺建屋への溢水の流出がないことを確認した。</p> <p>また、中央制御室には運転員が常駐しており中央制御室からの運転操作が可能であり、現場確認が必要な設備へのアクセス通路にあっては、歩行に影響のない水位であること及び必要に応じて環境の温度、放射線量、薬品等による影響を考慮しても、運転員による操作場所までのアクセスが可能であることを確認した。</p> <p>(添付資料3) 廃棄物処理建屋の溢水影響評価</p>	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域))	BSF	2T-1 トレチ	水密扉	新設	1	IF	RW 調節室扉	水密扉	新設	1	IF 共通エリア	水密扉	新設	1	IF 共通エリア (大物搬入用)	水密扉	新設	1	BMI 熱交換器・ポンプ室	水密扉	新設	1	T/B 連絡通路扉(東側)	水密扉	新設	1	<p>図 10-1 電気建屋の溢水概念図</p>	<p>【女川】 記載方針の相違 泊は防護対象設備が設置される建屋との境界及び溢水源の配置を明示するため、電気建屋の溢水概念図を示している。</p> <p>(6) 電気建屋からの溢水影響を防止する対策内容</p> <p>電気建屋からの溢水伝播に対して、止水を期待する設備について表10-2に整理する。</p> <p>表10-2 電気建屋からの溢水伝播に対して止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>設置レベル</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">原子炉補助建屋</td><td>T.P. 2.3m</td><td>水密扉 No. 68 (A-G階段室↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">T.P. 10.3m</td><td>水密扉 No. 85 (常用系インバータ室↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>水密扉 No. 87 (A-F階段室↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>水密扉 No. 142 (A-G階段室↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">T.P. 17.3m</td><td>水密扉 No. 143 (原子炉補助建屋↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉建屋</td><td>T.P. 4.35m</td><td>水密扉 No. 69 (原子炉補機冷却水ポンプエリア↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T.P. 10.3m</td><td>水密扉 No. 93 (トラックアクセスエリア↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T.P. 17.3m</td><td>水密扉 No. 140 (原子炉建屋↔電気建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <p>【女川】 建屋名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違 対策設備の相違による。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 ・泊の運転員のアクセス性については、補足説明資料11「運転員のアクセス性」に記載している。</p>	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	原子炉補助建屋	T.P. 2.3m	水密扉 No. 68 (A-G階段室↔電気建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 10.3m	水密扉 No. 85 (常用系インバータ室↔電気建屋)	水密扉	新設	1	水密扉 No. 87 (A-F階段室↔電気建屋)	水密扉	新設	1	水密扉 No. 142 (A-G階段室↔電気建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 17.3m	水密扉 No. 143 (原子炉補助建屋↔電気建屋)	水密扉	新設	1	原子炉建屋	T.P. 4.35m	水密扉 No. 69 (原子炉補機冷却水ポンプエリア↔電気建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 10.3m	水密扉 No. 93 (トラックアクセスエリア↔電気建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 17.3m	水密扉 No. 140 (原子炉建屋↔電気建屋)	水密扉	新設	1
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																																																												
原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域))	BSF	2T-1 トレチ	水密扉	新設	1																																																																												
	IF	RW 調節室扉	水密扉	新設	1																																																																												
		IF 共通エリア	水密扉	新設	1																																																																												
		IF 共通エリア (大物搬入用)	水密扉	新設	1																																																																												
		BMI 熱交換器・ポンプ室	水密扉	新設	1																																																																												
		T/B 連絡通路扉(東側)	水密扉	新設	1																																																																												
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																																																												
原子炉補助建屋	T.P. 2.3m	水密扉 No. 68 (A-G階段室↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																												
	T.P. 10.3m	水密扉 No. 85 (常用系インバータ室↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																												
		水密扉 No. 87 (A-F階段室↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																												
		水密扉 No. 142 (A-G階段室↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																												
	T.P. 17.3m	水密扉 No. 143 (原子炉補助建屋↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																												
原子炉建屋		T.P. 4.35m	水密扉 No. 69 (原子炉補機冷却水ポンプエリア↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																											
		T.P. 10.3m	水密扉 No. 93 (トラックアクセスエリア↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																											
	T.P. 17.3m	水密扉 No. 140 (原子炉建屋↔電気建屋)	水密扉	新設	1																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>11 <b>補助ボイラー建屋からの溢水影響評価</b></p> <p>(1) はじめに</p> <p>溢水源となりうる機器が存在する<b>補助ボイラー建屋</b>において、想定する機器の破損等により生じる溢水、消火水の放水により生じる溢水、地震による機器の破損によって生じる溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している<b>制御建屋</b>に伝播するか否かについての溢水影響評価を行った。</p> <p>なお、<b>補助ボイラー建屋</b>における単一機器の破損により生じる溢水量及び消火水の放水により生じる溢水量は、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量に包含されることから、ここでは、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量について評価を行った。</p> <p>(2) <b>補助ボイラー建屋</b>における溢水源</p> <p>配管計装線図 (P&amp;ID) を用いて、<b>補助ボイラー建屋</b>に存在する溢水源となる系統を抽出した。抽出結果を添付資料13に示す。</p> <p>(3) <b>補助ボイラー建屋</b>における溢水量</p> <p><b>補助ボイラー建屋</b>において、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量は、以下の条件に基づき算出した。溢水量算出結果を添付資料17に示す。その結果、各系統の溢水量の合計は、<b>319m<sup>3</sup></b>となった。</p> <p>a. 手動隔離は期待しない。</p> <p>b. 系統保有水量には配管保有水量に加えて、機器の内容積も考慮する。</p> <p>(4) <b>補助ボイラー建屋</b>における溢水経路</p> <p><b>補助ボイラー建屋</b>における、地震に起因する機器の破損に伴い発生した溢水は、階段を経由し、最終的には最地下階である<b>地下1階及び地上1階</b>に貯留される。<b>補助ボイラー建屋</b>における溢水経路図を添付資料32に示す。</p>	<p>11 <b>出入管理建屋からの溢水影響評価</b></p> <p>(1) はじめに</p> <p>溢水源となりうる機器が存在する<b>出入管理建屋</b>において、想定する機器の破損等により生じる溢水、消火水の放水により生じる溢水、地震による機器の破損によって生じる溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している<b>原子炉補助建屋</b>に伝播するか否かについての溢水影響評価を行った。</p> <p>なお、<b>出入管理建屋</b>における単一機器の破損により生じる溢水量及び消火水の放水により生じる溢水量は、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量に包含されることから、ここでは、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量について評価を行った。</p> <p>(2) <b>出入管理建屋</b>における溢水源</p> <p>系統図及び機器配置図を用いて、<b>出入管理建屋</b>内に存在する溢水源となる系統を抽出した。抽出結果を添付資料12に示す。</p> <p>(3) <b>出入管理建屋</b>における溢水量</p> <p><b>出入管理建屋</b>において、地震に起因する機器の破損に伴う溢水量は、以下の条件に基づき算出した。溢水量算出結果を添付資料16に示す。その結果、各系統の溢水量の合計は<b>1,070m<sup>3</sup></b>となった。</p> <p>a. 隔離操作により漏えい停止までの隔離時間を考慮し、配管の破損箇所からの流出流量に隔離時間を乗じて漏水量を設定する。</p> <p>b. 系統保有水量には配管保有水量に加えて、機器の内容積も考慮する。</p> <p>(4) <b>出入管理建屋</b>における溢水経路</p> <p><b>出入管理建屋</b>における、地震に起因する機器の破損に伴い発生した溢水は、階段を経由し、最終的には最地下階である<b>T.P. 6.3m</b>に貯留される。<b>出入管理建屋</b>における溢水経路図を添付資料28に示す。</p>	<p>【女川】 建屋名称の相違 女川と泊で対象となる建屋は異なるが、どちらも防護対象設備が設置される建屋への伝播防止に対する評価であることから比較対象とした。</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 記載表現の相違 【女川】 設計方針の相違 評価結果の相違による。 設計方針の相違 泊は運転員の隔離操作による漏えい停止を考慮した評価としている。(補足説明資料14「地震時溢水評価の隔離時間の妥当性について」で説明)</p> <p>【女川】 設計方針の相違 プラント設計の相違による。 【女川】 記載表現の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																												
	<p>(5) <b>補助ボイラー建屋</b>からの溢水影響評価結果</p> <p>補助ボイラー建屋における没水水位は、地上1階エリアで0.3mとなり、溢水経路上にある、制御建屋との境界（貫通部等）に対しては、<b>補助ボイラー建屋</b>における没水水位との関係を考慮した、溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、<b>補助ボイラー建屋</b>からの溢水による影響がないことを確認した。</p> <p>表11-1に<b>補助ボイラー建屋</b>における評価結果を示す。</p> <p style="text-align: center;">表11-1 補助ボイラー建屋における評価結果（没水）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画</th><th>溢水量 (m³)</th><th>滞留面積 (m²)</th><th>没水水位 (m)</th></tr> <tr> <th>名称</th><th>基準床レベル ①</th><th>②</th><th>①／②</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地上1階エリア</td><td>0.P. +15.0m</td><td>57<sup>※1</sup></td><td>237</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>0.3</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 地震に起因する機器の破損に伴う溢水量319m³から地下1階の貯留量262m<sup>3</sup>を除いた値。</p>	区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)	名称	基準床レベル ①	②	①／②	地上1階エリア	0.P. +15.0m	57 <sup>※1</sup>	237				0.3	<p>(5) <b>出入管理建屋</b>からの溢水影響評価結果</p> <p>出入管理建屋における没水水位は、T.P. 6.3mで2.9m（満水）、T.P. 10.3mで0.9mとなり、溢水経路上にある、<b>原子炉補助建屋</b>との境界（貫通部等）に対しては、<b>出入管理建屋</b>における没水水位との関係を考慮した、溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、<b>出入管理建屋</b>からの溢水による影響がないことを確認した。</p> <p>表11-1に<b>出入管理建屋</b>における評価結果を示す。また、<b>出入管理建屋</b>の溢水概念図を図11-1に示す。</p> <p style="text-align: center;">表11-1 出入管理建屋における評価結果（没水）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>フロア</th><th>溢水量 (m³) ①</th><th>滞留面積 (m²) ②</th><th>溢水水位 (m) ①／②</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T.P. 6.3m</td><td>1070</td><td>128</td><td>2.9（満水）</td></tr> <tr> <td>T.P. 10.3m</td><td>690</td><td>863</td><td>0.9</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"></p> <p>図11-1 出入管理建屋の溢水概念図</p>	フロア	溢水量 (m³) ①	滞留面積 (m²) ②	溢水水位 (m) ①／②	T.P. 6.3m	1070	128	2.9（満水）	T.P. 10.3m	690	863	0.9	<p>【女川】 建屋名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>評価結果の相違による。</p> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>泊は防護対象設備が設置される建屋との境界及び溢水源の配置を明示するため、出入管理建屋の溢水伝播概念図を示している。</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>対策設備の相違による。</p>
区画	溢水量 (m³)	滞留面積 (m²)	没水水位 (m)																												
名称	基準床レベル ①	②	①／②																												
地上1階エリア	0.P. +15.0m	57 <sup>※1</sup>	237																												
			0.3																												
フロア	溢水量 (m³) ①	滞留面積 (m²) ②	溢水水位 (m) ①／②																												
T.P. 6.3m	1070	128	2.9（満水）																												
T.P. 10.3m	690	863	0.9																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																											
	<p>(6) <b>補助ボイラー建屋</b>からの溢水影響を防止する対策内容 補助ボイラー建屋からの溢水伝播に対して、止水を期待する設備について表11-2に整理する。</p> <p>表11-2 <b>補助ボイラー建屋</b>からの溢水伝播に対して止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>設置レベル</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御建屋</td><td>1F</td><td>補助ボイラー建屋連絡通路</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> <p>(6) 出入管理建屋からの溢水影響を防止する対策内容 出入管理建屋からの溢水伝播に対して、止水を期待する設備について表11-2に整理する。</p> <p>表11-2 <b>出入管理建屋</b>からの溢水伝播に対して止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>設置レベル</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">原子炉補助建屋</td><td>T.P. 6.3m</td><td>水密扉 No. 73 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T.P. 10.3m</td><td>水密扉 No. 77 (管理区域メイン出入口↔出入管理建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T.P. 10.3m</td><td>水密扉 No. 78 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T.P. 17.8m</td><td>水密扉 No. 141 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T.P. 21.2m</td><td>水密扉 No. 144 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	制御建屋	1F	補助ボイラー建屋連絡通路	水密扉	新設	1	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	原子炉補助建屋	T.P. 6.3m	水密扉 No. 73 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 10.3m	水密扉 No. 77 (管理区域メイン出入口↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 10.3m	水密扉 No. 78 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 17.8m	水密扉 No. 141 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1	T.P. 21.2m	水密扉 No. 144 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1	
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																									
制御建屋	1F	補助ボイラー建屋連絡通路	水密扉	新設	1																																									
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																									
原子炉補助建屋	T.P. 6.3m	水密扉 No. 73 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1																																									
	T.P. 10.3m	水密扉 No. 77 (管理区域メイン出入口↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1																																									
	T.P. 10.3m	水密扉 No. 78 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1																																									
	T.P. 17.8m	水密扉 No. 141 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1																																									
	T.P. 21.2m	水密扉 No. 144 (原子炉補助建屋↔出入管理建屋)	水密扉	新設	1																																									

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

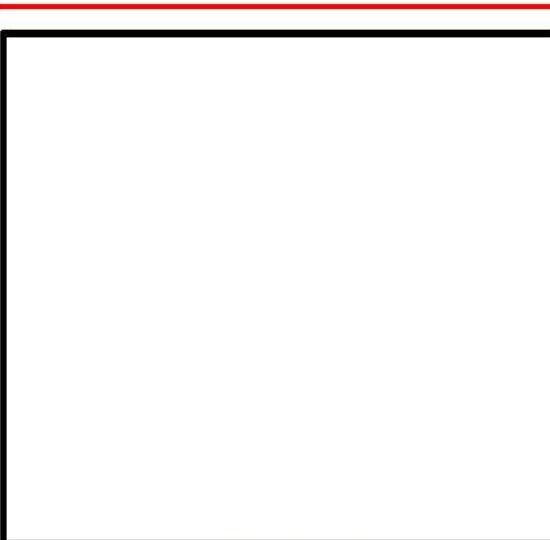
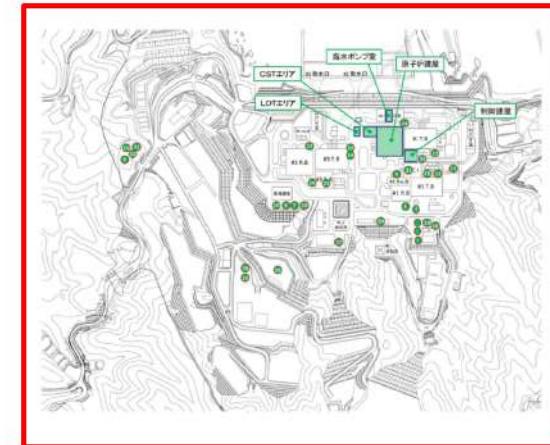
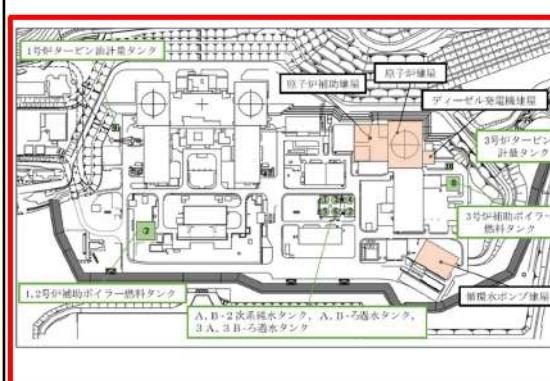
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																															
	<p>12 1号炉制御建屋からの溢水影響評価</p> <p>(1) はじめに</p> <p>溢水源となりうる機器が存在する1号炉制御建屋において溢水が発生した場合に、この溢水が、防護対象設備を設置している2号炉制御建屋に伝播するか否かについての溢水影響評価を行った。</p> <p>(2) 評価の前提条件</p> <p>a. 1号炉制御建屋における溢水量の評価、溢水経路の評価は実施せず、地下階はすべて水没することを想定した。</p> <p>b. 地上部（グランドレベルより上）の各階における溢水量については、4mの水没を想定した。</p> <p>(3) 1号炉制御建屋からの溢水影響評価</p> <p>2号炉制御建屋との境界（貫通部等）に対しては、1号炉制御建屋における没水水位との関係を考慮した、溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることで、1号炉制御建屋からの溢水による影響がないことを確認した。</p> <p>表12-1に想定した各階における没水水位を示す。</p> <p>表12-1 1号炉制御建屋における没水水位の想定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>階層</th> <th>設置床レベル (m)</th> <th>没水水位 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3階</td> <td>O.P. +23.5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2階</td> <td>O.P. +19.5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>1階</td> <td>O.P. +15.0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>地下1階</td> <td>O.P. +10.5</td> <td>8.5</td> </tr> <tr> <td>地下2階</td> <td>O.P. +5.0</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>地下3階</td> <td>O.P. +1.5</td> <td>17.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 1号炉制御建屋からの溢水影響を防止する対策内容</p> <p>1号炉制御建屋からの溢水伝播に対して、止水を期待する設備について表12-2に整理する。</p> <p>表12-2 1号炉制御建屋からの溢水伝播に対して 止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th> <th>設置レベル</th> <th>対象</th> <th>種別</th> <th>区分</th> <th>箇所数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">2号制御建屋</td> <td>3F</td> <td>1号MCR境界</td> <td>水密扉</td> <td>新設</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2F</td> <td>1号C/B連絡通路</td> <td>水密扉</td> <td>新設</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>1F</td> <td>1号C/B連絡通路</td> <td>水密扉</td> <td>新設</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>B2F</td> <td>1号C/B連絡通路</td> <td>水密扉</td> <td>新設</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	階層	設置床レベル (m)	没水水位 (m)	3階	O.P. +23.5	4	2階	O.P. +19.5	4	1階	O.P. +15.0	4	地下1階	O.P. +10.5	8.5	地下2階	O.P. +5.0	14	地下3階	O.P. +1.5	17.5	設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数	2号制御建屋	3F	1号MCR境界	水密扉	新設	1	2F	1号C/B連絡通路	水密扉	新設	1	1F	1号C/B連絡通路	水密扉	新設	2	B2F	1号C/B連絡通路	水密扉	新設	1	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊には該当する建屋がない。</p>
階層	設置床レベル (m)	没水水位 (m)																																																
3階	O.P. +23.5	4																																																
2階	O.P. +19.5	4																																																
1階	O.P. +15.0	4																																																
地下1階	O.P. +10.5	8.5																																																
地下2階	O.P. +5.0	14																																																
地下3階	O.P. +1.5	17.5																																																
設置建屋	設置レベル	対象	種別	区分	箇所数																																													
2号制御建屋	3F	1号MCR境界	水密扉	新設	1																																													
	2F	1号C/B連絡通路	水密扉	新設	1																																													
	1F	1号C/B連絡通路	水密扉	新設	2																																													
	B2F	1号C/B連絡通路	水密扉	新設	1																																													

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>5.2 屋外タンクからの溢水影響評価</b></p> <p>屋外タンク自体は防護対象設備ではないが、<b>地震に起因する破損によって溢水源となりうる屋外タンク</b>から発生する溢水が防護対象設備が設置されている建屋に流入しないことを確認する。</p> <p>なお、想定破損による溢水、放水による溢水については、<b>地震起因による溢水</b>に包絡される。</p> <p><b>5.2.1 溢水源の抽出</b></p> <p>発電所敷地内の溢水源となりうるすべての屋外タンクを、図5.2.1-1に示す。このうち、溢水影響のある溢水源について抽出する。地震起因による溢水源としたタンクの抽出フローを図5.2.1-2に示す。</p> 	<p><b>13 屋外タンクからの溢水影響評価</b></p> <p>(1) はじめに</p> <p>屋外タンク（屋外にあり溢水源となりうる設備を含む）自体は防護対象ではないが、屋外タンクの破損により生じる溢水が、防護対象設備の設置されている<b>原子炉建屋</b>（廃棄物処理エリア（管理区域）を除く）、制御建屋、海水ポンプ室、復水貯蔵タンク(CST)エリア及び軽油タンク(LOT)エリアに及ぼす影響を確認する。</p> <p>(2) 屋外タンクの抽出</p> <p>女川原子力発電所にある溢水影響評価の対象となる屋外タンクの配置を図13-1に、タンク容量を表13-1に示す。</p> <p>なお、基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されるタンク（軽油タンク及び復水貯蔵タンク）は抽出対象から除外する。</p> 	<p><b>12 屋外タンクからの溢水影響評価</b></p> <p>(1) はじめに</p> <p>屋外タンク（屋外にあり溢水源となりうる設備を含む）自体は防護対象ではないが、屋外タンクの破損により生じる溢水が、防護対象設備の設置されている<b>原子炉建屋</b>、原子炉補助建屋、ディーゼル発電機建屋及び循環水ポンプ建屋に及ぼす影響を確認する。</p> <p>なお、原子炉換熱器冷却海水等の系統排水については、敷地に流出させない方針とすることから溢水源として想定しない。</p> <p>(2) 屋外タンクの抽出</p> <p>泊発電所にある溢水影響評価の対象となる屋外タンクの配置を図12-1に、タンク容量を表12-1に示す。</p> 	<p>【大飯・女川】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 建屋名称の相違 記載方針の相違</p> <p>泊では屋外タンク以外の溢水源を敷地に流出させない方針を明記している。(記載内容は要検討)</p> <p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【大飯・女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <p>泊では、A, B-2次系純水タンク、A, B-ろ過水タンク及び3A, 3B-ろ過水タンクの本体は耐震性が確保されているが、接続配管は耐震性が確保されていないことから、完全全周破断を想定したタンク保有水量の全量を溢水量として考慮している。</p> <p>【大飯・女川】 設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違による。</p>
<p>図5.2.1-1 溢水源となりうる屋外タンク</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p>図13-1 溢水影響評価の対象となる屋外タンクの配置図</p>	<p>図12-1 溢水影響評価の対象となる屋外タンクの配置図</p>	

### 泊発電所 3 号炉 DB 基準適合性 比較表

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 第9条 溢水による損傷の防止等（別添資料1）

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																												
<p><b>【区分の考え方】</b></p> <p>(1) 溢水影響がないもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地震による溢水源としないタンク(区分A)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準地震動Ssによる地震力に対して耐震性を確保するもの又は耐震対策工事により、耐震性を確保するもの。</li> </ul> </li> <li>②地震により破損するが、評価対象外とするタンク(区分B)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・漏えいの際に気化又は固化する物質を内包しているタンク</li> <li>・地形等を踏まえ防護対象設備が設置されている建屋に溢水が伝播しないタンク</li> </ul> </li> <li>③空運用を行うタンク(区分C)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントの運用にて空としているタンク</li> <li>・溢水影響を防止するために、空運用を行うタンク</li> </ul> </li> </ul> <p>(2) 溢水影響を評価するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④4号側の防護対象設備が設置されている建屋に溢水が伝播するタンク(区分D)</li> <li>⑤3号側の防護対象設備が設置されている建屋に溢水が伝播するタンク(区分E)</li> <li>⑥タービン建屋に溢水が伝播するタンク(区分D及び区分E)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・防護対象設備が設置されている建屋に伝播する溢水は、タービン建屋に流入する。タービン建屋に流入するタンクは、④⑤項の区分D及び区分Eである。</li> </ul> </li> </ul>	<p>表13-1 溢水影響評価の対象となる屋外タンク容量(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>タンク名称</th> <th>基数</th> <th>設置高さ(m)</th> <th>容量(m<sup>3</sup>)</th> <th>評価に用いる容量(m<sup>3</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>22-1</td><td>No.1高架水槽</td><td>1</td><td>O.P.+34.7</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>22-2</td><td>No.2高架水槽</td><td>1</td><td>O.P.+34.7</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>23-1</td><td>上水高型水槽</td><td>1</td><td>-</td><td>9.2</td><td>9.2</td></tr> <tr><td>23-2</td><td>雑用水高架水槽</td><td>1</td><td>-</td><td>13.7</td><td>13.7</td></tr> <tr><td>24-1</td><td>高架水槽(飲料用)</td><td>1</td><td>O.P.+34.8</td><td>1.2</td><td>1.2</td></tr> <tr><td>24-2</td><td>高架水槽(雑用)</td><td>1</td><td>O.P.+34.8</td><td>2.0</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>24-3</td><td>水蓄熱槽(PAI-1)</td><td>1</td><td>O.P.+19.68</td><td>1.01</td><td>1.01</td></tr> <tr><td>24-4</td><td>水蓄熱槽(PAI-3)</td><td>1</td><td>O.P.+19.68</td><td>1.49</td><td>1.49</td></tr> <tr><td>24-5</td><td>水蓄熱槽(PAI-4)</td><td>1</td><td>O.P.+19.68</td><td>1.49</td><td>1.49</td></tr> <tr><td>24-6</td><td>高型水槽(飲料水)</td><td>1</td><td>O.P.+36.55</td><td>1.5</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>24-7</td><td>高架水槽(雑用)</td><td>1</td><td>O.P.+36.55</td><td>2.2</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>24-8</td><td>水蓄熱槽(PAI-1)</td><td>1</td><td>O.P.+19.68</td><td>1.49</td><td>1.49</td></tr> <tr><td>24-9</td><td>水蓄熱槽(PAI-2)</td><td>1</td><td>O.P.+19.68</td><td>1.49</td><td>1.49</td></tr> <tr><td>24-10</td><td>水蓄熱槽(PAI-3)</td><td>1</td><td>O.P.+19.68</td><td>1.49</td><td>1.49</td></tr> <tr><td>25</td><td>主復水器用電解鉄イオン注入装置電解槽</td><td>2</td><td>O.P.+15.613</td><td>3.4</td><td>6.8</td></tr> <tr><td>26</td><td>水蓄熱槽(PAI-1)</td><td>1</td><td>O.P.+14.95</td><td>1.49</td><td>1.49</td></tr> <tr><td>27</td><td>受水槽</td><td>1</td><td>O.P.+15.3</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>28-1</td><td>上水受水槽</td><td>1</td><td>O.P.+62.9</td><td>37</td><td>37</td></tr> <tr><td>28-2</td><td>雑用水受水槽</td><td>1</td><td>O.P.+62.9</td><td>55</td><td>55</td></tr> <tr><td>28-3</td><td>受水槽</td><td>1</td><td>O.P.+62.9</td><td>0.5</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>29</td><td>燃料小出槽</td><td>1</td><td>O.P.+58.592</td><td>0.95</td><td>0.95</td></tr> <tr><td>30</td><td>給水タンク</td><td>1</td><td>-</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>31</td><td>配水池</td><td>1</td><td>O.P.+69.7</td><td>300</td><td>300</td></tr> <tr><td>32-1</td><td>ろ過タンク(浄水)</td><td>1</td><td>O.P.+69.7</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>32-2</td><td>ろ過タンク(浄水)</td><td>1</td><td>O.P.+69.7</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>33</td><td>消防水タンク</td><td>1</td><td>O.P.+14.8</td><td>230</td><td>230</td></tr> <tr> <td align="right" colspan="5">合計容量(m<sup>3</sup>)</td></tr> <tr> <td align="right" colspan="5">17,540</td></tr> </tbody> </table> <p>*1 評価に用いる容量は、発電所の所用階に反映し、運用容量を超過しないように管理する。 なお、本項目は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p>	No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m <sup>3</sup> )	評価に用いる容量(m <sup>3</sup> )	22-1	No.1高架水槽	1	O.P.+34.7	8	8	22-2	No.2高架水槽	1	O.P.+34.7	8	8	23-1	上水高型水槽	1	-	9.2	9.2	23-2	雑用水高架水槽	1	-	13.7	13.7	24-1	高架水槽(飲料用)	1	O.P.+34.8	1.2	1.2	24-2	高架水槽(雑用)	1	O.P.+34.8	2.0	2.0	24-3	水蓄熱槽(PAI-1)	1	O.P.+19.68	1.01	1.01	24-4	水蓄熱槽(PAI-3)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49	24-5	水蓄熱槽(PAI-4)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49	24-6	高型水槽(飲料水)	1	O.P.+36.55	1.5	1.5	24-7	高架水槽(雑用)	1	O.P.+36.55	2.2	2.2	24-8	水蓄熱槽(PAI-1)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49	24-9	水蓄熱槽(PAI-2)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49	24-10	水蓄熱槽(PAI-3)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49	25	主復水器用電解鉄イオン注入装置電解槽	2	O.P.+15.613	3.4	6.8	26	水蓄熱槽(PAI-1)	1	O.P.+14.95	1.49	1.49	27	受水槽	1	O.P.+15.3	6	6	28-1	上水受水槽	1	O.P.+62.9	37	37	28-2	雑用水受水槽	1	O.P.+62.9	55	55	28-3	受水槽	1	O.P.+62.9	0.5	0.5	29	燃料小出槽	1	O.P.+58.592	0.95	0.95	30	給水タンク	1	-	2	2	31	配水池	1	O.P.+69.7	300	300	32-1	ろ過タンク(浄水)	1	O.P.+69.7	6	6	32-2	ろ過タンク(浄水)	1	O.P.+69.7	4	4	33	消防水タンク	1	O.P.+14.8	230	230	合計容量(m <sup>3</sup> )					17,540					<p>【大飯・女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違による。</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は溢水源となりうる屋外タンクを区分ごとに分類し、評価対象とするタンクを抽出しており、抽出フロー及び抽出結果を示しているが、泊は屋外タンクすべてを溢水源として抽出している。</li> </ul>
No.	タンク名称	基数	設置高さ(m)	容量(m <sup>3</sup> )	評価に用いる容量(m <sup>3</sup> )																																																																																																																																																																										
22-1	No.1高架水槽	1	O.P.+34.7	8	8																																																																																																																																																																										
22-2	No.2高架水槽	1	O.P.+34.7	8	8																																																																																																																																																																										
23-1	上水高型水槽	1	-	9.2	9.2																																																																																																																																																																										
23-2	雑用水高架水槽	1	-	13.7	13.7																																																																																																																																																																										
24-1	高架水槽(飲料用)	1	O.P.+34.8	1.2	1.2																																																																																																																																																																										
24-2	高架水槽(雑用)	1	O.P.+34.8	2.0	2.0																																																																																																																																																																										
24-3	水蓄熱槽(PAI-1)	1	O.P.+19.68	1.01	1.01																																																																																																																																																																										
24-4	水蓄熱槽(PAI-3)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49																																																																																																																																																																										
24-5	水蓄熱槽(PAI-4)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49																																																																																																																																																																										
24-6	高型水槽(飲料水)	1	O.P.+36.55	1.5	1.5																																																																																																																																																																										
24-7	高架水槽(雑用)	1	O.P.+36.55	2.2	2.2																																																																																																																																																																										
24-8	水蓄熱槽(PAI-1)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49																																																																																																																																																																										
24-9	水蓄熱槽(PAI-2)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49																																																																																																																																																																										
24-10	水蓄熱槽(PAI-3)	1	O.P.+19.68	1.49	1.49																																																																																																																																																																										
25	主復水器用電解鉄イオン注入装置電解槽	2	O.P.+15.613	3.4	6.8																																																																																																																																																																										
26	水蓄熱槽(PAI-1)	1	O.P.+14.95	1.49	1.49																																																																																																																																																																										
27	受水槽	1	O.P.+15.3	6	6																																																																																																																																																																										
28-1	上水受水槽	1	O.P.+62.9	37	37																																																																																																																																																																										
28-2	雑用水受水槽	1	O.P.+62.9	55	55																																																																																																																																																																										
28-3	受水槽	1	O.P.+62.9	0.5	0.5																																																																																																																																																																										
29	燃料小出槽	1	O.P.+58.592	0.95	0.95																																																																																																																																																																										
30	給水タンク	1	-	2	2																																																																																																																																																																										
31	配水池	1	O.P.+69.7	300	300																																																																																																																																																																										
32-1	ろ過タンク(浄水)	1	O.P.+69.7	6	6																																																																																																																																																																										
32-2	ろ過タンク(浄水)	1	O.P.+69.7	4	4																																																																																																																																																																										
33	消防水タンク	1	O.P.+14.8	230	230																																																																																																																																																																										
合計容量(m <sup>3</sup> )																																																																																																																																																																															
17,540																																																																																																																																																																															

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【大飯】</p> <p><u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川審査実績の反映</li> <li>・大飯は溢水源となりうる屋外タンクを区分ごとに分類し、評価対象とするタンクを抽出しており、抽出フロー及び抽出結果を示しているが、泊は屋外タンクすべてを溢水源として抽出している。</li> </ul>			

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																														
<p><b>5.2.2 溢水影響評価</b></p> <p>溢水の影響のあるタンクとして抽出した区分D、区分Eのタンクから地震起因により発生した溢水は、屋外トレンチを経由してタービン建屋に流入するもの又は直接タービン建屋に流入するものである。そのタンクの容量を表5.2.2-1に示す。</p> <p>なお、区分Dのタンクはすべて3号側へ伝播することから、区分Eにも分類される。よって、区分Eの合計がタービン建屋に伝播する溢水量(2,480m<sup>3</sup>)である。</p> <p>タービン建屋に伝播する溢水は、「5.1タービン建屋からの溢水影響評価」において評価を実施している。</p> <p>さらに、タービン建屋に流入しない想定とした評価の場合、3号側の防護対象設備が設置されている建屋に伝播する溢水を評価する。</p> <p>敷地は、中央道路から海に向かって勾配があり排水される設計であるが、保守的に一時的に滞留するものとする。3号側の防護対象設備が設置されている建屋に伝播する溢水量は、区分Eより溢水量合計2,480m<sup>3</sup>であり表5.2.2-2に示すとおり、溢水水位はE.L. +10.5mとなるが、防護対象設備が設置されている建屋は、E.L. +11.4mまでの流入防止対策(水密扉の設置)を実施しており、溢水は流入しない。</p> <p>表5.2.2-2 3号原子炉周辺建屋周りの溢水影響評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>3号側の防護対象設備が設置されている建屋外の淹れ面積</th> <th>溢水量合計</th> <th>溢水水位</th> <th>防護対象設備が設置されている建屋の流入防止対策高さ</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,300m<sup>2</sup></td> <td>2,480m<sup>3</sup></td> <td>E.L. +10.5m<sup>a</sup></td> <td>E.L. +11.4m</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p><sup>a</sup>溢水水位 E.L. +10.5m = E.L. +9.7m + 約 0.8m (=2,480m<sup>3</sup> / 3,300 m<sup>2</sup>)</p>	3号側の防護対象設備が設置されている建屋外の淹れ面積	溢水量合計	溢水水位	防護対象設備が設置されている建屋の流入防止対策高さ	評価	3,300m <sup>2</sup>	2,480m <sup>3</sup>	E.L. +10.5m <sup>a</sup>	E.L. +11.4m	○	<p>(3) 評価の前提条件</p> <p>a. 敷地内に広がった溢水は雨水排水路からの流出や地盤への浸透は考慮しない。</p> <p>b. タンクから漏えいした溢水は敷地全体に均一に広がるものとする。</p> <p>(4) 屋外タンクによる溢水影響評価</p> <p>屋外の溢水影響評価に影響を及ぼす大型の水源(1000m<sup>3</sup>以上の大型タンク)については、最高使用圧力が静水頭であり、想定破損による評価が除外できる。このため、屋外タンクによる溢水影響評価においては、基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されないタンクについて、複数同時破損を想定した溢水影響評価を実施した。</p> <p>その結果、屋外タンクの破損により生じる溢水が、防護対象設備の設置されている原子炉建屋、制御建屋、海水ポンプ室及び復水貯蔵タンクエリアに影響を及ぼさないことを確認した。</p> <p>なお、軽油タンクエリアについては、軽油タンクの地下化工事に伴い、水密構造とすることから、溢水影響がないと評価した。</p> <p>表13-2に屋外タンクによる溢水影響評価結果を示す。</p> <p>表13-2 屋外タンクによる溢水影響評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>カーブ高さ(m)</th> <th>溢水量(m<sup>3</sup>)</th> <th>敷地面積(m<sup>2</sup>)</th> <th>敷地浸水深<sup>※1</sup>(m)</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td> <td>0.33<sup>※1</sup></td> <td rowspan="4">17,540</td> <td rowspan="4">115,000</td> <td rowspan="4">0.16</td> <td rowspan="4">○</td> </tr> <tr> <td>制御建屋</td> <td>0.33<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>海水ポンプ室</td> <td>0.20<sup>※2</sup>(0.60<sup>※3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>復水貯蔵タンク</td> <td>0.20<sup>※1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p><sup>※1</sup> 建屋外壁扉の下端レベルから敷地レベルO.P. +14.8mを引いた値  <sup>※2</sup> 海水ポンプ室ピット上端から敷地レベルO.P. +14.8mを引いた値  <sup>※3</sup> 海水ポンプ室浸水防止壁上端から敷地レベルO.P. +14.8mを引いた値  <sup>※4</sup> 敷地レベルO.P. +14.8mからの浸水深</p>		カーブ高さ(m)	溢水量(m <sup>3</sup> )	敷地面積(m <sup>2</sup> )	敷地浸水深 <sup>※1</sup> (m)	評価	原子炉建屋	0.33 <sup>※1</sup>	17,540	115,000	0.16	○	制御建屋	0.33 <sup>※1</sup>	海水ポンプ室	0.20 <sup>※2</sup> (0.60 <sup>※3</sup> )	復水貯蔵タンク	0.20 <sup>※1</sup>	<p>(3) 評価の前提条件</p> <p>a. 敷地内に広がった溢水は雨水排水路からの流出や地盤への浸透は考慮しない。</p> <p>b. タンクから漏えいした溢水は敷地全体に均一に広がるものとする。</p> <p>(4) 屋外タンクによる溢水影響評価</p> <p>屋外の溢水影響評価に影響を及ぼす大型の水源(1,000m<sup>3</sup>以上の大型タンク)については、最高使用圧力が静水頭であり、想定破損による評価が除外できる。このため、屋外タンクによる溢水影響評価においては、基準地震動による地震力に対して耐震性が確保されないタンクについて、複数同時破損を想定した溢水影響評価を実施した。</p> <p>その結果、屋外タンクの破損により生じる溢水が、防護対象設備の設置されている原子炉建屋、原子炉補助建屋、ディーゼル発電機建屋及び循環水ポンプ建屋に影響を及ぼさないことを確認した。なお、原子炉建屋及び原子炉補助建屋には、屋外に接する開口は無いことから、それぞれ隣接するタービン建屋及び出入管理建屋の出入口高さが最大浸水深を上回ることを確認した。</p> <p>A1, A2 - 燃料油貯油槽タンク室及びB1, B2 - 燃料油貯油槽タンク室については、タンク室内に設置されているディーゼル発電機燃料油貯油槽及び燃料油配管は静的機器であることから、溢水影響がないと評価した。</p> <p>表12-2に屋外タンクによる溢水影響評価結果を示す。</p> <p>表12-2 屋外タンクによる溢水影響評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th> <th>建屋開口高さ(m)</th> <th>溢水量(m<sup>3</sup>)</th> <th>敷地面積(m<sup>2</sup>)</th> <th>敷地浸水深<sup>※1</sup>(m)</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋 (タービン建屋入口)</td> <td>0.30<sup>※1</sup></td> <td rowspan="4">10,530</td> <td rowspan="4">116,800</td> <td rowspan="4">0.10</td> <td rowspan="4">○</td> </tr> <tr> <td>ディーゼル発電機建屋</td> <td>0.30<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>原子炉補助建屋 (出入管理建屋入口)</td> <td>0.30<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>循環水ポンプ建屋</td> <td>0.30<sup>※1</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p><sup>※1</sup> 建屋入口高さから敷地レベルT.P. 10.0mを引いた値  <sup>※2</sup> 敷地レベルT.P. 10.0mからの浸水深</p>	建屋	建屋開口高さ(m)	溢水量(m <sup>3</sup> )	敷地面積(m <sup>2</sup> )	敷地浸水深 <sup>※1</sup> (m)	評価	原子炉建屋 (タービン建屋入口)	0.30 <sup>※1</sup>	10,530	116,800	0.10	○	ディーゼル発電機建屋	0.30 <sup>※1</sup>	原子炉補助建屋 (出入管理建屋入口)	0.30 <sup>※1</sup>	循環水ポンプ建屋	0.30 <sup>※1</sup>	<p>【大飯】 記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川審査実績の反映</li> <li>泊は屋外タンクの保有水がタービン建屋に流入するよう ke円として評価していることを補足説明資料35「タービン建屋にからの溢水影響評価に用いる溢水量について」に記載している。</li> </ul> <p>【女川】 建屋名称の相違 設備名称の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊の原子炉建屋、原子炉補助建屋には、屋外から直接出入するための出入口は無いため、隣接するタービン建屋及び出入管理建屋の出入口高さが最大浸水深を上回ることを確認した。</li> <li>泊の燃料油貯油槽タンク室は、女川の軽油タンクエリアのような水密構造では無いが、仮に室内に溢水が流出した場合でも溢水影響は無いことを確認している。</li> </ul> <p>【女川・大飯】 設計方針の相違</p> <p>評価結果の相違による。</p>
3号側の防護対象設備が設置されている建屋外の淹れ面積	溢水量合計	溢水水位	防護対象設備が設置されている建屋の流入防止対策高さ	評価																																													
3,300m <sup>2</sup>	2,480m <sup>3</sup>	E.L. +10.5m <sup>a</sup>	E.L. +11.4m	○																																													
	カーブ高さ(m)	溢水量(m <sup>3</sup> )	敷地面積(m <sup>2</sup> )	敷地浸水深 <sup>※1</sup> (m)	評価																																												
原子炉建屋	0.33 <sup>※1</sup>	17,540	115,000	0.16	○																																												
制御建屋	0.33 <sup>※1</sup>																																																
海水ポンプ室	0.20 <sup>※2</sup> (0.60 <sup>※3</sup> )																																																
復水貯蔵タンク	0.20 <sup>※1</sup>																																																
建屋	建屋開口高さ(m)	溢水量(m <sup>3</sup> )	敷地面積(m <sup>2</sup> )	敷地浸水深 <sup>※1</sup> (m)	評価																																												
原子炉建屋 (タービン建屋入口)	0.30 <sup>※1</sup>	10,530	116,800	0.10	○																																												
ディーゼル発電機建屋	0.30 <sup>※1</sup>																																																
原子炉補助建屋 (出入管理建屋入口)	0.30 <sup>※1</sup>																																																
循環水ポンプ建屋	0.30 <sup>※1</sup>																																																

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
<p>5.2.3 鯨谷タンクエリアについて</p> <p>原子炉施設西方の鯨谷タンクエリア（約E.L.+80.0m）に設置されているタンク群については、各タンクの水位を下げて運用する。その諸元を表1に示す。</p> <p>また地震時については、淡水タンク下部及び飲料水タンク下部に接続されている配管すべてが地震により破損すると仮定し、評価した。</p> <p>淡水タンクから生じた溢水は、鯨谷タンクエリア内に設置する立坑及び排水トンネルを通じて構外へ排水することから原子炉施設側へ伝播しないことを確認した。</p> <p>表 5.2.3-1 鯨谷タンクエリアに設置されている屋外タンク</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>タンク名称</th><th>No.1 淡水 タンク</th><th>No.2,3 淡水 タンク</th><th>2次系純水 タンク</th><th>C-2次系純水 タンク</th><th>飲料水 タンク</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ユニット 基数</td><td>1、2号炉 1基</td><td>1、2号炉 2基</td><td>1、2号炉 2基</td><td>3、4号炉 1基</td><td>1、2号炉 1基</td></tr> <tr> <td>設置高さ(m)</td><td>E.L.+81.0</td><td>E.L.+81.0</td><td>E.L.+72.5</td><td>E.L.+81.0</td><td>E.L.+72.5</td></tr> <tr> <td>容量(m<sup>3</sup>)</td><td>10,000</td><td>10,000</td><td>3,000</td><td>7,500</td><td>500</td></tr> <tr> <td>内径(mm)</td><td>34,870</td><td>34,870</td><td>19,380</td><td>29,050</td><td>9,670</td></tr> <tr> <td>高さ(mm) (鋼板高さ)</td><td>12,180</td><td>12,180</td><td>10,660</td><td>12,180</td><td>7,620</td></tr> <tr> <td>運用水位<sup>*</sup> (mm)[容量]</td><td>0 [0m<sup>3</sup>]</td><td>8,380 [8,000m<sup>3</sup>]</td><td>0 [0m<sup>3</sup>]</td><td>0 [0m<sup>3</sup>]</td><td>680 [50m<sup>3</sup>]</td></tr> </tbody> </table> <p>*運用水位については、発電所の所則類に反映し、運用水位を超えないように管理する。</p>	タンク名称	No.1 淡水 タンク	No.2,3 淡水 タンク	2次系純水 タンク	C-2次系純水 タンク	飲料水 タンク	ユニット 基数	1、2号炉 1基	1、2号炉 2基	1、2号炉 2基	3、4号炉 1基	1、2号炉 1基	設置高さ(m)	E.L.+81.0	E.L.+81.0	E.L.+72.5	E.L.+81.0	E.L.+72.5	容量(m <sup>3</sup> )	10,000	10,000	3,000	7,500	500	内径(mm)	34,870	34,870	19,380	29,050	9,670	高さ(mm) (鋼板高さ)	12,180	12,180	10,660	12,180	7,620	運用水位 <sup>*</sup> (mm)[容量]	0 [0m <sup>3</sup> ]	8,380 [8,000m <sup>3</sup> ]	0 [0m <sup>3</sup> ]	0 [0m <sup>3</sup> ]	680 [50m <sup>3</sup> ]			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>鯨谷タンクエリアは大飯固有の評価エリアである。</p>
タンク名称	No.1 淡水 タンク	No.2,3 淡水 タンク	2次系純水 タンク	C-2次系純水 タンク	飲料水 タンク																																								
ユニット 基数	1、2号炉 1基	1、2号炉 2基	1、2号炉 2基	3、4号炉 1基	1、2号炉 1基																																								
設置高さ(m)	E.L.+81.0	E.L.+81.0	E.L.+72.5	E.L.+81.0	E.L.+72.5																																								
容量(m <sup>3</sup> )	10,000	10,000	3,000	7,500	500																																								
内径(mm)	34,870	34,870	19,380	29,050	9,670																																								
高さ(mm) (鋼板高さ)	12,180	12,180	10,660	12,180	7,620																																								
運用水位 <sup>*</sup> (mm)[容量]	0 [0m <sup>3</sup> ]	8,380 [8,000m <sup>3</sup> ]	0 [0m <sup>3</sup> ]	0 [0m <sup>3</sup> ]	680 [50m <sup>3</sup> ]																																								
<p>5.2.4 まとめ</p> <p>屋外タンクから発生する溢水が防護対象設備が設置されている建屋に溢水が流入しないことを確認した。</p> <p>なお、万一これらタンクの溢水が防護対象設備が設置されている建屋に到達したとしても流入防止対策（水密性を有する貫通部のシール充てん、水密扉の設置）を実施しており、溢水は流入しない。</p> <p>(添付資料5.2) 屋外タンクからの溢水影響評価</p>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>																																										

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>5.3 湧水サンプからの溢水影響評価</p> <p>原子炉周辺建屋周辺の地下水は、導水管により原子炉周辺建屋内の湧水サンプに集められる。湧水サンプには、耐震性を有する2台のポンプを設置しており、海水管を経由して海へ排水することが可能である。</p> <p>なお、湧水サンプ室は非常に剛性の高い基礎盤の一部であり、基準地震動Ssに対しても湧水サンプ室を構成する壁は弹性範囲にある。</p> <p>また、安全上重要な機器が設置されている原子炉周辺建屋においても、グランドレベル以下についても湧水サンプと同様に弹性範囲にあることから、湧水が浸水することはない。</p> <p>(添付資料5.3) 湧水サンプからの溢水影響評価</p>	<p>14 地下水による影響評価</p> <p>(1) 通常時の地下水の排水</p> <p>原子炉建屋周辺の地下水は、以下のとおり排水される。(図14-1参照)</p> <p>a. 建屋底面に接する地盤からの湧水は、基礎底面下のサブドレンにより建屋周辺の集水管に集水し、集水管の流末に設置されている揚水井戸から揚水ポンプ(揚水井戸1箇所に揚水ポンプが2台設置されている)により縦排水管を通して屋外排水溝に排水される。</p> <p>b. 建屋周辺の地盤からの湧水は、直接集水管に集水し、集水管の流末に設置されている揚水井戸から揚水ポンプにより縦排水管を通して屋外排水溝に排水される。</p> <p>図14-1 地下水位低下設備の概要</p>	<p>13 地下水による影響評価</p> <p>(1) 通常時の地下水の排水</p> <p>原子炉建屋周辺の地下水は、以下のとおり排水される。(図13-1, 図13-2参照)</p> <p>a. 建屋底面に接する地盤からの湧水は、基礎底面下の集水管及びサブドレンに集水し、集水管の流末に設置されている湧水ピットから湧水ピットポンプ (湧水ピット1箇所に湧水ピットポンプが2台設置されている)により排水配管を通して一次系放水ピットに排水される。</p> <p>b. 建屋周辺の地盤からの湧水は、基礎底面下の集水管のうち、外郭に設置された集水管に集水し、集水管の流末に設置されている湧水ピットから湧水ピットポンプにより排水管を通して一次系放水ピットに排水される。</p> <p>図13-1 地下水排水設備の概要</p>	<p>【大飯・女川】 記載表現の相違 【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 【女川】 記載方針の相違 泊は地下水排水設備の配置図も示す。 【女川】 設備名称の相違 泊の地下水排水設備と女川の地下水位低下設備は、共に基礎底面下から集水した地下水をポンプにより排水する設計である。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) <b>揚水ポンプ</b>停止時における地下水による影響</p> <p>以下に示す理由により、<b>揚水ポンプ</b>停止により建屋周囲の水位が地表面まで上昇することを想定した場合でも、地下水が防護対象設備を設置している区画へ流入することはない。</p> <p>a. 地下外壁にはアスファルト防水を施しており、更に防水層の上に保護板を設置し、防水層が切れないように配慮している。</p> <p>b. 安全上重要な機器が設置されている原子炉建屋、<b>制御建屋</b>の地下外壁については、地震時に想定される残留ひび割れの評価結果から、「原子炉施設における建築物の維持管理指針・同解説(日本建築学会)」に示される、コンクリート構造物の使用性(水密)の観点から設定されたひび割れ幅の評価基準値【0.2mm未満】を満足することを確認している。</p> <p>なお、地下水位低下設備については、基準地震動による地震力に対して耐震性を確保する設計とする。</p>	<p>(2) <b>湧水ピットポンプ</b>停止時における地下水による影響</p> <p>地下水排水設備については、想定される事象等を考慮し、信頼性向上対策を施すことで、供用期間の全ての状態において機能喪失しない設計とするもの。仮に湧水ピットポンプ停止により建屋周囲の水位が地表面まで上昇することを想定した場合でも、以下に示す理由により、地下水が防護対象設備を設置している区画へ流入することはない。</p> <p>a. 地下外壁にはアスファルト防水を施しており、さらに防水層の上に保護板を設置し、防水層が切れないように配慮している。</p> <p>b. 安全上重要な機器が設置されている原子炉建屋、<b>原子炉補助建屋</b>、<b>ディーゼル発電機建屋</b>の地下外壁については、地震時に想定される残留ひび割れの評価結果から、「原子炉施設における建築物の維持管理指針・同解説(日本建築学会)」に示される、コンクリート構造物の使用性(水密)の観点から設定されたひび割れ幅の評価基準値【0.2mm未満】を満足することを確認している。</p> <p>c. 原子炉補助建屋と湧水ピットの境界(湧水ピットポンプ設置床)に対しては、溢水防護措置(ドレンライン逆止弁の設置等)を講ずることにより、湧水ピットから原子炉補助建屋内に地下水が伝播しないよう配慮している。</p> <p>(3) 燃料油貯油槽タンク室について</p> <p>A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室及びB 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室については、タンク室内に設置されているディーゼル発電機燃料油貯油槽及び燃料油配管は静的機器であることから、地下水の流入による溢水影響がないと評価した。</p>	<p>【女川】</p> <p>設備名称の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊は地下水排水設備を供用期間の全ての状態において機能喪失しない設計とすることを記載している。(女川の地下水位低下設備も機能喪失しない設計であることは泊と同様)</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>建屋名称の相違</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊は溢水防護対象設備を内包する原子炉補助建屋の最下階に湧水ピットが設置されており、湧水ピット上部の湧水ピットポンプ設置床を介した建屋内への地下水の流入を防止する設計としている。</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊は地下水排水設備を供用期間の全ての状態において機能喪失しない設計とすることを(2)項の冒頭で記載している。(女川の地下水位低下設備も機能喪失しない設計であることは泊と同様)</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊の燃料油貯油槽タンク室は静的機器である防護対象設備のみを内包しており、仮に室内に地下水が流入した場合でも溢水影響は無いくことを確認している。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																												
		<p>(4) 取水ピットポンプ室について</p> <p>安全上重要な機器が設置されている循環水ポンプ建屋のうち取水ピットポンプ室の側壁については、止水機能が要求される構造部材として、「水道施設耐震工法指針・解説2009」に規定されている照査基準のとおり、漏水が生じるような顕著な（部材を貫通するような）ひび割れが発生しないよう、目標性能としては鉄筋が降伏しないこと及び発生せん断力がせん断耐力以下になることを確認している。</p> <p>15 放射性物質を含む液体の漏えいの防止</p> <p>管理区域内で発生した溢水は、建屋の最地下階に貯留されるため、貯留される地下階の範囲及び溢水の伝播経路となる範囲について、前章までの溢水影響評価結果を基に、溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることにより、機器の破損等により生じた放射性物質を含んだ液体が、管理区域外に伝播しないことを確認した。</p> <p>表15-1に放射性物質を含んだ液体の溢水伝播に対して、止水を期待する設備について整理する。また、その設置場所について添付資料33に示す。</p> <p>なお、使用済燃料プール、原子炉ウェル及びDSピットのスロッキングによる溢水を考慮しても、発生する溢水量は区画番号：R-3F-1において考慮している最大溢水量（原子炉補機冷却水系の想定破損による溢水量：265m<sup>3</sup>）以下であり、想定破損による溢水影響評価に基づき、原子炉建屋原子炉棟の溢水防護措置（水密扉の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることにより、発生した溢水が管理区域外へ伝播しないことを確認した。</p> <p>表15-1 放射性物質を含んだ液体の溢水伝播に対して、止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>フロア</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋</td><td>1F</td><td>R/B 大物搬入用扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>原子炉建屋</td><td>1F</td><td>R/B 大物搬入用小扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>原子炉建屋 付属棟</td><td>1F</td><td>BHII 熱交換器・ポンプ室</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域))</td><td>1F</td><td>主排気ダクト連絡トレーン チ</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td></td><td>1F</td><td>IP 共通エリア</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td></td><td>1F</td><td>IP 共通エリア大物搬入用</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td></td><td>RW 制御室扉</td><td></td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>制御建屋</td><td>1F</td><td>入退城エリア【管理区域 ヘルメット置場】</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>補助ボイラー建屋連絡階 段</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	設置建屋	フロア	対象	種別	区分	箇所数	原子炉建屋	1F	R/B 大物搬入用扉	水密扉	新設	1	原子炉建屋	1F	R/B 大物搬入用小扉	水密扉	新設	1	原子炉建屋 付属棟	1F	BHII 熱交換器・ポンプ室	水密扉	新設	1	原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域))	1F	主排気ダクト連絡トレーン チ	水密扉	新設	1		1F	IP 共通エリア	水密扉	新設	1		1F	IP 共通エリア大物搬入用	水密扉	新設	1		RW 制御室扉		水密扉	新設	1	制御建屋	1F	入退城エリア【管理区域 ヘルメット置場】	水密扉	新設	1			補助ボイラー建屋連絡階 段	水密扉	新設	1	<p>設計方針の相違</p> <p>泊の原子炉補機冷却海水ポンプが設置される取水ピットポンプ室は、日本コンクリート学会の指針に則り、残留ひび割れの評価を行い、評価基準を満足することを確認している。</p> <p>記載表現の相違</p>
設置建屋	フロア	対象	種別	区分	箇所数																																																										
原子炉建屋	1F	R/B 大物搬入用扉	水密扉	新設	1																																																										
原子炉建屋	1F	R/B 大物搬入用小扉	水密扉	新設	1																																																										
原子炉建屋 付属棟	1F	BHII 熱交換器・ポンプ室	水密扉	新設	1																																																										
原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処理エリア (管理区域))	1F	主排気ダクト連絡トレーン チ	水密扉	新設	1																																																										
	1F	IP 共通エリア	水密扉	新設	1																																																										
	1F	IP 共通エリア大物搬入用	水密扉	新設	1																																																										
	RW 制御室扉		水密扉	新設	1																																																										
制御建屋	1F	入退城エリア【管理区域 ヘルメット置場】	水密扉	新設	1																																																										
		補助ボイラー建屋連絡階 段	水密扉	新設	1																																																										
		<p>14 放射性物質を含む液体の漏えいの防止</p> <p>管理区域内で発生した溢水は、建屋の最地下階に貯留されるため、貯留される地下階の範囲及び溢水の伝播経路となる範囲について、前章までの溢水影響評価結果を基に、溢水防護措置（止水板の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることにより、機器の破損等により生じた放射性物質を含んだ液体が、管理区域外に伝播しないことを確認した。</p> <p>表14-1に放射性物質を含んだ液体の溢水伝播に対して、止水を期待する設備について整理する。また、その設置場所について添付資料29に示す。</p> <p>なお、使用済燃料ピットのスロッシングによる溢水も考慮し、機器の破損等により生じた放射性物質を含んだ液体の最大溢水量（地震起因による溢水量：56m<sup>3</sup>）を想定し、原子炉建屋及び原子炉補助建屋の溢水防護措置（止水板の設置、配管等の貫通部への止水処置等）を講ずることにより、発生した溢水が管理区域外へ伝播しないことを確認した。</p> <p>表14-1 放射性物質を含んだ液体の溢水伝播に対して、止水を期待する設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置建屋</th><th>フロア</th><th>対象</th><th>種別</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">原子炉建屋</td><td>3FL T.P. 33.1m</td><td>33.1m (区画境界②) 堀</td><td>堀</td><td>既設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>3FL T.P. 33.1m</td><td>33.1m (区画境界③) 堀</td><td>堀</td><td>既設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>3FL T.P. 33.1m</td><td>33.1m (区画境界④) 堀</td><td>堀</td><td>既設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">原子炉補助建屋</td><td>6BFL T.P. 2.8m</td><td>止水板 2.8-A</td><td>止水板</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>1FL T.P. 10.3m</td><td>管理区域出入り口堀</td><td>堀</td><td>既設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>3FL T.P. 33.1m</td><td>33.5m (区画境界) 堀</td><td>堀</td><td>既設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	設置建屋	フロア	対象	種別	区分	箇所数	原子炉建屋	3FL T.P. 33.1m	33.1m (区画境界②) 堀	堀	既設	1	3FL T.P. 33.1m	33.1m (区画境界③) 堀	堀	既設	1	3FL T.P. 33.1m	33.1m (区画境界④) 堀	堀	既設	1	原子炉補助建屋	6BFL T.P. 2.8m	止水板 2.8-A	止水板	新設	1	1FL T.P. 10.3m	管理区域出入り口堀	堀	既設	1	3FL T.P. 33.1m	33.5m (区画境界) 堀	堀	既設	1	<p>設計方針の相違</p> <p>対策設備の相違による。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設備名称の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>評価結果の相違により、溢水量が最大となる事象が女川は想定破損、泊は地震起因による溢水となっている。</p> <p>建屋名称の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>対策設備の相違による。</p>																						
設置建屋	フロア	対象	種別	区分	箇所数																																																										
原子炉建屋	3FL T.P. 33.1m	33.1m (区画境界②) 堀	堀	既設	1																																																										
	3FL T.P. 33.1m	33.1m (区画境界③) 堀	堀	既設	1																																																										
	3FL T.P. 33.1m	33.1m (区画境界④) 堀	堀	既設	1																																																										
原子炉補助建屋	6BFL T.P. 2.8m	止水板 2.8-A	止水板	新設	1																																																										
	1FL T.P. 10.3m	管理区域出入り口堀	堀	既設	1																																																										
	3FL T.P. 33.1m	33.5m (区画境界) 堀	堀	既設	1																																																										

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>6 経年劣化事象の検討</p> <p>原子力発電所で使用されている設備については、機器、弁等の定期的な開放点検時の配管内部の目視点検、漏えい試験、日常点検（巡回点検）等により有意な劣化がないことを確認するとともに、クラス1～3配管については供用期間中検査において非破壊試験、漏えい試験等により有意な欠陥等がないことを確認している。また、このような保全に加え、過去の運転経験に基づき個別の経年劣化事象に着目した評価及び点検並びに予防保全を実施している。</p> <p>このように、経年劣化事象は適切に把握されており、評価対象箇所に経年劣化がある場合は、取替等による経年劣化事象の解消又は劣化事象に応じた評価の実施が可能である。</p> <p>(添付資料6) 経年劣化事象の検討</p>		<p>15 経年劣化事象の検討</p> <p>原子力発電所で使用されている設備については、機器、弁等の定期的な開放点検時の配管内部の目視点検、漏えい試験、日常点検（巡回点検）等により有意な劣化がないことを確認するとともに、クラス1～3配管については供用期間中検査において非破壊試験、漏えい試験等により有意な欠陥等がないことを確認している。また、このような保全に加え、過去の運転経験に基づき個別の経年劣化事象に着目した評価及び点検並びに予防保全を実施している。</p> <p>このように、経年劣化事象は適切に把握されており、評価対象箇所に経年劣化がある場合は、取替等による経年劣化事象の解消又は劣化事象に応じた評価の実施が可能である。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違 【女川】 記載方針の相違 泊は最新PWRの審査実績の反映として、大飯と同様に経年劣化事象について記載している。</p>
<p>7 溢水影響評価の判定</p> <p>内部溢水に対して、原子炉施設の安全機能並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能が失われないことを確認した。</p>		<p>16 溢水影響評価の判定</p> <p>内部溢水に対して、原子炉施設の安全機能並びに使用済燃料ピットの冷却機能及び給水機能が失われないことを確認した。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違 【女川】 記載方針の相違 泊は最新PWRの審査実績の反映として、大飯と同様に評価の判定について記載している。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料1)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>想定破損</th> <th>消火水の放水</th> <th>地震起因の破損</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>▶ 耐震Sクラスを含む水系系統<sup>*1</sup></td><td>▶ 消火栓からの放水</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料プール等のスロッシング</li> </ul> </td><td></td></tr> <tr> <td>▶ 耐震Sクラスを含む水系系統<sup>*1</sup></td><td>▶ 消火栓からの放水</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料プール等のスロッシング</li> </ul> </td><td></td></tr> <tr> <td>▶ 耐震Sクラスを含む高エネルギー一系統</td><td></td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない高エネルギー一系統</li> </ul> </td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※1 油系系統も考慮する。</p> <p>添付資料1</p> <p>表1 発生要因及び評価項目毎に想定する溢水源</p>	想定破損	消火水の放水	地震起因の破損		▶ 耐震Sクラスを含む水系系統 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料プール等のスロッシング</li> </ul>		▶ 耐震Sクラスを含む水系系統 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料プール等のスロッシング</li> </ul>		▶ 耐震Sクラスを含む高エネルギー一系統		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない高エネルギー一系統</li> </ul>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>想定破損</th> <th>消火水の放水</th> <th>地震起因の破損</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>▶ 耐震Sクラスを含む水系系統配管<sup>*1</sup></td><td>▶ 消火栓からの放水</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料ヒット等のスロッシング</li> </ul> </td><td></td></tr> <tr> <td>▶ 耐震Sクラスを含む水系系統配管<sup>*1</sup></td><td>▶ 消火栓からの放水</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料ヒット等のスロッシング</li> </ul> </td><td></td></tr> <tr> <td>▶ 耐震Sクラスを含む高エネルギー配管<sup>*2</sup></td><td></td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して耐震性が確保されない高エネルギー配管<sup>*3</sup></li> </ul> </td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※1 油系系統も考慮する。</p> <p>※2 呼び径25A (1B) を超える配管であって、運転温度が95°Cを超えるか、又は、運転圧力が1.9MPaを超える配管ただし、蒸気の影響については配管径に關係なく評価する</p> <p>※3 蒸気評価の対象となる溢水源の考え方とは設水・被水評価と同じであるが、蒸気を内包する配管として高エネルギー配管を対象とする</p> <p>添付資料1</p> <p>表1 発生要因及び評価項目ごとに想定する溢水源</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設備名称の相違 【女川】 記載方針の相違 泊は、溢水影響評価ガイドの記載を踏まえた蒸気影響評価における高エネルギー配管の取扱いについて、注記に記載している。 【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p>	想定破損	消火水の放水	地震起因の破損		▶ 耐震Sクラスを含む水系系統配管 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料ヒット等のスロッシング</li> </ul>		▶ 耐震Sクラスを含む水系系統配管 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料ヒット等のスロッシング</li> </ul>		▶ 耐震Sクラスを含む高エネルギー配管 <sup>*2</sup>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して耐震性が確保されない高エネルギー配管<sup>*3</sup></li> </ul>	
想定破損	消火水の放水	地震起因の破損																																
▶ 耐震Sクラスを含む水系系統 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料プール等のスロッシング</li> </ul>																																
▶ 耐震Sクラスを含む水系系統 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料プール等のスロッシング</li> </ul>																																
▶ 耐震Sクラスを含む高エネルギー一系統		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動SSに対して、耐震性が確保されていない高エネルギー一系統</li> </ul>																																
想定破損	消火水の放水	地震起因の破損																																
▶ 耐震Sクラスを含む水系系統配管 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料ヒット等のスロッシング</li> </ul>																																
▶ 耐震Sクラスを含む水系系統配管 <sup>*1</sup>	▶ 消火栓からの放水	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して、耐震性が確保されていない水系系統<sup>*1</sup></li> <li>▶ 使用燃料ヒット等のスロッシング</li> </ul>																																
▶ 耐震Sクラスを含む高エネルギー配管 <sup>*2</sup>		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 基準地震動に対して耐震性が確保されない高エネルギー配管<sup>*3</sup></li> </ul>																																

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																						
<p>添付資料1.1</p> <p>溢水源 (原子炉周辺建屋、制御建屋)</p> <p>原子炉周辺建屋、制御建屋における溢水源となりうる機器は以下のとおり。</p>	<p>添付資料2</p> <p>2. 1 溢水源となりうる機器のリスト</p> <p>原子炉建屋原子炉棟、原子炉建屋付属棟、原子炉建屋付属棟(廃棄物処理エリア)、制御建屋、海水ポンプ室、復水貯蔵タンクエリア、軽油タンクエリア、タービン建屋及び補助ボイラー建屋に設置される流体を内包する容器(タンク、熱交換器、空調ユニット等)及び配管を抽出した結果を表1～5に示す。</p>	<p>添付資料2</p> <p>2. 1 溢水源となりうる機器のリスト</p> <p>原子炉建屋、原子炉補助建屋、ディーゼル発電機建屋、循環水泵浦建屋、タービン建屋、出入管理建屋及び電気建屋に設置される流体を内包する容器(タンク、熱交換器、空調ユニット等)及び配管を抽出した結果を表1～5に示す。</p>	<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備及びそれを内包する建屋の違いによる</p>																																																																																																																																																																																																																						
<p>3号炉 原子炉周辺建屋</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th> <th>フロア</th> <th>機器名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E.L.+42.0m</td> <td>3号原子炉補機冷却水サージタンク 配管</td> </tr> <tr> <td>E.L.+39.0m</td> <td>3号樹脂タンク 配管</td> </tr> <tr> <td>E.L.+33.6m</td> <td>3号使用済燃料ピット 配管</td> </tr> <tr> <td>E.L.+26.0m</td> <td>3号冷却材脱塩塔 3号冷却材隔離イオン脱塩塔 3号冷却材脱塩吸入口フィルタ 3号冷却材フィルタ 3号射水注入フィルタ 3号使用済燃料ピット脱塩塔 3号使用済燃料ピットフィルタ 3号プローラクタタンク 3号格納容器冷却却ヒートシート 3号復水ピット 配管</td> </tr> <tr> <td>E.L.+18.5m</td> <td>3号燃料取替用水ピット 配管</td> </tr> <tr> <td>E.L.+17.1m</td> <td>3号射水冷却器 3号液体冷却器 3号1次蒸気ピットタンク 3号ほう酸タンク 3号非再生冷却器 3号燃料冷却器 3号プローラクタ・燃料冷却器 3号安全隔離装置ヒートシート 3号上うず除却水タンク 3号山廻酢酸タンク 3号燃料取替用水ポンプ 配管</td> </tr> <tr> <td>E.L.+10.0m</td> <td>3号使用済燃料ピット冷却器 3号ほう酸タンク 3号格納容器スプレイ冷却器 3号全熱除去冷却器 3号ほう酸フィルタ 3号シリンドラ冷却水タンク 3号燃料冷却水タンク 3号燃料冷却水冷却器 3号清水加熱器 3号ほう酸ポンプ 3号射水ポンプ 3号使用済燃料ピットポンプ 3号電動補助給水ポンプ 3号温水循環ポンプ 3号燃料冷却水ポンプ 配管</td> </tr> </tbody> </table>	建屋	フロア	機器名称	E.L.+42.0m	3号原子炉補機冷却水サージタンク 配管	E.L.+39.0m	3号樹脂タンク 配管	E.L.+33.6m	3号使用済燃料ピット 配管	E.L.+26.0m	3号冷却材脱塩塔 3号冷却材隔離イオン脱塩塔 3号冷却材脱塩吸入口フィルタ 3号冷却材フィルタ 3号射水注入フィルタ 3号使用済燃料ピット脱塩塔 3号使用済燃料ピットフィルタ 3号プローラクタタンク 3号格納容器冷却却ヒートシート 3号復水ピット 配管	E.L.+18.5m	3号燃料取替用水ピット 配管	E.L.+17.1m	3号射水冷却器 3号液体冷却器 3号1次蒸気ピットタンク 3号ほう酸タンク 3号非再生冷却器 3号燃料冷却器 3号プローラクタ・燃料冷却器 3号安全隔離装置ヒートシート 3号上うず除却水タンク 3号山廻酢酸タンク 3号燃料取替用水ポンプ 配管	E.L.+10.0m	3号使用済燃料ピット冷却器 3号ほう酸タンク 3号格納容器スプレイ冷却器 3号全熱除去冷却器 3号ほう酸フィルタ 3号シリンドラ冷却水タンク 3号燃料冷却水タンク 3号燃料冷却水冷却器 3号清水加熱器 3号ほう酸ポンプ 3号射水ポンプ 3号使用済燃料ピットポンプ 3号電動補助給水ポンプ 3号温水循環ポンプ 3号燃料冷却水ポンプ 配管	<p>表1 溢水源となりうる機器リスト(原子炉建屋)(1/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th> <th>管理区域 区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震 クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">原子炉棟</td> <td>B3F</td> <td>RCIC バロメトリックコンデンサー</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>RCIC 真空タンク</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>RCIC 脱滑油冷却器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>回転ポンプモータ軸受冷却器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>回転ポンプメカニカルシール冷却器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>LPCS ポンプメカニカルシール冷却器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>LPCS ポンプ軸受冷却器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>CUE ポンプ冷却器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>R/A LCW サンプ冷却器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>FPMW ポンプ軸受冷却器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>回転(A)室空調機</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>RCIC ポンプ室空調機</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>FPMW ポンプ室空調機</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="14">B2F</td> <td>内</td> <td>CUE 再生熱交換器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>CUE 非再生熱交換器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>LPCS ポンプ室空調機</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>HPCD ポンプ室空調機</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>ORD サクションフィルタ</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>制御床暖房水フィルタ</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>ORD ホンブ室空調機</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>制御床暖房水ポンプ用オイルクーラー</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>PLR ホンブシールバージ柔ら過濾器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>ORD スクラム排出容器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>DC-MCC 2A 室空調機</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>CUE ブリコートタンク</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MBIF</td> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>残留熱除去系熱交換器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">IF</td> <td>内</td> <td>CUE み湯脱炭器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	原子炉棟	B3F	RCIC バロメトリックコンデンサー	S	内	RCIC 真空タンク	S	内	RCIC 脱滑油冷却器	S	内	回転ポンプモータ軸受冷却器	S	内	回転ポンプメカニカルシール冷却器	S	内	LPCS ポンプメカニカルシール冷却器	S	内	LPCS ポンプ軸受冷却器	S	内	CUE ポンプ冷却器	B	内	R/A LCW サンプ冷却器	B	内	FPMW ポンプ軸受冷却器	B	内	回転(A)室空調機	S	内	RCIC ポンプ室空調機	S	内	FPMW ポンプ室空調機	S	内	配管	—	B2F	内	CUE 再生熱交換器	B	内	CUE 非再生熱交換器	B	内	LPCS ポンプ室空調機	S	内	HPCD ポンプ室空調機	S	内	ORD サクションフィルタ	B	内	制御床暖房水フィルタ	B	内	ORD ホンブ室空調機	B	内	制御床暖房水ポンプ用オイルクーラー	B	内	PLR ホンブシールバージ柔ら過濾器	B	内	配管	—	内	ORD スクラム排出容器	B	内	DC-MCC 2A 室空調機	S	内	CUE ブリコートタンク	B	内	配管	—	MBIF	内	配管	—	内	残留熱除去系熱交換器	S	IF	内	CUE み湯脱炭器	B	内	配管	—	<p>表1 溢水源となりうる機器リスト(原子炉建屋)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th> <th>管理区域 区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震 クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">原子炉建屋</td> <td>外</td> <td>原子炉補機冷却水冷却器</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>原子炉補機冷却水冷却器海水入口ストレーナー</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>薬液混合タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>空調用冷凍機</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>空調用冷水ポンプ</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>ガス圧縮装置</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>魔ガス除湿装置</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>使用済燃料ピット冷却器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>使用済燃料ピットポンプ</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">T.P. 10.3m</td> <td>内</td> <td>1次系補給水ポンプ</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>燃料油サービスタンク</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>非再生冷却器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>サンブル冷却器</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>プローダウンサンブル</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>1次系純水タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内・外</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>格納容器周囲ガスサンブル冷却器</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>燃料取替用水加熱器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">T.P. 24.8m</td> <td>内</td> <td>プローダウンサンブル冷却器</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>飲料水タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">T.P. 33.1m</td> <td>外</td> <td>原子炉補機冷却水サージタンク</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>空調用冷水膨張タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">T.P. 43.6m</td> <td>外</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	原子炉建屋	外	原子炉補機冷却水冷却器	S	外	原子炉補機冷却水冷却器海水入口ストレーナー	S	外	薬液混合タンク	C	外	空調用冷凍機	C	外	空調用冷水ポンプ	C	外	配管	—	内	ガス圧縮装置	B	内	魔ガス除湿装置	B	内	使用済燃料ピット冷却器	B	内	使用済燃料ピットポンプ	B	T.P. 10.3m	内	1次系補給水ポンプ	C	内	配管	—	外	燃料油サービスタンク	S	内	非再生冷却器	B	内	サンブル冷却器	C	内	プローダウンサンブル	C	内	1次系純水タンク	C	内・外	配管	—	内	格納容器周囲ガスサンブル冷却器	C	内	燃料取替用水加熱器	B	T.P. 24.8m	内	プローダウンサンブル冷却器	C	内	配管	—	外	飲料水タンク	C	外	配管	—	T.P. 33.1m	外	原子炉補機冷却水サージタンク	S	外	空調用冷水膨張タンク	C	T.P. 43.6m	外	配管	—	内	配管	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内容する設備の違いによる</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川審査実績の反映</p>
建屋	フロア	機器名称																																																																																																																																																																																																																							
E.L.+42.0m	3号原子炉補機冷却水サージタンク 配管																																																																																																																																																																																																																								
E.L.+39.0m	3号樹脂タンク 配管																																																																																																																																																																																																																								
E.L.+33.6m	3号使用済燃料ピット 配管																																																																																																																																																																																																																								
E.L.+26.0m	3号冷却材脱塩塔 3号冷却材隔離イオン脱塩塔 3号冷却材脱塩吸入口フィルタ 3号冷却材フィルタ 3号射水注入フィルタ 3号使用済燃料ピット脱塩塔 3号使用済燃料ピットフィルタ 3号プローラクタタンク 3号格納容器冷却却ヒートシート 3号復水ピット 配管																																																																																																																																																																																																																								
E.L.+18.5m	3号燃料取替用水ピット 配管																																																																																																																																																																																																																								
E.L.+17.1m	3号射水冷却器 3号液体冷却器 3号1次蒸気ピットタンク 3号ほう酸タンク 3号非再生冷却器 3号燃料冷却器 3号プローラクタ・燃料冷却器 3号安全隔離装置ヒートシート 3号上うず除却水タンク 3号山廻酢酸タンク 3号燃料取替用水ポンプ 配管																																																																																																																																																																																																																								
E.L.+10.0m	3号使用済燃料ピット冷却器 3号ほう酸タンク 3号格納容器スプレイ冷却器 3号全熱除去冷却器 3号ほう酸フィルタ 3号シリンドラ冷却水タンク 3号燃料冷却水タンク 3号燃料冷却水冷却器 3号清水加熱器 3号ほう酸ポンプ 3号射水ポンプ 3号使用済燃料ピットポンプ 3号電動補助給水ポンプ 3号温水循環ポンプ 3号燃料冷却水ポンプ 配管																																																																																																																																																																																																																								
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																																																																																						
原子炉棟	B3F	RCIC バロメトリックコンデンサー	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	RCIC 真空タンク	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	RCIC 脱滑油冷却器	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	回転ポンプモータ軸受冷却器	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	回転ポンプメカニカルシール冷却器	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	LPCS ポンプメカニカルシール冷却器	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	LPCS ポンプ軸受冷却器	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	CUE ポンプ冷却器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	R/A LCW サンプ冷却器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	FPMW ポンプ軸受冷却器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	回転(A)室空調機	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	RCIC ポンプ室空調機	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	FPMW ポンプ室空調機	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
B2F	内	CUE 再生熱交換器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	CUE 非再生熱交換器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	LPCS ポンプ室空調機	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	HPCD ポンプ室空調機	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	ORD サクションフィルタ	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	制御床暖房水フィルタ	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	ORD ホンブ室空調機	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	制御床暖房水ポンプ用オイルクーラー	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	PLR ホンブシールバージ柔ら過濾器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	内	ORD スクラム排出容器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	DC-MCC 2A 室空調機	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	CUE ブリコートタンク	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
MBIF	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	内	残留熱除去系熱交換器	S																																																																																																																																																																																																																						
IF	内	CUE み湯脱炭器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																																																																																						
原子炉建屋	外	原子炉補機冷却水冷却器	S																																																																																																																																																																																																																						
	外	原子炉補機冷却水冷却器海水入口ストレーナー	S																																																																																																																																																																																																																						
	外	薬液混合タンク	C																																																																																																																																																																																																																						
	外	空調用冷凍機	C																																																																																																																																																																																																																						
	外	空調用冷水ポンプ	C																																																																																																																																																																																																																						
	外	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	内	ガス圧縮装置	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	魔ガス除湿装置	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	使用済燃料ピット冷却器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	使用済燃料ピットポンプ	B																																																																																																																																																																																																																						
T.P. 10.3m	内	1次系補給水ポンプ	C																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	外	燃料油サービスタンク	S																																																																																																																																																																																																																						
	内	非再生冷却器	B																																																																																																																																																																																																																						
	内	サンブル冷却器	C																																																																																																																																																																																																																						
	内	プローダウンサンブル	C																																																																																																																																																																																																																						
	内	1次系純水タンク	C																																																																																																																																																																																																																						
	内・外	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	内	格納容器周囲ガスサンブル冷却器	C																																																																																																																																																																																																																						
	内	燃料取替用水加熱器	B																																																																																																																																																																																																																						
T.P. 24.8m	内	プローダウンサンブル冷却器	C																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	外	飲料水タンク	C																																																																																																																																																																																																																						
	外	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
T.P. 33.1m	外	原子炉補機冷却水サージタンク	S																																																																																																																																																																																																																						
	外	空調用冷水膨張タンク	C																																																																																																																																																																																																																						
T.P. 43.6m	外	配管	—																																																																																																																																																																																																																						
	内	配管	—																																																																																																																																																																																																																						

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

## 第9条 溢水による損傷の防止等(別添1添付資料2)

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由		
建屋	プロア	機器名称	表1 溢水源となりうる機器リスト(原子炉建屋) (2/5)								
			設置場所	管理区域	機器名称	耐震					
3号炉 原子炉 周辺建屋	E.L.+3.5m	3号清水冷却器	原子炉建屋	1F	内 燃料プール冷却浄化系熱交換器	B				【女川】	記載表現の相違
		3号潤滑油冷却器			内 R/A MSトンネル室空調機	B					
		3号余熱除去ポンプ			内 CRD自動交換機制御室ファンコイルユニット	B					
		3号高生注入ポンプ			内 ISI及びPCV LT室ファンコイルユニット	B					
		3号格納容器スプレイポンプ			内 HPCポンプ室空調機	S					
		3号ターピン動補助給水ポンプ			内 HPCブリコートタンク	B					
		配管			内 配管	-					
		E.L.+42.0m			外 配管	-					
		4号樹脂タンク			内 ほう酸水注入系貯蔵タンク	S					
		配管			内 ほう酸水注入系テストタンク	C					
		E.L.+39.0m			内 燃料プール冷却浄化系ろ過脱塩器	B					
		配管			内 CAMSサンプリングラック除湿機・冷却器	S					
		E.L.+33.6m			内 CAMS室空調機	S					
		配管			内 SGTS室空調機	S					
		E.L.+26.0m			内 FCS室空調機	S					
		4号冷却材温床式脱塩塔			内 HPCWサージタンク	S					
		4号冷却材陽イオン脱塩塔			内 配管	-					
		4号冷却材脱塩塔入口フィルタ		付属棟	内 配管	-					
		4号冷却材フィルタ			内 燃料交換機制御室空調機	C					
		4号封水注入フィルタ			内 燃料交換機制御室給気加熱コイル	C					
		4号使用済燃料ビット脱塩塔			内 所内温水系サージタンク	C					
		4号使用済燃料ビットフィルタ			内 RCWサージタンク	S					
		4号ブローダウンタンク			内 配管	-					
		4号格納容器冷却ユニット			内 HNCWサージタンク	B					
		4号復水ビット			内 配管	-					
		配管			外 RCW熱交換器	S					
		E.L.+18.5m			外 RCW防食剤添加タンク(A)	C					
		4号燃料取替用水ビット			外 RCW防食剤添加タンク(B)	C					
		配管			外 RCWポンプ(A)室空調機	S					
		E.L.+17.1m			外 RCWポンプ(B)室空調機	S					
		4号封水冷却器			外 RSWストレーナ	S					
		4号体積制御タンク			外 HPCW防食剤添加タンク	C					
		4号1次系薬品タンク			外 HPCW熱交換器	S					
		4号ほう酸補給タンク			外 配管	-					
		4号非再生冷却器			外 PLR電源装置室空調機	C					
		4号試料冷却器			外 PLR-VVF冷却器	C					
		4号ブローダウン試料冷却器			外 IA・SA用補機室空調機	C					

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由
建屋	フロア	機器名称	表1 溢水源となりうる機器リスト(原子炉建屋) (3/5)						
4号炉 原子炉 周辺建屋	E.L.+10.0m	4号使用済燃料ピット冷却器	設置場所	管理区域	機器名称	耐震 クラス	【女川】		
		4号ほう酸タンク	B2F	外	IA中間冷却器	C	記載表現の相違		
		4号格納容器スプレイ冷却器		外	IA空気圧縮機	C	設計方針の相違		
		4号余熱除去冷却器		外	IA後部冷却器	C	流体を内包する設備の違いによる		
		4号ほう酸フィルタ		外	SA空気圧縮機	C			
		4号シリンドラ冷却水タンク		外	SA中間冷却器	C			
		4号燃料弁冷却水タンク		外	SA後部冷却器	C			
		4号燃料弁冷却水冷却器		外	配管	—			
		4号清水加熱器		外	DG潤滑油冷却器	S			
		4号ほう酸ポンプ		外	DG潤滑油加熱器	S			
	4号充てんポンプ	外		DG清水冷却器	S				
	4号使用済燃料ピットポンプ	外		DG清水加熱器	S				
	4号電動補助給水ポンプ	外		配管	—				
	4号温水循環ポンプ	E.L.+3.5m	4号燃料弁冷却水ポンプ	外	DG機関付空気冷却器(R側)	S	【大飯】		
	4号タービン動補助給水ポンプ		外	DG機関付空気冷却器(L側)	S	記載方針の相違			
	配管		外	HPCSDG 機関付空気冷却器	S	女川審査実績の反映			
4号清水冷却器	外		DG清水膨張タンク	S					
4号潤滑油冷却器	外		DG潤滑油サンプルタンク	S					
4号余熱除去ポンプ	外		DG燃料油ドレンタンク	C					
4号高圧注入ポンプ	E.L.+40.5m	4号格納容器スプレイポンプ	外	DG機関付動弁注油タンク	S				
4号タービン動補助給水ポンプ		外	HPCSDG 潤滑油冷却器	S					
配管		外	HPCSDG 潤滑油加熱器	S					
安全補機開閉器室空調ユニット		外	HPCSDG 発電機軸受潤滑油冷却器	S					
3号中央制御室空調ユニット		外	HPCSDG 清水冷却器	S					
4号中央制御室空調ユニット		外	HPCSDG 清水加熱器	S					
放射線管理室冷却ユニット		外	HPCSDG 清水膨張タンク	S					
出入管理室温水タンク		外	HPCSDG 清水潤滑油補給タンク	C					
出入管理室温水ポンプ		外	HPCSDG 燃料油ドレンタンク	C					
配管		外	所内温水系防食剤添加タンク	C					
3号空調用冷凍機	E.L.+10.0m	3号空調用冷水ポンプ	外	所内温水系温水热交換器	C				
4号空調用冷凍機		外	所内温水系バッカアップ热交換器	C					
3号空調用冷水ポンプ		外	配管	—					
4号空調用冷水ポンプ		外	T/B給気冷却加熱コイル	C					
配管		外	送風機室空調機	C					
3号原子炉補機冷却水冷却器		外	R/A給気冷却加熱コイル	C					
4号原子炉補機冷却水冷却器		外	HECW冷凍機	S					
3号原子炉補機冷却水ポンプ	E.L.+7.0m	4号原子炉補機冷却水ポンプ	外	HECW防食剤添加タンク	S				
4号原子炉補機冷却水ポンプ		外	HECWサージタンク	S					
配管									

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 濫水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																											
	<p style="text-align: center;"><b>表1 濫水源となりうる機器リスト(原子炉建屋) (4/5)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th> <th>管理区域 区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震 クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">付属棟 (廃棄物 処理エリ ア)</td> <td rowspan="10">2F B3F M3F B2F</td> <td>原子炉補機(A) 室給気冷却コイル</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機(B) 室給気冷却コイル</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機(A) 室給気加熱コイル</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機(B) 室給気加熱コイル</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>原子炉補機(HCS) 室給気加熱コイル</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>DG燃料ディタンク</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>HPCSDG燃料ディタンク</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>HOW収集タンク(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HOW収集タンク(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HOW収集タンク(C)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>濃縮廃液貯蔵タンク(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>濃縮廃液貯蔵タンク(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>濃縮廃液貯蔵タンク(C)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>COWシール水タンク</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>HOW調整タンク</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HOWサンブルタンク(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HOWサンブルタンク(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>SD収集タンク(A)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>SD収集タンク(B)</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>浄化系沈降分離槽(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>浄化系沈降分離槽(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>使用清掃脂貯蔵槽(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>使用清掃脂貯蔵槽(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>淡水回取装置コンデンサ</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>復水回取装置フラッシュタンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>LOW収集槽(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>LLOW収集槽(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>LLOWサンブル槽(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>LLOWサンブル槽(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>HOW蒸発濃縮装置加熱器(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HOW蒸発濃縮装置加熱器(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	付属棟 (廃棄物 処理エリ ア)	2F B3F M3F B2F	原子炉補機(A) 室給気冷却コイル	S	原子炉補機(B) 室給気冷却コイル	S	原子炉補機(A) 室給気加熱コイル	C	原子炉補機(B) 室給気加熱コイル	C	原子炉補機(HCS) 室給気加熱コイル	C	DG燃料ディタンク	S	HPCSDG燃料ディタンク	S	配管	—	HOW収集タンク(A)	B	HOW収集タンク(B)	B	HOW収集タンク(C)	B	濃縮廃液貯蔵タンク(A)	B	濃縮廃液貯蔵タンク(B)	B	濃縮廃液貯蔵タンク(C)	B	COWシール水タンク	B	配管	—	HOW調整タンク	B	HOWサンブルタンク(A)	B	HOWサンブルタンク(B)	B	SD収集タンク(A)	C	SD収集タンク(B)	C	浄化系沈降分離槽(A)	B	浄化系沈降分離槽(B)	B	使用清掃脂貯蔵槽(A)	B	使用清掃脂貯蔵槽(B)	B	淡水回取装置コンデンサ	C	復水回取装置フラッシュタンク	C	LOW収集槽(A)	B	LLOW収集槽(B)	B	LLOWサンブル槽(A)	B	LLOWサンブル槽(B)	B	配管	—	HOW蒸発濃縮装置加熱器(A)	B	HOW蒸発濃縮装置加熱器(B)	B	配管	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																											
付属棟 (廃棄物 処理エリ ア)	2F B3F M3F B2F	原子炉補機(A) 室給気冷却コイル	S																																																																											
		原子炉補機(B) 室給気冷却コイル	S																																																																											
		原子炉補機(A) 室給気加熱コイル	C																																																																											
		原子炉補機(B) 室給気加熱コイル	C																																																																											
		原子炉補機(HCS) 室給気加熱コイル	C																																																																											
		DG燃料ディタンク	S																																																																											
		HPCSDG燃料ディタンク	S																																																																											
		配管	—																																																																											
		HOW収集タンク(A)	B																																																																											
		HOW収集タンク(B)	B																																																																											
HOW収集タンク(C)	B																																																																													
濃縮廃液貯蔵タンク(A)	B																																																																													
濃縮廃液貯蔵タンク(B)	B																																																																													
濃縮廃液貯蔵タンク(C)	B																																																																													
COWシール水タンク	B																																																																													
配管	—																																																																													
HOW調整タンク	B																																																																													
HOWサンブルタンク(A)	B																																																																													
HOWサンブルタンク(B)	B																																																																													
SD収集タンク(A)	C																																																																													
SD収集タンク(B)	C																																																																													
浄化系沈降分離槽(A)	B																																																																													
浄化系沈降分離槽(B)	B																																																																													
使用清掃脂貯蔵槽(A)	B																																																																													
使用清掃脂貯蔵槽(B)	B																																																																													
淡水回取装置コンデンサ	C																																																																													
復水回取装置フラッシュタンク	C																																																																													
LOW収集槽(A)	B																																																																													
LLOW収集槽(B)	B																																																																													
LLOWサンブル槽(A)	B																																																																													
LLOWサンブル槽(B)	B																																																																													
配管	—																																																																													
HOW蒸発濃縮装置加熱器(A)	B																																																																													
HOW蒸発濃縮装置加熱器(B)	B																																																																													
配管	—																																																																													

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 濫水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																															
	<p>表1 濫水源となりうる機器リスト(原子炉建屋) (5/5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th> <th>管理区域 区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震 クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">付翼棟 (廃棄物 処理エリ ア)</td> <td rowspan="10">B1F</td> <td>HCW蒸発濃縮装置蒸発缶(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HCW蒸発濃縮装置蒸発缶(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HCW蒸発濃縮装置デミスター(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HCW蒸発濃縮装置デミスター(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HCW蒸発濃縮装置復水器(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>HCW蒸発濃縮装置復水器(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>中和槽タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>中和硫酸タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">1F</td> <td>内</td> <td>LCWろ過器(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>LCWろ過器(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>LCW脱塩器(A)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>LCW脱塩器(B)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>HCW脱塩器</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>RW制御室給気冷却コイル</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>混合槽空調機</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>廃棄物処理系制御室換気空調系冷水供給装置 膨張タンク</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>RW制御室給気加熱コイル</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内・外</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2F</td> <td>内</td> <td>排風機室空調機</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>内</td> <td>配管</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	付翼棟 (廃棄物 処理エリ ア)	B1F	HCW蒸発濃縮装置蒸発缶(A)	B	HCW蒸発濃縮装置蒸発缶(B)	B	HCW蒸発濃縮装置デミスター(A)	B	HCW蒸発濃縮装置デミスター(B)	B	HCW蒸発濃縮装置復水器(A)	B	HCW蒸発濃縮装置復水器(B)	B	中和槽タンク	C	中和硫酸タンク	C	配管	—			1F	内	LCWろ過器(A)	B	内	LCWろ過器(B)	B	内	LCW脱塩器(A)	B	内	LCW脱塩器(B)	B	内	HCW脱塩器	B	外	RW制御室給気冷却コイル	C	内	混合槽空調機	C	外	廃棄物処理系制御室換気空調系冷水供給装置 膨張タンク	C	外	RW制御室給気加熱コイル	C	内・外	配管	—	2F	内	排風機室空調機	C	内	配管	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																															
付翼棟 (廃棄物 処理エリ ア)	B1F	HCW蒸発濃縮装置蒸発缶(A)	B																																																															
		HCW蒸発濃縮装置蒸発缶(B)	B																																																															
		HCW蒸発濃縮装置デミスター(A)	B																																																															
		HCW蒸発濃縮装置デミスター(B)	B																																																															
		HCW蒸発濃縮装置復水器(A)	B																																																															
		HCW蒸発濃縮装置復水器(B)	B																																																															
		中和槽タンク	C																																																															
		中和硫酸タンク	C																																																															
		配管	—																																																															
1F	内	LCWろ過器(A)	B																																																															
	内	LCWろ過器(B)	B																																																															
	内	LCW脱塩器(A)	B																																																															
	内	LCW脱塩器(B)	B																																																															
	内	HCW脱塩器	B																																																															
	外	RW制御室給気冷却コイル	C																																																															
	内	混合槽空調機	C																																																															
	外	廃棄物処理系制御室換気空調系冷水供給装置 膨張タンク	C																																																															
	外	RW制御室給気加熱コイル	C																																																															
	内・外	配管	—																																																															
2F	内	排風機室空調機	C																																																															
	内	配管	—																																																															

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 濫水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																										
	<p>表2 濫水源となりうる機器リスト (制御建屋)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th> <th>管理区域 区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震 クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="10">制御建屋</td><td rowspan="7">B2F</td><td>常用電気品室給気冷却加熱コイル</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>S</td></tr> <tr><td>中央制御室給気冷却コイル</td><td>S</td></tr> <tr><td>外</td><td>S</td></tr> <tr><td>計測制御(A)室給気冷却コイル</td><td>S</td></tr> <tr><td>外</td><td>S</td></tr> <tr><td>計測制御(B)室給気冷却コイル</td><td>S</td></tr> <tr><td>外</td><td>C</td></tr> <tr><td>中央制御室給気加熱コイル</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>C</td></tr> <tr><td>計測制御電源室給気加熱コイル</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="4">ME2F</td><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>B1F</td><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>IF</td><td>外</td><td>入退城エリア(クリーン)空調機</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>脱衣エリアファンコイルユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>下足エリアファンコイルユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内・外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="3">2F</td><td>外</td><td>女性用更衣室エリアファンコイルユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>女性用脱衣手洗いエリアファンコイルユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td>内・外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> </tbody> </table> <p>表2 濫水源となりうる機器リスト (原子炉補助建屋) (1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th> <th>管理区域 区分</th> <th>機器名称</th> <th>耐震 クラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="10">原子炉補助建屋</td><td rowspan="7">T.P.-1, 7m</td><td>洗浄排水タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>洗浄排水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>洗浄排水フィルタ</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>補助蒸気復水モニタ冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>補助蒸気ドレンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>補助蒸気ドレンポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="10">T.P. 2, 8m</td><td>内</td><td>冷却材貯蔵タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>廃液蒸留水タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>廃液蒸留水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>洗浄排水蒸留水タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>洗浄排水蒸留水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>酸液ドレンタンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>酸液ドレンポンプ</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>使用済樹脂貯蔵タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>ほう酸回収装置給水ポンプ</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>廃液給水ポンプ</td><td>B</td></tr> <tr><td rowspan="7">T.P. 10, 3m</td><td>内</td><td>酸液ドレンタンクが性ソーダ計量タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>安全補機室冷却ユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>内</td><td>上う素除去薬品タンク</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>封水冷却器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>ほう酸回収装置</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>重鉛注入装置</td><td>B</td></tr> <tr><td rowspan="5">T.P. 17, 8m</td><td>内</td><td>余熱除去冷却器</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>格納容器スプレイ冷却器</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>pH調整剤貯蔵タンク</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>内</td><td>ほう酸注入タンク</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>ほう酸タンク</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>ほう酸フィルタ</td><td>S</td></tr> <tr><td>内</td><td>冷却材混床式脱塩塔</td><td>B</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	制御建屋	B2F	常用電気品室給気冷却加熱コイル	C	外	S	中央制御室給気冷却コイル	S	外	S	計測制御(A)室給気冷却コイル	S	外	S	計測制御(B)室給気冷却コイル	S	外	C	中央制御室給気加熱コイル	C	外	C	計測制御電源室給気加熱コイル	C	外	—	ME2F	外	配管	—	外	配管	—	B1F	外	配管	—	IF	外	入退城エリア(クリーン)空調機	C		内	脱衣エリアファンコイルユニット	C		内	下足エリアファンコイルユニット	C		内・外	配管	—	2F	外	女性用更衣室エリアファンコイルユニット	C	内	女性用脱衣手洗いエリアファンコイルユニット	C	内・外	配管	—	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	原子炉補助建屋	T.P.-1, 7m	洗浄排水タンク	C	内	洗浄排水ポンプ	C	内	洗浄排水フィルタ	C	内	補助蒸気復水モニタ冷却器	C	内	補助蒸気ドレンタンク	C	内	補助蒸気ドレンポンプ	C	内	配管	—	T.P. 2, 8m	内	冷却材貯蔵タンク	B	内	廃液蒸留水タンク	C	内	廃液蒸留水ポンプ	C	内	洗浄排水蒸留水タンク	C	内	洗浄排水蒸留水ポンプ	C	内	酸液ドレンタンク	B	内	酸液ドレンポンプ	B	内	使用済樹脂貯蔵タンク	B	内	ほう酸回収装置給水ポンプ	B	内	廃液給水ポンプ	B	T.P. 10, 3m	内	酸液ドレンタンクが性ソーダ計量タンク	C	内	安全補機室冷却ユニット	C	内	配管	—	内	上う素除去薬品タンク	S	内	封水冷却器	B	内	ほう酸回収装置	B	内	重鉛注入装置	B	T.P. 17, 8m	内	余熱除去冷却器	S	内	格納容器スプレイ冷却器	S	内	pH調整剤貯蔵タンク	S	内	配管	—	内	ほう酸注入タンク	S	内	ほう酸タンク	S	内	ほう酸フィルタ	S	内	冷却材混床式脱塩塔	B	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																																										
制御建屋	B2F	常用電気品室給気冷却加熱コイル	C																																																																																																																																																																										
		外	S																																																																																																																																																																										
		中央制御室給気冷却コイル	S																																																																																																																																																																										
		外	S																																																																																																																																																																										
		計測制御(A)室給気冷却コイル	S																																																																																																																																																																										
		外	S																																																																																																																																																																										
		計測制御(B)室給気冷却コイル	S																																																																																																																																																																										
	外	C																																																																																																																																																																											
	中央制御室給気加熱コイル	C																																																																																																																																																																											
	外	C																																																																																																																																																																											
計測制御電源室給気加熱コイル	C																																																																																																																																																																												
外	—																																																																																																																																																																												
ME2F	外	配管	—																																																																																																																																																																										
	外	配管	—																																																																																																																																																																										
	B1F	外	配管	—																																																																																																																																																																									
	IF	外	入退城エリア(クリーン)空調機	C																																																																																																																																																																									
	内	脱衣エリアファンコイルユニット	C																																																																																																																																																																										
	内	下足エリアファンコイルユニット	C																																																																																																																																																																										
	内・外	配管	—																																																																																																																																																																										
2F	外	女性用更衣室エリアファンコイルユニット	C																																																																																																																																																																										
	内	女性用脱衣手洗いエリアファンコイルユニット	C																																																																																																																																																																										
	内・外	配管	—																																																																																																																																																																										
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																																										
原子炉補助建屋	T.P.-1, 7m	洗浄排水タンク	C																																																																																																																																																																										
		内	洗浄排水ポンプ	C																																																																																																																																																																									
		内	洗浄排水フィルタ	C																																																																																																																																																																									
		内	補助蒸気復水モニタ冷却器	C																																																																																																																																																																									
		内	補助蒸気ドレンタンク	C																																																																																																																																																																									
		内	補助蒸気ドレンポンプ	C																																																																																																																																																																									
		内	配管	—																																																																																																																																																																									
	T.P. 2, 8m	内	冷却材貯蔵タンク	B																																																																																																																																																																									
		内	廃液蒸留水タンク	C																																																																																																																																																																									
		内	廃液蒸留水ポンプ	C																																																																																																																																																																									
内		洗浄排水蒸留水タンク	C																																																																																																																																																																										
内		洗浄排水蒸留水ポンプ	C																																																																																																																																																																										
内		酸液ドレンタンク	B																																																																																																																																																																										
内		酸液ドレンポンプ	B																																																																																																																																																																										
内		使用済樹脂貯蔵タンク	B																																																																																																																																																																										
内		ほう酸回収装置給水ポンプ	B																																																																																																																																																																										
内		廃液給水ポンプ	B																																																																																																																																																																										
T.P. 10, 3m	内	酸液ドレンタンクが性ソーダ計量タンク	C																																																																																																																																																																										
	内	安全補機室冷却ユニット	C																																																																																																																																																																										
	内	配管	—																																																																																																																																																																										
	内	上う素除去薬品タンク	S																																																																																																																																																																										
	内	封水冷却器	B																																																																																																																																																																										
	内	ほう酸回収装置	B																																																																																																																																																																										
	内	重鉛注入装置	B																																																																																																																																																																										
T.P. 17, 8m	内	余熱除去冷却器	S																																																																																																																																																																										
	内	格納容器スプレイ冷却器	S																																																																																																																																																																										
	内	pH調整剤貯蔵タンク	S																																																																																																																																																																										
	内	配管	—																																																																																																																																																																										
	内	ほう酸注入タンク	S																																																																																																																																																																										
内	ほう酸タンク	S																																																																																																																																																																											
内	ほう酸フィルタ	S																																																																																																																																																																											
内	冷却材混床式脱塩塔	B																																																																																																																																																																											

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 濫水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																				
		<p>表2 濫水源となりうる機器リスト (原子炉補助建屋) (2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> <tr> <th>建屋</th><th>プロア</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>T.P. 17, 8m</td><td>内</td><td>冷却材陽イオン脱塩塔</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>冷却材脱塩塔入口フィルタ</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>冷却材フィルタ</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>体積制御タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>ほう酸回収装置混床式脱塩塔</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>ほう酸回収装置陽イオン脱塩塔</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>ほう酸回収装置脱塩塔フィルタ</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>1次系薬品タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>洗浄排水濃縮廃液タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>洗浄排水濃縮廃液ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>濃縮廃液タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>濃縮廃液ポンプ</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>廃液フィルタ</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>廃液蒸留水脱塩塔</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>使用済燃料ピット脱塩塔</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>使用済燃料ピットフィルタ</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>廃液貯蔵ピットか性ソーダ計量タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>廃液蒸発装置</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>洗浄排水蒸発装置</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内</td><td>洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ注入装置</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>外</td><td>安全補機開閉器室給気ユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>外</td><td>中央制御室給気ユニット</td><td>S</td></tr> <tr><td></td><td>外</td><td>試料採取室給気ユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>外</td><td>出入管理室冷却ユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内・外</td><td>ほう酸補給タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>内・外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>T.P. 33, 1m</td><td>内</td><td>樹脂タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td></td><td>外</td><td>1次系か性ソーダタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>T.P. 2, 8m ～24, 8m</td><td>内・外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>T.P. 2, 8m ～24, 8m</td><td>内</td><td>セメント固化装置</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	建屋	プロア			T.P. 17, 8m	内	冷却材陽イオン脱塩塔	B		内	冷却材脱塩塔入口フィルタ	B		内	冷却材フィルタ	B		内	体積制御タンク	B		内	ほう酸回収装置混床式脱塩塔	B		内	ほう酸回収装置陽イオン脱塩塔	B		内	ほう酸回収装置脱塩塔フィルタ	B		内	1次系薬品タンク	B		内	洗浄排水濃縮廃液タンク	C		内	洗浄排水濃縮廃液ポンプ	C		内	濃縮廃液タンク	B		内	濃縮廃液ポンプ	B		内	廃液フィルタ	B		内	廃液蒸留水脱塩塔	C		内	使用済燃料ピット脱塩塔	B		内	使用済燃料ピットフィルタ	B		内	配管	—		内	廃液貯蔵ピットか性ソーダ計量タンク	C		内	廃液蒸発装置	C		内	洗浄排水蒸発装置	C		内	洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ注入装置	C		外	安全補機開閉器室給気ユニット	C		外	中央制御室給気ユニット	S		外	試料採取室給気ユニット	C		外	出入管理室冷却ユニット	C		内・外	ほう酸補給タンク	C		内・外	配管	—	T.P. 33, 1m	内	樹脂タンク	B		外	1次系か性ソーダタンク	C	T.P. 2, 8m ～24, 8m	内・外	配管	—	T.P. 2, 8m ～24, 8m	内	セメント固化装置	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																				
建屋	プロア																																																																																																																																						
T.P. 17, 8m	内	冷却材陽イオン脱塩塔	B																																																																																																																																				
	内	冷却材脱塩塔入口フィルタ	B																																																																																																																																				
	内	冷却材フィルタ	B																																																																																																																																				
	内	体積制御タンク	B																																																																																																																																				
	内	ほう酸回収装置混床式脱塩塔	B																																																																																																																																				
	内	ほう酸回収装置陽イオン脱塩塔	B																																																																																																																																				
	内	ほう酸回収装置脱塩塔フィルタ	B																																																																																																																																				
	内	1次系薬品タンク	B																																																																																																																																				
	内	洗浄排水濃縮廃液タンク	C																																																																																																																																				
	内	洗浄排水濃縮廃液ポンプ	C																																																																																																																																				
	内	濃縮廃液タンク	B																																																																																																																																				
	内	濃縮廃液ポンプ	B																																																																																																																																				
	内	廃液フィルタ	B																																																																																																																																				
	内	廃液蒸留水脱塩塔	C																																																																																																																																				
	内	使用済燃料ピット脱塩塔	B																																																																																																																																				
	内	使用済燃料ピットフィルタ	B																																																																																																																																				
	内	配管	—																																																																																																																																				
	内	廃液貯蔵ピットか性ソーダ計量タンク	C																																																																																																																																				
	内	廃液蒸発装置	C																																																																																																																																				
	内	洗浄排水蒸発装置	C																																																																																																																																				
	内	洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ注入装置	C																																																																																																																																				
	外	安全補機開閉器室給気ユニット	C																																																																																																																																				
	外	中央制御室給気ユニット	S																																																																																																																																				
	外	試料採取室給気ユニット	C																																																																																																																																				
	外	出入管理室冷却ユニット	C																																																																																																																																				
	内・外	ほう酸補給タンク	C																																																																																																																																				
	内・外	配管	—																																																																																																																																				
T.P. 33, 1m	内	樹脂タンク	B																																																																																																																																				
	外	1次系か性ソーダタンク	C																																																																																																																																				
T.P. 2, 8m ～24, 8m	内・外	配管	—																																																																																																																																				
T.P. 2, 8m ～24, 8m	内	セメント固化装置	—																																																																																																																																				
		<p>表3 濫水源となりうる機器リスト(海水ポンプ室、復水貯蔵タンクエリア及び軽油タンクエリア)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> <tr> <th>建屋</th><th>プロア</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>海水ポンプ室</td><td>—</td><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>復水貯蔵タンクエリア</td><td>—</td><td>内</td><td>復水貯蔵タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>軽油タンクエリア</td><td>—</td><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>軽油タンクエリア</td><td>—</td><td>外</td><td>軽油タンク</td><td>S</td></tr> <tr><td>軽油タンクエリア</td><td>—</td><td>外</td><td>配管</td><td>S</td></tr> </tbody> </table> <p>表3 濫水源となりうる機器リスト (ディーゼル発電機建屋、循環水ポンプ建屋)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> <tr> <th>建屋</th><th>プロア</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>ディーゼル発電機建屋</td><td>—</td><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td></td><td>T.P. 10, 3m 以下</td><td>外</td><td>原子炉補機冷却海水ポンプ出口ストレーナー</td><td>S</td></tr> <tr><td></td><td>T.P. 10, 3m</td><td>外</td><td>海水電解装置</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>—</td><td>外</td><td>海水淡化化設備</td><td>C</td></tr> <tr><td></td><td>—</td><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	建屋	プロア			海水ポンプ室	—	外	配管	—	復水貯蔵タンクエリア	—	内	復水貯蔵タンク	B	軽油タンクエリア	—	内	配管	—	軽油タンクエリア	—	外	軽油タンク	S	軽油タンクエリア	—	外	配管	S	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	建屋	プロア			ディーゼル発電機建屋	—	外	配管	—		T.P. 10, 3m 以下	外	原子炉補機冷却海水ポンプ出口ストレーナー	S		T.P. 10, 3m	外	海水電解装置	C		—	外	海水淡化化設備	C		—	外	配管	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>																																																																		
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																				
建屋	プロア																																																																																																																																						
海水ポンプ室	—	外	配管	—																																																																																																																																			
復水貯蔵タンクエリア	—	内	復水貯蔵タンク	B																																																																																																																																			
軽油タンクエリア	—	内	配管	—																																																																																																																																			
軽油タンクエリア	—	外	軽油タンク	S																																																																																																																																			
軽油タンクエリア	—	外	配管	S																																																																																																																																			
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																				
建屋	プロア																																																																																																																																						
ディーゼル発電機建屋	—	外	配管	—																																																																																																																																			
	T.P. 10, 3m 以下	外	原子炉補機冷却海水ポンプ出口ストレーナー	S																																																																																																																																			
	T.P. 10, 3m	外	海水電解装置	C																																																																																																																																			
	—	外	海水淡化化設備	C																																																																																																																																			
	—	外	配管	—																																																																																																																																			

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																										
	<p>表4 溢水源となりうる機器リスト(タービン建屋)(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20">タービン 建屋</td><td rowspan="10">B2F</td><td>内 CF逆流受タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 主潤水器(ホットウェル側)</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 低圧第1給水加熱器ドレン冷却器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 高圧第1給水加熱器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 起動用真空ポンプウォーター・セバレータ</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 起動用真空ポンプシール水冷却器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 主潤水器(水室)</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 復水回収タンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 OG系排ガス循環水クーラー</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 活性炭式希ガスホールドアップ塔室空調機</td><td>C</td></tr> <tr><td rowspan="10">B1F</td><td>内 RFP-T油冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 高圧潤滑油器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 油清浄機</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 RFP-T油タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 RFP-T補助油タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 高圧潤滑ユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 TCW防食剤添加タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 TCW熱交換器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内・外 配管</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="15">IF</td><td>内 グランド蒸気潤水器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 排ガス復水器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 排ガス予熱器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 高圧第2給水加熱器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 濁分離ドレンタンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 脱ガス過濾器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内 ハイタービン油冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 RFP-T油冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 HPPC油冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 主油タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内 油補給タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 HNCW防食剤添加タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 涼気空調補機常用冷却水系ターボ冷凍機</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 涼気空調補機常用冷却水系冷凍機</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 冷凍機室空調機</td><td>C</td></tr> <tr><td>内・外 配管</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	タービン 建屋	B2F	内 CF逆流受タンク	B	内 主潤水器(ホットウェル側)	B	内 低圧第1給水加熱器ドレン冷却器	B	内 高圧第1給水加熱器	B	内 起動用真空ポンプウォーター・セバレータ	B	内 起動用真空ポンプシール水冷却器	B	内 主潤水器(水室)	B	内 復水回収タンク	B	内 OG系排ガス循環水クーラー	B	内 活性炭式希ガスホールドアップ塔室空調機	C	B1F	内 RFP-T油冷却器	C	内 高圧潤滑油器	C	内 油清浄機	C	内 RFP-T油タンク	C	内 RFP-T補助油タンク	C	内 高圧潤滑ユニット	C	外 TCW防食剤添加タンク	C	外 TCW熱交換器	C	内・外 配管	—	IF	内 グランド蒸気潤水器	B	内 排ガス復水器	B	内 排ガス予熱器	B	内 高圧第2給水加熱器	B	内 濁分離ドレンタンク	B	内 脱ガス過濾器	B	内 ハイタービン油冷却器	C	内 RFP-T油冷却器	C	内 HPPC油冷却器	C	内 主油タンク	C	内 油補給タンク	C	外 HNCW防食剤添加タンク	C	外 涼気空調補機常用冷却水系ターボ冷凍機	C	外 涼気空調補機常用冷却水系冷凍機	C	外 冷凍機室空調機	C	内・外 配管	—	<p>表4 溢水源となりうる機器リスト(タービン建屋)(1/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20">タービン建屋</td><td rowspan="10">B2F</td><td>外 復水回収タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 復水器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 海水ブースタポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 復水泵</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 タービンプローダウンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 温水排水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 海水ビット排水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 定常淡水ビット排水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>外 復水泵ブースタポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 タービン動主給水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 タービン動主給水ポンプ油タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 タービン動主給水ポンプ油冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 電動主給水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 箱水泵ブースタポンプ(タービン動用)</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 箱水泵ブースタポンプ(電動用)</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 主油タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 油清浄機</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 油清浄機ドレンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 油冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 スチームコンバータ給水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 スチームコンバータ給水タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 スチームコンバータドレンターラ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 スチームコンバータドレンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 スチームコンバータ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 所内用空気圧縮機</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 所内用空気除湿装置</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 所内用空気冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 SGプローブ水冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 濁分離器ドレンポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 復水泵真空ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 低圧給水加熱器ドレンポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 軸受冷却水冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 軸受冷却水ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外 アンモニア原液タンク</td><td>C</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	タービン建屋	B2F	外 復水回収タンク	C	外 復水器	C	外 海水ブースタポンプ	C	外 復水泵	C	外 タービンプローダウンタンク	C	外 温水排水ポンプ	C	外 海水ビット排水ポンプ	C	外 定常淡水ビット排水ポンプ	C	外 配管	—	外 復水泵ブースタポンプ	C	外 タービン動主給水ポンプ	C	外 タービン動主給水ポンプ油タンク	C	外 タービン動主給水ポンプ油冷却器	C	外 電動主給水ポンプ	C	外 箱水泵ブースタポンプ(タービン動用)	C	外 箱水泵ブースタポンプ(電動用)	C	外 主油タンク	C	外 油清浄機	C	外 油清浄機ドレンタンク	C	外 油冷却器	C	外 スチームコンバータ給水ポンプ	C	外 スチームコンバータ給水タンク	C	外 スチームコンバータドレンターラ	C	外 スチームコンバータドレンタンク	C	外 スチームコンバータ	C	外 所内用空気圧縮機	C	外 所内用空気除湿装置	C	外 所内用空気冷却器	C	外 SGプローブ水冷却器	C	外 濁分離器ドレンポンプ	C	外 復水泵真空ポンプ	C	外 低圧給水加熱器ドレンポンプ	C	外 軸受冷却水冷却器	C	外 軸受冷却水ポンプ	C	外 アンモニア原液タンク	C	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																										
タービン 建屋	B2F	内 CF逆流受タンク	B																																																																																																																																																										
		内 主潤水器(ホットウェル側)	B																																																																																																																																																										
		内 低圧第1給水加熱器ドレン冷却器	B																																																																																																																																																										
		内 高圧第1給水加熱器	B																																																																																																																																																										
		内 起動用真空ポンプウォーター・セバレータ	B																																																																																																																																																										
		内 起動用真空ポンプシール水冷却器	B																																																																																																																																																										
		内 主潤水器(水室)	B																																																																																																																																																										
		内 復水回収タンク	B																																																																																																																																																										
		内 OG系排ガス循環水クーラー	B																																																																																																																																																										
		内 活性炭式希ガスホールドアップ塔室空調機	C																																																																																																																																																										
	B1F	内 RFP-T油冷却器	C																																																																																																																																																										
		内 高圧潤滑油器	C																																																																																																																																																										
		内 油清浄機	C																																																																																																																																																										
		内 RFP-T油タンク	C																																																																																																																																																										
		内 RFP-T補助油タンク	C																																																																																																																																																										
		内 高圧潤滑ユニット	C																																																																																																																																																										
		外 TCW防食剤添加タンク	C																																																																																																																																																										
		外 TCW熱交換器	C																																																																																																																																																										
		内・外 配管	—																																																																																																																																																										
		IF	内 グランド蒸気潤水器	B																																																																																																																																																									
内 排ガス復水器	B																																																																																																																																																												
内 排ガス予熱器	B																																																																																																																																																												
内 高圧第2給水加熱器	B																																																																																																																																																												
内 濁分離ドレンタンク	B																																																																																																																																																												
内 脱ガス過濾器	B																																																																																																																																																												
内 ハイタービン油冷却器	C																																																																																																																																																												
内 RFP-T油冷却器	C																																																																																																																																																												
内 HPPC油冷却器	C																																																																																																																																																												
内 主油タンク	C																																																																																																																																																												
内 油補給タンク	C																																																																																																																																																												
外 HNCW防食剤添加タンク	C																																																																																																																																																												
外 涼気空調補機常用冷却水系ターボ冷凍機	C																																																																																																																																																												
外 涼気空調補機常用冷却水系冷凍機	C																																																																																																																																																												
外 冷凍機室空調機	C																																																																																																																																																												
内・外 配管	—																																																																																																																																																												
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																										
タービン建屋	B2F	外 復水回収タンク	C																																																																																																																																																										
		外 復水器	C																																																																																																																																																										
		外 海水ブースタポンプ	C																																																																																																																																																										
		外 復水泵	C																																																																																																																																																										
		外 タービンプローダウンタンク	C																																																																																																																																																										
		外 温水排水ポンプ	C																																																																																																																																																										
		外 海水ビット排水ポンプ	C																																																																																																																																																										
		外 定常淡水ビット排水ポンプ	C																																																																																																																																																										
		外 配管	—																																																																																																																																																										
		外 復水泵ブースタポンプ	C																																																																																																																																																										
	外 タービン動主給水ポンプ	C																																																																																																																																																											
	外 タービン動主給水ポンプ油タンク	C																																																																																																																																																											
	外 タービン動主給水ポンプ油冷却器	C																																																																																																																																																											
	外 電動主給水ポンプ	C																																																																																																																																																											
	外 箱水泵ブースタポンプ(タービン動用)	C																																																																																																																																																											
	外 箱水泵ブースタポンプ(電動用)	C																																																																																																																																																											
	外 主油タンク	C																																																																																																																																																											
	外 油清浄機	C																																																																																																																																																											
	外 油清浄機ドレンタンク	C																																																																																																																																																											
	外 油冷却器	C																																																																																																																																																											
外 スチームコンバータ給水ポンプ	C																																																																																																																																																												
外 スチームコンバータ給水タンク	C																																																																																																																																																												
外 スチームコンバータドレンターラ	C																																																																																																																																																												
外 スチームコンバータドレンタンク	C																																																																																																																																																												
外 スチームコンバータ	C																																																																																																																																																												
外 所内用空気圧縮機	C																																																																																																																																																												
外 所内用空気除湿装置	C																																																																																																																																																												
外 所内用空気冷却器	C																																																																																																																																																												
外 SGプローブ水冷却器	C																																																																																																																																																												
外 濁分離器ドレンポンプ	C																																																																																																																																																												
外 復水泵真空ポンプ	C																																																																																																																																																												
外 低圧給水加熱器ドレンポンプ	C																																																																																																																																																												
外 軸受冷却水冷却器	C																																																																																																																																																												
外 軸受冷却水ポンプ	C																																																																																																																																																												
外 アンモニア原液タンク	C																																																																																																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																		
	<p>表4 溢水源となりうる機器リスト(タービン建屋) (2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="18">タービン 建屋</td><td rowspan="15">1F</td><td>貯E第1給水加熱器ドレンタンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>凝分離加熱器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>凝分離加熱器第1段加熱器ドレンタンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>凝分離加熱器第2段加熱器ドレンタンク</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>復水器塩塔</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>樹脂ストレーナ</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>固定子巻線冷却水装置貯水槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>固定子巻線冷却水装置冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>固定子巻線冷却水装置イオン交換樹脂塔</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>復水器室空調機(B)</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>空気抽出器室空調機</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>SCR 電室空調機</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>粗分離冷却装置</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>発電機水素ガス冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>貯E第1給水加熱器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>貯E第2給水加熱器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>復水器室空調機(A)</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="3">2F</td><td>内</td><td>グランド蒸気発生器</td><td>B</td></tr> <tr><td>内</td><td>TBW サージタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>内</td><td>配管</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	タービン 建屋	1F	貯E第1給水加熱器ドレンタンク	B	内	凝分離加熱器	B	内	凝分離加熱器第1段加熱器ドレンタンク	B	内	凝分離加熱器第2段加熱器ドレンタンク	B	内	復水器塩塔	B	内	樹脂ストレーナ	B	内	固定子巻線冷却水装置貯水槽	C	内	固定子巻線冷却水装置冷却器	C	内	固定子巻線冷却水装置イオン交換樹脂塔	C	内	復水器室空調機(B)	C	内	空気抽出器室空調機	C	内	SCR 電室空調機	C	内	粗分離冷却装置	C	内	発電機水素ガス冷却器	C	内	貯E第1給水加熱器	B	内	貯E第2給水加熱器	B	内	復水器室空調機(A)	C	内	配管	—	2F	内	グランド蒸気発生器	B	内	TBW サージタンク	C	内	配管	—	<p>表4 溢水源となりうる機器リスト(タービン建屋) (2/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="25">タービン 建屋</td><td rowspan="15">BIF</td><td>外</td><td>ヒドランジ原液タンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>ヒドランジタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>アンモニアタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>2次系補給ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>カチオン再生塔</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>混合樹脂受入槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>樹脂補給ホッパ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>アニオン再生塔</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>スクラバ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>外</td><td>第6高圧給水加熱器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>高圧供給装置</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>脱気器再循環ポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>低圧給水加熱器ドレンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>SG プローブ回収フラッシュタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>凝分離加熱器ドレンタンク#1</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>凝分離加熱器ドレンタンク#2</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>凝分離器ドレンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>復水器水室空気抜きポンプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>復水器塩塔</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>復水器過濾器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>レジンキャッチャ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>レジントラップ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>樹脂混合用空気貯槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>制御用空気貯槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>塩酸貯槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>塩酸計量槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>塩酸スクラバ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>苛性ソーダ計量槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>苛性ソーダ貯槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>ジャッキンダオイルポンプユニット</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td rowspan="2">2F</td><td>外</td><td>第3低圧給水加熱器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>第4低圧給水加熱器</td><td>C</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	タービン 建屋	BIF	外	ヒドランジ原液タンク	C	外	ヒドランジタンク	C	外	アンモニアタンク	C	外	2次系補給ポンプ	C	外	カチオン再生塔	C	外	混合樹脂受入槽	C	外	樹脂補給ホッパ	C	外	アニオン再生塔	C	外	スクラバ	C	外	配管	—	外	第6高圧給水加熱器	C	外	高圧供給装置	C	外	脱気器再循環ポンプ	C	外	低圧給水加熱器ドレンタンク	C	外	SG プローブ回収フラッシュタンク	C	外	凝分離加熱器ドレンタンク#1	C	外	凝分離加熱器ドレンタンク#2	C	外	凝分離器ドレンタンク	C	外	復水器水室空気抜きポンプ	C	外	復水器塩塔	C	外	復水器過濾器	C	外	レジンキャッチャ	C	外	レジントラップ	C	外	樹脂混合用空気貯槽	C	外	制御用空気貯槽	C	外	塩酸貯槽	C	外	塩酸計量槽	C	外	塩酸スクラバ	C	外	苛性ソーダ計量槽	C	外	苛性ソーダ貯槽	C	外	ジャッキンダオイルポンプユニット	C	外	配管	—	2F	外	第3低圧給水加熱器	C	外	第4低圧給水加熱器	C	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																																																		
タービン 建屋	1F	貯E第1給水加熱器ドレンタンク	B																																																																																																																																																																																		
		内	凝分離加熱器	B																																																																																																																																																																																	
		内	凝分離加熱器第1段加熱器ドレンタンク	B																																																																																																																																																																																	
		内	凝分離加熱器第2段加熱器ドレンタンク	B																																																																																																																																																																																	
		内	復水器塩塔	B																																																																																																																																																																																	
		内	樹脂ストレーナ	B																																																																																																																																																																																	
		内	固定子巻線冷却水装置貯水槽	C																																																																																																																																																																																	
		内	固定子巻線冷却水装置冷却器	C																																																																																																																																																																																	
		内	固定子巻線冷却水装置イオン交換樹脂塔	C																																																																																																																																																																																	
		内	復水器室空調機(B)	C																																																																																																																																																																																	
		内	空気抽出器室空調機	C																																																																																																																																																																																	
		内	SCR 電室空調機	C																																																																																																																																																																																	
		内	粗分離冷却装置	C																																																																																																																																																																																	
		内	発電機水素ガス冷却器	C																																																																																																																																																																																	
		内	貯E第1給水加熱器	B																																																																																																																																																																																	
	内	貯E第2給水加熱器	B																																																																																																																																																																																		
	内	復水器室空調機(A)	C																																																																																																																																																																																		
	内	配管	—																																																																																																																																																																																		
2F	内	グランド蒸気発生器	B																																																																																																																																																																																		
	内	TBW サージタンク	C																																																																																																																																																																																		
	内	配管	—																																																																																																																																																																																		
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																																																																																																																																																		
タービン 建屋	BIF	外	ヒドランジ原液タンク	C																																																																																																																																																																																	
		外	ヒドランジタンク	C																																																																																																																																																																																	
		外	アンモニアタンク	C																																																																																																																																																																																	
		外	2次系補給ポンプ	C																																																																																																																																																																																	
		外	カチオン再生塔	C																																																																																																																																																																																	
		外	混合樹脂受入槽	C																																																																																																																																																																																	
		外	樹脂補給ホッパ	C																																																																																																																																																																																	
		外	アニオン再生塔	C																																																																																																																																																																																	
		外	スクラバ	C																																																																																																																																																																																	
		外	配管	—																																																																																																																																																																																	
		外	第6高圧給水加熱器	C																																																																																																																																																																																	
		外	高圧供給装置	C																																																																																																																																																																																	
		外	脱気器再循環ポンプ	C																																																																																																																																																																																	
		外	低圧給水加熱器ドレンタンク	C																																																																																																																																																																																	
		外	SG プローブ回収フラッシュタンク	C																																																																																																																																																																																	
	外	凝分離加熱器ドレンタンク#1	C																																																																																																																																																																																		
	外	凝分離加熱器ドレンタンク#2	C																																																																																																																																																																																		
	外	凝分離器ドレンタンク	C																																																																																																																																																																																		
	外	復水器水室空気抜きポンプ	C																																																																																																																																																																																		
	外	復水器塩塔	C																																																																																																																																																																																		
	外	復水器過濾器	C																																																																																																																																																																																		
	外	レジンキャッチャ	C																																																																																																																																																																																		
	外	レジントラップ	C																																																																																																																																																																																		
	外	樹脂混合用空気貯槽	C																																																																																																																																																																																		
	外	制御用空気貯槽	C																																																																																																																																																																																		
外	塩酸貯槽	C																																																																																																																																																																																			
外	塩酸計量槽	C																																																																																																																																																																																			
外	塩酸スクラバ	C																																																																																																																																																																																			
外	苛性ソーダ計量槽	C																																																																																																																																																																																			
外	苛性ソーダ貯槽	C																																																																																																																																																																																			
外	ジャッキンダオイルポンプユニット	C																																																																																																																																																																																			
外	配管	—																																																																																																																																																																																			
2F	外	第3低圧給水加熱器	C																																																																																																																																																																																		
	外	第4低圧給水加熱器	C																																																																																																																																																																																		

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料2)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
		<p>表4 溢水源となりうる機器リスト (タービン建屋) (3/3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">タービン建屋</td><td>2F 外</td><td>凝分分離加熱器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>3F 外</td><td>軸受冷却水スタンダパイプ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>脱気器</td><td>C</td></tr> <tr><td>— 外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>— 外</td><td>循環水管伸縮继手</td><td>C</td></tr> <tr><td>— 外</td><td>屋外タンク</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	タービン建屋	2F 外	凝分分離加熱器	C	外	配管	—	3F 外	軸受冷却水スタンダパイプ	C	外	脱気器	C	— 外	配管	—	— 外	循環水管伸縮继手	C	— 外	屋外タンク	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>																										
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																				
タービン建屋	2F 外	凝分分離加熱器	C																																																				
	外	配管	—																																																				
	3F 外	軸受冷却水スタンダパイプ	C																																																				
	外	脱気器	C																																																				
	— 外	配管	—																																																				
	— 外	循環水管伸縮继手	C																																																				
— 外	屋外タンク	—																																																					
	<p>表5 溢水源となりうる機器リスト(補助ボイラー建屋)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設置場所 建屋</th><th>管理区域 区分</th><th>機器名称</th><th>耐震 クラス</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">補助ボイ ラー建屋</td><td>BIF 外</td><td>加圧貯水槽 呼水槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>消防水槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>呼水槽</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>排水ピット</td><td>C</td></tr> <tr><td>IF 外</td><td>補助ボイラードレン冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー蒸気発生器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー水冷却器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー給水サンプリングクーラ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> <tr><td>2F 外</td><td>グランド蒸気発生器ドレンクーラ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー蒸気だめ</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー給水ドレンタンク</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー脱気器</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー蒸気ドーム</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>補助ボイラー建屋給気加熱コイル</td><td>C</td></tr> <tr><td>外</td><td>配管</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス	補助ボイ ラー建屋	BIF 外	加圧貯水槽 呼水槽	C	外	消防水槽	C	外	呼水槽	C	外	排水ピット	C	IF 外	補助ボイラードレン冷却器	C	外	補助ボイラー蒸気発生器	C	外	補助ボイラー水冷却器	C	外	補助ボイラー給水サンプリングクーラ	C	外	配管	—	2F 外	グランド蒸気発生器ドレンクーラ	C	外	補助ボイラー蒸気だめ	C	外	補助ボイラー給水ドレンタンク	C	外	補助ボイラー脱気器	C	外	補助ボイラー蒸気ドーム	C	外	補助ボイラー建屋給気加熱コイル	C	外	配管	—	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>流体を内包する設備の違いによる</p>
設置場所 建屋	管理区域 区分	機器名称	耐震 クラス																																																				
補助ボイ ラー建屋	BIF 外	加圧貯水槽 呼水槽	C																																																				
	外	消防水槽	C																																																				
	外	呼水槽	C																																																				
	外	排水ピット	C																																																				
	IF 外	補助ボイラードレン冷却器	C																																																				
	外	補助ボイラー蒸気発生器	C																																																				
	外	補助ボイラー水冷却器	C																																																				
	外	補助ボイラー給水サンプリングクーラ	C																																																				
	外	配管	—																																																				
	2F 外	グランド蒸気発生器ドレンクーラ	C																																																				
外	補助ボイラー蒸気だめ	C																																																					
外	補助ボイラー給水ドレンタンク	C																																																					
外	補助ボイラー脱気器	C																																																					
外	補助ボイラー蒸気ドーム	C																																																					
外	補助ボイラー建屋給気加熱コイル	C																																																					
外	配管	—																																																					

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料3)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【大飯3／4号炉】1.8.2.1 溢水源及び溢水量の想定 (抜粋) p2-9-10</p> <p>(2) 消火水の放水による溢水</p> <p>消火栓からの放水については、3時間の放水により想定される溢水量若しくは、火災源が小さい場合においては、その可燃性物質の量及び等価火災時間を考慮した消火活動に伴う放水により想定される溢水量を設定する。</p> <p>【島根2号炉】2.3.2 消火水の放水による溢水 (抜粋) p9条-9</p> <p>消火設備等のうち、消火栓からの放水量については、3時間の放水により想定される溢水量を基本とするが、火災源が小さい場合においては、日本電気協会電気技術指針「原子力発電所の火災防護指針(JEAG4607-2010)」解説-4-5(1)の規定による「火災荷重」及び「等価火災時間」を用いて溢水量を設定する。</p> <p>【伊方3号炉】1.7.2 溢水源及び溢水量を設定するための方針 (抜粋) p9条-10</p> <p>また、運転員による中央制御室及び補機制御室からの手動操作により漏えい停止を期待する場合は、漏えい停止までの適切な隔離時間を考慮し、配管の破損箇所から流出した漏水量と隔離後の溢水量として隔離範囲内の系統の保有水量を合算して設定する。ここで、漏水量は、配管の破損箇所からの流出流量に隔離時間を乗じて設定する。</p> <p>【大飯3／4号炉】まとめ資料p2-9別1-52より抜粋 1.4.3.2.3 地震による溢水影響評価のうち蒸気影響評価 蒸気を内包する耐震B, Cクラスの系統は、基準地震動Ssによる地震力に対して耐震性を確保する。</p>	<p>想定破損</p> <p>機器の单一破損を想定 内部流体条件により破断形状を設定 手動・自動隔離を考慮 (隔離後ににおける残水の流出を考慮)</p> <p>⇒ 漏えい流量、隔離に要する時間、 系統保有水量より溢水量を算出</p> <p>⇒ 溢水量に依存しない (溢水発生箇所と防護対象設備の位置関係、被水防護措置の有無、 防滴仕様の有無により評価)</p> <p>⇒ 溢水量は算定せず (伝播範囲と防護対象設備の位置関係、耐環境仕様の有無により評価)</p> <p>被水</p> <p>蒸気</p> <p>想定破損</p> <p>機器の单一破損を想定 内部流体条件により破断形状を設定 手動・自動隔離を考慮 (隔離後ににおける残水の流出を考慮)</p> <p>⇒ 漏えい流量、隔離に要する時間、 系統保有水量より溢水量を算出</p> <p>⇒ 溢水量に依存しない (溢水発生箇所と防護対象設備の位置関係、被水防護措置の有無、 防滴仕様の有無により評価)</p> <p>⇒ 溢水量は算定せず (伝播範囲と防護対象設備の位置関係、耐環境仕様の有無により評価)</p> <p>添付資料3</p> <p>表1 想定する溢水量一覧</p>	<p>想定破損</p> <p>機器の单一破損を想定 内部流体条件により破断形状を設定 手動・自動隔離を考慮 (隔離後ににおける残水の流出を考慮)</p> <p>⇒ 300ℓ/min×60min×3時間=54m<sup>3</sup> ⇒ 300ℓ/min×60min×3時間=54m<sup>3</sup> ⇒ 破損する系統の保有水量を各建屋ごとに算定</p> <p>⇒ 溢水量に依存しない (溢水発生箇所と防護対象設備の位置関係、被水防護措置の有無、 防滴仕様の有無により評価)</p> <p>⇒ 溢水量は算定せず (伝播範囲と防護対象設備の位置関係、耐環境仕様の有無により評価)</p> <p>被水</p> <p>蒸気</p> <p>想定破損</p> <p>機器の单一破損を想定 内部流体条件により破断形状を設定 手動・自動隔離を考慮 (隔離後ににおける残水の流出を考慮)</p> <p>⇒ 漏えい流量、隔離に要する時間、 系統保有水量より溢水量を算出</p> <p>⇒ 溢水量に依存しない (溢水発生箇所と防護対象設備の位置関係、被水防護措置の有無、 防滴仕様の有無により評価)</p> <p>⇒ 溢水量は算定せず (伝播範囲と防護対象設備の位置関係、耐環境仕様の有無により評価)</p> <p>被水</p> <p>蒸気</p> <p>想定破損</p> <p>機器の单一破損を想定 内部流体条件により破断形状を設定 手動・自動隔離を考慮 (隔離後ににおける残水の流出を考慮)</p> <p>⇒ 漏えい流量、隔離に要する時間、 系統保有水量より溢水量を算出</p> <p>⇒ 溢水量に依存しない (溢水発生箇所と防護対象設備の位置関係、被水防護措置の有無、 防滴仕様の有無により評価)</p> <p>⇒ 溢水量は算定せず (伝播範囲と防護対象設備の位置関係、耐環境仕様の有無により評価)</p> <p>被水</p> <p>蒸気</p> <p>添付資料3</p> <p>表1 想定する溢水量一覧</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 設計方針の相違 消火水の放水時間について、女川は一律3時間の放水を想定しているのに対し、泊は3時間の放水により想定される溢水量を基本とするが、火災源が小さいエリアについては可燃物量を考慮し、「原子力発電所の火災防護指針」の規定による「火災荷重」及び「等価時間」を用いて放水量を算定している。(先行PWR、島根2号炉と同様)</p> <p>【伊方】 設計方針の相違 泊発電所3号炉では、地震発生後に運転員によるパトロールを実施し、溢水源となりうる機器からの漏えいが確認された場合には手動操作による漏えい停止を実施することから、漏えい検知から隔離操作完了までの時間を保守的に設定し、溢水量を算出している。(伊方3号炉と同様)</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 泊では蒸気が発生する高エネルギー配管については、基準地震動に対して、耐震性を確保しているため、地震起因の破損により蒸気は発生しない。(大飯と同様)</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.2-2 防護対象設備と機能喪失高さ一覧</p> <p>1. はじめに 溢水水位及び機能喪失高さの考え方を示し、全防護対象設備の機能喪失高さ一覧を記載する。</p> <p>2. 溢水水位 影響評価に用いる溢水水位の算定は、溢水経路上の溢水防護区画のすべてに対して行う。 溢水水位 : <math>H</math> は、下式に基づき算出する。 <math>H = Q/A</math> <math>Q</math>: 溢水量(m<sup>3</sup>) <math>A</math>: 滞留面積(m<sup>2</sup>) 滞留面積は、コンクリート基礎等の範囲を除く有効面積を滞留面積として評価する。(図1)</p> <p>3. 機能喪失高さ 各機器における機能喪失高さの考え方を表1にまとめるとともに図2にポンプの例を示す。</p>		<p>添付資料 4</p>	<p>添付資料 4</p> <p>【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 ・女川審査実績の反映 ・女川及び泊は、機能喪失高さの考え方について添付資料5に記載する。</p>

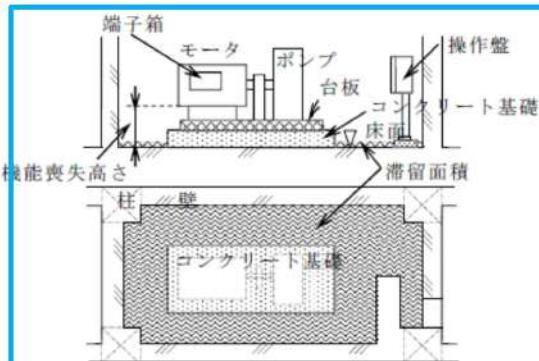
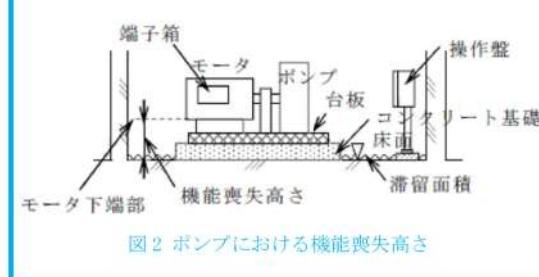
表1 各設備の機能喪失高さの考え方

機器	機能喪失高さ
弁	①電動弁：電動弁駆動装置下端部 ②空気作動弁：各付属品（アクチュエータ、電磁弁、減圧弁、リミットスイッチ）のうち、最低高さの付属品の下端部
ダンバ	各付属品（アクチュエータ、電磁弁、減圧弁、リミットスイッチ）のうち、最低高さの付属品の下端部
ポンプ (操作盤含む)	①ポンプ又はモータの低い方 ②ポンプは軸貫通部下端又は油タンクのエアブリーザ部の低い方 ③モータは下端部又は端子箱下端の低い方
ファン	モータは下端部又は端子箱下端の低い方
盤	盤内の最低高さの計器類の下端部
計器	計器本体下端又は伝送器下端の低い方

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <b>図1 機能喪失高さと滞留面積の考え方</b>  <b>図2 ポンプにおける機能喪失高さ</b>			<p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川及び泊は、機能喪失高さの考え方について添付資料5に記載する。</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由				
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (1/9)						表1 防護対象設備一覧 (1/27)						【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映				
表1 防護対象設備一覧 (1/35)						表1 防護対象設備一覧 (1/35)						【女川】 記載方針の相違 設計方針の相違 泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである 「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。 上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様) ・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違 【女川】 設計方針の相違 安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
系統	設備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]	系統	設備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> [m]	個別測定 高さ <sup>※2</sup> [m]	設定 箇所	安全 機能			
補助給水系	3A,3B電動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.60	0.60	補助給水系	タービン動補助給水ポンプ (3WF1)	B-BP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	①②③④⑤					
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	3.5	4.16	0.66	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF2)	B-BP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.015	②					
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ 起動弁A,B (3V-MS-570A,B)	原子炉周辺建屋	33.6	34.74	1.14	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF3)	B-BP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	②					
補助給水系	3タービン動補助給水ポンプ 起動弁A,B (3TDF-A,B)	原子炉周辺建屋	10.0	10.26	0.26	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF4)	B-BP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.005	③④⑤					
補助給水系	3A,3B,3C,3D蒸気生産装置 給水流量 (3FT-3716,3726,3736,3746)	原子炉周辺建屋	17.1	18.16	1.06	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF5)	B-BP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.005	③④⑤					
補助給水系	3復水ピット	原子炉周辺建屋	26.0	26.45	0.45	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF6)	B-BP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.045	③④⑤					
化学生積制御系	3復水ピット	原子炉周辺建屋	26.0	-	-	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF7)	B-BP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.005	③④⑤					
化学生積制御系	3A,3B充てんポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.64	0.64	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF8)	B-BP-9	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3C充てんポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.31	0.31	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF9)	B-BP-9	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3C充てんポンプ速度制御盤 (3SC)	原子炉周辺建屋	10.0	11.00	1.00	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF10)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3C充てんポンプ速度制御補助盤 (3SCAC)	原子炉周辺建屋	10.0	10.80	0.80	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF11)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3A,3B充てんポンプ現場操作箱 (3LB-5,6,7,8)	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF12)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3充てんポンプ入口燃料取替用水ピット側補給弁A,B (3LCV-121D,E)	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF13)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3充てんポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.57	0.57	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF14)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3A,3B,3C充てんポンプ現場操作箱 (3LB-9,10)	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF15)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3充てんライン止め弁	原子炉周辺建屋	10.0	11.03	1.03	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF16)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.191	③④⑤					
化学生積制御系	3体積制御タンク出口第1止め弁 (3LCV-121B)	原子炉周辺建屋	17.1	18.24	1.14	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF17)	B-BP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.005	②					
化学生積制御系	3体積制御タンク出口第2止め弁 (3LCV-121C)	原子炉周辺建屋	17.1	18.23	1.13	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF18)	B-BP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.010	②					
化学生積制御系	3緊急ほう酸注入ライン補給弁 (3V-CS-573)	原子炉周辺建屋	17.1	21.64	4.54	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF19)	B-BP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.045	②					
化学生積制御系	3充てんライン格納容器隔離弁 (3V-CS-157)	原子炉周辺建屋	17.1	22.14	5.04	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF20)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.271	③④⑤					
化学生積制御系	3-1次冷却系ポンプ封水戻りライン格納容器第2隔離弁 (3V-CS-312)	原子炉周辺建屋	17.1	20.98	3.88	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF21)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.271	③④⑤					
化学生積制御系	3封水冷却器	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	補助給水系	A-電動補助給水ポンプ (3WF22)	B-BP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.271	③④⑤					
まとめ資料 p9条別添1-添付1-8より抜粋						表2-2 溢水防護対象設備リスト (1/11)						【島根2号炉】				
まとめ資料 p9条別添1-添付1-8より抜粋						表2-2 溢水防護対象設備リスト (1/11)						まとめ資料 p9条別添1-添付1-8より抜粋				
系統名称	設備番号	設備名称	設置建物	設置高さ [mm]	機能喪失 [mm]	設定 箇所	設置区域									
原子炉補機冷却系	W214-12A	A1-BG 海海水出口弁	原子炉建物	EL. 1300	EL. 6400	基本	R-BP-04N									
原子炉補機冷却系	W214-13A	A2-BG 海海水出口弁	原子炉建物	EL. 1300	EL. 6400	基本	R-BP-04N									
原子炉補機冷却系	W214-12B	B1-BG 冷却水出口弁	原子炉建物	EL. 1300	EL. 6400	基本	R-BP-06N									
原子炉補機冷却系	W214-12C	B2-BG 冷却水出口弁	原子炉建物	EL. 1300	EL. 6400	基本	R-BP-06N									
原子炉補機冷却系	P214-1A	A-原子炉補機冷却水ポンプ	原子炉建物	EL. 15300	EL. 16204	個別	R-IP-14N									
原子炉補機冷却系	P214-1C	C-原子炉補機冷却水ポンプ	原子炉建物	EL. 15300	EL. 16204	個別	R-IP-14N									
原子炉補機冷却系	P214-1B	B-原子炉補機冷却水ポンプ	原子炉建物	EL. 15300	EL. 16200	個別	R-IP-15N									
原子炉補機冷却系	P214-1D	D-原子炉補機冷却水ポンプ	原子炉建物	EL. 15300	EL. 16200	個別	R-IP-15N									
原子炉補機冷却系	M214-7A	A-BGR 热交換海水出口弁	原子炉建物	EL. 23800	EL. 29956	個別	R-IP-09N									
原子炉補機冷却系	M214-7B	B-BGR 热交換海水出口弁	原子炉建物	EL. 23800	EL. 28884	個別	R-IP-10N									
原子炉補機冷却系	M214-3A	A-BGW 常用補機冷却水出口弁	原子炉建物	EL. 23800	EL. 26800	個別	R-IP-20N									
原子炉補機冷却系	M214-3B	B-BGW 常用補機冷却水出口弁	原子炉建物	EL. 23800	EL. 26800	個別	R-IP-20N									
原子炉補機冷却系	M214-1A	A-BGW 常用補機冷却水出口弁	原子炉建物	EL. 8800	EL. 11090	個別	R-BP-11N									
原子炉補機冷却系	M214-1B	B-BGW 常用補機冷却水出口弁	原子炉建物	EL. 8800	EL. 11090	個別	R-BP-11N									
原子炉補機海水系	M215-2A	A-BCW 热交海水出口弁	原子炉建物	EL. 15300	EL. 16240	個別	R-IP-14N									
原子炉補機海水系	M215-2B	B-BCW 热交海水出口弁	原子炉建物	EL. 15300	EL. 16820	個別	R-IP-15N									

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由					
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (2/9)							表1 防護対象設備一覧 (2/27)										
							表1 防護対象設備一覧 (2/35)										
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]	区间番号	設備地図	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能 <sup>※3</sup>	系統	設 備	区间番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※4</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※5</sup> (m)	設定箇所	安全機能
化学体積制御系	3A, 3B封水注入フィルタ	原子炉周辺建屋	26.0	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.610	②	補助給水系	B-補助給水ライン流量 (III)	3RB-H-N1	原子炉建屋	1.03	1.00	個別	③⑦
化学体積制御系	3封水ストレーナ	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.610	②③	補助給水系	C-補助給水ライン流量 (IV)	3RB-H-N1	原子炉建屋	1.03	1.02	個別	③⑦
化学体積制御系	3体積制御タンク	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.610	②③	補助給水系	補助給水ピット水位 (I)	3RB-D-N3	原子炉建屋	1.03	1.00	個別	③⑦
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸タンク水位 (3LT-206, 208)	原子炉周辺建屋	17.1	18.21	1.11	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.610	④	補助給水系	補助給水ピット水位 (II)	3RB-D-N3	原子炉建屋	1.03	1.00	個別	③⑦
化学体積制御系	3A, 3Bほう酸タンク	原子炉周辺建屋	10.0	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.603	④	関連設備	ターピン動補助給水ポンプ起動盤トレン A (3TDEA)	3RB-H-N1	原子炉建屋	0.37	0.47	基本	③⑥
化学体積制御系	3ほう酸フィルタ	原子炉周辺建屋	10.0	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.625	④	関連設備	ターピン動補助給水ポンプ起動盤トレン B (3TDFB)	3RB-H-N1	原子炉建屋	0.37	0.46	基本	③⑥
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ	原子炉周辺建屋	3.5	4.31	0.81	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.605	④⑤	関連設備	補助給水ポンプ出口流量調節弁盤トレン A (3AFWA)	3RB-H-N1	原子炉建屋	0.43	0.53	基本	③⑥
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ現場操作箱 (3LT-14, 15)	原子炉周辺建屋	3.5	4.70	1.20	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.615	④	関連設備	補助給水ポンプ出口流量調節弁盤トレン B (3AFWB)	3RB-H-N1	原子炉建屋	0.43	0.52	基本	③⑥
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプ出口流量 (3FT-601, 611)	原子炉周辺建屋	3.5	4.60	1.10	B-H2P-10	原子炉建屋 原子炉建屋	11.290	④	化学体積制御系	A-充てんポンプ (3CSP1A)	3AB-H-8	原子炉建屋	0.63	0.68	個別	②
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプミニマムフローライン止め弁 (3FCY-601, 611)	原子炉周辺建屋	17.1	17.96	0.86	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.630	④⑤	化学体積制御系	B-充てんポンプ (3CSP1B)	3AB-H-6	原子炉建屋	0.63	0.68	個別	②
余熱除去系	3A, 3B余熱除去ポンプミニマムフローライン止め弁 (3FCY-601, 611)	原子炉周辺建屋	17.1	17.70	0.60	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.610	④⑤	化学体積制御系	C-充てんポンプ (3CSP1C)	3AB-H-4	原子炉建屋	0.63	0.68	個別	②
余熱除去系	3A, 3B余熱除去冷却器	原子炉周辺建屋	10.0	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.604	④	制御用空気系	補助給水ポンプ出力減弱装置 (3LVC-12IB)	3AB-G-5	原子炉建屋	0.68	1.03	基本	②
制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機制御盤 (3IAC-A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.54	0.44	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.607	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機用空気乾燥器 (3IAH1A, B)	3AB-H-8	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3B制御用空気圧縮機	原子炉周辺建屋	17.1	17.70	0.60	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気乾燥器 (3IAH1A, B)	3AB-H-6	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3B制御用空気乾燥器 (3IAH1A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気乾燥器 (3IAH1A, B)	3AB-H-4	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3B制御用空気だめ (3IAT1A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気だめ (3IAT1A, B)	3AB-H-8	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3C, 3B制御用空気母管遮断弁 (3V-IA-501A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.80	0.70	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気だめ (3IAT1A, B)	3AB-H-6	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3B制御用空気蒸気逃がし弁等供給ラン引止め弁 (3V-IA-505A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.77	0.67	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気蒸気逃がし弁等供給ラン引止め弁 (3V-IA-508A, B)	3AB-H-4	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3B 制御用空気格納容器隔離弁 (3V-IA-508A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.99	0.89	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B制御用空気蒸気逃がし弁等供給ラン引止め弁 (3V-IA-501A, B)	3AB-H-8	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
制御用空気系	3A, 3B制御用空気供給母管圧力 (3PT-1800, 1810)	原子炉周辺建屋	17.1	18.05	0.95	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.617	④⑤	制御用空気系	3A, 3B余熱除去冷却器冷却水止め弁 (3V-CC-114A, B)	3AB-H-6	原子炉建屋	1.03	1.00	個別	②
原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク水位Ⅲ, IV (3LT-1200, 1201)	原子炉周辺建屋	10.0	11.72	1.72	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.615	④	原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク水位Ⅲ, IV (3LT-1200, 1201)	3AB-H-8	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②
原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク	原子炉周辺建屋	42.0	-	-	B-H2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.605	④	原子炉補機冷却系	3原子炉補機冷却水サージタンク水位Ⅲ, IV (3LT-1200, 1201)	3AB-H-6	原子炉建屋	0.68	1.00	個別	②

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由									
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (3/9)				表1 防護対象設備一覧 (3/27)				表1 防護対象設備一覧 (3/35)				【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映									
系統 設備 設置建屋 設置高さ 機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m] E.L. + [m] 床上 [m]				系統 設備 区画番号 設置建屋 E.L. <sup>※2</sup> [m] 高さ <sup>※3</sup>				系統 設備 区画番号 設置建屋 基本設定 高さ <sup>※2</sup> [m] 個別測定 高さ <sup>※2</sup> [m] 設定箇所 安全機能				【女川】 記載方針の相違 設計方針の相違 ・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである 「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。 上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様) ・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違 【女川】 設計方針の相違 安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。									
原子炉補機 冷却系 3A, 3B原子炉補機冷却水 冷却器	制御建屋	7.0	-	原子炉補機 冷却系 3A, 3B, 3C, 3D原子炉補機 冷却水ポンプ	制御建屋	7.0	9.10	2.10	原子炉補機 冷却系 3A, 3B, 3C原子炉補機冷却水 ポンプ現場操作箱 (3LB-20, 21, 22, 23)	制御建屋	7.0	9.90	2.90	化学体積 充てんポンプ入口燃料取替用水 制御系統 ビット側入口弁A (3LCV-121D)	3AB-G-5	原子炉補助 建屋	0.67	1.02	基本	②	
原子炉補機 冷却系 3A, 3B原子炉補機冷却水 冷却水ポンプ 冷戻り管連絡弁	制御建屋	7.0	9.29	2.29	原子炉補機 冷却系 3A, 3B, 3C原子炉補機冷却水 供給母管連絡弁 (3V-CC-056A, B)	制御建屋	7.0	9.28	2.28	原子炉補機 冷却系 3A, 3B原子炉補機冷却水 冷戻り管連絡弁 (3V-CC-043A, B)	制御建屋	17.1	18.09	0.99	化学体積 充てんポンプ入口燃料取替用水 制御系統 ビット側入口弁B (3LCV-121E)	3AB-G-5	原子炉補助 建屋	0.56	0.91	基本	②
原子炉補機 冷却系 3A, 3B格納容器スプレイ冷却 器冷却水止め弁 (3V-CC-178A, B)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.89	1.89	原子炉補機 冷却系 3-1次冷却材ポンプ冷却水供 給ライン格納容器隔離弁 (3V-CC-403)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.41	5.31	原子炉補機 冷却系 3-1次冷却材ポンプ冷却水供 給ライン格納容器第2隔離弁 (3V-CC-429)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.42	5.32	化学体積 充てんラインC/V外側止め弁 制御系統 A-ほう酸ポンプ (3CSP2A)	3AB-F-21	原子炉補助 建屋	0.43	0.59	基本	②
原子炉補機 冷却系 3-CRD冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水供給ラインCV 隔離弁 (3V-CC-342)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.12	5.02	原子炉補機 冷却系 3-CRD冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水供給ラインCV 隔離弁 (3V-CC-365)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.13	5.03	原子炉補機 冷却系 3A, 3B, 3C格納容器再循環ユ ニット冷却水供給ライン格納 容器隔離弁 (3V-CC-189A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	21.22	4.12	化学体積 充てんラインC/V外側止め弁 制御系統 B-ほう酸ポンプ (3CSP2B)	3AB-F-20	原子炉補助 建屋	0.43	0.59	基本	②
原子炉補機 冷却系 3A, 3B, 3C, 3D格納容器再循環 ユニット冷却水戻りライン格 納容器隔離弁 (3V-CC-198A, B, C, D)	原子炉 周辺建屋	17.1	21.12	4.02	原子炉補機 冷却系 3A, 3B原子炉補機冷却水冷却 器海水止め弁 (3V-SW-570A, B)	制御建屋	7.0	9.70	2.70	原子炉補機 冷却系 3海水ポンプ出口3A, 3B, 3C, 3D 海水ポンプエリヤ	1.0	-	-	化学体積 緊急はう酸注入弁 (3V-CS-541)	3AB-G-5	原子炉補助 建屋	0.50	0.75	基本	②	
原子炉補機 冷却系 3海水ポンプ 海水ポンプエリヤ	海水ポン エリヤ	2.5	4.65	2.15	原子炉補機 冷却系 3A, 3B海水ポンプ	海水ポン エリヤ			原子炉補機 冷却系 3海水ポンプ 海水ポンプエリヤ	1.0	-	-	化学体積 A-ほう酸タンク水位 (I)	3AB-F-21	原子炉補助 建屋	1.03	1.00	個別	②⑦		
※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能				※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能				※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能				※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能		※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能		※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能		※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能		※1: 保守的に機能喪失する床面からの高さ (海上高さを10mを考慮) ※2: 海水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全上特に重要な機能 ①緊急時停止機能 ②未臨界保持機能 ③事故時のプラント状態の把握機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤原子炉停止機能 ⑥炉心冷却機能 ⑦放射性物質の閉じ込め機能 ⑧ピット給水機能	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由					
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (4/9)							表1 防護対象設備一覧 (4/27)										
表1 防護対象設備一覧 (4/27)							表1 防護対象設備一覧 (4/35)										
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> 床上 [m]	設備番号	設置地層	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能喪失高さ <sup>※3</sup>	設備番号	設置建屋	設置箇所	相違理由				
原子炉補機 冷却系	3A, 3B1, 3B2, 3C海水ポンプ現場操作箱 (3LB-26, 27, 28, 29)	海水ポンプエリア	2.5	6.50	4.00	3B-EP-11	原子炉建屋 原子炉建屋	9.425	①心臓部	3AB-L-5	原子炉補助建屋	0.75	0.83	基本 ③④			
電気盤	3主盤 (原3号盤) (3MCB)	制御建屋	21.8	21.96	0.16	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	9.365	②心臓部								
電気盤	3原子炉補助盤 (3RAB)	制御建屋	21.8	21.98	0.18	3B-EP-11	原子炉建屋 原子炉建屋	9.395	②心臓部								
電気盤	3原子炉安全保護計装盤 I, II, III, IV (3RPR-I, II, III, IV)	制御建屋	21.8	21.96	0.16	3B-EP-8	原子炉建屋 原子炉建屋	9.415	②心臓部								
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D原子炉安全保護ロジック盤 (3RPL-A, B, C, D)	制御建屋	21.8	21.95	0.15	3B-EP-9	原子炉建屋 原子炉建屋	9.415	②心臓部								
電気盤	3安全保護シーケンス盤 A61, A62, B61, BG2 (3SFS-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	21.8	22.00	0.20	3B-EP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	10.115	②心臓部								
電気盤	3所内盤 (3HSB)	制御建屋	21.8	21.90	0.10	3B-EP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	10.115	②心臓部								
電気盤	事故時放射線監視盤 3RMS (3PRMS-III, IV)	制御建屋	21.8	21.87	0.07	3B-EP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	11.205	②心臓部								
電気盤	3原子炉トリップ遮断器盤 (3RTS)	原子炉周辺建屋	17.1	17.14	0.04	3B-EP-6	原子炉建屋 原子炉建屋	9.395	②心臓部								
電気盤	3A1, 3A2, 3A3, 3A4, 3B1, 3B2, 3B3, 3B4ソレノイド分電盤 (3SD-A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4)	制御建屋	15.8	16.09	0.29	3B-EP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	9.375	②心臓部								
電気盤	3A, 3B ドロップ盤 (3BCP-A-DRP, 3BCP-B-DRP)	制御建屋	15.8	15.92	0.12	3B-EP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.105	②心臓部								
電気盤	3A, 3B直流水電盤 (3DMP-A, B)	制御建屋	15.8	15.92	0.12	3B-EP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	9.015	②心臓部								
電気盤	3A, 3B直流分電盤 (3DMP-A, B)	制御建屋	15.8	16.28	0.48	3B-EP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	9.015	②心臓部								
電気盤	3A, 3B蓄電池	制御建屋	15.8	16.60	0.80	3B-EP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	9.015	②心臓部								
電気盤	3A, 3B充電器盤 (3BCP-A, B)	制御建屋	15.8	15.92	0.12	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	9.515	②心臓部								
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2メタルク ラッドスイッチギア (3MC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	15.8	15.95	0.15	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	9.515	②心臓部								
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2パワーセン タ (3PC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	15.8	15.86	0.06	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	9.325	②心臓部								
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2原子炉コント ロールセンタ (3RC-C-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	15.8	16.01	0.21	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	9.395 <sup>※4</sup>	②心臓部								
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D計装用電源盤 (1)～(3) (3IBC-A, B, C, D)	制御建屋	15.8	15.90	0.10	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.005 <sup>※4</sup>	②心臓部								
電気盤	3A1, 3A2, 3B1, 3B2, 3C1, 3C2, 3D 1, 3D2計装用分電盤 (3IPD-A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2)	制御建屋	15.8	16.09	0.29	3B-EP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.005 <sup>※4</sup>	②心臓部								

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

## 【大飯】

## 記載方針の相違

## 【女川・大飯】

## 記載方針の相違

## 設計方針の相違

- 泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである
- 「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。
- 上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6, 7号炉と同様)
- 設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違

## 【女川】

## 設計方針の相違

- 安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

## 表1 防護対象設備一覧 (4/35)

系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能
余熱除去系	3B-EP-11 余熱除去ポンプ (3RHP1B)	3AB-L-5	原子炉補助建屋	0.75	0.83	基本	③④
余熱除去系	3B-EP-12 余熱除去ポンプ (3RHP1B)	3AB-K-13	原子炉補助建屋	2.95	3.25	基本	③④
余熱除去系	3B-EP-13 余熱除去ポンプ (3FT-611)	3AB-K-13	原子炉補助建屋	2.95	3.23	基本	③④
余熱除去系	3B-EP-14 余熱除去ポンプ (3FT-601)	3AB-K-21	原子炉補助建屋	1.03	1.01	個別	③④
余熱除去系	3B-EP-15 余熱除去ポンプ (3FT-611)	3AB-K-4	原子炉補助建屋	1.03	1.00	個別	③④
余熱除去系	3B-EP-16 余熱除去ポンプ (3FT-601)	3AB-K-13	原子炉補助建屋	0.70	1.75	個別	④
余熱除去系	3B-EP-17 余熱除去ポンプ (3RHP1B)	3AB-K-13	原子炉補助建屋	0.70	1.78	個別	④
余熱除去系	3B-EP-18 余熱除去ポンプ (3RH-055A)	3AB-K-21	原子炉補助建屋	0.70	1.77	個別	④
余熱除去系	3B-EP-19 余熱除去ポンプ (3RH-055B)	3AB-K-13	原子炉補助建屋	0.70	1.78	個別	④
余熱除去系	3B-EP-20 余熱除去ポンプ (3RH-055B)	3AB-J-21	原子炉建屋	2.90	4.08	基本	④⑤
余熱除去系	3B-EP-21 余熱除去ポンプ (3RH-058A)	3BB-J-2	原子炉建屋	2.90	4.08	基本	④⑤
余熱除去系	3B-EP-22 余熱除去ポンプ (3RH-058B)	3BB-J-1	原子炉建屋	2.90	3.85	個別	④⑤
射出用	3RB-H-1 射出用空気压缩機 空気系統 (3IAE1A)	3RB-H-N2	原子炉建屋	0.40	0.44	基本	⑥

\*1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ

\*2: 浸水により機能喪失する床面からの高さ

\*3: 安全上特に重要な遮断機能

\*4: 事故時のプラント状態の把握機能

\*5: 原子炉停止後の除熱機能

\*6: ガル冷却機能

\*7: ピット冷却機能

\*8: ピット給水機能

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由					
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (5/9)							表1 防護対象設備一覧 (5/27)										
表1 防護対象設備一覧 (5/27)							表1 防護対象設備一覧 (5/35)										
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]	系統	設 備	区画番号	設置建屋	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	相違理由					
電気盤	3A, 3B, 3C, 3D計用交流電源切替盤 (3ISP-A, B, C, D)	制御建屋	15.8	16.13	0.33	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【大飯】 記載方針の相違				
電気盤	3AC, 3BD計用後備分電盤 (3IBD-A, BC, BD)	制御建屋	15.8	16.09	0.29	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【女川】 記載方針の相違				
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機コントロールセント (3GCC-A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	10.24	0.24	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【女川・大飯】 記載方針の相違				
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル機関	原子炉周辺建屋	3.5	3.91	0.41	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【女川】 設計方針の相違				
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機	原子炉周辺建屋	3.5	3.84	0.34	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである				
非常用電源系	3A, 3Bディーゼル発電機制御盤 (3DGC-A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	10.10	0.10	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイ冷却器	原子炉周辺建屋	10.0	-	-	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記している。				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイタンク	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【女川】 記載方針の相違				
格納容器スプレイ系	3格納容器圧力 (広域) I, II, III, IV (3PT-950, 951, 952, 953)	原子炉周辺建屋	17.1	22.08	4.98	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【女川・大飯】 記載方針の相違				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ	原子炉周辺建屋	3.5	4.31	0.81	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ 現場操作箱 (3LB-18, 19)	原子炉周辺建屋	3.5	4.70	1.20	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	【女川】 設計方針の相違				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ 燃料取扱い装置 (3V-CP-001A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.95	1.95	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイポンプ 再循環サンプル側人口格納容器隔離弁 (3V-CP-003A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	12.08	2.08	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
格納容器スプレイ系	3A, 3B格納容器スプレイヘッド ダム弁器出口格納容器隔離弁 (3V-CP-004A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	18.97	1.87	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
格納容器スプレイ系	3A, 3Bよう素除去薬品注入ランプ イン第1止め弁 (3V-CP-054A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.65	0.55	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
格納容器スプレイ系	3A, 3Bよう素除去薬品注入ランプ イン第2止め弁 (3V-CP-056A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.65	0.55	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	高圧炉心スプレイ系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ	原子炉周辺建屋	3.5	4.00	0.50	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ現場操作箱 (3LB-12, 13)	原子炉周辺建屋	3.5	4.70	1.20	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプ燃料取扱い装置 (3V-SI-002A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.93	1.93	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				
安全注入系	3A, 3B高圧注入ポンプミニマムフローライン第1止め弁 (3V-SI-015A, B)	原子炉周辺建屋	6.6	7.38	0.78	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	高圧水注入系 (322-P000)	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由							
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (6/9)							表1 防護対象設備一覧 (6/27)												
							表1 防護対象設備一覧 (6/35)												
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E. L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E. L. + [m]	床面 [m]	設置建屋	区分番号	設置建屋	E.L. <sup>※2</sup> (m)	機能 <sup>※3</sup>	系統	設 備	区分番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能	
安全注入系 ／9)	3A, 3B高压注入ポンプミニマムプローライン第2止め弁 (3V-SI-016A, B)	原子炉周辺建屋	6.6	7.38	0.78							朝御用	B—朝御用空気C/外側隔壁弁 (3V-IA-510B)	3RB-F-2	原子炉建屋	0.75	0.75	基本	⑤⑥
安全注入系	3A, 3B高压注入ポンプ格納容器再循環サンプル入口格納容器隔壁弁 (3V-SI-093A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.82	1.82							原子炉 補機冷却 水系統	A—原子炉補機冷却水ポンプ (3CCPIA)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.80	2.87	基本	⑥
安全注入系	3A, 3B余熱除去ポンプRW Sビット及び再循環サンプル側入口弁 (3V-SI-096A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.93	1.93							原子炉 補機冷却 水系統	B—原子炉補機冷却水ポンプ (3CCPIB)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.80	2.87	基本	⑥
安全注入系	3A高压注入流量(1), 3B高压注入流量(II)	原子炉周辺建屋	10.0	11.10	1.10							原子炉 補機冷却 水系統	C—原子炉補機冷却水ポンプ (3CCPIC)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.80	2.88	基本	⑥
安全注入系	3燃料取替用水ピット水位 I, II, III, IV (3LT-1400, 1401, 1402, 1403)	原子炉周辺建屋	17.1	18.18	1.08							原子炉 D—原子炉補機冷却水ポンプ (3CCPD)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.80	2.87	基本	⑥	
安全注入 系、燃料取 替用系	3燃料取替用水ピット 燃料取替用 水系	原子炉周辺建屋	18.5	-	-							原子炉 補機冷却 水系統	原子炉補機冷却水房戻り母管A側 連絡弁 (3V-CC-044A)	3RB-K-N4	原子炉建屋	1.30	2.65	基本	⑥
燃料取替用 水系	3A, 3B燃料取替用水ポンプ 周辺建屋	原子炉周辺建屋	17.1	17.57	0.47							原子炉 原子炉 補機冷却 水系統	原子炉補機冷却水房戻り母管B側 連絡弁 (3V-CC-044B)	3RB-K-N4	原子炉建屋	1.30	2.66	基本	⑥
燃料取替用 水系	3A, 3B燃料取替用水ポンプ現 場操作箱 (3LB-24, 25)	原子炉周辺建屋	17.1	18.30	1.20							原子炉 補機冷却 水系統	原子炉補機冷却水供給母管A側 連絡弁 (3V-CC-055A)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.65	3.99	基本	⑥
燃料ピット 冷却净化系	燃料ピット 冷却器	原子炉周辺建屋	10.0	-	-							原子炉 補機冷却 水系統	原子炉補機冷却水供給母管B側 連絡弁 (3V-CC-055B)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.65	4.00	基本	⑥
燃料ピット 冷却净化系	3A, 3B使用済燃料ピット 冷却净化系	原子炉周辺建屋	33.6	-	-							※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ ※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※3: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
燃料ピット 冷却净化系	3A, 3B使用済燃料ピット ポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.71	0.71							※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ ※3: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
燃料ピット 冷却净化系	3A, 3B使用済燃料ピットボン ポン場操作箱 (3LB-24, 25)	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20							※3: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気逃げ弁 (3PCV-3610, 3620, 3630, 3640)	原子炉周辺建屋	26.0	37.37	11.37							※4: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※5: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
主蒸気系	I, II, III, IV, 3A, 3B, 3C, 3D主 蒸気圧力 (3PT-465, 466, 467, 468, 475, 476, 477, 478, 485, 48 6, 487, 488, 495, 496, 497, 498)	原子炉周辺建屋	29.0	30.00	1.00							※5: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※6: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁 (3V-MS-533A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	33.6	36.78	3.18							※6: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※7: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
主蒸気系	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁 付属バッフル	原子炉周辺建屋	29.0	29.52	0.52							※7: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※8: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷凍機	制御建屋	10.0	10.59	0.59							※8: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※9: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水 ポンプ	制御建屋	10.0	10.54	0.54							※9: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※10: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							
冷水系	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水 ポンプ現場操作箱 (3LB-102, 104, 105, 106)	制御建屋	10.0	11.20	1.20							※10: 3号炉による機器喪失する床面からの高さ (水上高さを100mを考慮) ※11: 安全機能 ①緊急時停止機能 ②未露出冷却機能 ③事故時のプラント状態の維持機能 ④制御室外からの安全停止機能 ⑤ヒット冷却機能 ⑥放射性物質の閉じ込め機能							

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉					泊発電所3号炉					相違理由					
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (7/9)								表1 防護対象設備一覧 (7/27)												
表1 防護対象設備一覧 (7/27)								表1 防護対象設備一覧 (7/35)												
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※2</sup> 床上 [m]	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※3</sup> (n)	個別測定 高さ <sup>※4</sup> (n)	設定箇所	安全機能	相違理由						
冷水系	3空調用冷水Nヘッダ供給、 床リライン止め弁 (3V-C-032, 033)	制御建屋	10.0	11.21	1.21	冷水系	冷水循環装置(4) 電気ヒート交換器 (T40-32000A)	I-OP-1-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.055	②			【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映						
冷水系	3A, 3B中央制御室空調ユニット 冷水温度制御弁 (3TCV-2878, 2879)	制御建屋	26.1	27.32	1.22	冷水系	冷水循環装置(4) 電気ヒート交換器 (T40-32000A)	I-OP-1-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.045	②			【女川・大飯】 記載方針の相違 設計方針の相違						
冷水系	34C, 34D安全補機開閉器室空 調ユニット冷水温度制御弁 (3ATCV-2800, 2801)	制御建屋	26.1	27.58	1.48	冷水系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.275	②			・泊では評価ガイドの要求に則 り、機能喪失高さは、保守的に機 能喪失すると仮定した高さである 「評価高さ (基本設定箇所)」を 標準としているが、評価高さで没 水してしまう機器については「実 力高さ (個別測定箇所)」を適用 している。						
換気空調系	3換気空調盤 (3VB)	制御建屋	21.8	21.97	0.17	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.285	②			上記を踏まえ、表1には防護対象 設備の「基本設定箇所」と「個別 測定箇所」の機能喪失高さを併記 し、どちらを採用しているか明確 となるよう設定箇所を記載してい る。(島根2号炉、柏崎6, 7号炉と 同様)						
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン	制御建屋	26.1	27.35	1.25	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.055	②			・設備名称等については、炉型の 違い及びプラント設計の違いによ る相違						
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン 現場操作箱 (3LB-101, 102)	制御建屋	26.1	27.30	1.20	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.295	②			【女川】 設計方針の相違						
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン 出口ダンパー (3D-VS-603A, B)	制御建屋	26.1	30.03	3.93	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.055	②			安全機能に関して、炉型の相違に より機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ビ ット冷却」の達成を目的とした機 能であることに相違はない。						
換気空調系	3A, 3B中央制御室空調ファン 出口流量 (3FS-2910, 2911)	制御建屋	26.1	27.42	1.32	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.055	②									
換気空調系	3中央制御室温度 (1), (2) (3TS-2908, 2909)	制御建屋	21.8	23.21	1.41	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.285	②									
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン	制御建屋	26.1	26.34	0.24	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.075	②									
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン 現場操作箱 (3LB-95, 96)	制御建屋	26.1	27.30	1.20	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.060	②									
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環ファン 入口ダンパー (3D-VS-604A, B)	制御建屋	26.1	27.53	1.43	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.055	②									
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環流量調 節ダンパー (3HCD-2885, 2886)	制御建屋	26.1	27.52	1.42	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.105	②									
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環タンバ 流量設定 (3HC-2885, 2886)	制御建屋	26.1	27.85	1.75	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B中央制御室循環タンバ 流量設定 (3HC-2885, 2886)	制御建屋	26.1	27.88	1.78	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B, 34B, 34C, 34D安全補 機開閉器室空 調ファン	制御建屋	26.1	27.88	1.78	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B, 34B, 34C, 34D安全補 機開閉器室空 調ファン	制御建屋	26.1	27.88	1.78	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B, 34B, 34C, 34D安全補 機開閉器室空 調ファン	制御建屋	26.1	27.33	1.23	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B全系電気盤室給氣止め ダム (A, B (3D-VS-532, 533))	制御建屋	26.1	29.36	3.26	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B全系電気盤室排氣止め ダム (A (3D-VS-536))	制御建屋	28.7	30.96	2.26	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B全系電気盤室排氣止め ダム (B (3D-VS-537))	制御建屋	26.1	29.50	3.40	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.900	②									
換気空調系	3A, 3B安全補機開閉器室溫 度 (3TS-2817, 2818)	制御建屋	15.8	17.20	1.40	換気空調系	フルオルガスセローネアフィルタ出口温度(3) (T40-32000A)	I-OP-1-1	原子炉建屋 原子炉建屋	17.1	17.40	0.30								

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由							
3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (8/9)				表1 防護対象設備一覧 (8/27)				表1 防護対象設備一覧 (8/35)				【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映							
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m] 床上 [m]	設備番号	設置地図	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能 <sup>※3</sup>	系統	設 備	区间番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※4</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※5</sup> (m)	設定箇所	安全機能	【大飯】 記載方針の相違 【女川・大飯】 記載方針の相違 設計方針の相違		
換気空調系	3A, 3B制御用空気圧縮機室 空気ブランチ現場操作箱 (3LB-90, 91)	原子炉 周辺建屋	17.1	18.30	1.20	PIC-ブリッジ(3)入口遮断器室配管 (TB-PT0060)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	BA, WD及びFLDエバード補機冷却水 戻りライン第2止め弁 (3V-CC-352)	3AB-F-1	原子炉補助 建屋	0.62	1.01	基本	⑥	・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。
換気空調系	3制御用空気圧縮機室排気ダ ンバーA, B (3D-VS-431A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	21.65	4.55	PIC-ブリッジ(3)入口遮断器室配管 (TB-PT0060)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	原子炉補機冷却水サージタンク 水位 (III) (3LT-1200)	3RB-A-32	原子炉建屋	1.03	1.02	個別	⑥	上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6, 7号炉と同様)
換気空調系	3制御用空気圧縮機室湿度 (1), (2), (3), (4) (3TS- 271, 272, 2773, 2774)	原子炉 周辺建屋	17.1	18.50	1.40	PIC-加湿管 (3) 内ガス温度熱電対 (TB-PT0060-1)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	原子炉補機冷却水サージタンク 水位 (IV) (3LT-1201)	3RB-A-32	原子炉建屋	1.03	1.00	個別	⑥	・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違
換気空調系	3電動補助給水ポンプ室 給気ファン (3LB-86, 87)	原子炉 周辺建屋	21.3	23.30	2.00	PIC-加湿管 (3) 内ガス温度熱電対 (TB-PT0060-2)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	A, B-C/V再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水入口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-203A)	3RB-D-2	原子炉建屋	1.00	1.18	基本	⑥	【女川】 設計方針の相違
換気空調系	3A, 3B電動補助給水ポンプ室 給気ファン (3LB-86, 87)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.40	1.40	PIC-加湿管 (3) 内ガス温度熱電対 (TB-PT0060-3)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	C, D-C/V再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水入口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-203B)	3RB-D-3	原子炉建屋	1.20	1.39	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A1, 3A2, 3B1, 3B2ディーゼル 発電機室給気ファン	原子炉 周辺建屋	33.6	33.91	0.31	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-1)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	D-C/V再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208A)	3RB-B-2	原子炉建屋	3.94	4.00	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A1, 3A2, 3B1, 3B2ディーゼル 発電機室給気ファン	原子炉 周辺建屋	33.6	34.82	1.22	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-2)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	D-C/V再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208B)	3RB-B-2	原子炉建屋	3.94	4.00	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3ディーゼル発電機室排気ダ ンバーA1, A2, B1, B2 (3D-VS-401A, B, 403A, B)	原子炉 周辺建屋	10.0	13.59	3.59	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-3)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208D)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3Bディーゼル発電機室溫 度 (1), (2), (3), (4) (3TS-2701, 2702, 2703, 2704, 2711, 2712, 2713, 2714)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.18	1.18	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-4)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.115	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208E)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3B安全補機室冷却ファン	原子炉 周辺建屋	17.1	17.93	0.83	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-5)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.105	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208F)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3B安全補機室冷却ファン 現場操作箱 (3LB-82, 83)	原子炉 周辺建屋	17.1	18.30	1.20	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-6)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.105	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208G)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3B安全補機室温度 換気空調系 (1), (2) (3TS- 2680, 2681, 2690, 2691)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.28	1.28	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-7)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.105	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208H)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3B安全補機室排気ダンバ ー (3D-VS-105A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.61	5.51	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-8)	B-IF-8	原子炉建屋 原子炉建屋	4.285	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208I)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3Bほう酸ボンブ室 空調ファン	原子炉 周辺建屋	10.0	10.59	0.59	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-9)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.105	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208J)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3Bほう酸ボンブ室空調 ファン現場操作箱 (3LB-77, 78)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.20	1.20	PIC-結合部 (3) 黄銅酸化度熱電対 (TB-PT0010-10)	B-IF-2-2	原子炉建屋 原子炉建屋	0.105	④	原子炉 周辺建屋	D-C/Y再循環ユニット補機 補機冷却水系統 冷却水出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-208K)	3RB-B-9	原子炉建屋	3.94	4.04	基本	⑥	安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止め る」「冷やす」「閉じ込める」「ピ ット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。
換気空調系	3A, 3Bほう酸ボンブ室空調 ファン現場操作箱 (3TC-2601, 2611)	原子炉 周辺建屋	10.0	10.46	0.46														
換気空調系	3A, 3Bほう酸ボンブ室空調 温度調節計 (3TC-2601, 2611)	原子炉 周辺建屋	10.0	10.70	0.70														

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由										
<b>3号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く)</b> (9/9)							<b>表1 防護対象設備一覧 (9/27)</b>															
							<b>表1 防護対象設備一覧 (9/35)</b>															
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	設 備	区画番号	設置建屋	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能喪失高さ <sup>※3</sup>	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※4</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※5</sup> (m)	設定箇所	安全機能						
換気空調系	3号酸タンク室温度(1), (2), (3), (4) (3TS-2602, 2603, 2612, 2613)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.29	1.29	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1: 3号酸タンク室温度 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	余剰抽出冷却器等補機冷却水 入口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-422)	3BB-E-1	原子炉建屋	1.38	1.45	基本 ⑤
換気空調系	3A, B中央制御室非常用循環 ファン	制御建屋	29.3	29.90	0.60	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	余剰抽出冷却器等補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-430)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.88	0.90	基本 ⑤
換気空調系	3A, B中央制御室非常用循環 ファン現場操作箱 (3LB-97, 98)	制御建屋	29.3	30.50	1.20	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 入口止め弁 (3V-CC-501)	3BB-E-1	原子炉建屋	1.12	1.27	基本 ⑥
換気空調系	3A, B中央制御室非常用循環 ファン入口ダンパ (3HCD-602A, B)	制御建屋	29.3	29.66	0.36	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-503)	3BB-E-1	原子炉建屋	1.12	1.28	基本 ⑤
換気空調系	3A, B中央制御室外気取入流 量調節ダンパー (3HCD-2874, 2875)	制御建屋	29.3	30.76	1.46	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 入口止め弁 (3V-CC-528)	3BB-E-1	原子炉建屋	1.12	1.25	基本 ⑤
換気空調系	3A, B中央制御室事故時外気 取入流量調節ダンパー (3HCD-2889, 2890)	制御建屋	29.3	29.67	0.37	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-529)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, B中央制御室事故時循環 流量調節ダンパー (3HCD-2891, 2892)	制御建屋	29.3	31.29	1.99	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-530)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.20	0.20	基本 ⑤
換気空調系	3A, B中央制御室非常用循環 ファン出口流量 (3FS-2904, 2905)	制御建屋	26.1	27.44	1.34	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-531)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, B中央制御室外気取入調 節ダンバー流量設定 (3HC-2874, 2875)	制御建屋	29.3	30.90	1.60	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-532)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, B中央制御室事故時外気 取入調節ダンバー流量設定 (3HC-2889, 2890)	制御建屋	29.3	30.49	1.19	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-533)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, B中央制御室事故時循環 ダンバー流量設定 (3HC-2891, 2892)	制御建屋	29.3	31.45	2.15	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-534)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, Bアニュラス空気浄化 フラン (3VSF9A, B)	原子炉 周辺建屋	20.9	21.47	0.57	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-535)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, Bアニュラス空気浄化 操作箱 (3LB-52, 53)	原子炉 周辺建屋	20.9	22.10	1.20	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-536)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, Bアニュラス排気ダンバ (3D-VS-101A, B)	原子炉 周辺建屋	20.9	21.37	0.47	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-537)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, Bアニュラスダクトダンバ (3D-VS-104A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	19.24	2.14	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-538)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, Bアニュラス全量排気弁 (3V-VS-102A, B)	原子炉 周辺建屋	20.9	22.97	2.07	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-539)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
換気空調系	3A, Bアニュラス少量排気弁 (3V-VS-103A, B)	原子炉 周辺建屋	20.9	23.25	2.35	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	可燃性ガス濃度測定系 (B) FC1(0): 入口ガス流量測定装置 (T49-PC9-0048)	B-2P-2	原子炉建屋 原子炉建屋	8.100	⑦	原子炉 補機冷却 水系統	1次冷却材ポンプ補機冷却水 出口C/V外側隔壁弁 (3V-CC-540)	3BB-E-1	原子炉建屋	0.19	0.10	個別 ⑥
※ 浸水しても機能喪失しない設備は、機能喪失高さを「-」とする。													梓囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。									

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由					
<b>4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く)</b>																	
(1/9)																	
系統	設備	設置建屋	設置高さ E. L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E. L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※2</sup> 床面 [m]	設備	区画番号	設置建屋	E.L. <sup>※3</sup> [m]	機能喪失高さ <sup>※4</sup>	設備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※5</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※6</sup> (m)	設定箇所	安全機能
補助給水系	4A, 4B電動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.60	0.60	事故監視計器(AM)	B-4D-F-1	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-N8	原子炉補助建屋	0.37	0.33	個別	⑥
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ	原子炉周辺建屋	3.5	4.16	0.66	事故監視計器(AM)	B-4D-F-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-N8	原子炉補助建屋	0.37	0.33	個別	⑥
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ 起動弁A, B (4V-MS-570A, B)	原子炉周辺建屋	33.6	34.75	1.15	事故監視計器(AM)	B-4D-F-3	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
補助給水系	4タービン動補助給水ポンプ 起動弁A, B (4TDF-A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	10.26	0.26	事故監視計器(AM)	B-4D-F-4	原子炉建屋 原子炉建屋	1.425	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-3	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
補助給水系	4A, 4B, 4C, 4D蒸気発生器辅助 給水流量 (4FT-3716, 3726, 3736, 3746)	原子炉周辺建屋	17.1	18.21	1.11	事故監視計器(AM)	B-4D-F-5	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-4	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
補助給水系	4復水ピット水位III, IV (4LT-3760, 3761)	原子炉周辺建屋	26.0	26.45	0.45	事故監視計器(AM)	B-4D-F-6	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-5	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
補助給水系	4復水ピット	原子炉周辺建屋	26.0	-	-	事故監視計器(AM)	B-4D-F-7	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-6	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4A, 4B充てんポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.65	0.65	事故監視計器(AM)	B-4D-F-8	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-7	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4C充てんポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.29	0.29	事故監視計器(AM)	B-4D-F-9	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-8	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4C充てんポンプ速度制御盤 (4CSC)	原子炉周辺建屋	10.0	11.00	1.00	事故監視計器(AM)	B-4D-F-10	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-9	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4C充てんポンプ速度制御補助 盤 (4CSAC)	原子炉周辺建屋	10.0	10.80	0.80	事故監視計器(AM)	B-4D-F-11	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-10	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4A, 4B充てんポンプ 現場操作箱 (4LB-5, 6, 7, 8)	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20	事故監視計器(AM)	B-4D-F-12	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-11	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4充てんポンプ入口燃料取替 用水ピット側補給弁 A, B (4LCV-121D, E)	原子炉周辺建屋	10.0	11.19	1.19	事故監視計器(AM)	B-4D-F-13	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-12	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4充てんポンプ	原子炉周辺建屋	10.0	10.62	0.62	事故監視計器(AM)	B-4D-F-14	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-13	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4A, 4Bほうう酸ポンプ 現場操作箱 (4LB-9, 10)	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20	事故監視計器(AM)	B-4D-F-15	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-14	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4充てんライニン止め弁 (4VC-155)	原子炉周辺建屋	10.0	11.03	1.03	事故監視計器(AM)	B-4D-F-16	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-15	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4充てんライニン止め弁 (4LCV-121B)	原子炉周辺建屋	17.1	18.26	1.16	事故監視計器(AM)	B-4D-F-17	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-16	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4充てんライニン止め弁 (4LCV-121C)	原子炉周辺建屋	17.1	18.27	1.17	事故監視計器(AM)	B-4D-F-18	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-17	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4緊急ほうう酸注入ライニン 止め弁 (4VC-573)	原子炉周辺建屋	17.1	21.57	4.47	事故監視計器(AM)	B-4D-F-19	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-18	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4充てんライニン格納容器隔離 弁 (4VC-157)	原子炉周辺建屋	17.1	22.14	5.04	事故監視計器(AM)	B-4D-F-20	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-19	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4-1次冷却材ポンプ封水戻り ライニン格納容器第2隔離弁 (4VC-S-312)	原子炉周辺建屋	17.1	22.00	4.90	事故監視計器(AM)	B-4D-F-21	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-20	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥
化学体積制御系	4封水冷却器	原子炉周辺建屋	17.1	-	-	事故監視計器(AM)	B-4D-F-22	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	事故監視計器(AM)	B-4B-F-21	原子炉建屋 原子炉建屋	1.395	④	個別	⑥

表1 防護対象設備一覧 (10/27)

表1 防護対象設備一覧 (10/35)

【大飯】

記載方針の相違

【女川】

記載方針の相違

【設計方針の相違】

- ・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。

上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)

- ・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違

【女川】

記載方針の相違

安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)

青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)

緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 第9条 溢水による損傷の防止等（別添1添付資料4）

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由										
4号炉防護対象設備リスト（原子炉格納容器内設置設備除く）（2／9）							表1 防護対象設備一覧（11/27）															
							表1 防護対象設備一覧（11/35）															
系統	設備	設置位置	設置高さ E.L. + [m]	E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> 床上[m]	系統	設備	区画番号	設置地盤	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能 <sup>※3</sup>	系統	設備	区画番号	設置位置	基本設定 高さ <sup>※2</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能			
化学体積制御系	4A, 4B封水注入フィルタ	原子炉周辺建屋	26.0	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-8	原子炉建屋 原子炉建屋	2.945	④	間連設備	原子炉トリップ遮断器盤 (チャンネルⅢ) (3RTⅢ)	3RB-F-N3	原子炉建屋	0.06	0.06	個別	⑥			
化学体積制御系	4吋水ストレーナ	原子炉周辺建屋	17.1	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	0.050	③	間連設備	原子炉トリップ遮断器盤 (チャンネルⅣ) (3RTIV)	3RB-F-N3	原子炉建屋	0.06	0.06	個別	⑥			
化学体積制御系	4体積制御タンク	原子炉周辺建屋	17.1	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	7.695	③	間連設備	原子炉安全保護盤 (チャンネルⅠ) (3PI)	3AB-F-N13	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
化学体積制御系	4Bほうう酸タンク水位 (4LT-206, 208)	原子炉周辺建屋	17.1	18.18	1.08	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.795	③	間連設備	原子炉トリップ遮断器盤 (チャンネルⅡ) (3RTⅡ)	3AB-F-N14	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
化学体積制御系	4A, 4Bほうう酸タンク	原子炉周辺建屋	10.0	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-4	原子炉建屋 原子炉建屋	0.590	③	間連設備	原子炉トリップ遮断器盤 (チャンネルⅢ) (3RTⅢ)	3AB-F-N15	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
化学体積制御系	4ほうう酸フィルタ	原子炉周辺建屋	10.0	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-4	原子炉建屋 原子炉建屋	3.945	③	間連設備	原子炉トリップ遮断器盤 (チャンネルⅣ) (3RTIV)	3AB-F-N16	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ	原子炉周辺建屋	3.5	4.31	0.81	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-5	原子炉建屋 原子炉建屋	3.045	③	間連設備	原子炉トリップ遮断器盤 (チャンネルⅤ) (3RTV)	3AB-F-N17	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ現場操作箱 (4P-14, 15)	原子炉周辺建屋	3.5	4.70	1.20	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	10.245	③	間連設備	原子炉安全保護盤 (チャンネルⅥ) (3PI)	3AB-F-N18	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプ出口流量 (4FT-601, 611)	原子炉周辺建屋	3.5	4.61	1.11	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-10	原子炉建屋 原子炉建屋	10.245	③	間連設備	原子炉安全保護盤 (チャンネルⅦ) (3PI)	3AB-F-N19	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去ポンプミニマムフローライン止め弁 (4FCV-601, 611)	原子炉周辺建屋	17.1	17.98	0.88	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-1	原子炉建屋 原子炉建屋	3.225	③	間連設備	原子炉安全保護盤 (チャンネルⅧ) (3PI)	3AB-F-N20	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
余熱除去系	4A, 4B余熱除去冷却器	原子炉周辺建屋	10.0	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2	原子炉建屋 原子炉建屋	1.165	③	間連設備	原子炉安全保護盤 (チャンネルⅨ) (3PI)	3AB-F-N21	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気圧縮機制御盤 (4IAC-A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.54	0.44	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-5	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	間連設備	安全系FDPプロセッサ盤 (3SFWA)	3AB-F-N13	原子炉補助建屋	0.05	0.05	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気圧縮機	原子炉周辺建屋	17.1	17.72	0.62	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-6	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	間連設備	安全系FDPプロセッサ盤 (3SFWB)	3AB-F-N2	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気乾燥器 (4IAHIA, B)	原子炉周辺建屋	17.1	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-7	原子炉建屋 原子炉建屋	2.165	③	間連設備	安全系FDPプロセッサ盤 (3SFWC)	3AB-F-N13	原子炉補助建屋	0.05	0.05	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気ためめ (4IATIA, B)	原子炉周辺建屋	17.1	—	—	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-8	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	間連設備	安全系FDPプロセッサ盤 (3SFWD)	3AB-F-N2	原子炉補助建屋	0.05	0.05	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4C, 4B-C制御用空気母管遮断弁 (4V-1A-501A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.78	0.68	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-9	原子炉建屋 原子炉建屋	0.930	③	間連設備	安全系マルチブレクサ (トレンA) (3SMCA)	3AB-F-N13	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気主蒸気逃がし弁等供給ライン止め弁 (4V-1A-505A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.76	0.66	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001, 102)	B-IP-2-10	原子炉建屋 原子炉建屋	0.930	③	間連設備	安全系マルチブレクサ (トレンB) (3SMCB)	3AB-F-N2	原子炉補助建屋	0.04	0.04	個別	⑥			
制御用空気系	4A, 4B制御用空気格納容器隔離弁 (4V-1A-508A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	17.88	0.78	事由時監視計器(CM0)	CME(電)モニター② (3) (323-001A)	B-IP-2-5	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	※1：保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ	※2：浸水により機能喪失する床面からの高さ	※3：安全上特に重要な間連機器	①緊急時停止機能	②本底界維持機能	③事故時のプラント状態の把握機能	④原子炉停止後の燃然機能	⑤制御室外からの安全停止機能	⑥ビット冷却機能	⑦放射性物質の閉じ込め機能	⑧ビット給水機能
制御用空気系	4A, 4B制御用空気供給管圧力 (4PT-1800, 1810)	原子炉周辺建屋	17.1	18.20	1.10	事由時監視計器(CM0)	浮遊器	B-IP-2-6	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	※2：浸水により機能喪失する床面からの高さ	※3：安全上特に重要な間連機器	※4：原子炉停止後の燃然機能	※5：制御室外からの安全停止機能	※6：ビット冷却機能	※7：放射性物質の閉じ込め機能	※8：ビット給水機能				
原子炉補機冷却系	4A, 4B余熱除去冷却器冷却水止め弁 (4V-CC-114A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.69	1.69	事由時監視計器(CM0)	ドレンボットサポート	B-IP-2-6	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	※3：実質的な相違なし	※4：実質的な相違なし	※5：実質的な相違なし	※6：実質的な相違なし	※7：実質的な相違なし	※8：実質的な相違なし					
原子炉補機冷却系	4原子炉補機冷却水サージタンク水位III, IV (4LT-1200, 1201)	原子炉周辺建屋	39.0	39.99	0.99	事由時監視計器(CM0)	ドレンボットサポート	B-IP-2-6	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	※1：保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ	※2：浸水により機能喪失する床面からの高さ	※3：安全上特に重要な間連機器	※4：原子炉停止後の燃然機能	※5：制御室外からの安全停止機能	※6：ビット冷却機能	※7：放射性物質の閉じ込め機能	※8：ビット給水機能			
原子炉補機冷却系	4原子炉補機冷却水サージタンク	原子炉周辺建屋	42.0	—	—	事由時監視計器(CM0)	ドレンボットサポート	B-IP-2-6	原子炉建屋 原子炉建屋	0.000	③	※1：保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ	※2：浸水により機能喪失する床面からの高さ	※3：安全上特に重要な間連機器	※4：原子炉停止後の燃然機能	※5：制御室外からの安全停止機能	※6：ビット冷却機能	※7：放射性物質の閉じ込め機能	※8：ビット給水機能			

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由					
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (3/9)							表1 防護対象設備一覧 (12/27)										
							表1 防護対象設備一覧 (12/35)										
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]				
原子炉補機 冷却系	4A, 4B原子炉補機冷却水 冷却器	制御建屋	7.0	-	-	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ1) (3SLCA1)	3-BP-2-6	原子炉補機 冷却器	0.000	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ1) (3SLCA1)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D原子炉補機 冷却水ポンプ	制御建屋	7.0	9.08	2.08	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ2) (3SLCA2)	3-BP-2-6	原子炉補機 冷却器	0.000	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ2) (3SLCA2)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D原子炉補機冷却 水ポンプ現場操作箱 (4L-20, 21, 22, 23)	制御建屋	7.0	9.90	2.90	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ3) (3SLCA3)	3-BP-2-2	新調理盤	0.005	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ3) (3SLCA3)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, C, 4B, C原子炉補機冷却水 冷却器 戻り母管遮断弁 (4V-CC-043A, B)	制御建屋	7.0	9.33	2.33	燃料ブーム冷却净化装置 (4A-0001A)	3-BP-2-3	原子炉補機 冷却器	0.115	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ1) (3SLCA1)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, C, 4B, C原子炉補機冷却水 供給母管遮断弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	7.0	9.33	2.33	燃料ブーム冷却净化装置 (4A-0001B)	3-BP-2-2	原子炉補機 冷却器	0.115	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ2) (3SLCA2)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, C, 4B, C原子炉補機冷却水 供給母管遮断弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	7.0	9.33	2.33	燃料ブーム冷却净化装置 (4A-0001C)	3-BP-2-3	原子炉補機 冷却器	0.115	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ3) (3SLCA3)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, C, 4B, C原子炉補機冷却水 供給母管遮断弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	7.0	9.33	2.33	PPC-1冷却装置入口蓋 (4A-PT02A)	3-BP-2-1	原子炉補機 冷却器	0.453	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ1) (3SLCA1)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, C, 4B, C原子炉補機冷却水 供給母管遮断弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	7.0	9.33	2.33	PPC-1冷却装置入口蓋 (4A-PT02B)	3-BP-2-3	原子炉補機 冷却器	0.400	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ2) (3SLCA2)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, C, 4B, C原子炉補機冷却水 供給母管遮断弁 (4V-CC-056A, B)	制御建屋	7.0	9.33	2.33	PPC-1冷却装置入口蓋 (4A-PT02C)	3-BP-2-1	原子炉補機 冷却器	0.400	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンAグループ3) (3SLCA3)	3AB-P-N13	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	17.97	0.87	PPCボンプ(A)出口流量計 (4A-PT00A)	3-BP-1-4	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンBグループ1) (3SLCB1)	3AB-P-N2	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却 器冷却止水止め弁	原子炉 周辺建屋	10.0	11.85	1.85	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-1	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンBグループ2) (3SLCB2)	3AB-P-N2	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却 器冷却止水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.40	5.30	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-2	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	安全系現場制御監視盤 (トレ ンBグループ3) (3SLCB3)	3AB-P-N2	原子炉補助 建屋	0.04			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.40	5.30	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-4	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	A-計装用インバータ (3IVA)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.11	5.01	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-1	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	A-計装用インバータ (3IVB)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.13	5.03	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-2	原子炉補機 冷却器	0.395	⑥	B-計装用インバータ (3IVC)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.20	5.10	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-4	原子炉補機 冷却器	1.140	⑥	B-計装用インバータ (3IVD)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.13	5.03	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-1	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	C-計装用インバータ (3IVC)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10			
原子炉補機 冷却系	4-1次冷却材ポンプ冷却水供給 装置冷却水止め弁	原子炉 周辺建屋	17.1	22.20	5.10	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-2	原子炉補機 冷却器	0.375	⑥	D-計装用インバータ (3IVD)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10			
原子炉補機 冷却系	4 CRDM冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水供給ラインCV 隔離弁 (4V-CC-342)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.11	5.01	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-3	原子炉補機 冷却器	1.045	⑥	A-1-計装用交流分電盤 (3IDPA1)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.21			
原子炉補機 冷却系	4 CRDM冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水供給ラインCV 隔離弁 (4V-CC-342)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.13	5.03	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-4	原子炉補機 冷却器	1.045	⑥	A-1-計装用交流分電盤 (3IDPA1)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.21			
原子炉補機 冷却系	4 CRDM冷却ユニット・余剰抽 出冷却器冷却水供給ラインCV 隔離弁 (4V-CC-342)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.20	5.10	PPCボンプ(B)出口流量計 (4A-PT00B)	3-BP-1-1	原子炉補機 冷却器	1.045	⑥	A-1-計装用交流分電盤 (3IDPA2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.21			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D格納容器再循環 ユニット冷却水戻りライン格 納容器隔離弁 (4V-CC-189A, B, C, D)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.08	4.98	PPCボンプ(A)ポート注入器 (4A-PT00A)	3-BP-1-2	原子炉補機 冷却器	0.000	②④⑤⑦⑨	A-2-計装用交流分電盤 (3IDPA2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.22			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D格納容器再循環 ユニット冷却水戻りライン格 納容器隔離弁 (4V-CC-189A, B, C, D)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.08	4.98	PPCボンプ(A)ポート注入器 (4A-PT00A)	3-BP-1-3	原子炉補機 冷却器	0.000	②④⑤⑦⑨	A-2-計装用交流分電盤 (3IDPA2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.22			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D格納容器再循環 ユニット冷却水戻りライン格 納容器隔離弁 (4V-CC-189A, B, C, D)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.09	2.69	PPCボンプ(A)ポート注入器 (4A-PT00A)	3-BP-1-4	原子炉補機 冷却器	0.000	②④⑤⑦⑨	A-2-計装用交流分電盤 (3IDPA2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.22			
原子炉補機 冷却系	4海水ポンプ出口4A, 4B, 4C, 4D 海水ストレーナ (4S-SW-570A, B)	海水ポン ブエリア	1.0	-	-	PPCボンプ(A)ポート注入器 (4A-PT00A)	3-BP-1-5	原子炉補機 冷却器	0.000	②④⑤⑦⑨	A-2-計装用交流分電盤 (3IDPA2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.22			
原子炉補機 冷却系	4A, 4B, 4C海水ポンプ	海水ポン ブエリア	2.5	4.65	2.15	PPCボンプ(A)ポート注入器 (4A-PT00A)	3-BP-1-6	原子炉補機 冷却器	0.000	②④⑤⑦⑨	A-2-計装用交流分電盤 (3IDPA2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.22			

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由						
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (4/9)							表1 防護対象設備一覧 (13/27)											
							表1 防護対象設備一覧 (13/35)											
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>①</sup> E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>②</sup> 床上 [m]	設備番号	設置建屋	E.L. <sup>③</sup> [m]	機能喪失高さ <sup>④</sup> E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>⑤</sup> 床上 [m]	設備番号	設 備	設置建屋	基本設定 高さ <sup>⑥</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>⑦</sup> (m)	設定箇所	安全機能	
原子炉補機 冷却系	4A, 4B1, 4B2, 4C海水ポンプ現場操作箱 (4LB-26, 27, 28, 29)	海水ポンプエリア	2.5	6.40	3.90								B 1 - 計装用交流分電盤 (310PB1)	原子炉補助建屋	0.21	0.20	個別	⑩
電気盤	4主盤 (原子炉盤) (4MCB)	制御建屋	21.8	21.96	0.16								B 2 - 計装用交流分電盤 (310PB2)	原子炉補助建屋	0.21	0.21	基本	⑪
電気盤	4原子炉補助盤 (4RAB)	制御建屋	21.8	21.98	0.18								C 1 - 計装用交流分電盤 (310PC1)	原子炉補助建屋	0.21	0.22	基本	⑫
電気盤	4原子炉安全保護計装盤 I, II, III, IV (4RPR-I, II, III, IV)	制御建屋	21.8	21.97	0.17								C 2 - 計装用交流分電盤 (310PC2)	原子炉補助建屋	0.21	0.22	基本	⑬
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D原子炉安全保護ロジック盤 (4RPL-A, B, C, D)	制御建屋	21.8	21.98	0.18								D 1 - 計装用交流分電盤 (310P01)	原子炉補助建屋	0.21	0.20	個別	⑭
電気盤	4安全保護シーケンス盤 A61, A62, BG1, BG2 (4SFS-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	21.8	21.97	0.17								D 2 - 計装用交流分電盤 (310P02)	原子炉補助建屋	0.21	0.20	個別	⑮
電気盤	4所内盤 (4HSD)	制御建屋	21.8	21.90	0.10								A - 計装用交流電源切換器盤 (31SPA)	原子炉補助建屋	0.34	0.35	基本	⑯
電気盤	事故時放射線監視盤 4RMS (4PRMS-III, IV)	制御建屋	21.8	21.86	0.06								B - 計装用交流電源切換器盤 (31SPB)	原子炉補助建屋	0.34	0.33	個別	⑰
電気盤	4原子炉トリップ遮断器盤 (4RTS)	原子炉周辺建屋	17.1	17.15	0.05								C - 計装用交流電源切換器盤 (31SPC)	原子炉補助建屋	0.34	0.35	基本	⑱
電気盤	4A1, 4A2, 4A3, 4A4, 4B1, 4B2, 4B3, 4B4ソレノイド分電盤 (4SD-A1, A2, A3, A4, B1, B2, B3, B4)	制御建屋	15.8	16.09	0.29								D - 計装用交流電源切換器盤 (31SPD)	原子炉補助建屋	0.34	0.33	個別	⑲
電気盤	4A, 4Bドロッパ盤 (4BCP-A-DRP, 4BCP-B-DRP)	制御建屋	15.8	15.89	0.09								A - 補助建屋直流分電盤 (300PA)	原子炉補助建屋	0.22	0.23	基本	⑳
電気盤	4A, 4B直流水電盤 (4DMP-A, B)	制御建屋	15.8	15.89	0.09								B - 補助建屋直流分電盤 (300PB)	原子炉補助建屋	0.22	0.22	基本	㉑
電気盤	4A, 4B直流分電盤 (4DOP-A, B)	制御建屋	15.8	16.28	0.48													
電気盤	4A, 4B蓄電池	制御建屋	15.8	16.60	0.80													
電気盤	4A, 4B充電器盤 (4BCP-A, B)	制御建屋	15.8	15.89	0.09													
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2メタルクラップドスイッチギア (4MC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	15.8	15.95	0.15													
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2パワーセンタ (4PC-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	15.8	15.86	0.06													
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2原子炉コントロールセンタ (4RC-C-A1, A2, B1, B2)	制御建屋	15.8	16.01	0.21													
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D計装用電源盤 (1)～(3) (4IBC-A, B, C, D)	制御建屋	15.8	15.90	0.10													
電気盤	4A1, 4A2, 4B1, 4B2, 4C1, 4C2, 4D 1, 4B2計装用分電盤 (4IPD-A1, A2, B1, B2, C1, C2, D1, D2)	制御建屋	15.8	16.09	0.29													

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由										
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (5/9)							表1 防護対象設備一覧 (14/27)															
表1 防護対象設備一覧 (14/27)							表1 防護対象設備一覧 (14/35)															
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m] / 床上 [m]	システム	装置	装置番号	設置地図 E.L. + [m]	機能 <sup>※2</sup>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※3</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※4</sup> (m)	設定箇所	安全機能					
電気盤	4A, 4B, 4C, 4D計装用交流電源切替盤 (4ISP-A, B, C, D)	制御建屋	15.8	16.13	0.33	無気室調査 B-402-7 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-7 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.105	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン A 1 (3SDM1)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.19	0.20	個別	⑩					
電気盤	4AC, 4BD計装用後備分電盤 (4IBD-AC, BD)	制御建屋	15.8	16.09	0.29	無気室調査 B-402-8 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-8 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.113	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン A 2 (3SDM2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.19	0.20	個別	⑪					
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機コントロールセンタ (4GCC-A, B)	原子炉 周辺建屋	10.0	10.26	0.26	無気室調査 B-402-9 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-9 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.120	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン A 3 (3SDA3)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.19	0.20	個別	⑫					
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル機関	原子炉 周辺建屋	3.5 (本体10.0)	3.91	0.41	無気室調査 B-402-10 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-10 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン A 4 (3SDA4)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.19	0.20	個別	⑬					
非常用電源系	4A, 4Bディーゼル発電機	原子炉 周辺建屋	3.5 (本体10.0)	3.83	0.33	無気室調査 B-402-11 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-11 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.118	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン B 1 (3SDB1)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.19	0.18	個別	⑭					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイ冷却器	原子炉 周辺建屋	10.0	10.10	0.10	無気室調査 B-402-12 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-12 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.085	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン B 2 (3SDB2)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.19	0.19	個別	⑮					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン	原子炉 周辺建屋	10.0	-	-	無気室調査 B-402-13 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-13 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.055	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン B 3 (3SDB3)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.19	0.19	個別	⑯					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン	原子炉 周辺建屋	17.1	-	-	無気室調査 B-402-14 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-14 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.055	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	ソレノイド分電盤トレン B 4 (3SDB4)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.19	0.18	個別	⑰					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器圧力容器 (広域) I, II, III, IV (4PT-950, 951, 952, 953)	原子炉 周辺建屋	17.1	22.09	4.99	無気室調査 B-402-15 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-15 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-直流コントロールセンタ (3DCA)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	⑱					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン	原子炉 周辺建屋	3.5	4.33	0.83	無気室調査 B-402-16 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-16 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.125	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	B-直流コントロールセンタ (3DCB)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	⑲					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン ポンポン	原子炉 周辺建屋	3.5	4.70	1.20	無気室調査 B-402-17 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-17 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.125	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-1 原子炉コントロールセンタ (3RCC-A1)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	⑳					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン ポンポン	原子炉 周辺建屋	10.0	11.91	1.91	無気室調査 B-402-18 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-18 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.120	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-2 原子炉コントロールセンタ (3RCC-A2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉑					
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン 燃料取替弁 (4V-CP-001A, B)	原子炉 周辺建屋	10.0	12.06	2.06	※1: 保険的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ ※2: 沈没により機能喪失する床面からの高さ ①緊急時停止機能 ②本體界壁維持機能 ③原子炉が停止後の除熱機能 ④冷却却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能	無気室調査 B-402-19 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-19 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-直流コントロールセンタ (3DCA)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉒				
格納容器スプレイ系	4A, 4B格納容器スプレイポン 再循環サンプル入口格納容器 隔壁弁 (4V-CP-003A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	18.96	1.86	無気室調査 B-402-20 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-20 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.125	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	B-直流コントロールセンタ (3DCB)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉓					
格納容器スプレイ系	4A, 4Bよう素除去薬品注入ポンブ イン第1止め弁 (4V-CP-054A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	17.64	0.54	無気室調査 B-402-21 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-21 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.125	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-1 原子炉コントロールセンタ (3RCC-A1)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉔					
格納容器スプレイ系	4A, 4Bよう素除去薬品注入ポンブ イン第2止め弁 (4V-CP-056A, B)	原子炉 周辺建屋	17.1	17.62	0.52	無気室調査 B-402-22 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-22 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.125	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-2 原子炉コントロールセンタ (3RCC-A2)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉕					
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ	原子炉 周辺建屋	3.5	4.00	0.50	無気室調査 B-402-23 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-23 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.135	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	※2: 保険的機能喪失する床面からの高さ ①緊急時停止機能 ②本體界壁維持機能 ③原子炉が停止後の除熱機能 ④冷却却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能	無気室調査 B-402-24 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-24 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-直流コントロールセンタ (3DCA)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉖
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ現場操作箱 (4LB-12, 13)	原子炉 周辺建屋	3.5	4.70	1.20	無気室調査 B-402-25 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-25 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.135	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	※2: 保険的機能喪失する床面からの高さ ①緊急時停止機能 ②本體界壁維持機能 ③原子炉が停止後の除熱機能 ④冷却却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能	無気室調査 B-402-26 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-26 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	B-直流コントロールセンタ (3DCB)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉗
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ燃料取替弁用ピット開入口弁 (4V-SI-002A, B)	原子炉 周辺建屋	10.0	11.94	1.94	無気室調査 B-402-27 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-27 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	※2: 保険的機能喪失する床面からの高さ ①緊急時停止機能 ②本體界壁維持機能 ③原子炉が停止後の除熱機能 ④冷却却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能	無気室調査 B-402-28 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-28 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	A-直流コントロールセンタ (3DCA)	3AB-H-N6	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉘
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプミラーライン第1止め弁 (4V-SI-015A, B)	原子炉 周辺建屋	6.6	7.38	0.78	無気室調査 B-402-29 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-29 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	※2: 保険的機能喪失する床面からの高さ ①緊急時停止機能 ②本體界壁維持機能 ③原子炉が停止後の除熱機能 ④冷却却機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能	無気室調査 B-402-30 原子炉建屋 E.L.+0.0350	B-402-30 原子炉建屋 E.L.+0.0350	0.115	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	関連設備	B-直流コントロールセンタ (3DCB)	3AB-H-N1	原子炉補助 建屋	0.10	0.10	個別	㉙

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉					泊発電所3号炉					相違理由			
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (6/9)										表1 防護対象設備一覧 (15/27)					表1 防護対象設備一覧 (15/35)			
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E. L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E. L. + [m] 床上 [m]	装置	区分番号	設置建屋	E. L. <sup>※2</sup> [m]	機能 <sup>※3</sup>	系統	設 備	区分番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※4</sup> (m)	個別設定 高さ <sup>※5</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能	
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプミニマムフローライン第2止め弁 (4V-S1-016A, B)	原子炉周辺建屋	6.6	7.38	0.78	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	B-EP-7	原子炉防護構造 (II) (Y13-0002)	8.125	Q&C2#P	関連設備	B 1 - 原子炉コントロールセンター (3RCC-B1)	3AB-H-N1	原子炉補助建屋	0.10	0.10	個別	⑥
安全注入系	4A, 4B高圧注入ポンプ格納容器再循環サンプル入口格納容器隔離弁 (4V-S1-093A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.83	1.83	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	B-EP-7	原子炉防護構造 (II) (Y13-0002)	8.140	Q&C2#P	関連設備	B 2 - 原子炉コントロールセンター (3RCC-B2)	3AB-H-N1	原子炉補助建屋	0.10	0.10	個別	⑥
安全注入系	4A, 4B余熱除去ポンプRWSピット及び再循環サンプル側入口弁 (4V-S1-096A, B)	原子炉周辺建屋	10.0	11.99	1.99	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	B-EP-7	原子炉防護構造 (II) (Y13-0002)	8.125	Q&C2#P	関連設備	A 1 - パワーコントロールセンター (3POCC-A1)	3AB-H-N6	原子炉補助建屋	0.06	0.06	個別	⑥
安全注入系	4A高圧注入流量(I), 4B高圧注入流量(II)	原子炉周辺建屋	10.0	11.08	1.08	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	B-EP-11	原子炉防護構造 (II) (Y13-0002)	1.005	Q&C2#P	関連設備	A 2 - パワーコントロールセンター (3POCC-A2)	3AB-H-N1	原子炉補助建屋	0.06	0.06	個別	⑥
安全注入系	4燃料取替用水ピット水位 I, II, III, IV (4LT-1400, 1401, 1402, 1403)	原子炉周辺建屋	17.1	18.10	1.00	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-4	新設建屋	6.076	②	関連設備	B 1 - パワーコントロールセンター (3POCC-B1)	3AB-H-N1	原子炉補助建屋	0.06	0.06	個別	⑥
安全注入系、燃料取替用水系	4燃料取替用水ピット	原子炉周辺建屋	18.5	-	-	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-5	新設建屋	8.115	②	関連設備	B 2 - パワーコントロールセンター (3POCC-B2)	3AB-H-N1	原子炉補助建屋	0.06	0.06	個別	⑥
燃料取替用水系	4A, 4B燃料取替用水ポンプ	原子炉周辺建屋	17.1	17.57	0.47	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-6	新設建屋	8.110	②	関連設備	A - 6.6kVメタクラ (3MK-A)	3AB-H-N6	原子炉補助建屋	0.15	0.15	個別	⑥
燃料取替用水系	4A, 4B燃料取替用水ポンプ現地操作箱 (4LB-33, 34)	原子炉周辺建屋	17.1	18.30	1.20	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-7	新設建屋	8.105	②	関連設備	B - 6.6kVメタクラ (3MK-B)	3AB-H-N1	原子炉補助建屋	0.15	0.15	個別	⑥
燃料ピット	4A, 4B使用済燃料ピット	原子炉周辆建屋	10.0	-	-	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-8	新設建屋	8.125	②	関連設備	C - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-C)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
冷却净化系	冷却却器	原子炉周辺建屋	33.6	-	-	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-9	新設建屋	8.109	②	関連設備	D - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-D)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
冷却净化系	冷却却器	原子炉周辺建屋	10.0	10.72	0.72	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-10	新設建屋	8.066	②	関連設備	E - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-E)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
冷却净化系	冷却却器	原子炉周辺建屋	10.0	11.20	1.20	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-11	新設建屋	8.062	②	関連設備	F - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-F)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気逃がし弁 (4PCV-3610, 3620, 3630, 3640)	原子炉周辺建屋	26.0	37.33	11.33	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-12	新設建屋	1.125	②	関連設備	G - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-G)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
主蒸気系	I, II, III, IV, 4A, 4B, 4C, 4D主蒸気圧力弁 (4PT-465, 466, 467, 468, 475, 476, 477, 478, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498)	原子炉周辺建屋	29.0	30.00	1.00	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-13	新設建屋	1.110	②	関連設備	H - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-H)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気隔離弁 (4V-MS-533A, B, C, D)	原子炉周辺建屋	33.6	36.78	3.18	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-14	新設建屋	3.062	②	関連設備	I - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-I)	3CWPB-B-N01	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
主蒸気系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気隔離弁 (4V-MS-533A, B, C, D 付属バルブ)	原子炉周辺建屋	29.0	29.40	0.40	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-15	新設建屋	2.965	②	関連設備	J - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-J)	3CWPB-B-N02	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷凍機	制御建屋	10.0	10.59	0.59	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-16	新設建屋	10.0	④	冷水系	K - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-K)	3CWPB-B-N02	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水ポンプ	制御建屋	10.0	10.55	0.55	原子炉防護構造 (RCC) 安全保護施設 (II) (Y13-0002)	C-EP-17	新設建屋	10.0	④	冷水系	L - 原子炉補機冷却海水ポンプ (3SWPB-L)	3CWPB-B-N02	循環水ポンプ建屋	0.20	1.50	個別	⑥

\*1: 特にごとく機能喪失する床面からの高さ (水上高さを1.05mを考慮)  
 \*2: 及水により機能喪失する床面からの高さ  
 \*3: 安全性評価用機能  
 \*4: 延長評価用機能  
 \*5: 安全性評価用機能  
 ①緊急時停止機能  
 ②未界縫止機能  
 ③原子炉停止後の除燃機能  
 ④心冷却機能  
 ⑤放射性物質の閉じ込め機能

※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ

※2: 及水により機能喪失する床面からの高さ  
 ①緊急時停止機能  
 ②未界縫止機能  
 ③原子炉停止後の除燃機能  
 ④心冷却機能  
 ⑤放射性物質の閉じ込め機能

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由							
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (7/9)							表1 防護対象設備一覧 (16/27)												
表1 防護対象設備一覧 (16/27)							表1 防護対象設備一覧 (16/35)												
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L. + [m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L. + [m]	床面 [m]	系統	設 備	区画番号	設置地盤	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能 <sup>※3</sup>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※4</sup> (m)	個別测定 高さ <sup>※5</sup> (m)	設定箇所	安全機能
冷水系	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水ポンプ現場操作箱 (4LB-103, 104, 105, 106)	制御建屋	10.0	11.20	1.20	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (I) (TSI-0001A)	C-B2P-1	新鋸原層	9.105	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-原子炉補機冷却海水ポンプ (3SNPB-1D)	蓄積水 N02	蓄積水建屋	0.20	1.50	個別	⑥
冷水系	4空調用冷水Nヘッダ供給、戻りライン止め弁 (4V-CH-032, 033)	制御建屋	10.0	11.14	1.14	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (II) (TSI-0002A)	C-B2P-1	新鋸原層	9.085	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	A-原子炉補機冷却海水出口止め弁	3RB-K-N4	原子炉建屋	0.70	0.76	基本	⑩
冷水系	4A, 4B中央制御室空調ユニット冷水温度制御弁 (4TCV-2878, 2879)	制御建屋	26.1	27.42	1.32	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (III) (TSI-0003A)	C-B2P-1	新鋸原層	9.090	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	B-原子炉補機冷却海水冷却器	3RB-K-N4	原子炉建屋	0.70	0.75	基本	⑩
冷水系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ユニット冷水温度制御弁 (34TCV-2798, 2799)	制御建屋	26.1	27.65	1.55	換気空調系 (4VB)	計測制御電源 (A) 安全機能 (IV) (TSI-0004A)	C-B2P-2	新鋸原層	9.100	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	機械冷却海水出口止め弁	3Y-SW-571A					
換気空調系 (4VB)	4換気空調装置 (4VB)	制御建屋	21.8	21.97	0.17	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (V) (TSI-0005A)	C-B2P-2	新鋸原層	9.085	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	機械冷却海水出口止め弁	3Y-SW-571B					
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン	制御建屋	26.1	27.30	1.20	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (VI) (TSI-0006A)	C-B2P-2	新鋸原層	9.095	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	機械冷却海水出口止め弁	3Y-SW-571C					
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン現場操作箱 (4LB-101, 102)	制御建屋	26.1	27.30	1.20	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (VII) (TSI-0007A)	C-B2P-4	新鋸原層	9.015	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-原子炉補機冷却海水冷却器	3RB-K-N1	原子炉建屋	0.70	0.75	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン出口ダンパー (4D-VS-603A, B)	制御建屋	26.1	30.30	4.20	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (VIII) (TSI-0008A)	C-B2P-4	新鋸原層	9.100	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	機械冷却海水出口止め弁	3RB-K-N1	原子炉建屋	0.70	0.75	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B中央制御室空調ファン (4FS-2910, 2911)	制御建屋	26.1	27.40	1.30	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (IX) (TSI-0009A)	C-B2P-4	新鋸原層	9.095	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	C-原子炉補機冷却海水冷却器	3RB-K-N1	原子炉建屋	0.70	0.76	基本	⑩
換気空調系	4中央制御室温度 (1), (2) (4IS-2908, 2909)	制御建屋	21.8	23.20	1.40	換気空調系	計測制御電源 (A) 安全機能 (X) (TSI-0010A)	C-B2P-4	新鋸原層	9.015	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-原子炉補機冷却海水冷却器	3RB-K-N1	原子炉建屋	0.70	0.75	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン	制御建屋	26.1	26.36	0.26	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (A) (TSI-0001A)	B-B2P-11	原子炉層	9.100	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-原子炉補機冷却海水冷却器	3Y-SW-571D					
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン現場操作箱 (4LB-95, 96)	制御建屋	26.1	27.30	1.20	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (B) (TSI-0002A)	B-B2P-11	原子炉層	9.090	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E2A)	3DG-J-N2	ディーゼル発電機建屋	0.30	0.38	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環ファン入口ダンパー (4D-VS-604A, B)	制御建屋	26.1	28.00	1.90	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (C) (TSI-0003A)	B-B2P-11	原子炉層	9.045	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E2B)	3DG-J-N1	ディーゼル発電機建屋	0.30	0.37	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環流量測量ダンパー (4HCD-2885, 2886)	制御建屋	26.1	27.52	1.42	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (D) (TSI-0004A)	B-B2P-7	原子炉層	9.040	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E1A)	3DG-J-N2	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.32	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B中央制御室循環流量設定 (4HCD-2885, 2886)	制御建屋	26.1	27.40	1.30	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (E) (TSI-0005A)	B-B2P-7	原子炉層	9.045	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E1B)	3DG-J-N1	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.32	基本	⑩
換気空調系	34A, 34B安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	26.1	27.88	1.78	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (F) (TSI-0006A)	B-B2P-7	原子炉層	9.040	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E2B)	3DG-J-N1	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.37	基本	⑩
換気空調系	34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン	制御建屋	26.1	27.88	1.78	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (G) (TSI-0007A)	B-B2P-7	原子炉層	9.045	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E1A)	3DG-J-N2	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.32	基本	⑩
換気空調系	34A, 34B, 34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン現場操作箱 (34LB-13, 14, 20, 21)	制御建屋	26.1	27.33	1.23	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (H) (TSI-0008A)	B-B2P-6	原子炉層	9.035	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E1B)	3DG-J-N1	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.32	基本	⑩
換気空調系	34A, 34B, 34C, 34D安全補機開閉器室空調ファン現場操作箱 (34LB-13, 14, 20, 21)	制御建屋	26.1	29.21	3.11	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (I) (TSI-0009A)	B-B2P-11	原子炉層	9.095	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E1B)	3DG-J-N1	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.32	基本	⑩
換気空調系	4A, 4B安全補機開閉器室温度 (4TS-2917, 2918)	制御建屋	15.8	17.23	1.43	換気空調系	原子炉補機冷却海水ポンプ (J) (TSI-0010A)	B-B2P-3	原子炉層	9.205	②③④⑤⑥⑦⑧	原子炉	D-ディーゼル発電機 (3DG-E1B)	3DG-J-N1	ディーゼル発電機建屋	0.20	0.32	基本	⑩

※1: 基本により機能喪失する床面からの高さ (地上高を±0.00mを基準)  
 ※2: 安全機能  
 ①緊急時停止機能  
 ②漏電遮断機能  
 ③断電遮断機能  
 ④断電遮断機能  
 ⑤断電遮断機能  
 ⑥断電遮断機能  
 ⑦事故時のプラント状態の把握機能  
 ⑧断電遮断機能  
 ⑨原子炉外からの安全停止機能  
 ⑩原子炉外からの除熱機能  
 ⑪心臓冷却機能  
 ⑫放射性物質の閉じ込め機能

※3: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ  
 ※4: 溢水により機能喪失する床面からの高さ  
 ①緊急時停止機能  
 ②漏電遮断機能  
 ③断電遮断機能  
 ④断電遮断機能  
 ⑤断電遮断機能  
 ⑥断電遮断機能  
 ⑦事故時のプラント状態の把握機能  
 ⑧断電遮断機能  
 ⑨原子炉外からの安全停止機能  
 ⑩原子炉外からの除熱機能  
 ⑪心臓冷却機能  
 ⑫放射性物質の閉じ込め機能

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由								
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (8/9)				表1 防護対象設備一覧 (17/27)				表1 防護対象設備一覧 (17/35)				【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映								
<b>系統</b> <b>設 備</b> <b>設置建屋</b> <b>設置高さ E. L. + [m]</b> <b>E. L. + [m]</b> <b>機能喪失高さ<sup>※1</sup> 床上 [m]</b>																				
換気空調系 4A, 4B制御用空気圧縮機室給気ファン																				
原子炉周辺建屋 17.1 17.41 0.31																				
換気空調系 4A, 4B制御用空気圧縮機室給気ファン現場操作箱 (4LB-90, 91)																				
原子炉周辺建屋 17.1 18.40 1.30																				
換気空調系 4制御用空気圧縮機室排気ダントンA, B (4D-VS-431A, B)																				
原子炉周辺建屋 17.1 21.50 4.40																				
換気空調系 4制御用空気圧縮機室温度 (1), (2), (3), (4) (4TS-271, 272, 273, 274)																				
原子炉周辺建屋 17.1 18.48 1.38																				
換気空調系 4A, 4B電動補助給水ポンプ室給気ファン																				
原子炉周辺建屋 17.1 17.43 0.33																				
換気空調系 4A, 4B電動補助給水ポンプ室																				
原子炉周辺建屋 17.1 18.30 1.20																				
換気空調系 4電動補助給水ポンプ室排気ダンバA, B (4D-VS-411A, B)																				
原子炉周辺建屋 21.3 23.76 2.46																				
換気空調系 4A, 4B電動補助給水ポンプ室温度 (1), (2) (4TS-2741, 2742, 2743, 2744)																				
原子炉周辺建屋 10.0 11.44 1.44																				
換気空調系 4A1, 4A2, 4B1, 4B2ディーゼル発電機室給気ファン																				
原子炉周辺建屋 33.6 33.91 0.31																				
換気空調系 4A1-A2, 4B1-B2ディーゼル発電機室給気ファン現場操作箱 (4LB-84, 85)																				
原子炉周辺建屋 33.6 34.83 1.23																				
換気空調系 4ディーゼル発電機室排気ダントンA1, A2, B1, B2 (4D-VS-401A, B, 403A, B)																				
原子炉周辺建屋 10.0 14.00 4.00																				
換気空調系 4A, 4Bディーゼル発電機室温度 (1), (2), (3), (4) (4TS-2701, 2702, 2703, 2704, 2711, 2712, 2713, 2714)																				
原子炉周辺建屋 10.0 11.18 1.18																				
換気空調系 4A, 4B安全補機室冷却ファン																				
原子炉周辺建屋 17.1 17.92 0.82																				
換気空調系 4A, 4B安全補機室冷卻ファン現場操作箱 (4LB-82, 83)																				
原子炉周辺建屋 17.1 18.30 1.20																				
換気空調系 4A, 4B安全補機室温度 (1), (2) (4TS-2680, 2681, 2690, 2691)																				
原子炉周辺建屋 10.0 11.28 1.28																				
換気空調系 4A, 4B安全補機室排気ダンバー (4D-VS-105A, B)																				
原子炉周辺建屋 17.1 22.63 5.53																				
換気空調系 4A, 4Bほう酸ポンプ室空調ファン																				
原子炉周辺建屋 10.0 10.59 0.59																				
換気空調系 4A, 4Bほう酸ポンプ室空調ファン給気加熱コイル																				
原子炉周辺建屋 10.0 10.46 0.46																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由						
4号炉防護対象設備リスト (原子炉格納容器内設置設備除く) (9/9)								表1 防護対象設備一覧 (18/27)				表1 防護対象設備一覧 (18/35)						
系統	設 備	設置建屋	設置高さ E.L.+[m]	機能喪失高さ <sup>※1</sup> E.L.+[m]	床面[m]	計画番号	計画機種	E.L. <sup>※2</sup> [m]	機能 <sup>※3</sup>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※4</sup> (m)	個別設定 高さ <sup>※5</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映
換気空調系	4A, 4Bほうう酸ポンプ室温度調節計 (4TC-2601, 2611)	原子炉周辺建屋	10.0	10.70	0.70	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋	8.025	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辺建屋	B-1P-11	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋	1.12	1.44	基本	⑤	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映
換気空調系	4Iまう酸タンク室温度(1), (3), (4) (4TS-2602, 2603, 2612, 2613)	原子炉周辺建屋	10.0	11.30	1.30	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋	8.115	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辺建屋	B-1P-4	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン	制御建屋	29.3	29.93	0.63	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋	8.365	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辺建屋	B-1P-14	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン現場操作箱 (4LB-97, 98)	制御建屋	29.3	30.50	1.20	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋	8.285	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辺建屋	B-1P-2	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン入口ダンパー (4VS-602A, B)	制御建屋	29.3	29.65	0.35	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋	8.110	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辺建屋	B-1P-4	原子炉周辺建屋	原子炉周辺建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室外気取入流量調節ダンパー (4HCD-2874, 2875)	制御建屋	29.3	30.79	1.49	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.110	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-1	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時外気取入流量調節ダンパー (4HC-2889, 2890)	制御建屋	29.3	29.68	0.38	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.110	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-14	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時循環流量調節ダンパー (4HCD-2891, 2892)	制御建屋	29.3	31.28	1.98	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.215	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-6	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室非常用循環ファン出口流量制御 (4FS-2904, 2905)	制御建屋	26.1	27.42	1.32	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.285	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-7	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室外気取入調節ダンパー流量設定 (4HC-2874, 2875)	制御建屋	29.3	30.91	1.61	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.370	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-14	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時外気取入調節ダンパー流量設定 (4HC-2889, 2890)	制御建屋	29.3	30.51	1.21	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.192	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-14	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4B中央制御室事故時循環ダンパー流量設定 (4HC-2891, 2892)	制御建屋	29.3	31.31	2.01	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.045	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-6	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4Bアニュラス空気浄化ファン (4VSFA-9, B)	原子炉周辺建屋	20.9	21.46	0.56	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.110	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-14	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4Bアニュラス空気浄化ファン現場操作箱 (4LB-52, 53)	原子炉周辺建屋	20.9	22.10	1.20	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.192	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-14	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4Bアニュラス排気ダンパー (4D-VS-101A, B)	原子炉周辺建屋	20.9	21.35	0.45	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋	8.110	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-15	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4Bアニュラス戻りダンパー (4D-VS-104A, B)	原子炉周辺建屋	17.1	19.21	2.11	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.455	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-15	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4Bアニュラス全量排気弁 (4V-VS-102A, B)	原子炉周辺建屋	20.9	22.98	2.08	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.455	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-15	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
換気空調系	4A, 4Bアニュラス少量排気弁 (4V-VS-103A, B)	原子炉周辺建屋	20.9	23.27	2.37	原子炉周辺建屋	原子炉周辆建屋	8.455	②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩	原子炉周辆建屋	B-1P-15	原子炉周辆建屋	原子炉周辆建屋					【女川】 記載方針の相違
※ 没水しても機能喪失しない設備は、機能喪失高さを「-」とする。																		
※ 1: 供水に上り構造物を含む床面からの高さ (床面高さ±0.02mを考慮)																		
※ 2: 淹水により機能喪失する床面からの高さ																		
※ 3: ①緊急停止機能 ②本體界線保持機能 ③床面から移行後の除熱機能 ④合流機能 ⑤放射性物質の閉じ込め機能 ⑥ヒット給水機能																		
※ 4: 安全機能																		
※ 5: ①緊急停止機能 ②本體界線保持機能 ③床面から移行後の除熱機能 ④合流機能 ⑤ヒット給水機能																		

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (19/27)	表1 防護対象設備一覧 (19/35)	<p><b>【女川】</b>  <b>記載方針の相違</b>  <b>設計方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ビット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (20/27)	表1 防護対象設備一覧 (20/35)	<p><b>【女川】</b>  <b>記載方針の相違</b>  <b>設計方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (21/27)	表1 防護対象設備一覧 (21/35)	<p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ビット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (22/27)	表1 防護対象設備一覧 (22/35)	<p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (23/27)	表1 防護対象設備一覧 (23/35)	<p><b>【女川】</b>  <b>記載方針の相違</b>  <b>設計方針の相違</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ビット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (24/27)	表1 防護対象設備一覧 (24/35)	<p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>  <u>設計方針の相違</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	表1 防護対象設備一覧 (25/27)	表1 防護対象設備一覧 (25/35)	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ (基本設定箇所)」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ (個別測定箇所)」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
表1 防護対象設備一覧 (26/27)			
表1 防護対象設備一覧 (26/35)			
※1: 国水により機能喪失する床面からの高さ (海上満水:105cmを考慮)			
※2: 泊水により機能喪失する床面からの高さ			
①緊急時停止機能 ②本體界維持機能 ③原子炉停止後の除熱機能 ④ガバ心冷却機能 ⑤ブリット冷却機能 ⑥ブリット給水機能			
⑦安全上特に重要な関連機能 ⑧事故時のプラント状態の把握機能 ⑨制御室外からの安全停止機能 ⑩ピット冷却機能 ⑪ブリット給水機能			
【女川】			
記載方針の相違			
設計方針の相違			
・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。			
上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)			
・設備名称等について、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違			
・安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ブリット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。			

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																							
	<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (27/27)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>装置</th> <th>区画番号</th> <th>設置場所</th> <th>E.L<sup>(a)</sup> (m)</th> <th>機能<sup>(b)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4732)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.244</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4733)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.006</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4734)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.234</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4735)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.004</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4736)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.234</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4737)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.006</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4738)</td> <td>B-EP-6</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>3.004</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4739)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>7.070</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4740)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>7.070</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4741)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>7.070</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4742)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>7.070</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)ドレン遮気系 (II-00-4743)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>6.408</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4744)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>7.072</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4745)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>7.074</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器遮気系(II)</td> <td>格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4750)</td> <td>B-EP-10</td> <td>原子炉建屋 原子炉構内</td> <td>6.410</td> <td>②</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">         (a) : 浸水により機能喪失する床面からの高さ (水上高さも300mmを考慮)          (b) : 安全機能          ①緊急停止機能          ②未端界維持機能          ③原子炉停止後の除熱機能          ④か心冷却機能          ⑤放射性物質の閉じ込め機能          ⑥安全上特に重要な閉塞機能          ⑦事故時のブランチ状態の把握機能          ⑧制御室外からの安全停止機能          ⑨ビット冷却機能          ⑩ビット給水機能       </p>	系統	装置	区画番号	設置場所	E.L <sup>(a)</sup> (m)	機能 <sup>(b)</sup>	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4732)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.244	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4733)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.006	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4734)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.234	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4735)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.004	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4736)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.234	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4737)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.006	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4738)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.004	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4739)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4740)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4741)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4742)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)ドレン遮気系 (II-00-4743)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	6.408	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4744)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.072	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4745)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.074	②	原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4750)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	6.410	②	<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (27/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>設 備</th> <th>区画番号</th> <th>設置場所</th> <th>基本設定 高さ<sup>(a)</sup> (m)</th> <th>個別測定 高さ<sup>(a)</sup> (m)</th> <th>設定 箇所</th> <th>安全 機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-電動補助給水ポンプ室内 空気温度 (2) (3TS-2682)</td> <td>3RB-H-N7</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>5.41</td> <td>基本</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-副翼用空気EGR機室給氣 ファン (3WSF42A)</td> <td>3RB-H-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>4.50</td> <td>4.64</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-副翼用空気EGR機室給氣 ファン (3WSF42B)</td> <td>3RB-H-N3</td> <td>原子炉建屋</td> <td>4.50</td> <td>4.64</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ (3HCD-2701)</td> <td>3RB-H-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>5.00</td> <td>4.64</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ (3HCD-2711)</td> <td>3RB-H-N3</td> <td>原子炉建屋</td> <td>5.00</td> <td>4.63</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ/流量設定器 (3HC-2701)</td> <td>3RB-H-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>5.74</td> <td>5.76</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-副翼用空気EGR機室外気取入 風量測定ダンバ/流量設定器 (3HC-2711)</td> <td>3RB-H-N3</td> <td>原子炉建屋</td> <td>5.74</td> <td>5.75</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (1) (3TS-2702)</td> <td>3RB-H-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.39</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (1) (3TS-2712)</td> <td>3RB-H-N3</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.39</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (2) (3TS-2713)</td> <td>3RB-H-N3</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.40</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-安全補機開閉器室給氣 ファン (3WSF27A)</td> <td>3AB-P-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.15</td> <td>2.16</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-安全補機開閉器室給氣 ファン (3WSF27B)</td> <td>3AB-P-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.15</td> <td>2.16</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">         表1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ          表2: 浸水により機能喪失する床面からの高さ          ①緊急停止機能          ②未端界維持機能          ③原子炉停止後の除熱機能          ④か心冷却機能          ⑤放射性物質の閉じ込め機能          ⑥安全上特に重要な閉塞機能          ⑦事故時のブランチ状態の把握機能          ⑧制御室外からの安全停止機能          ⑨ビット冷却機能          ⑩ビット給水機能       </p> <p style="margin-top: 10px; color: green;"> <b>【女川】</b>  <b>記載方針の相違</b>  <b>設計方針の相違</b>        • 泊では評価ガイドの要件に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである        「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。        上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)        • 設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違        • 安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ビット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。     </p>	系統	設 備	区画番号	設置場所	基本設定 高さ <sup>(a)</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>(a)</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能	換気空調 系統	B-電動補助給水ポンプ室内 空気温度 (2) (3TS-2682)	3RB-H-N7	原子炉建屋	1.42	5.41	基本	③	換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室給氣 ファン (3WSF42A)	3RB-H-N2	原子炉建屋	4.50	4.64	基本	⑥	換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室給氣 ファン (3WSF42B)	3RB-H-N3	原子炉建屋	4.50	4.64	基本	⑥	換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ (3HCD-2701)	3RB-H-N2	原子炉建屋	5.00	4.64	個別	⑥	換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ (3HCD-2711)	3RB-H-N3	原子炉建屋	5.00	4.63	個別	⑥	換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ/流量設定器 (3HC-2701)	3RB-H-N2	原子炉建屋	5.74	5.76	基本	⑥	換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室外気取入 風量測定ダンバ/流量設定器 (3HC-2711)	3RB-H-N3	原子炉建屋	5.74	5.75	基本	⑥	換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (1) (3TS-2702)	3RB-H-N2	原子炉建屋	1.42	1.39	個別	⑥	換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (1) (3TS-2712)	3RB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.39	個別	⑥	換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (2) (3TS-2713)	3RB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥	換気空調 系統	A-安全補機開閉器室給氣 ファン (3WSF27A)	3AB-P-N1	原子炉補助 建屋	0.15	2.16	基本	⑥	換気空調 系統	B-安全補機開閉器室給氣 ファン (3WSF27B)	3AB-P-N1	原子炉補助 建屋	0.15	2.16	基本	⑥
系統	装置	区画番号	設置場所	E.L <sup>(a)</sup> (m)	機能 <sup>(b)</sup>																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4732)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.244	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4733)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.006	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4734)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.234	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4735)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.004	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4736)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.234	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4737)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.006	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4738)	B-EP-6	原子炉建屋 原子炉構内	3.004	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4739)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4740)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4741)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4742)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.070	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)ドレン遮気系 (II-00-4743)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	6.408	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル入口遮気系 (II-00-4744)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.072	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4745)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	7.074	②																																																																																																																																																																																																					
原子炉格納容器遮気系(II)	格納容器内空気換気モニタ系(II)DCサンブル底付遮気系 (II-00-4750)	B-EP-10	原子炉建屋 原子炉構内	6.410	②																																																																																																																																																																																																					
系統	設 備	区画番号	設置場所	基本設定 高さ <sup>(a)</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>(a)</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-電動補助給水ポンプ室内 空気温度 (2) (3TS-2682)	3RB-H-N7	原子炉建屋	1.42	5.41	基本	③																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室給氣 ファン (3WSF42A)	3RB-H-N2	原子炉建屋	4.50	4.64	基本	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室給氣 ファン (3WSF42B)	3RB-H-N3	原子炉建屋	4.50	4.64	基本	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ (3HCD-2701)	3RB-H-N2	原子炉建屋	5.00	4.64	個別	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ (3HCD-2711)	3RB-H-N3	原子炉建屋	5.00	4.63	個別	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室外気 取入風量測定ダンバ/流量設定器 (3HC-2701)	3RB-H-N2	原子炉建屋	5.74	5.76	基本	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室外気取入 風量測定ダンバ/流量設定器 (3HC-2711)	3RB-H-N3	原子炉建屋	5.74	5.75	基本	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	A-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (1) (3TS-2702)	3RB-H-N2	原子炉建屋	1.42	1.39	個別	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (1) (3TS-2712)	3RB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.39	個別	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-副翼用空気EGR機室空内 空気温度 (2) (3TS-2713)	3RB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	A-安全補機開閉器室給氣 ファン (3WSF27A)	3AB-P-N1	原子炉補助 建屋	0.15	2.16	基本	⑥																																																																																																																																																																																																			
換気空調 系統	B-安全補機開閉器室給氣 ファン (3WSF27B)	3AB-P-N1	原子炉補助 建屋	0.15	2.16	基本	⑥																																																																																																																																																																																																			

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (28/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>設 備</th> <th>区画番号</th> <th>設置建屋</th> <th>基本設定 高さ<sup>※1</sup> (m)</th> <th>個別測定 高さ<sup>※2</sup> (m)</th> <th>設定箇所</th> <th>安全機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-安全系計装置室室内空気 湿度 (3TS-2790)</td> <td>3AB-F-N13</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>1.92</td> <td>1.39</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-安全系計装置室室内空気 湿度 (3TS-2791)</td> <td>3AB-F-N2</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>1.92</td> <td>1.39</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-蓄電池室排気ファン (3VSF31A)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>1.92</td> <td>1.52</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-蓄電池室排気ファン (3VSF31B)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>1.92</td> <td>1.51</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室循環ファン (3VSF20A)</td> <td>3AB-B-N52</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.15</td> <td>0.17</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室循環ファン (3VSF20B)</td> <td>3AB-B-N52</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.15</td> <td>0.18</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室給気ファン (3VSF21A)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.15</td> <td>1.12</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室給気ファン (3VSF21B)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.15</td> <td>1.13</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室給気ファン出口 ダンバ (3D-VS-6633)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>3.79</td> <td>3.83</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室給気ファン出口 ダンバ (3D-VS-6633B)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>3.79</td> <td>3.83</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室循環ファン入口 ダンバ (3D-VS-6645)</td> <td>3AB-B-N52</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.80</td> <td>0.25</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室循環ファン入口 ダンバ (3D-VS-6645B)</td> <td>3AB-B-N52</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.80</td> <td>0.26</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室循環風量調整 ダンバ (3HCD-2836)</td> <td>3AB-B-N52</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>0.80</td> <td>0.25</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ      ※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">○緊急時停止機能      ○事故時停止機能      ○原子炉停止後の除熱機能      ○軸心冷却機能      ○放射性物質の閉じ込め機能</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">◎安全上特に重要な開闭機能      ◎事故時のプラント状態の把握機能      ◎制御室外からの安全停止機能      ◎ピット冷却機能      ◎ピット給水機能</p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能	換気空調 系統	A-安全系計装置室室内空気 湿度 (3TS-2790)	3AB-F-N13	原子炉補助 建屋	1.92	1.39	個別	⑥	換気空調 系統	B-安全系計装置室室内空気 湿度 (3TS-2791)	3AB-F-N2	原子炉補助 建屋	1.92	1.39	個別	⑥	換気空調 系統	A-蓄電池室排気ファン (3VSF31A)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.92	1.52	個別	⑥	換気空調 系統	B-蓄電池室排気ファン (3VSF31B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.92	1.51	個別	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室循環ファン (3VSF20A)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.15	0.17	基本	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室循環ファン (3VSF20B)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.15	0.18	基本	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室給気ファン (3VSF21A)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	0.15	1.12	基本	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室給気ファン (3VSF21B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	0.15	1.13	基本	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室給気ファン出口 ダンバ (3D-VS-6633)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	3.79	3.83	基本	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室給気ファン出口 ダンバ (3D-VS-6633B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	3.79	3.83	基本	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室循環ファン入口 ダンバ (3D-VS-6645)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.25	個別	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室循環ファン入口 ダンバ (3D-VS-6645B)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.26	個別	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室循環風量調整 ダンバ (3HCD-2836)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.25	個別	⑥	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: blue;">記載方針の相違</p> <p style="color: red;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 治では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>・ 炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>・ 安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																																																												
換気空調 系統	A-安全系計装置室室内空気 湿度 (3TS-2790)	3AB-F-N13	原子炉補助 建屋	1.92	1.39	個別	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	B-安全系計装置室室内空気 湿度 (3TS-2791)	3AB-F-N2	原子炉補助 建屋	1.92	1.39	個別	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	A-蓄電池室排気ファン (3VSF31A)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.92	1.52	個別	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	B-蓄電池室排気ファン (3VSF31B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.92	1.51	個別	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	A-中央制御室循環ファン (3VSF20A)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.15	0.17	基本	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	B-中央制御室循環ファン (3VSF20B)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.15	0.18	基本	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	A-中央制御室給気ファン (3VSF21A)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	0.15	1.12	基本	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	B-中央制御室給気ファン (3VSF21B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	0.15	1.13	基本	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	A-中央制御室給気ファン出口 ダンバ (3D-VS-6633)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	3.79	3.83	基本	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	B-中央制御室給気ファン出口 ダンバ (3D-VS-6633B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	3.79	3.83	基本	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	A-中央制御室循環ファン入口 ダンバ (3D-VS-6645)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.25	個別	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	B-中央制御室循環ファン入口 ダンバ (3D-VS-6645B)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.26	個別	⑥																																																																																																												
換気空調 系統	A-中央制御室循環風量調整 ダンバ (3HCD-2836)	3AB-B-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.25	個別	⑥																																																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																								
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (29/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>設 備</th><th>区画番号</th><th>設置建屋</th><th>基本設定高さ<sup>※1</sup> (m)</th><th>個別測定高さ<sup>※2</sup> (m)</th><th>設定箇所</th><th>安全機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-中央制御室排煙風量調節 ダンバ (3HD-2837)</td><td>3AB-D-N52</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>0.80</td><td>0.25</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-中央制御室排煙風量調節 ダンバ流量設定器 (GHC-2936)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.14</td><td>1.15</td><td>基本</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-中央制御室排煙風量調節 ダンバ流量設定器 (3HC-2837)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.14</td><td>1.15</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>中央制御室室内空気温度 (2) (3TS-2846)</td><td>3AB-F-N8</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.92</td><td>1.30</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>中央制御室室内空気温度 (3) (3TS-2847)</td><td>3AB-F-N8</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.92</td><td>1.30</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-中央制御室非常用循環 ファン (3VSF22A)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>0.15</td><td>0.54</td><td>基本</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-中央制御室非常用循環 ファン (3VSF22B)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>0.15</td><td>0.54</td><td>基本</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-中央制御室非常用循環 ファン出口空気流量 (3PS-2867)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.35</td><td>1.34</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-中央制御室非常用循環 ファン出口空気流量 (3PS-2868)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.35</td><td>1.34</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-中央制御室非常用循環 ファン入口ダンバ (3D-VS-602A)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>0.70</td><td>0.36</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-中央制御室非常用循環 ファン入口ダンバ (3D-VS-602B)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>0.70</td><td>0.38</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-中央制御室外気取入流量 ダンバ (3HD-2823)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>5.34</td><td>5.31</td><td>個別</td><td>⑩</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">※1: 保守的機能喪失すると仮定した床面からの高さ      ※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ      ①緊急時停止機能      ②未臨界堆持機能      ③原子炉停止後の除熱機能      ④炉心冷却機能      ⑤放射性物質の閉じ込め機能      ⑥安全上特に重要な閑速機能      ⑦事故時のプラント状態の把握機能      ⑧制御室外からの安全停止機能      ⑨ピット冷却機能      ⑩ピット給水機能</p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能	換気空調 系統	B-中央制御室排煙風量調節 ダンバ (3HD-2837)	3AB-D-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.25	個別	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室排煙風量調節 ダンバ流量設定器 (GHC-2936)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.14	1.15	基本	⑩	換気空調 系統	B-中央制御室排煙風量調節 ダンバ流量設定器 (3HC-2837)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.14	1.15	基本	⑥	換気空調 系統	中央制御室室内空気温度 (2) (3TS-2846)	3AB-F-N8	原子炉補助 建屋	1.92	1.30	個別	⑩	換気空調 系統	中央制御室室内空気温度 (3) (3TS-2847)	3AB-F-N8	原子炉補助 建屋	1.92	1.30	個別	⑩	換気空調 系統	A-中央制御室非常用循環 ファン (3VSF22A)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.15	0.54	基本	⑩	換気空調 系統	B-中央制御室非常用循環 ファン (3VSF22B)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.15	0.54	基本	⑩	換気空調 系統	A-中央制御室非常用循環 ファン出口空気流量 (3PS-2867)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.35	1.34	個別	⑩	換気空調 系統	B-中央制御室非常用循環 ファン出口空気流量 (3PS-2868)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.35	1.34	個別	⑩	換気空調 系統	A-中央制御室非常用循環 ファン入口ダンバ (3D-VS-602A)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.70	0.36	個別	⑩	換気空調 系統	B-中央制御室非常用循環 ファン入口ダンバ (3D-VS-602B)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.70	0.38	個別	⑩	換気空調 系統	A-中央制御室外気取入流量 ダンバ (3HD-2823)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	5.34	5.31	個別	⑩	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: green;">記載方針の相違</p> <p style="color: red;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>・設備名称等について、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>・安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室排煙風量調節 ダンバ (3HD-2837)	3AB-D-N52	原子炉補助 建屋	0.80	0.25	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室排煙風量調節 ダンバ流量設定器 (GHC-2936)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.14	1.15	基本	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室排煙風量調節 ダンバ流量設定器 (3HC-2837)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.14	1.15	基本	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	中央制御室室内空気温度 (2) (3TS-2846)	3AB-F-N8	原子炉補助 建屋	1.92	1.30	個別	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	中央制御室室内空気温度 (3) (3TS-2847)	3AB-F-N8	原子炉補助 建屋	1.92	1.30	個別	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室非常用循環 ファン (3VSF22A)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.15	0.54	基本	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室非常用循環 ファン (3VSF22B)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.15	0.54	基本	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室非常用循環 ファン出口空気流量 (3PS-2867)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.35	1.34	個別	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室非常用循環 ファン出口空気流量 (3PS-2868)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	1.35	1.34	個別	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室非常用循環 ファン入口ダンバ (3D-VS-602A)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.70	0.36	個別	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室非常用循環 ファン入口ダンバ (3D-VS-602B)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	0.70	0.38	個別	⑩																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室外気取入流量 ダンバ (3HD-2823)	3AB-D-N1	原子炉補助 建屋	5.34	5.31	個別	⑩																																																																																																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																								
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (30/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>設 備</th> <th>区画番号</th> <th>設置建屋</th> <th>基本設定高さ<sup>※1</sup> (m)</th> <th>個別測定高さ<sup>※2</sup> (m)</th> <th>設定箇所</th> <th>安全機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ (3HD-2824)</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>5.34</td> <td>5.31</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2823))</td> <td>3AB-D-S1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.64</td> <td>4.65</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2824))</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.64</td> <td>4.65</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ (3HD-2850)</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.94</td> <td>4.62</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ (3HD-2851)</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.94</td> <td>5.00</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2850))</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.14</td> <td>4.15</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2851))</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.14</td> <td>4.15</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>試料採取室排気扇制御ダンバ (3B-VS-653)</td> <td>3AB-B-1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.15</td> <td>3.29</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>試料採取室排気風量制御ダンバ (3HD-2905)</td> <td>3AB-B-1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>4.15</td> <td>3.61</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-原子炉補機冷却水サージ タンク室電気ヒータ (3VSEMA)</td> <td>3RB-A-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>2.50</td> <td>2.49</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-原子炉補機冷却水サージ タンク室電気ヒータ (3VSEMB)</td> <td>3RB-A-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>2.50</td> <td>2.49</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (3VSEA)</td> <td>3AB-D-N1</td> <td>原子炉補助建屋</td> <td>2.50</td> <td>2.53</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">         ※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ          ※2: 泊水により機能喪失する床面からの高さ          ①緊急停止機能          ②未監界磁保持機能          ③原子炉停止後の除熱機能          ④炉心冷却機能          ⑤放射性物質の閉じ込め機能          ⑥原子炉建屋特に重要な回復機能          ⑦事故時のプラント状態の把握機能          ⑧制御室外からの安全停止機能          ⑨ピット冷却機能          ⑩ピット給水機能     </p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能	換気空調 系統	B-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ (3HD-2824)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	5.34	5.31	個別	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2823))	3AB-D-S1	原子炉補助建屋	4.64	4.65	基本	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2824))	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.64	4.65	基本	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ (3HD-2850)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.94	4.62	個別	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ (3HD-2851)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.94	5.00	基本	⑥	換気空調 系統	A-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2850))	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.14	4.15	基本	⑥	換気空調 系統	B-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2851))	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.14	4.15	基本	⑥	換気空調 系統	試料採取室排気扇制御ダンバ (3B-VS-653)	3AB-B-1	原子炉補助建屋	4.15	3.29	個別	⑥	換気空調 系統	試料採取室排気風量制御ダンバ (3HD-2905)	3AB-B-1	原子炉補助建屋	4.15	3.61	個別	⑥	換気空調 系統	A-原子炉補機冷却水サージ タンク室電気ヒータ (3VSEMA)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.50	2.49	個別	⑥	換気空調 系統	B-原子炉補機冷却水サージ タンク室電気ヒータ (3VSEMB)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.50	2.49	個別	⑥	換気空調 系統	A-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (3VSEA)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	2.50	2.53	基本	⑥	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: green;">記載方針の相違</p> <p style="color: green;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>・安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ (3HD-2824)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	5.34	5.31	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2823))	3AB-D-S1	原子炉補助建屋	4.64	4.65	基本	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室外気吸入風量 調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2824))	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.64	4.65	基本	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ (3HD-2850)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.94	4.62	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ (3HD-2851)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.94	5.00	基本	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	A-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2850))	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.14	4.15	基本	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	B-中央制御室事故時外気取入 風量調節ダンバ(流量設定器 (3HD-2851))	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	4.14	4.15	基本	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	試料採取室排気扇制御ダンバ (3B-VS-653)	3AB-B-1	原子炉補助建屋	4.15	3.29	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	試料採取室排気風量制御ダンバ (3HD-2905)	3AB-B-1	原子炉補助建屋	4.15	3.61	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	A-原子炉補機冷却水サージ タンク室電気ヒータ (3VSEMA)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.50	2.49	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	B-原子炉補機冷却水サージ タンク室電気ヒータ (3VSEMB)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.50	2.49	個別	⑥																																																																																																				
換気空調 系統	A-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (3VSEA)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	2.50	2.53	基本	⑥																																																																																																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (31/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>設 備</th> <th>区画番号</th> <th>設置建屋</th> <th>基本設定高さ<sup>①</sup> (m)</th> <th>個別測定高さ<sup>②</sup> (m)</th> <th>設定箇所</th> <th>安全機能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2B)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>2.57</td> <td>2.58</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>C-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2C)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>2.50</td> <td>2.51</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>D-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2D)</td> <td>3AB-B-N1</td> <td>原子炉補助 建屋</td> <td>2.57</td> <td>2.58</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-制御用空気圧縮機室電気 ヒータ (JVSE1A)</td> <td>3B9-H-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>2.80</td> <td>2.80</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-制御用空気圧縮機室電気 ヒータ (JVSE1B)</td> <td>3B9-H-N3</td> <td>原子炉建屋</td> <td>2.80</td> <td>2.79</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (1) (JTS-2970)</td> <td>3B9-A-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.42</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>A-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (2) (JTS-2971)</td> <td>3B9-A-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.42</td> <td>基本</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (1) (JTS-2980)</td> <td>3B9-A-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.41</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>換気空調 系統</td> <td>B-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (2) (JTS-2981)</td> <td>3B9-A-N2</td> <td>原子炉建屋</td> <td>1.42</td> <td>1.41</td> <td>個別</td> <td>⑥</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ      ※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">①緊急時停止機能      ②未臨界維持機能      ③原子炉停止後の除熱機能      ④炉心冷却機能      ⑤放射性物質の閉じ込め機能</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">⑥安全上特に重要な閑速機能      ⑦事故時のプラント状態の把握機能      ⑧制御室外からの安全停止機能      ⑨ピット冷却機能      ⑩ピット給水機能</p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>①</sup> (m)	個別測定高さ <sup>②</sup> (m)	設定箇所	安全機能	換気空調 系統	B-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.57	2.58	基本	⑥	換気空調 系統	C-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2C)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.50	2.51	基本	⑥	換気空調 系統	D-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2D)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.57	2.58	基本	⑥	換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室電気 ヒータ (JVSE1A)	3B9-H-N2	原子炉建屋	2.80	2.80	基本	⑥	換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室電気 ヒータ (JVSE1B)	3B9-H-N3	原子炉建屋	2.80	2.79	個別	⑥	換気空調 系統	A-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (1) (JTS-2970)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.42	基本	⑥	換気空調 系統	A-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (2) (JTS-2971)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.42	基本	⑥	換気空調 系統	B-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (1) (JTS-2980)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.41	個別	⑥	換気空調 系統	B-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (2) (JTS-2981)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.41	個別	⑥	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: green;">記載方針の相違</p> <p style="color: green;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>・設備名称等については、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>・安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>①</sup> (m)	個別測定高さ <sup>②</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																												
換気空調 系統	B-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2B)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.57	2.58	基本	⑥																																																																												
換気空調 系統	C-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2C)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.50	2.51	基本	⑥																																																																												
換気空調 系統	D-非管理区域空調機器室電気 ヒータ (JVSE2D)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.57	2.58	基本	⑥																																																																												
換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室電気 ヒータ (JVSE1A)	3B9-H-N2	原子炉建屋	2.80	2.80	基本	⑥																																																																												
換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室電気 ヒータ (JVSE1B)	3B9-H-N3	原子炉建屋	2.80	2.79	個別	⑥																																																																												
換気空調 系統	A-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (1) (JTS-2970)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																												
換気空調 系統	A-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (2) (JTS-2971)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																												
換気空調 系統	B-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (1) (JTS-2980)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.41	個別	⑥																																																																												
換気空調 系統	B-原子炉補機冷却水サービ タンク室内空気温度 (2) (JTS-2981)	3B9-A-N2	原子炉建屋	1.42	1.41	個別	⑥																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																															
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (32/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>設 備</th><th>区画番号</th><th>設置建屋</th><th>基本設定高さ<sup>※1</sup> (m)</th><th>個別測定高さ<sup>※2</sup> (m)</th><th>設定箇所</th><th>安全機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A-原子炉補機冷却水サージ換気空調系統</td><td>タンク室電気ヒータ (3VSE3A) 出口空気温度 (2) (3TS-2973)</td><td>3RB-A-N2</td><td>原子炉建屋</td><td>2.65</td><td>2.58</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>B-原子炉補機冷却水サージ換気空調系統</td><td>タンク室電気ヒータ (3VSE3B) 出口空気温度 (2) (3TS-2983)</td><td>3RB-A-N2</td><td>原子炉建屋</td><td>2.65</td><td>2.57</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>A-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (1) (3TS-2930)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.42</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>A-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (2) (3TS-2931)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.42</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>B-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (1) (3TS-2934)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.41</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>B-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (2) (3TS-2935)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.42</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>C-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (1) (3TS-2950)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.42</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>C-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (2) (3TS-2951)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.42</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>D-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (1) (3TS-2954)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.42</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>D-非管理区域空調機器室内部系統</td><td>空気温度 (2) (3TS-2955)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>1.42</td><td>1.41</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>A-非管理区域空調機器室電気ヒータ (3VSE2A) 出口空気温度 (2) (3TS-2933)</td><td>3AB-D-N1</td><td>原子炉補助建屋</td><td>2.65</td><td>2.53</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">         ※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ          ※2: 泊水により機能喪失する床面からの高さ          ①緊急停止機能          ②未監視動作機能          ③原子炉停止後の除熱機能          ④中心冷却機能          ⑤放射性物質の閉じ込め機能          ⑥安全上特に重要な開通機能          ⑦事故時のプラント状態の把握機能          ⑧制御室外からの安全停止機能          ⑨ピット冷却機能          ⑩ピット給水機能     </p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能	A-原子炉補機冷却水サージ換気空調系統	タンク室電気ヒータ (3VSE3A) 出口空気温度 (2) (3TS-2973)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.65	2.58	個別	⑥	B-原子炉補機冷却水サージ換気空調系統	タンク室電気ヒータ (3VSE3B) 出口空気温度 (2) (3TS-2983)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.65	2.57	個別	⑥	A-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2930)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥	A-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2931)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥	B-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2934)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.41	個別	⑥	B-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2935)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥	C-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2950)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥	C-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2951)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥	D-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2954)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥	D-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2955)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.41	個別	⑥	A-非管理区域空調機器室電気ヒータ (3VSE2A) 出口空気温度 (2) (3TS-2933)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	2.65	2.53	個別	⑥	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: green;">記載方針の相違</p> <p style="color: green;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> </ul> <p>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備名称等について、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>・ 安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																																											
A-原子炉補機冷却水サージ換気空調系統	タンク室電気ヒータ (3VSE3A) 出口空気温度 (2) (3TS-2973)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.65	2.58	個別	⑥																																																																																											
B-原子炉補機冷却水サージ換気空調系統	タンク室電気ヒータ (3VSE3B) 出口空気温度 (2) (3TS-2983)	3RB-A-N2	原子炉建屋	2.65	2.57	個別	⑥																																																																																											
A-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2930)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																																											
A-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2931)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																																											
B-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2934)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.41	個別	⑥																																																																																											
B-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2935)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																																											
C-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2950)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																																											
C-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2951)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																																											
D-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (1) (3TS-2954)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.42	基本	⑥																																																																																											
D-非管理区域空調機器室内部系統	空気温度 (2) (3TS-2955)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	1.42	1.41	個別	⑥																																																																																											
A-非管理区域空調機器室電気ヒータ (3VSE2A) 出口空気温度 (2) (3TS-2933)	3AB-D-N1	原子炉補助建屋	2.65	2.53	個別	⑥																																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (33/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>設 備</th><th>区画番号</th><th>設置場所</th><th>基本設定 高さ<sup>※1</sup> (m)</th><th>個別測定 高さ<sup>※2</sup> (m)</th><th>設定 箇所</th><th>安全 機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2B) 出口空気温度 (2) (STS-2937)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>2.72</td><td>2.65</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>C-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2C) 出口空気温度 (2) (STS-2953)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>2.65</td><td>2.48</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>D-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2D) 出口空気温度 (2) (STS-2957)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>2.72</td><td>2.64</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (5) (STS-2910)</td><td>3BB-H-N2</td><td>原子炉建屋</td><td>1.42</td><td>1.40</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (6) (STS-2911)</td><td>3BB-H-N2</td><td>原子炉建屋</td><td>1.42</td><td>1.39</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (5) (STS-2920)</td><td>3BB-H-N3</td><td>原子炉建屋</td><td>1.42</td><td>1.40</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (6) (STS-2921)</td><td>3BB-H-N3</td><td>原子炉建屋</td><td>1.42</td><td>1.40</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>A-制御用空気圧縮機室電気 ヒーター (3NSE1A) 出口空気温度 (2) (STS-2913)</td><td>3BB-H-N2</td><td>原子炉建屋</td><td>2.89</td><td>2.82</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>換気空調 系統</td><td>B-制御用空気圧縮機室電気 ヒーター (3NSE1B) 出口空気温度 (2) (STS-2923)</td><td>3BB-H-N3</td><td>原子炉建屋</td><td>2.89</td><td>2.82</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 海水</td><td>A-空調用冷水ポンプ (CHP1A)</td><td>3BB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.43</td><td>2.45</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">     ※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ      ※2: 設木に上り機能喪失する床面からの高さ      ①緊急時停止機能      ②本體界維持機能      ③原子炉停止後の除熱機能      ④軸心冷却機能      ⑤放射性物質の閉じ込め機能      ⑥安全上特に重要な間連機能      ⑦事故時のプラント状態の把握機能      ⑧制御室外からの安全停止機能      ⑨ピット冷却機能      ⑩ピット給水機能   </p>	系統	設 備	区画番号	設置場所	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能	換気空調 系統	B-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2B) 出口空気温度 (2) (STS-2937)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.72	2.65	個別	⑥	換気空調 系統	C-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2C) 出口空気温度 (2) (STS-2953)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.65	2.48	個別	⑥	換気空調 系統	D-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2D) 出口空気温度 (2) (STS-2957)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.72	2.64	個別	⑥	換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (5) (STS-2910)	3BB-H-N2	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥	換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (6) (STS-2911)	3BB-H-N2	原子炉建屋	1.42	1.39	個別	⑥	換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (5) (STS-2920)	3BB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥	換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (6) (STS-2921)	3BB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥	換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室電気 ヒーター (3NSE1A) 出口空気温度 (2) (STS-2913)	3BB-H-N2	原子炉建屋	2.89	2.82	個別	⑥	換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室電気 ヒーター (3NSE1B) 出口空気温度 (2) (STS-2923)	3BB-H-N3	原子炉建屋	2.89	2.82	個別	⑥	空調用 海水	A-空調用冷水ポンプ (CHP1A)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: green;">記載方針の相違</p> <p style="color: green;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>・設備名称等について、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>・安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置場所	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定 箇所	安全 機能																																																																																				
換気空調 系統	B-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2B) 出口空気温度 (2) (STS-2937)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.72	2.65	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	C-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2C) 出口空気温度 (2) (STS-2953)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.65	2.48	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	D-非管理区域空調機器室電気 ヒーター (3NSE2D) 出口空気温度 (2) (STS-2957)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	2.72	2.64	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (5) (STS-2910)	3BB-H-N2	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (6) (STS-2911)	3BB-H-N2	原子炉建屋	1.42	1.39	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (5) (STS-2920)	3BB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室室内 空気温度 (6) (STS-2921)	3BB-H-N3	原子炉建屋	1.42	1.40	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	A-制御用空気圧縮機室電気 ヒーター (3NSE1A) 出口空気温度 (2) (STS-2913)	3BB-H-N2	原子炉建屋	2.89	2.82	個別	⑥																																																																																				
換気空調 系統	B-制御用空気圧縮機室電気 ヒーター (3NSE1B) 出口空気温度 (2) (STS-2923)	3BB-H-N3	原子炉建屋	2.89	2.82	個別	⑥																																																																																				
空調用 海水	A-空調用冷水ポンプ (CHP1A)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥																																																																																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (34/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>設 備</th><th>区画番号</th><th>設置建屋</th><th>基本設定 高さ<sup>※1</sup> (m)</th><th>個別測定 高さ<sup>※2</sup> (m)</th><th>設定箇所</th><th>安全機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>B-空調用冷水ポンプ (3CHP1B)</td><td>3RB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.43</td><td>2.45</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>C-空調用冷水ポンプ (3CHP1C)</td><td>3RB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.43</td><td>2.45</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>D-空調用冷水ポンプ (3CHP1D)</td><td>3RB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.43</td><td>2.45</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>A-空調用冷凍機 (3CHE1A)</td><td>3RB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.05</td><td>2.27</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>B-空調用冷凍機 (3CHE1B)</td><td>3RB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.05</td><td>2.27</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>C-空調用冷凍機 (3CHE1C)</td><td>3RB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.05</td><td>2.27</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>D-空調用冷凍機 (3CHE1D)</td><td>3RB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.05</td><td>2.27</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>A-安全補機開閉器室給氣 ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2774)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.20</td><td>1.96</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>B-安全補機開閉器室給氣 冷水 ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2775)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.20</td><td>1.97</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">         ※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ          ※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ          ①緊急時停止機能          ②未臨界維持機能          ③原子炉停止後の除熱機能          ④中心冷却機能          ⑤放射性物質の閉じ込め機能          ⑥安全上特に重要な関連機能          ⑦事故時のプラント状況の把握機能          ⑧制御室外からの安全停止機能          ⑨ピット冷却機能          ⑩ピット給水機能     </p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能	空調用 冷水 系統	B-空調用冷水ポンプ (3CHP1B)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥	空調用 冷水 系統	C-空調用冷水ポンプ (3CHP1C)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥	空調用 冷水 系統	D-空調用冷水ポンプ (3CHP1D)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥	空調用 冷水 系統	A-空調用冷凍機 (3CHE1A)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥	空調用 冷水 系統	B-空調用冷凍機 (3CHE1B)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥	空調用 冷水 系統	C-空調用冷凍機 (3CHE1C)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥	空調用 冷水 系統	D-空調用冷凍機 (3CHE1D)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥	空調用 冷水 系統	A-安全補機開閉器室給氣 ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2774)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.96	基本	⑥	空調用 冷水 系統	B-安全補機開閉器室給氣 冷水 ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2775)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.97	基本	⑥	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等について、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																												
空調用 冷水 系統	B-空調用冷水ポンプ (3CHP1B)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	C-空調用冷水ポンプ (3CHP1C)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	D-空調用冷水ポンプ (3CHP1D)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.43	2.45	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	A-空調用冷凍機 (3CHE1A)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	B-空調用冷凍機 (3CHE1B)	3RB-K-N4	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	C-空調用冷凍機 (3CHE1C)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	D-空調用冷凍機 (3CHE1D)	3RB-K-N1	原子炉建屋	2.05	2.27	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	A-安全補機開閉器室給氣 ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2774)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.96	基本	⑥																																																																												
空調用 冷水 系統	B-安全補機開閉器室給氣 冷水 ユニット冷水温度制御弁 (3TCV-2775)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.97	基本	⑥																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料4)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
		<p style="text-align: center;">表1 防護対象設備一覧 (35/35)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>設 備</th><th>区画番号</th><th>設置建屋</th><th>基本設定 高さ<sup>※1</sup> (m)</th><th>個別測定 高さ<sup>※2</sup> (m)</th><th>設定箇所</th><th>安全機能</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>A-中央制御室給気ユニット 冷水温度制御弁 (3TCY-2827)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.20</td><td>1.77</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>B-中央制御室給気ユニット 冷水温度制御弁 (3TCY-2828)</td><td>3AB-B-N1</td><td>原子炉補助 建屋</td><td>1.20</td><td>1.77</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>空調用冷水A母管入口隔離弁 (3V-CH-012A)</td><td>3BB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.55</td><td>2.97</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>空調用冷水B母管入口隔離弁 (3V-CH-012B)</td><td>3BB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.53</td><td>2.97</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>空調用冷水C母管入口隔離弁 (3V-CH-012C)</td><td>3BB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.53</td><td>2.86</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>空調用 冷水 系統</td><td>空調用冷水C母管出口隔離弁 (3V-CH-013)</td><td>3BB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.65</td><td>2.98</td><td>基本</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>関連設備</td><td>A-空調用冷凍機盤 (3VCPA)</td><td>3BB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.25</td><td>2.23</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>関連設備</td><td>B-空調用冷凍機盤 (3VCPB)</td><td>3BB-K-N4</td><td>原子炉建屋</td><td>2.25</td><td>2.22</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>関連設備</td><td>C-空調用冷凍機盤 (3VCPD)</td><td>3BB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.25</td><td>2.23</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> <tr> <td>関連設備</td><td>D-空調用冷凍機盤 (3VCPD)</td><td>3BB-K-N1</td><td>原子炉建屋</td><td>2.25</td><td>2.23</td><td>個別</td><td>⑥</td></tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">         ※1: 保守的に機能喪失すると仮定した床面からの高さ          ※2: 溢水により機能喪失する床面からの高さ          ①緊急停止機能          ②未臨界維持機能          ③原子炉停止後の除熱機能          ④炉心冷却機能          ⑤放射性物質の閉じ込め機能          ⑥安全上特に重要な関連機能          ⑦事故時のプラント状態の把握機能          ⑧制御室外からの安全停止機能          ⑨ピット冷却機能          ⑩ピット給水機能     </p>	系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能	空調用 冷水 系統	A-中央制御室給気ユニット 冷水温度制御弁 (3TCY-2827)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.77	基本	⑥	空調用 冷水 系統	B-中央制御室給気ユニット 冷水温度制御弁 (3TCY-2828)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.77	基本	⑥	空調用 冷水 系統	空調用冷水A母管入口隔離弁 (3V-CH-012A)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.55	2.97	基本	⑥	空調用 冷水 系統	空調用冷水B母管入口隔離弁 (3V-CH-012B)	3BB-K-N1	原子炉建屋	2.53	2.97	基本	⑥	空調用 冷水 系統	空調用冷水C母管入口隔離弁 (3V-CH-012C)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.53	2.86	基本	⑥	空調用 冷水 系統	空調用冷水C母管出口隔離弁 (3V-CH-013)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.65	2.98	基本	⑥	関連設備	A-空調用冷凍機盤 (3VCPA)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.25	2.23	個別	⑥	関連設備	B-空調用冷凍機盤 (3VCPB)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.25	2.22	個別	⑥	関連設備	C-空調用冷凍機盤 (3VCPD)	3BB-K-N1	原子炉建屋	2.25	2.23	個別	⑥	関連設備	D-空調用冷凍機盤 (3VCPD)	3BB-K-N1	原子炉建屋	2.25	2.23	個別	⑥	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。</li> <li>上記を踏まえ、表1には防護対象設備の「基本設定箇所」と「個別測定箇所」の機能喪失高さを併記し、どちらを採用しているか明確となるよう設定箇所を記載している。(島根2号炉、柏崎6,7号炉と同様)</li> <li>設備名称等について、炉型の違い及びプラント設計の違いによる相違</li> <li>安全機能に関して、炉型の相違により機能名称が異なるが、「止める」「冷やす」「閉じ込める」「ピット冷却」の達成を目的とした機能であることに相違はない。</li> </ul>
系統	設 備	区画番号	設置建屋	基本設定 高さ <sup>※1</sup> (m)	個別測定 高さ <sup>※2</sup> (m)	設定箇所	安全機能																																																																																				
空調用 冷水 系統	A-中央制御室給気ユニット 冷水温度制御弁 (3TCY-2827)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.77	基本	⑥																																																																																				
空調用 冷水 系統	B-中央制御室給気ユニット 冷水温度制御弁 (3TCY-2828)	3AB-B-N1	原子炉補助 建屋	1.20	1.77	基本	⑥																																																																																				
空調用 冷水 系統	空調用冷水A母管入口隔離弁 (3V-CH-012A)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.55	2.97	基本	⑥																																																																																				
空調用 冷水 系統	空調用冷水B母管入口隔離弁 (3V-CH-012B)	3BB-K-N1	原子炉建屋	2.53	2.97	基本	⑥																																																																																				
空調用 冷水 系統	空調用冷水C母管入口隔離弁 (3V-CH-012C)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.53	2.86	基本	⑥																																																																																				
空調用 冷水 系統	空調用冷水C母管出口隔離弁 (3V-CH-013)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.65	2.98	基本	⑥																																																																																				
関連設備	A-空調用冷凍機盤 (3VCPA)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.25	2.23	個別	⑥																																																																																				
関連設備	B-空調用冷凍機盤 (3VCPB)	3BB-K-N4	原子炉建屋	2.25	2.22	個別	⑥																																																																																				
関連設備	C-空調用冷凍機盤 (3VCPD)	3BB-K-N1	原子炉建屋	2.25	2.23	個別	⑥																																																																																				
関連設備	D-空調用冷凍機盤 (3VCPD)	3BB-K-N1	原子炉建屋	2.25	2.23	個別	⑥																																																																																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料5)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料1.2-2</p> <p>3. 機能喪失高さ 各機器における機能喪失高さの考え方を表1にまとめるとともに図2にポンプの例を示す。</p>	<p>添付資料5 機能喪失高さの考え方 弁類、ポンプ類、ファン類、電気盤類、計器関係における機能喪失高さ設定の考え方を表1及び図1～図5にそれぞれ示す。</p> <p><b>【島根2号炉】</b> まとめ資料 p9条-別添1-添付1-1より抜粋 1.1 機能喪失高さ 機能喪失高さは「基本設定箇所」を基本とし、溢水水位に応じて機能喪失高さの実力値である「個別設定箇所」に見直す。</p>	<p>添付資料5 機能喪失高さの考え方 弁類、ポンプ類、ファン類、電気盤類、計器関係における機能喪失高さ設定の考え方を表1及び図1～図5にそれぞれ示す。</p> <p>機能喪失高さは「基本設定箇所」を基本とし、溢水水位に応じて機能喪失高さの実力値である「個別測定箇所」に見直す。</p>	<p>添付資料5 【女川】 設計方針の相違 ・ 泊では評価ガイドの要求に則り、機能喪失高さは、保守的に機能喪失すると仮定した高さである「評価高さ（基本設定箇所）」を標準としているが、評価高さで没水してしまう機器については「実力高さ（個別測定箇所）」を適用している。 ・ 上記の機能喪失高さの設定方針は、先行審査プラントである島根2号炉及び柏崎6、7号炉で実績があり、女川2号炉においても、溢水水位に対して防護対象設備の機能喪失高さの裕度が小さい場合には、実際の機能喪失高さを実測することで実際には十分な裕度が確保されていることを確認している。</p> <p><b>【島根】</b> <u>記載表現の相違</u> 泊は資料間で「個別測定箇所」と記載統一している。</p> <p><b>【大飯】</b> <u>記載方針の相違</u> 女川審査実績の反映</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料5)

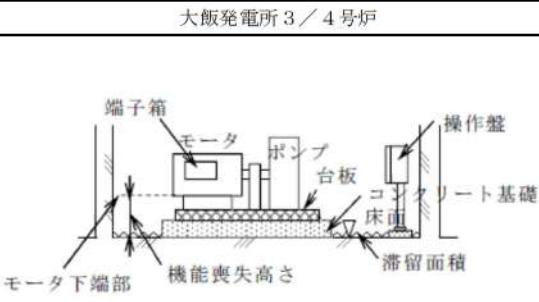
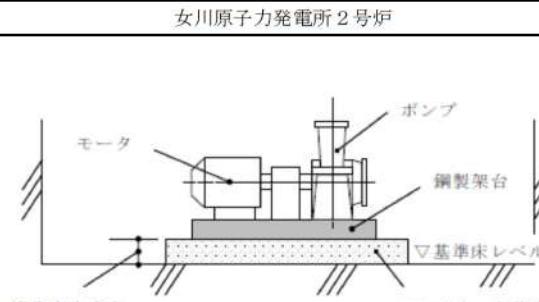
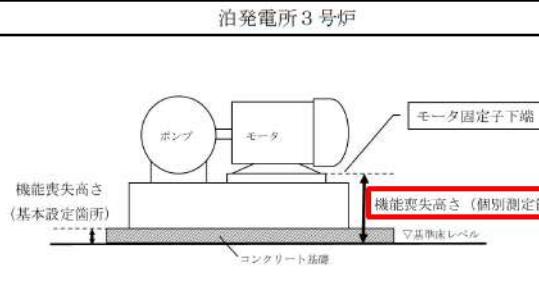
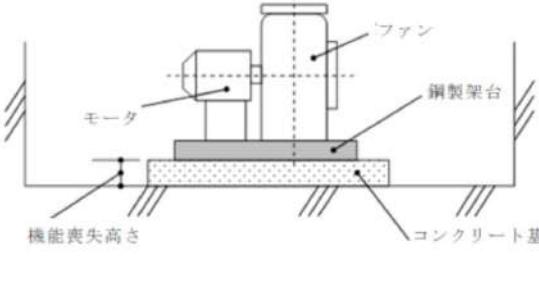
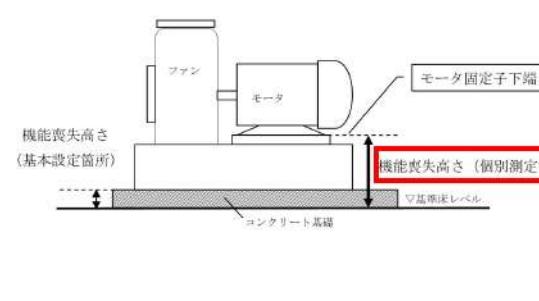
赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
表1 各設備の機能喪失高さの考え方		表1 機能喪失高さ設定の考え方		表1 機能喪失高さ設定の考え方			
機器	機能喪失高さ	機器	機能喪失高さ	機器	機能喪失高さ		
弁	①電動弁: 電動弁駆動装置下端部 ②空気作動弁: 各付属品 (アクチュエータ、電磁弁、減圧弁、リミットスイッチ) のうち、最低高さの付属品の下端部	弁類	弁が設置される配管の中心レベル	弁類	弁が設置される配管の中心レベル	【女川】 設計方針の相違 泊は基本設定箇所と個別測定箇所を適用している。 (島根2号炉と同様)	
ダンバ	各付属品 (アクチュエータ、電磁弁、減圧弁、リミットスイッチ) のうち、最低高さの付属品の下端部	ポンプ類	コンクリート基礎の高さ	ポンプ類	コンクリート基礎の高さ	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映	
ポンプ (操作盤含む)	①ポンプ又はモータの低い方 ②ポンプは軸貫通部下端又は油タンクのエアブリーザ部の低い方 ③モータは下端部又は端子箱下端の低い方	ファン類	コンクリート基礎の高さ	ファン類	コンクリート基礎の高さ		
ファン	モータは下端部又は端子箱下端の低い方	電気盤類	対象機器の設置レベル	電気盤類	電動機の下端部又は端子箱下端の低い方		
盤	盤内の最低高さの計器類の下端部	計器関係	計器下端レベル	計器関係	機器本体の電線管接続部下端又は伝送器下端の低い方		
計器	計器本体下端又は伝送器下端の低い方				※ 保守的に機能喪失すると仮定した部位		
【島根2号炉】		まとめ資料 p9条-別添1-添付1-1より抜粋		表1-1 溢水防護対象設備の機能喪失高さの考え方			
				設備	機能喪失高さ		
				ポンプ／電動機	・ポンプベース高さ ・電線管接続部下端部	ポンプ／電動機	・ポンプベース高さ ・電線管接続部下端部
				空気作動弁／電動弁	・受け付け配管中心高さ ・制御オックスト下端部 ・電線管接続部下端部	空気作動弁／電動弁	・受け付け配管中心高さ ・制御オックスト下端部 ・電線管接続部下端部
				盤	・盤ベース高さ ・開口部下端部 ・計器下端部 ・電線管接続部下端部	盤	・盤ベース高さ ・開口部下端部 ・計器下端部 ・電線管接続部下端部
				計器ラック	・計器ドレン弁高さ ・計器下端部 ・電線管接続部下端部 ・端子箱下端部	計器ラック	・計器ドレン弁高さ ・計器下端部 ・電線管接続部下端部 ・端子箱下端部
					※ 保守的に機能喪失すると仮定した部位		
【島根2号炉】		まとめ資料 p9条-別添1-添付1-2より抜粋		図1-2 機能喪失高さ (電動弁の例)			
		図1 弁における機能喪失高さ		図1 機能喪失高さ (電動弁の例)			
				図1 機能喪失高さ (電動弁の例)			

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料5)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>図2 ポンプにおける機能喪失高さ</p> <p>【島根2号炉】 まとめ資料 p9条-別添1-添付1-2より抜粋</p> <p>図1-1 機能喪失高さ (ポンプの例) 本資料のうち、付録の内容は機密に係る事項のため公開できません。</p>	 <p>図2 ポンプにおける機能喪失高さ</p>	 <p>図2 機能喪失高さ (ポンプの例)</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 泊は基本設定箇所と個別測定箇所を適用している。 (島根2号炉と同様)</p> <p>【女川・大飯】 記載方針の相違 泊は機能喪失高さの個別測定箇所として、防護対象設備の構成部位のうち最も低い位置にある部位を選定していることから、図中の個別測定箇所の部位は一例として示している。具体的な個別測定箇所の位置は表1に示している。 (島根2号炉と同様)</p>
	 <p>図3 ファンにおける機能喪失高さ</p>	 <p>図3 機能喪失高さ (ファンの例)</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 泊は基本設定箇所と個別測定箇所を適用している。 (島根2号炉と同様)</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊は機能喪失高さの個別測定箇所として、防護対象設備の構成部位のうち最も低い位置にある部位を選定していることから、図中の個別測定箇所の部位は一例として示している。具体的な個別測定箇所の位置は表1に示している。 (島根2号炉と同様)</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料5)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【島根2号炉】 まとめ資料 p9条-別添1-添付1-3より抜粋</p> <p>図1-3 機能喪失高さ（盤の例） 本資料のうち、特徴的な内面は機密に係る事項のため公開できません。</p>	<p>図4 電気盤における機能喪失高さ</p>	<p>図4 機能喪失高さ（盤の例）</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 泊は基本設定箇所と個別測定箇所を適用している。 (島根2号炉と同様)</p>
<p>【島根2号炉】 まとめ資料 p9条-別添1-添付1-4より抜粋</p> <p>図1-5 機能喪失高さ（計器の例） 本資料のうち、特徴的な内面は機密に係る事項のため公開できません。</p>	<p>図5 計器における機能喪失高さ</p>	<p>図5 機能喪失高さ（計器の例）</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 泊は基本設定箇所と個別測定箇所を適用している。 (島根2号炉と同様)</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊は機能喪失高さの個別測定箇所として、防護対象設備の構成部位のうち最も低い位置にある部位を選定していることから、図中の個別測定箇所の部位は一例として示している。具体的な個別測定箇所の位置は表1に示している。 (島根2号炉と同様)</p> <p>【女川】 設計方針の相違 泊は基本設定箇所と個別測定箇所を適用している。 (島根2号炉と同様)</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊は機能喪失高さの個別測定箇所として、防護対象設備の構成部位のうち最も低い位置にある部位を選定していることから、図中の個別測定箇所の部位は一例として示している。具体的な個別測定箇所の位置は表1に示している。 (島根2号炉と同様)</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

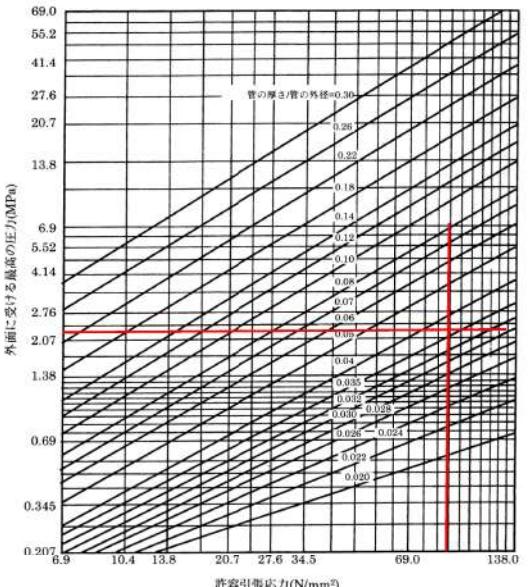
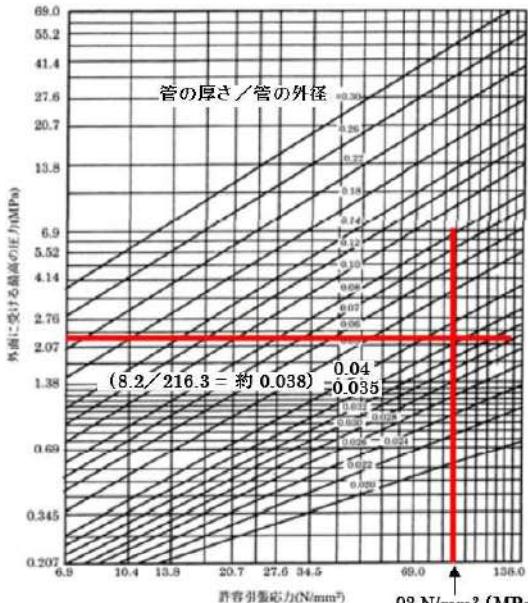
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>添付資料6 溢水影響評価の対象外とした設備について</p> <p>1. 溢水影響評価から対象外とした設備 別添1-3の図3-1に示した選定フローにより溢水影響評価対象外とした設備について、系統、設備名及び対象外の理由をリストとしてまとめた。結果を表2に示す。 また、図3-1の選定フローにおける①～④の対象外理由について以下に示す。</p> <p>(1) ①「溢水により機能を喪失しない」について 容器、熱交換器、安全弁、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、溢水影響がないとし溢水影響評価対象外とした。</p> <p>a. 配管・弁 例として、配管（材質 STPG370、口径 200A、公称肉厚 sch40（管の外径 216.3 mm、管の厚さ 8.2mm）、許容引張応力 S=93MPa（常温））を設計・建設規格 PPD-3411 (2)に基づき評価すると、2MPa以上の外圧に対して健全性が確保されるため、内部溢水影響評価上考慮する水頭に対しては十分な余裕がある。（図1参照） 弁は配管に対して肉厚であるため、同様に内部溢水影響評価上考慮する水頭に対して十分余裕がある。 また、弁の軸封部は、スタフインボックス内に挿入したグランドパッキンを、押さえ金具で締め付ける構造であり、締め付けによって発生する面圧で、内部流体が外部に漏れ出ないようシールするものそのため、溢水によって弁グランドパッキンから内部への溢水の流入及びそれに伴う影響はない。</p>	<p>添付資料6 溢水影響評価の対象外とした設備について</p> <p>1. 溢水影響評価から対象外とした設備 別添1-3の図3-1に示した選定フローにより溢水影響評価対象外とした設備について、系統、設備名及び対象外の理由をリストとしてまとめた。結果を表2に示す。 また、図3-1の選定フローにおける①～④の対象外理由について以下に示す。</p> <p>(1) ①「溢水により機能を喪失しない」について 容器、熱交換器、安全弁、逆止弁、手動弁、配管等の静的機器は、外部からの電源供給等が不要であることから、溢水の影響により外部からの電源供給や電気信号を喪失しても機能喪失はしないため、溢水影響がないとし溢水影響評価対象外とした。</p> <p>a. 配管・弁 例として、配管（材質 STPG370、口径 200A、公称肉厚 sch40（管の外径 216.3 mm、管の厚さ 8.2mm）、許容引張応力 S=93MPa（常温））を設計・建設規格 PPD-3411 (2)に基づき評価すると、2MPa以上の外圧に対して健全性が確保されるため、内部溢水影響評価上考慮する水頭に対しては十分な余裕がある。（図1参照） 弁は配管に対して肉厚であるため、同様に内部溢水影響評価上考慮する水頭に対して十分余裕がある。 また、弁の軸封部は、スタフインボックス内に挿入したグランドパッキンを、押さえ金具で締め付ける構造であり、締め付けによって発生する面圧で、内部流体が外部に漏れ出ないようシールするものそのため、溢水によって弁グランドパッキンから内部への溢水の流入及びそれに伴う影響はない。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>図1 配管の外圧評価例 (日本機械学会「発電用原子力設備規格 設計建設規格」(JSME S NC1-2012)PPD-3411(2)より抜粋)</p> <p>b. 容器・熱交換器</p> <p>容器及び熱交換器について、機器ごとに個別に構造及び設置の状況、設置区画における溢水の状況に基づき、図面及び現場調査により溢水による機能喪失の可能性について評価を行い、除外する判断が妥当であることを確認した。結果を表1に示す。</p>  <p>(備考) 中間の値は、比例法によって計算する。</p>	<p>図1 配管の外圧評価例 (日本機械学会「発電用原子力設備規格 設計建設規格」(JSME S NC1-2012)PPD-3411(2)より抜粋)</p> <p>b. 容器・熱交換器</p> <p>容器及び熱交換器について、機器ごとに個別に構造及び設置の状況、設置区画における溢水の状況に基づき、図面及び現場調査により溢水による機能喪失の可能性について評価を行い、除外する判断が妥当であることを確認した。結果を表1に示す。</p>  <p>(備考) 中間の値は、比例法によって計算する。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊は、配管の材質から許容引張応力 (93MPa) が決まり、管の厚さ／管の外径 (8.2／216.3 = 約 0.038) の直線と許容引張応力 (93MPa) が交わる点のy軸の値が健全性を確保できる最高の外圧 (2MPa以上) となることを読み取り易くするための情報を記載している。</p>	

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>防護区画番号</p> <p>R-B1F-1 R-B1F-16</p> <p>CRDアキュームレーダ CRD蓄素容器</p> <p>機器</p> <p>R-1F-13, R-1F-16</p> <p>清水膨張タンク 機関付動弁注油タンク 機関付空気冷却器 潤滑油サンプルタンク 空気だめ</p> <p>評価</p> <p>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と 低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。 ○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因 が無いことを確認した。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損 傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因 が無いことを確認した。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であることを確認した。また、タンク開放部の高さ より、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損 傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因 が無いことを確認した。</p> <p>評価</p> <p>○当該機器設置区域は床面積が広く、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損 傷が生じることはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であることを確認した。また、タンク開放部の高さ より、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損 傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因 が無いことを確認した。</p> <p>評価</p> <p>○当該機器設置区域は床面積が広く、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損 傷が生じることはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であることを確認した。また、タンク開放部の高さ より、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内 に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も 低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損 傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因 が無いことを確認した。</p>	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(1/6)</p> <p>R-B1F-7, R-B1F-11</p> <p>清水冷却器 潤滑油冷却器</p>	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果 (1/2)</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違 泊では評価結果を横軸とした星取 表形式で整理している。評価判定 の考え方については女川と泊で相 違は無い。</p> <p>【設計方針の相違】 プラント設計の違いによる相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>防護区画番号</th> <th>機器</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R-2F-17, R-2F-18, R-2F-19</td> <td>燃料ディタンク</td> <td> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分のディタンク油面計の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器の損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p> </td> </tr> <tr> <td>- (燃料タンクヒット内)</td> <td>軽油タンク</td> <td> <p>○ビット内には溢水槽となり溢水の侵入防止が図られており、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p> </td> </tr> <tr> <td>R-2F-2-2, R-2F-2-3</td> <td>FCS 再結合器 FCS 治却器 FCS 水分離器</td> <td> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の可燃性ガス濃度制御系設備の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p> </td> </tr> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>スキマサージタンク</td> <td> <p>○コンクリートへの埋込式タンクであるため溢水により機器の機能が喪失することはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p> </td> </tr> <tr> <td>R-1F-4</td> <td>燃料アール冷却淨化系熱交換器</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	防護区画番号	機器	評価	R-2F-17, R-2F-18, R-2F-19	燃料ディタンク	<p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分のディタンク油面計の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器の損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>	- (燃料タンクヒット内)	軽油タンク	<p>○ビット内には溢水槽となり溢水の侵入防止が図られており、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>	R-2F-2-2, R-2F-2-3	FCS 再結合器 FCS 治却器 FCS 水分離器	<p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の可燃性ガス濃度制御系設備の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>	R-3F-1	スキマサージタンク	<p>○コンクリートへの埋込式タンクであるため溢水により機器の機能が喪失することはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>	R-1F-4	燃料アール冷却淨化系熱交換器		<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(2/6)</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分のディタンク油面計の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器の損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> <li>○ビット内には溢水槽となり溢水の侵入防止が図られており、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の可燃性ガス濃度制御系設備の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> <li>○コンクリートへの埋込式タンクであるため溢水により機器の機能が喪失することはない。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul>	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(2/2)</p> <p>評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防護区画番号</th> <th>機器</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泊エレベータ</td> <td>機 構</td> <td> <p>同一区画内に 溢水槽となり タンク開閉部 の機器・配管 は常に遮蔽され ていており、 溢水により機 械的損傷が 生じることな い。</p> </td> </tr> <tr> <td>3BB-K-22</td> <td>A-燃焼器アブレイジ防爆装置</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>3BB-H-6</td> <td>A,-B-他用燃料ヒット 治却器</td> <td>○ - ○ - ○ - ○</td> </tr> <tr> <td>3BB-H-1</td> <td>燃料堆積用木加熱器</td> <td>○ - ○ - ○ - ○</td> </tr> <tr> <td>3BB-F-57</td> <td>A,-B-ディーゼル発電機 燃料油セービングタンク</td> <td>- ○ - ○ - ○ - ○</td> </tr> <tr> <td>3BB-F-59</td> <td>燃料油セービング 再生熱交換器</td> <td>○ - ○ - ○ - ○</td> </tr> <tr> <td>C/V4</td> <td>蓄電池</td> <td>- ○ - ○ - ○</td> </tr> <tr> <td>C/V4</td> <td>ディーゼル発電機燃料油槽</td> <td>- ○ - ○ - ○</td> </tr> <tr> <td>屋外</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	防護区画番号	機器	評価	泊エレベータ	機 構	<p>同一区画内に 溢水槽となり タンク開閉部 の機器・配管 は常に遮蔽され ていており、 溢水により機 械的損傷が 生じることな い。</p>	3BB-K-22	A-燃焼器アブレイジ防爆装置	-	3BB-H-6	A,-B-他用燃料ヒット 治却器	○ - ○ - ○ - ○	3BB-H-1	燃料堆積用木加熱器	○ - ○ - ○ - ○	3BB-F-57	A,-B-ディーゼル発電機 燃料油セービングタンク	- ○ - ○ - ○ - ○	3BB-F-59	燃料油セービング 再生熱交換器	○ - ○ - ○ - ○	C/V4	蓄電池	- ○ - ○ - ○	C/V4	ディーゼル発電機燃料油槽	- ○ - ○ - ○	屋外			<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違 泊では評価結果を横軸とした星取表形式で整理している。評価判定の考え方については女川と泊で相違は無い。 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違</p>
防護区画番号	機器	評価																																																	
R-2F-17, R-2F-18, R-2F-19	燃料ディタンク	<p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分のディタンク油面計の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器の損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>																																																	
- (燃料タンクヒット内)	軽油タンク	<p>○ビット内には溢水槽となり溢水の侵入防止が図られており、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>																																																	
R-2F-2-2, R-2F-2-3	FCS 再結合器 FCS 治却器 FCS 水分離器	<p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の可燃性ガス濃度制御系設備の最も低い機械喪失点以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>																																																	
R-3F-1	スキマサージタンク	<p>○コンクリートへの埋込式タンクであるため溢水により機器の機能が喪失することはない。</p> <p>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水上により機器に機械的損傷が生じることはない。</p> <p>○現場調査により、溢水上によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</p>																																																	
R-1F-4	燃料アール冷却淨化系熱交換器																																																		
防護区画番号	機器	評価																																																	
泊エレベータ	機 構	<p>同一区画内に 溢水槽となり タンク開閉部 の機器・配管 は常に遮蔽され ていており、 溢水により機 械的損傷が 生じることな い。</p>																																																	
3BB-K-22	A-燃焼器アブレイジ防爆装置	-																																																	
3BB-H-6	A,-B-他用燃料ヒット 治却器	○ - ○ - ○ - ○																																																	
3BB-H-1	燃料堆積用木加熱器	○ - ○ - ○ - ○																																																	
3BB-F-57	A,-B-ディーゼル発電機 燃料油セービングタンク	- ○ - ○ - ○ - ○																																																	
3BB-F-59	燃料油セービング 再生熱交換器	○ - ○ - ○ - ○																																																	
C/V4	蓄電池	- ○ - ○ - ○																																																	
C/V4	ディーゼル発電機燃料油槽	- ○ - ○ - ○																																																	
屋外																																																			

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(3/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防護区画番号</th> <th>機器</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R-3F-1</td> <td>換気空調機非常用冷却水系 サービスタンク</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区画は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的相傷が生じることがない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○換気空調機非常用冷却水系サービスタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○清水膨張タンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、機間付動弁注油タンク 機間付空気冷却器 潤滑油補給タンク 発電機軸受潤滑油冷却器 空気だめ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>R-1F-15</td> <td>清水膨張タンク 機間付動弁注油タンク 機間付空気冷却器 潤滑油補給タンク 発電機軸受潤滑油冷却器 空気だめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	防護区画番号	機器	評価	R-3F-1	換気空調機非常用冷却水系 サービスタンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区画は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的相傷が生じることがない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○換気空調機非常用冷却水系サービスタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○清水膨張タンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、機間付動弁注油タンク 機間付空気冷却器 潤滑油補給タンク 発電機軸受潤滑油冷却器 空気だめ</li> </ul>	R-1F-15	清水膨張タンク 機間付動弁注油タンク 機間付空気冷却器 潤滑油補給タンク 発電機軸受潤滑油冷却器 空気だめ		<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違 泊では評価結果を横軸とした星取表形式で整理している。評価判定の考え方については女川と泊で相違は無い。 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違</p>
防護区画番号	機器	評価									
R-3F-1	換気空調機非常用冷却水系 サービスタンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区画は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的相傷が生じることがない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○換気空調機非常用冷却水系サービスタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の非常用ディーゼル発電設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○清水膨張タンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、機間付動弁注油タンク 機間付空気冷却器 潤滑油補給タンク 発電機軸受潤滑油冷却器 空気だめ</li> </ul>									
R-1F-15	清水膨張タンク 機間付動弁注油タンク 機間付空気冷却器 潤滑油補給タンク 発電機軸受潤滑油冷却器 空気だめ										

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由											
	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(4/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防護区画番号</th> <th>機器</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R-2F-3</td> <td>高压炉心スプレイ補機冷却水 サージタンク</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○高压炉心スプレイ補機冷却水サージタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の高圧軽心スライド機冷却水系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○常時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>R-B3F-13</td> <td>高压炉心スプレイ補機冷却水系 熱交換器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R-M3F-3-1</td> <td>原子炉棟給気隔離弁用アクチュエータ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	防護区画番号	機器	評価	R-2F-3	高压炉心スプレイ補機冷却水 サージタンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○高压炉心スプレイ補機冷却水サージタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の高圧軽心スライド機冷却水系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○常時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul>	R-B3F-13	高压炉心スプレイ補機冷却水系 熱交換器		R-M3F-3-1	原子炉棟給気隔離弁用アクチュエータ		<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違</p> <p>泊では評価結果を横軸とした星取表形式で整理している。評価判定の考え方については女川と泊で相違は無い。</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違</p>
防護区画番号	機器	評価												
R-2F-3	高压炉心スプレイ補機冷却水 サージタンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○高压炉心スプレイ補機冷却水サージタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の高圧軽心スライド機冷却水系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○常時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul>												
R-B3F-13	高压炉心スプレイ補機冷却水系 熱交換器													
R-M3F-3-1	原子炉棟給気隔離弁用アクチュエータ													

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由											
	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(5/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防護区画番号</th> <th>機器</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>- (PCV内)</td> <td>主蒸気逃し安全弁専用機能用 アクチュエータ 主蒸気逃し安全弁アクチュエータ (ADS) 主蒸気第一隔離弁用アクチュエータ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○當時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>R-B1F-3-2</td> <td>主蒸気第二隔離弁用アクチュエータ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○當時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>R-3BF-1</td> <td>原子炉補機冷却水サージタンク</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることがない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> <li>○原子炉補機冷却水サージタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	防護区画番号	機器	評価	- (PCV内)	主蒸気逃し安全弁専用機能用 アクチュエータ 主蒸気逃し安全弁アクチュエータ (ADS) 主蒸気第一隔離弁用アクチュエータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○當時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul>	R-B1F-3-2	主蒸気第二隔離弁用アクチュエータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○當時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul>	R-3BF-1	原子炉補機冷却水サージタンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることがない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> <li>○原子炉補機冷却水サージタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> </ul>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違</p> <p>泊では評価結果を横軸とした星取表形式で整理している。評価判定の考え方については女川と泊で相違は無い。</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違</p>
防護区画番号	機器	評価												
- (PCV内)	主蒸気逃し安全弁専用機能用 アクチュエータ 主蒸気逃し安全弁アクチュエータ (ADS) 主蒸気第一隔離弁用アクチュエータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○當時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul>												
R-B1F-3-2	主蒸気第二隔離弁用アクチュエータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○當時蓄圧されていることから、溢水により機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> </ul>												
R-3BF-1	原子炉補機冷却水サージタンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器設置区域は床面積が広く浸水深は最大で0.3m以下と低いため、溢水により機器に機械的損傷が生じることがない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他の要因が無いことを確認した。</li> <li>○原子炉補機冷却水サージタンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> </ul>												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由											
	<p>表1 容器・熱交換器に対する溢水による機能喪失の可能性評価 結果(6/6)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防護区画番号</th> <th>機器</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R-B3F-11, R-B3F-14</td> <td>原子炉補機冷却水系熱交換器 機器</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の原子炉補機冷却水系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>R-1F-1, R-1F-11</td> <td>残留熱除去系熱交換器 機器</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の残留熱除去系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>R-2F-3-1</td> <td>ほう酸水注入系貯蔵タンク ほう酸水注入系アキュムレータ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されているほう酸水注入系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○ほう酸水注入系貯蔵タンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>	防護区画番号	機器	評価	R-B3F-11, R-B3F-14	原子炉補機冷却水系熱交換器 機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の原子炉補機冷却水系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul>	R-1F-1, R-1F-11	残留熱除去系熱交換器 機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の残留熱除去系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul>	R-2F-3-1	ほう酸水注入系貯蔵タンク ほう酸水注入系アキュムレータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されているほう酸水注入系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○ほう酸水注入系貯蔵タンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> </ul>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違</p> <p>泊では評価結果を横軸とした星取表形式で整理している。評価判定の考え方については女川と泊で相違は無い。</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違</p>
防護区画番号	機器	評価												
R-B3F-11, R-B3F-14	原子炉補機冷却水系熱交換器 機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の原子炉補機冷却水系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul>												
R-1F-1, R-1F-11	残留熱除去系熱交換器 機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されている同区分の残留熱除去系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> </ul>												
R-2F-3-1	ほう酸水注入系貯蔵タンク ほう酸水注入系アキュムレータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該機器の機能が求められる際の区画の浸水深は、同じ区画内に設置されているほう酸水注入系設備の最も低い機能喪失高さ以下であるため、溢水により機器に機械的損傷が生じることはない。</li> <li>○現場調査により、溢水によって機能喪失するようなその他要因が無いことを確認した。</li> <li>○ほう酸水注入系貯蔵タンクは開放タンクであり上部にペント管があるが、図面及び現場確認により、大気開放箇所が想定する溢水が進入しない位置であることを確認した。また、タンク開放部の高さより、タンク設置区画の最大浸水深が低いことを確認した。</li> </ul>												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
c. ダクト  換気空調系のダクトは構造部材ではないことから、水圧に対して機械的損傷が否定できないダクトについては図2に例示するような対策を講ずることとする。  なお、例示のように、床を貫通するダクトに対して堰等の防護対策を施す場合には、現場調査の結果に基づき溢水の滴下による堰内への水の流入の可能性を検討し、必要に応じて流入防止のための配慮を行う。	c. ダクト  換気空調系のダクトは構造部材ではないことから、水圧に対して機械的損傷が否定できないダクトについては図2に例示するような対策を講ずることとする。  なお、例示のように、床を貫通するダクトに対して堰等の防護対策を施す場合には、現場調査の結果に基づき溢水の滴下による堰内への水の流入の可能性を検討し、必要に応じて流入防止のための配慮を行う。	c. ダクト  換気空調系のダクトは構造部材ではないことから、水圧に対して機械的損傷が否定できないダクトについては図2に例示するような対策を講ずることとする。  なお、例示のように、床を貫通するダクトに対して堰等の防護対策を施す場合には、現場調査の結果に基づき溢水の滴下による堰内への水の流入の可能性を検討し、必要に応じて流入防止のための配慮を行う。	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映

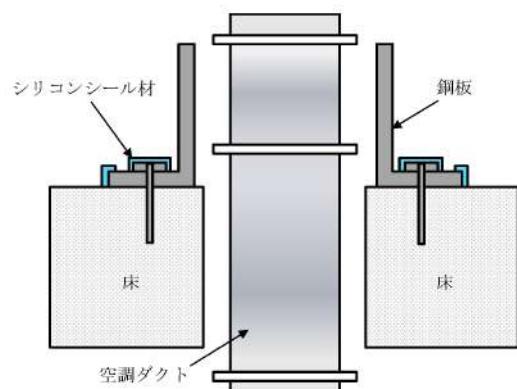


図2 ダクトに対する溢水対策

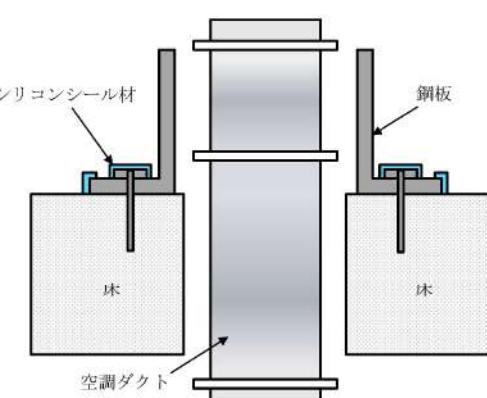


図2 ダクトに対する溢水対策

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(4-2 原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響について より抜粋)</p> <p>3. 原子炉格納容器内防護対象設備の溢水影響評価について 耐環境性仕様である原子炉格納容器内防護対象設備について は、LOCA時の原子炉格納容器内環境に対して機能維持が図れるよう、以下のことを確認している。確認結果の一覧は別表に示す。</p> <p>(1)被水影響 LOCAに伴い原子炉格納容器内圧力が上昇すると、格納容器スプレイが動作し、スプレイ水により防護対象設備が被水する。原子炉格納容器内防護対象設備は、スプレイ水に対しても機能維持が図れることを、1.に述べた環境試験により確認している。</p> <p>(2)没水影響 LOCAに伴う炉心注入及び格納容器スプレイにより、燃料取替用水ピット及び蓄圧タンクの保有水が原子炉格納容器内に注水される。LOCA時に機能要求のある防護対象設備は、1次冷却系の漏えい水の他、これらの保有水全量が原子炉格納容器内にたまつた場合においても、没水しない高さに設置している。</p>	<p>(2) ②「PCV内耐環境仕様の設備」について 原子炉格納容器内設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、以下に示すように、設計基準事故において最も環境が過酷な原子炉冷却材喪失事故時の原子炉格納容器内の状態（温度・圧力条件及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様で設計（設計条件、圧力 0.427MPa [gage]、温度：171°C、湿度：100%（蒸気））されているため、溢水影響評価において対象外としている。</p> <p>a. 被水による影響評価 設計基準事故時にドライウェル内が蒸気で満たされた場合、格納容器スプレイの蒸気凝縮効果によって原子炉格納容器を効果的に減圧することができる。格納容器スプレイ水はドライウェル内に一様に噴霧されるため、事故時に動作が必要となる設備については格納容器スプレイ時（被水時）にもその動作が保障されなければならない。そのため原子炉格納容器内に設置されており、事故時に動作が必要となる設備は、設計基準事故時の雰囲気下で機能維持が図れるよう設計及び試験を行っている。</p> <p>b. 没水影響評価 原子炉冷却材喪失事故時に原子炉格納容器内に発生する破断口からの溢水、及び格納容器スプレイ水は、原子炉格納容器内のドライウェル下部に溜まった後、ドライウェル下部にあるベント管を通り、サプレッションチャンバへ流れ込む設計となっている。 高圧炉心スプレイ系の初期水源は復水貯蔵タンクであるが、サプレッションチャンバ水位高（O.P.-3800）又は復水貯蔵タンク水位低で、水源はサプレッションチャンバに切り替わることから、原子炉冷却材喪失事故時にサプレッションチャンバ水位高（O.P.-3800）よりも高水位まで原子炉格納容器が溢水することは無い。 原子炉格納容器内の防護対象設備は上述したサプレッションチャンバ水位高（O.P.-3800）以上の高さに設置されていることから、没水により機能喪失することはない。</p>	<p>(2) ②「原子炉格納容器内耐環境仕様の設備」について 原子炉格納容器内設備のうち、重要度の特に高い安全機能を有する系統設備は、以下に示すように、設計基準事故において最も環境が過酷な原子炉冷却材喪失事故時の原子炉格納容器内の状態（温度・圧力条件及び溢水影響）を考慮した耐環境仕様で設計（設計条件、圧力 0.283MPa [gage]、温度：132°C、湿度：100%（蒸気））されているため、溢水影響評価において対象外としている。</p> <p>a. 被水による影響評価 設計基準事故時に原子炉格納容器内が蒸気で満たされた場合、格納容器スプレイの蒸気凝縮効果によって原子炉格納容器を効果的に減圧することができる。格納容器スプレイ水は原子炉格納容器内に一様に噴霧されるため、事故時に動作が必要となる設備については格納容器スプレイ時（被水時）にもその動作が保障されなければならない。そのため原子炉格納容器内に設置されており、事故時に動作が必要となる設備は、設計基準事故時の雰囲気下で機能維持が図れるよう設計及び試験を行っている。</p> <p>b. 没水影響評価 原子炉冷却材喪失事故時に原子炉格納容器内に発生する破断口からの溢水、及び格納容器スプレイ水は、原子炉格納容器最下階まで流下した後、原子炉格納容器再循環サンプルへ流れ込む設計となっている。 原子炉冷却材喪失事故に伴う炉心注入及び原子炉格納容器スプレイにより、燃料取替用水ピット及び蓄圧タンクの保有水が原子炉格納容器内に注水され、燃料取替用水ピット水位低となり、原子炉格納容器再循環に切り替わる。 原子炉冷却材喪失事故による漏えい水も含めた水の全量が格納容器内に溜まつた場合の水位はT.P.15.1mであり、原子炉格納容器内の防護対象設備はT.P.15.1mより高い位置に設置されていることから、没水により機能喪失することはない。</p>	<p>【女川】 設備名称の相違 【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 【女川】 設計方針の相違 プラント設計の相違により、原子炉格納容器内の温度・圧力条件が異なる。 【女川】 設備名称の相違 【大飯】 記載表現の相違 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 PWRとBWRの原子炉格納容器の設計の相違により、原子炉格納容器内で発生する溢水水位の算出過程は異なるが、原子炉格納容器内の防護対象設備が溢水水位以上の高さに設置されており、没水によって機能喪失していることに相違はない。 【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 原子炉格納容器内の防護対象設備を没水しない高さに設置しているのは泊と大飯で同じ。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
(3)蒸気影響  LOCAに伴い原子炉格納容器内には蒸気が充満する。 原子炉格納容器内防護対象設備は、蒸気環境下においても機能維持が図れることを、1.に述べた環境試験により確認している。	c. 蒸気影響評価  原子炉冷却材喪失事故に伴ってフラッシュ蒸発した原子炉冷却材の蒸気により、原子炉格納容器内は全域が高温・高圧の蒸気雰囲気となる。  原子炉冷却材喪失事故時に機能要求がある原子炉格納容器内防護対象設備は、安全解析で求められた高温・高圧環境に対して機能維持が図れるよう設計及び試験を行っている。  被水及び蒸気影響を確認した確証試験は、原子炉格納容器内の再循環配管破断及び主蒸気配管破断時の環境(図3、図4参照)を包括した条件で行っている。図5に試験条件の代表例を示す。	c. 蒸気影響評価  原子炉冷却材喪失事故に伴ってフラッシュ蒸発した原子炉冷却材の蒸気により、原子炉格納容器内は全域が高温・高圧の蒸気雰囲気となる。  原子炉冷却材喪失事故時に機能要求がある原子炉格納容器内防護対象設備は、安全解析で求められた高温・高圧環境に対して機能維持が図れるよう設計及び試験を行っている。  被水及び蒸気影響を確認した確証試験は、原子炉格納容器内の原子炉冷却材喪失事故時の環境条件(図3参照)で行っている。図4に試験条件の代表例を示す。	【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映 【女川】 設計方針の相違 PWRとBWRの原子炉格納容器の設計の相違により、泊は原子炉格納容器内環境条件が最も厳しくなるLOCA時の環境条件として試験を行っている。 記載表現の相違  【女川】 記載方針の相違 PWRとBWRの原子炉格納容器の設計の相違により、泊は原子炉格納容器内環境条件が最も厳しくなるLOCA時の環境条件として試験を行っている。(伊方と同様) 記載表現の相違  【伊方】 設計方針の相違 プラント設計の相違
【伊方3号炉】まとめ資料 添付資料1 9条-別添1-添1-28より抜粋 3. 蒸気影響評価  LOCAに伴ってフラッシュ蒸発した1次冷却材の蒸気により、C/V内は全域が高温・高圧の蒸気雰囲気となる。  C/V内防護対象設備は、安全解析で求められた高温・高圧環境に対して機能維持が図れるよう、設計および試験を実施している。  図-2 LOCA時のC/V内温度、圧力変化(環境条件)	図3 原子炉格納容器圧力変化(再循環配管破断)  図4 原子炉格納容器温度変化(主蒸気配管破断)  枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。	図3 原子炉格納容器圧力変化(原子炉冷却材喪失事故時)  枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。	

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由															
<p>4-3 原子炉格納容器内機器の耐環境性試験におけるスプレイ条件について</p> <p>1. 耐環境性試験の試験条件の考え方 原則として、米国の民間規格 IEEE-323 を参考に、実機条件及び試験装置条件を考慮して設定する。 なお、格納容器スプレイによる被水については、機器のシール性能が確認できれば機能への影響はないものと判断している。</p> <p>表1 実機条件と試験条件の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>試験条件 (伝送器の例)</th><th>実機条件 (大飯3号炉、 及び4号炉)</th><th>実機条件 (高浜3号炉、 及び4号炉)</th><th>IEEE-323</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スプレイ 流量</td><td>63.7 [L/min/m<sup>2</sup>]</td><td>13.8 [L/min/m<sup>2</sup>]</td><td>12.5 [L/min/m<sup>2</sup>]</td><td>6.1 [L/min/m<sup>2</sup>]</td></tr> <tr> <td>スプレイ 時間</td><td>24[h]</td><td>24[h]以上</td><td>24[h]以上</td><td>24[h]</td></tr> </tbody> </table> <p>2. スプレイ条件の保守性に関する考察 格納容器スプレイは下図のとおり、LOCA後の環境温度、圧力が高い条件で24時間実施している。 この条件でシール性能に問題のないことを確認できれば、温度、圧力が低下した24時間以降のシール性能についても問題はないと考えられ、IEEE-323にしたがったスプレイ条件は試験条件として妥当と判断している。</p> <p>図1 耐環境性試験プロファイル</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>		試験条件 (伝送器の例)	実機条件 (大飯3号炉、 及び4号炉)	実機条件 (高浜3号炉、 及び4号炉)	IEEE-323	スプレイ 流量	63.7 [L/min/m <sup>2</sup> ]	13.8 [L/min/m <sup>2</sup> ]	12.5 [L/min/m <sup>2</sup> ]	6.1 [L/min/m <sup>2</sup> ]	スプレイ 時間	24[h]	24[h]以上	24[h]以上	24[h]	<p>原子炉格納容器内環境適合性の確認例</p> <p>図5 耐環境仕様品の試験条件（代表例）</p> <p>枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	<p>原子炉格納容器内環境適合性の確認例</p> <p>図4 耐環境仕様品の試験条件（代表例）</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 設計方針の相違 プラント設計の相違 記載表現の相違</p>
	試験条件 (伝送器の例)	実機条件 (大飯3号炉、 及び4号炉)	実機条件 (高浜3号炉、 及び4号炉)	IEEE-323														
スプレイ 流量	63.7 [L/min/m <sup>2</sup> ]	13.8 [L/min/m <sup>2</sup> ]	12.5 [L/min/m <sup>2</sup> ]	6.1 [L/min/m <sup>2</sup> ]														
スプレイ 時間	24[h]	24[h]以上	24[h]以上	24[h]														

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

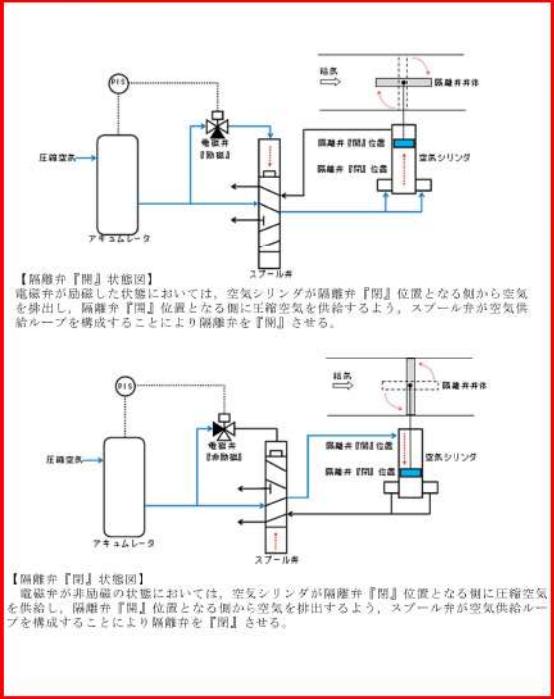
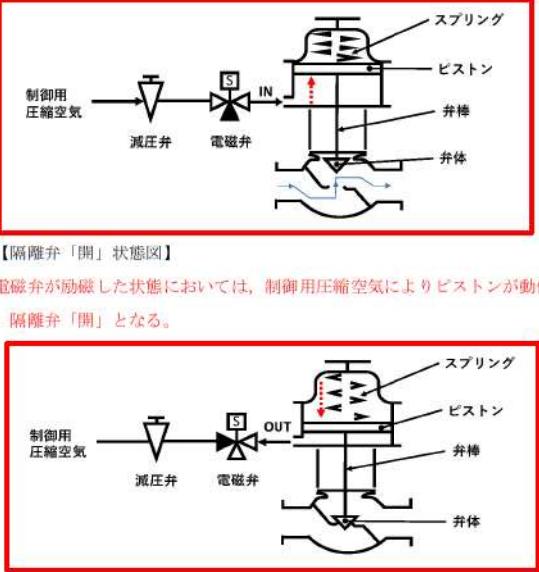
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(3) ③「動作機能の喪失により安全機能に影響しない」について</p> <p>フェイル・セイフ機能により溢水影響評価対象外とした<u>設備</u>は空気作動のもの(AO)と電磁石によるもの(SO)に分類される。次項以降でそれぞれその構造を示す。</p> <p>なお、これらの溢水影響評価対象外とした設備については、フェイル動作後には動作要求がないことを確認した。</p> <p>a. 電磁弁(SO)への影響</p> <p>代表例として移動式炉心内校正装置バージ隔離弁の動作概要を図6に示す。当該隔離弁を開動作させる場合は電磁石を励磁させる。これにより弁閉状態を維持するばね力に打ち勝って鉄心が電磁石に吸着し、弁開となり、またその状態を保持する。溢水によって当該隔離弁の動作機能が喪失した(電磁石が非励磁になった)場合、ばね力により鉄心は電磁石から離れて弁閉になり、また閉状態が維持される。当該弁に要求される安全機能は閉じ込め機能であることから、溢水により当該弁の動作機能が喪失した場合においても安全機能に影響はない。</p> <p>図6 移動式炉心内校正装置バージ隔離弁の動作概要図</p>	<p>(3) ③「動作機能の喪失により安全機能に影響しない」について</p> <p>フェイル・セイフ機能により溢水影響評価対象外とした空気作動弁(AOV)について、次項以降でその構造を示す。</p> <p>なお、これらの溢水影響評価対象外とした設備については、フェイル動作後には動作要求がないことを確認した。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 泊では溢水評価対象外とした電磁弁は無い。</p> <p>【女川】 設計方針の相違 泊では溢水評価対象外とした電磁弁は無い。</p>	

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

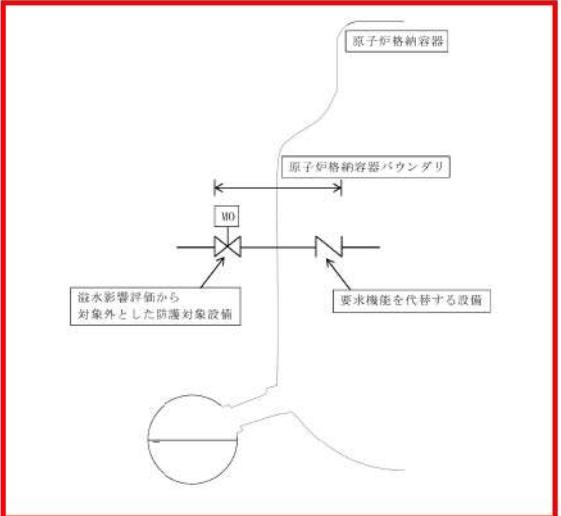
赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>b. 空気作動弁 (AO) への影響</p> <p>代表例として原子炉棟給気隔離弁の動作概要を図7に示す。当該隔離弁を開動作させる場合は、電磁弁を励磁させ、圧縮空気によりスプール弁を動作させる。これにより圧縮空気供給ループの構成が変化して隔離弁開となり、また開状態が保持される。溢水によって当該弁の動作機能が喪失した（電磁弁が非励磁となつた）場合、スプール弁は通常位置に復帰する。これにより圧縮空気供給ループが変化し、隔離弁閉となり、また閉状態が維持される。当該弁に要求される安全機能は閉じ込め機能であることから、溢水により当該弁の動作機能が喪失した場合においても安全機能に影響はない。</p>  <p>【隔離弁『開』状態図】 電磁弁が励磁した状態においては、空気シリンダが隔離弁『閉』位置となる側から空気を排出し、隔離弁『開』位置となる側に圧縮空気を供給するよう、スプール弁が空気供給ループを構成することにより隔離弁を『開』させる。</p> <p>【隔離弁『閉』状態図】 電磁弁が非励磁の状態においては、空気シリンダが隔離弁『閉』位置となる側に圧縮空気を供給し、隔離弁『閉』位置となる側から空気を排出するよう、スプール弁が空気供給ループを構成することにより隔離弁を『閉』させる。</p> <p>図7 原子炉棟給気隔離弁の動作概要図</p>	<p>a. 空気作動弁 (AOV) への影響</p> <p>フェイルポジションが「閉」である空気作動弁（隔離弁）の動作概要を図5に示す。当該隔離弁を開動作させる場合は、電磁弁を励磁させ、制御用圧縮空気によりピストンを動作させる。これにより隔離弁開となり、また開状態が保持される。溢水によって当該弁の動作機能が喪失した（電磁弁が非励磁となつた）場合、ピストンは通常位置に復帰する。これにより隔離弁閉となり、また閉状態が維持される。隔離弁に要求される安全機能は閉じ込め機能であることから、溢水により当該弁の動作機能が喪失した場合においても安全機能に影響はない。</p>  <p>【隔離弁『開』状態図】 電磁弁が励磁した状態においては、制御用圧縮空気によりピストンが動作し、隔離弁『開』となる。</p> <p>【隔離弁『閉』状態図】 電磁弁が非励磁の状態においては、ピストンは通常位置に復帰し、隔離弁『閉』となる。</p> <p>図5 空気作動弁（隔離弁）の動作概要図</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 記載方針の相違 泊は具体的な弁を代表例としてあげるのではなく、空気作動弁（隔離弁）の共通的な動作概要として記載している。</p> <p>【女川】 設計方針の相違 隔離弁の構造の相違により、記載が異なる。</p> <p>【女川】 記載表現の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>c. 没水によるフェイル・セイフ動作への影響      以下に示すとおり、没水によりフェイル・セイフ機能への影響はないと考える。</p> <p>(a) 基本的には端子箱が没水した時点で電源が遮断され、電磁弁が作動し、弁のフェイル動作が完了する（電源が落ちれば誤動作はない）。</p> <p>(b) 没水により電源が遮断されない場合は遠隔操作が可能である。</p> <p>(c) 没水により無励磁の箇所が誤って励磁される事象は考えられない。</p> <p>(d) 駆動部が没水状態となったとしても、その時点で空気排出を阻害するほどの水頭圧にならないため、空気排気・弁作動は可能である。</p> <p>(例) 計装用圧縮空気系系統圧：約0.7MPa⇒水頭約70m)</p> <p>(4) ④「他の設備で代替できる」について      他の設備により要求機能が代替できる防護対象設備は機能喪失しても安全機能に影響しないため溢水影響評価対象外とする。代替する設備はすべて逆止弁であり、またQMSに基づいた保全活動により、その機能維持を図っている。図8に系統構成例を示す。</p>  <p>図8 系統構成例 (放射性物質の閉じ込め機能 (原子炉格納容器隔離弁))</p>	<p>b. 没水によるフェイル・セイフ動作への影響      以下に示すとおり、没水によりフェイル・セイフ機能への影響はないと考える。</p> <p>(a) 没水により電源が遮断されない場合は遠隔操作が可能である。</p> <p>(b) 没水により無励磁の箇所が誤って励磁される事象は考えられない。</p> <p>(c) 駆動部が没水状態となったとしても、その時点で空気排出を阻害するほどの水頭圧にならないため、空気排気・弁作動は可能である。</p> <p>(4) ④「他の設備で代替できる」について      他の設備により要求機能が代替できる防護対象設備は機能喪失しても安全機能に影響しないため溢水影響評価対象外とする基準であるが、現状において、泊発電所3号炉の防護対象設備への適用実績はない。</p>	<p>【女川】  <u>記載表現の相違</u>  <u>設計方針の相違</u>      泊では溢水評価対象外とした電磁弁は無いため、記載していない。</p> <p>【女川】  <u>記載表現の相違</u></p> <p>【記載方針の相違】      図4に示したとおり隔壁弁の開閉機構が異なるため、泊では女川のような例示は記載していない。</p> <p><u>設計方針の相違</u>      泊では「他の設備で代替できる」との基準を適用し、溢水評価対象外とした設備は無い。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
(2-1 防護対象設備の抽出の考え方 より抜粋)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (1/24)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (1/9)				【大飯】
<b>大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (1/10)</b>												
1次冷却系	改 善	番 号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方								記載表現の相違
	3原子炉容器		×	②								女川審査実績の反映
	3A, 3B, 3C, 3D蒸気発生器		×	②								設計方針の相違
	3A, 3B, 3C, 3D-1次冷却材ポンプ		×	①								プラント設計の違いによる相違
	3冷却塔		×	②								【女川】
	3A, 3B, 3C加圧安全弁	3V-RC-055, 056, 057	×	②								記載表現の相違
	3A, 3B加圧器逃がし弁	3PCV-4524A, B	×	②								設計方針の相違
	3A, 3B加圧器逃がし弁前弁	3V-RC-054A, B	×	①								プラント設計の違いによる相違
	3冷却材逃がしタンクガス分岐ライン格納容器	3V-RC-072	×	②								【女川】
	3冷却材逃がしタンクガス分岐ライン格納容器逃がし弁	3V-RC-078	×	②								記載表現の相違
	3冷却材逃がしタンクガス分岐ライン格納容器逃がし弁	3V-RC-084	×	②								設計方針の相違
	3冷却材内補給水供給ライン格納容器機器	3V-RC-095	×	①								プラント設計の違いによる相違
化学生物抑制系	3A, 逃加圧器スプレイ弁	3PCV-451A, B	×	①								【大飯】
	3-1次冷却材圧力	3PT-420, 430	×	②								記載表現の相違
	3加圧器水位	3LT-451, 452, 453, 454	×	②								女川審査実績の反映
	3A, B, C,Dループ1次冷却材高壓側・低圧側(広域)	3TE-410, 415, 420, 425, 430, 435, 440, 445	×	②								設計方針の相違
	3A, B, C,Dループ1次冷却材高壓側・低圧側(要城)	3TE-411A, 411B, 411C, 411D, 421A, 421B, 421C, 421D, 431A, 431B, 431C, 431D, 441A, 441B, 441C, 441D	×	②								【女川】
	3冷却圧力	3PT-451, 452, 453, 454	×	②								記載表現の相違
	3A, B, C,Dループ1次冷却材流量	3PT-411A, 411B, 411C, 411D, 421A, 421B, 421C, 421D, 431A, 431B, 431C, 431D, 441A, 441B, 441C, 441D	×	②								設計方針の相違
	1次冷却材ポンプ回転数	3SE-418A, 428A	×	②								女川審査実績の反映
	3A, 3Bよう酸ポンプ	○	—	—								設計方針の相違
	3A, 3B, 3C光電センサ	○	—	—								【女川】
化学生物抑制系	3液体循環ポンプ	×	④	②								記載表現の相違
	3再生熱交換器		×	②								設計方針の相違
	3A, 3B, 3C酸クランク	×	④	②								女川審査実績の反映
	313Aう酸フィルタ	×	④	②								設計方針の相違
	3冷却塔	×	④	②								【女川】
	3A, 3B水注入フィルタ	×	④	②								記載表現の相違
	3冷却水ストレーナ	×	④	②								設計方針の相違
	3液体循環タンク出口第1止め弁	3LCV-121B	○	—								女川審査実績の反映
	3液体循環タンク出口第2止め弁	3LCV-121C	○	—								設計方針の相違
	3液体循環ポンプ回転数	3SE-418B, 428B	×	②								女川審査実績の反映

※1 評価対象とした理由  
 ①溢水により機能を喪失しない  
 ②評価結果に影響ない  
 ③動作機構の喪失により安全機能に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (2/10)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (2/24)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (2/9)			
系統	設 施	番 号	溢水影響評価対象 スクリーンアウトの考え方	機器番号	設 備	理由 <sup>#1</sup>	機器番号	機 器	理由 <sup>#1</sup>
化学体積制御系	3号急止み漏れ注入ライン補助弁	3V-CS-573	○		3FCV-138	充てん流量制御弁	3FCV-138	充てん流量制御弁	③
	3号除蒸ボンブ入口燃料取替用ホビット側制御弁	3LCV-121B, E	○		3V-CS-167	充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁	3V-CS-167	充てんライン流量制御弁補助オリフィスバイパス弁	③
	3号除蒸ボンブ格納容器隔壁弁	3V-CS-157	○		3CST1	体積制御タンク	3CST1	体積制御タンク	①
	3号除蒸ライン止め弁	3V-CS-155	○		3V-CS-191	充てんライン止め弁	3V-CS-191	充てんライン止め弁	③
	3号除蒸ライン流量制御弁	3PCV-138	×	①	3V-CS-186	加压器袖付スプレイ弁	3V-CS-186	加压器袖付スプレイ弁	②
	3号冷却材ボンブ封水注入ライン流量制御弁	3PCV-140	×	①	3CSH1	再生熱交換器	3CSH1	再生熱交換器	①
	3号抽出ライン第1止め弁	3LCV-451	×	②	3CST5A, B	ほう酸タンク	3CST5A, B	ほう酸タンク	①
	3号抽出ライン第2止め弁	3LCV-452	×	②	3CSF4	ほう酸フィルタ	3CSF4	ほう酸フィルタ	①
	3号3R, 3M, 3Nポンプアース出口格納容器弁	3V-CS-094A, B, C	×	②	3V-CS-455A, B	ほう酸タンク出口弁	3V-CS-455A, B	ほう酸タンク出口弁	③
	3号E, Fポンプスプレイ弁	3V-CS-169	×	②	3V-CS-466A, B	ほう酸ポンプ出口袖付ライン切替弁	3V-CS-466A, B	ほう酸ポンプ出口袖付ライン切替弁	②
	余剰抽出ライン第1止め弁	3V-CS-301	×	②	3V-CS-473A, B	ほう酸ポンプ出口低圧ライン切替弁	3V-CS-473A, B	ほう酸ポンプ出口低圧ライン切替弁	③
	余剰抽出ライン第2止め弁	3V-CS-301	×	②	3V-CS-474A, B	ほう酸フィルタ出口 A (B) ほう酸タンク戻り弁	3V-CS-474A, B	ほう酸フィルタ出口 A (B) ほう酸タンク戻り弁	③
	3号抽出ライン格納容器第2隔壁弁	3V-CS-097	×	①	3V-CS-499A, B	ほう酸ポンプ入口切替弁	3V-CS-499A, B	ほう酸ポンプ入口切替弁	③
	3号除蒸ライン流量制御弁前止め弁	3V-CS-151	×	①	3V-CS-004A, B, C	抽山オリフィス出口C/V内隔壁弁	3V-CS-004A, B, C	抽山オリフィス出口C/V内隔壁弁	②
	3号E-Pポンプ止め弁	3V-CS-163	×	①	3V-CS-006	抽出ライン格納容器外側隔壁弁	3V-CS-006	抽出ライン格納容器外側隔壁弁	③
	3号冷却材ボンブ封水注入ライン流量制御弁	3V-CS-127	×	①	3CSH4	封水冷却器	3CSH4	封水冷却器	①
	3号3R, 3M, 3N-1次冷却材ポンブ封水注入口(3号除蒸容器隔壁)	3V-CS-199A, B, C, D	×	①	3V-CS-224A, B, C	1次冷却材ポンブ封水注入ライン C/V 外側隔壁弁	3V-CS-224A, B, C	1次冷却材ポンブ封水注入ライン C/V 外側隔壁弁	③
	3号冷却材ポンブ封水注入ライン格納容器隔壁弁	3V-CS-310	×	②	3V-CS-254	1次冷却材ポンブ封水戻りライン C/V 内側隔壁弁	3V-CS-254	1次冷却材ポンブ封水戻りライン C/V 内側隔壁弁	②
	3号冷却材ポンブ封水注入ライン流量制御弁	3V-CS-312	○		3V-CS-242A, B, C	1次冷却材ポンブ封水戻りオリフィスバイパス弁	3V-CS-242A, B, C	1次冷却材ポンブ封水戻りオリフィスバイパス弁	③
	3号3R, 3M, 3N-1次冷却材ポンブ封水戻りライン流量制御弁	3V-CS-208A, B, C, D	×	②					
	3号ほう酸タンク水位	3LT-206, 298	○						
	3号ほう酸ポンプ速度制御装置	3CSU	○						
	3号ほう酸ポンプ速度制御補助装置	3CSAC	○						
	3号, 3M, 3C2光センサー現場操作箱	3LB-5, 6, 7, 8	○						
	3号ほう酸ポンプ現場操作箱	3LB-9, 10	○						
安全注入系	3号高圧注入ポンプ		○						
	3号, 3M, 3D蓄圧タンク		×	③					
	3号, 3M, 3D蓄圧タンクミニマムフローライ	3V-SI-015A, B	○						
	3号高圧注入ポンプミニマムフローライ	3V-SI-016A, B	○						
	3号高圧注入ポンプ格納容器再溝底サン	3V-SI-003A, B	○						
	3号高圧注入ポンプ燃料管管束水ドット	3V-SI-002A, B	○						
	3号高圧注入ポンプRW5ピット及び再溝底サンプル人口弁	3V-SI-096A, B	○						
	3号高圧注入ライン引替納容器隔壁弁	3V-SI-092A, B	×	①					
	3号高圧注入ポンプ出口隔壁弁	3V-SI-066A, B	×	②					

\*1 評価対象外とした理由  
 ①設計により機能を喪失しない  
 ②P/T内蓄槽運行仕様の設備  
 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由		
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (3/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (3/24)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (3/9)				【大飯】		
系統	設 計	番 号	溢水影響評価結果	機器番号	設 計	理由 <sup>*1</sup>	機器番号	機 器 名	理由 <sup>*1</sup>	機 器 名	理由 <sup>*1</sup>	記載表現の相違		
安全注入系	3A.3B高圧注入ポンプ高壓噴射注入ライン止め弁	3V-SI-067A, B	×	G31-F002	C UW入口ライン箇一隔離弁	②	3SIT2	ほう酸注入タンク	①	高圧注入ボンプ出口C/V内側隔壁弁	②	女川審査実績の反映		
	3A.3B, 3C, 3D高圧タンク出口弁	3V-SI-122A, B, C, D	×	R43-A001A	清水蓄圧タンク (A)	①	3V-SI-061A, B	高圧注入ボンプ出口A (B) ライン止め弁	②	高圧注入ボンプA (B) ライン止め弁	②	設計方針の相違		
	3格納容器再循環サンプル水位 (東城)・(広域)・(茨城)	3L3-970, 971, 972, 973	×	R43-A001B	清水蓄圧タンク (B)	①	3V-SI-141	ほう酸注入タンク循環ライン入口止め弁	③	3L3-970, 971, 972, 973	ほう酸注入タンク循環ライン出口第1 (2) 止め弁	③	プラント設計の違いによる相違	
	3A.3B高圧注入ポンプ遮断操作弁	3LB-12, 13	○	-	R43-A100A	潤滑油サンプルタンク (A)	①	3CWT-2, 3	格納容器再循環サンプル	①	3L3-970, 971, 972, 973	格納容器再循環サンプル	①	【女川】
	3A.3B注入流量(1), 3B.3C注入流量(2)	3FT-982, 983	○	-	R43-A100B	潤滑油サンプルタンク (B)	①	3LT-620, 830	格納容器再循環サンプル水位 (広域)	②	3FT-982, 983	格納容器再循環サンプル水位 (広域)	②	記載表現の相違
	3燃料取替用ピット水位I, II, III, IV	3LT-1400, 1401, 1402, 1403	○	-	R43-A101A	機関付動水注油タンク (A)	①	3LT-621, 831	格納容器再循環サンプル水位 (茨城)	②	3LT-620, 830	格納容器再循環サンプル水位 (茨城)	②	設計方針の相違
	3A.3B余熱除去ポンプ	-	-	R43-A101B	機関付動水注油タンク (B)	①	3STT1A, B, C	蓄圧タンク	①	3STT1A, B, C	蓄圧タンク	①	プラント設計の違いによる相違	
	3A.3B余熱除去冷却弁	-	-	R43-A200A	軽油タンク (A)	①	3V-SI-122A, B, C	蓄圧タンク出口弁	②	3V-SI-122A, B, C	蓄圧タンクサンプリングライン C/V内側隔壁弁	②	【女川】	
	3A.3B余熱除去冷却弁流量設定弁	3FCV-601, 611	○	-	R43-A200B	軽油タンク (B)	①	3V-SI-123A, B, C	蓄圧タンクサンプリングライン C/V外側隔壁弁	②	3FCV-601, 611	蓄圧タンクサンプリングライン C/V外側隔壁弁	②	記載表現の相違
	3A.3B余熱除去冷却弁バイパス流量測定弁	3FCV-601, 613	×	①	R43-A200C	軽油タンク (C)	①	3V-SI-124	蓄圧タンクサンプリングライン C/V外側隔壁弁	③	3FCV-601, 613	蓄圧タンクサンプリングライン C/V外側隔壁弁	③	設計方針の相違
余熱除去系	3A.3B余熱除去冷却弁ポンプB, クーラー高温側入出力止め弁	3PCV-420, 430	×	②	R43-A200D	軽油タンク (D)	①	3V-SI-161	蓄圧タンク蒸素供給ライン C/V外側隔壁弁	③	3PCV-420, 430	蓄圧タンク蒸素供給ライン C/V外側隔壁弁	③	プラント設計の違いによる相違
	3A.3B余熱除去ポンプ入口格納容器隔壁弁	3V-RH-022A, B	×	②	R43-A200E	軽油タンク (E)	①	3V-SI-184	安全注入対応弁テストライン C/V内側隔壁弁	②	3V-RH-022A, B	安全注入対応弁テストライン C/V内側隔壁弁	②	【女川】
	3A.3B余熱除去冷却器出口格納容器隔壁弁	3V-RH-023A, B	×	①	R43-A200F	軽油タンク (F)	①	3V-SI-185	蓄圧タンク補給ライン C/V外側隔壁弁	③	3V-RH-023A, B	蓄圧タンク補給ライン C/V外側隔壁弁	③	記載表現の相違
	3A.3B余熱除去冷却器出口連鎖弁	3V-RH-027A, B	×	②	R43-A201A	燃料ディタンク (A)	①	3V-SI-186	安全注入対応弁テストライン C/V外側隔壁弁	③	3V-RH-027A, B	安全注入対応弁テストライン C/V外側隔壁弁	③	設計方針の相違
	3A.3Cループ高壓側注入ライン止め弁	3V-RH-028A, B	×	②	R43-A201B	燃料ディタンク (B)	①	3V-SI-187	余熱除去冷却器弁	①	3V-RH-028A, B	余熱除去冷却器弁	①	プラント設計の違いによる相違
	3A.3B余熱除去ポンプ出口流量	3FT-601, 611	○	-	R43-A300A	空気だめ (自動) (A)	①	3V-SI-188	余熱除去冷却器弁	①	3FT-601, 611	余熱除去冷却器弁	①	【女川】
	3A.3B余熱除去冷却器現場操作箱	3LB-14, 15	○	-	R43-A300B	空気だめ (自動) (B)	①	3V-SI-189	余熱除去冷却器弁	①	3LB-14, 15	余熱除去冷却器弁	①	記載表現の相違
	3A.3B格納容器スライドボンブ	-	-	R43-B001A	清水冷却器 (A)	①	3V-SI-189A, B	余熱除去冷却器弁	①	3V-SI-189A, B	余熱除去冷却器弁	①	設計方針の相違	
	3A.3B格納容器スライドボンブ	-	-	R43-B001B	清水冷却器 (B)	①	3V-SI-190	余熱除去冷却器弁	①	3V-SI-189B, A, B	余熱除去冷却器弁	①	プラント設計の違いによる相違	
	3A.3B格納容器スライドボンブ	-	-	R43-B003A-1	機関付空気冷却器 (L) (D)	①	3V-SI-190	余熱除去冷却器弁	①	3V-SI-190A, B	余熱除去冷却器弁	①	【女川】	
格納容器スプレイ系	3A.3Bより削除去處置注入ライン第1止め弁	3V-CP-054A, B	○	-	R43-B003A-2	機関付空気冷却器 (R) (D)	①	3V-SI-191	余熱除去冷却器弁	①	3V-CP-054A, B	余熱除去冷却器弁	①	記載表現の相違
	3A.3Bより削除去處置注入ライン第2止め弁	3V-CP-059A, B	○	-	R43-B003B-1	機関付空気冷却器 (L) (D)	①	3V-SI-192	余熱除去冷却器弁	①	3V-CP-059A, B	余熱除去冷却器弁	①	設計方針の相違
	3A.3B格納容器スライドボンブ燃料取替用燃料注入止め弁	3V-CP-091A, B	○	-	R43-B003B-2	機関付空気冷却器 (R) (D)	①	3V-SI-193	余熱除去冷却器弁	①	3V-CP-091A, B	余熱除去冷却器弁	①	プラント設計の違いによる相違
	3A.3B格納容器スライドボンブ再循環サンプル取扱い冷却器隔壁弁	3V-CP-093A, B	○	-	R43-B100A	潤滑油冷却器 (A)	①	3V-SI-194	高溫側低圧注入ライン止め弁	②	3V-CP-093A, B	高溫側低圧注入ライン止め弁	②	【女川】
	3A.3B格納容器スライドボンブ冷却器出口格納容器隔壁弁	3V-CP-024A, B	○	-	R43-B100B	潤滑油冷却器 (B)	①	3LT-460, 461, 462, 463, 470, 471, 472, 473, 490, 491, 492, 493	主給水系統	②	3V-CP-024A, B	主給水系統	②	記載表現の相違
	3A.3B格納容器圧力 (広域) I, II, III, IV	3PT-950, 951, 952, 953	○	-	R43-D100A	潤滑油フィルタ (A)	①	3LT-464, 474, 484	蒸気発生器水位 (広域)	②	3PT-950, 951, 952, 953	蒸気発生器水位 (広域)	②	設計方針の相違
	3A.3B格納容器スライドボンブ現場操作箱	3LB-18, 19	○	-	R43-D100B	潤滑油フィルタ (B)	①	3V-RH-022A, B	余熱除去冷却器弁	②	3LB-18, 19	余熱除去冷却器弁	②	プラント設計の違いによる相違
	3タービン動輪排給水ポンプ	-	-	① 評価対象外とした理由 ① 溢水により機能を喪失しない ② PV内側隔壁仕様の設備 ③ 動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④ 他の機器で代替できる	-	-	-	3V-RH-023A, B	余熱除去冷却器弁	③	-	-	-	【女川】
	3A.3B電動排給水ポンプ	-	-	-	-	-	-	3V-RH-023B, A, B	余熱除去冷却器弁	③	-	-	-	記載表現の相違
	3D水ポンプ	-	-	-	-	-	-	3V-RH-033A, B	余熱除去冷却器弁	②	-	-	-	設計方針の相違
	3タービン動輪排給水ポンプ起動弁I, B	3V-RH-570A, B	○	-	-	-	-	3V-RH-034A, B	高溫側低圧注入ライン止め弁	②	-	-	-	プラント設計の違いによる相違
主蒸気及び主給水系、 排給水系	3A.3B, 3C, 3D排給水隔壁弁	3V-RH-574A, B, C, D	×	④	-	-	-	-	-	-	-	-	-	【女川】

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (4/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (4/24)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (4/9)				【大飯】
系統	設 備	番 号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方	機器番号	設 備	理由 <sup>#1</sup>	機器番号	機 器	機器名称	理由 <sup>#1</sup>	【大飯】
主蒸気及び 主給水系 補助給水系	3A, 3B, 3C, 3D運動補助給水ライン運転制御弁	3V-FW-557A, B, C, D	×	①	D6	R43-D200A	燃料移送ポンプ入口ストレーナ (A)	①	3HCV-361A, B, 362C, 363B	主蒸気バイパス隔離弁	③	記載表現の相違
	3溢水ビット運動補助給水ポンプ制止め弁	3V-FW-589	×	①	D6	R43-D200B	燃料移送ポンプ入口ストレーナ (B)	①	3V-MS-521A, B, C, 522A, B, C,	主蒸気安全弁	①	女川審査実績の反映
	3溢水ビットタービン駆動補助給水ポンプ制止め弁	3V-FW-581	×	①	D6	R43-D201A	D/G燃料移送ポンプ出口フィルタ (A)	①	523A, B, C, 524A, B, C, 525A, B, C	主蒸気安全弁	①	設計方針の相違
	3A, 3B, 3C, 3Dタービン駆動補助給水ライン流量計 測定弁	3HCV-3715, 3725 3735, 3745	×	①	D6	R43-D201B	D/G燃料移送ポンプ出口フィルタ (B)	①	3V-MS-575A, B	タービン駆動補助給水ポンプ駆動蒸気B (C) 主蒸気ライン弁	③	プラント設計の違いによる相違
	3A, 3B, 3C, 3Dタービン駆動補助給水ポンプ運動蒸気 世帯ライン止め弁	3V-FW-575A, B	×	①	D6	R43-D202A-1	燃料油フィルタ (A) - 1	①	3V-MS-575A, B	タービン駆動補助給水ポンプ駆動蒸気B (C) 主蒸気ライン弁	③	【女川】
	3A, 3B, 3C, 3D主給水隔離弁	3V-FW-529A, B, C, D	×	④	D6	R43-D202A-2	燃料油フィルタ (A) - 2	①	3V-MS-518A, B, C	主蒸気速がし弁元弁	③	記載表現の相違
	3溢水ビット水位計IV	3LT-3709, 3761	○	—	D6	R43-D202B-1	燃料油フィルタ (B) - 1	①	3V-MS-581	非常用ターピングランド蒸気元弁	③	設計方針の相違
	3A, 3B, 3C, 3D蒸気発生器補助給水流量 計測弁	3PT-3716, 3726 3726, 3749	○	—	D6	R43-D202B-2	燃料油フィルタ (B) - 2	①	3V-MS-601A, B, C	主蒸気隔離弁上流ドレンライン隔離弁	③	プラント設計の違いによる相違
	3A, 3B, 3C, 3D蒸気発生器底水位	3LT-461, 474, 494, 491	×	②	D6	R43-D300A	埠動用空気ストレーナ (A)	①	3CPH1A, B	格納容器スプレイ冷却器	①	
	3A, 3B, 3C, 3D蒸気発生器底水位	3LT-461, 492, 493, 470, 471, 472, 473, 490, 481, 482, 483, 490, 491, 492, 493	×	②	D6	R43-D300B	埠動用空気ストレーナ (B)	①	3CPH1B	格納容器スプレイ冷却器	①	
	3タービン駆動補助給水ポンプ駆動整流弁B	3TDF-A, B	○	—	D6	R43-D301A	埠動用空気ストレーナ (A)	①	3CPH1A, B	格納容器スプレイ冷却器	①	
	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁	3V-MS-533A, B, C, D	○	—	D6	R43-D301B	埠動用空気ストレーナ (B)	①	3CPH1B	格納容器スプレイ冷却器	①	
	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁バイパス弁	3HCV-3615, 3626 3625, 3645	×	①	D6	R43-D5105A	潤滑油フィルタ充圧充圧スイッチ	③	3CPH1A, B	格納容器スプレイ冷却器	①	
	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気速がし弁	3HCV-3616, 3626 3625, 3649	○	—	D6	R43-D5105B	潤滑油フィルタ充圧充圧スイッチ	③	3CPH1A, B	格納容器スプレイ冷却器	①	
	3A, 3B, 3C, 3D-1主蒸気安全弁	3V-MS-528A, B, C, D	×	①	D6	R43-D8210A	燃料油フィルタ充圧充圧スイッチ	③	3CC1T1	原子炉冷却水系	①	
	3A, 3B, 3C, 3D-2主蒸気安全弁	3V-MS-527A, B, C, D	×	①	D6	R43-D8210B	燃料油フィルタ充圧充圧スイッチ	③	3CC1H1A, B, C, D	原子炉冷却水系	①	
	3A, 3B, 3C, 3D-3主蒸気安全弁	3V-MS-528A, B, C, D	×	①	D6	R43-D200A	フレキシブルチューブ	①	3CC1H1A, B, C, D	原子炉冷却水系	①	
	3A, 3B, 3C, 3D-4主蒸気安全弁	3V-MS-529A, B, C, D	×	①	D6	R43-D200B	フレキシブルチューブ	①	3CC1H1A, B, C, D	原子炉冷却水系	①	
	3A, 3B, 3C, 3D-5主蒸気安全弁	3V-MS-530A, B, C, D	×	①	D6	R43-L19050A	清水槽タンク水位指示計 (被点材)	③	3V-CC-054A, B, C, D	原子炉冷却水系	③	
	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気隔離弁上流ドレンライン シールド弁	3V-MS-585A, B, C, D	×	①	D6	R43-L19050B	清水槽タンク水位指示計 (被点材)	③	3V-CC-526	1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V内側隔離弁	②	
	3A, 3B, 3C, 3D主蒸気速がし弁元弁	3V-FW-523A, B, C, D	×	①	D6	R43-L19060A	清水槽タンク水位指示計 (被点材)	③	3A-SFP, 3B-SFP	使用済燃料ピット	①	
	3A, 3B, 3C, 3D原子炉給機冷却水ボンプ	3PFT-465, 466, 467, 468, 470, 471, 472, 473, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498	○	—	D6	R43-L19060B	潤滑油サンブランク油面指⽰計 (被点材)	③				
	3原子炉給機冷却水サージタンク	3PFT-465, 466, 467, 468, 470, 471, 472, 473, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498	×	④	D6	R43-L1S201A	軽油貯蔵タンクA液面計	③				
	3A, 3B原子炉給機冷却水冷却器	3PFT-465, 466, 467, 468, 470, 471, 472, 473, 485, 486, 487, 488, 495, 496, 497, 498	×	④	D6	R43-L1S201B	軽油貯蔵タンクB液面計	③				
	3A, 3B給油装置スライド冷却器冷却水止め弁	3V-OC-178A, B	○	—	D6	R43-LS116A	機関付動弁注油タンク油面	③				
	3A, 3B, 3C, 3D-5原子炉給機冷却水供給導管連絡 弁	3V-OC-056A, B	○	—	D6	R43-LS116B	機関付動弁注油タンク油面	③				
	3A, 3C, 3D-5原子炉給機冷却水便り導管連絡 弁	3V-OC-043A, B	○	—	D6	R43-LS257A	シリンドー浸水スイッチ	③				
	3-1冷却材除去冷却器冷却水止め弁	3V-OC-114A, B	○	—								
	3-1次冷却材ポンプ冷却水循環ポンプ(1番循 環ポンプ)	3V-OC-403	○	—								
	3-1次冷却材ポンプ冷却水循環ポンプ(2番循 環ポンプ)	3V-OC-427	×	②								
原子炉補機 冷却系	3A, 3B, 3C, 3D原子炉給機冷却水ボンプ		○	—								
	3原子炉給機冷却水サージタンク		×	④								
	3A, 3B原子炉給機冷却水冷却器		×	④								
	3A, 3B給油装置スライド冷却器冷却水止め弁		○	—								
	3A, 3B, 3C, 3D-5原子炉給機冷却水供給導管連絡 弁		○	—								
	3A, 3C, 3D-5原子炉給機冷却水便り導管連絡 弁		○	—								
	3A, 3B冷却材除去冷却器冷却水止め弁		○	—								
	3-1冷却材ポンプ冷却水循環ポンプ(1番循 環ポンプ)		○	—								
	3-1冷却材ポンプ冷却水循環ポンプ(2番循 環ポンプ)		○	—								
	3-1次冷却材ポンプ冷却水循環ポンプ(3番循 環ポンプ)		○	—								

\*1 評価対象外とした理由  
 ①溢水により機能を喪失しない  
 ②KC内制限値仕様の設備  
 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由	
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (5/10)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (5/24)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (5/9)			【大飯】	
系統	設 備	番 号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方	理由 <sup>#1</sup>	系統	機器番号	機器番号	機器名称	理由 <sup>#1</sup>
原子炉冷却系	3-1.淡水ポンプ冷却水戻りライン格納容器内側遮断弁	3V-OC-429	○	—	①	06 R43-LS25TB	シリンダー溢水スイッチ	3SFH1A, B	使用済燃料ビット冷却器	①
	3-1.淡水ポンプ冷却水戻りライン各制御弁冷却器冷卻水供給ライン	3V-OC-342	○	—	②	06 R43-PI1052A	機関付清水ポンプ出口圧力指示計	3SFH1A, B	使用済燃料ビット脱塩塔	①
	3-1.淡水ポンプ冷却水戻りライン各制御弁冷却器冷卻水供給ライン(IV)冷却器	3V-OC-365	○	—	③	06 R43-PI1052B	機関付清水ポンプ出口圧力指示計	3SFH1A, B	使用済燃料ビット脱塩塔	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ冷却水供給ライン各制御弁冷却器冷卻水供給ライン(IV)冷却器	3V-OC-189A, B	○	—	④	06 R43-PI1101A	機関付潤滑油ポンプ出口圧力指示計	3SFH1A, B	使用済燃料ビットフィルタ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ冷却水供給ライン各制御弁冷却器冷卻水供給ライン(IV)冷却器	3V-OC-198A, B, C, D	○	—	⑤	06 R43-PI1101B	機関付潤滑油ポンプ出口圧力指示計	3SFH1A, B	使用済燃料ビットフィルタ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ冷却水供給ライン各制御弁冷却器冷卻水供給ライン(IV)冷却器	3AV-OC-600, 601	○	—	⑥	06 R43-PT1202A	燃料油ストレーナ前圧力指示計	3SFH1A, B	原子炉補機冷却海水ポンプストレーナ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ冷却水供給ライン各制御弁冷却器冷卻水止め弁	3V-SW-570A, B	○	—	⑦	06 R43-PT1202B	燃料油ストレーナ後圧力指示計	3SFH1A, B	原子炉補機冷却海水ポンプストレーナ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ冷却水供給ライン各制御弁冷却器冷卻水止め弁	3LB-20, 21, 22, 23	○	—	⑧	06 R43-PT1203A	燃料移送ポンプ出口圧力指示計	3SFH1A, B	原子炉補機冷却海水ポンプストレーナ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ	3S-SW-01A, B, C, D	○	—	⑨	06 R43-PT1203B	燃料移送ポンプ出口圧力指示計	3SFH1A, B	原子炉補機冷却海水ポンプストレーナ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ出口3A, 9B, 9C, 30海水ストレーナ	3S-SW-02A, B, C	×	⑩	⑩	06 R43-PT1211A	機関入口燃料油圧力指示計	3SFH1A, B	原子炉補機冷却海水ポンプストレーナ	①
	3A, 9, 10, 11.海水ポンプ出口3A, 9B, 9C, 30海水ストレーナ	3S-SW-02A, B, C	×	⑪	⑪	06 R43-PT1211B	機関入口燃料油圧力指示計	3SFH1A, B	原子炉補機冷却海水ポンプストレーナ	①
燃料ビット冷却净化系	3A, 9B 使用済燃料ビットポンプ	3V-PI-1001	○	—	⑫	06 R43-PI1255A	機関入口吸気圧力 (L) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9B 使用済燃料ビットポンプ	3V-PI-1001	×	⑬	⑬	06 R43-PI1255B	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9B, 3C 使用済燃料ビット冷却器	3V-PI-1002	○	—	⑭	06 R43-PI1256A	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9B 使用済燃料ビット脱脂器	3V-PI-1003	×	⑮	⑮	06 R43-PI1256B	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
燃料取替用水系	3A, 9B 使用済燃料ビットフィルタ	3V-PI-1004	○	—	⑯	06 R43-PI1257A	機関入口吸気圧力 (L) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	②
	3A, 9B 使用済燃料ビットポンプ現用操作箱	3LB-24, 25	○	—	⑰	06 R43-PI1257B	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9B 燃料取替用水ポンプ	3V-PI-1005	○	—	⑱	06 R43-PI1258A	機関入口吸気圧力 (L) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	②
	3A, 9B 燃料取替用水ポンプ	3V-PI-1005	○	—	⑲	06 R43-PI1258B	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
蒸気発生器プローダウン系	3A, 9C 燃料取替用水ポンプ	3V-PI-1006	○	—	⑳	06 R43-PI1259A	機関入口吸気圧力 (L) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	②
	3A, 9C 燃料取替用水ポンプ	3V-PI-1006	○	—	㉑	06 R43-PI1259B	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9D 燃料取替用水ポンプ	3V-PI-1007	○	—	㉒	06 R43-PI1260A	機関入口吸気圧力 (L) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	②
	3A, 9D 燃料取替用水ポンプ	3V-PI-1007	○	—	㉓	06 R43-PI1260B	機関入口吸気圧力 (R) (I) 指示計	3SFH1A, B	CVDT 自動ガス分析ライン C/V 外側隔壁弁	③
次第料採取系	3A, 9E 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-503	×	⑭	⑭	06 R43-P1S253A	空気だめ圧力 (自動) 指示計 (接点付)	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9E 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-503	×	⑮	⑮	06 R43-P1S253B	空気だめ圧力 (自動) 指示計 (接点付)	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9F 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-506	×	⑭	⑭	06 R43-P1S260A	燃料ハンドル位置異常スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9F 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-506	×	⑮	⑮	06 R43-P1S260B	燃料ハンドル位置異常スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9G 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-522	×	⑭	⑭	06 R43-P1S262A	ターニングハンドル位置異常スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9G 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-522	×	⑮	⑮	06 R43-P1S262B	ターニングハンドル位置異常スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9H 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-507	×	⑭	⑭	06 R43-P1S263A	空気だめ圧力 (自動) 指示計 (接点付)	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9H 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-507	×	⑮	⑮	06 R43-P1S263B	空気だめ圧力 (自動) 指示計 (接点付)	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9I 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-525	×	⑭	⑭	06 R43-P1S264A	燃料ハンドル位置異常スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9I 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-525	×	⑮	⑮	06 R43-P1S264B	燃料ハンドル位置異常スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9J 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-526	×	⑭	⑭	06 R43-P1S265A	空気だめ圧力 (自動) スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9J 燃料取替料採取取扱い格納容器第1隔壁弁	3V-SS-526	×	⑮	⑮	06 R43-P1S265B	空気だめ圧力 (自動) スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
副翼用空気系	3A, 9K 燃料取替料採取取扱い格納容器第2隔壁弁	3V-SS-594	×	⑭	⑭	06 R43-PS250A	空気だめ圧力 (自動) スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 内側隔壁弁	②
	3A, 9K 燃料取替料採取取扱い格納容器第2隔壁弁	3V-SS-594	×	⑮	⑮	06 R43-PS250B	空気だめ圧力 (自動) スイッチ	3SFH1A, B	格納容器冷却材ドレンボンブ出口 C/V 外側隔壁弁	③
	3A, 9L 制御用空気圧縮機	3V-SS-574	○	—	⑯					
	3A, 9L 制御用空気圧縮機	3V-SS-574	○	—	⑰					

※ 1 評価対象外とした理由  
 ①溢水により機器を喪失しない  
 ②PV内側隔壁仕様の設備  
 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (6/10)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (6/24)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (6/9)			【大飯】
系統	設 備	番 号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方		系統	機器番号	機器名称	理由 <sup>*1</sup>
制御用空気系	3A_3B制御用空気乾燥器	3IHA1A, B	×	③		06	R43-PS251A	B (C) ループ高周側サンプリングライン C/V 内側隔離弁	②
	3A_3B制御用空気乾燥器	3IAT1A, B	×	③		06	R43-PS251B	B ハーフ高温側、加圧器サンプリングライン C/V 外側隔離弁	③
	3A_3B制御用空気主蒸気遮断弁等供給弁 止止弁	3V-1A-505A, B	○	—		06	R43-TE331A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3A-C_3B制御用空気母管遮断弁	3V-1A-501A, B	○	—		06	R43-TE331B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3A_3B制御用空気納留器遮断弁	3V-1A-508A, B	○	—		06	R43-TE332A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③
	3A_3B格納容器内漏液Bクラス制御用空氣 冷却器止止弁	3V-1A-510A, B	×	③		06	R43-TE332B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③
	3A_3B制御用空気供給母管遮断弁	SPT-1800, 1810	○	—		06	R43-TE333A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (W相) 検出器	③
	3A_3B制御用空気遮断機制動器	3IAC-A, B	○	—		06	R43-TE333B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (W相) 検出器	③
	3格納容器部材トレレンタングガス分析ラ イン格納容器遮断弁	3V-WL-078	×	③		06	R43-TE344A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3格納容器部材トレレンタングガス分析ラ イン格納容器遮断弁	3V-WL-079	×	①		06	R43-TE344B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
燃素物処理系	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-083	×	③		06	R43-TE335A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-084	×	①		06	R43-TE345B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-094	×	①		06	R43-TE336A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (W相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-095	×	③		06	R43-TE336B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (W相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-097	×	①		06	R43-TE336C	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (W相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-098	×	③		06	R43-TE337A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-143	×	②		06	R43-TE337B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-144	×	①		06	R43-TE338A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-145	×	①		06	R43-TE338B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③
	3燃素物処理材トレレンタングラントライ ン格納容器遮断弁	3V-WL-146	×	③		06	R43-TE339A	非常用D/G (A) 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③
消防水系	3消防水栓	3V-FS-502	×	①		06	R43-TE339B	非常用D/G (B) 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③
	3消防水栓	3V-FG-009	×	②		06	R43-TE341A	非常用D/G (A) 離受温度検出器	③
	3消防水栓	3V-FG-008	×	①		06	R43-TE341B	非常用D/G (B) 離受温度検出器	③
	手動弁 一式		×	③		06	R43-TI051A	離受入口ディーゼル冷却水温度指示計	③
	逆止弁 一式		×	③		06	R43-TI051B	離受入口ディーゼル冷却水温度指示計	③
	3換気空調盤	3VB	○	—		06	R43-TI054A	機関出口ディーゼル冷却水温度指示計 (機点付)	③
	3A_3B中央制御室空調ファン		○	—		06	R43-TI054B	機関出口ディーゼル冷却水温度指示計 (機点付)	③
	3A_3B中央制御室空調ファン		○	—		06	R43-TI109A	機関入口潤滑油温度指示計 (接点付)	③
	3A_3B中央制御室空調用給風ファン	3SF22A, B	○	—					
	3A_3B中央制御室空調用給風ファン	3D-VS-001A, B	×	①					
換気空調系	3A_3B中央制御室外気取入装置	3D-VS-002A, B	○	—					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3D-VS-002B	○	—					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3D-VS-003A, B	○	—					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3D-VS-004A, B	○	—					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3HD-2874, 2875	○	—					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3HD-2885, 2886	○	—					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3HD-2887, 2888	×	①					
	3A_3B中央制御室外気取入装置	3HD-2889, 2890	○	—					

\*1 評価対象外とした理由

- ①溢水により機能を喪失しない
- ②PO内側隔離弁係の設備
- ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない
- ④他の設備で代替できる

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (7/10)					表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (7/24)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (7/9)			【大飯】
系統					機器番号			機器名称			記載表現の相違
換気空調系					DG	R43-TS109B	機間入口潤滑油温度指示計 (接点付)	DG	3RF-P	燃料取替用ピット	①
3A-3B中央制御室温湿度計 (1), (2)					DG	R43-TS343A	非常用D/G (A) 側受温度指示計 (接点付)	DG	3RFH1	燃料取替用油加熱器	①
3A-3B中央制御室温湿度計 (3)					DG	R43-TS343B	非常用D/G (B) 側受温度指示計 (接点付)	DG	3V-IA-514A,B	制御用空気系統	②
3A-3B中央制御室温湿度計 (4)					DG	R43-TS112A	潤滑油ブライミングポンプ入口温度スイッチ	DG	3D-VS-291A,B	燃料取扱事故時排気ライン隔壁ダンバ	③
3A-3B中央制御室外気取入潤滑油流量設定					DG	R43-TS112B	潤滑油ブライミングポンプ入口温度スイッチ	DG	3VSU7A,B	アニラス空気浄化フィルタユニット	①
3A-3B中央制御室温湿度計 (5)					FCS	T49-A001A	FCS再結合器 (A)	FCS	—	換気空調設備	①
3A-3B中央制御室温湿度計 (6)					FCS	T49-A001B	FCS再結合器 (B)	FCS	—	換気空調設備	①
3A-3B中央制御室温湿度計 (7)					FCS	T49-B001A	FCS冷却器 (A)	FCS	3V-VS-055	格納容器給気ライン格納容器外側隔壁弁	③
3A-3B中央制御室温湿度計 (8)					FCS	T49-B001B	FCS冷却器 (B)	FCS	3V-VS-056	格納容器給気ライン格納容器内側隔壁弁	②
3A-3B中央制御室温湿度計 (9)					FCS	T49-D001A	FCS気水分離器 (A)	FCS	3V-VS-061	格納容器排気ライン格納容器内側隔壁弁	②
3A-3B中央制御室温湿度計 (10)					FCS	T49-D001B	FCS気水分離器 (B)	FCS	3V-VS-062	格納容器排気ライン格納容器外側隔壁弁	③
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FCS	T49-TE001A	FCS (A) 入口ガス温度検出器	FCS	3VSA18A,B	安全補機室給気第1隔壁ダンバ	①
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FCS	T49-TE001B	FCS (B) 入口ガス温度検出器	FCS	3D-VS-301A,B	安全補機室給気第2隔壁ダンバ	③
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FCS	T49-TE009A-1	FCS再結合器 (A) 内ガス湿度検出器	FCS	3D-VS-302A,B	安全補機室給気第2隔壁ダンバ	③
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FCS	T49-TE009A-2	FCS再結合器 (A) 内ガス湿度検出器	FCS	3D-VS-303A,B	安全補機室給気第1隔壁ダンバ	②
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FCS	T49-TE009B-1	FCS再結合器 (B) 内ガス湿度検出器	FCS	3VSU7A,B	換気空調設備	①
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FCS	T49-TE009B-2	FCS再結合器 (B) 内ガス湿度検出器	FCS	3D-VS-304A,B	安全補機室排気第2隔壁ダンバ	③
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FW	B21-F052A	FDW第二隔壁弁 (A)	FW	3D-VS-303A,B	安全補機室排気第1隔壁ダンバ	②
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FW	B21-F052B	FDW第二隔壁弁 (B)	FW	3D-VS-304A,B	安全補機室排氣第2隔壁ダンバ	③
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	F31	換湯熱交換器ブール	FPC	3D-VS-402A,B,C,D	ディーゼル発電機室排気ダクト	③
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-A001A	スキマサージタンク	FPC	3VSG2A,B	原子炉建屋給気ガラリ	①
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-A001B	スキマサージタンク	FPC	3VSU7A,B	換気空調設備	①
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-A001A	燃料ブール冷却净化蒸然交換器 (A)	FPC	3VSU6A,B	換気空調設備	①
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-A001B	燃料ブール冷却净化蒸然交換器 (B)	FPC	—	—	—
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-D006A	ブルーナル水除菌リサイクル	FPC	—	—	—
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-D006B	ブルーナル水除菌リサイクル	FPC	—	—	—
3A-3B安全補機開閉閥室温度					FPC	G41-F013	FPCろ過装置出口弁	FPC	—	—	—
3A-3B安全補機開閉閥室温度					※1 評価対象外とした理由			※1 評価対象外とした理由			【女川】
3A-3B安全補機開閉閥室温度					①溢水により機能を喪失しない			①溢水により機能を喪失しない			記載表現の相違
3A-3B安全補機開閉閥室温度					②PVC内耐酸性仕様の設備			②原子炉建屋給気室内耐酸性仕様の設備			記載実績の反映
3A-3B安全補機開閉閥室温度					③動作機能の喪失により安全機能に影響しない			③動作機能の喪失により安全機能に影響しない			設計方針の相違
3A-3B安全補機開閉閥室温度					④他の設備で代替できる			④他の設備で代替できる			プラント設計の違いによる相違
3A-3B安全補機開閉閥室温度					3A-3B安全補機開閉閥室温度			3A-3B安全補機開閉閥室温度			【女川】
3A-3B安全補機開閉閥室温度					3A-3B安全補機開閉閥室温度			3A-3B安全補機開閉閥室温度			記載表現の相違
3A-3B安全補機開閉閥室温度					3A-3B安全補機開閉閥室温度			3A-3B安全補機開閉閥室温度			設計方針の相違
3A-3B安全補機開閉閥室温度					3A-3B安全補機開閉閥室温度			3A-3B安全補機開閉閥室温度			プラント設計の違いによる相違

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (8/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (8/24)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (8/9)				【大飯】
系統	設備	番号	溢水影響評価対象	機器番号	設備	理由①	機器番号	機器名称	理由①	機器番号	機器名称	理由①
換気空調系	3A_3Bアニユラス送風機	3D-YS-104A, B	○		FPC-G41-LS016	燃料貯蔵プール水位スイッチ		3VSMAA, B	中央制御室給気ユニット		①	記載表現の相違
	3A_3Bアニユラス全量排気弁	3V-YS-102A, B	○		FPC-G41-P1006	FPCボンブ出口圧力指示計		3D-VS-601A, B	中央制御室外気取込ダンバ		②	女川審査実績の反映
	3A_3Bアニユラス少量排気弁	3V-YS-103A, B	○		FPC-G41-TD001	FPCボンブ入口温度検出器		3H-VS-611, 612	中央制御室排気第1（2）隔離ダンバ		③	設計方針の相違
	3A_3Bアニユラス圧力制御弁	3PFT-2522, 2542	×	①	FPC-G41-TD014B	FPC熱交換器（A）出口温度検出器		3HCD-2838, 2839	中央制御室排気流量調節ダンバ		④	プラント設計の違いによる相違
	3A_3B供給容器排気ファン出口ダンバ	3D-YS-060A, B	×	①	FPC-G41-TD014B	FPC熱交換器（B）出口温度検出器		3VSU8	中央制御室非常用循環フィルタユニット		⑤	【女川】
	3格納容器排気止めダンバ	3D-YS-061	×	①	FPMW-F15-P1001	FPMUWボンブ入口圧力		3D-VS-053	格納容器給気密ダンバ		⑥	記載表現の相違
	3補助建屋排気止めダンバ	3HD-2500	×	①	FPMW-F15-P1004	FPMUWボンブ出口圧力		3H-VS-064	格納容器排気密ダンバ		⑦	設計方針の相違
	3補助建屋排気止めダンバ	3D-YS-351	×	①	FPMW-F15-P1004	FPMUWボンブ出口圧力		3D-VS-065A, B	格納容器排気ファン出口ダンバ		⑧	プラント設計の違いによる相違
	3放射能管理室排気流量调节ダンバ	3HCP-2976	×	①	HICK-P25-A002A	換気空調機非常用冷却水系タージャンク（A）		3D-VS-232	補助建屋排気隔離ダンバ		⑨	【女川】
	3放射能管理室排気止めダンバ	3AD-YS-455	×	①	HICK-P25-A002B	換気空調機非常用冷却水系タージャンク（B）		3PCD-2526	補助建屋排気風量制御ダンバ		⑩	記載表現の相違
	3A_3B安全前棲室排気ダンバ	3D-YS-105A, B	○		HICK-P25-F007A	中央制御室給気冷却コイル（A）温度調節弁						設計方針の相違
	3A_3B安全前棲室給気第1, 2隔離ダンバ	3D-YS-301, 302	×	①	HICK-P25-F007B	中央制御室給気冷却コイル（B）温度調節弁						プラント設計の違いによる相違
	3A_3B安全前棲室排気第1, 2隔離ダンバ	3D-YS-303, 304	×	①	HICK-P25-F018A	計測制御装置（A）給気冷却コイル温度調節弁						【女川】
	3A_3Bアニユラス排気第1, 2隔離ダンバ	3D-YS-052, 053	×	①	HICK-P25-F018B	計測制御装置（B）給気冷却コイル温度調節弁						記載表現の相違
	3A_3Bアニユラス排気第2隔離弁	3D-YS-058, 059	×	①	HICK-P25-F021A	原子炉構機（A）遮蔽気冷却コイル温度調節弁						設計方針の相違
	3格納容器排気第2隔離弁	3V-YS-054	×	①	HICK-P25-F024B	原子炉構機（B）遮蔽気冷却コイル温度調節弁						プラント設計の違いによる相違
	3格納容器排気第3隔離弁	3V-YS-055	×	②	HICK-P25-LS011A	HECWサージタンク（A）水位スイッチ						【女川】
	3格納容器排気第3隔離弁	3V-YS-056	×	②	HICK-P25-LS011B	HECWサージタンク（B）水位スイッチ						記載表現の相違
	3格納容器排気第3隔離弁	3V-YS-057	×	①	HICK-P25-P1001A	HECW冷水ポンプ（A）出力圧力						設計方針の相違
	3A_3B安全前棲室冷却ファン現場操作箱	3LB-82, 83	○		HICK-P25-P1001B	HECW冷水ポンプ（B）出力圧力						【女川】
	3A_3B安全前棲室冷却ファン現場操作箱	3LB-84, 85	○		HICK-P25-P1001C	HECW冷水ポンプ（C）出力圧力						記載表現の相違
	3A_3B安全前棲室冷却水ポンプ現場操作箱	3LB-86, 87	○		HICK-P25-P1001D	HECW冷水ポンプ（D）出力圧力						設計方針の相違
	3A_3B安全前棲室冷却水ポンプ現場操作箱	3LB-90, 91	○		HICK-P25-P1007A	HECW冷水ポンプ（A）入力圧力						【女川】
	3A_3B中央制御室冷却ファン現場操作箱	3LB-95, 96	○		HICK-P25-P1007B	HECW冷水ポンプ（B）入力圧力						記載表現の相違
	3A_3B中央制御室空調ファン現場操作箱	3LB-101, 102	○		HICK-P25-P1007C	HECW冷水ポンプ（C）入力圧力						設計方針の相違
	3A_3B中央制御室空調ファン現場操作箱	3LB-13, 14, 20, 21	○		HICK-P25-P1007D	HECW冷水ポンプ（D）入力圧力						【女川】
	3A_3B中央制御室空調ファン現場操作箱	3LB-77, 78	○									記載表現の相違
	3A_3Bアニユラス空気圧縮室給氣ファン現場操作箱	3LB-82, 83	○									設計方針の相違
	3A_3B中央制御室非常用給氣ファン現場操作箱	3LB-97, 98	○									【女川】
	3A_3B空調用冷水膨張タンク		×	①								記載表現の相違
	3A_3B, 3C_3D空調用冷水ポンプ		○									設計方針の相違
	3A_3C_3D空調用冷水ポンプ		○									【女川】
	3A_3B安全前棲室空調室空調ユニット冷却制御弁	3HCV-2800, 2801	○									記載表現の相違
	3A_3B中央制御室空調室空調ユニット冷水蓄圧装置	3TCY-2878, 2879	○									設計方針の相違
※1 対象外とした理由 ①從水により機能を喪失しない ②PCV内耐震吸収仕様の設備 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④他の設備で代替できる												

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (9/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (9/24)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (9/9)				【大飯】
系統	設 備	番 号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方	機器番号	設 備	理由 <sup>①</sup>	機器番号	機器名称	理由 <sup>②</sup>		記載表現の相違
冷水系	3冷却用冷水Nヘッダ供給、更りライン止め 3導管構造物除湿室冷却ユニット冷水入口、 出日除湿室除湿装置	3Y-CH-022, 023	○	—	HNCW	HNCW供給ファン第二隔離弁	④	3NE41A, B, 3NE42A, B, 3NE43A, B, 3NE44A, B	出力隔離検出器	②		女川審査実績の反映
	3A, 3B, 3C, 3D空調用冷水ポンプの現場操作箱 3L-B-103, 104, 105, 106	3Y-CH-453, 467	×	①	HPCW	HNCW更りライン第一隔離弁	②					設計方針の相違
格納容器液正系統及び水素制御設備系	3A, 3B格納容器減圧装置排水ライン格納容器 3L-B-001A, B	3Y-DF-002A, B	×	②	HPCS	HPC S心スプレイ系ストーナー	①					プラント設計の違いによる相違
	3A, 3B格納容器減圧装置排水ライン格納容器 3L-B-002A, B	3Y-DF-002A, B	×	①	HPCS	HPC Sノズル差圧伝送器	③					【女川】
	3A, 3B格納容器水素ハーベン給気ライン隔納容器 3L-B-003A, B	3Y-HK-304A, B	×	①	HPCS	HPC S/S-C側試験用測定弁	③					記載表現の相違
	3A, 3B格納容器水素ハーベン給気ライン隔納容器 3L-B-004A, B	3Y-HK-305A, B	×	①	HPCS	HPC S注入ファン試験可能逆止弁均圧管	②					設計方針の相違
	3A, 3B格納容器サンドボルタリ出しライン格納容器 3L-B-001	3Y-HK-001	×	②	HPCS	HPC Sポンプ出口流量変換器	③					プラント設計の違いによる相違
放射性監視設備 空気サンプリング系	3A, 3B格納容器サンドボルタリ出しライン格納容器 3L-B-002	3Y-HK-002	×	①	HPCS	HPC Sポンプ入口圧力	③					
	3A, 3B格納容器サンドボルタリ出しライン格納容器 3L-B-013	3Y-HK-013	×	①	HPCS	HPC Sポンプ出口圧力	③					
	3主壁 (原子炉隔壁)	3WB8	○	—	HPCS	HPC Sポンプ入口圧力	③					
	3原子炉隔壁	3WB8	○	—	HPCS	HPC Sポンプ入口圧力伝送器	③					
	3原子炉安全保護計装置 I, II, III, IV	3WR-FR-1, II, III, IV	○	—	HPCSDG	R44-A001	清水膨張タンク	①				
	3A, 3B, 3C, 3D原子炉安全保護ロジック盤	3WP-L-A, B, C, D	○	—	HPCSDG	R44-A102	潤滑油補給タンク	①				
	3安全保護シーケンス盤A1, A2, B1, B2	3SPS-A1, A2, B1, B2	○	—	HPCSDG	R44-A200	軸油タンク (G)	①				
	3A1, 3A2, 3A3, 3A4, 3B1, 3B2, 3B3, 3B4フレイ ド分電盤	3SD-A1, A2, A3, A4 B1, B2, B3, B4	○	—	HPCSDG	R44-A201	燃料ディタンク	①				
	3原子炉リップ連断器具	3RTS	○	—	HPCSDG	R44-A300	空気だめ (自動)	①				
	3A, 3Bドロッパ盤	3BCP-A-DIP, 3BCP-B-DIP	○	—	HPCSDG	R44-B001	清水冷却器	①				
電気盤	3A, 3B直汲き電盤	3DMP-A, B	○	—	HPCSDG	R44-B002	機関付空気冷却器	①				
	3A, 3B直汲き電盤	3DOP-A, B	○	—	HPCSDG	R44-B100	潤滑油冷却器	①				
	3A, 3B蓄電池	3DOP-A, B	○	—	HPCSDG	R44-B102	発電機軸受潤滑油冷却器	①				
	3A, 3B充電器盤	3BCP-A, B	○	—	HPCSDG	R44-B106	潤滑油フィルタ	①				
	3A1, 3A2, 3B1, 3B2メタルクラッドスイッチ 盤	3WC-A1, A2, B1, B2	○	—	HPCSDG	R44-B200	燃料移送ポンプストーナー	①				
	3A1, 3A2, 3B1, 3B2パワーセンタ	3PC-A1, A2, B1, B2	○	—	HPCSDG	R44-B201	HPC S/D/G燃料移送ポンプ出口フィルタ	①				
	3A1, 3A2, 3B1, 3B2電子炉コントロールセン タ	3HCC-A1, A2, B1, B2	○	—	HPCSDG	R44-B202	燃料油フィルター	①				
	3A, 3B, 3C, 3D計用潤滑盤(1)～(3)	3IDC-A, B, C, D	○	—	HPCSDG	R44-B206-1	燃料油フィルター	①				
	3A1, 3A2, 3B1, 3B2, 3C1, 3C2, 3D2計装用 潤滑盤	3IDF-A1, A2, B1, B2 C1, C2, D1, D2	○	—	HPCSDG	R44-B206-2	燃料油フィルター	①				
	3A, 3B, 3C, 3D計用潤滑盤切替盤	3LSP-A, B, C, D	○	—	HPCSDG	R44-B300	始動用空気Y型ストーナー	①				
計器	3所内盤	20SB	○	—	HPCSDG	R44-B301	始動用空気Y型ストーナー	①				
	3B計装用後備分電盤	3IDB-A, B	○	—	HPCSDG	R44-dPS112	機関付潤滑油フィルタ差圧	③				
	3事務所放射線監視盤	3PM55-III, IV	○	—								
計41, 42, 43, 44				×	②	※1 対象外とした理由 ①溢水により機能を喪失しない ②POV内蔵潤滑仕様の設備 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④他の設備で代替できる						

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉		相違理由
大飯3号炉防護対象設備のスクリーンアウト (10/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (10/24)						
系統	設 置	番 号	溢水影響 評価対象	スクリーンアウト の考え方	系統	機器番号	設 備	理 由 <sup>#1</sup>		
計器	3中性子貯蔵中性子束	JN-31,32	×	②	IPCS06	H44-DPS210	燃料油リターン用スイッチ	③		
	3船積容器高レジンエリヤキニタ(乾燥 ジン・(塗)レジン)	SHE-91A, 91B, 92A, 92B	×	②	IPCS06	H44-G200	フレキシブルチューブ	①		
未常用電源系	3A, 3Bディーゼル機関		○	—	IPCS06	H44-L1S050	清水槽タンク水位指示計(接点付)	③		
	3A, 3Bディーゼル発電機		○	—	IPCS06	H44-L2S257	シリンダー溢水スイッチ	③		
	3A, 3Bディーゼル発電機コントロールセン タ	26CC-A, B	○	—	IPCS06	H44-P1052	機関付排水ポンプ出口圧力	③		
	3A, 3Bディーゼル発電機制御盤	26CC-A, B	○	—	IPCS06	H44-P1102	機関付潤滑油ボア出口圧力指示計	③		
スクリーンアウトの考え方				IPCS06	H44-P1202	燃料油ストレーナ前圧力指示計	③			
①: プラント停止操作時に動作要件のない機動弁及び動作機能喪失により 運転不能となる場合があるが、溢水影響評価では安全弁は動作喪失しても 安全機能に影響しない(動作要件のない原子炉格納容器外設置の格納容 器内離弁を含む)。				IPCS06	H44-P1203	燃料移送ポンプ出口圧力指示計	③			
②: 原子炉格納容器内の防護対象設備は溢度、圧力条件及び溢水影響を考 慮した耐震強化仕様であるため機能喪失しない。又は、溢水事象が発生 する場合に「ランギー停止操作において必ずしも必要でないもの」 ③: タンク、熱交、逆止弁、手動弁等の静止機器は溢水により機能喪失し ない。 ④: 他の設備で代替できる。				IPCS06	H44-P1211	機関入口燃料油圧力指示計	③			
<溢水影響評価対象機器の注記>				IPCS06	H44-P1256	機関入口吸気圧力指示計	③			
#1: 他の機器は溢水により機能喪失しないが、プラント停止の対応設備 上明確にするために防護対象設備リストに追加した。一方、機能喪 失高さは「—」として溢水影響影響評価の対象外とした。				IPCS06	H44-P1S108	潤滑油ブライミングポンプ出口圧力指示計(接点付)	③			
				IPCS06	H44-P1S113	機関入口潤滑油圧力	③			
				IPCS06	H44-P1S253	空気だめ圧力(自動)指示計(接点付)	③			
				IPCS06	H44-PsS260	燃料ハンドル位置異常スイッチ	③			
				IPCS06	H44-PsS262	ターニングハンドル位置異常スイッチ	③			
				IPCS06	H44-PsS250	空気だめ圧力(自動)スイッチ	③			
				IPCS06	H44-PsS251	空気だめ圧力(自動)スイッチ	③			
				IPCS06	H44-TE301B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (U相) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE302B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (V相) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE303B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (W相) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE304B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (U相子線) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE305B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (V相子線) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE306B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (W相子線) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE307B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (U相子線) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE308B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (V相子線) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE309B	H P C S D／G 固定子巻線温度 (W相子線) 検出器	③			
				IPCS06	H44-TE341B	H P C S D／G 反応堆側熱交換器底検出器	③			
※1 評価対象外とした理由 ①: 溢水により機能を喪失しない ②: H P C S D 内部構造仕様の設備 ③: 動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④: 他の設備で代替できる										

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉		相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (1/10)					表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (11/24)					
系統	設備	番号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方	系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>		
1次冷却材系	1原子炉容器		×	⑤		R44-TE3428	H P C S D / G 直結制熱受温度検出器	③	【大飯】	記載表現の相違
	4A, 4B, 4C, 4D蒸気発生器		×	②		R44-TT051	機関入口ディーゼル冷却水温度指示計	③		女川審査実績の反映
	4B, 4D, 4C, 4D-1次冷却材ポンプ		×	①		R44-TT103	機関出口ディーゼル冷却水温度指示計	③		設計方針の相違
	4B冷却器		×	③		R44-TS064	機関出口ディーゼル冷却水温度指示計 (縦点付)	④		プラント設計の違いによる相違
	4A, 4B, 4C加圧安全弁	4V-BC-0505, 0506, 057	×	③		R44-TS111	機関西海水温度	③		【女川】
	4A, 4B加圧蒸発がし弁	4PCV-4524, B	×	②		R44-TS13430	H P C S D / G 反応堆側熱受温度指示計 (縦点付)	③		記載表現の相違
	4A, 4B加圧蒸発がし弁前弁	4V-BC-0544, B	×	①		R44-TS344H	H P C S D / G 直結制熱受温度指示計 (横点付)	③		設計方針の相違
	4B加圧蒸発がしタンクガス分配ライン路網 音報第1周回路	4V-BC-077	×	②		R44-TS107	西海水/プライミングポンプ入口温度スイッチ	④		プラント設計の違いによる相違
	4B加圧蒸発がしタンクガス分配ライン路網 音報第2周回路	4V-BC-078	×	①		P47-A001	真圧軸心スプレイ補機冷却水サージタンク	①		
	4B加圧蒸発がしタンク監視取扱ライン路網 音報第3周回路	4V-BC-084	×	①		P47-B001	真圧軸心スプレイ補機冷却水蓄熱交換器	①		
	4B加圧蒸発がしタンク監視供給ライン路網 音報第4周回路	4V-BC-095	×	①		P47-L1007	H P C W サージタンク水位	③		
	4B, 4B加圧スプレイ弁	4PCV-4513, B	×	①		P47-P001	H P C W ポンプ出口圧力	③		
	4-1次冷却材圧力	4PT-420, 430	×	②		P47-P1005	H P C W ポンプ入口圧力	③		
	4B冷却器水位	4LT-481, 482, 483, 484	×	②		P47-P7004	H P C W 停却水供給圧力伝送器	③		
	4B, B, C, Dループ1次冷却材高圧側・低圧側 流量(立地城)	41B-410, 415, 420, 425 430, 435, 440, 445	×	②		P47-T2003	H P C W 停却水供給温度検出器	③		
	4B, B, C, Dループ1次冷却材高圧側・低圧側 流量(東城)	411A, 411B, 411C, 411D, 421A, 421B, 421C, 421D, 431A, 431B, 431C, 431D, 441A, 441B, 441C, 441D	×	②		P48-D001A	高圧軸心スプレイ補機冷却水系ストレーナ (A)	①		
	4B冷却器圧力	4PT-481, 482, 483, 484	×	②		P48-D001B	高圧軸心スプレイ補機冷却水系ストレーナ (B)	①		
	4PT-	412, 413, 414, 415	×	②		P48-dP1002	H P S W ポンプ差圧指針計	③		
	4B, B, C, Dループ1次冷却材質量	422, 423, 424, 425 432, 433, 434, 435 442, 443, 444, 445	×	②		P48-dP1003	H P S W 热交換器管側圧差指針計	③		
	1D冷却材ポンプ回路数	4SE-418A, 428A 438B, 448A	×	②		P48-dP1001	H P S W ポンプ出口圧力	③		
化学生機械系	4A, 4B, 4C用ポンプ	○	—			P48-dP1001	H P S W ポンプ出口压力伝送器	③		
	4A, 4B, 4C充てんポンプ	○	—			P48-dP1001	H P S W ポンプ出口圧力	③		
	4B換熱器タンク	× <sup>④</sup>	③			P48-dP1001	H P S W ポンプ出口压力伝送器	③		
	4B再生熱交換器	×	②			—	排氣筒	①		
	4B, 4C, 4D用う酸タンク	× <sup>④</sup>	③			IVAC-V10-D201A	C A M S (A) 常非常用排気隔離ダンバ	③		
	4B, 4C, 4D用う酸フィルタ	× <sup>④</sup>	③			IVAC-V10-D201B	C A M S (B) 常非常用排気隔離ダンバ	③		
	4B, 4C, 4D用う酸ストレーナ	× <sup>④</sup>	③			IVAC-V10-D202A	C A M S (A) 常非常用排気隔離ダンバ	③		
	4B換熱器タンク出口第1止め弁	4LCY-121B	○	—		IVAC-V10-D202B	C A M S (B) 常非常用排気隔離ダンバ	③		
	4B換熱器タンク出口第2止め弁	4LCY-121C	○	—		IVAC-V10-D203	D C -M C C 2 A 常非常用排気隔離ダンバ	③		
4緊急ほう差圧注入装置補助弁					※1 設備対象外とした理由 ①海水により機能を喪失しない ②P47内新規変更仕様の設備 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④他の設備で代替できる					

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉					泊発電所3号炉					相違理由	
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (2/10)					表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (12/24)										【大飯】	
系統	設 備	番 号	溢水影響 評価結果	スクリーンアウト の考え方	系統	機器番号	設 備	理由 <sup>※1</sup>								記載表現の相違
化学供給制御系	4光てんボンブ入口燃料格納用木ビット側 溝溢水弁B	4CV-121D,E	○	—	BYAC	V10-B204	D C -M C C 2 A 室排水用排気隔壁ダンバ	③								女川審査実績の反映
	4光てんライン格納容器溝溢弁	4V-CS-152	○	—	BYAC	V10-F002A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ	①								設計方針の相違
	4光てんライン止め弁	4V-CS-155	○	—	BYAC	V10-F001A	原子炉換熱器漏泄弁 (A)	③								プラント設計の違いによる相違
	4光てんライン流量制御弁	4FCV-138	×	①	BYAC	V10-F001B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ	①								【女川】
	4光冷却打ポンプ水注入ライン流量制 御弁	4FCV-140	×	①	BYAC	V10-F001B	原子炉換熱器漏泄弁 (B)	③								記載表現の相違
	4抽出ライン第1止め弁	4FCV-451	×	②	BYAC	V10-F002A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ	①								設計方針の相違
	4抽出ライン第2止め弁	4FCV-452	×	②	BYAC	V10-F002A	原子炉換熱器漏泄弁 (A)	③								プラント設計の違いによる相違
	4A, 4B, 4C抽出タリフィス出口格納容器 溝溢弁	4V-CS-004A,B,C	×	②	BYAC	V10-F002B	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ	①								【大飯】
	4B反応堆助スプレイ弁	4V-CS-109	×	②	BYAC	V10-F002B	原子炉換熱器漏泄弁 (B)	③								記載表現の相違
	4余剰抽出ライン第1止め弁	4V-CS-301	×	②	BYAC	V10-F522A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ (電磁弁)	③								設計方針の相違
	4余剰抽出ライン第2止め弁	4V-CS-302	×	②	BYAC	V10-F522B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ (電磁弁)	③								プラント設計の違いによる相違
	4抽出ライン 格納容器第2隙間弁	4V-CS-007	×	①	BYAC	V10-F530A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ (電磁弁)	③								記載表現の相違
	4光てんライン流量制御弁止め弁	4V-CS-101	×	①	BYAC	V10-F530B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ (電磁弁)	③								設計方針の相違
	4Bターブルランライン止め弁	4V-CS-163	×	①	BYAC	V10-P1S01A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ圧力	③								【女川】
	4光冷却打ポンプ水注入ライン流量制 御弁止め弁	4V-CS-177	×	①	BYAC	V10-P1S01B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ圧力	③								記載表現の相違
	4A, 4B, 4C, 4D光冷却打ポンプ水注入 ライン流量制御弁止め弁	4V-CS-190A,B,C,D	×	①	BYAC	V10-P1S01A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ圧力	③								設計方針の相違
	4-1光冷却打ポンプ水切りライン格納容 器第1隙間弁	4V-CS-310	×	②	BYAC	V10-P1S01B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ圧力	③								プラント設計の違いによる相違
	4-1光冷却打ポンプ水切りライン格納容 器第2隙間弁	4V-CS-312	○	—	BYAC	V10-P1S01A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ圧力	③								【大飯】
	4A, 4B, 4C, 4D光冷却打ポンプ水注入 ライン流量制御弁止め弁	4V-CS-208A,B,C,D	×	②	BYAC	V10-P1S01B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ圧力	③								記載表現の相違
	4A, 4B, 4C光冷却打ポンプ水位計	4LT-206,208	○	—	BYAC	V10-P1S01A	原子炉換熱器漏泄弁 (A) 用アキュムレータ圧力	③								設計方針の相違
	4C光てんポンプ速度制御調整	4CS-C	○	—	BYAC	V10-P1S01B	原子炉換熱器漏泄弁 (B) 用アキュムレータ圧力	③								記載表現の相違
	4C光てんポンプ速度制御補助整	4CS-HC	○	—	BYAC	V11-B001	原子炉換機 (A) 室温気冷却コイル	①								設計方針の相違
	4A, 4B, 4C, 4D光てんポンプ現地操作箱	4LP-5,6,7,8	○	—	BYAC	V11-B002	原子炉換機 (A) 室温気冷却コイル	①								【女川】
	4A, 4B3号機ポンプ現場操作箱	4LP-9,10	○	—	BYAC	V11-B001	原子炉換機 (A) 室温気冷却コイル	①								記載表現の相違
	4A, 4B4号機注入ポンプ		○	—	BYAC	V11-B002	D/G (A) 室温気冷却コイル	①								設計方針の相違
	4A, 4B, 4C, 4D蓄圧タンク		×	②	BYAC	V11-dP1001	原子炉換機 (A) 室温気冷却コイルエアフィルタ	③								記載表現の相違
	4A, 4B蓄圧注入ポンプミニマムフローバ ンク止弁	4V-SI-015A,B	○	—	BYAC	V11-dP1003	D/G (A) 室温気冷却エアフィルタ差圧指示計	③								設計方針の相違
	4A, 4B蓄圧注入ポンプミニマムフローバ ンク止弁	4V-SI-016A,B	○	—	BYAC	V11-X001	原子炉換機 (A) 室温気冷却	①								【大飯】
	4A, 4B蓄圧注入ポンプ格納容器再循環サン プ注入口蓋の開閉装置	4V-SI-090A,B	○	—	BYAC	V11-X002	原子炉換機 (A) 室温気冷却	①								記載表現の相違
	4A, 4B蓄圧注入ポンプ燃料取替用木ビット 注入口蓋	4V-SI-002A,B	○	—	BYAC	V11-X003	D/G (A) 室温気冷却	①								設計方針の相違
	4A, 4B蓄圧注入ポンプKWSヒット及び再 循環サンプ注入口蓋	4V-SI-090A,B	○	—	BYAC	V11-X004	D/G (A) 室温気冷却	①								記載表現の相違
	4A, 4B蓄圧注入ポンプ格納容器隔離弁	4V-SI-062A,B	×	①												
	4A, 4B蓄圧注入ポンプ出口遮断弁	4V-SI-063A,B	×	②												
	4A, 4B蓄圧注入ポンプ高濃度注入ライン止 弁	4V-SI-067A,B	×	②												
※ 1 評議対象とした理由 ①対外により機能を喪失しない ②PCVの断面寸法の誤植 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④他の設備で代替できる																

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (3/10)					表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (13/24)				
系統	設備	番号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方	理由 <sup>a)</sup>	系統	機器番号	設備	理由 <sup>a)</sup>
安全注入系	4b, 4c, 4d) 喰却タンク出口弁	4F-51-132A, B, C, D	×	②		IVVAC	V12-4001	原子炉補機 (B) 室給気冷却コイル	①
	4格セクション内噴霧サブ水位(液面)・(圧)測定弁	4LT-976, 971 972, 973	×	②		IVVAC	V12-4002	原子炉補機 (B) 室給気加熱コイル	①
	4b, 4d) 沈圧注入ポンプ操作箱	4LH-12, 13	○	—		IVVAC	V12-4001	原子炉補機 (B) 室給気バッゲエアフィルタ	①
	燃料操作用エビット水位 I, II, III, IV	4LT-1400, 1401 1402, 1403	○	—		IVVAC	V12-4002	D/G (B) 室給気バッゲエアフィルタ	①
	4b) 高圧注入流量(t), 4b) 高圧注入流量(日)	4FT-062, 963	○	—		IVVAC	V12-4P1001	原子炉補機 (B) 室給気バッゲエアフィルタ差圧指示計	④
余熱除去系	4b) 余熱除去ポンプ		○	—		IVVAC	V12-4P1003	D/G (B) 室給気バッゲエアフィルタ差圧指示計	④
	4b) 余熱除去ポンプ差圧計		×	④		IVVAC	V12-2001	原子炉補機 (B) 室給気ルーバ	①
	4b) 余熱除去ポンプミニマムフローライフ止弁	4PCY-601, 611	○	—		IVVAC	V12-2002	原子炉補機 (B) 室給気ルーバ	①
	4b) 余熱除去ポンプ差圧計流量設定弁	4PCY-603, 612	×	①		IVVAC	V12-3003	D/G (B) 室給気ルーバ	①
	4b) 余熱除去ポンプ差圧計流量調整弁	4PCY-604, 614	×	①		IVVAC	V12-3004A	D/G (B) 室給気ルーバ (A)	①
	4b) 余熱除去ポンプ入口格納槽側漏弁	4PCV-420, 430	×	②		IVVAC	V12-3004B	D/G (B) 室給気ルーバ (B)	①
	4b) 余熱除去ポンプ入口格納槽側漏弁	4F-RH-002A, B	×	②		IVVAC	V13-3001A	原子炉補機 (HPCS) 室給気加熱コイル (A)	①
	4b) 余熱除去ポンプ出口格納槽側漏弁	4F-RH-043A, B	×	①		IVVAC	V13-3001B	原子炉補機 (HPCS) 室給気加熱コイル (B)	①
	4b) 余熱除去ポンプ出口遮断弁	4F-RH-047A, B	×	②		IVVAC	V13-3001	原子炉補機 (HPCS) 室給気バッゲエアフィルタ	①
	4b, 4c) ループ高圧側圧力注入ライン止弁	4F-RH-048A, B	×	②		IVVAC	V13-3002	D/G (HPCS) 室給気バッゲエアフィルタ	①
協調容器システム	4b) 余熱除去ポンプ出口流量	4FT-401, 611	○	—		IVVAC	V13-4P1001	原子炉補機 (HPCS) 室給気バッゲエアフィルタ差圧	④
	4b) 余熱除去ポンプ現場操作箱	4LB-14, 15	○	—		IVVAC	V13-4P1003	D/G (B) 室給気バッゲエアフィルタ差圧指示計	④
	4b) 協調容器スプレイボンブ		○	—		IVVAC	V13-3001	原子炉補機 (HPCS) 室給気ルーバ	①
	4b) 協調容器スプレイ冷却器		×	④		IVVAC	V13-3002	原子炉補機 (HPCS) 室給気ルーバ	①
	4b) うず除去装置タンク		×	④		IVVAC	V13-3003	D/G (HPCS) 室給気ルーバ	①
	4b) 脱離装置タンク		×	④		IVVAC	V13-3004	D/G (HPCS) 室給気ルーバ	①
	4b) うず除去装置注入ライン第1止め弁	4F-CP-004A, B	○	—		IVVAC	V30-4001A	中央制御室給気冷却コイル (A)	①
	4b) うず除去装置注入ライン第2止め弁	4F-CP-006A, B	○	—		IVVAC	V30-4001B	中央制御室給気冷却コイル (B)	①
	4b) 協調容器スプレイボンブ燃料抜管用弁	4F-CP-001A, B	○	—		IVVAC	V30-4001	中央制御室給気冷却コイル (C)	①
	4b) 協調容器スプレイボンブ高圧側タンク注入口制御弁	4F-CB-093A, B	○	—		IVVAC	V30-4001D	中央制御室給気冷却コイル (D)	①
主蓄気及び主給水系、補助給水系	4b) 協調容器スプレイボンブ高圧側タンク注入口制御弁	4F-CB-024A, B	○	—		IVVAC	V30-4001E	中央制御室給気冷却コイル (E)	①
	4b) 協調容器スプレイボンブ高圧側タンク注入口制御弁	4F-T-956, 951 952, 953	○	—		IVVAC	V30-4001F	中央制御室給気冷却コイル (F)	①
	4b) 協調容器スプレイボンブ現場操作箱	4LB-18, 19	○	—					
	4タービン動噴給水ポンプ		○	—					
	4b) 電動動噴給水ポンプ		○	—					
主蓄気及び主給水系、補助給水系	4復水ポンプ		×	④					
	4タービン動噴給水ポンプ動噴弁	4F-MS-570A, B	○	—					
	4b, 4c, 4d) 動噴給水床面遮断弁	4F-FB-574A, B, C, D	×	④					
	4b, 4c, 4d) 動噴給水床面遮断弁	4F-FB-575A, B, C, D	×	④					
	4b, 4c, 4d) 動噴給水床面遮断弁	4F-FB-576A, B, C, D	×	④					

※1 評価対象外とした理由

- ①溢水上昇機能を喪失しない
- ②DCS内制御装置仕様の設備
- ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない
- ④他の設備に代替できる

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉		相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (4/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (14/24)					
系統	設 備	番 号	深木影響評価対象 スクリーンアウトの考え方	機器番号	設 備	理由 <sup>#1</sup>			
主導気及び 主給水系、 補助給水系	4号水ピット運動補助給水ポンプ制止弁	4V-FP-580	×	V30-B002A	中央制御室給気加熱コイル (A)	①			【大飯】
	4号水ピットセービン運動補助給水ポンプ制止弁	4V-FP-581	×	V30-B002B	中央制御室給気加熱コイル (B)	①			記載表現の相違
	4A, 4B, 4C, 4D主給水開閉弁	4HV-C-3715, 3725 3735, 3745	×	V30-B002C	中央制御室給気加熱コイル (C)	①			女川審査実績の反映
	4号タービン運動補助給水ポンプ駆動蒸気 供給ライン止水弁	4V-MS-575A, B	×	V30-B002D	中央制御室給気加熱コイル (D)	①			設計方針の相違
	4A, 4B, 4C, 4D主給水開閉弁	4V-FP-520A, B, C, D	×	V30-B002E	中央制御室給気加熱コイル (E)	①			プラント設計の違いによる相違
	4号水ピット水位III, IV	4LT-3765, 3761	○	V30-B002F	中央制御室給気加熱コイル (F)	①			【女川】
	4A, 4B, 4C, 4D蒸気発生器補助給水流量 計量	4HP-3716, 3726 3736, 3746	○	V30-B002G	中央制御室給気加熱コイル (G)	①			記載表現の相違
	4A, B, C, D蒸気発生器底床水位	4LT-461, 474 494, 491	×	V30-B002H	中央制御室給気加熱コイル (H)	①			設計方針の相違
	4A, B, C, D蒸気発生器失坂水位	460, 461, 462, 463 470, 471, 472, 473 480, 481, 482, 483 490, 491, 492, 493	×	V30-D0001	中央制御室再循環中性塩エアフィルタ	①			プラント設計の違いによる相違
	4タービン運動補助給水ポンプ駆動管A, B	4TB-A, B	○	V30-D002A	中央制御室再循環高性能エアフィルタ (A)	①			
原子炉建物 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気開閉弁	4V-MS-5233, B, C, D	○	V30-D002B	中央制御室再循環高性能エアフィルタ (B)	①			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気開閉弁バイパス弁	4HCV-3615, 3625 3635, 3645	×	V30-D003	中央制御室再循環チャコールエアフィルタ	①			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気遮断弁	4HCV-3610, 3620 3620, 3640	○	V30-D004A	MCR給気バグフオルタ (A)	①			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気安全弁	4V-MS-5205, B, C, D	×	V30-D004B	MCR給気バグフオルタ (B)	①			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気安全弁	4V-MS-5288, B, C, D	×	V30-D005A	中央制御室加湿器 (A)	②			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気安全弁	4V-MS-5299, B, C, D	×	V30-D005B	中央制御室加湿器 (B)	②			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気安全弁	4V-MS-5300, B, C, D	×	V30-D006C	中央制御室加湿器 (C)	②			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気開閉弁上蓋ドレンイ ン止水弁	4V-MS-5853, B, C, D	×	V30-D005D	中央制御室加湿器 (D)	②			
	4A, 4B, 4C, 4D主蒸気遮断弁上蓋弁	4V-MS-5233, B, C, D	×	V30-HP1001A	中央制御室給気バグフオルタ (A) 連圧指示計	②			
	I, II, III, IV, 4A, 4B, 4C, 4D主蒸気圧力 計	460, 465, 467, 468 475, 476, 477, 478 485, 486, 487, 488 495, 496, 497, 498	○	V30-HP1001B	中央制御室給気バグフオルタ (B) 連圧指示計	②			
原子炉建物 冷却系	4A, 4B, 4C, 4D機子炉補機冷却水ポンプ		○	V30-HP1005	中央制御室再循環中性塩エアフィルタ差圧指示計	②			
	4A機子炉補機冷却水サーボタンク		×	V30-HP1006	中央制御室再循環高性能エアフィルタ (A) 差圧指示計	②			
	4A, 4B機子炉補機冷却水冷却器		×	V30-HP1007	中央制御室再循環チャコールニアフィルタ差圧指示計	②			
	4A, 4B, 4C機子炉補機冷却水供給母管遮断 弁	4V-CC-1788, B	○	V30-HP1008	中央制御室再循環高性能エアフィルタ (B) 差圧指示計	②			
	4A, 4B, 4C機子炉補機冷却水冷却器遮断 弁	4V-CC-0564, B	○	V30-MET003A	中央制御室蒸気濃度 (A) 検出器 (変換器付)	②			
	4A, 4B余熱除去冷却器冷却水止水弁	4V-CC-114A, B	○	V30-MET003B	中央制御室蒸気濃度 (B) 検出器 (変換器付)	②			
	4-1冷却塔給水ポンプ冷却水供給ライン遮 断弁	4V-CC-403	○	V30-X001	MCR給気ルーバ	①			
	4-1冷却塔給水ポンプ冷却水供給ライン遮 断弁	4V-CC-427	×						
	4-1冷却塔給水ポンプ冷却水供給ライン遮 断弁	4V-CC-429	○						

#1 評価対象外とした理由  
 ①溢水により機能を喪失しない  
 ②IC内蔵環境仕様の設置  
 ③他の機能に特にさほど影響しない  
 ④他の設備で代替できる

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由	
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (5/10)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (15/24)					
系統	設 備	番 号	溢水影響 評価対象	スクリーンアウト の考え方	系統	機器番号	設 備	理由 <sup>※1</sup>
原子炉冷却系 冷却系	4-CR用冷却水ポンプ用冷却塔 ポンプ室冷却ファン(引込型)	IV-CC-342	○	—	HVAC	V30-X002	MCR排気ルーバ	①
	4-CR用冷却水ポンプ用冷却塔 ポンプ室冷却ファン(引込型)	IV-CC-346	○	—	HVAC	V31-B001	計測制御電源 (A) 室温気冷却コイル	①
	4-B, 4C格納容器再循環ユニット冷却系 格納容器冷却装置	IV-CC-189A, B	○	—	HVAC	V31-B002	計測制御電源 (A) 室温気加熱コイル	①
	4-B, 4C, 4D格納容器再循環ユニット冷却系 格納容器冷却装置	IV-CC-189A, B, C, D	○	—	HVAC	V31-D001	計測制御電源 (A) 室温気バッゲィフィルタ	①
	4-B, 4C, 4D格納容器再循環ユニット冷却系 格納容器冷却装置	IV-CC-605, 606	○	—	HVAC	V31-DPT001	計測制御電源 (A) 室温気バッゲィエアフィルタ適正指示計	②
	4-B, 4C, 4D格納容器再循環ユニット冷却系 格納容器冷却装置	ILT-1200, 1201	○	—	HVAC	V31-X001	計測制御電源 (A) 室温気ルーバ	①
	4-B, 4C, 4D格納容器再循環ユニット冷却系 格納容器冷却装置	ILB-26, 21, 22, 23	○	—	HVAC	V31-X002	計測制御電源 (A) 室温気ルーバ	①
	4-B, 4C, 4D格納容器再循環ユニット冷却系 格納容器冷却装置	ILB-26, 27, 28, 29	○	—	HVAC	V32-B001	計測制御電源 (B) 室温気冷却コイル	①
	燃科ビット 冷却净化系	4-B用消燃料ビットポンプ	○	—	HVAC	V32-B002	計測制御電源 (B) 室温気加熱コイル	①
	燃科ビット 冷却净化系	4-B用消燃料ビットポンプ	× <sup>※1</sup>	③	HVAC	V32-D001	計測制御電源 (B) 室温気バッゲィフィルタ	①
燃科ビット 冷却净化系	4-B用消燃料ビットポンプ	× <sup>※1</sup>	③	HVAC	V32-DPT001	計測制御電源 (B) 室温気バッゲィエアフィルタ適正指示計	②	
燃科取替用水泵	4-B用消燃料ビットポンプ	○	—	IA/HPTN	PS2-P111	I A 第二隔離弁	④	
燃科取替用水泵	4-B用消燃料ビットポンプ	○	—	IA/HPTN	PS4-P015	H P T N 常用第二隔離弁	④	
蒸気発生器 プロダクション系	4-B用消燃料ポンプ用操作装置	ILB-33, 34	○	—	IA/HPTN	PS4-P008A	H P T N 非常用第二隔離弁 (A)	④
1次系燃料取扱 系	4-B, 4C, 4Dプロダクション格納容器 隔離弁	IV-BD-101A, B, C, D	×	①	IA/HPTN	PS4-P008B	H P T N 非常用第二隔離弁 (B)	④
制御用空気系	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-BD-010A, B, C, D	×	①	LPCS	E21-D001	鉛遮蔽心スプレイ系ストレーナ	①
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-503	×	②	LPCS	E21-F006	L P C S 試験用調整弁	③
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-506	×	②	LPCS	E21-F016	L P C S 注入クランク装置可逆逆止弁	②
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-522	×	②	LPCS	E21-P1001	L P C S ボンブ入口圧力	②
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-507	×	①	LPCS	E21-P1004	L P C S ボンブ出口圧力	②
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-525	×	②	LPCS	E21-PD005	L P C S ボンブ出口圧力	②
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-526	×	①	MS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 T-クエンチャ (A)	①
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-590A, B, C, D	×	②	MS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 T-クエンチャ (B)	①
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-504	×	①	MS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 T-クエンチャ (C)	①
	4-B, 4C, 4D蒸気発生器燃料取扱装置 隔離弁	IV-SS-574	×	①	MS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 T-クエンチャ (D)	①
	4-B用排気装置	41AH1A, B	○	—				
	4-B用空気乾燥器	41AH1A, B	× <sup>※1</sup>	③				

## ※1 対象外とした理由

- ①溢水により機能を喪失しない
- ②PO内制限値仕様の設備
- ③動作性能の喪失により安全機能に影響しない
- ④他の設備で代替できる

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (6/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (16/24)								
系統	設 備	番 号	溢水影響 評価対象	スクリーンアウト の考え方	系統	機器番号	設 備	理由 <sup>※1</sup>	系統	機器番号	設 備	理由 <sup>※1</sup>
制御用空気系	4h. 4P排煙用空気ダム	4HAT1A,B	×	①	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (E)	①	【大飯】	記載表現の相違	女川審査実績の反映	設計方針の相違
	4h. 制御用空気主蒸気逃がし弁等供給ワ ン止装置	4V-1A-505A,B	○	—	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (F)	①				
	4h-C. 4B-C制御用空気母管遮断弁	4V-1A-501A,B	○	—	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (G)	①				
	4h. 排煙用空気格納容器遮断弁	4V-1A-508A,B	○	—	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (H)	①				
	4h. 4B排煙用空気供給装置	4V-1A-510A,B	×	②	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (J)	①				
	4h. 制御用空気供給装置	4PT-1800, 1810	○	—	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (K)	①				
	4h. 4P排煙用空気圧縮機制御盤	HMC-A,B	○	—	BS	B21	主蒸気逃がし安全弁排気管 ノーマンチャ (L)	①				
	4格納塔冷却材ドレンタンクガス分析ワ ン排気装置	4V-KL-078	×	②	BS	B21-A001A	主蒸気逃がし安全弁 (A) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンタンクガス分析ワ ン排気装置前側隔壁	4V-KL-079	×	①	BS	B21-A001B	主蒸気逃がし安全弁 (B) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンタンクベントライ ン格納塔隔壁	4V-KL-083	×	②	BS	B21-A001C	主蒸気逃がし安全弁 (C) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
廃棄物処理系	4格納塔冷却材ドレンタンクベントライ ン格納塔隔壁	4V-KL-084	×	①	BS	B21-A001D	主蒸気逃がし安全弁 (D) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-094	×	①	BS	B21-A001E	主蒸気逃がし安全弁 (E) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-042	×	②	BS	B21-A001F	主蒸気逃がし安全弁 (F) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-043	×	①	BS	B21-A001G	主蒸気逃がし安全弁 (G) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-143	×	②	BS	B21-A001H	主蒸気逃がし安全弁 (H) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-144	×	①	BS	B21-A001I	主蒸気逃がし安全弁 (I) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-145	×	①	BS	B21-A001K	主蒸気逃がし安全弁 (K) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-146	×	①	BS	B21-A001L	主蒸気逃がし安全弁 (L) 逃しき機能用アキュムレーター	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-147	×	①	BS	B21-A002A	主蒸気逃がし安全弁アキュムレーター (A) ADS	①				
	4格納塔冷却材ドレンボンブ出口格納容 器隔壁	4V-KL-148	×	①	BS	B21-A002C	主蒸気逃がし安全弁アキュムレーター (C) ADS	①				
排気空調系	4h. 4P中央排氣室非常用排管ファン	4VSF22A,B	○	—	BS	B21-A002E	主蒸気逃がし安全弁アキュムレーター (E) ADS	①				
	4h. 4P中央排氣室外取入止めダンパー	4P-V5-601A,B	×	①	BS	B21-A002S	主蒸気逃がし安全弁アキュムレーター (H) ADS	①				
	4h. 4P中央排氣室非常用排管ファン入口ダ ンパー	4P-V5-602A,B	○	—	BS	B21-A002Q	主蒸気逃がし安全弁アキュムレーター (J) ADS	①				
	4h. 4P中央排氣室空気流量ダンパー	4P-V5-603A,B	○	—	BS	B21-A002L	主蒸気逃がし安全弁アキュムレーター (L) ADS	①				
	4h. 4P中央排氣室排管ファン入口ダンパー	4P-V5-604A,B	○	—	BS	B21-A003A	主蒸気第一隔離弁 (A) 用アキュムレーター	①				
	4h. 4P中央排氣室外取入式蒸留液ダンパー	4HCD-2874, 2875	○	—	BS	B21-A003B	主蒸気第一隔離弁 (B) 用アキュムレーター	①				
	4h. 4P中央排氣室蒸留液量調節ダンパー	4HCD-2885, 2886	○	—	BS	B21-A003C	主蒸気第一隔離弁 (C) 用アキュムレーター	①				
	4h. 4P中央排氣室大気放出口蒸留液ダンパー	4HCD-2887, 2888	×	①								
	4h. 4P中央排氣室事務所外気取入化粧調節 ダンパー	4HCD-2889, 2890	○	—								
	4h. 4P中央排氣室事務所内蒸留液量調節ダン パー	4HCD-2891, 2892	○	—								

※1 評価対象外とした理由  
 ①設備により機能を喪失しない  
 ②設備の機能に影響しない  
 ③動作機能に失敗により安全機能に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (7/10)				表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (17/24)								
系統	設 備	番 号	溢水影響評価対象 スクリーンアウトの考え方	系 統	機器番号	設 備	理 由 <sup>※1</sup>	系 統	機器番号	設 備	理 由 <sup>※1</sup>	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
換気空調系	4中央制御室湿度(1), (2)	4FS-2908, 2909	○ —	MS	R21-4003D	主蒸気第一隔離弁 (D) 用アクチュエータ	①	MS	R21-4003D	主蒸気第一隔離弁 (D) 用アクチュエータ	①	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置室非常用器具ファン出口流量	4FS-2904, 2905	○ —	MS	R21-4004A	主蒸気第二隔離弁 (A) 用アクチュエータ	①	MS	R21-4004A	主蒸気第二隔離弁 (A) 用アクチュエータ	①	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置室空調ファン出口流量	4FS-2910, 2911	○ —	MS	R21-4004B	主蒸気第二隔離弁 (B) 用アクチュエータ	①	MS	R21-4004B	主蒸気第二隔離弁 (B) 用アクチュエータ	①	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	94キッピング気室(1)除霜ダンパー	4AD-VS-805, 806	× ①	MS	R21-4004C	主蒸気第二隔離弁 (C) 用アクチュエータ	①	MS	R21-4004C	主蒸気第二隔離弁 (C) 用アクチュエータ	①	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置室外気流入開閉ダンパー(見直し) 4D-印表装置室外気流入開閉ダンパー(見直し)	4HC-2874, 2875 4HC-2885, 2886	○ —	MS	R21-4004D	主蒸気第二隔離弁 (D) 用アクチュエータ	①	MS	R21-F001A	主蒸気遮がし安全弁 (A)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置室外気放散ダンバ(流量設定)	4HC-2887, 2888	× ①	MS	R21-F001B	主蒸気遮がし安全弁 (B)	②	MS	R21-F001B	主蒸気遮がし安全弁 (B)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置室外気放散ダンバ(流量設定)	4HC-2889, 2890	○ —	MS	R21-F001C	主蒸気遮がし安全弁 (C)	②	MS	R21-F001C	主蒸気遮がし安全弁 (C)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置室外気放散ダンバ(流量設定)	4HC-2891, 2892	○ —	MS	R21-F001D	主蒸気遮がし安全弁 (D)	②	MS	R21-F001D	主蒸気遮がし安全弁 (D)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	34D安全機能制御室空調ファン		○ —	MS	R21-F001E	主蒸気遮がし安全弁 (E)	②	MS	R21-F001E	主蒸気遮がし安全弁 (E)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	34C, 34D安全機能制御室空調ファン		○ —	MS	R21-F001F	主蒸気遮がし安全弁 (F)	②	MS	R21-F001F	主蒸気遮がし安全弁 (F)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4安全系電気遮断装置止めダンバーA, B	4D-VS-532, 533	○ —	MS	R21-F001G	主蒸気遮がし安全弁 (G)	②	MS	R21-F001G	主蒸気遮がし安全弁 (G)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4安全系電気遮断装置止めダンバーA, B	4D-VS-536, 537	○ —	MS	R21-F001H	主蒸気遮がし安全弁 (H)	②	MS	R21-F001H	主蒸気遮がし安全弁 (H)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4A-印表装置室排気ダクト至温度	4TS-2817, 2818	○ —	MS	R21-F001I	主蒸気遮がし安全弁 (J)	②	MS	R21-F001I	主蒸気遮がし安全弁 (J)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室排気ダクト		○ —	MS	R21-F001K	主蒸気遮がし安全弁 (K)	②	MS	R21-F001K	主蒸気遮がし安全弁 (K)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室排気ダクトA, B	4D-VS-431A, B	○ —	MS	R21-F001L	主蒸気遮がし安全弁 (L)	②	MS	R21-F001L	主蒸気遮がし安全弁 (L)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2711, 2772 4TS-2712, 2773	○ —	MS	R21-F002A	主蒸気第一隔離弁 (A)	②	MS	R21-F002A	主蒸気第一隔離弁 (A)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2703, 2704, 2711 4TS-2713, 2714	○ —	MS	R21-F002B	主蒸気第一隔離弁 (B)	②	MS	R21-F002B	主蒸気第一隔離弁 (B)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2714, 2715, 2716	○ —	MS	R21-F002C	主蒸気第一隔離弁 (C)	②	MS	R21-F002C	主蒸気第一隔離弁 (C)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2716, 2717, 2718	○ —	MS	R21-F002D	主蒸気第一隔離弁 (D)	②	MS	R21-F002D	主蒸気第一隔離弁 (D)	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2718, 2719, 2720	○ —	MS	R21-F003A	主蒸気第二隔離弁 (A)	③	MS	R21-F003A	主蒸気第二隔離弁 (A)	③	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2720, 2721, 2722	○ —	MS	R21-F003B	主蒸気第二隔離弁 (B)	③	MS	R21-F003B	主蒸気第二隔離弁 (B)	③	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2721, 2722, 2723	○ —	MS	R21-F003C	主蒸気第二隔離弁 (C)	③	MS	R21-F003C	主蒸気第二隔離弁 (C)	③	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気圧縮機室湿度(1), (2), (3), (4)	4TS-2723, 2724, 2725	○ —	MS	R21-F003D	主蒸気第二隔離弁 (D)	③	MS	R21-F003D	主蒸気第二隔離弁 (D)	③	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気清浄化ファン	4VSFA, B	○ —	MS	R21-F004	主蒸気ドレンライン第一隔離弁	④	MS	R21-F004	主蒸気ドレンライン第一隔離弁	④	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気清浄化ファン	4VSFB, B	× ①	MS	R21-F045	主蒸気第二隔離弁リーコフライイン隔離弁	④	MS	R21-F045	主蒸気第二隔離弁リーコフライイン隔離弁	④	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気清浄化ファン	4VSFA, B	○ —	MS	R21-F061	事後冷却サンプリング第一隔離弁	②	MS	R21-F061	事後冷却サンプリング第一隔離弁	②	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違 【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
	4D-印表装置用空気清浄化ファン	4VSFB, B	○ —									

\*1 評価対象とした理由  
 ①溢水により機能を喪失しない  
 ②VVA内耐震接続仕様の設備  
 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
<b>大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (8/10)</b>				<b>表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (18/24)</b>								
系統	設備	番号	溢水影響評価対象 スクリーンアウトの考え方	設備番号	設備	理由						
換気空調系	4A-1Bエアラス少量排気弁	4H-VS-1004, B	○	—	—	—	【大飯】					
	4A-1Bエアラス圧力制御器	4PT-2522, 2542	×	①	—	—	記載表現の相違					
	4A-1B格納容器排気扇出口ダンパー	4D-VS-0600, B	×	①	—	—	女川審査実績の反映					
	4B格納容器排気止止めダンパー	4D-VS-061	×	①	—	—	設計方針の相違					
	4B助効排気止止めダンパー	4KCD-2590	×	①	—	—	プラント設計の違いによる相違					
	4B助効排気止止めダンパー	4D-VS-351	×	①	—	—	【女川】					
	34放射線管理排気扇止止めダンバー	34PCP-2976	×	①	—	—	記載表現の相違					
	34放射線管理排気扇止止めダンバー	34D-VS-658	×	①	—	—	設計方針の相違					
	4A-1B安全排機遮断ダンバー	4D-VS-1054, B	○	—	—	—	プラント設計の違いによる相違					
	4F全廻換空気第1回路ダンバー	4H-VS-301, 302	×	①	—	—	【女川】					
換気空調系	4F安全廻換空気第1,2回路ダンバー	4H-VS-303, 304	×	①	—	—	記載表現の相違					
	4Fニューフュームガス第1,2回路ダンバー	4D-VS-052, 053	×	①	—	—	設計方針の相違					
	4Fアニューラクタガス第1,2回路ダンバー	4D-VS-058, 059	×	①	—	—	プラント設計の違いによる相違					
	4F格納容器排気第1回路弁	4V-VS-054	×	①	—	—	【女川】					
	4F格納容器排気第1回路弁	4V-VS-055	×	②	—	—	記載表現の相違					
	4F格納容器排気第1回路弁	4V-VS-056	×	②	—	—	設計方針の相違					
	4F格納容器排気第2回路弁	4V-VS-057	×	①	—	—	プラント設計の違いによる相違					
	4A-1B安全排機室排気扇排風作動弁	4LB-82, 83	○	—	—	—	【女川】					
	4A-1, 4B-1, 4C-1, 4D-1ディーゼル電動暖室給気装置排風作動弁	4LB-94, 85	○	—	—	—	記載表現の相違					
	4A-1B格納容器排気第1回路排気ファン吸排機操作弁	4LB-86, 87	○	—	—	—	設計方針の相違					
冷水系	4A-1B格納容器空気圧縮機底面排気ファン吸排機操作弁	4LB-90, 91	○	—	—	—	【女川】					
	4A-1B中央制御室空気圧縮機ファン操作作動弁	4LB-95, 96	○	—	—	—	記載表現の相違					
	4A-1B中央制御室空気圧縮機ファン操作作動弁	4LB-101, 102	○	—	—	—	設計方針の相違					
	34A, 34B, 34C, 34D安全排機間隔弁至空調装置排風作動弁	34LB-13, 14, 20, 21	○	—	—	—	【女川】					
	4A-1B格納容器空気圧縮機ファン操作作動弁	4LB-77, 78	○	—	—	—	記載表現の相違					
	4A-1Bアニュラクタガス空気圧縮機ファン操作作動弁	4LB-52, 53	○	—	—	—	設計方針の相違					
	4A-1B中央制御室非常用排風扇ファン規制操作弁	4LB-97, 98	○	—	—	—	【女川】					
	4空調用冷水膨張タンク	—	×	③	—	—	記載表現の相違					
	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水膨脹	—	○	—	—	—	設計方針の相違					
	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水ポンプ	—	—	—	—	—	【女川】					
冷水系	4A, 4B中央制御室空気圧縮機空気圧縮ユニット冷水温度計測用流量計及流量計	4CV-2878, 2879	○	—	—	—	記載表現の相違					
	34A, 34B安全排機間隔弁至空調装置排風作動弁	34CV-2798, 2799	○	—	—	—	設計方針の相違					
	4A-1B格納容器空気圧縮機底面排気ファン吸排機操作弁	4V-CH-032, 033	○	—	—	—	【女川】					
	4A-1B格納容器空気圧縮機底面排風作動弁	4V-CH-453, 454	×	①	—	—	記載表現の相違					
	4A, 4B, 4C, 4D空調用冷水ポンプ規制操作弁	4LB-703, 704	○	—	—	—	記載表現の相違					
<p>※1 対象外とした理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①溢水により機能を喪失しない</li> <li>②CVW内副稼働仕様の設備</li> <li>③動作機能の喪失により安全機能に影響しない</li> <li>④他の設備で代替できる</li> </ul>												

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉		相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (9/10)					表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (19/24)					
系統	設 備	番 号	溢水影響 評価結果	スクリーンアウト の考え方	系統	機器番号	設 備	理由 <sup>#1</sup>		
格納容器冷却水及び水素供給装置	4A_4B格納容器圧力容器内水素供給装置	4P-DB-001A, B	×	②	RCW	P42-F0899	RCW専用冷却水緊急止断弁 (D)	④	【大飯】 記載表現の相違 女川審査実績の反映 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違	【大飯】
	4A_4B格納容器圧力容器内水素供給装置	4P-DB-002A, B	×	①	RCW	P42-F112A	RCW供給側第二隔離弁 (A)	④		記載表現の相違
	4A_4B格納容器水素バージ給気ライン接続装置	4P-HC-304A, B	×	①	RCW	P42-F112B	RCW供給側第二隔離弁 (B)	④		女川審査実績の反映
	4A_4B格納容器水素バージ給気ライン接続装置第1隔離弁	4P-HC-305A, B	×	①	RCW	P42-F115A	RCW更り制御第一隔離弁 (A)	④		設計方針の相違
放射性監視設備 空気サンプリング装置	4A_4B格納容器サンブル取り出しライン接続装置第1隔離弁	4P-HM-001	×	②	RCW	P42-F115B	RCW更り制御第一隔離弁 (B)	④		プラント設計の違いによる相違
	4A_4B格納容器サンブル取り出しライン接続装置第2隔離弁	4P-HM-002	×	①	RCW	P42-FD098A	RCWA系統流量変信器	④		【女川】 記載表現の相違
	4A_4B格納容器サンブル取り出しライン接続装置第3隔離弁	4P-HM-013	×	①	RCW	P42-FD098B	RCWB系統流量変信器	④		設計方針の相違
電気部	4主整 (原子炉)	4R03	○	—	RCW	P42-FD014A	RCWA系統現系入口流量変信器	④		プラント設計の違いによる相違
	4原子炉済動盤	4R09	○	—	RCW	P42-FD014B	RCWB系統現系入口流量変信器	④		
	4原子炉安全保護装置I, II, III, IV	4R09-I, II, III, IV	○	—	RCW	P42-FD016A	RHR熱交換器 (A) 流却水入口流量変信器	④		
	4A_4B_4C_4D原子炉安全保護ロッジック装置	4R0L-A, B, C, D	○	—	RCW	P42-FD016B	RHR熱交換器 (B) 流却水入口流量変信器	④		
	4安全保護リーケンス装置A1, A2, B1, B2	4SP5-A1, A2, B1, B2	○	—	RCW	P42-LI009A	RCWサージタンク (A) 水位	④		
	4A_4C_4D_4E_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Y_4Z_4Z'	4SP5-A1, A2, B1, B2	○	—	RCW	P42-LI009B	RCWサージタンク (B) 水位	④		
	4A_4B分離式電録	4SP6-A, B	○	—	RCW	P42-LT010A	RCWサージタンク (A) 水位警信器	④		
	4A_4B直流水電録	4SP6-A, B	○	—	RCW	P42-LT010B	RCWサージタンク (B) 水位警信器	④		
	4A_4B蓄電池	4SP7-A	○	—	RCW	P42-FI001A	RCWポンプ (A) 出口圧力	④		
	4A_4B充電器	4SP7-A, B	○	—	RCW	P42-FI001B	RCWポンプ (B) 出口圧力	④		
電気部	4A_4B_4C_4Dメタルクラッドスイッチ	4R01-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-FI001C	RCWポンプ (C) 出口圧力	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R01-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-FI001D	RCWポンプ (D) 出口圧力	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R02-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-FI007A	RCWポンプ (A) 入口圧力	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R02-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-FI007B	RCWポンプ (B) 入口圧力	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R02-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-FI007C	RCWポンプ (C) 入口圧力	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R02-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-FI007D	RCWポンプ (D) 入口圧力	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R03-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-TD005A	RCWA系統冷却水供給量度検出器	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R03-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-TD005B	RCWB系統冷却水供給量度検出器	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R03-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-TD017A	RHR熱交換器 (A) 流却水出口温度検出器	④		
	4A_4C_4D_4H_4I_4S_4T_4U_4V_4W_4X_4Z_4Z'	4R03-A1, B1, B1, B2	○	—	RCW	P42-TD017B	RHR熱交換器 (B) 流却水出口温度検出器	④		
※1 評価対象外とした理由 ①溢水により機能を喪失しない ②ECV内動作範囲仕様の範囲 ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない ④既に改修で代替できる										

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
大飯4号炉防護対象設備のスクリーンアウト (10/10)			表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (20/24)				
系統	設 備	番 号	溢水影響評価対象	スクリーンアウトの考え方			
非常用遮断系	Ia.4Bディーゼル機関		○	—			【大飯】 記載表現の相違
	Ia.4Bディーゼル発電機		○	—			女川審査実績の反映
	Ia.4Bディーゼル発電機コントロールセンタ	4GCC-hi-B	○	—			設計方針の相違
	Ia.4Bディーゼル発電機制御室	4DGC-hi-B	○	—			プラント設計の違いによる相違
<p>スクリーンアウトの考え方</p> <p>①プラント停止操作でない機関と遮断弁により溢水が発生した場合、スクリーンアウトの考え方により機関を失う。また機関に影響ない。(機関要求のない原子炉給水装置外設置の指摘内容を含む)</p> <p>②原子炉給水装置内の防護対象設備は温度、圧力条件及び溢水影響を考慮して開閉操作で停止が実現しない。また溢水事象が発生する場合は、機関停止操作で停止が実現しない。また溢水事象が発生する場合は、機関停止操作で停止が実現しない。</p> <p>③タンク、熱交、逆止弁、手動弁等の静的機器は溢水により機関喪失しない他の設備で代替できる。</p>			<p>※ 溢水影響評価対象機の注記</p> <p>■ 溢水影響評価対象機は溢水影響評価しない(即、プラント停止の対応設備評価に用いたために記述対象設備リスト)に追加した。一方、機能喪失率は「—」として溢水影響評価機の対象外とした。</p>				【女川】 記載表現の相違
系統	機器番号	設 備	理由 <sup>※1</sup>				設計方針の相違
BD	E11-P003	D/W LCWサンプル第一隔壁弁	②				プラント設計の違いによる相違
BD	E11-P103	D/W HCWサンプル第一隔壁弁	②				
BR	E11-B001A	残留熱除去系熱交換器(A)	①				
BR	E11-B001B	残留熱除去系熱交換器(B)	①				
BR	E11-D001A	残留熱除去系A系ストレーナ	①				
BR	E11-D001B	残留熱除去系B系ストレーナ	①				
BR	E11-D001C	残留熱除去系C系ストレーナ	①				
BR	E11-DPT009A	LPC1系A/LPC1系注入ライン差圧伝送器	④				
BR	E11-DPT009B	LPC1系B・C注入ライン差圧伝送器	④				
BR	E11-F012A	RHR A系試験用調整弁	④				
BR	E11-F012B	RHR B系試験用調整弁	④				
BR	E11-F012C	RHR C系試験用調整弁	④				
BR	E11-F014A	RHR A系停止時冷却吸込弁	①				
BR	E11-F014B	RHR B系停止時冷却吸込弁	①				
BR	E11-F015A	RHR A系停止時冷却吸込第一隔壁弁	②				
BR	E11-F015B	RHR B系停止時冷却吸込第一隔壁弁	②				
BR	E11-F021	RHR ハンドスプリット注入隔壁弁	④				
BR	E11-F044A	RHR A系LPC1注入試験可能逆止弁均圧弁	②				
BR	E11-F044B	RHR B系LPC1注入試験可能逆止弁均圧弁	②				
BR	E11-F044C	RHR C系LPC1注入試験可能逆止弁均圧弁	②				
BR	E11-F045A	RHR A系 RW連絡第一弁	④				
BR	E11-F045B	RHR B系 RW連絡第一弁	④				
BR	E11-F049A	RHR A系系統隔壁弁	④				
BR	E11-F049B	RHR B系系統隔壁弁	④				
BR	E11-F058A	RHR A系停止時冷却試験可能逆止弁均圧弁	②				
BR	E11-F058B	RHR B系停止時冷却試験可能逆止弁均圧弁	②				
BR	E11-F1014	原子炉ヘッドブレイ放量変換器	④				

※ 1 評価対象外とした理由  
 ①溢水により機器を喪失しない  
 ②CV内附機器仕様の設備  
 ③動作機器の役割により安全機器に影響しない  
 ④他の設備で代替できる

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																															
	<p>表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (21/24)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>機器番号</th><th>設備</th><th>理由<sup>※1</sup></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT001A</td><td>RHRポンプ (A) 入口圧力</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT001B</td><td>RHRポンプ (B) 入口圧力</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT001C</td><td>RHRポンプ (C) 入口圧力</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT004A</td><td>RHRポンプ (A) 出口圧力</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT004B</td><td>RHRポンプ (B) 出口圧力</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT004C</td><td>RHRポンプ (C) 出口圧力</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT005A</td><td>RHRポンプ (A) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT005B</td><td>RHRポンプ (B) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT005C</td><td>RHRポンプ (C) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT013A</td><td>RHR A系入口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-PT013B</td><td>RHR B系入口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-TE007A</td><td>RHR熱交換器 (A) 出口温度検出器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-TE007B</td><td>RHR熱交換器 (B) 出口温度検出器</td><td>③</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-TED10A</td><td>RHR熱交換器 (A) 入口温度検出器</td><td>②</td></tr> <tr><td>RHR</td><td>E11-TED10B</td><td>RHR熱交換器 (B) 入口温度検出器</td><td>②</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-DO01A</td><td>原子炉循環冷却海水系ストレーナ (A)</td><td>①</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-DO01B</td><td>原子炉循環冷却海水系ストレーナ (B)</td><td>①</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-DO01C</td><td>原子炉循環冷却海水系ストレーナ (C)</td><td>①</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-DO01D</td><td>原子炉循環冷却海水系ストレーナ (D)</td><td>①</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-dP1003A</td><td>R C W熱交換器 (A) 管側差圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-dP1003B</td><td>R C W熱交換器 (B) 管側差圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-dP1003C</td><td>R C W熱交換器 (C) 管側差圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-dP1003D</td><td>R C W熱交換器 (D) 管側差圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-PT001A</td><td>R S Wポンプ (A) 出口圧力指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-PT001B</td><td>R S Wポンプ (B) 出口圧力指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-PT001C</td><td>R S Wポンプ (C) 出口圧力指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>RSW</td><td>P45-PT001D</td><td>R S Wポンプ (D) 出口圧力指示計</td><td>③</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 対象外とした理由    ①記載通り機能未実現    ②PO内機能未実現    ③動作部位の喪失により安全機能に影響しない    ④付の設備で代替できる</p>	系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>	RHR	E11-PT001A	RHRポンプ (A) 入口圧力	③	RHR	E11-PT001B	RHRポンプ (B) 入口圧力	③	RHR	E11-PT001C	RHRポンプ (C) 入口圧力	③	RHR	E11-PT004A	RHRポンプ (A) 出口圧力	③	RHR	E11-PT004B	RHRポンプ (B) 出口圧力	③	RHR	E11-PT004C	RHRポンプ (C) 出口圧力	③	RHR	E11-PT005A	RHRポンプ (A) 出口圧力伝送器	③	RHR	E11-PT005B	RHRポンプ (B) 出口圧力伝送器	③	RHR	E11-PT005C	RHRポンプ (C) 出口圧力伝送器	③	RHR	E11-PT013A	RHR A系入口圧力伝送器	③	RHR	E11-PT013B	RHR B系入口圧力伝送器	③	RHR	E11-TE007A	RHR熱交換器 (A) 出口温度検出器	③	RHR	E11-TE007B	RHR熱交換器 (B) 出口温度検出器	③	RHR	E11-TED10A	RHR熱交換器 (A) 入口温度検出器	②	RHR	E11-TED10B	RHR熱交換器 (B) 入口温度検出器	②	RSW	P45-DO01A	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (A)	①	RSW	P45-DO01B	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (B)	①	RSW	P45-DO01C	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (C)	①	RSW	P45-DO01D	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (D)	①	RSW	P45-dP1003A	R C W熱交換器 (A) 管側差圧指示計	③	RSW	P45-dP1003B	R C W熱交換器 (B) 管側差圧指示計	③	RSW	P45-dP1003C	R C W熱交換器 (C) 管側差圧指示計	③	RSW	P45-dP1003D	R C W熱交換器 (D) 管側差圧指示計	③	RSW	P45-PT001A	R S Wポンプ (A) 出口圧力指示計	③	RSW	P45-PT001B	R S Wポンプ (B) 出口圧力指示計	③	RSW	P45-PT001C	R S Wポンプ (C) 出口圧力指示計	③	RSW	P45-PT001D	R S Wポンプ (D) 出口圧力指示計	③	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の違いによる相違</p>
系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>																																																																																																															
RHR	E11-PT001A	RHRポンプ (A) 入口圧力	③																																																																																																															
RHR	E11-PT001B	RHRポンプ (B) 入口圧力	③																																																																																																															
RHR	E11-PT001C	RHRポンプ (C) 入口圧力	③																																																																																																															
RHR	E11-PT004A	RHRポンプ (A) 出口圧力	③																																																																																																															
RHR	E11-PT004B	RHRポンプ (B) 出口圧力	③																																																																																																															
RHR	E11-PT004C	RHRポンプ (C) 出口圧力	③																																																																																																															
RHR	E11-PT005A	RHRポンプ (A) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
RHR	E11-PT005B	RHRポンプ (B) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
RHR	E11-PT005C	RHRポンプ (C) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
RHR	E11-PT013A	RHR A系入口圧力伝送器	③																																																																																																															
RHR	E11-PT013B	RHR B系入口圧力伝送器	③																																																																																																															
RHR	E11-TE007A	RHR熱交換器 (A) 出口温度検出器	③																																																																																																															
RHR	E11-TE007B	RHR熱交換器 (B) 出口温度検出器	③																																																																																																															
RHR	E11-TED10A	RHR熱交換器 (A) 入口温度検出器	②																																																																																																															
RHR	E11-TED10B	RHR熱交換器 (B) 入口温度検出器	②																																																																																																															
RSW	P45-DO01A	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (A)	①																																																																																																															
RSW	P45-DO01B	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (B)	①																																																																																																															
RSW	P45-DO01C	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (C)	①																																																																																																															
RSW	P45-DO01D	原子炉循環冷却海水系ストレーナ (D)	①																																																																																																															
RSW	P45-dP1003A	R C W熱交換器 (A) 管側差圧指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-dP1003B	R C W熱交換器 (B) 管側差圧指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-dP1003C	R C W熱交換器 (C) 管側差圧指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-dP1003D	R C W熱交換器 (D) 管側差圧指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-PT001A	R S Wポンプ (A) 出口圧力指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-PT001B	R S Wポンプ (B) 出口圧力指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-PT001C	R S Wポンプ (C) 出口圧力指示計	③																																																																																																															
RSW	P45-PT001D	R S Wポンプ (D) 出口圧力指示計	③																																																																																																															

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																															
	<p>表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (22/24)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>機器番号</th><th>設備</th><th>理由<sup>※1</sup></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>ESW</td><td>P45-PT001A</td><td>R SWポンプ (A) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-PT001B</td><td>R SWポンプ (B) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-PT001C</td><td>R SWポンプ (C) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-PT001D</td><td>R SWポンプ (D) 出口圧力伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-TI004A</td><td>RCW熱交換器 (A) 海水出口温度</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-TI004B</td><td>RCW熱交換器 (B) 海水出口温度</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-TI004C</td><td>RCW熱交換器 (C) 海水出口温度</td><td>③</td></tr> <tr><td>ESW</td><td>P45-TI004D</td><td>RCW熱交換器 (D) 海水出口温度</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-dP1002A</td><td>空気乾燥装置 (A) デミスクタ寒圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-dP1002B</td><td>空気乾燥装置 (B) デミスクタ寒圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-dP1004</td><td>フィルタ装置中性耐エアフィルタ寒圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-dP1005</td><td>フィルタ装置前置高性能エアフィルタ寒圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-dP1010</td><td>フィルタ装置チャコールエアフィルタ寒圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-dP1013</td><td>フィルタ装置後置高性耐エアフィルタ寒圧指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-F001A</td><td>非常用ガス処理系入口弁 (A)</td><td>③</td></tr> <tr><td>SGTS</td><td>T46-F001B</td><td>非常用ガス処理系入口弁 (B)</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41</td><td>ほう酸水注入系ポンプ潤滑油ポンプ/フィルタ</td><td>①</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-M001</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク</td><td>①</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-M003A</td><td>ほう酸水注入系アクヒュムレーター (A)</td><td>①</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-M003B</td><td>ほう酸水注入系アクヒュムレーター (B)</td><td>①</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-H001</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク加熱用ヒータ</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-H002</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク保溫用ヒータ</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-LD001</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク水位検出器</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-LI001</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク水位指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-LT001</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク水位伝送器</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-P1010A</td><td>ほう酸水注入系ポンプ (A) 潤滑油圧力指示計</td><td>③</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-P1010B</td><td>ほう酸水注入系ポンプ (B) 潤滑油圧力指示計</td><td>③</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 対象外とした理由      ①他のようやく機能を喪失しない      ②PO内機能喪失の恐れ      ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない      ④他の設備で代替できる</p>	系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>	ESW	P45-PT001A	R SWポンプ (A) 出口圧力伝送器	③	ESW	P45-PT001B	R SWポンプ (B) 出口圧力伝送器	③	ESW	P45-PT001C	R SWポンプ (C) 出口圧力伝送器	③	ESW	P45-PT001D	R SWポンプ (D) 出口圧力伝送器	③	ESW	P45-TI004A	RCW熱交換器 (A) 海水出口温度	③	ESW	P45-TI004B	RCW熱交換器 (B) 海水出口温度	③	ESW	P45-TI004C	RCW熱交換器 (C) 海水出口温度	③	ESW	P45-TI004D	RCW熱交換器 (D) 海水出口温度	③	SGTS	T46-dP1002A	空気乾燥装置 (A) デミスクタ寒圧指示計	③	SGTS	T46-dP1002B	空気乾燥装置 (B) デミスクタ寒圧指示計	③	SGTS	T46-dP1004	フィルタ装置中性耐エアフィルタ寒圧指示計	③	SGTS	T46-dP1005	フィルタ装置前置高性能エアフィルタ寒圧指示計	③	SGTS	T46-dP1010	フィルタ装置チャコールエアフィルタ寒圧指示計	③	SGTS	T46-dP1013	フィルタ装置後置高性耐エアフィルタ寒圧指示計	③	SGTS	T46-F001A	非常用ガス処理系入口弁 (A)	③	SGTS	T46-F001B	非常用ガス処理系入口弁 (B)	③	SLC	C41	ほう酸水注入系ポンプ潤滑油ポンプ/フィルタ	①	SLC	C41-M001	ほう酸水注入系貯蔵タンク	①	SLC	C41-M003A	ほう酸水注入系アクヒュムレーター (A)	①	SLC	C41-M003B	ほう酸水注入系アクヒュムレーター (B)	①	SLC	C41-H001	ほう酸水注入系貯蔵タンク加熱用ヒータ	③	SLC	C41-H002	ほう酸水注入系貯蔵タンク保溫用ヒータ	③	SLC	C41-LD001	ほう酸水注入系貯蔵タンク水位検出器	③	SLC	C41-LI001	ほう酸水注入系貯蔵タンク水位指示計	③	SLC	C41-LT001	ほう酸水注入系貯蔵タンク水位伝送器	③	SLC	C41-P1010A	ほう酸水注入系ポンプ (A) 潤滑油圧力指示計	③	SLC	C41-P1010B	ほう酸水注入系ポンプ (B) 潤滑油圧力指示計	③	【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 プラント設計の違いによる相違
系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>																																																																																																															
ESW	P45-PT001A	R SWポンプ (A) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
ESW	P45-PT001B	R SWポンプ (B) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
ESW	P45-PT001C	R SWポンプ (C) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
ESW	P45-PT001D	R SWポンプ (D) 出口圧力伝送器	③																																																																																																															
ESW	P45-TI004A	RCW熱交換器 (A) 海水出口温度	③																																																																																																															
ESW	P45-TI004B	RCW熱交換器 (B) 海水出口温度	③																																																																																																															
ESW	P45-TI004C	RCW熱交換器 (C) 海水出口温度	③																																																																																																															
ESW	P45-TI004D	RCW熱交換器 (D) 海水出口温度	③																																																																																																															
SGTS	T46-dP1002A	空気乾燥装置 (A) デミスクタ寒圧指示計	③																																																																																																															
SGTS	T46-dP1002B	空気乾燥装置 (B) デミスクタ寒圧指示計	③																																																																																																															
SGTS	T46-dP1004	フィルタ装置中性耐エアフィルタ寒圧指示計	③																																																																																																															
SGTS	T46-dP1005	フィルタ装置前置高性能エアフィルタ寒圧指示計	③																																																																																																															
SGTS	T46-dP1010	フィルタ装置チャコールエアフィルタ寒圧指示計	③																																																																																																															
SGTS	T46-dP1013	フィルタ装置後置高性耐エアフィルタ寒圧指示計	③																																																																																																															
SGTS	T46-F001A	非常用ガス処理系入口弁 (A)	③																																																																																																															
SGTS	T46-F001B	非常用ガス処理系入口弁 (B)	③																																																																																																															
SLC	C41	ほう酸水注入系ポンプ潤滑油ポンプ/フィルタ	①																																																																																																															
SLC	C41-M001	ほう酸水注入系貯蔵タンク	①																																																																																																															
SLC	C41-M003A	ほう酸水注入系アクヒュムレーター (A)	①																																																																																																															
SLC	C41-M003B	ほう酸水注入系アクヒュムレーター (B)	①																																																																																																															
SLC	C41-H001	ほう酸水注入系貯蔵タンク加熱用ヒータ	③																																																																																																															
SLC	C41-H002	ほう酸水注入系貯蔵タンク保溫用ヒータ	③																																																																																																															
SLC	C41-LD001	ほう酸水注入系貯蔵タンク水位検出器	③																																																																																																															
SLC	C41-LI001	ほう酸水注入系貯蔵タンク水位指示計	③																																																																																																															
SLC	C41-LT001	ほう酸水注入系貯蔵タンク水位伝送器	③																																																																																																															
SLC	C41-P1010A	ほう酸水注入系ポンプ (A) 潤滑油圧力指示計	③																																																																																																															
SLC	C41-P1010B	ほう酸水注入系ポンプ (B) 潤滑油圧力指示計	③																																																																																																															

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																															
	<p>表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (23/24)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>機器番号</th><th>設備</th><th>理由<sup>※1</sup></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SLC</td><td>C41-TE002</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク温度検出器</td><td>②</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-TE003</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク温度検出器</td><td>②</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-TE004</td><td>SLC貯蔵タンク保護用ヒーターシース表面温度検出器</td><td>②</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-TI5002</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク温度指示計(液点付)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-TI5003</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク温度指示計(液点付)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SLC</td><td>C41-TI5004</td><td>ほう酸水注入系貯蔵タンク保護用ヒーターシース表面温度</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE001A</td><td>サブレッショングループ水温度 (1 1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE001B</td><td>サブレッショングループ水温度 (1 1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE002A</td><td>サブレッショングループ水温度 (3 4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE002B</td><td>サブレッショングループ水温度 (3 4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE003A</td><td>サブレッショングループ水温度 (5 6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE003B</td><td>サブレッショングループ水温度 (5 6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE004A</td><td>サブレッショングループ水温度 (7 9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE004B</td><td>サブレッショングループ水温度 (7 9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE005A</td><td>サブレッショングループ水温度 (10 1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE005B</td><td>サブレッショングループ水温度 (10 1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE006A</td><td>サブレッショングループ水温度 (12 4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE006B</td><td>サブレッショングループ水温度 (12 4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE007A</td><td>サブレッショングループ水温度 (14 6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE007B</td><td>サブレッショングループ水温度 (14 6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE008A</td><td>サブレッショングループ水温度 (16 9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE008B</td><td>サブレッショングループ水温度 (16 9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE009A</td><td>サブレッショングループ水温度 (19 1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE009B</td><td>サブレッショングループ水温度 (19 1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE010A</td><td>サブレッショングループ水温度 (21 4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE010B</td><td>サブレッショングループ水温度 (21 4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTN</td><td>T11-TE011A</td><td>サブレッショングループ水温度 (23 6°)</td><td>②</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 対象外とした理由      ①液体により機能を喪失しない      ②PV内耐候性仕様の設置      ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない      ④他の装置にて代替できる</p>	系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>	SLC	C41-TE002	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度検出器	②	SLC	C41-TE003	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度検出器	②	SLC	C41-TE004	SLC貯蔵タンク保護用ヒーターシース表面温度検出器	②	SLC	C41-TI5002	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度指示計(液点付)	②	SLC	C41-TI5003	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度指示計(液点付)	②	SLC	C41-TI5004	ほう酸水注入系貯蔵タンク保護用ヒーターシース表面温度	②	SPTN	T11-TE001A	サブレッショングループ水温度 (1 1°)	②	SPTN	T11-TE001B	サブレッショングループ水温度 (1 1°)	②	SPTN	T11-TE002A	サブレッショングループ水温度 (3 4°)	②	SPTN	T11-TE002B	サブレッショングループ水温度 (3 4°)	②	SPTN	T11-TE003A	サブレッショングループ水温度 (5 6°)	②	SPTN	T11-TE003B	サブレッショングループ水温度 (5 6°)	②	SPTN	T11-TE004A	サブレッショングループ水温度 (7 9°)	②	SPTN	T11-TE004B	サブレッショングループ水温度 (7 9°)	②	SPTN	T11-TE005A	サブレッショングループ水温度 (10 1°)	②	SPTN	T11-TE005B	サブレッショングループ水温度 (10 1°)	②	SPTN	T11-TE006A	サブレッショングループ水温度 (12 4°)	②	SPTN	T11-TE006B	サブレッショングループ水温度 (12 4°)	②	SPTN	T11-TE007A	サブレッショングループ水温度 (14 6°)	②	SPTN	T11-TE007B	サブレッショングループ水温度 (14 6°)	②	SPTN	T11-TE008A	サブレッショングループ水温度 (16 9°)	②	SPTN	T11-TE008B	サブレッショングループ水温度 (16 9°)	②	SPTN	T11-TE009A	サブレッショングループ水温度 (19 1°)	②	SPTN	T11-TE009B	サブレッショングループ水温度 (19 1°)	②	SPTN	T11-TE010A	サブレッショングループ水温度 (21 4°)	②	SPTN	T11-TE010B	サブレッショングループ水温度 (21 4°)	②	SPTN	T11-TE011A	サブレッショングループ水温度 (23 6°)	②	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の違いによる相違</p>
系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>																																																																																																															
SLC	C41-TE002	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度検出器	②																																																																																																															
SLC	C41-TE003	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度検出器	②																																																																																																															
SLC	C41-TE004	SLC貯蔵タンク保護用ヒーターシース表面温度検出器	②																																																																																																															
SLC	C41-TI5002	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度指示計(液点付)	②																																																																																																															
SLC	C41-TI5003	ほう酸水注入系貯蔵タンク温度指示計(液点付)	②																																																																																																															
SLC	C41-TI5004	ほう酸水注入系貯蔵タンク保護用ヒーターシース表面温度	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE001A	サブレッショングループ水温度 (1 1°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE001B	サブレッショングループ水温度 (1 1°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE002A	サブレッショングループ水温度 (3 4°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE002B	サブレッショングループ水温度 (3 4°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE003A	サブレッショングループ水温度 (5 6°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE003B	サブレッショングループ水温度 (5 6°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE004A	サブレッショングループ水温度 (7 9°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE004B	サブレッショングループ水温度 (7 9°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE005A	サブレッショングループ水温度 (10 1°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE005B	サブレッショングループ水温度 (10 1°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE006A	サブレッショングループ水温度 (12 4°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE006B	サブレッショングループ水温度 (12 4°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE007A	サブレッショングループ水温度 (14 6°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE007B	サブレッショングループ水温度 (14 6°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE008A	サブレッショングループ水温度 (16 9°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE008B	サブレッショングループ水温度 (16 9°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE009A	サブレッショングループ水温度 (19 1°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE009B	サブレッショングループ水温度 (19 1°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE010A	サブレッショングループ水温度 (21 4°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE010B	サブレッショングループ水温度 (21 4°)	②																																																																																																															
SPTN	T11-TE011A	サブレッショングループ水温度 (23 6°)	②																																																																																																															

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料6)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																															
	<p>表2 溢水影響評価から対象外とした設備一覧 (24/24)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th><th>機器番号</th><th>設備</th><th>理由<sup>※1</sup></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED011B</td><td>サプレッショングループ水温度 (23.6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED012A</td><td>サプレッショングループ水温度 (25.9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED012B</td><td>サプレッショングループ水温度 (25.9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED013A</td><td>サプレッショングループ水温度 (28.1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED013B</td><td>サプレッショングループ水温度 (28.1°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED014A</td><td>サプレッショングループ水温度 (30.4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED014B</td><td>サプレッショングループ水温度 (30.4°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED015A</td><td>サプレッショングループ水温度 (32.6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED015B</td><td>サプレッショングループ水温度 (32.6°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED016A</td><td>サプレッショングループ水温度 (34.9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>SPTM</td><td>T11-TED016B</td><td>サプレッショングループ水温度 (34.9°)</td><td>②</td></tr> <tr><td>TIP</td><td>G51-F081A</td><td>TIPバルブアセンブリ (ボール弁A・爆発弁A)</td><td>③</td></tr> <tr><td>TIP</td><td>G51-F081B</td><td>TIPバルブアセンブリ (ボール弁B・爆発弁B)</td><td>③</td></tr> <tr><td>TIP</td><td>G51-F081C</td><td>TIPバルブアセンブリ (ボール弁C・爆発弁C)</td><td>③</td></tr> <tr><td>TIP</td><td>G51-F081D</td><td>TIPバルブアセンブリ (ボール弁D・爆発弁D)</td><td>③</td></tr> <tr><td>TIP</td><td>G51-F083</td><td>TIPバージ隔壁弁</td><td>③</td></tr> <tr><td>その他</td><td>-</td><td>手動弁一式</td><td>①</td></tr> <tr><td>その他</td><td>-</td><td>逆止弁一式</td><td>①</td></tr> <tr><td>その他</td><td>-</td><td>配管一式</td><td>①</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 対象外とした理由    ①溢水により機能を喪失しない    ②PV内耐圧強化仕様の設備    ③動作機能の喪失により安全機能に影響しない    全他の設備で代替できる</p>	系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>	SPTM	T11-TED011B	サプレッショングループ水温度 (23.6°)	②	SPTM	T11-TED012A	サプレッショングループ水温度 (25.9°)	②	SPTM	T11-TED012B	サプレッショングループ水温度 (25.9°)	②	SPTM	T11-TED013A	サプレッショングループ水温度 (28.1°)	②	SPTM	T11-TED013B	サプレッショングループ水温度 (28.1°)	②	SPTM	T11-TED014A	サプレッショングループ水温度 (30.4°)	②	SPTM	T11-TED014B	サプレッショングループ水温度 (30.4°)	②	SPTM	T11-TED015A	サプレッショングループ水温度 (32.6°)	②	SPTM	T11-TED015B	サプレッショングループ水温度 (32.6°)	②	SPTM	T11-TED016A	サプレッショングループ水温度 (34.9°)	②	SPTM	T11-TED016B	サプレッショングループ水温度 (34.9°)	②	TIP	G51-F081A	TIPバルブアセンブリ (ボール弁A・爆発弁A)	③	TIP	G51-F081B	TIPバルブアセンブリ (ボール弁B・爆発弁B)	③	TIP	G51-F081C	TIPバルブアセンブリ (ボール弁C・爆発弁C)	③	TIP	G51-F081D	TIPバルブアセンブリ (ボール弁D・爆発弁D)	③	TIP	G51-F083	TIPバージ隔壁弁	③	その他	-	手動弁一式	①	その他	-	逆止弁一式	①	その他	-	配管一式	①	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の違いによる相違</p>
系統	機器番号	設備	理由 <sup>※1</sup>																																																																															
SPTM	T11-TED011B	サプレッショングループ水温度 (23.6°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED012A	サプレッショングループ水温度 (25.9°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED012B	サプレッショングループ水温度 (25.9°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED013A	サプレッショングループ水温度 (28.1°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED013B	サプレッショングループ水温度 (28.1°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED014A	サプレッショングループ水温度 (30.4°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED014B	サプレッショングループ水温度 (30.4°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED015A	サプレッショングループ水温度 (32.6°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED015B	サプレッショングループ水温度 (32.6°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED016A	サプレッショングループ水温度 (34.9°)	②																																																																															
SPTM	T11-TED016B	サプレッショングループ水温度 (34.9°)	②																																																																															
TIP	G51-F081A	TIPバルブアセンブリ (ボール弁A・爆発弁A)	③																																																																															
TIP	G51-F081B	TIPバルブアセンブリ (ボール弁B・爆発弁B)	③																																																																															
TIP	G51-F081C	TIPバルブアセンブリ (ボール弁C・爆発弁C)	③																																																																															
TIP	G51-F081D	TIPバルブアセンブリ (ボール弁D・爆発弁D)	③																																																																															
TIP	G51-F083	TIPバージ隔壁弁	③																																																																															
その他	-	手動弁一式	①																																																																															
その他	-	逆止弁一式	①																																																																															
その他	-	配管一式	①																																																																															

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

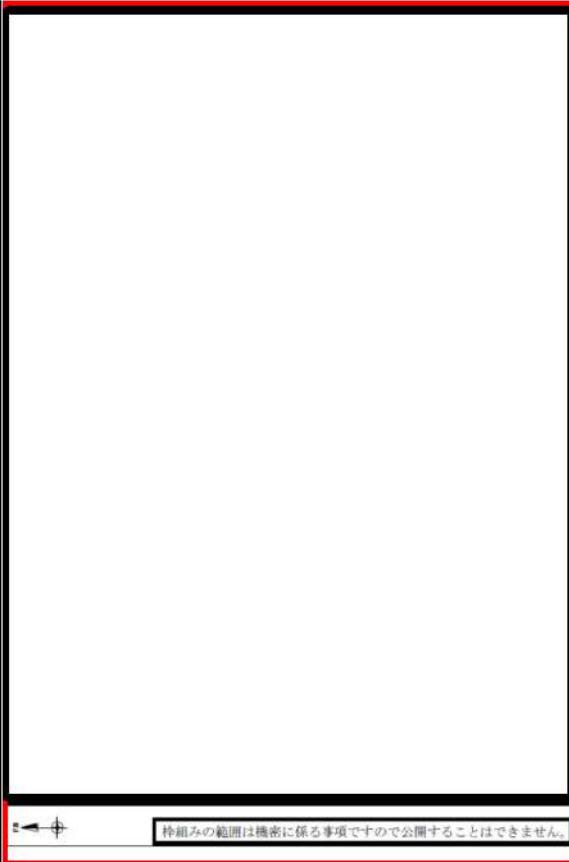
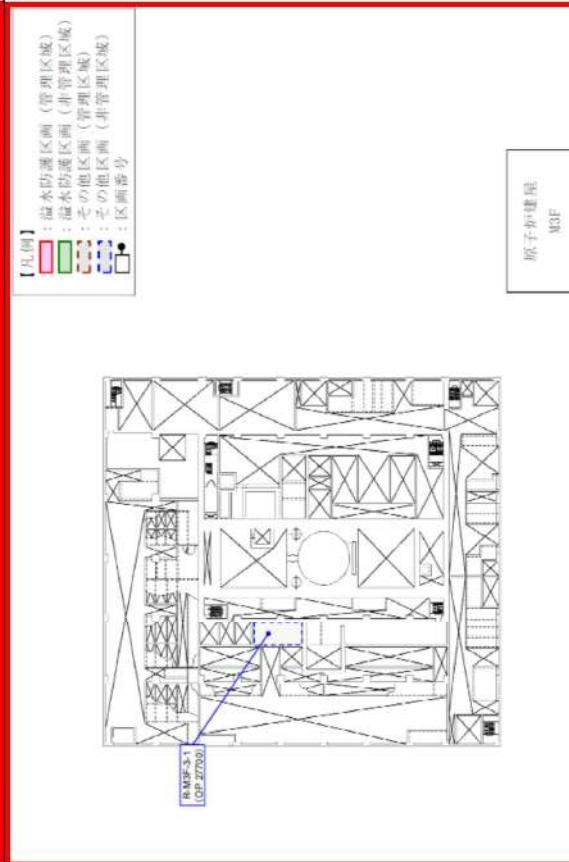
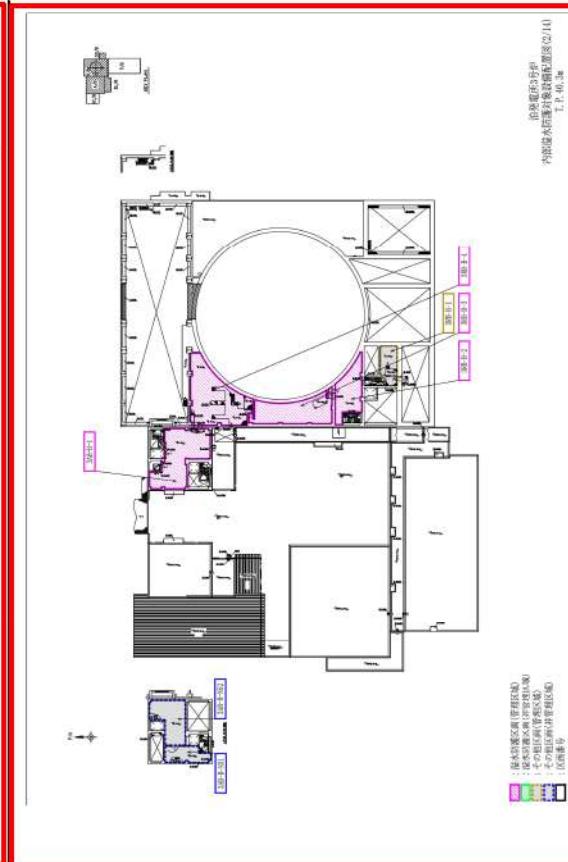
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉 添付資料1.3-1 溢水防護区画の設定	女川原子力発電所2号炉 添付資料7 溢水防護区画図	泊発電所3号炉 添付資料7 溢水防護区画図	相違理由
			<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【女川・大飯】 設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

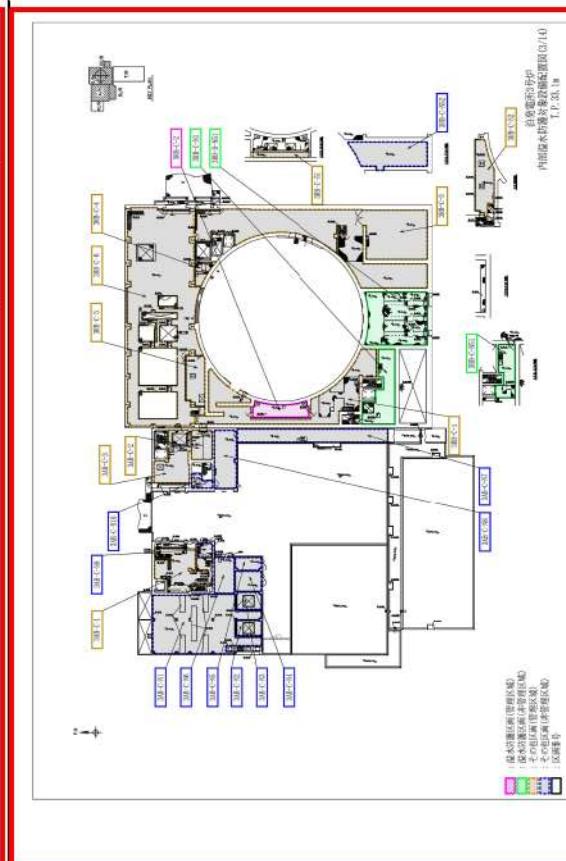
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：溢水防護区画（管理区域）</li> <li>■：溢水防護区画（非管理区域）</li> <li>■：その他区画（管理区域）</li> <li>■：その他区画（非管理区域）</li> </ul> <p>◆：区画番号</p> <p>◆：原子炉建屋 M3F</p> <p>◆：RMP-S1 (OP-Z700)</p> <p>◆：機密範囲</p>	 <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：溢水防護区画（管理区域）</li> <li>■：溢水防護区画（非管理区域）</li> <li>■：その他区画（管理区域）</li> <li>■：その他区画（非管理区域）</li> </ul> <p>◆：区画番号</p> <p>◆：原子炉建屋 M3F</p>	 <p>◆：溢水防護区画（管理区域）</p> <p>◆：溢水防護区画（非管理区域）</p> <p>◆：その他区画（管理区域）</p> <p>◆：その他区画（非管理区域）</p> <p>◆：区画番号</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>拝啓の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ : 洪水防護区域 (管理区域)</li> <li>■ : 洪水防護区域 (非管理区域)</li> <li>■ : その他区域 (管理区域)</li> <li>■ : その他区域 (非管理区域)</li> <li>■ : 区画番号</li> </ul>		<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

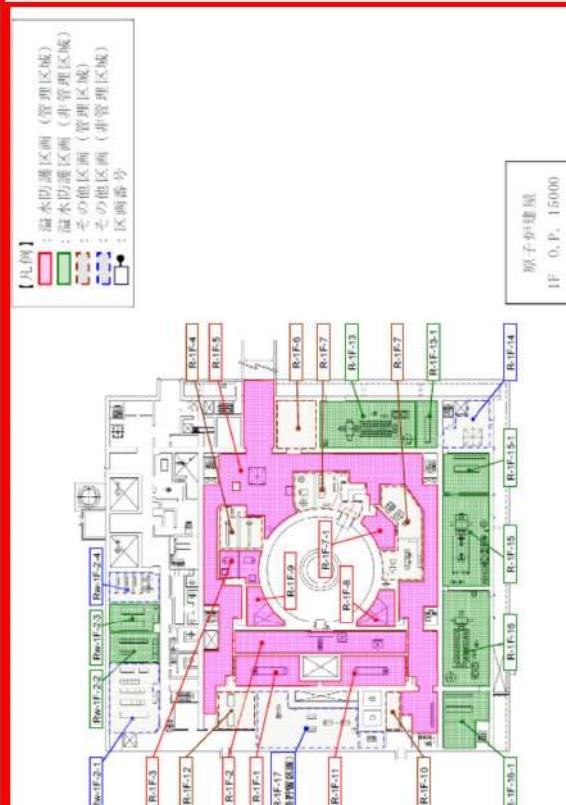
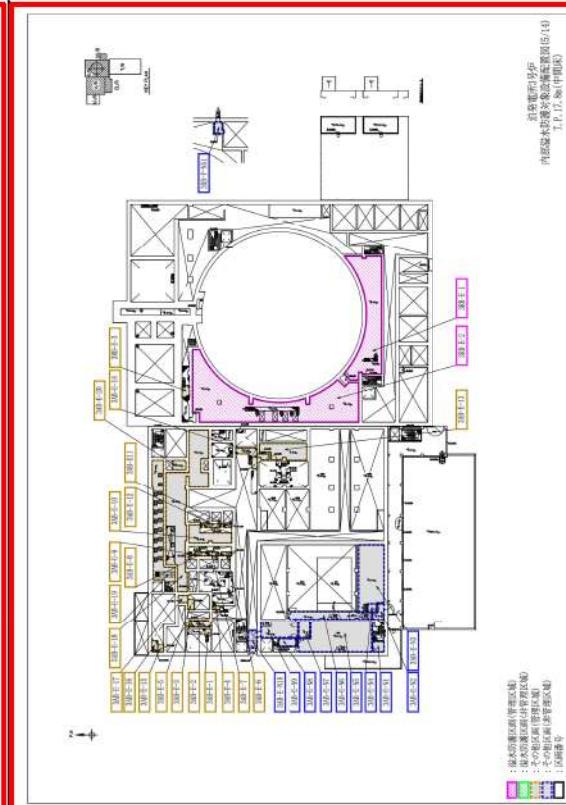
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

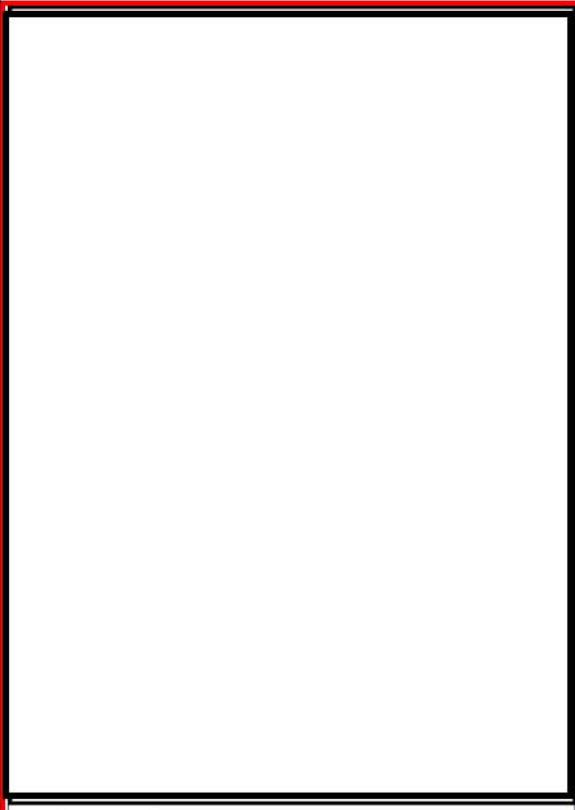
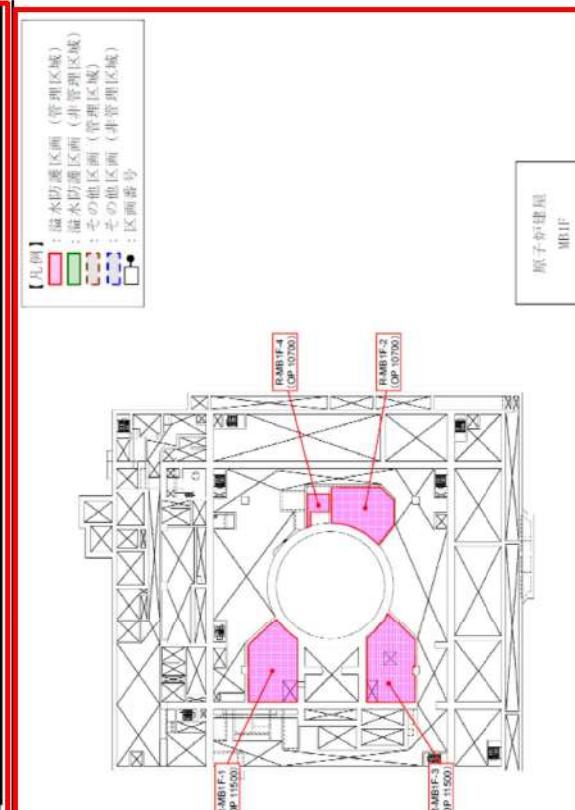
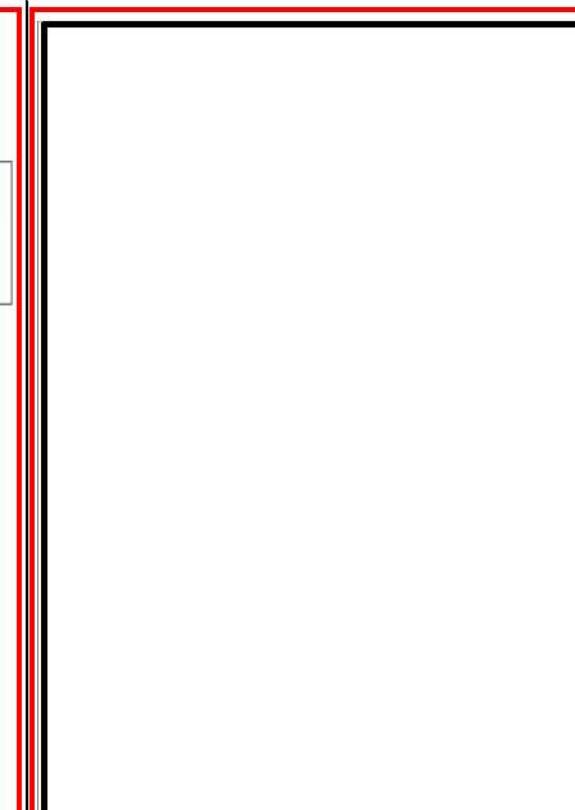
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

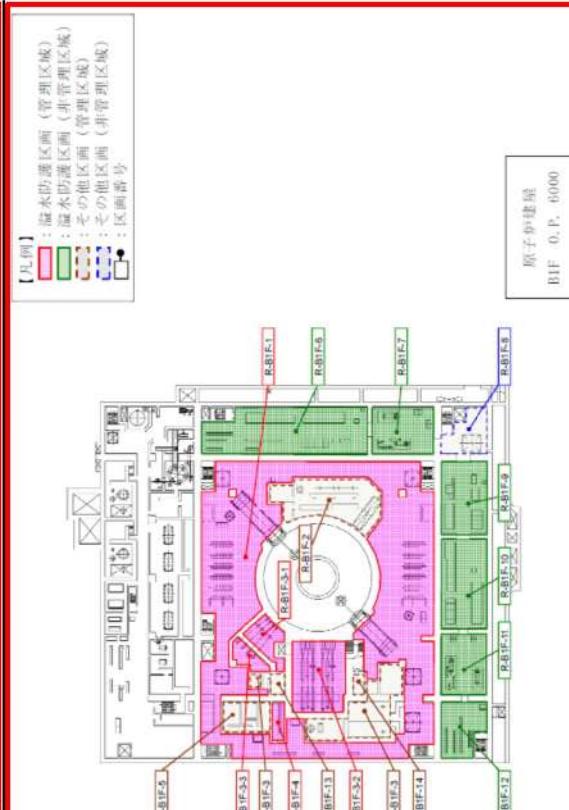
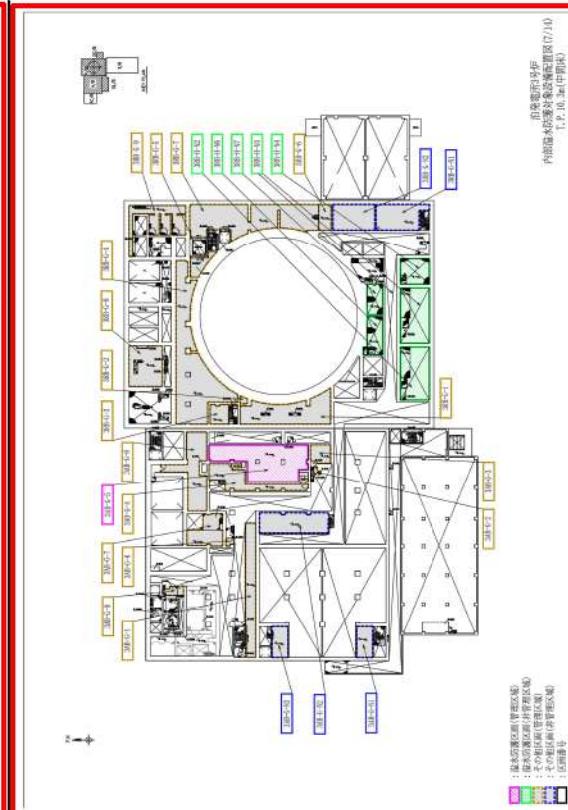
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
 <p>※組みの範囲は機密に係る事項でありますので公開することはできません。</p>	<p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ : 溢水以灘区域（管理区域）</li> <li>■ : 溢水以灘区域（非管理区域）</li> <li>■ : その他区域（管理区域）</li> <li>■ : その他区域（非管理区域）</li> <li>■ : 区画番号</li> </ul>  <p>原子炉建屋 MBF</p>		<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>※組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>[凡例]      緑枠 : 泄水防護区画 (管理区域)      青枠 : 泄水防護区画 (非管理区域)      黄枠 : その他区画 (管理区域)      黄枠 : その他区画 (非管理区域)      ブラック枠 : 区画番号   </p>	 <p>原子炉建屋 B1F O.P. 6000</p> <p>泊発電所3号炉 原発構造物監査報告書(7/14) T.P.10.3.4(印刷用紙)</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

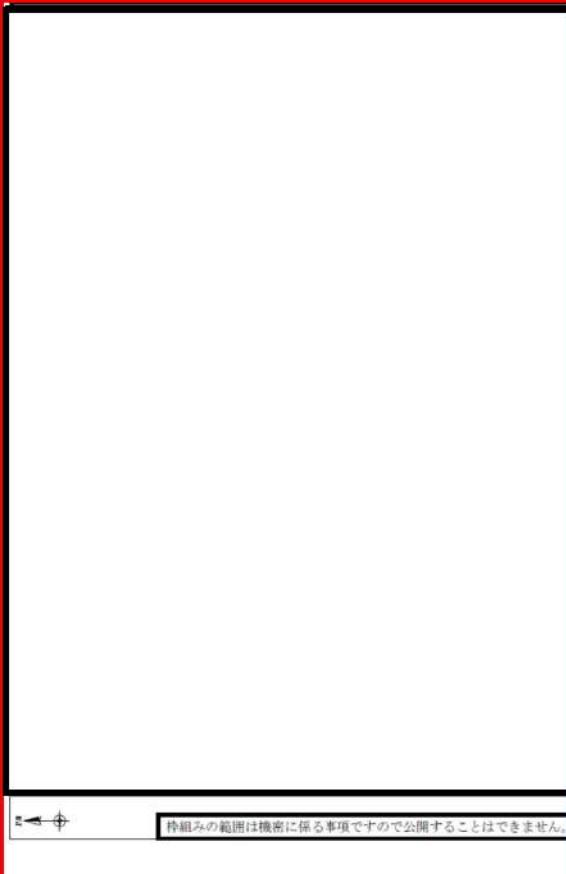
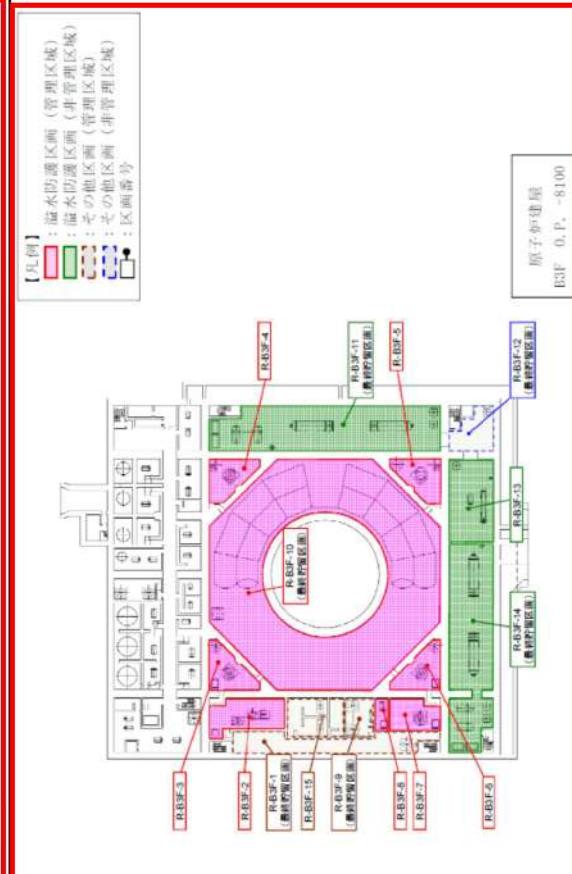
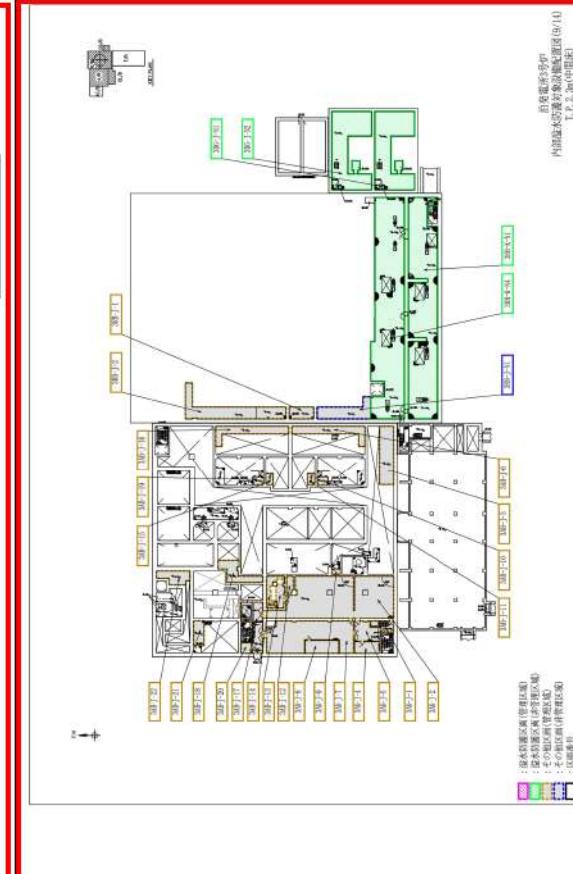
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【例】</p> <p>赤字 : 溢水防護区域画 (管理区域)      青字 : 溢水防護区域画 (非管理区域)      オレンジ : その他区域 (管理区域)      ブルー : 区画番号</p>		<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>
			<p>枠固みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>※組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>[凡例]  <span style="color:red">■</span>: 溢水防護区画 (管理区域)  <span style="color:green">■</span>: 溢水防護区画 (非管理区域)  <span style="color:blue">■</span>: その他区画 (管理区域)  <span style="color:blue">□</span>: その他区画 (非管理区域)  <span style="color:purple">●</span>: 区画番号</p>	 <p>泊発電所 3号炉 E3F 0, P, -8100 原子炉建屋</p> <p>内閣府原子力監視監査団(9月11日) JAEA・NEA(9月11日)</p> <p>内閣府原子力監視監査団(9月11日) JAEA・NEA(9月11日)</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

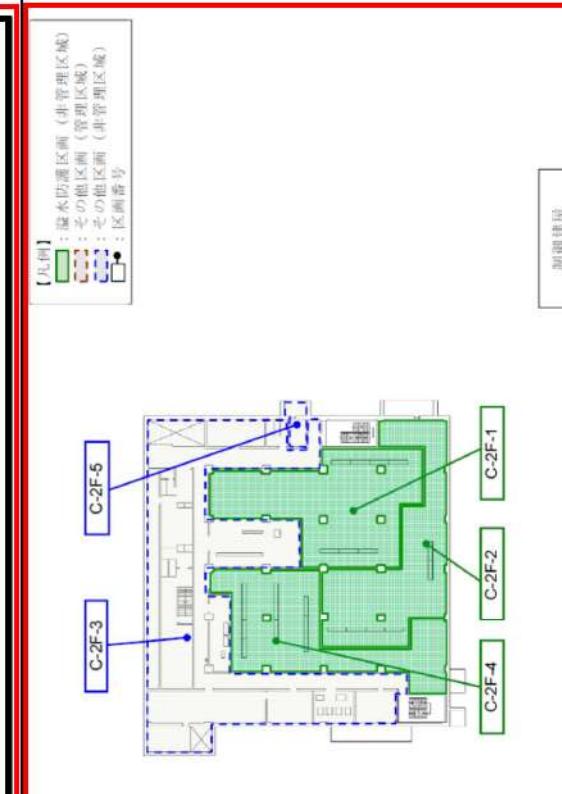
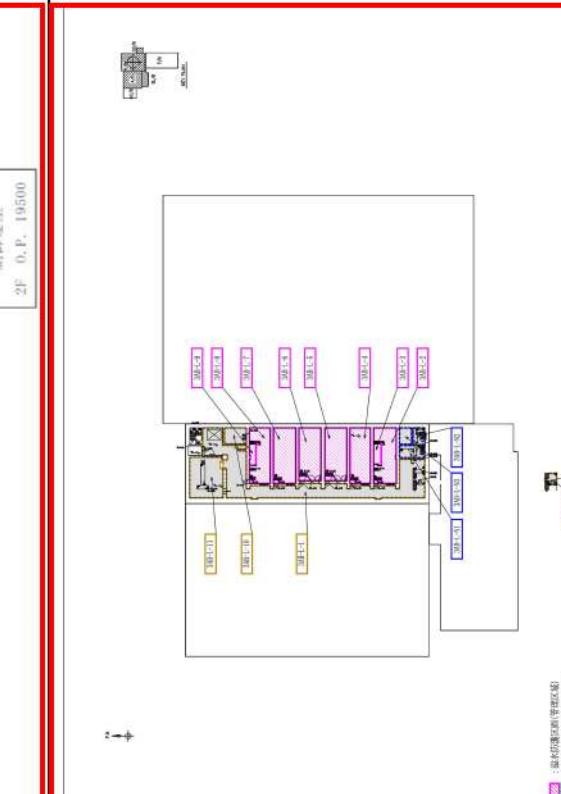
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

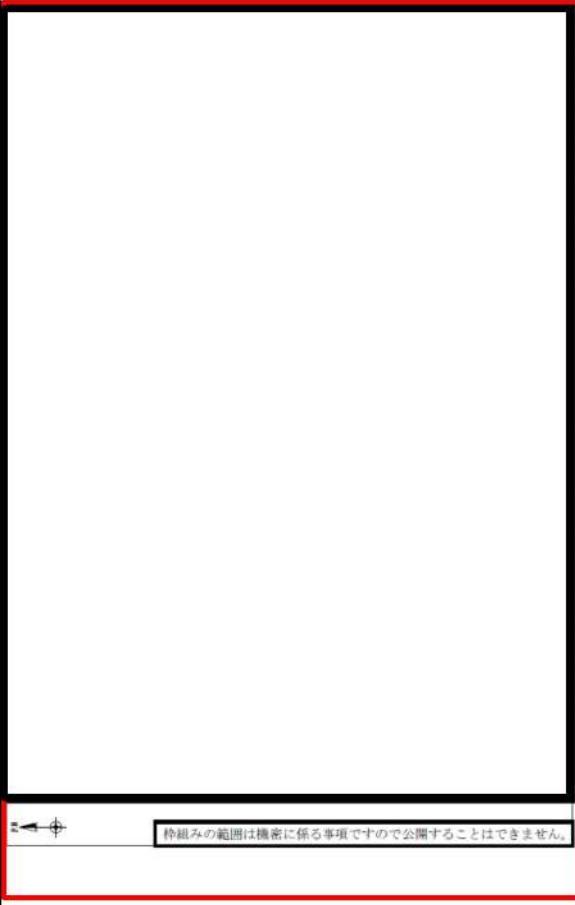
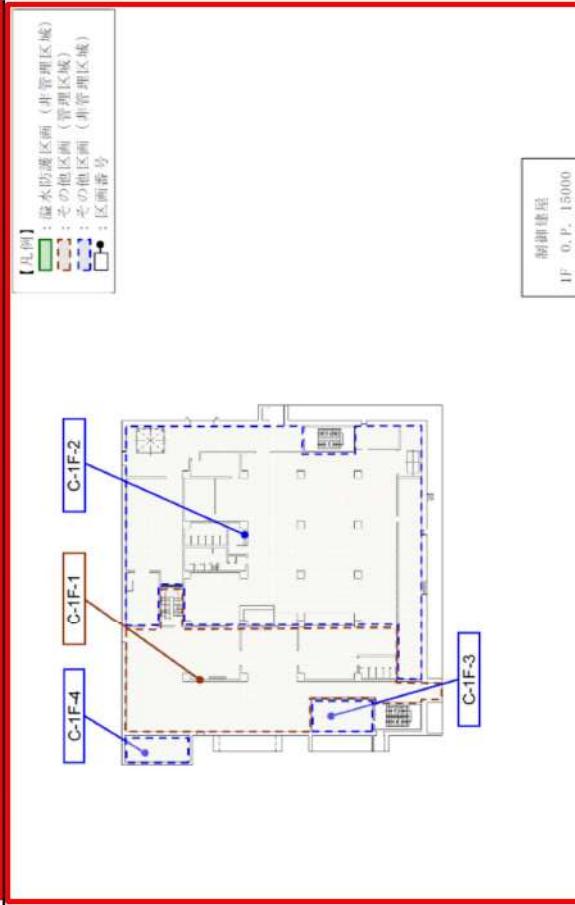
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

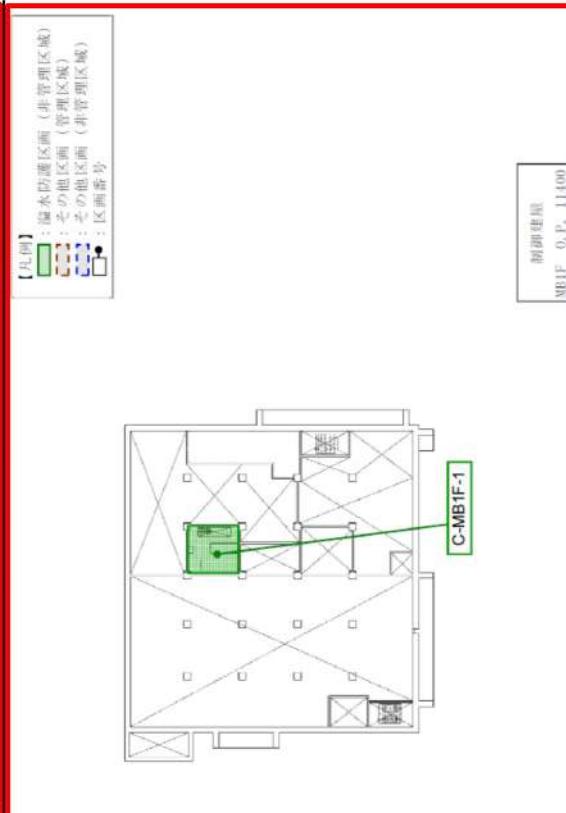
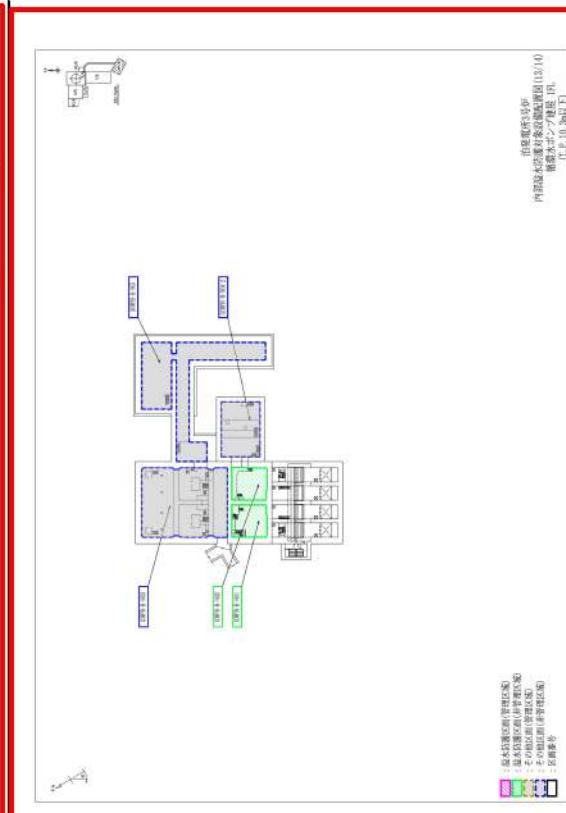
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緑色枠：溢水防護区域（非管理区域）</li> <li>オレンジ枠：その他の区域（管理区域）</li> <li>青色枠：その他の区域（非管理区域）</li> <li>白枠：区画番号</li> </ul> <p>制御建屋 1F O.P. 15000</p>	 <p>内閣府水害対応設備図(2) (2) (2) 泊発電所3号炉 内閣府水害対応設備図(2) (2) (2) 内閣府水害対応設備図(2) (2) (2)</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

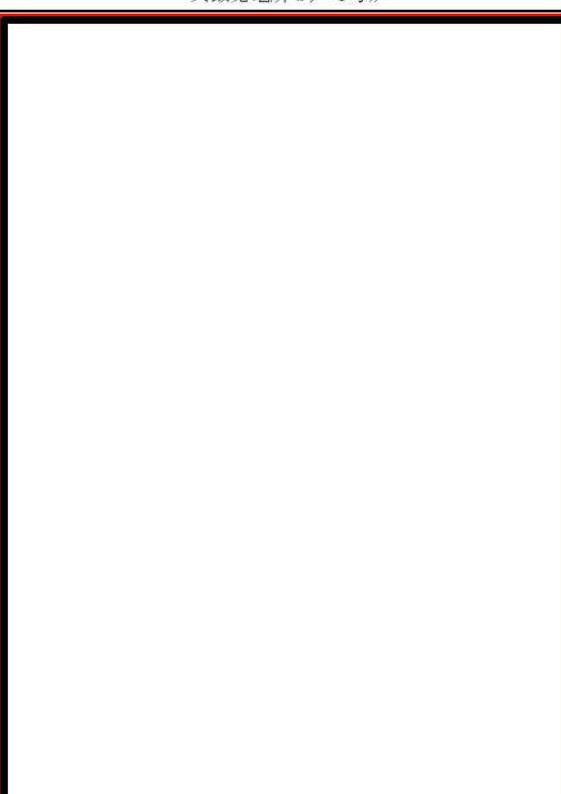
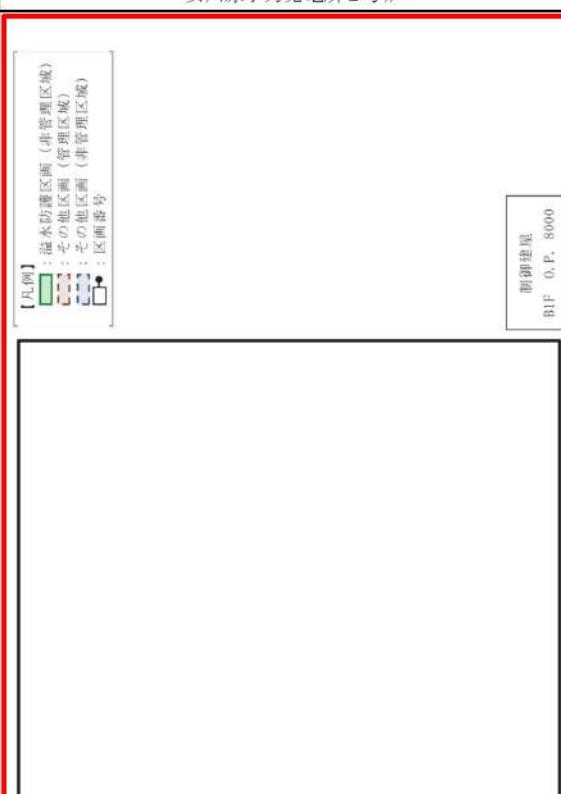
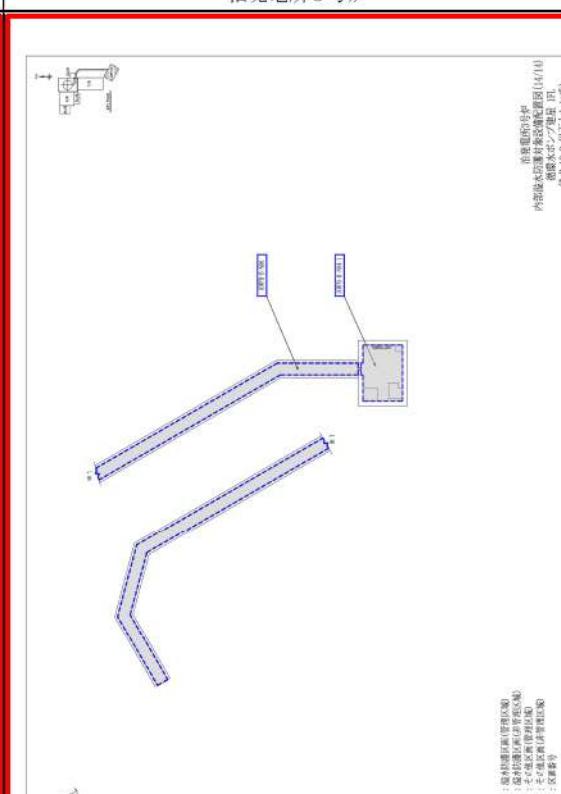
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緑色 : 洪水防護区画 (非管理区域)</li> <li>青色 : その他の区画 (管理区域)</li> <li>赤色 : その他の区画 (非管理区域)</li> <li>白色 : 区画番号</li> </ul>	 <p>【泊発電所3号炉】</p> <p>内蔵水栓対応機器図(3-14)      備考: 13.850(17)</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

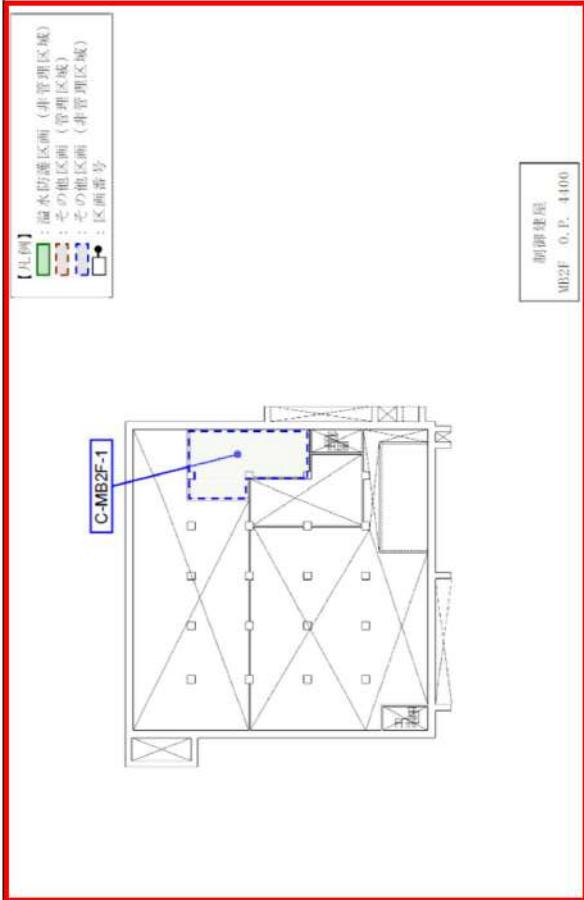
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>大飯発電所3／4号炉</p>  <p>【例】溢水防護区域 (非管理区域)      ■ : その地区区域 (管理区域)      ▲ : その地区区域 (非管理区域)      □ : 区画番号</p> <p>禁制建屋 B1F O.P. 8000</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p>  <p>【例】溢水防護区域 (非管理区域)      ■ : その地区区域 (管理区域)      ▲ : その地区区域 (非管理区域)      □ : 区画番号</p> <p>禁制建屋 B1F O.P. 8000</p> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>	 <p>内部遮断対象区域 (14/14)      循環水ポンプ室      CT-P.10.2a(下部)レンジ</p> <p>○ : その地区区域 (管理区域)      ▲ : その地区区域 (非管理区域)      □ : 区画番号</p>	<p>【女川・大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

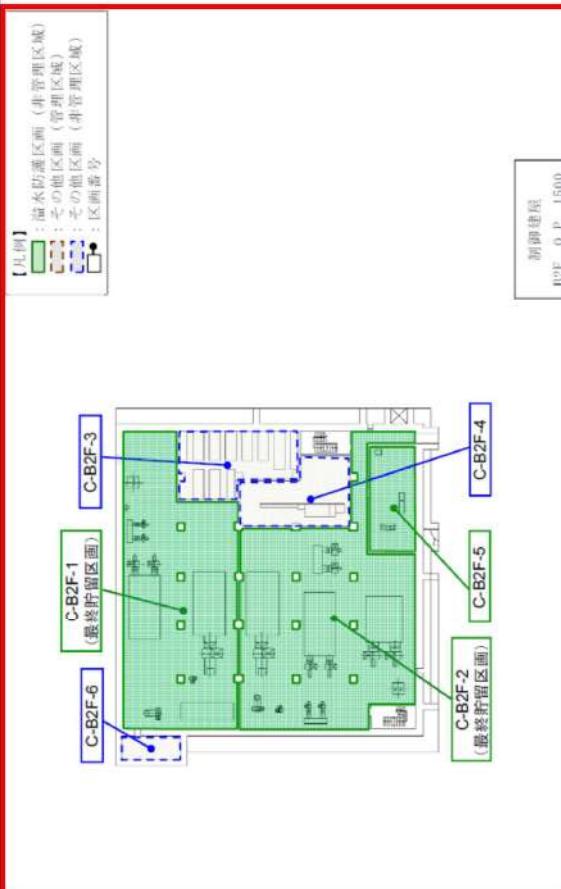
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span style="color: green;">■</span> : 溢水防護区画（非管理区域）  <span style="color: blue;">■</span> : その他の区画（管理区域）  <span style="color: orange;">■</span> : その他の区画（非管理区域）  <span style="color: yellow;">■</span> : 区画番号  <span style="color: black;">□</span> : 建物番号  <span style="color: black;">●</span> : その他     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">       C-MB2F-1     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">       制御建屋 MB2F O.P. 4400     </div>		<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ : 溢水防護区画（非管理区域）</li> <li>□ : その他の区画（管理区域）</li> <li>△ : その他の区画（非管理区域）</li> <li>● : 区画番号</li> </ul>	<p>泊発電所3号炉 R2F O.P. 1500</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 【例】 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ : 溢水防護区域（非管理区域）</li> <li>□ : その他区域（非管理区域）</li> <li>● : 区画番号</li> </ul> 海水ポンプ室		<b>【女川】</b> 設計方針の相違 プラント構成及び機器配置の相違

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

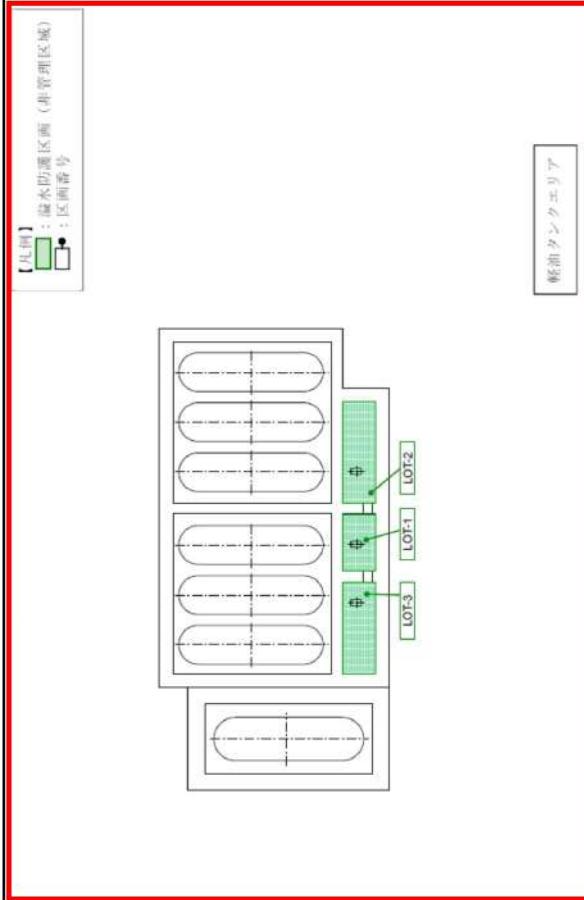
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <small>【凡例】</small> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：溢水防護区画（管理区域）</li> <li>□：区画番号</li> </ul>		<small>【女川】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント構成及び機器配置の相違</small>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

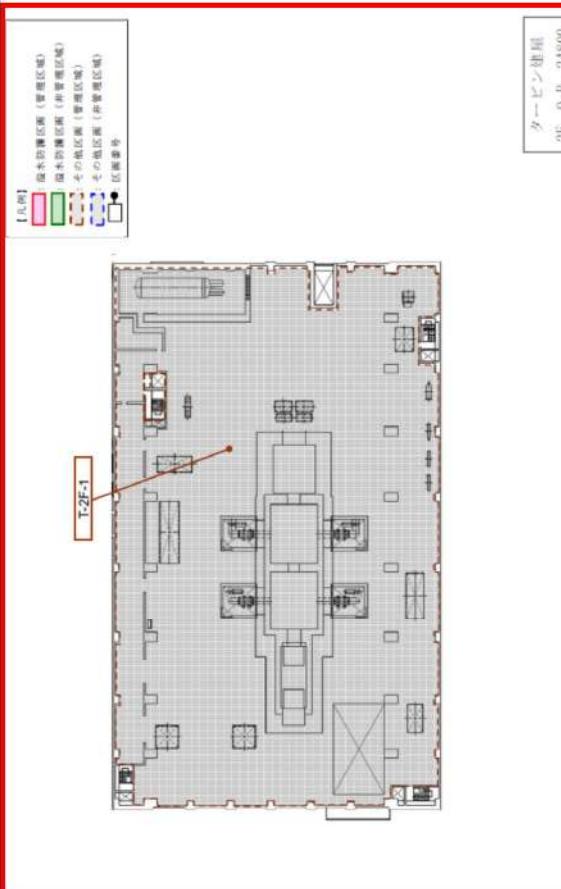
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

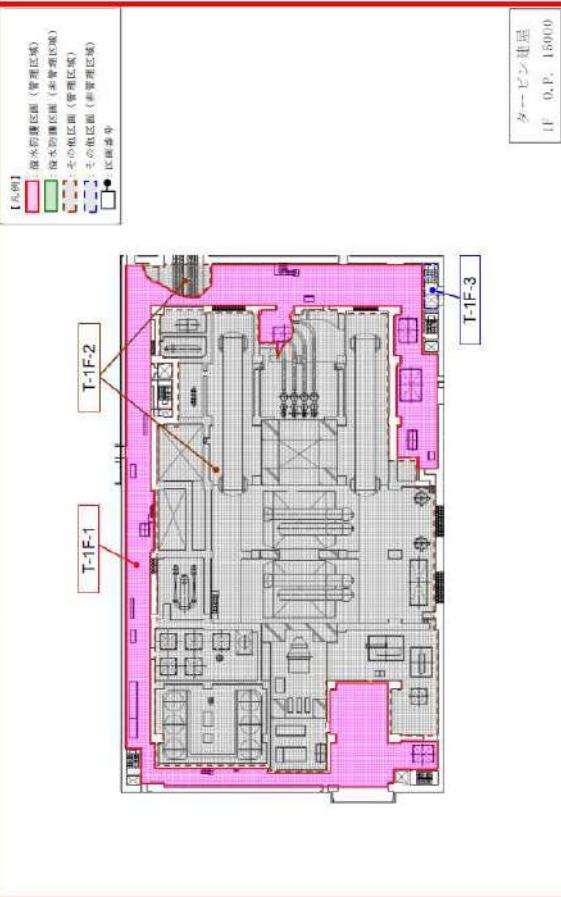
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

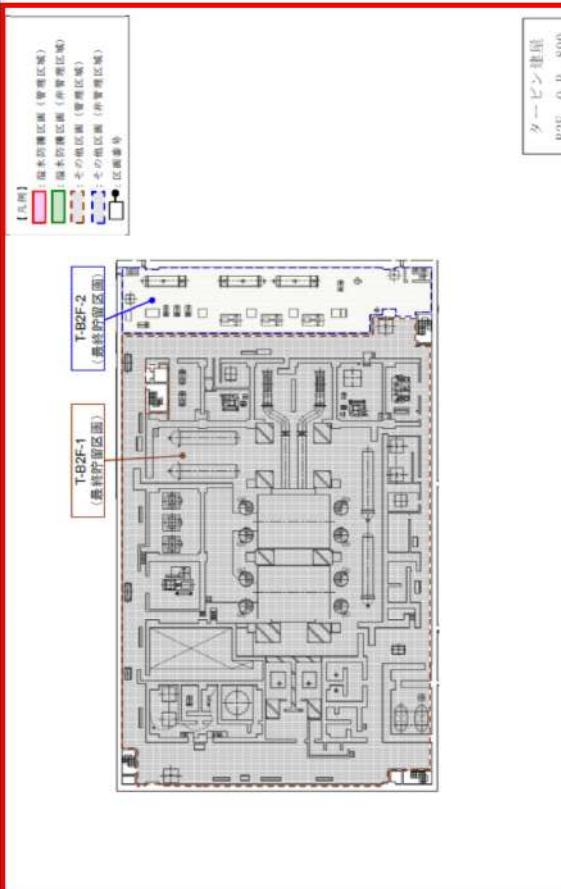
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料7)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個別防護区域 (警報区域)</li> <li>■ 連鎖防護区域 (警報区域)</li> <li>■ その他区域 (警報区域)</li> <li>■ その他の区域 (区域番号)</li> </ul> <p>T-B2F-1 (最終防護区域)</p> <p>T-B2F-2 (最終防護区域)</p> <p>タービン建屋 R2F O.P. 800</p>		<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント構成及び機器配置の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料8)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>17 滞留面積の精緻化に伴う没水影響評価について</p> <p>1. はじめに 前回の現場調査以降、火災防護設備、重大事故等対処設備、多様性拡張設備等の追加設置に伴い没水影響評価に用いる滞留面積の減少があることから、今回、滯留面積の精緻化を図り没水影響評価について再評価を実施した。</p> <p>2. 没水影響評価 没水影響評価に用いる滞留面積の精緻化に伴う没水影響評価の変更については、ゆらぎも含め溢水水位の上昇はわずかであり、防護対象設備が機能喪失しないことを確認した。 没水評価結果の例を表1に示す。</p>	<p>添付資料8 滯留面積の算出について</p> <p>1. 滞留面積の算出要領 滯留面積については、没水影響評価結果に与える影響が大きいことから、以下のような条件にて算出することを基本とし、評価における保守性を確保する。</p>	<p>添付資料8 滯留面積の算出について</p> <p>1. 滞留面積の算出要領 滯留面積については、没水影響評価結果に与える影響が大きいことから、以下のような条件にて算出することとし、評価における保守性を確保する。</p>	<p>【大飯】 記載方針の相違 大飯は没水評価実施後に追加設置した設備等による滯留面積の減少分を精緻化して没水評価の再評価を実施していることを説明しているが、滯留面積の算出方法は泊と同様であり、欠損面積を現場実測している。</p> <p>【女川】 設計方針の相違 泊は全エリアに対して同様の算出方法としていることから「基本」という記載はしていない。</p> <p>【女川・大飯】 記載方針の相違 泊は滯留面積の算出過程が明確となるよう、最初に算出方法を記載する構成としている。</p> <p>【女川】 設計方針の相違 泊は滯留面積の算出エリアの面積及びエリア内にある基礎等のコンクリート構造物は建築図面より算出し、評価に用いる滯留面積が現場の実態に即した精緻なものとなるよう、常設機器等の欠損面積を現場実測により算出している。 (大飯3/4号炉、美浜3号炉、高浜1/2/3/4号炉と同様)</p>

表1 滞留面積を精緻化の伴う没水影響評価について（例）

原子炉周辺建屋 E.L.+10.0m 非管理区域 3EB-N12A 自動スプリンクラー								
	① 溢水量 [m <sup>3</sup> ]	② 滞留面積 [m <sup>2</sup> ]	床勾配 [m]	③ 溢水水位 [m]	防護対象設備	④ 機前喪失高さ [m]	⑤ 影響評価	⑥ 判定
変更前	21.6	165.7	0.00	0.131	3A、3B制御用空気圧縮機制御盤 (3IAC-A、B)	0.44	③<④	○
変更後		71.8	0.00	0.301				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料8)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(1) インプット</p> <p>a. 原則として、床軸体図を用いて軸体寸法を読み取り、手計算にて床面積を算出する。</p> <p>b. 一部形状が複雑なエリアは計算が繁雑となることから、CADデータを使用し床面積を算出する。</p> <p>(2) 算出範囲</p> <p>a. 壁、柱等で囲まれた範囲を単位区画として面積を算出する。(図1参照)</p> <p>b. アクセス開口及び迷路部等は床面積から除く。(図1参照)</p> <p>c. サンプ等、基準床面より掘り込んでいる部分について、有効な床面積として算出する。(図2参照)</p>	<p>(2) インプット</p> <p>a. 全面積及び基礎等欠損面積は、建築図(コンクリート形状図)を用いて軸体寸法を読み取り、手計算にて床面積を算出する。</p> <p>b. 現場調査欠損面積は、現場調査により対象となる機器等の寸法を実測し、欠損面積を算出する。</p> <p>(3) 算出範囲</p> <p>a. 壁、柱等で囲まれた範囲を単位区画として面積を算出する。(図1参照)</p> <p>b. コンクリート基礎、柱、ピット、スロープ、床開口は床面積から除く。(図1参照)</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊は全エリアに対して同様の算出方法としていることから「原則」という記載はしていない。</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊は滞留面積の算出エリアの面積及びエリア内にある基礎等のコンクリート構造物は建築図面より算出し、評価に用いる滞留面積が現場の実態に即した精緻なものとなるよう、常設機器等の欠損面積を現場実測により算出している。</p> <p>(大飯3/4号炉、美浜3号炉、高浜1/2/3/4号炉と同様)</p> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊では迷路部も床面積として算出している。(大飯3/4号炉、美浜3号炉、高浜1/2/3/4号炉と同様)</li> <li>・また、ピットは欠損面積として扱っており、有効な床面積として含んでいない。(大飯3/4号炉、美浜3号炉、高浜1/2/3/4号炉と同様)</li> </ul>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料8)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
(3) 通常評価  没水評価を実施する際は、原則として、算出した床面積の値に0.7倍した値を使用する。基準床面より盛り上がっている部分(機器基礎、床ハッチ、スロープ、サンプ周囲のカーブ、サポート類等)は0.7の係数に含まれるものと考える。ただし、床面積に対して機器基礎の占有率が30%以上となる区画は、占有率に応じた係数を使用する。機器基礎の占有率に応じた係数使用区画について表1に示す。	(4) 現場調査欠損面積の算出  現場調査欠損面積は、現場実測により算出した欠損面積に対し、すべてのエリアにおいて一律に25%の割り増しを行う。現場調査による欠損面積の対象外とした0.01m <sup>2</sup> 未満の機器は割り増し分に含まれるものと考える。  現場調査欠損面積の現場実測の例を図2に示す。	(4) 現場調査欠損面積の算出  現場調査欠損面積は、現場実測により算出した欠損面積に対し、すべてのエリアにおいて一律に25%の割り増しを行う。現場調査による欠損面積の対象外とした0.01m <sup>2</sup> 未満の機器は割り増し分に含まれるものと考える。  現場調査欠損面積の現場実測の例を図2に示す。	【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 ・女川は床面積に対する機器等の占有率に応じて通常評価又は詳細評価を実施しているのに対し、泊は全エリアに対して同様の算出方法としている。 ・また、女川は滞留面積の算出時に係数を乗じることで保守性を確保しているのに対し、泊は全区画の欠損面積を一律に25%割り増しすることで保守性を確保している。
(4) 詳細評価  最終的な溢水の滯留先となる最地下階の共通エリアや、復水器室等の機器の占有率が大きいエリアについては、詳細に算出した面積を使用する。(図3参照)  対象とする区画は表2のとおり。	(4) 詳細評価  最終的な溢水の滯留先となる最地下階の共通エリアや、復水器室等の機器の占有率が大きいエリアについては、詳細に算出した面積を使用する。(図3参照)  対象とする区画は表2のとおり。	(4) 詳細評価  最終的な溢水の滯留先となる最地下階の共通エリアや、復水器室等の機器の占有率が大きいエリアについては、詳細に算出した面積を使用する。(図3参照)  対象とする区画は表2のとおり。	【女川】 設計方針の相違 同上

表1 機器基礎の占有率に応じた係数使用区画

No.	区画番号	建屋	フロア	床面積 [m <sup>2</sup> ]	機器基礎面積 [m <sup>2</sup> ]	機器基礎の占有率 [%]	使用する係数	エリア名
1	R-B1F-12	R/B	B1F	102.6	33.5	33.0	0.65	区分B 非常用MCC室
2	R-1F-15	R/B	1F	200.9	65.2	33.0	0.65	D/G (OPCS) 室
3	R-2F-2-2	R/B	2F	50.4	15.7	32.0	0.65	FCS 内結合装置(A) 室
4	R-2F-2-3	R/B	2F	50.4	15.7	32.0	0.65	FCS 内結合装置(B) 室
5	R-2F-2-5	R/B	2F	14.5	5.3	37.0	0.6	CAMS ラック(A) 室
6	R-2F-2-6	R/B	2F	14.5	5.3	37.0	0.6	CAMS ラック(B) 室
7	R-2F-13-1	R/B	2F	33.1	11.6	36.0	0.6	D/G (A) 非常用逆張機室
8	R-2F-17	R/B	2F	27.4	10.2	38.0	0.6	燃料デイタンク(A) 室
9	R-2F-18	R/B	2F	32.1	10.2	32.0	0.65	燃料デイタンク(B) 室
10	R-2F-19	R/B	2F	27.7	9.1	33.0	0.65	燃料デイタンク(GPCS) 室
11	C-B2F-3	C/B	2F	113.7	57.9	51.0	0.45	DC200V バッテリ室
12	C-B1F-2	C/B	B1F	44.4	13.7	31.0	0.65	DC125V バッテリ室(A)
13	C-B1F-4	C/B	B1F	20.3	28.0	40.0	0.55	DC125V バッテリ室(B)
14	C-B1F-5	C/B	B1F	211.8	62.1	30.0	0.65	計測制御室
15	C-B1F-6-1	C/B	B1F	32.5	10.1	32.0	0.65	ESS 整室

表2 詳細に面積を算出した区画

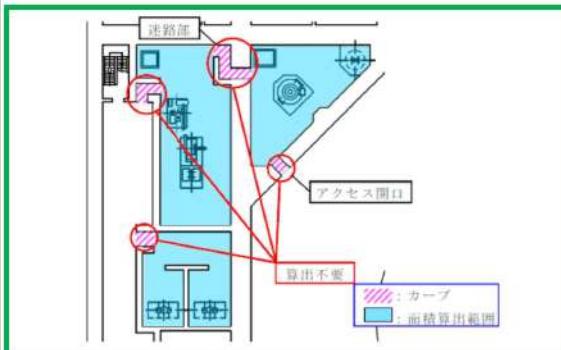
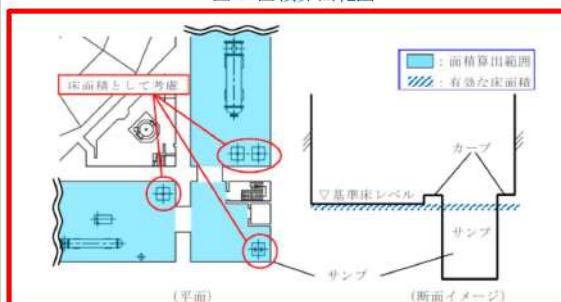
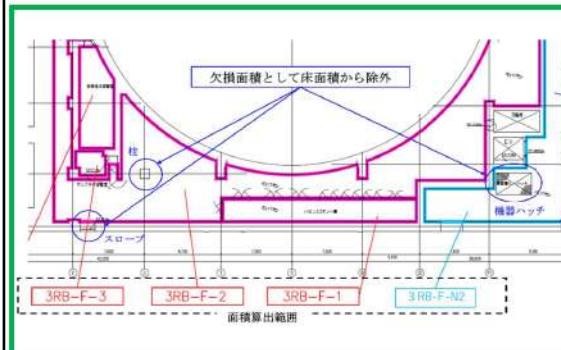
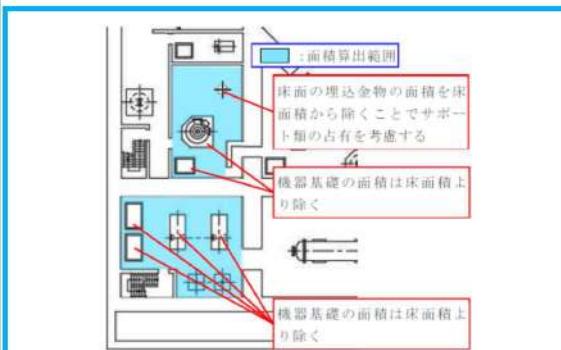
No.	区画番号	床面積 [m <sup>2</sup> ]	機器基礎面積 [m <sup>2</sup> ]	埋込金物面積 [m <sup>2</sup> ]	合計面積 [m <sup>2</sup> ]
1	R-B3F-1	156.7	0.4	1.0	155.3
2	R-B3F-12	70.8	0	0	70.8
3	復水器室*	1621.5	286.0	73.0	1262.5

\* 復水器室は T-B2F-1 の面積に含め、没水評価で使用している。

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料8)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>9 スロープ部の滞留面積の考え方について</p> <p>大飯発電所の現場にあるスロープ部の考え方については、図1のとおり、スロープ部全面及びプロアレベルよりも高い床面は、滞留面積から除いて評価している。</p> <p>(例)</p>  <p>3号炉 E.L. + 26.0m 北側通路部には、勾配が76cmのスロープがあるため、スロープ部全面及びプロアレベルよりも高い床面は、滞留面積から除いている。</p> <p>図1 スロープ部の滞留面積の考え方</p> <p>詳細の範囲は機密に係る事項のため、公開できません。</p>	<p>(5) 数値処理 面積の算出は「<math>m^2</math>」単位で行い、小数第2位を切り捨てる。(床面積算出後に切り捨てを実施し、更に0.7倍後に切り捨てる。)</p>  <p>図1 面積算出範囲</p>  <p>図2 掘り込み部の扱い (例: 最地下階サンプ)</p>	<p>(5) 数値処理 面積の算出は「<math>m^2</math>」単位で行い、小数第2位を切り捨てる。</p>  <p>欠損面積として床面積から除外 柱 スロープ 機器ハッチ 面積算出範囲 3RB-F-3 3RB-F-2 3RB-F-1 3RB-F-N2</p> <p>図1 面積算出範囲</p>  <p>床面積の埋込金物の面積を床面積から除くことサポート構の占有を考慮する 機器基礎の面積は床面積より除く 機器基礎の面積は床面積より除く</p> <p>図3 詳細に床面積を算出する場合の算出範囲(例)</p>	<p>【女川】 設計方針の相違 泊では最終的な滞留面積算出時に切り捨て処理を行っている。</p> <p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 建屋構成の違いによる</p> <p>【女川】 設計方針の相違 泊ではピットは欠損面積として扱っており、有効な床面積として含んでいない。</p> <p>【女川】 記載方針の相違 泊ではすべてのエリアに対して同様の算出方法により滞留面積を算出することから、女川のように「通常評価」と「詳細評価」の区別は無いが、機器基礎を床面積から除外していることは同様である。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料8)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																											
<p>(17 滞留面積の精緻化に伴う没水影響評価について)</p> <p>(例) 火災防護設備(盤)</p> <p>大飯3号炉 床面積精緻化に伴う対象物の調査結果</p> <p><b>管理表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">対象物</th> <th rowspan="2">測定寸法(mm)</th> <th rowspan="2">欠損面積(m<sup>2</sup>)</th> <th colspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>形状:□</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主 釜</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>033 ①</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>033 ②</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>033 ③</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>033 ④</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>034 ①</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> <tr> <td>034 ②</td> <td>土台</td> <td>650mm 410mm</td> <td>0.267m<sup>2</sup></td> <td>盤1個</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>配置図</b></p> <p><b>写真</b></p> <p>No. 33①～④</p> <p>No. 34①～②</p> <p><b>図1 滞留面積精緻化に伴う資料について</b></p> <p>押印の範囲は機密に係る事項のため、公開できません。</p>	番号	対象物	測定寸法(mm)	欠損面積(m <sup>2</sup> )	備考		種類	形状:□	主 釜	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		033 ①	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		033 ②	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		033 ③	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		033 ④	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		034 ①	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		034 ②	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個		<p>(例) 原子炉建屋 33.1m 3RB-C-1通路、エアロック室①</p> <p><b>管理表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th rowspan="2">対象物</th> <th colspan="2">未方針: □</th> <th rowspan="2">未実現: ○</th> <th colspan="2">未実現: □</th> <th colspan="2">未実現: ○</th> <th colspan="2">未実現: □</th> <th colspan="2">未実現: ○</th> </tr> <tr> <th>未</th> <th>実</th> <th>未実現: □</th> <th>未実現: ○</th> <th>未実現: □</th> <th>未実現: ○</th> <th>未実現: □</th> <th>未実現: ○</th> <th>未実現: □</th> <th>未実現: ○</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>壁(耐火構造)</td> <td></td> <td></td> <td>400</td> <td>0.021</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>118</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>床(耐火構造)</td> <td></td> <td></td> <td>400</td> <td>0.021</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>118</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>床(床面積計測用) (3B21-1)</td> <td>500</td> <td>200</td> <td>8.125</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>300</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>壁(壁面積計測用) (3B21-1)</td> <td>400</td> <td>200</td> <td>8.125</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>700</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>耐火構造</td> <td></td> <td></td> <td>300</td> <td>0.021</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>118</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ドア(耐火門) (A14 (3B21-4))</td> <td>400</td> <td>200</td> <td>8.125</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>耐火構造</td> <td></td> <td></td> <td>100</td> <td>0.011</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>床(床面積計測用)</td> <td></td> <td></td> <td>320</td> <td>0.022</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>400</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>アーバストレイン(裏地紙)</td> <td>500</td> <td>200</td> <td>8.125</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>アーバストレイン(裏地紙)</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>8.125</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>アーバストレイン(裏地紙)</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>8.125</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>1800</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>配置図</b></p> <p><b>写真</b></p> <p>No. 1, 2</p> <p>No. 3</p> <p>No. 4</p> <p>No. 5</p> <p>No. 6</p> <p>No. 7</p> <p><b>図2 床面積欠損対象物の測定結果例</b></p>	No.	対象物	未方針: □		未実現: ○	未実現: □		未実現: ○		未実現: □		未実現: ○		未	実	未実現: □	未実現: ○	1	壁(耐火構造)			400	0.021			0	118			2	床(耐火構造)			400	0.021			0	118			3	床(床面積計測用) (3B21-1)	500	200	8.125				300	1800			4	壁(壁面積計測用) (3B21-1)	400	200	8.125				700	1800			5	耐火構造			300	0.021			0	118			6	ドア(耐火門) (A14 (3B21-4))	400	200	8.125				0	1800			7	耐火構造			100	0.011			0	1800			8	床(床面積計測用)			320	0.022			0	400			9	アーバストレイン(裏地紙)	500	200	8.125				0	1800			10	アーバストレイン(裏地紙)	200	200	8.125				0	1800			11	アーバストレイン(裏地紙)	200	200	8.125				0	1800								
番号					対象物	測定寸法(mm)	欠損面積(m <sup>2</sup> )	備考																																																																																																																																																																																																						
	種類	形状:□																																																																																																																																																																																																												
主 釜	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
033 ①	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
033 ②	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
033 ③	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
033 ④	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
034 ①	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
034 ②	土台	650mm 410mm	0.267m <sup>2</sup>	盤1個																																																																																																																																																																																																										
No.	対象物	未方針: □		未実現: ○	未実現: □		未実現: ○		未実現: □		未実現: ○																																																																																																																																																																																																			
		未	実		未実現: □	未実現: ○	未実現: □	未実現: ○	未実現: □	未実現: ○	未実現: □	未実現: ○																																																																																																																																																																																																		
1	壁(耐火構造)			400	0.021			0	118																																																																																																																																																																																																					
2	床(耐火構造)			400	0.021			0	118																																																																																																																																																																																																					
3	床(床面積計測用) (3B21-1)	500	200	8.125				300	1800																																																																																																																																																																																																					
4	壁(壁面積計測用) (3B21-1)	400	200	8.125				700	1800																																																																																																																																																																																																					
5	耐火構造			300	0.021			0	118																																																																																																																																																																																																					
6	ドア(耐火門) (A14 (3B21-4))	400	200	8.125				0	1800																																																																																																																																																																																																					
7	耐火構造			100	0.011			0	1800																																																																																																																																																																																																					
8	床(床面積計測用)			320	0.022			0	400																																																																																																																																																																																																					
9	アーバストレイン(裏地紙)	500	200	8.125				0	1800																																																																																																																																																																																																					
10	アーバストレイン(裏地紙)	200	200	8.125				0	1800																																																																																																																																																																																																					
11	アーバストレイン(裏地紙)	200	200	8.125				0	1800																																																																																																																																																																																																					

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉						女川原子力発電所2号炉						泊発電所3号炉						相違理由		
						添付資料 1.3-3						添付資料 9						添付資料 9		
溢水影響評価で止水を期待できる設備						表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(1/5)						表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(1/3)						【大飯】		
号炉	設置場所	設置高さ	対象	新設	箇所数	対象	種類	区分	箇所数	対象	種類	区分	箇所数	対象	種類	区分	箇所数	記載表現の相違		
3号炉 原子炉周辺建屋 (管理区域)	E. L. + 3.5m	逆流防止弁	機器ドレン 逆止弁	既設	2	RCIC タービンポンプ室 (R-B3F-2)	水密扉	既設 (改造)	1	3W-WW-500 (3-T/D AFWPT 排気管温水ピット行きドレン管逆止弁) (-)	逆止弁	新設	1	T.P. 2.3m	3W-WW-501 (3-T/D AFWPT リーク管温水ピット行きドレン管逆止弁) (-)	逆止弁	新設	1	・女川審査実績の反映により表の名称が異なる。	
			ペント逆止弁	新設	1	FPMW ポンプ室 (R-B3F-8)	水密扉	逆流防止 フランジ	5	3W-WW-502 (3-R/B 非管理区域ドレン管定流ピット行きドレン管逆止弁) (-)	逆止弁	新設	1		3W-WW-503 (3-R/B 非管理区域ドレン管定流ピット行きドレン管逆止弁) (-)	逆止弁	新設	1	・また、表中の記載表現も一部異なるが、「号炉」以外の記載情報量に差異はない。	
			目皿逆止弁	新設	11	RHR ボンブ(C)室 (R-B3F-7)	水密扉	既設 (改造)	1	3W-WW-504 (3-主蒸気管室ドレン管定流ピット行きドレン管逆止弁) (-)	逆止弁	新設	1		水密扉 No. 69 (3RB-K-N1)	水密扉	新設	1	【女川】	
			サンプタンク*	既設	1	RHR ボンブ(B)室 (R-B3F-6)	水密扉	既設	1	水密扉 No. 93 (3RB-H-N1)	水密扉	新設	1		水密扉 No. 93 (3RB-H-N1)	水密扉	新設	1	記載表現の相違	
			機器ドレン 逆止弁	新設	9	HPCS ポンプ室 (R-B3F-5)	水密扉	既設	1	水密扉 No. 154 (3RB-H-N1)	水密扉	新設	1		水密扉 No. 154 (3RB-H-N1)	水密扉	新設	1	設備名称の相違	
	E. L. + 10.0m	逆流防止弁	目皿逆止弁	新設	14	LPCS ポンプ室 (R-B3F-4)	水密扉	既設	1	止水板 No. A (3RB-H-N5)	止水板	新設	1		止水板 DG-A (3RB-H-N11)	止水板	新設	1		
			水密扉	新設	1	RHR ボンブ(A)室 (R-B3F-3)	水密扉	既設	1	止水板 DG-B (3RB-H-N10)	止水板	新設	1		止水板 DG-B (3RB-H-N10)	止水板	新設	1		
			堰	新設	1	CWV 配管・バルブ室 (R-B2F-6)	堰	新設	1	DG-A 出入り口堰 (3DG-H-N2)	堰	既設	1		DG-B 出入り口堰 (3DG-H-N1)	堰	既設	1		
			サンプタンク*	既設	1	MUWC ポンプ室 (R-B2F-5)	堰	新設	1	水密扉 No. 140 (3RB-F-N2)	水密扉	新設	1		水密扉 No. 140 (3RB-F-N2)	水密扉	新設	1		
			機器ドレン 逆止弁	新設	11	共通エリア・ハッチ (HR-207) (R-B2F-1)	堰	新設	1	水密扉 No. 155 (3RB-F-N2)	水密扉	新設	1		水密扉 No. 155 (3RB-F-N2)	水密扉	新設	1		
4号炉 原子炉周辺建屋 (管理区域)	E. L. + 3.5m	逆流防止弁	目皿逆止弁	新設	11	RCIC MCC 室 (R-B1F-4)	堰	新設	1	止水板 No. B (3RB-F-N3)	止水板	新設	1		止水板 No. B (3RB-F-N3)	止水板	新設	1		
			サンプタンク*	既設	1	TIP 壓動装置室 (R-B1F-3-3)	堰	新設	1	水密扉 No. 156 (3RB-H-N3)	水密扉	新設	1		T.P. 29.4m	水密扉 No. 157 (3RB-H-N3)	水密扉	新設	1	
			水密扉	新設	1	(R-01) 北西階段室	堰	新設	1	T.P. 29.9m	水密扉 No. 146 (3RB-H-N3)	水密扉	新設		水密扉 No. 146 (3RB-H-N3)	水密扉	新設	1		
			堰	新設	1	MS トンネル室 (R-B1F-3-2)	堰	新設	1	33.1m (区画境界②) 堰 (-)	堰	既設	1		水密扉 No. 158 (3RB-C-N51)	水密扉	新設	1		
			堰	新設	1	(R-02) 北東階段室	堰	新設	1	33.1m (区画境界③) 堰 (-)	堰	既設	1		33.1m (区画境界④) 堰 (-)	堰	既設	1		
	E. L. + 22.0m	共通エリア・ハッチ (HR-307) (R-B1F-1)	堰	新設	1	共通エリア・ハッチ (HR-311) (R-B1F-1)	堰	新設	1	T.P. 33.1m	水密扉 No. 147 (3RB-B-1)	水密扉	新設		水密扉 No. 147 (3RB-B-1)	水密扉	新設	1		
			RCR 热交換器室(A)室 (R-1F-1)	水密扉	新設	FPC ポンプ室 (R-1F-3)	堰	新設	1											
			(R-01) 北西階段室	堰	新設															

\*サンプタンクについては、水頭圧にて強度評価を実施した。

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉					泊発電所3号炉					相違理由																																																																																																												
	表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(2/5)					表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(2/3)																																																																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設置エリア</th><th>フロア</th><th>対象 (区画番号)</th><th>種類</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="24">原子炉建屋 原子炉建屋付属棟</td><td rowspan="8">1F</td><td>(R-02) 北東階段室</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>バルブ室(A)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>(R-1F-9)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>バルブ室(B)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>(R-1F-8)</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>R/B 大物搬入用小屋</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T/B 連絡通路（東側）</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>T/B 連絡通路（西側）</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="11">2F</td><td>R/B 大物搬入用扉</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>SGTS ヒータユニット(A)室 (R-2F-1-2)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>(R-01) 北西階段室</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>CAMS ラック(A)室 (R-2F-2-5)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>CAMS ラック(B)室 (R-2F-2-6)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>SGTS ヒータユニット(A)室 (R-2F-1-2)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>SGTS ヒータユニット(B)室 (R-2F-1-3)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>(R-02) 北東階段室</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>SGTS フィルタユニット室 (R-2F-1-1)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>FCS 再結合装置(A)室 (R-2F-2-2)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>FCS 再結合装置(B)室 (R-2F-2-3)</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="4">3F</td><td>(R-02) 北東階段室</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>(R-01) 北西階段室</td><td>堰</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>RCW 热交換器(A) (C)室 (R-B3F-11)</td><td>水密扉</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> <tr> <td>RCW 热交換器(B) (D)室 (R-B3F-14)</td><td>水密扉</td><td>既設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>B3F</td><td>HFCW 热交換器室 (R-B3F-13)</td><td>水密扉</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>											設置エリア	フロア	対象 (区画番号)	種類	区分	箇所数	原子炉建屋 原子炉建屋付属棟	1F	(R-02) 北東階段室	堰	新設	1	バルブ室(A)	堰	新設	1	(R-1F-9)				バルブ室(B)	堰	新設	1	(R-1F-8)				R/B 大物搬入用小屋	水密扉	新設	1	T/B 連絡通路（東側）	水密扉	新設	1	T/B 連絡通路（西側）	水密扉	新設	1	2F	R/B 大物搬入用扉	水密扉	新設	1	SGTS ヒータユニット(A)室 (R-2F-1-2)	水密扉	新設	1	(R-01) 北西階段室	堰	新設	1	CAMS ラック(A)室 (R-2F-2-5)	堰	新設	1	CAMS ラック(B)室 (R-2F-2-6)	堰	新設	1	SGTS ヒータユニット(A)室 (R-2F-1-2)	堰	新設	1	SGTS ヒータユニット(B)室 (R-2F-1-3)	堰	新設	1	(R-02) 北東階段室	堰	新設	1	SGTS フィルタユニット室 (R-2F-1-1)	堰	新設	1	FCS 再結合装置(A)室 (R-2F-2-2)	堰	新設	1	FCS 再結合装置(B)室 (R-2F-2-3)	堰	新設	1	3F	(R-02) 北東階段室	堰	新設	1	(R-01) 北西階段室	堰	新設	1	RCW 热交換器(A) (C)室 (R-B3F-11)	水密扉	既設 (改造)	1	RCW 热交換器(B) (D)室 (R-B3F-14)	水密扉	既設	1	B3F	HFCW 热交換器室 (R-B3F-13)	水密扉	既設 (改造)	1	
設置エリア	フロア	対象 (区画番号)	種類	区分	箇所数																																																																																																																		
原子炉建屋 原子炉建屋付属棟	1F	(R-02) 北東階段室	堰	新設	1																																																																																																																		
		バルブ室(A)	堰	新設	1																																																																																																																		
		(R-1F-9)																																																																																																																					
		バルブ室(B)	堰	新設	1																																																																																																																		
		(R-1F-8)																																																																																																																					
		R/B 大物搬入用小屋	水密扉	新設	1																																																																																																																		
		T/B 連絡通路（東側）	水密扉	新設	1																																																																																																																		
		T/B 連絡通路（西側）	水密扉	新設	1																																																																																																																		
	2F	R/B 大物搬入用扉	水密扉	新設	1																																																																																																																		
		SGTS ヒータユニット(A)室 (R-2F-1-2)	水密扉	新設	1																																																																																																																		
		(R-01) 北西階段室	堰	新設	1																																																																																																																		
		CAMS ラック(A)室 (R-2F-2-5)	堰	新設	1																																																																																																																		
		CAMS ラック(B)室 (R-2F-2-6)	堰	新設	1																																																																																																																		
		SGTS ヒータユニット(A)室 (R-2F-1-2)	堰	新設	1																																																																																																																		
		SGTS ヒータユニット(B)室 (R-2F-1-3)	堰	新設	1																																																																																																																		
		(R-02) 北東階段室	堰	新設	1																																																																																																																		
		SGTS フィルタユニット室 (R-2F-1-1)	堰	新設	1																																																																																																																		
		FCS 再結合装置(A)室 (R-2F-2-2)	堰	新設	1																																																																																																																		
		FCS 再結合装置(B)室 (R-2F-2-3)	堰	新設	1																																																																																																																		
	3F	(R-02) 北東階段室	堰	新設	1																																																																																																																		
		(R-01) 北西階段室	堰	新設	1																																																																																																																		
		RCW 热交換器(A) (C)室 (R-B3F-11)	水密扉	既設 (改造)	1																																																																																																																		
		RCW 热交換器(B) (D)室 (R-B3F-14)	水密扉	既設	1																																																																																																																		
	B3F	HFCW 热交換器室 (R-B3F-13)	水密扉	既設 (改造)	1																																																																																																																		
											【女川】																																																																																																												
											設備名称の相違 記載表現の相違																																																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉					泊発電所3号炉					相違理由
	表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(3/5)					表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(3/3)					
	設置エリア	フロア	対象 (区画番号)	種類	区分	箇所数					
原子炉建屋付属棟	B2F	静止型PLRポンプ電源装置室 (R-B2F-8)	堰	新設	1		水密扉 No. 141 (3AB-F-N7)	水密扉	新設	1	【女川】
			IA, SA室及び通路 (R-B2F-9)	堰	新設	1	水密扉 No. 142 (-)	水密扉	新設	1	設備名称の相違
		区分II非常用電気品室 (R-B1F-10)	水密扉	新設	1	水密扉 No. 143 (3AB-F-N7)	水密扉	新設	1	記載表現の相違	
	B1F	D/G補機(A)室 (R-B1F-7)	堰	新設	1	A - 安全系計装臓室(西側)通路(仮称) (3AB-F-N13)	水密扉 <sup>①</sup>	新設	1		
		区分IIIHPCS電気品室 (R-B1F-9)	堰	新設	1	B - 安全系計装臓室(東側)通路(仮称) (3AB-F-N13)	水密扉 <sup>②</sup>	新設	1		
		D/G(HPCS)室 (R-1F-15)	水密扉	新設	1	B - 安全系計装臓室(西側)通路(仮称) (3AB-F-N2)	水密扉 <sup>③</sup>	新設	1		
	IF	区分I非常用D/G制御監室 (R-1F-13-1)	堰	新設	1	T.P. 21.2m 水密扉 No. 144 (3AB-F-N7)	水密扉	新設	1		
		区分III非常用D/G制御監室 (R-1F-15-1)	堰	新設	1	T.P. 33.1m 33.5m(区画境界) 堰 (-)	堰	既設	1		
		HWH熱交換器・ポンプ室 (R-1F-17)	水密扉	新設	1						
		HECW冷凍機(B)D室 (R-2F-4)	水密扉	新設	1						
原子炉建屋付属棟 (廃棄物処理エリア)	2F	2F通路 (O.P. 23600) (R-2F-16-1)	水密扉	新設	1						
		原子炉補機(A)室送風機室 (R-2F-6)	堰	新設	1						
		原子炉補機(B)室 送風機室及び送風機エリア (R-2F-8)	堰	新設	2						
		B3F 2T-1トレンチ	水密扉	新設	1						
	IF	主排気ダクト連絡トレンチ	水密扉	新設	1						
		IF共通エリア(大物搬入用扉)	水密扉	新設	1						
		IF共通エリア (Rw-IF-1)	水密扉	新設	1						

※1 水密扉を今後設置予定

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 濫水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉						泊発電所3号炉	相違理由
	表1 濫水影響評価において止水を期待できる設備(4/5)							
	設置エリア	プロア	対象 (区画番号)	種類	区分	箇所数		
制御建屋	B2F		制御建屋空調機械(B)室南側 (C-B2F-2)	水密扉	既設	1		
			制御建屋空調機械(B)室北側 (C-B2F-2)	水密扉	既設	1		
			制御建屋空調機械(B)室 【250V 直流主母線盤室境界】 (C-B2F-2)	水密扉	既設 (改造)	1		
			T/B連絡通路扉	水密扉	新設	1		
			1号C/B連絡通路	水密扉	新設	1		
	B1F		IS1室 (C-B2F-5)	水密扉	新設	1		
			計測制御電源室(A) 【計測制御電源室(B)境界】 (C-B1F-3)	水密扉	新設	1		
			計測制御電源室(A) 【常用及び共通M/C, P/C室境界】 (C-B1F-3)	水密扉	新設	1		
			常用及び共通M/C, P/C室 【RSS 盤室境界】 (C-B1F-1)	水密扉	新設	1		
			計測制御電源室(B) (C-B1F-5)	水密扉	新設	1		
IF	IF		T/B連絡通路扉	水密扉	新設	1		
			IF入退域エリア (管理区域) (C-IF-1)	水密扉	新設	1		
			IF入退域エリア (管理区域～ ルメット渡場) (C-IF-1)	水密扉	新設	1		
			1号C/B連絡通路	水密扉	新設	2		
	2F		補助ボイラー建屋連絡通路	水密扉	新設	1		
			1号C/B連絡通路	水密扉	新設	1		
			区分1ケーブル処理室 (C-2F-1)	扉	新設	1		
3F			常用系ケーブル処理室 (C-2F-4)	扉	新設	2		
			1号MCR境界	水密扉	新設	1		

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																							
<b>表1 溢水影響評価において止水を期待できる設備(5/5)</b>																																																																										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>設置エリア</th><th>フロア</th><th>対象 (IC番号)</th><th>種類</th><th>区分</th><th>箇所数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">タービン 建屋</td><td>B2F</td><td>B2Fエリア (T-B2F-1)</td><td>止水壁</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> <tr> <td>B1F</td><td>B1Fエリア (T-B1F-1)</td><td>壁</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">IF</td><td>大物搬入用屋</td><td>壁</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>大物搬入用横扉</td><td>壁</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>共通エリア【東側】(N<sub>1</sub>)</td><td>壁</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>共通エリア【東側】(N<sub>2</sub>)</td><td>壁</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="3">海水ポンプ 室</td><td>-</td><td>RSWポンプ(A) (C) 室 (SW-1F-2)</td><td>水密扉</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> <tr> <td>-</td><td>RSWポンプ(B) (D) 室 (SW-1F-5)</td><td>水密扉</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> <tr> <td>-</td><td>HP SWポンプ室 (SW-1F-4)</td><td>水密扉</td><td>既設 (改造)</td><td>1</td></tr> <tr> <td rowspan="4">軽油タンク エリア</td><td>-</td><td>燃料移送ポンプ(A) エリア (LOT-1)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>-</td><td>燃料移送ポンプ(B) エリア (LOT-2)</td><td>水密扉</td><td>新設</td><td>1</td></tr> <tr> <td>-</td><td>燃料移送ポンプ室アクセス用 ハッチ</td><td>ハッチ</td><td>新設</td><td>2</td></tr> <tr> <td>-</td><td>燃料移送ポンプ室機器搬出入 用ハッチ</td><td>ハッチ</td><td>新設</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	設置エリア	フロア	対象 (IC番号)	種類	区分	箇所数	タービン 建屋	B2F	B2Fエリア (T-B2F-1)	止水壁	既設 (改造)	1	B1F	B1Fエリア (T-B1F-1)	壁	新設	1	IF	大物搬入用屋	壁	新設	1	大物搬入用横扉	壁	新設	1	共通エリア【東側】(N <sub>1</sub> )	壁	新設	1	共通エリア【東側】(N <sub>2</sub> )	壁	新設	1	海水ポンプ 室	-	RSWポンプ(A) (C) 室 (SW-1F-2)	水密扉	既設 (改造)	1	-	RSWポンプ(B) (D) 室 (SW-1F-5)	水密扉	既設 (改造)	1	-	HP SWポンプ室 (SW-1F-4)	水密扉	既設 (改造)	1	軽油タンク エリア	-	燃料移送ポンプ(A) エリア (LOT-1)	水密扉	新設	1	-	燃料移送ポンプ(B) エリア (LOT-2)	水密扉	新設	1	-	燃料移送ポンプ室アクセス用 ハッチ	ハッチ	新設	2	-	燃料移送ポンプ室機器搬出入 用ハッチ	ハッチ	新設	1		<p><b>【女川】</b>  <u>設備名称の相違</u>  <u>記載表現の相違</u></p>
設置エリア	フロア	対象 (IC番号)	種類	区分	箇所数																																																																					
タービン 建屋	B2F	B2Fエリア (T-B2F-1)	止水壁	既設 (改造)	1																																																																					
	B1F	B1Fエリア (T-B1F-1)	壁	新設	1																																																																					
	IF	大物搬入用屋	壁	新設	1																																																																					
		大物搬入用横扉	壁	新設	1																																																																					
共通エリア【東側】(N <sub>1</sub> )		壁	新設	1																																																																						
共通エリア【東側】(N <sub>2</sub> )	壁	新設	1																																																																							
海水ポンプ 室	-	RSWポンプ(A) (C) 室 (SW-1F-2)	水密扉	既設 (改造)	1																																																																					
	-	RSWポンプ(B) (D) 室 (SW-1F-5)	水密扉	既設 (改造)	1																																																																					
	-	HP SWポンプ室 (SW-1F-4)	水密扉	既設 (改造)	1																																																																					
軽油タンク エリア	-	燃料移送ポンプ(A) エリア (LOT-1)	水密扉	新設	1																																																																					
	-	燃料移送ポンプ(B) エリア (LOT-2)	水密扉	新設	1																																																																					
	-	燃料移送ポンプ室アクセス用 ハッチ	ハッチ	新設	2																																																																					
	-	燃料移送ポンプ室機器搬出入 用ハッチ	ハッチ	新設	1																																																																					
<p><b>【参考】伊方発電所3号炉</b></p> <p>添付資料1 3 水密区画について</p> <p>1. 概要</p> <p>水密区画は、耐水性のある塗装を施した壁、堰で囲まれた区画となっており、区画内のタンクおよび付属配管からの漏水を全量区画内にとどめることができる設計となっている。</p> <p>また、水密区画を構成する壁については、耐震壁または学協会規格・基準の要件を満たす鉄筋コンクリート造の壁であり、地震時においても健全性は維持できる。</p> <p>2. 水密区画内設置として溢水源から除外した機器</p> <p>伊方3号機における溢水源となりうる機器より、水密区画内設置として溢水源から対象外とした機器の一覧を表-1に示す。</p>																																																																										
<p><b>【女川】</b>  <u>設計方針の相違</u></p> <p>泊は閉鎖区画内に設置されたタンク類が多数あり、これらの区画境界の止水性を確保することで水密区画としている。水密区画内のタンク類から生じた溢水は区画内に留まるため、溢水源として想定しないことを明記している。本資料にて水密区画である水密コンパートメントの詳細を記載した。</p> <p>記載に際し、先行審査実績のある伊方3号炉を掲載する。</p> <p>(泊欄の赤色は女川との相違を示しており、以下同様である。)</p> <p><b>【伊方】</b>  <u>記載表現の相違</u></p>																																																																										

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

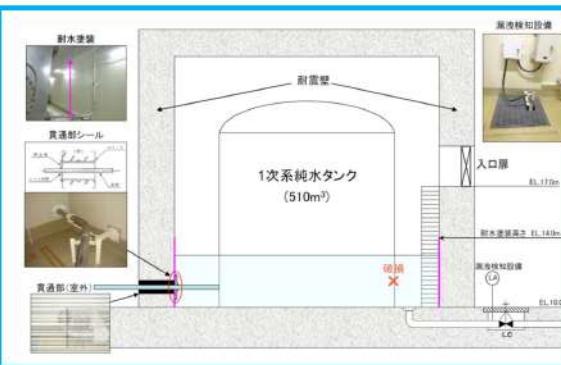
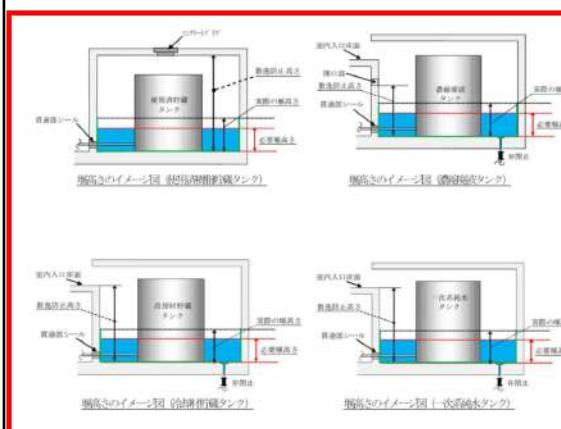
赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉							女川原子力発電所2号炉							泊発電所3号炉							相違理由							
【参考】伊方発電所3号炉																												
表-1 伊方3号機における水密区画内設置機器一覧																												
水密区画内設置機器	設置位置	室 内 高 度 (m)	室面積 (m <sup>2</sup> )	溢水高さ 床と上部 (cm)	耐水塗装高さ 床と上部 (cm)	室入口高さ 床と上部 (cm)	区画壁 番号	表 1 泊発電所3号炉における水密区画内設置機器一覧											【伊方】									
冷却材貯蔵タンクA	A/B EL.3.2m	20t/基	150	3.06 <sup>①</sup>	3.7	3.7		冷却材貯蔵タンク	原 原子炉	25	37.1	134.8	160	280	①, ②					設計方針の相違								
冷却材貯蔵タンクB	A/B EL.3.2m	20t/基	150	3.06 <sup>①</sup>	3.7	3.7		耐震壁	補助建屋	25										伊方ではタンク容量をインターロックによって設定される水位(全容量の90%)で評価しているが、泊は設計上のタンク全容量で設定し評価している。								
使用済樹脂貯蔵タンクA	A/B EL.3.2m	77	35	2.2	2.4	8.45		耐震壁	T.P. 17.8m											【伊方】								
使用済樹脂貯蔵タンクB	A/B EL.3.2m	77	35	2.2	2.4	8.45		耐震壁											設備名称の相違									
使用済樹脂貯蔵タンク	A/B EL.3.2m	5.3	16	0.4	2.1	3.3		耐震壁											記載表現の相違									
液槽貯蔵タンク	A/B EL.3.2m	60	65	1.0	2.1	1.6		耐震壁																				
液槽貯蔵タンクB	A/B EL.3.2m	60	65	1.0	2.1	1.6		耐震壁																				
一次系純水タンク	A/B EL.10.0m	510	170	3.0	4.0	7.1		耐震壁																				
濃縮液受入タンク	A/B EL.10.0m	38	92	1.2	2.1	3.6		耐震壁 (①, ②)																				
濃縮液受入タンクB	A/B EL.10.0m	38	32	1.2	2.1	3.6		耐震壁 (①, ②)																				
予備濃縮液タンク	A/B EL.10.0m	12	16	0.8	2.1	1.4		耐震壁 (①, ②)																				
予備排水濃縮液受入タンク	A/B EL.10.0m	12	11	1.1	2.1	1.4		耐震壁 (①, ②)																				
B1: 冷却材貯蔵タンクは2基で100% (30.4m <sup>3</sup> ) 以上の受入余裕を確保するよう、マニュアルで規定されているが、屋外貯蔵の算出においては90%容量(受入用インテロック防止水栓) × 2基の水量 (5.48m <sup>3</sup> ) を適用した。(冷却材貯蔵タンクA, B間は貫通穴で連通)																												
※2: 区画壁は、「土壌震設計上考慮している耐震壁」、耐震設計上考慮していない「文字協会規格・基準の要件を満たす耐震壁」、耐震設計規格・基準の要件を満たす耐震壁」に分類する。な3): 「協会規則・基準の要件を満たす耐震壁」は、原子力施設許認可コンクリート構造計算規範・同解説(日本建築学会、2005年)「工業・施設用の耐震壁の断面算定」第5項の記載、壁板のせん断強度粘着力、壁板の複数配置、壁板の接着と隣接等)を満たす壁とする。																												
3. 水密区画の構造											3. 水密区画の構造																	
水密区画は下記に示す設計としており、溢水した保有水が区画外へ漏えいしない構造となっている。図-1に水密区画の概要図を示す。											水密区画は下記に示す設計としており、溢水した保有水が区画外へ漏えいしない構造となっている。図1に水密区画の概要図を示す。																	
①区画壁は鉄筋コンクリート造の壁であり地震時に倒壊、損傷しない強度を有するとともに、耐水性のあるエポキシ樹脂系塗料にて塗装が施されている。											①区画壁は鉄筋コンクリート造の壁であり地震時に倒壊、損傷しない強度を有するとともに、耐水性のあるエポキシ樹脂系塗料にて塗装が施している。																	
②区画入口は溢水高さ以上に設置されている。											②区画入口は溢水高さ以上に設置している。																	
③溢水高さ以下の壁貫通部は、シール施工をしており、外部へ漏えいしない設計としている。また貫通配管は貫通部前後でサポート固定されており、貫通部シールに大きな荷重がかからないよう配慮されている。											③溢水高さ以下の壁貫通部は、シール施工をしており、外部へ漏えいしない設計としている。また貫通配管は貫通部前後でサポート固定されており、貫通部シールに大きな荷重がかからないよう配慮している。																	
④床ドレンラインの隔離弁は通常施錠閉鎖としており、漏洩検知設備を設置。											④床ドレン配管の隔離弁は常時閉鎖運用としており、水密区画内の漏洩が検知できる設備を設置する。																	
【伊方】											【伊方】																	
記載表現の相違											記載表現の相違																	
【伊方】											記載表現の相違																	
記載方針の相違											記載方針の相違																	
泊は漏えい検知器若しくは水位計の低警報によって漏えいが検知できる(システム検知)。											泊は漏えい検知器若しくは水位計の低警報によって漏えいが検知できる(システム検知)。																	

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【参考】伊方発電所3号炉</p>  <p>図-1 水密区画概要図（1次系純水タンクの例）</p>		 <p>図1 水密区画内設置機器概要図</p> <p>(a) 開止板等による漏えい防止図(床面部、壁面部)</p> <p>(b) ブーツによる漏えい防止図(床面部、壁面部)</p> <p>図2 貫通部シール施工概要図</p> <p>&lt;現地施工状況例&gt;</p>  <p>図3 貫通部シール施工例</p>	<p>【伊方】</p> <p>記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊方は一例として1次系純水タンクを記載しているのに対し、泊は水密区画にあるタンクすべての概要図を記載し、設計が異なるものではないことを明示している。</li> <li>・水密区画の貫通部シール施工概要図及び貫通部シール施工例写真を図2及び図3として記載した(伊方は図-1の図中に記載)。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料9)

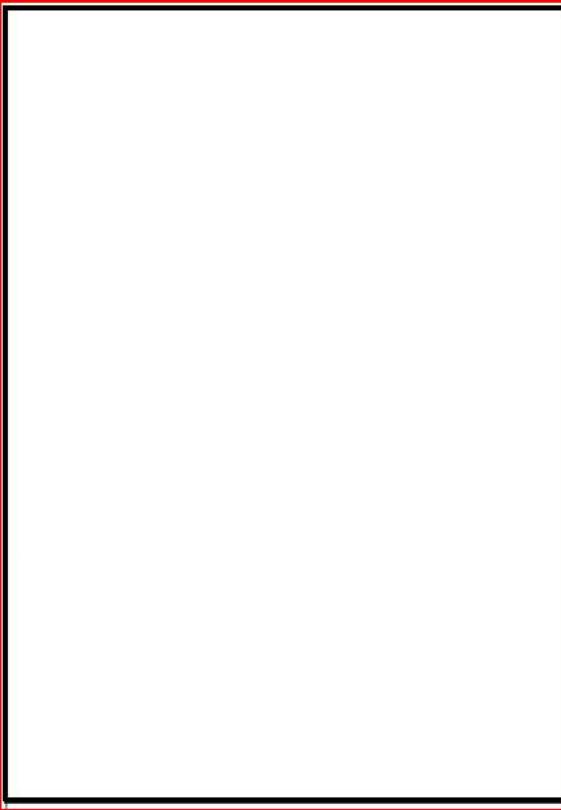
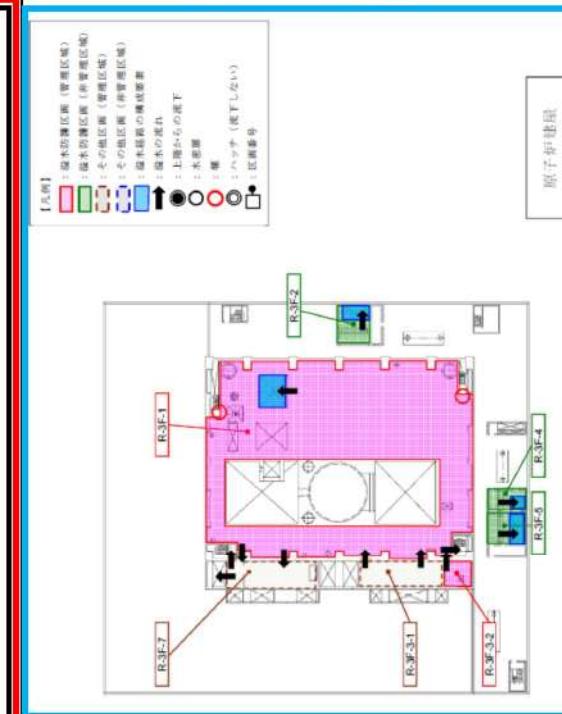
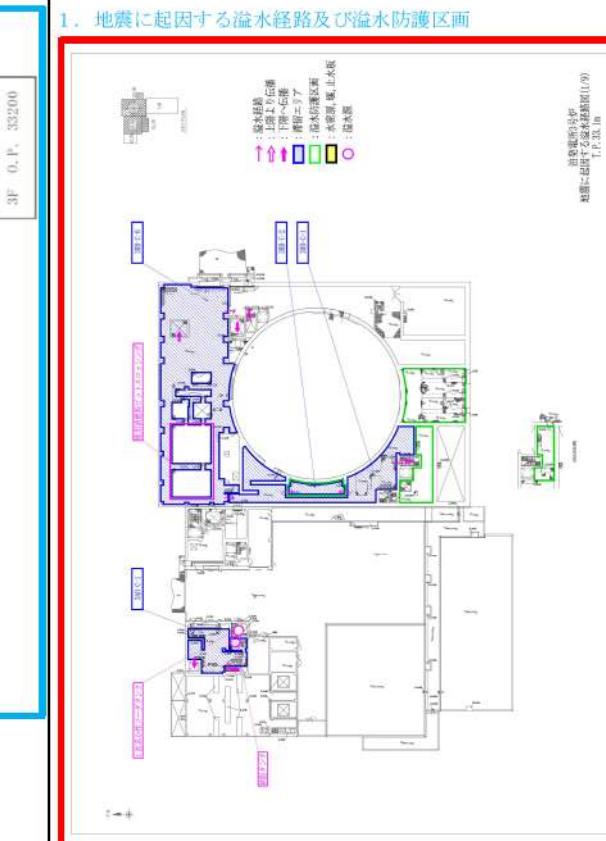
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【参考】伊方発電所3号炉</p> <p>4. 鉄筋コンクリート壁の水密性について 水密区画の隔壁はマッシブな鉄筋コンクリートであるが、基準地震動 <math>S_s</math> による最大せん断ひずみがせん断力ーセン断ひずみ線図上の第一折れ点を上回る層もあり、ひび割れの発生による漏水を否定できないため、ひび割れによる漏水量について検討を実施した。別紙3に検討結果を示す。</p>		<p>4. 鉄筋コンクリート壁の水密性について 水密区画の隔壁は耐震壁又は「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説（日本建築学会）」の規準上の耐震壁と同等な壁であるが、基準地震動による最大せん断ひずみがせん断力ーセン断ひずみ線図上の第一折れ点を上回る層もあり、ひび割れの発生による漏水を否定できないため、ひび割れによる漏水量について検討した結果、最大残留ひび割れ幅は「維持管理指針」に示される評価基準である「0.2mm」を超えないことを確認した。補足説明資料29「内部溢水評価における耐震壁等の確認について」に検討結果を示す。</p>	<p>【伊方】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊方は対象の隔壁を総称してマッシブな鉄筋コンクリートと表現しているが、泊は耐震壁及び規準上の耐震壁と同等な壁として分類し、記載している。（補足説明資料29）</li> <li>・検討結果より、最終貯留区画の耐震壁及び規準上の耐震壁と同等な壁において、ひび割れによる漏水が極めて少量であり、溢水影響評価へ影響しないことを確認した。</li> </ul>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

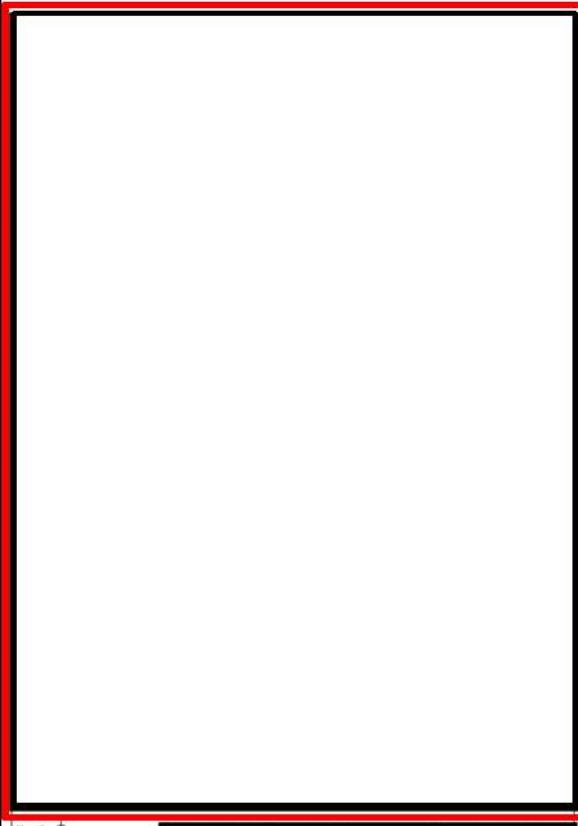
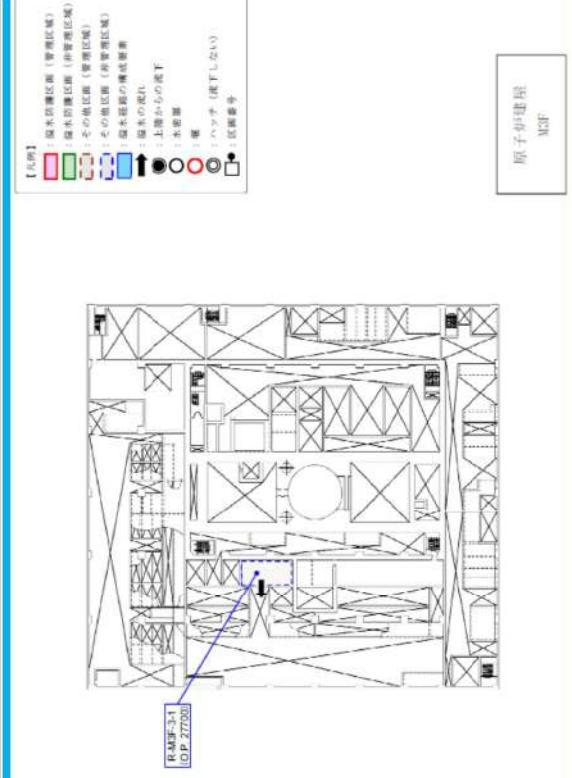
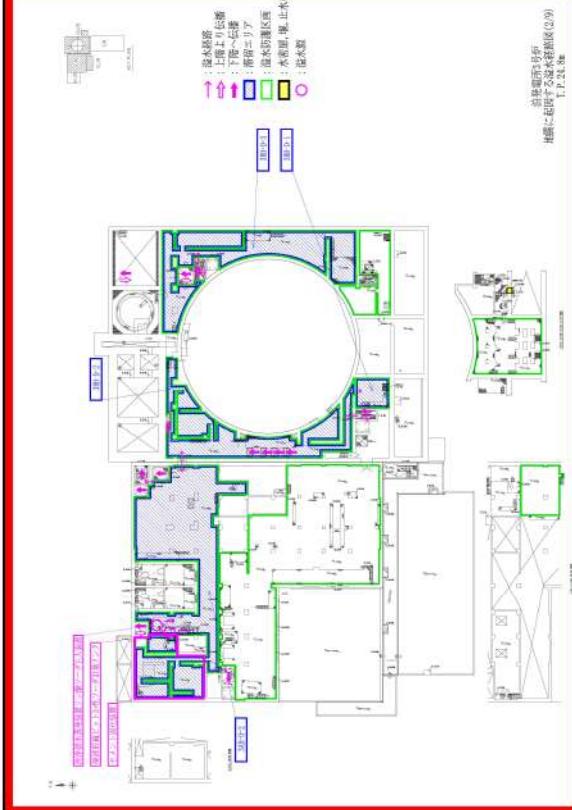
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料 1.4.3-3</p>  <p>【赤字】 泊は溢水防護区画を設定しているが、大飯と同様にR-3F-1として示されている。</p> <p>【青字】 R-3F-1の位置が大飯と異なっている。</p> <p>【緑字】 R-3F-1の位置が大飯と異なっている。</p>	<p>添付資料 10 溢水伝播経路図 (平面図)</p>  <p>【赤字】 泊は溢水防護区画を設定しているが、大飯と同様にR-3F-1として示されている。</p> <p>【青字】 R-3F-1の位置が大飯と異なっている。</p> <p>【緑字】 R-3F-1の位置が大飯と異なっている。</p>	<p>添付資料 10 溢水伝播経路図 (平面図)</p> <p>1. 地震に起因する溢水経路及び溢水防護区画</p>  <p>【赤字】 泊は溢水防護区画を設定しているが、大飯と同様にR-3F-1として示されている。</p> <p>【青字】 R-3F-1の位置が大飯と異なっている。</p> <p>【緑字】 R-3F-1の位置が大飯と異なっている。</p>	<p>【大飯】 記載表現の相違</p> <p>【女川】 記載方針の相違</p> <p>女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】 設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

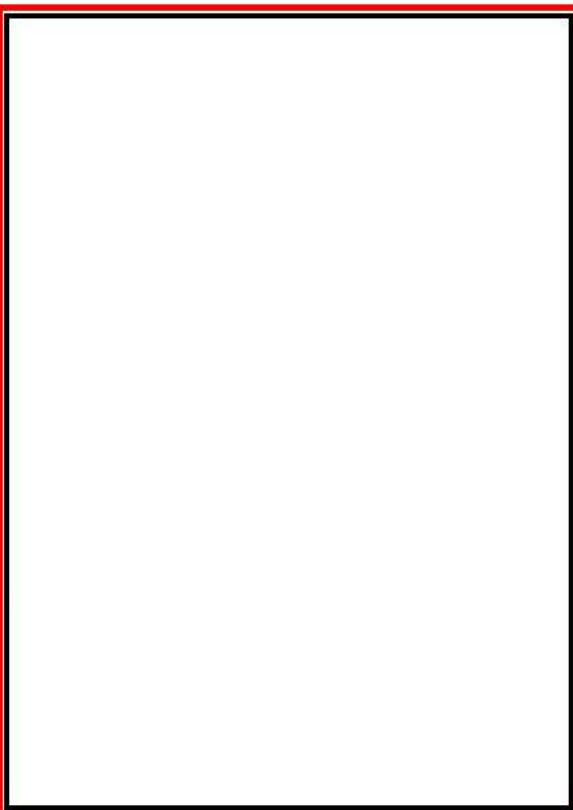
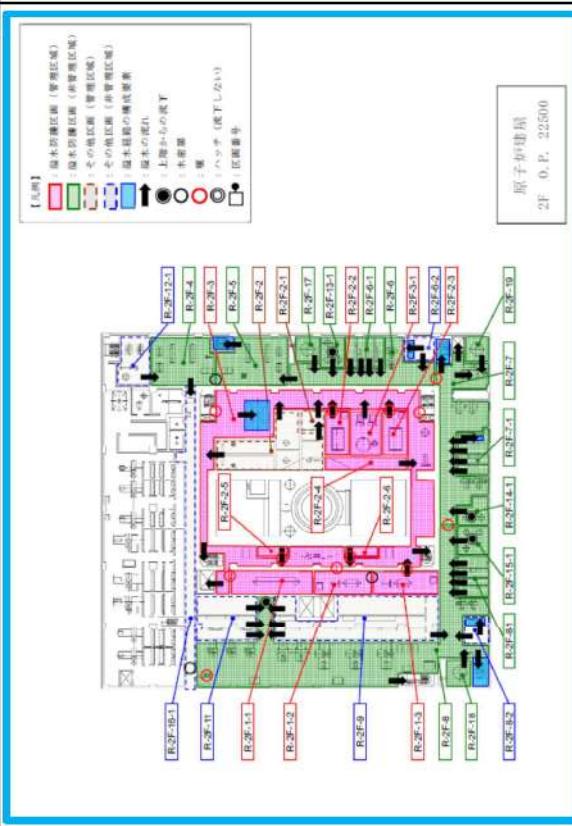
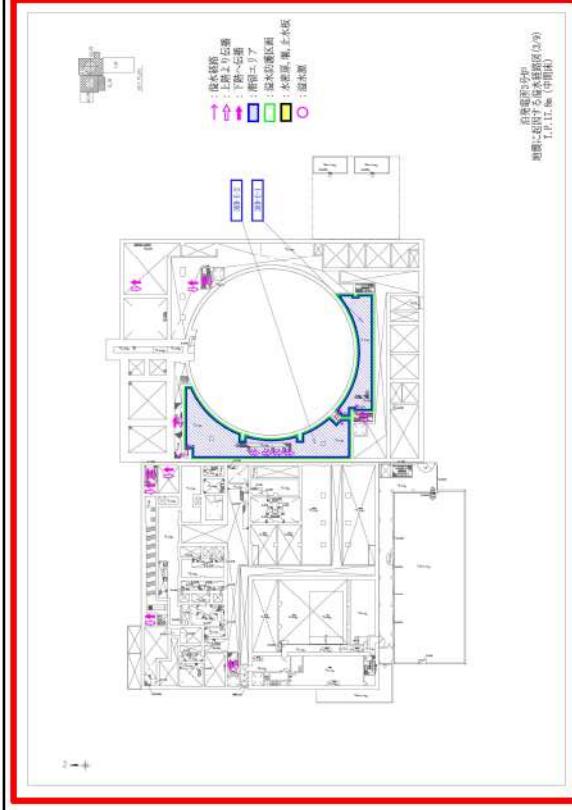
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 	 	 	<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

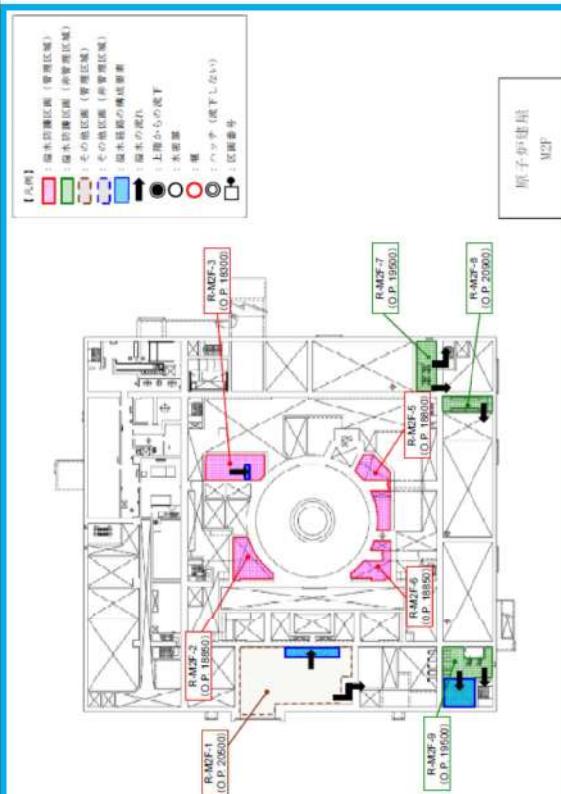
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

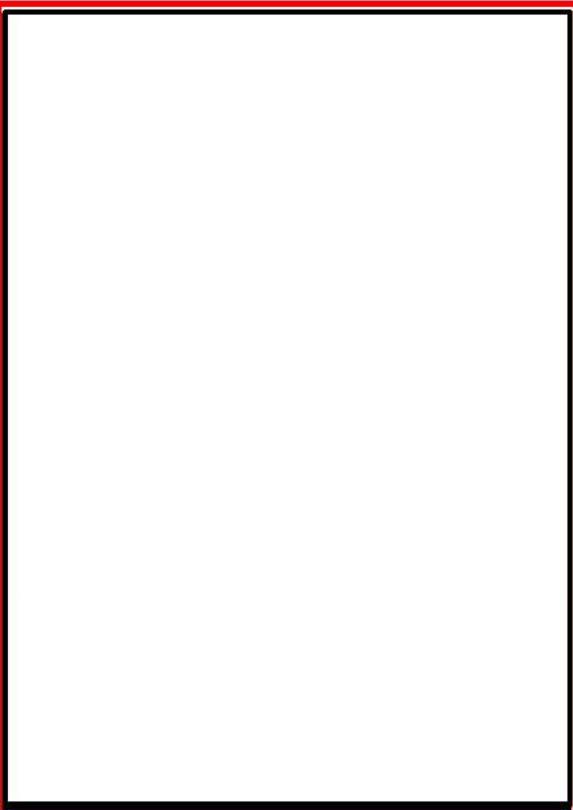
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)		<b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)

泊発電所 3号炉 DB 基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

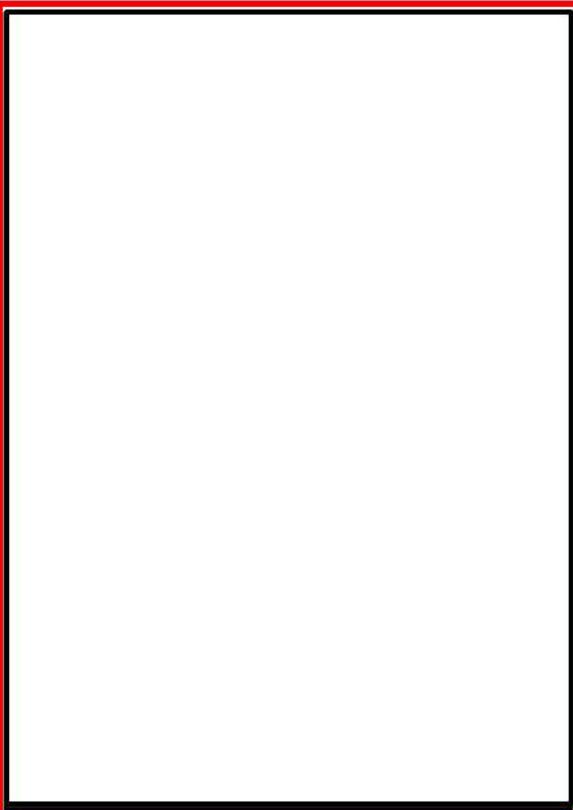
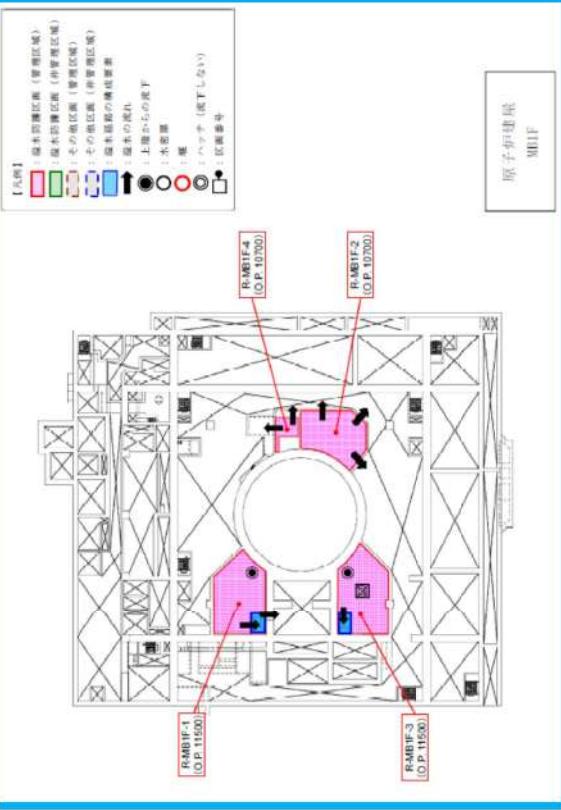
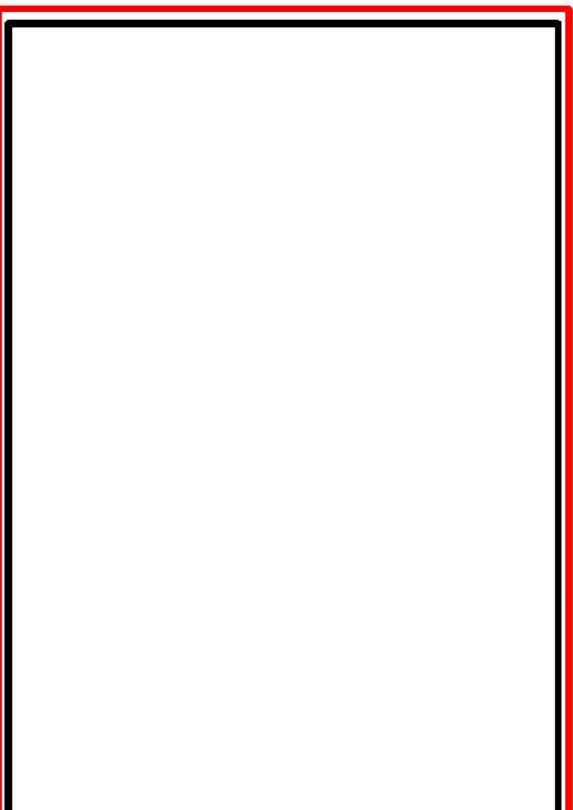
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           拝見みの内容は防護上の観点から公開できません。         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           溢水警報区画 T.P.10.3a (中核部)         </div>	<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

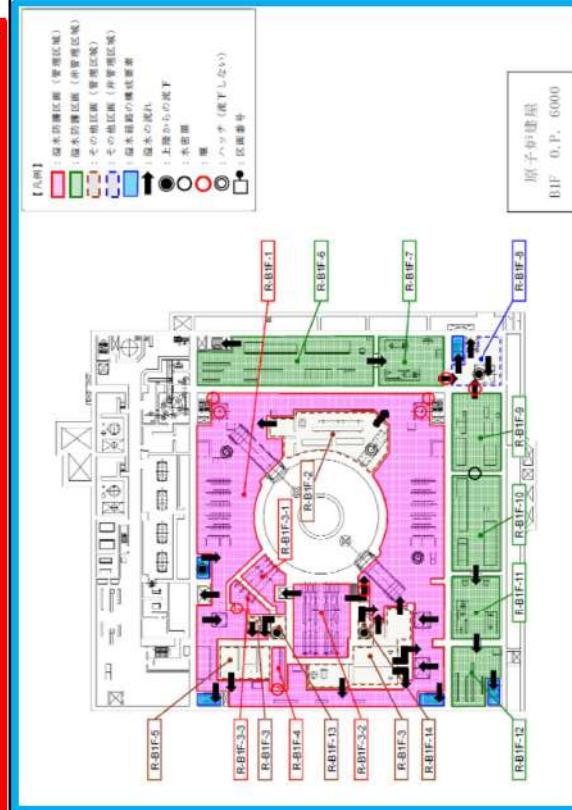
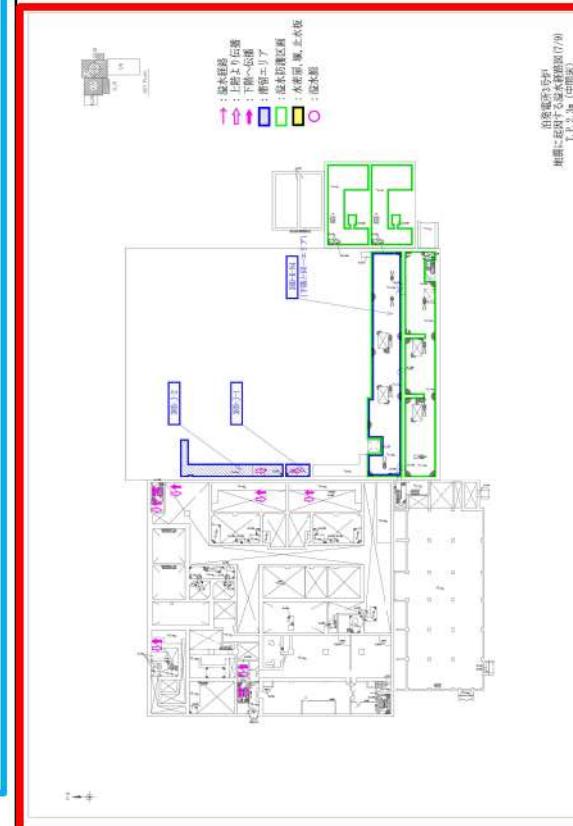
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</div>	<p>女川原子力発電所2号炉</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">枠組みの範囲は機密情報に属しますので公開できません。</div>	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">枠組みの範囲は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川】 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

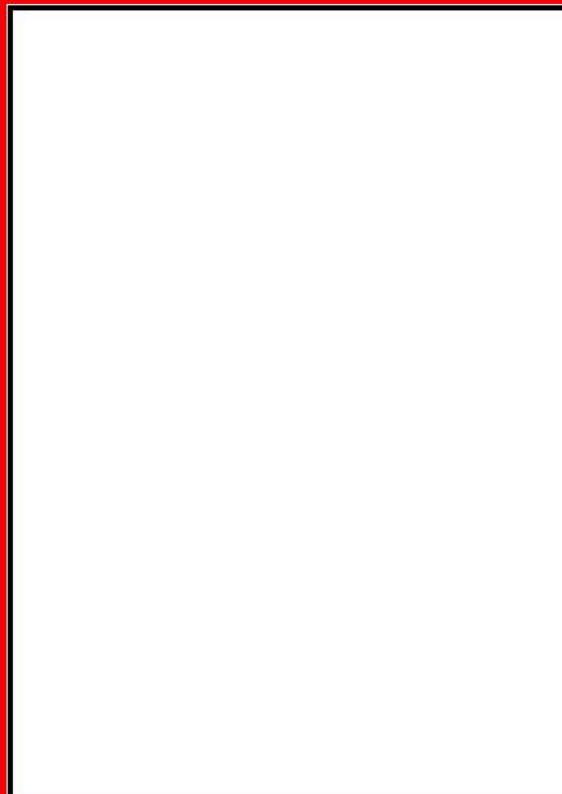
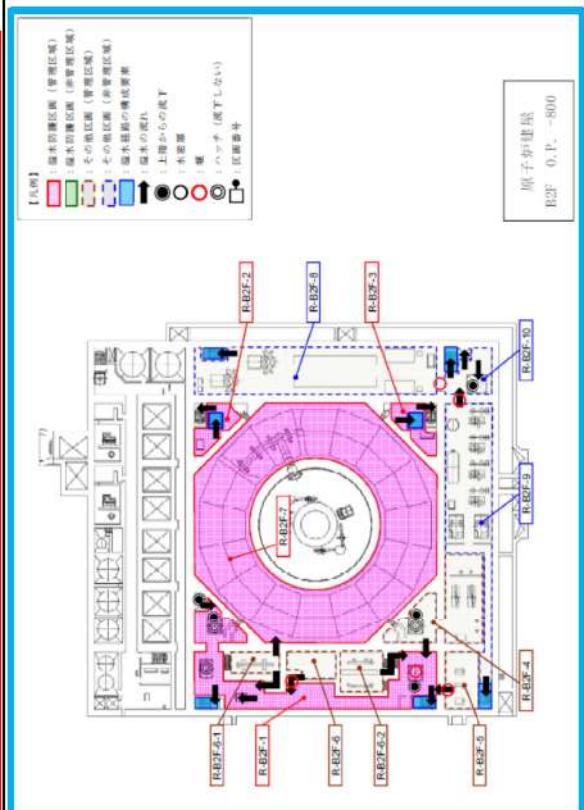
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

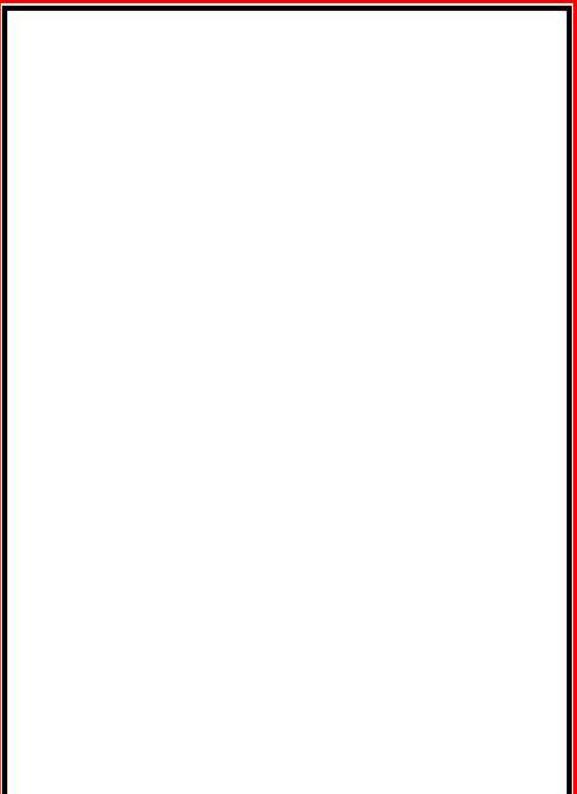
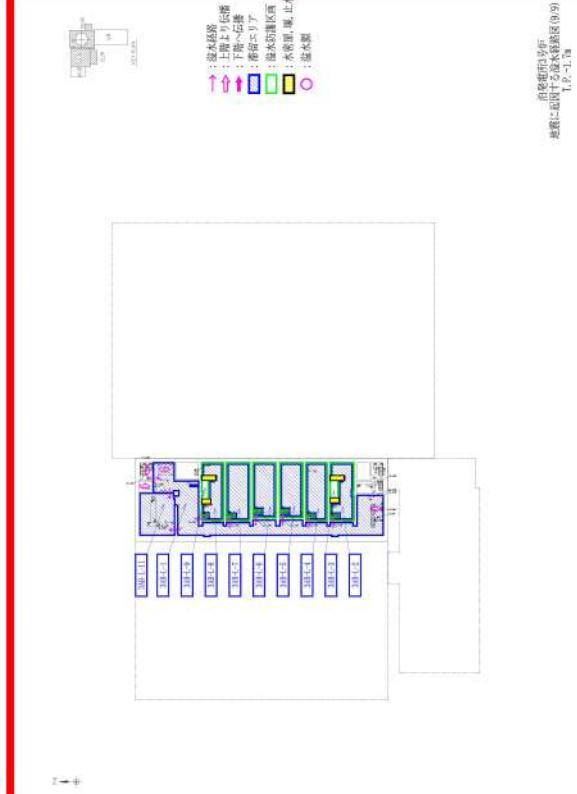
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	<p>女川原子力発電所2号炉</p> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：溢水防護区画（管理区域）</li> <li>■：溢水防護区画（非管理区域）</li> <li>■：その他の区画（非管理区域）</li> <li>■：原子炉建屋の構造要素</li> <li>■：原子炉建屋の構造要素</li> <li>■：溢水の流れ</li> <li>↑：上側から下へ</li> <li>↑：下側から上へ</li> <li>○：開口部</li> <li>○：閉口部</li> <li>●：（底なし）</li> <li>○：底水深</li> </ul> <p>原子炉建屋 BSF 0, 1P, -8100</p> <p>枠組みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>	 <p>泊発電所3号炉</p> <p>↑：溢水経路 ↑：上階より下階 ↑：下階より上階 ■：各階層 ■：溢水防護区画 ■：底水深 ○：底水深</p> <p>泊発電所3号炉 相違理由 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p>	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

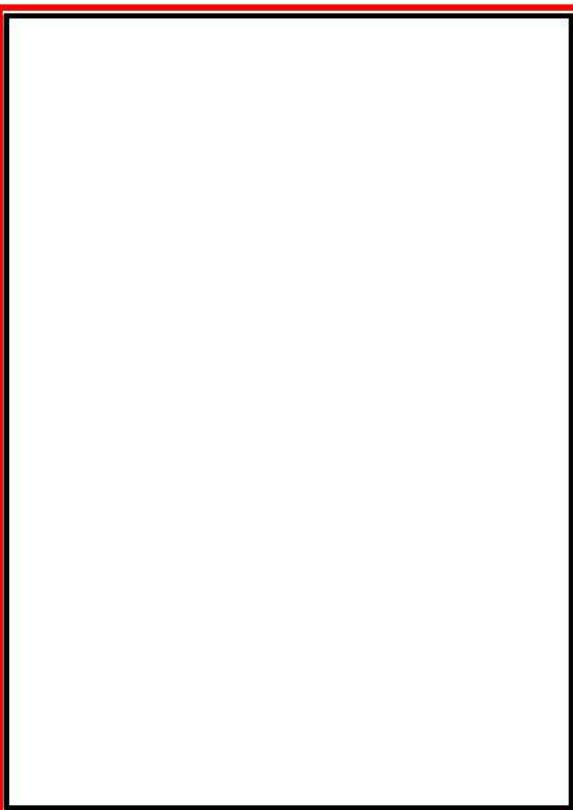
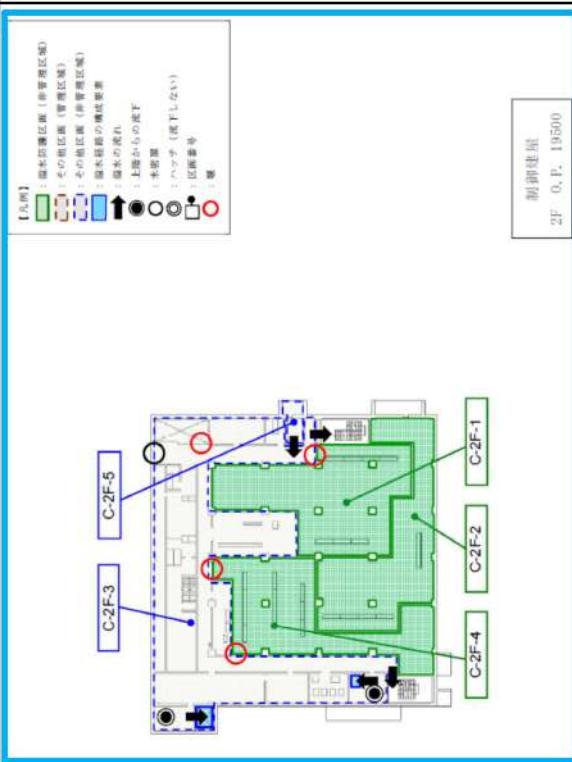
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 桁脚建屋 3F O.P. 23500		<p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>            女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b>  <u>設計方針の相違</u>            プラント設計の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>          女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b>  <u>設計方針の相違</u>          プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

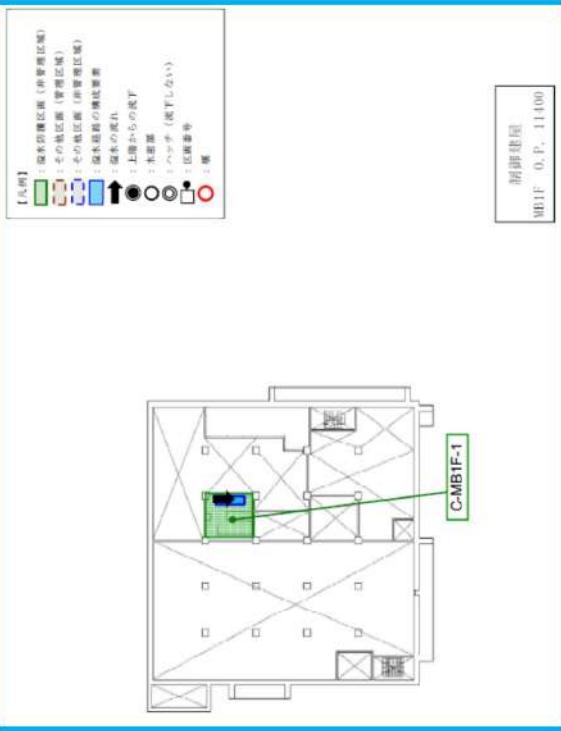
**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

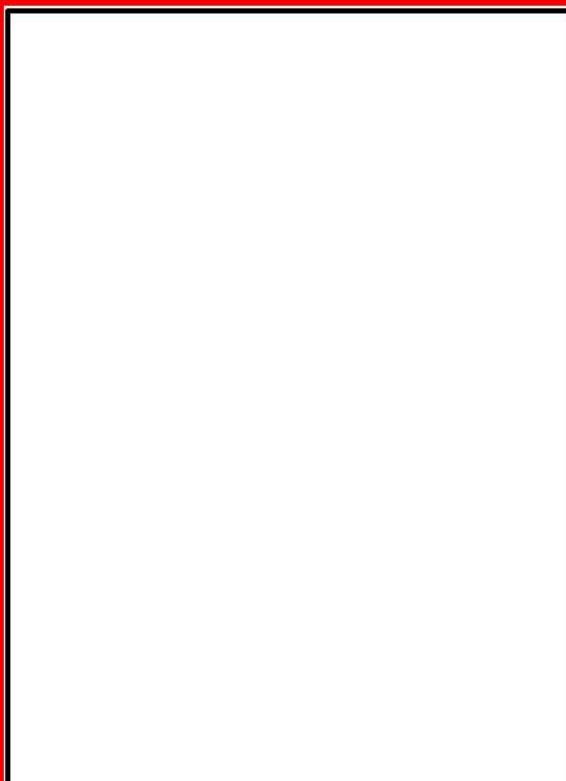
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <small>【女川】</small> <u>記載方針の相違</u> 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)	 <small>【大飯】</small> <u>設計方針の相違</u> プラント設計の相違	

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>持組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>	 <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■：溢水防護区画（非管理区域）</li> <li>△：モニタリング区画（管理区域）</li> <li>○：排水路の構造要素</li> <li>↑：排水の流れ</li> <li>●：上からの落下</li> <li>○：水流量</li> <li>□：バッテリー（底下しない）</li> <li>◎：スケーリング</li> <li>○：解説</li> </ul> <p>制御建屋 B1F O.P. 8000</p> <p>持組みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>		<p><b>【女川】</b>  <u>記載方針の相違</u>      女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b>  <u>設計方針の相違</u>      プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

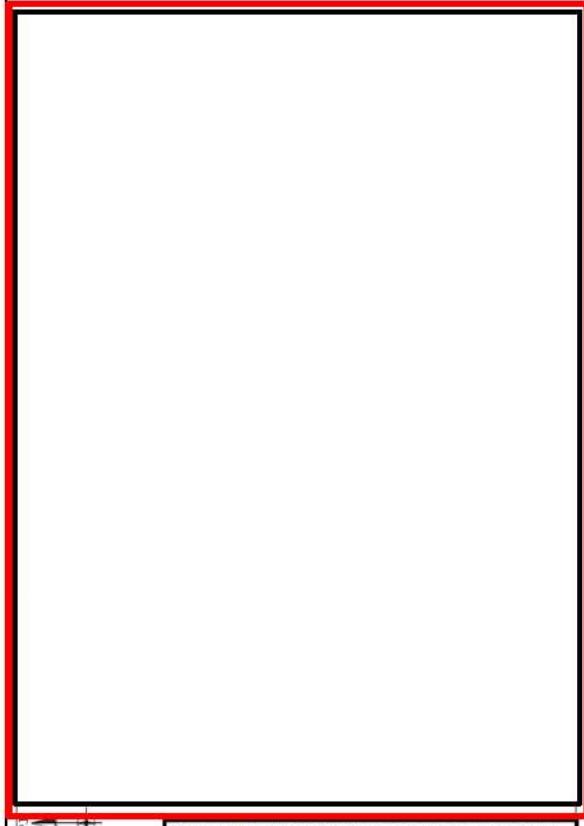
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>添付資料1-4-2-3</p> <p>【大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【泊】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p> <p>記載表現の相違</p>			

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

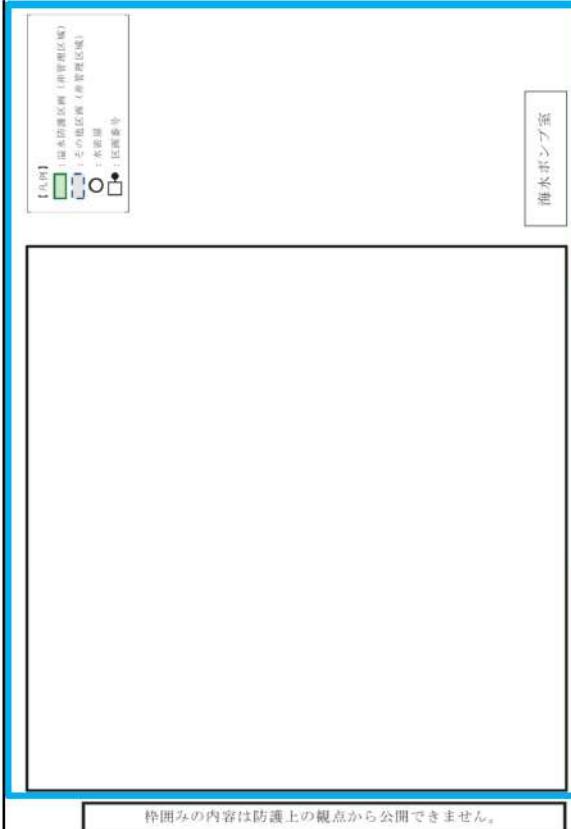
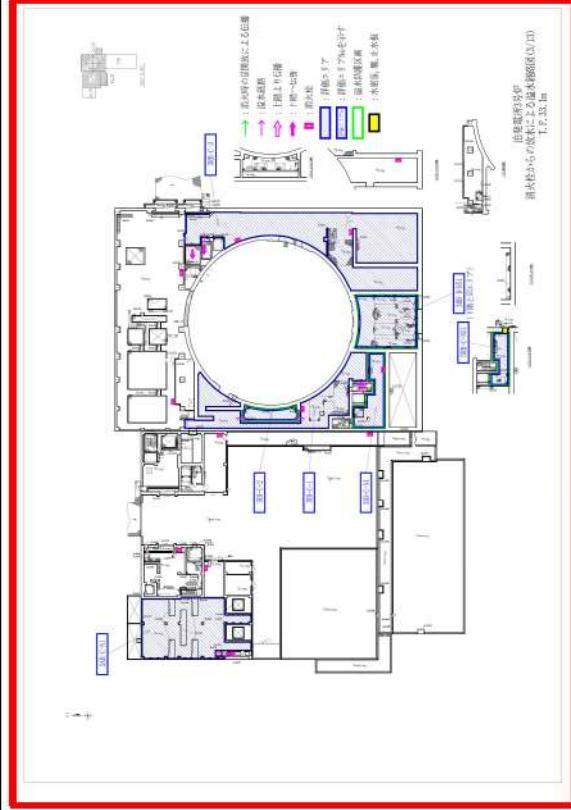
赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB 基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
	 <p>【女川】 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>		

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

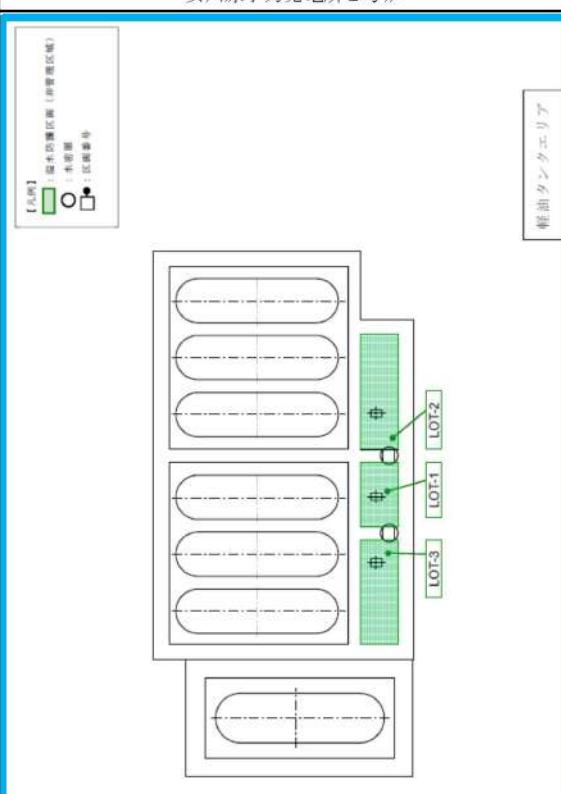
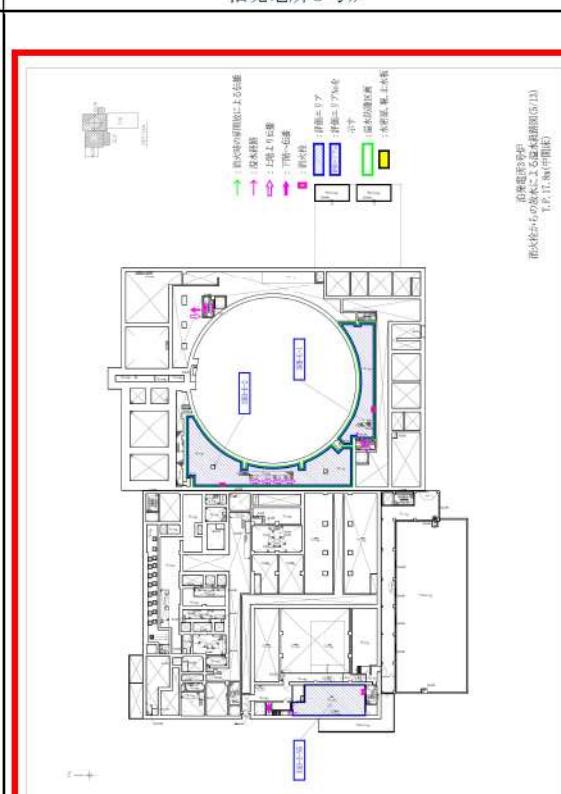
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

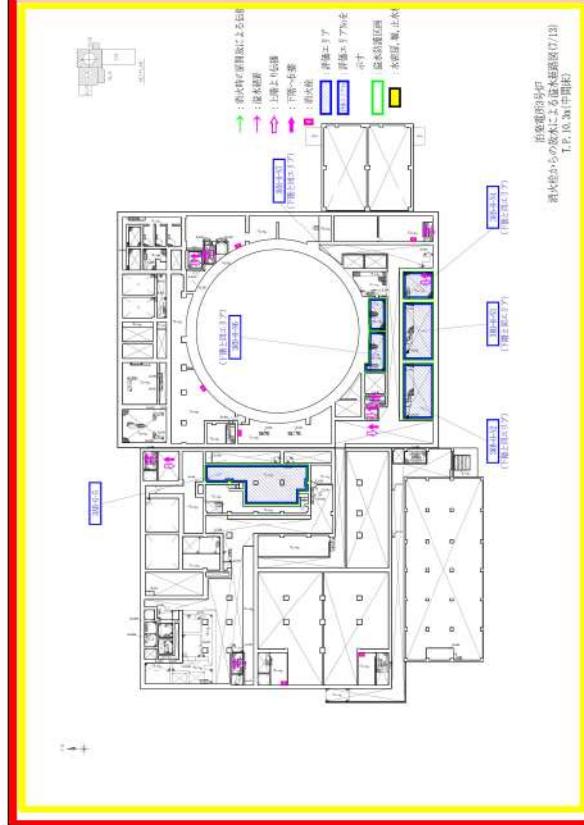
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p> <p>枠固みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

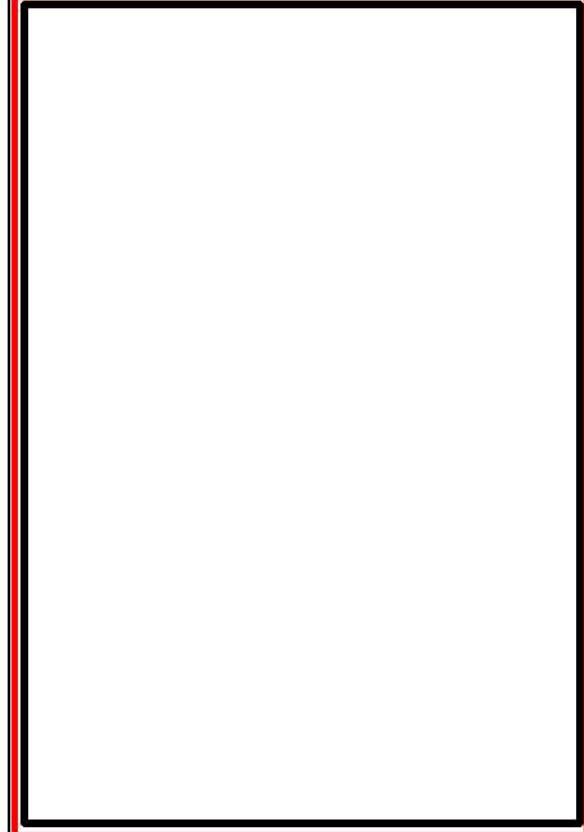
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <small>枠内のみの内容は機密情報に属しますので公開できません。</small>	<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

## 第9条 溢水による損傷の防止等(別添1添付資料10)

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

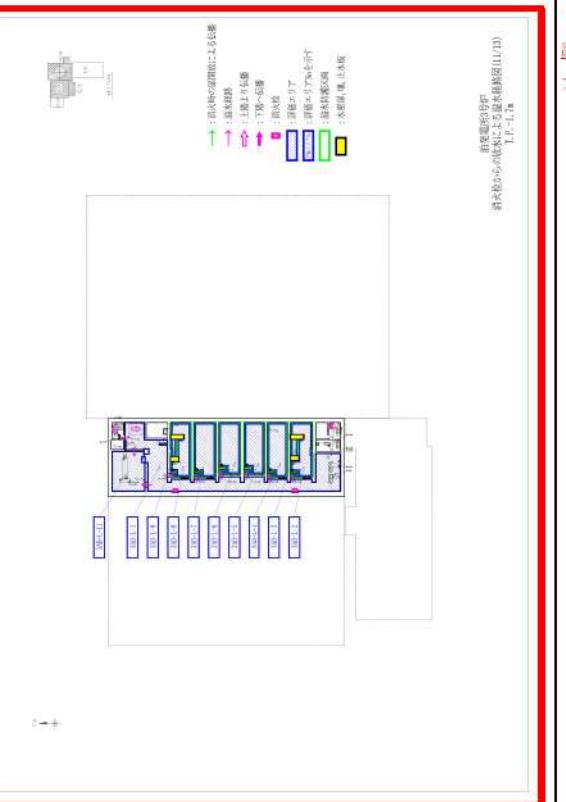
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>泊発電所3号炉 泊水性からのお立ち入り規制 T.P.2.3s, U.P.2.8s</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

## 第9条 溢水による損傷の防止等(別添1添付資料10)

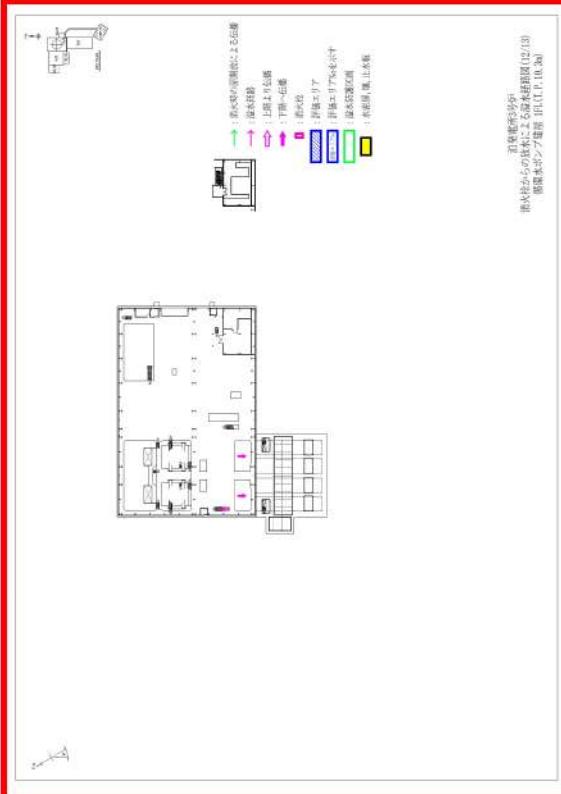
**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
		 <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

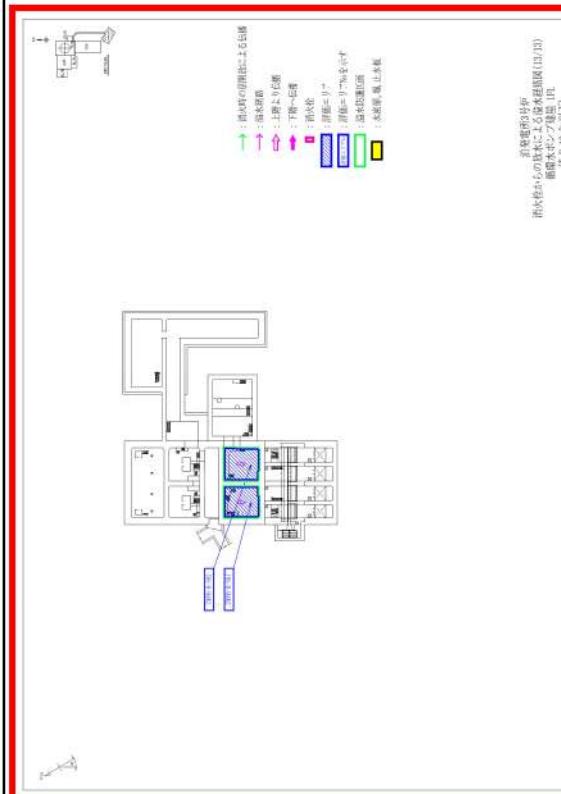
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の相違</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

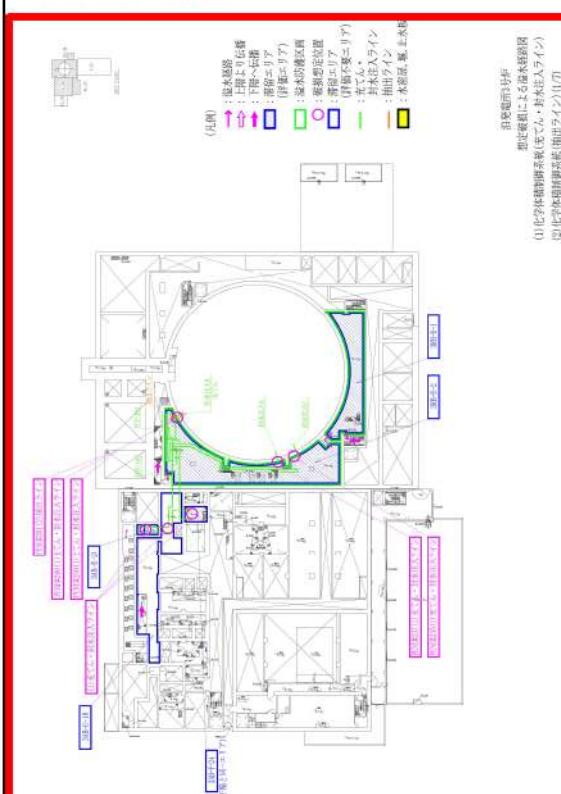
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の相違</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

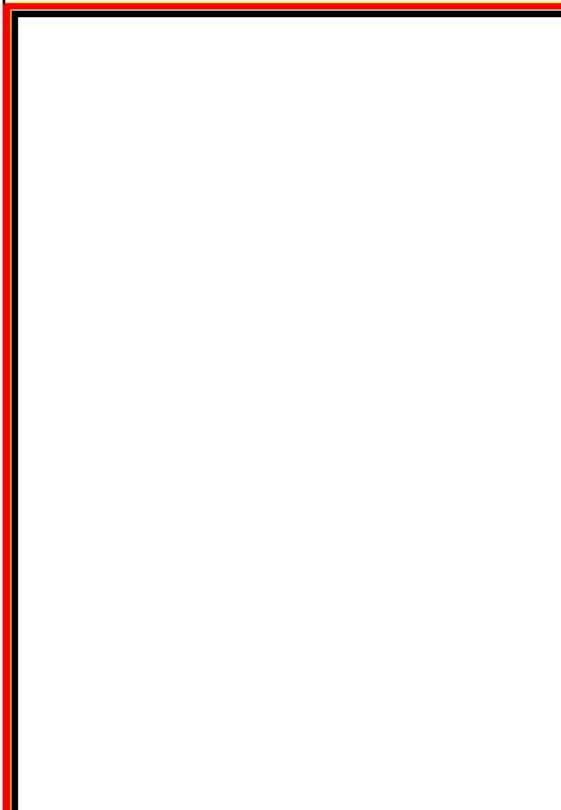
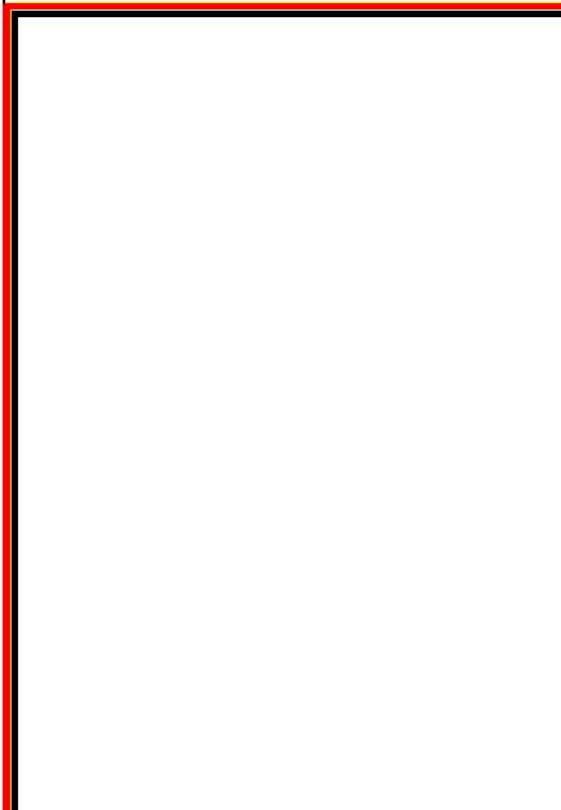
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>		<p>3. 想定破損による溢水経路及び溢水防護区画</p> <p>(1) 化学体積制御系統</p>  <p>(左側) 溢水経路      ↑(青) : 日より比管      ↓(黒) : 下へ長管      □(緑) : 運転モード      ○(赤) : 停止モード      ○(青) : 機構運転モード      ○(緑) : 自動モード      ○(白) : 手動モード       (白) : 入ラン       (黒) : ランタイム       (緑) : 本体設置施設上水道</p> <p>泊発電所3号炉      洪水防護区画      他の施設に漏洩しない・排水管(ランク)      (1) 化学体積制御系統      (2) 化学体積制御系統      17.15.8m (中間段)</p>	<p>【女川】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によつて溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

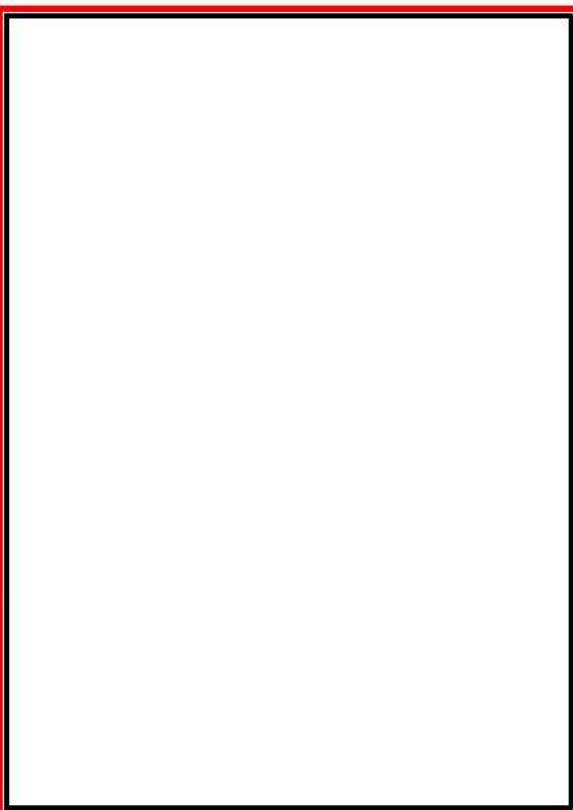
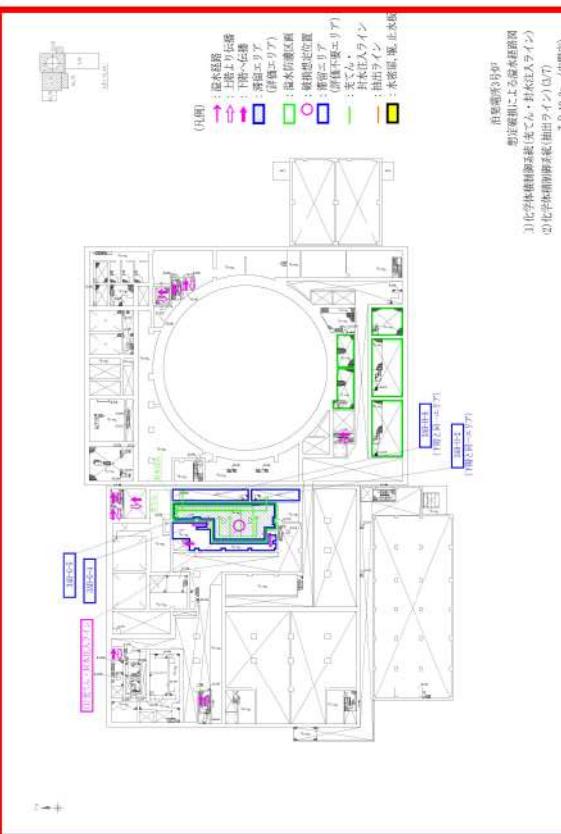
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>	 <small>枠組みの範囲は機密情報に属しますので公開できません。</small>		<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【大飯】</b>          設計方針の相違  <b>【泊】</b>          プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

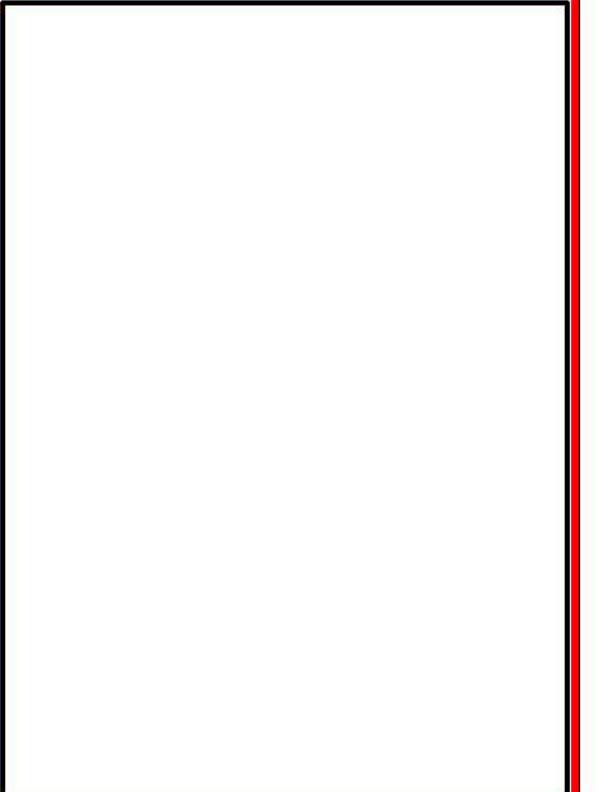
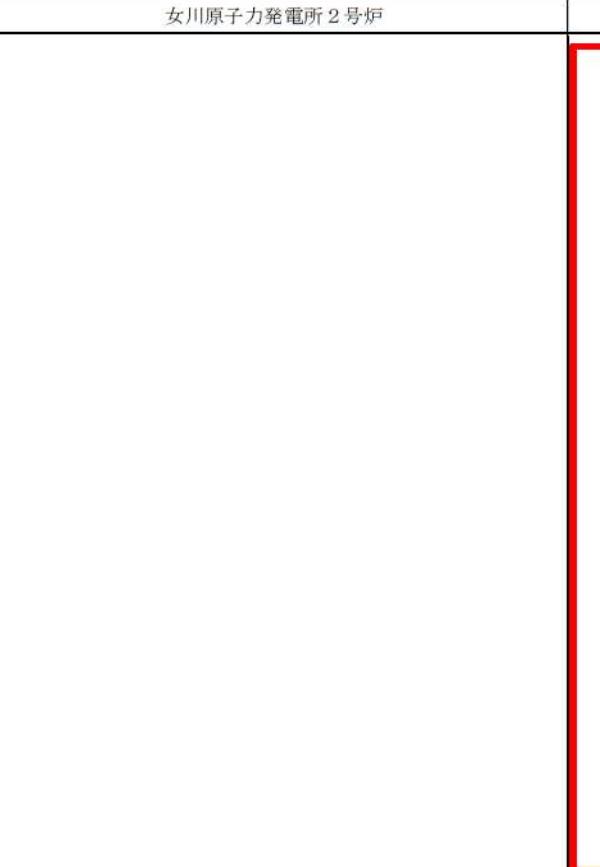
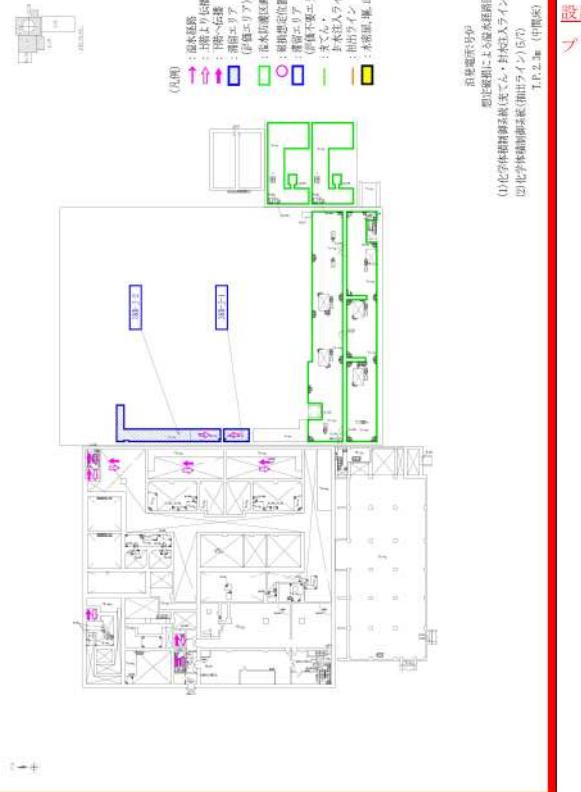
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
[Redacted Content]		[Redacted Content]	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

### 第9条 溢水による損傷の防止等(別添1添付資料10)

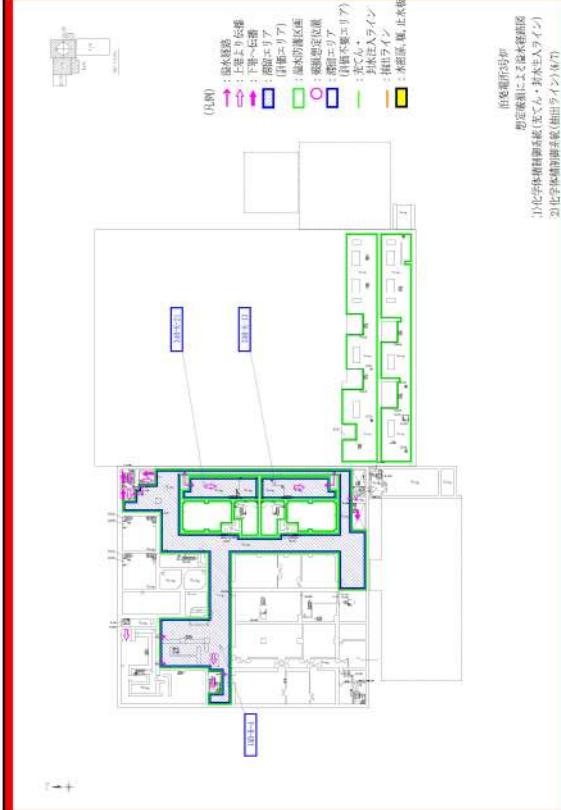
**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
 <small>赤枠内の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>		 <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p> <p>直能電工社印</p> <p>(1)化学床鋪設地(床てこ・封底入りラジン) (2)化学床鋪設地(床てこ・封底入りラジン)5台 T-2.2m (中高圧)</p>	

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

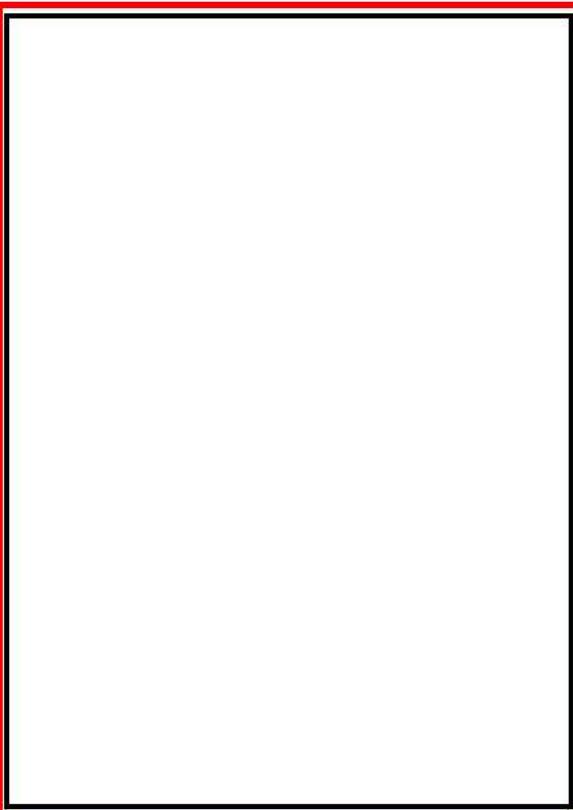
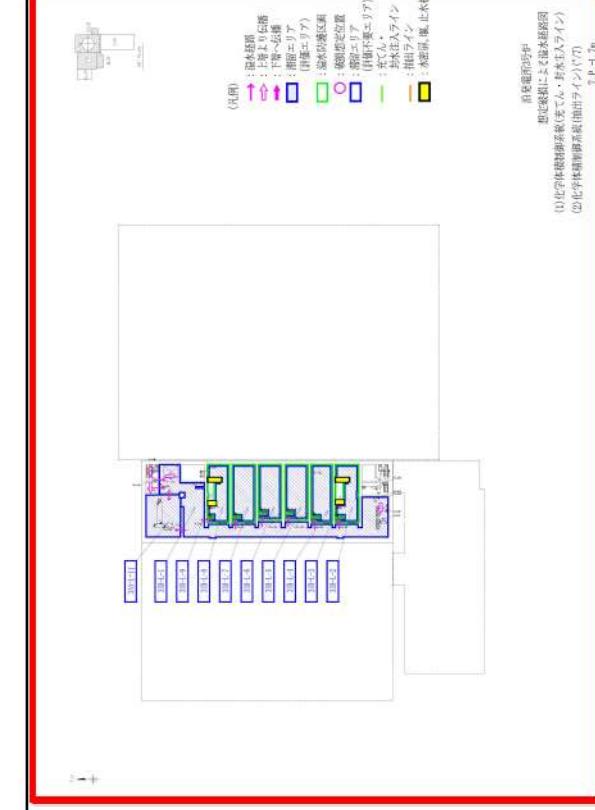
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>		 <p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)      青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)      緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p><b>【大飯】</b></p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

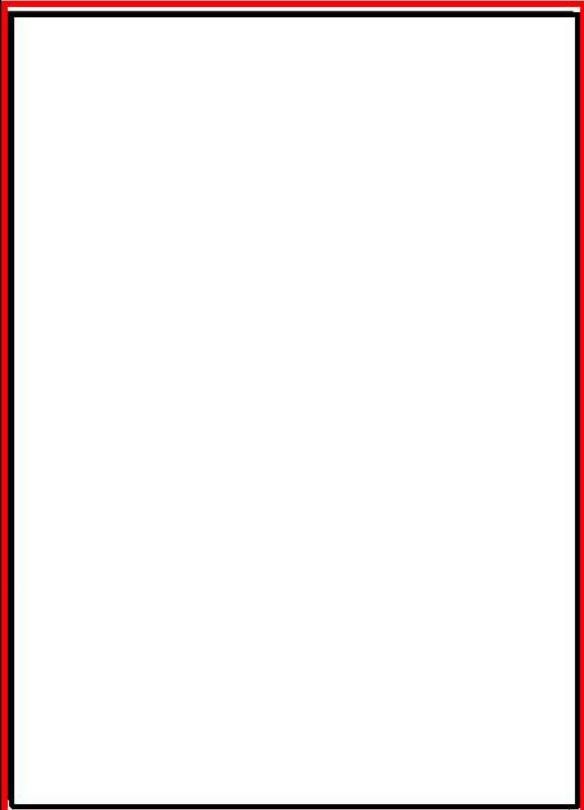
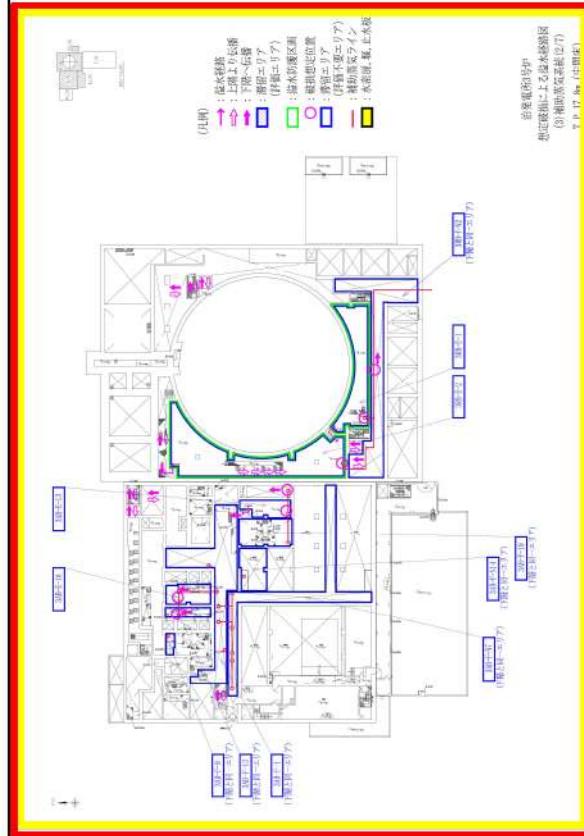
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>(2) 補助蒸気系統</p>	<p>【女川】 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

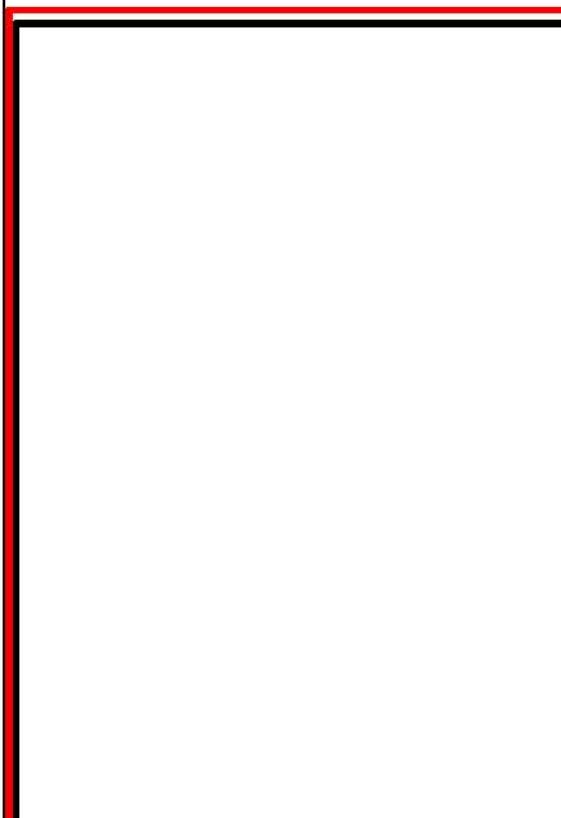
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

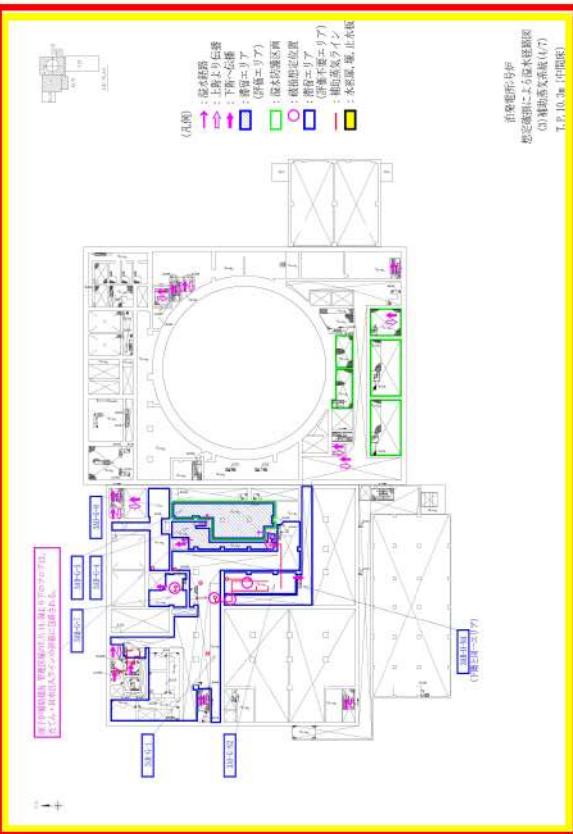
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>		 <small>枠組みの範囲は機密情報に属しますので公開できません。</small>	<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

泊発電所 3号炉 DB 基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

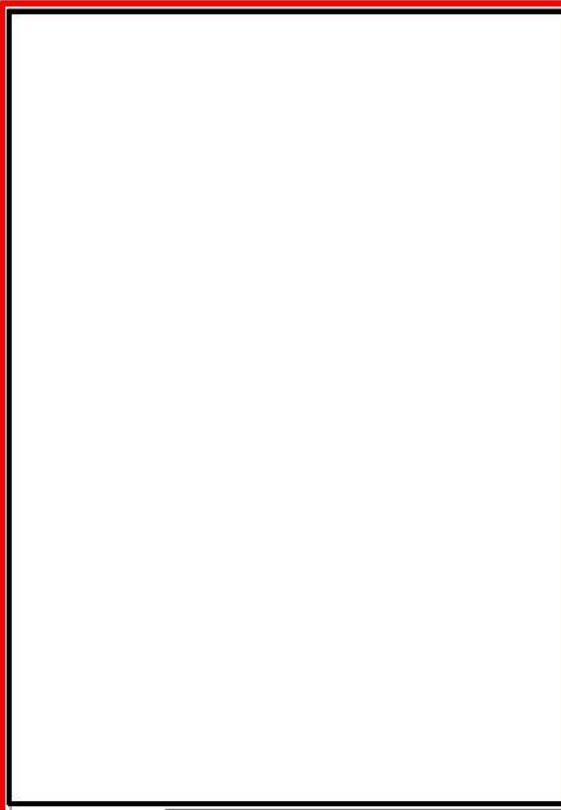
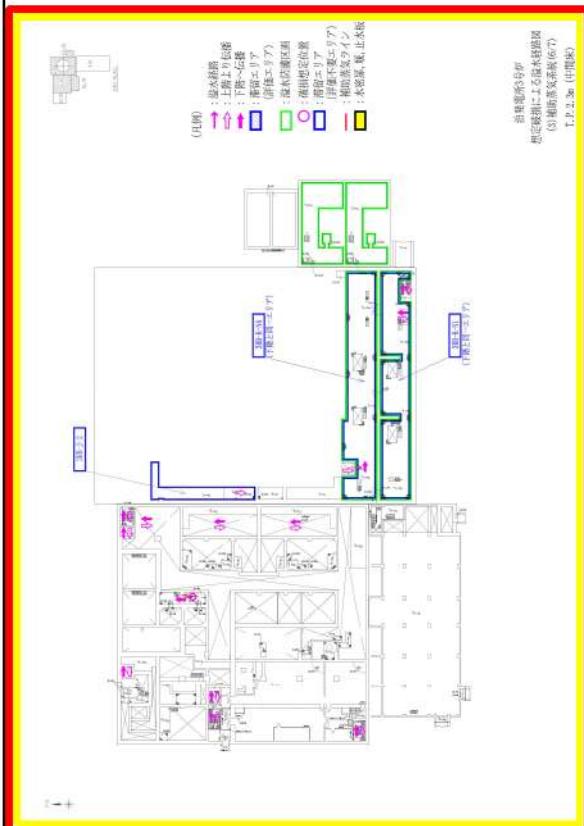
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

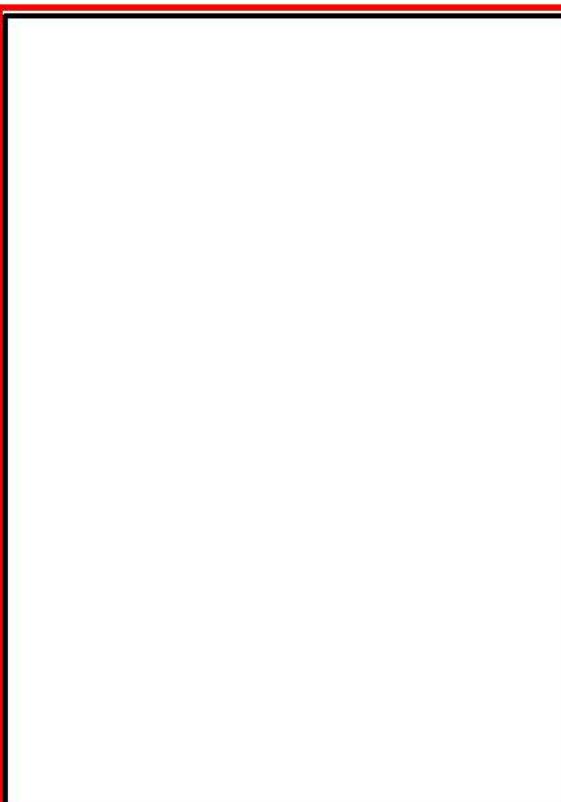
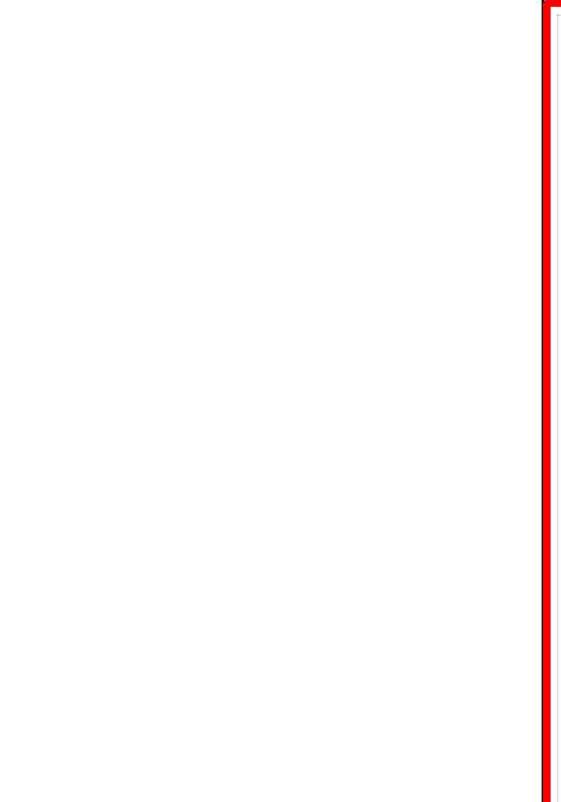
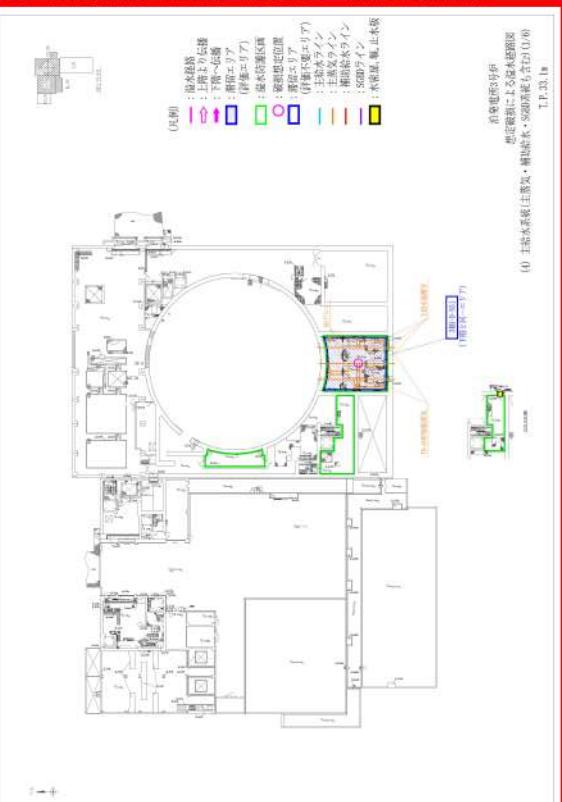
### 第9条 溢水による損傷の防止等(別添1添付資料10)

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

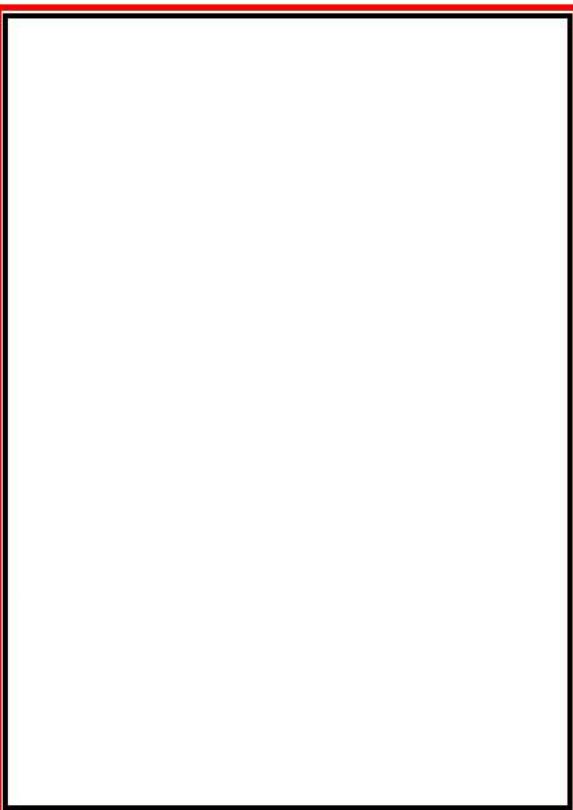
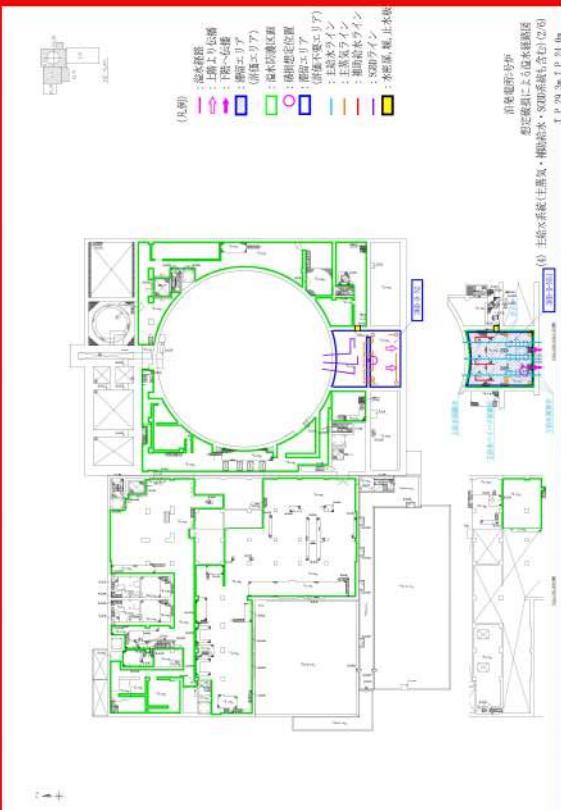
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所 3／4号炉	女川原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
 <small>【枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。】</small>		 <small>(3) 主給水系統(主蒸気・補助給水・SGBD系統も含む)</small>	<p><b>【女川】</b> 記載方針の相違 女川では、地震起因、消火水放水、想定破損による溢水によらず防護区画図上に溢水の伝播経路を示しているが、泊は溢水源によって溢水経路及び溢水防護区画を設定している。(大飯と同様)</p> <p><b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

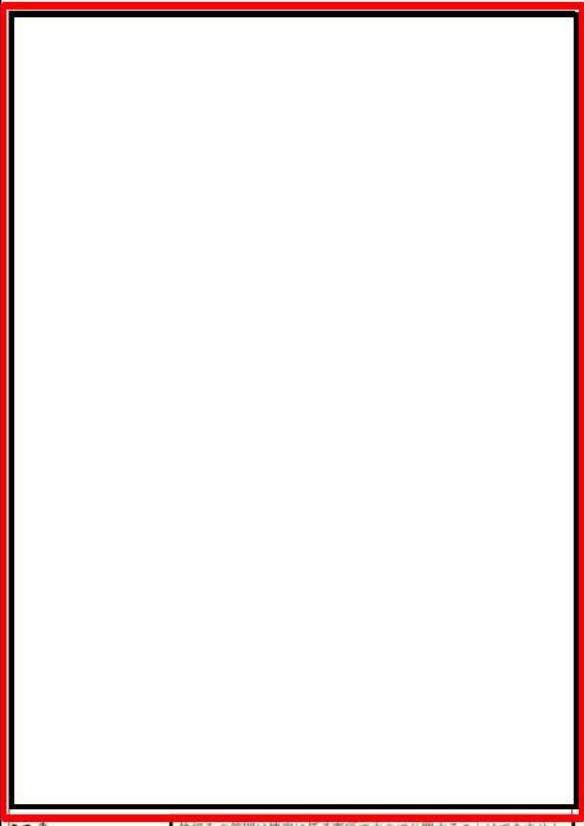
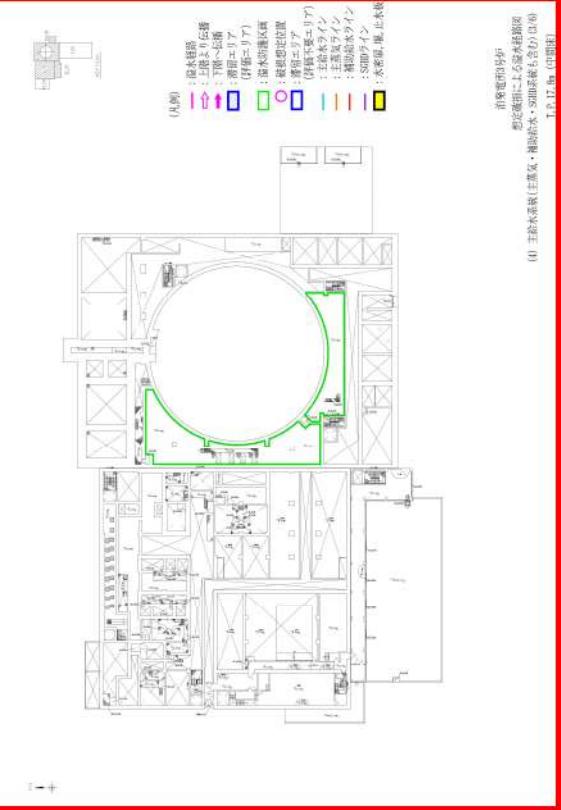
赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>			<b>【大飯】</b> 設計方針の相違 <b>【泊】</b> プラント設計の相違

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

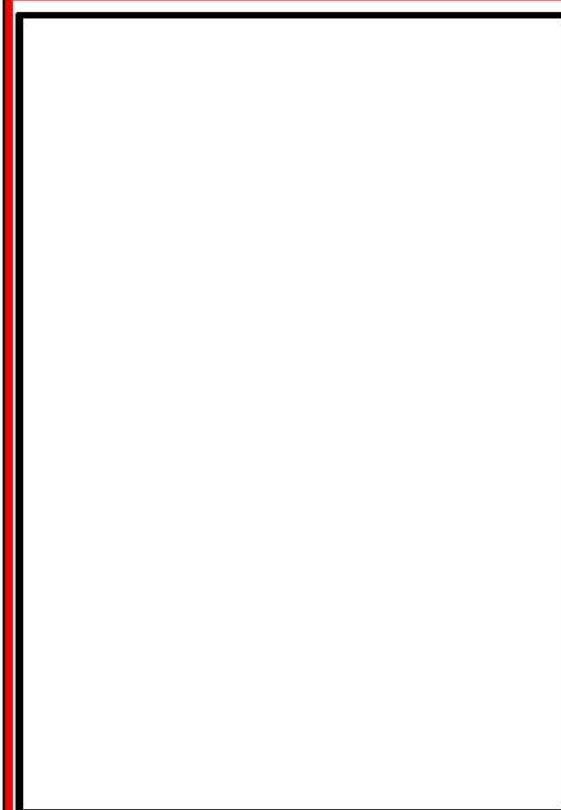
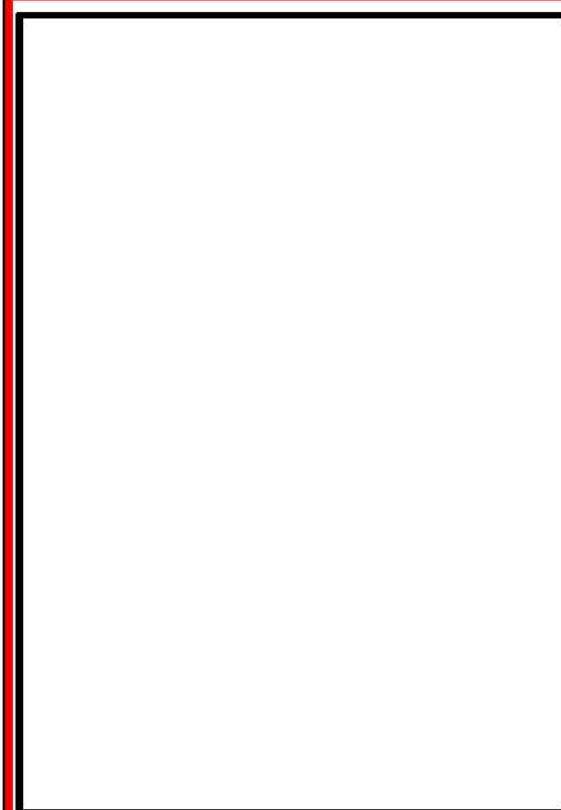
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>【泊】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>（4）主給水系統(主蒸気・沸騰水・冷却水・凝縮水)合計 (1.6) 1.7~1.8 m (初期段)</p> <p>泊発電所3号炉 赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違） 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違） 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）</p>	<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

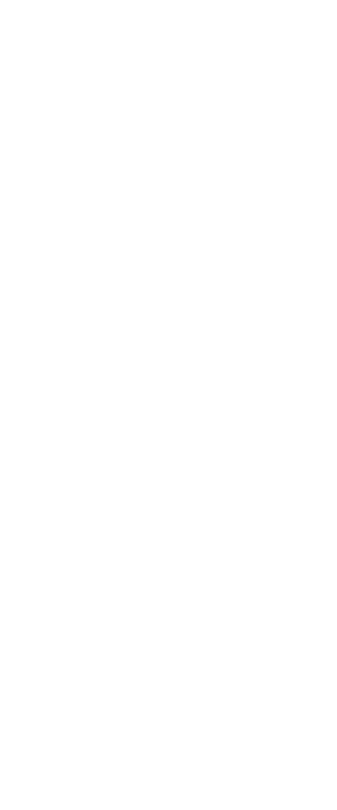
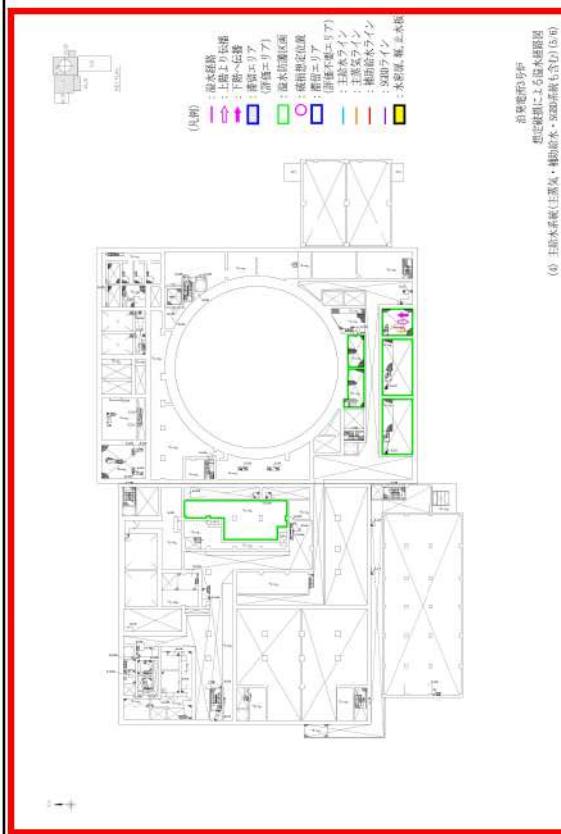
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>		 <small>枠組みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</small>	<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>			<b>【大飯】</b> <b>設計方針の相違</b> <b>プラント設計の相違</b>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>	 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>	 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開できません。</small>	<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>



機密範囲の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>			<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

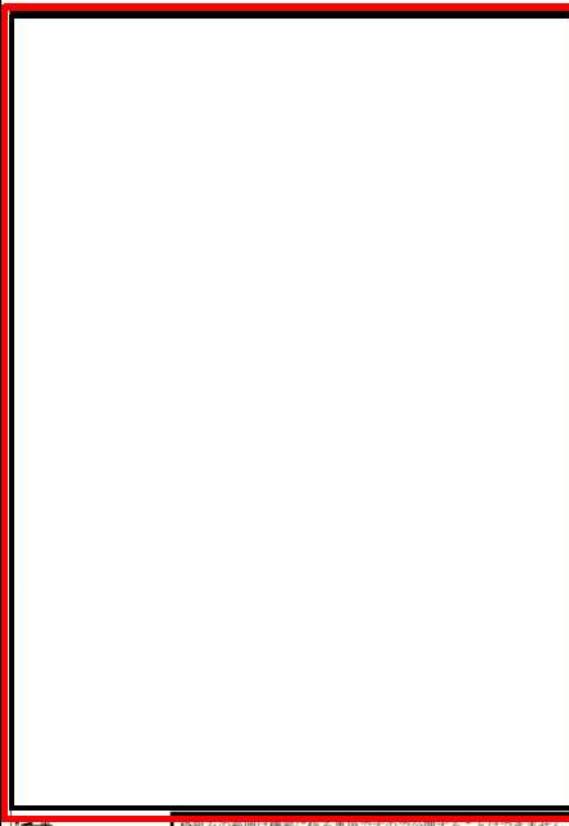
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
[Redacted Content]			<span style="color: red;">【大飯】</span> <span style="color: red;">設計方針の相違</span> <span style="color: red;">プラント設計の相違</span>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

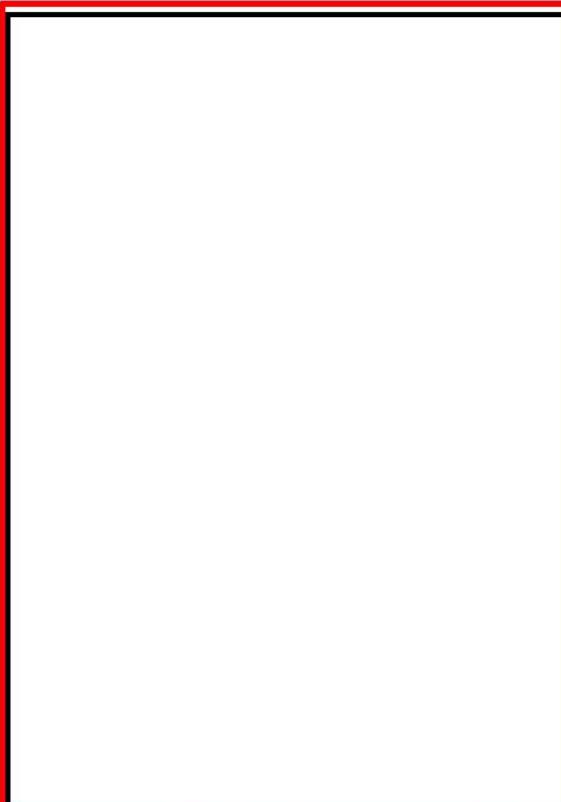
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>● ● ● 拝見の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p> <p>赤枠内の範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>			

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

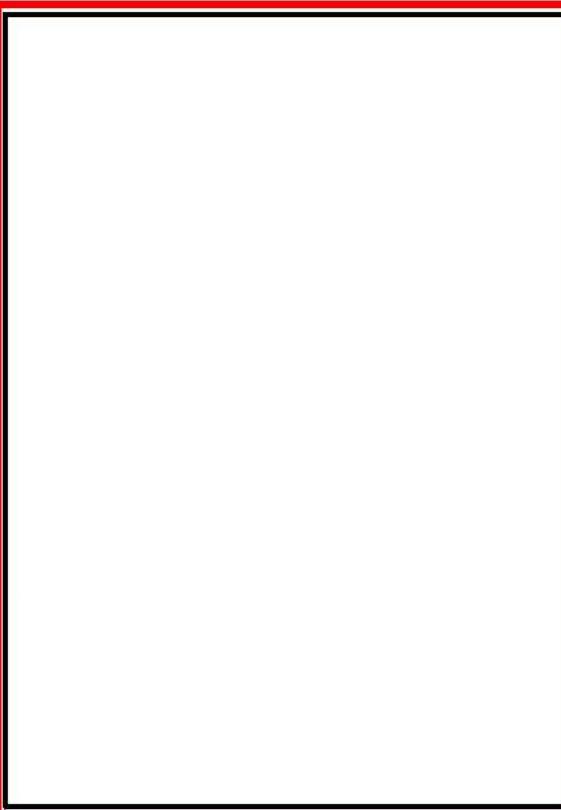
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>赤枠内に記載された内容は機密であるため公開できません。</p>			<p>【大飯】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>プラント設計の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

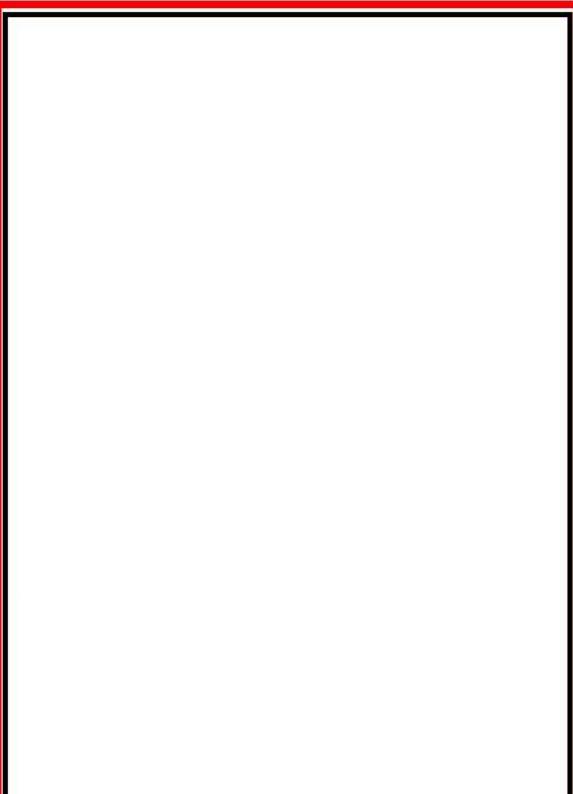
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px;"> <span style="font-size: small;">← → ← →</span> 拝照みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。     </div>			<b>【大飯】</b> 設計方針の相違 プラント設計の相違

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

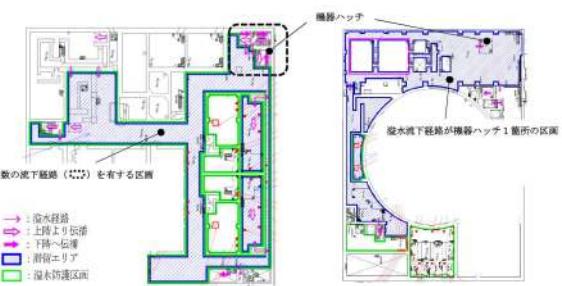
赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <small>枠組みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</small>			<small>【大飯】</small> <small>設計方針の相違</small> <small>プラント設計の相違</small>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料10)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【大飯3／4号炉】</p> <p>まとめ資料 p. 2-9-別1-60 より抜粋</p> <p>2.3 溢水防護区画及び溢水経路の設定</p> <p>(3) 溢水伝播</p> <p>上層階の溢水は階段あるいは機器ハッチを経由して下層階へ伝播する。下層階への伝播については、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとする。</p>	<p>【女川2号炉】</p> <p>まとめ資料 p. 9条-別添1-4-3 より抜粋</p> <p>4. 3 溢水経路の設定</p> <p>(3) 溢水伝播</p> <p>上層階の溢水は階段あるいは開口部を経由して下層階へ伝播する。下層階への伝播については、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとする。</p>	<p>機器ハッチから溢水が流下しない場合の影響について</p> <p>1. はじめに</p> <p>機器ハッチが床面にある区画の没水影響評価では、機器ハッチからの流下に期待せず、溢水全量が区画に貯留される条件で溢水水位を算出している。また、機器ハッチの下層階にある区画の没水影響評価では、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が下層階へ流入するものとしている。</p> <p>ここでは、定期事業者検査作業に伴う機器ハッチの状態変更等により、一時的に上層階から下層階へ溢水が伝播しない機器ハッチが生じた場合を想定しても、溢水防護対象設備が必要な安全機能を損なわないことを確認する。</p> <p>2. 確認結果</p> <p>下層階への伝播経路には、機器ハッチの他、階段室やエレベータもあり、定期事業者検査作業等で機器ハッチから溢水が流下しない状況になった場合でも、上層階からの溢水が流下する区画への流下経路が複数存在しているケースでは、没水影響評価で想定する溢水伝播経路は変わらない。</p> <p>また、上層階からの溢水流下経路が機器ハッチ1箇所の区画については、流下経路が閉塞した場合に下層階へ溢水伝播しないため、下層階の没水影響評価で考慮すべき溢水量が無くなる、若しくは下層階の溢水源から生じる溢水量のみに減少することにより、溢水水位は下層階への伝播を想定した場合よりも低くなるため、溢水防護対象設備が没水により必要な安全機能を損なうことはない。</p> 	<p>別紙1</p> <p>【女川・大飯】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川と大飯も、上層階からの溢水伝播において、下層階における溢水の伝播先を特定し、上層階からの溢水量全量が流入するものとしている点は泊と同じである。</li> <li>泊では、伝播経路として特定した溢水の流下経路のうち、機器ハッチが定期事業者検査作業等によって溢水が伝播しない状況になった場合の影響を確認している。</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																												
	<p>添付資料12 開口部等からの流出流量の評価</p> <p>1. はじめに 没水高さが高くなるようなエリアについて、扉開運用などにより流下開口を設置し、ある没水高さ以上とならないよう対策を実施している。ここでは、流下開口を設置しているエリアについて、流下開口からの流出流量が想定破損による系統流量を上回ることを確認する。</p> <p>2. 流下開口設置エリア 流下開口が設置してある区画を、表1に示す。</p> <p>表1 流下開口設置区画(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th><th>区画番号</th><th>流下開口</th><th>数量</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="19">原子炉建屋 原子炉建屋</td><td>R-1F-5</td><td>扉(開運用)</td><td>2</td></tr> <tr><td>R-B1F-1</td><td>扉(開運用)</td><td>2</td></tr> <tr><td>R-B2F-1</td><td>扉(開運用)</td><td>2</td></tr> <tr><td>R-3F-1</td><td>ハッチ(開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>ハッチ(人物搬入口)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-B2F-2</td><td>ハッチ(グレーチング)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-B2F-3</td><td>ハッチ(グレーチング)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M2F-1</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M2F-2</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M2F-3</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M2F-5</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M2F-6</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-1F-8</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-1F-9</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-MB1F-1</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-MB1F-2</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-MB1F-3</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-MB1F-4</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-B2F-7</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	建屋	区画番号	流下開口	数量	原子炉建屋 原子炉建屋	R-1F-5	扉(開運用)	2	R-B1F-1	扉(開運用)	2	R-B2F-1	扉(開運用)	2	R-3F-1	ハッチ(開運用)	1	R-2F-3	ハッチ(人物搬入口)	1	R-B2F-2	ハッチ(グレーチング)	1	R-B2F-3	ハッチ(グレーチング)	1	R-M2F-1	吹抜	1	R-M2F-2	吹抜	1	R-M2F-3	吹抜	1	R-M2F-5	吹抜	1	R-M2F-6	吹抜	1	R-1F-8	吹抜	1	R-1F-9	吹抜	1	R-MB1F-1	吹抜	1	R-MB1F-2	吹抜	1	R-MB1F-3	吹抜	1	R-MB1F-4	吹抜	1	R-B2F-7	吹抜	1	<p>添付資料11 開口部等からの流出流量の評価</p> <p>1. はじめに 没水高さが高くなるようなエリアについて、床開口部により流下開口を設置し、ある没水高さ以上とならないよう対策を実施している。ここでは、流下開口を設置しているエリアについて、流下開口からの流出流量が想定破損による系統流量を上回ることを確認する。</p> <p>2. 流下開口設置エリア 流下開口が設置してある区画を、表1に示す。</p> <p>表1 流下開口設置区画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建屋</th><th>区画番号</th><th>流下開口</th><th>数量</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="3">原子炉建屋</td><td>3AB-D-N51</td><td>グレーチング</td><td>2</td></tr> <tr><td>3AB-H-2</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>3AB-H-9</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	建屋	区画番号	流下開口	数量	原子炉建屋	3AB-D-N51	グレーチング	2	3AB-H-2	吹抜	1	3AB-H-9	吹抜	1	<p>【大飯】 記載方針の相違 女川審査実績の反映</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 泊は扉から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを先行PWRのまとめ資料に記載がないことをもって確認している。)</p> <p>【女川】 記載表現の相違 設計方針の相違 ・建屋名称、区画番号の相違。 ・泊は開運用の扉から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを先行PWRのまとめ資料に記載がないことをもって確認している。)</p>
建屋	区画番号	流下開口	数量																																																																												
原子炉建屋 原子炉建屋	R-1F-5	扉(開運用)	2																																																																												
	R-B1F-1	扉(開運用)	2																																																																												
	R-B2F-1	扉(開運用)	2																																																																												
	R-3F-1	ハッチ(開運用)	1																																																																												
	R-2F-3	ハッチ(人物搬入口)	1																																																																												
	R-B2F-2	ハッチ(グレーチング)	1																																																																												
	R-B2F-3	ハッチ(グレーチング)	1																																																																												
	R-M2F-1	吹抜	1																																																																												
	R-M2F-2	吹抜	1																																																																												
	R-M2F-3	吹抜	1																																																																												
	R-M2F-5	吹抜	1																																																																												
	R-M2F-6	吹抜	1																																																																												
	R-1F-8	吹抜	1																																																																												
	R-1F-9	吹抜	1																																																																												
	R-MB1F-1	吹抜	1																																																																												
	R-MB1F-2	吹抜	1																																																																												
	R-MB1F-3	吹抜	1																																																																												
	R-MB1F-4	吹抜	1																																																																												
	R-B2F-7	吹抜	1																																																																												
建屋	区画番号	流下開口	数量																																																																												
原子炉建屋	3AB-D-N51	グレーチング	2																																																																												
	3AB-H-2	吹抜	1																																																																												
	3AB-H-9	吹抜	1																																																																												

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																										
	<p style="color: green;">表1 流下開口設置区画(2/2)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>棟号</th><th>区画番号</th><th>流下開口</th><th>数量</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="18">原子炉建屋付属棟</td><td>R-2F-5</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-2F-7</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-2F-8</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-1F-14</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-B1F-8</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-B1F-12</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-B2F-10</td><td>扉 (開運用)</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-3F-2</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-3F-4</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-3F-5</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M3F-3-1</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-2F-6-2</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-2F-7-1</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-2F-8-2</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>R-M2F-9</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>C-3F-3</td><td>床開口</td><td>1</td></tr> <tr><td>C-3F-4</td><td>床開口</td><td>1</td></tr> <tr><td>C-2F-3</td><td>床開口</td><td>3</td></tr> <tr><td rowspan="5">制御建屋</td><td>C-1F-4</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>C-MB1F-1</td><td>床開口</td><td>3</td></tr> <tr><td>C-M2F-1</td><td>吹抜</td><td>1</td></tr> <tr><td>T-1F-1</td><td>扉 (開運用)</td><td>2</td></tr> <tr><td>T-B1F-1</td><td>扉 (開運用)</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> <p style="color: red;">3. 流下開口 (扉) からの流出量    (1) 扉からの流出量    常時開の扉開口を想定し、カーブを乗り越えて溢水が伝播する際の越流水深と越流量との関係式について、「第四版土木工学ハンドブック I, 土木学会編, 技報堂出版」より、図1のような長方堰の流量算出式を参照し、以下の式を利用した。</p>	棟号	区画番号	流下開口	数量	原子炉建屋付属棟	R-2F-5	扉 (開運用)	1	R-2F-7	扉 (開運用)	1	R-2F-8	扉 (開運用)	1	R-1F-14	扉 (開運用)	1	R-B1F-8	扉 (開運用)	1	R-B1F-12	扉 (開運用)	1	R-B2F-10	扉 (開運用)	1	R-3F-2	吹抜	1	R-3F-4	吹抜	1	R-3F-5	吹抜	1	R-M3F-3-1	吹抜	1	R-2F-6-2	吹抜	1	R-2F-7-1	吹抜	1	R-2F-8-2	吹抜	1	R-M2F-9	吹抜	1	C-3F-3	床開口	1	C-3F-4	床開口	1	C-2F-3	床開口	3	制御建屋	C-1F-4	吹抜	1	C-MB1F-1	床開口	3	C-M2F-1	吹抜	1	T-1F-1	扉 (開運用)	2	T-B1F-1	扉 (開運用)	2	<p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: blue;">記載表現の相違</p> <p style="color: blue;">設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋名称、区画番号の相違。</li> <li>・泊は開運用の扉から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを先行PWRのまとめ資料に記載がないことをもって確認している。)</li> </ul> <p style="color: green;">【女川】</p> <p style="color: blue;">設計方針の相違</p> <p style="color: blue;">泊は扉から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを先行PWRのまとめ資料に記載がないことをもって確認している。)</p>
棟号	区画番号	流下開口	数量																																																																										
原子炉建屋付属棟	R-2F-5	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-2F-7	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-2F-8	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-1F-14	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-B1F-8	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-B1F-12	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-B2F-10	扉 (開運用)	1																																																																										
	R-3F-2	吹抜	1																																																																										
	R-3F-4	吹抜	1																																																																										
	R-3F-5	吹抜	1																																																																										
	R-M3F-3-1	吹抜	1																																																																										
	R-2F-6-2	吹抜	1																																																																										
	R-2F-7-1	吹抜	1																																																																										
	R-2F-8-2	吹抜	1																																																																										
	R-M2F-9	吹抜	1																																																																										
	C-3F-3	床開口	1																																																																										
	C-3F-4	床開口	1																																																																										
	C-2F-3	床開口	3																																																																										
制御建屋	C-1F-4	吹抜	1																																																																										
	C-MB1F-1	床開口	3																																																																										
	C-M2F-1	吹抜	1																																																																										
	T-1F-1	扉 (開運用)	2																																																																										
	T-B1F-1	扉 (開運用)	2																																																																										

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																							
	<p style="text-align: center;"><math>Q = C \times B \times h^{\frac{3}{2}}</math> ..... ①式</p> <p style="text-align: center;">ここで、<math>0.4 \leq h/L \leq (1.5 \sim 1.9)</math> ; <math>C = 1.444 + 0.352(\frac{h}{L})</math></p> <p style="text-align: center;"><math>Q</math> : 越流量(<math>m^3/s</math>)  <math>B</math> : 壁の幅(m)  <math>h</math> : 越流水深(m)  <math>C</math> : 流量係数(<math>m^{1/2}/s</math>)  <math>L</math> : 壁長さ(m)  <math>W</math> : 壁高さ(m)</p> <p style="text-align: center;">図1 長方堰の越流量</p> <p>(2) 算出結果</p> <p>前述の式から越流量を算出した結果を表2に示す。没水高さ0.3mの場合、扉(1箇所)での越流水深は0.17mとなり、越流量は331m<sup>3</sup>/hとなる。原子炉建屋について、扉からの排出を期待する系統のうち、原子炉建屋原子炉棟における最大漏えい流量は263m<sup>3</sup>/h(高圧炉心スプレイ系)、原子炉建屋付属棟における最大漏えい流量は201m<sup>3</sup>/h(原子炉補機冷却水系)であり、扉からの流出量が上回っているため、没水高さ0.3m以上に達することはない。</p> <p style="text-align: center;">表2 扉の諸元と越流量算出結果(没水高さ0.3mの場合)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>記号</th> <th>値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁高さ【カーブ高さ】(m)</td> <td>W</td> <td>0.13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁長さ【カーブ奥行き】(m)</td> <td>L</td> <td>0.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>越流水深(m)</td> <td>h</td> <td>0.17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁の幅【開口幅】(m)</td> <td>B</td> <td>0.8</td> <td>扉体開口は1m</td> </tr> <tr> <td>越流量(<math>m^3/h</math>)</td> <td>Q</td> <td>331</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	記号	値	備考	壁高さ【カーブ高さ】(m)	W	0.13		壁長さ【カーブ奥行き】(m)	L	0.3		越流水深(m)	h	0.17		壁の幅【開口幅】(m)	B	0.8	扉体開口は1m	越流量( $m^3/h$ )	Q	331		<p style="color: red; font-weight: bold;">【女川】</p> <p style="color: red;">設計方針の相違</p> <p style="color: red;">泊は扉から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを資料に記載がないことをもって確認している。)</p>
項目	記号	値	備考																							
壁高さ【カーブ高さ】(m)	W	0.13																								
壁長さ【カーブ奥行き】(m)	L	0.3																								
越流水深(m)	h	0.17																								
壁の幅【開口幅】(m)	B	0.8	扉体開口は1m																							
越流量( $m^3/h$ )	Q	331																								

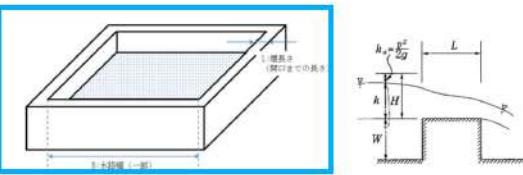
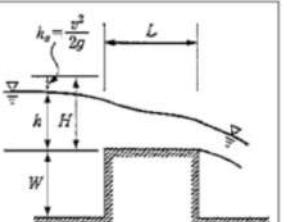
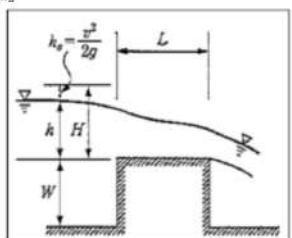
## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																															
	<p>4. 流下開口（床開口）からの流出量 建屋内の床面に開口を設置する対策について、開口部からの流出流量が想定破損時による系統流量を上回ることを確認する。</p> <p>(1) 評価条件        ・床開口は満水流れとして評価を実施する。        ・下記に示す評価式のとおり、流量は落差が大きいほど大きくなるため、スラブ上の滞留深さは考慮せず、落差としてはスラブ厚さを考慮する。        ・床開口は円形とし、<math>\phi 100\text{mm}</math>と設定する。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <math display="block">Q = A \sqrt{\frac{2gH}{\lambda_d + \xi L + 1}} \quad \dots \dots \quad \text{②式}</math> <p>         Q : 流量(<math>\text{m}^3/\text{s}</math>)          A : 断面積(<math>\text{m}^2</math>)          H : 落差(m)          d : 内径(m)          L : 直管長(m)          ξ : 損失係数          λ : 摩擦係数          g : 重力加速度(<math>\text{m}/\text{s}^2</math>)       </p> </div> <p>(2) 算出結果 表3の結果より、床開口1箇所あたりの流出流量は <math>52.8\text{m}^3/\text{h}</math> となった。この条件をもとに、想定破損時の系統流量が排出可能な必要開口数を表4に示す。必要開口数を設置することにより、床面からの開口から系統流量が排出可能であることを確認した。</p> <p>表3 床開口1箇所あたりの流出流量算出結果</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>記号</th> <th>値</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内径(m)</td> <td>d</td> <td>0.10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>摩擦係数</td> <td>λ</td> <td>0.06</td> <td>最も粗度の高いコンクリート管(管壁の粗度0.03)を想定</td> </tr> <tr> <td>直管長(m)</td> <td>L</td> <td>0.3</td> <td>スラブ厚さ</td> </tr> <tr> <td>損失係数</td> <td>ξ</td> <td>0.5</td> <td>管路入口における損失は、最も損失が大きい角端を想定</td> </tr> <tr> <td>重力加速度(<math>\text{m}/\text{s}^2</math>)</td> <td>g</td> <td>9.80665</td> <td></td> </tr> <tr> <td>落差(m)</td> <td>H</td> <td>0.3</td> <td>スラブ上の滞留深さは考慮せずスラブ厚さのみを考慮</td> </tr> <tr> <td>流量(<math>\text{m}^3/\text{h}</math>)</td> <td>Q</td> <td>52.8</td> <td>開口部1箇所からの流出流量</td> </tr> </tbody> </table>	項目	記号	値	備考	内径(m)	d	0.10		摩擦係数	λ	0.06	最も粗度の高いコンクリート管(管壁の粗度0.03)を想定	直管長(m)	L	0.3	スラブ厚さ	損失係数	ξ	0.5	管路入口における損失は、最も損失が大きい角端を想定	重力加速度( $\text{m}/\text{s}^2$ )	g	9.80665		落差(m)	H	0.3	スラブ上の滞留深さは考慮せずスラブ厚さのみを考慮	流量( $\text{m}^3/\text{h}$ )	Q	52.8	開口部1箇所からの流出流量	<p>【女川】 設計方針の相違 泊は円形の床開口から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを資料に記載がないことをもって確認している。)</p>
項目	記号	値	備考																															
内径(m)	d	0.10																																
摩擦係数	λ	0.06	最も粗度の高いコンクリート管(管壁の粗度0.03)を想定																															
直管長(m)	L	0.3	スラブ厚さ																															
損失係数	ξ	0.5	管路入口における損失は、最も損失が大きい角端を想定																															
重力加速度( $\text{m}/\text{s}^2$ )	g	9.80665																																
落差(m)	H	0.3	スラブ上の滞留深さは考慮せずスラブ厚さのみを考慮																															
流量( $\text{m}^3/\text{h}$ )	Q	52.8	開口部1箇所からの流出流量																															

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
<p>【島根2】</p> <p>まとめ資料p.9条別添1-補足4-1より抜粋</p> <p>1. 機器搬入ハッチ等の開口部からの排出流量</p> <p>1.1 機器搬入ハッチ等の開口部からの排出流量</p> <p>一般的な機器搬入ハッチの形状を想定し、以下の式を利用して機器搬入ハッチ等の開口部からの排出流量を算出する。開口部概略図を図1-1に示す。(参考文献「土木学会 水理公式集 平成11年度版」)</p> $Q_{out} = C_{out} \times B \times h^{\frac{3}{2}} \quad \dots \dots \dots \quad (1)$ $C_{out} = 1.642 \times \left(\frac{h}{L}\right)^{0.022} \quad \dots \dots \dots \quad (2)$ <p>Q<sub>out</sub> : 排出流量 [m<sup>3</sup>/s]      B : 開口の幅 [m]      C<sub>out</sub> : 排出係数 [m<sup>1/2</sup>/s]      h : 溢水水位 [m]      L : 開口までの長さ [m]      W : 壁高さ [m]</p>  <p>図1-1 開口部概略図</p>	<p>表4 想定破損時の系統流量が排出可能な必要開口数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th> <th>区画内系統漏えい流量(m<sup>3</sup>/h)*</th> <th>床開口数</th> <th>床開口からの流出流量(m<sup>3</sup>/h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C-3F-3</td> <td>20.1(消防系)</td> <td>1</td> <td>52.8</td> </tr> <tr> <td>C-3F-4</td> <td>9.1(消防用雨水)</td> <td>1</td> <td>52.8</td> </tr> <tr> <td>C-2F-3</td> <td>155(消防)</td> <td>3</td> <td>158.4</td> </tr> <tr> <td>C-1F-4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>* 区画内系統漏えい流量(m<sup>3</sup>/h)の値は、保守的に当該区画内を通過する配管口径ではなく、当該系統における最大口径を用いて評価した値</p> <p>5. 流下開口 (ハッチ、吹抜) からの流出量</p> <p>「3. 流下開口 (扉) からの流出量」より再掲</p> <p>3. 流下開口 (扉) からの流出量</p> <p>(1) 扉からの流出量</p> <p>常時開の扉開口を想定し、カーブを乗り越えて溢水が伝播する際の越流水深と越流量との関係式について、「第四版土木工学ハンドブック I、土木学会編、技報堂出版」より、図1のような長方堰の流量算出式を参照し、以下の式を利用した。</p> $Q = C \times B \times h^{\frac{3}{2}} \quad \dots \dots \dots \quad ①\text{式}$ <p>ここで、<math>0.4 \leq h/L \leq (1.5 \sim 1.9)</math> ; <math>C = 1.444 + 0.352\left(\frac{h}{L}\right)</math></p> <p>Q : 越流量 [m<sup>3</sup>/s]      B : 壁の幅 [m]      h : 越流水深 [m]      C : 流量係数 [m<sup>1/2</sup>/s]      L : 壁長さ [m]      W : 壁高さ [m]</p>  <p>図1 長方堰の越流量</p>	区画番号	区画内系統漏えい流量(m <sup>3</sup> /h)*	床開口数	床開口からの流出流量(m <sup>3</sup> /h)	C-3F-3	20.1(消防系)	1	52.8	C-3F-4	9.1(消防用雨水)	1	52.8	C-2F-3	155(消防)	3	158.4	C-1F-4				<p>泊発電所3号炉</p> <p>3. 流下開口 (グレーチング、吹抜) からの流出量</p> <p>(1) グレーチング、吹抜からの流出量</p> <p>グレーチング、吹抜の開口を想定し、堰を乗り越えて溢水が伝播する際の越流水深と越流量との関係式について、「土木学会 水理公式集 (平成11年版)」より、図1のような長方堰の流量算出式を参照し、以下の式を利用した。</p> $Q = C \times B \times h^{3/2} \quad \dots \dots \dots \quad ①\text{式}$ <p>ここで、<math>0 &lt; h/L \leq 0.1</math> ; <math>C = 1.642 (h/L)^{0.022}</math></p> <p>Q : 越流量 [m<sup>3</sup>/s]      B : 開口の幅 [m]      h : 越流水深 [m]      C : 流量係数 [m<sup>1/2</sup>/s]      L : 壁長さ [m]      W : 壁高さ [m]</p>  <p>図1 長方堰の越流量</p>	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊は円形の床開口から溢水が流出し、没水水位を抑制することに期待していない。(先行PWRにおいても同様であることを資料に記載がないことをもって確認している。)</p> <p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は扉開口からの流出に期待しないため、本項において記載した。</li> <li>・女川は「3. 流下開口 (扉) からの流出量」で左記の評価式を記載しており、ハッチ、吹抜からの流出流量についても左記の評価式を利用することを後述している。</li> <li>また、女川でもハッチ、吹抜について、堰を考慮して評価を実施しているため、女川の「3. 流下開口 (扉) からの流出量」の記載をグレーチング、ハッチに置き換えて記載する。</li> <li>文献は異なるが利用している式に相違はない。(泊は島根と同様の文献を参照している。)</li> </ul> <p>設計方針の相違</p> <p>堰長さの保守性により、島根と同様の流出係数算出式に限定される。(島根と同様)</p> <p>【島根】</p> <p>記載方針の相違</p> <p>流出量の算出における、構文については、女川を参照し記載する。</p> <p>記載表現の相違</p>
区画番号	区画内系統漏えい流量(m <sup>3</sup> /h)*	床開口数	床開口からの流出流量(m <sup>3</sup> /h)																				
C-3F-3	20.1(消防系)	1	52.8																				
C-3F-4	9.1(消防用雨水)	1	52.8																				
C-2F-3	155(消防)	3	158.4																				
C-1F-4																							

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【島根2号炉】</p> <p>まとめ資料 p.9 条-別添1-補足4-2 より抜粋</p> <p>なお、開口の幅については、周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性も考慮し、排出を期待できる開口の幅の50%として設定する。</p>	<p>(1) 流下開口 (ハッチ、吹抜) からの流出量評価の前提条件</p> <p>ハッチ、吹抜からの流出量について、①式を使用して算出する。</p> <p>一部、開口周囲にカーブがない箇所もあるが、ここでは保守的にカーブ高さ、カーブ幅を仮定した場合の流出量を算出する。</p> <p>また、ハッチについては、開口4辺のうち、2辺から流出していくこととして算出する。</p> <p>表5にハッチ、吹抜の開口条件を示す。</p>	<p>(2) 流下開口 (グレーチング、吹抜) からの流出量評価の前提条件</p> <p>グレーチング、吹抜からの流出量について、①式を使用して算出する。</p> <p>一部、開口周囲に堰がない箇所もあるが、ここでは保守的に堰高さ、堰長さを仮定した場合の流出量を算出する。</p> <p>なお、開口の幅については、周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性も考慮し、排出を期待できる開口の幅の50%として設定する。</p> <p>表2にグレーチング、吹抜の開口条件を示す。</p>	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>開口の位置が部屋の端にあることや開口の幅が1辺のみであること踏まえ、「開口の幅については、周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性も考慮し、排出を期待できる開口の幅の50%として設定する。」(島根記載)を参考にし、泊も同様に、開口の幅については、流出を期待できる開口の幅の50%として設定する。</p>

泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字: 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
青字: 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
緑字: 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																					
<p>【島根2号炉】</p> <p>まとめ資料 p.9条-別添2-補足4-2より抜粋</p> <p>表1-1 開口部の各パラメータ値及び排出流量算出結果</p> <table border="1"> <tr><td>B: 開口の幅 [m]</td><td>12.5</td></tr> <tr><td>h: 溢水水位 [m]</td><td>0.32</td></tr> <tr><td>L: 開口までの長さ [m]</td><td>50</td></tr> <tr><td><math>h/L</math></td><td>0.0064</td></tr> <tr><td><math>C_{out}</math>: 排出係数 [<math>m^{1/2}/s</math>]</td><td>1.47</td></tr> <tr><td><math>Q_{out}</math>: 排出流量 [<math>m^3/h</math>]</td><td>11,988</td></tr> </table> <p>まとめ資料 p.9条-別添1-補足4-1より抜粋</p> <p>なお、開口までの長さLを長くとるほどに排出流量が少なくなることから、保守的に原子炉建物の二次格納施設の1辺に相当する50mとし、床面を長頂堰とみなして算出する。</p>	B: 開口の幅 [m]	12.5	h: 溢水水位 [m]	0.32	L: 開口までの長さ [m]	50	$h/L$	0.0064	$C_{out}$ : 排出係数 [ $m^{1/2}/s$ ]	1.47	$Q_{out}$ : 排出流量 [ $m^3/h$ ]	11,988	<p>表5 ハッチ、吹抜の開口条件(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th><th>開口数</th><th>開口幅 (m)</th><th>カーブ高さ (m)</th><th>カーブ幅 (m)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-2F-1</td><td>1</td><td>6.5×5.5</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>1</td><td>6.5×5.5</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-2DF-2</td><td>1</td><td>3.0×3.0</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-2DF-3</td><td>1</td><td>3.1×3.1</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-MDF-1</td><td>1</td><td>11.1×2.2×2.2</td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MDF-2</td><td>1</td><td>—<sup>#1</sup></td><td>—<sup>#1</sup></td><td>—<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-MDF-3</td><td>1</td><td>3.3×1.05×3.3</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-MDF-5</td><td>1</td><td>3.9</td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MDF-6</td><td>1</td><td>—<sup>#1</sup></td><td>—<sup>#1</sup></td><td>—<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-1F-8</td><td>1</td><td>6.5以上</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-1F-9</td><td>1</td><td>2.7</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>R-MB1F-1</td><td>1</td><td>3.1 (4.4)<sup>#2</sup></td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MB1F-2</td><td>1</td><td>9.1以上</td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MB1F-3</td><td>1</td><td>2.5 (4.4)<sup>#2</sup></td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MB1F-4</td><td>1</td><td>5.6</td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-RPF-7</td><td>1</td><td>—<sup>#1</sup></td><td>—<sup>#1</sup></td><td>—<sup>#1</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>*1 床なし区画 *2 開口が2辺のため、小さいほうの値で評価</p>	区画番号	開口数	開口幅 (m)	カーブ高さ (m)	カーブ幅 (m)	R-2F-1	1	6.5×5.5	0.13	0.25	R-2F-3	1	6.5×5.5	0.13	0.25	R-2DF-2	1	3.0×3.0	0.13	0.25	R-2DF-3	1	3.1×3.1	0.13	0.25	R-MDF-1	1	11.1×2.2×2.2	0.13	0.2	R-MDF-2	1	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	R-MDF-3	1	3.3×1.05×3.3	0.13	0.25	R-MDF-5	1	3.9	0.13	0.2	R-MDF-6	1	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	R-1F-8	1	6.5以上	0.13	0.25	R-1F-9	1	2.7	0.13	0.25	R-MB1F-1	1	3.1 (4.4) <sup>#2</sup>	0.13	0.2	R-MB1F-2	1	9.1以上	0.13	0.2	R-MB1F-3	1	2.5 (4.4) <sup>#2</sup>	0.13	0.2	R-MB1F-4	1	5.6	0.13	0.2	R-RPF-7	1	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	<p>表2 グレーチング、吹抜の開口条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th><th>開口数</th><th>開口の幅 (m)</th><th>堰高さ (m)</th><th>堰長さ (m)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>3RB-D-N51</td><td>2<sup>#1</sup></td><td>2.075</td><td>0.1</td><td>76.6<sup>#2</sup></td></tr> <tr><td>3AB-H-2</td><td>1</td><td>1.35</td><td>0.1</td><td>56.2<sup>#2</sup></td></tr> <tr><td>3AB-H-9</td><td>1</td><td>1.35</td><td>0.1</td><td>56.2<sup>#2</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>※1 周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性を考慮して、評価上は開口部1箇所を想定 ※2 開口までの長さLを長くとるほどに越流量が少なくなることから、保守的に建屋の長辺に相当する値とし、床面を長頂堰とみなして算出</p>	区画番号	開口数	開口の幅 (m)	堰高さ (m)	堰長さ (m)	3RB-D-N51	2 <sup>#1</sup>	2.075	0.1	76.6 <sup>#2</sup>	3AB-H-2	1	1.35	0.1	56.2 <sup>#2</sup>	3AB-H-9	1	1.35	0.1	56.2 <sup>#2</sup>	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区画番号の相違。開口数、開口の幅、堰高さ、堰長さについては評価条件の相違。</li> <li>・泊の※1について、開口部は2箇所あるが、周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性を考慮して、保守的に開口部1箇所を想定して評価を実施している。</li> <li>・泊の※2について、島根の記載を参考にし、開口までの長さを長くとるほどに排出流量が少なくなることから、保守的に建屋の長辺を堰長さとして設定している。</li> <li>・女川の※1の床なし区画は、泊の開口条件にはない。</li> <li>・女川の※2の保守性については、泊では「排出を期待できる開口の幅の50%」としている。(島根と同様)</li> </ul> <p>【島根】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堰長さの保守性の設定について、島根では原子炉建物の二次格納施設の1辺に相当する50mを用いている。一方で、泊では原子炉建屋、原子炉補助建屋それぞれの長辺として設定しており、プラント設計違いによる評価条件の相違であり、考え方は同様である。</li> </ul>
B: 開口の幅 [m]	12.5																																																																																																																							
h: 溢水水位 [m]	0.32																																																																																																																							
L: 開口までの長さ [m]	50																																																																																																																							
$h/L$	0.0064																																																																																																																							
$C_{out}$ : 排出係数 [ $m^{1/2}/s$ ]	1.47																																																																																																																							
$Q_{out}$ : 排出流量 [ $m^3/h$ ]	11,988																																																																																																																							
区画番号	開口数	開口幅 (m)	カーブ高さ (m)	カーブ幅 (m)																																																																																																																				
R-2F-1	1	6.5×5.5	0.13	0.25																																																																																																																				
R-2F-3	1	6.5×5.5	0.13	0.25																																																																																																																				
R-2DF-2	1	3.0×3.0	0.13	0.25																																																																																																																				
R-2DF-3	1	3.1×3.1	0.13	0.25																																																																																																																				
R-MDF-1	1	11.1×2.2×2.2	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MDF-2	1	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>																																																																																																																				
R-MDF-3	1	3.3×1.05×3.3	0.13	0.25																																																																																																																				
R-MDF-5	1	3.9	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MDF-6	1	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>																																																																																																																				
R-1F-8	1	6.5以上	0.13	0.25																																																																																																																				
R-1F-9	1	2.7	0.13	0.25																																																																																																																				
R-MB1F-1	1	3.1 (4.4) <sup>#2</sup>	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MB1F-2	1	9.1以上	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MB1F-3	1	2.5 (4.4) <sup>#2</sup>	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MB1F-4	1	5.6	0.13	0.2																																																																																																																				
R-RPF-7	1	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>	— <sup>#1</sup>																																																																																																																				
区画番号	開口数	開口の幅 (m)	堰高さ (m)	堰長さ (m)																																																																																																																				
3RB-D-N51	2 <sup>#1</sup>	2.075	0.1	76.6 <sup>#2</sup>																																																																																																																				
3AB-H-2	1	1.35	0.1	56.2 <sup>#2</sup>																																																																																																																				
3AB-H-9	1	1.35	0.1	56.2 <sup>#2</sup>																																																																																																																				
	<p>表5 ハッチ、吹抜の開口条件(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th><th>開口数</th><th>開口幅 (m)</th><th>カーブ高さ (m)</th><th>カーブ幅 (m)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-3F-2</td><td>1</td><td>2.7 (5.1)<sup>#1</sup></td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-3F-4</td><td>1</td><td>2.7 (3.0)<sup>#1</sup></td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MDF-5</td><td>1</td><td>6.1</td><td>0.13</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>R-MDF-3-1</td><td>1</td><td>3.85</td><td>0.13<sup>#2</sup></td><td>0.30<sup>#2</sup></td></tr> <tr><td>R-2F-6-2</td><td>1</td><td>4.1×1.6×4.1</td><td>0.13</td><td>0.15</td></tr> <tr><td>R-2F-7-1</td><td>1</td><td>4.7×1.5</td><td>0.13</td><td>0.15</td></tr> <tr><td>R-2F-8-2</td><td>1</td><td>4.1×1.6×4.1</td><td>0.13</td><td>0.15</td></tr> <tr><td>R-MDF-9</td><td>1</td><td>4.0以上</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>C-2F-3</td><td>1</td><td>3.9</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>C-MB1F-1</td><td>1</td><td>4.4×1.2</td><td>0.13</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>C-MDF-1</td><td>1</td><td>6.5以上</td><td>0.13<sup>#2</sup></td><td>0.30<sup>#2</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>*1 開口が2辺のため、小さいほうの値で評価 *2 保守的に設定</p>	区画番号	開口数	開口幅 (m)	カーブ高さ (m)	カーブ幅 (m)	R-3F-2	1	2.7 (5.1) <sup>#1</sup>	0.13	0.2	R-3F-4	1	2.7 (3.0) <sup>#1</sup>	0.13	0.2	R-MDF-5	1	6.1	0.13	0.2	R-MDF-3-1	1	3.85	0.13 <sup>#2</sup>	0.30 <sup>#2</sup>	R-2F-6-2	1	4.1×1.6×4.1	0.13	0.15	R-2F-7-1	1	4.7×1.5	0.13	0.15	R-2F-8-2	1	4.1×1.6×4.1	0.13	0.15	R-MDF-9	1	4.0以上	0.13	0.25	C-2F-3	1	3.9	0.13	0.25	C-MB1F-1	1	4.4×1.2	0.13	0.25	C-MDF-1	1	6.5以上	0.13 <sup>#2</sup>	0.30 <sup>#2</sup>																																																											
区画番号	開口数	開口幅 (m)	カーブ高さ (m)	カーブ幅 (m)																																																																																																																				
R-3F-2	1	2.7 (5.1) <sup>#1</sup>	0.13	0.2																																																																																																																				
R-3F-4	1	2.7 (3.0) <sup>#1</sup>	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MDF-5	1	6.1	0.13	0.2																																																																																																																				
R-MDF-3-1	1	3.85	0.13 <sup>#2</sup>	0.30 <sup>#2</sup>																																																																																																																				
R-2F-6-2	1	4.1×1.6×4.1	0.13	0.15																																																																																																																				
R-2F-7-1	1	4.7×1.5	0.13	0.15																																																																																																																				
R-2F-8-2	1	4.1×1.6×4.1	0.13	0.15																																																																																																																				
R-MDF-9	1	4.0以上	0.13	0.25																																																																																																																				
C-2F-3	1	3.9	0.13	0.25																																																																																																																				
C-MB1F-1	1	4.4×1.2	0.13	0.25																																																																																																																				
C-MDF-1	1	6.5以上	0.13 <sup>#2</sup>	0.30 <sup>#2</sup>																																																																																																																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【島根2号炉】</p> <p>まとめ資料 p.9 条-別添1-補足4-2 より抜粋</p> <p>結果としては、溢水水位が 0.32m (この区画の最も低い浸水防護設備の高さ) にて排出流量は <math>11,900\text{m}^3/\text{h}</math> 程度となり、これは系統からの流出に対し、機器搬入ハッチ等の開口部からの排水を期待する系統中の最大流量 <math>337\text{m}^3/\text{h}</math> (原子炉補機冷却系) よりも上回っているため、没水高さがこの区画の最も低い浸水防護設備の高さ以上となることはない。</p>	<p>(2) 算出結果</p> <p>流下開口 (ハッチ、吹抜) からの流出量に関して、越流水深を <math>0.17\text{m}</math> と仮定 (没水高さ <math>0.3\text{m}</math>) した場合の算出結果を表 6 に示す。</p> <p>越流量は十分に大きく、没水高さは <math>0.3\text{m}</math> を超えないことを確認した。</p>	<p>(3) 算出結果</p> <p>流下開口 (グレーチング、吹抜) からの流出量の算出結果を表 3 に示す。</p> <p>結果としては、3RB-D-N51 では溢水水位が <math>0.5\text{m}</math> (この区画の最も低い溢水防護対象設備の機能喪失高さ) にて越流量は <math>2,764\text{m}^3/\text{h}</math> となり、これは系統からの流出に対し、当該開口部からの排水を期待する系統中の最大流量 <math>2,091\text{m}^3/\text{h}</math> (主給水系統) よりも上回っている。</p> <p>また、3AB-H-2 及び 3AB-H-9 では溢水水位が <math>0.8\text{m}</math> (この区画の最も低い溢水防護対象設備の機能喪失高さ) にて越流量 <math>4,243\text{m}^3/\text{h}</math> となり、これは系統からの流出に対し、当該開口部からの排水を期待する系統中の最大流量 <math>120\text{m}^3/\text{h}</math> (化学体積制御系統 (充てん配管)) よりも上回っている。</p> <p>以上より、没水高さがこれらの区画の最も低い溢水防護対象設備の機能喪失高さ以上となることはない。</p>	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p> <p>記載方針の相違</p> <p>泊では、島根の構文を参考にして、結果を文章で示した後に表を掲載する。</p> <p>【島根】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溢水水位、最大流量、系統、越流量は評価条件の相違。</li> <li>・島根では浸水防護設備の高さに対して越流量を算出しているのに対して、泊では溢水防護対象設備の機能喪失高さに対して越流量を算出している。</li> </ul> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの評価結果を示すため、区画を個別に記載する。</li> <li>・島根の1つの評価結果の構文を2つの評価結果を示すために、2回用いることによる構文の相違。</li> </ul> <p>記載表現の相違</p>

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違 (設計方針の相違)  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違 (記載方針の相違)  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違 (実質的な相違なし)

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																			
<p>【島根2号炉】</p> <p>まとめ資料p.9条-別添1-補足4-2より抜粋</p> <p>なお、開口の幅については、周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性も考慮し、排出を期待できる開口の幅の50%として設定する。</p>	<p>表6 ハッチ、吹抜からの越流量算出結果(1/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th><th>種別</th><th>越流量 (m<sup>3</sup>/h)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-3F-1</td><td>ハッチ</td><td>4672<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-2F-3</td><td>ハッチ</td><td>4672<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-B2F-2</td><td>ハッチ</td><td>2548<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-B2F-3</td><td>ハッチ</td><td>2633<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-M2F-1</td><td>吹抜</td><td>4882</td></tr> <tr><td>R-M2F-3</td><td>吹抜</td><td>1401</td></tr> <tr><td>R-M2F-5</td><td>吹抜</td><td>1715</td></tr> <tr><td>R-1F-8</td><td>吹抜</td><td>2761</td></tr> <tr><td>R-1F-9</td><td>吹抜</td><td>1146</td></tr> <tr><td>R-MB1F-1</td><td>吹抜</td><td>1363</td></tr> <tr><td>R-MB1F-2</td><td>吹抜</td><td>4002</td></tr> <tr><td>R-MB1F-3</td><td>吹抜</td><td>1099</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 開口4辺のうち、小さい2辺からの流出を想定</p>	区画番号	種別	越流量 (m <sup>3</sup> /h)	R-3F-1	ハッチ	4672 <sup>#1</sup>	R-2F-3	ハッチ	4672 <sup>#1</sup>	R-B2F-2	ハッチ	2548 <sup>#1</sup>	R-B2F-3	ハッチ	2633 <sup>#1</sup>	R-M2F-1	吹抜	4882	R-M2F-3	吹抜	1401	R-M2F-5	吹抜	1715	R-1F-8	吹抜	2761	R-1F-9	吹抜	1146	R-MB1F-1	吹抜	1363	R-MB1F-2	吹抜	4002	R-MB1F-3	吹抜	1099	<p>表3 グレーチング、吹抜からの越流量算出結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th><th>種別</th><th>越流量 (m<sup>3</sup>/h)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>3RB-D-N51</td><td>グレーチング</td><td>2,764</td></tr> <tr><td>3AB-H-2</td><td>吹抜</td><td>4,243</td></tr> <tr><td>3AB-H-9</td><td>吹抜</td><td>4,243</td></tr> </tbody> </table>	区画番号	種別	越流量 (m <sup>3</sup> /h)	3RB-D-N51	グレーチング	2,764	3AB-H-2	吹抜	4,243	3AB-H-9	吹抜	4,243	<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区画番号、種別、越流量の数値については、評価条件の相違。</li> <li>・女川は「開口4辺のうち、小さい2辺からの流出を想定」としているところに対して、泊は、開口の幅については、流出を期待できる開口の幅の50%として設定する。(島根と同様)</li> </ul>
区画番号	種別	越流量 (m <sup>3</sup> /h)																																																				
R-3F-1	ハッチ	4672 <sup>#1</sup>																																																				
R-2F-3	ハッチ	4672 <sup>#1</sup>																																																				
R-B2F-2	ハッチ	2548 <sup>#1</sup>																																																				
R-B2F-3	ハッチ	2633 <sup>#1</sup>																																																				
R-M2F-1	吹抜	4882																																																				
R-M2F-3	吹抜	1401																																																				
R-M2F-5	吹抜	1715																																																				
R-1F-8	吹抜	2761																																																				
R-1F-9	吹抜	1146																																																				
R-MB1F-1	吹抜	1363																																																				
R-MB1F-2	吹抜	4002																																																				
R-MB1F-3	吹抜	1099																																																				
区画番号	種別	越流量 (m <sup>3</sup> /h)																																																				
3RB-D-N51	グレーチング	2,764																																																				
3AB-H-2	吹抜	4,243																																																				
3AB-H-9	吹抜	4,243																																																				
<p>【島根2号炉】</p> <p>まとめ資料p.9条-別添1-補足4-2より抜粋</p> <p>なお、開口の幅については、周囲の壁等の状況や開口角部で流出が阻害される可能性も考慮し、排出を期待できる開口の幅の50%として設定する。</p>	<p>表6 ハッチ、吹抜からの越流量算出結果(2/2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区画番号</th><th>種別</th><th>越流量 (m<sup>3</sup>/h)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R-MB1F-4</td><td>吹抜</td><td>2463</td></tr> <tr><td>R-3F-2</td><td>吹抜</td><td>1187</td></tr> <tr><td>R-3F-4</td><td>吹抜</td><td>1187</td></tr> <tr><td>R-3F-5</td><td>吹抜</td><td>2683</td></tr> <tr><td>R-M3F-3-1</td><td>吹抜</td><td>1596</td></tr> <tr><td>R-2F-6-2</td><td>吹抜</td><td>1906</td></tr> <tr><td>R-2F-7-1</td><td>吹抜</td><td>1395<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>R-2F-8-2</td><td>吹抜</td><td>1906</td></tr> <tr><td>R-M2F-9</td><td>吹抜</td><td>1699</td></tr> <tr><td>C-2F-3</td><td>吹抜</td><td>1656</td></tr> <tr><td>C-MB1F-1</td><td>吹抜</td><td>1019<sup>#1</sup></td></tr> <tr><td>C-MB2F-1</td><td>吹抜</td><td>2695</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 開口4辺のうち、小さい2辺からの流出を想定</p>	区画番号	種別	越流量 (m <sup>3</sup> /h)	R-MB1F-4	吹抜	2463	R-3F-2	吹抜	1187	R-3F-4	吹抜	1187	R-3F-5	吹抜	2683	R-M3F-3-1	吹抜	1596	R-2F-6-2	吹抜	1906	R-2F-7-1	吹抜	1395 <sup>#1</sup>	R-2F-8-2	吹抜	1906	R-M2F-9	吹抜	1699	C-2F-3	吹抜	1656	C-MB1F-1	吹抜	1019 <sup>#1</sup>	C-MB2F-1	吹抜	2695														
区画番号	種別	越流量 (m <sup>3</sup> /h)																																																				
R-MB1F-4	吹抜	2463																																																				
R-3F-2	吹抜	1187																																																				
R-3F-4	吹抜	1187																																																				
R-3F-5	吹抜	2683																																																				
R-M3F-3-1	吹抜	1596																																																				
R-2F-6-2	吹抜	1906																																																				
R-2F-7-1	吹抜	1395 <sup>#1</sup>																																																				
R-2F-8-2	吹抜	1906																																																				
R-M2F-9	吹抜	1699																																																				
C-2F-3	吹抜	1656																																																				
C-MB1F-1	吹抜	1019 <sup>#1</sup>																																																				
C-MB2F-1	吹抜	2695																																																				

## 泊発電所3号炉 DB基準適合性 比較表

第9条 溢水による損傷の防止等 (別添1添付資料II)

赤字 : 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字 : 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字 : 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【大飯3／4号炉】</p> <p>まとめ資料p.2-9-14より抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的には、溢水防護区画内で発生する溢水に対しては、床ドレン、床面開口部及び床貫通部、壁貫通部、扉から他区画への流出は想定しない条件で溢水経路を設定し、溢水防護区画内の溢水水位を算出する。</li> </ul>	<p>6. 床ドレンからの排水について</p> <p>女川2号炉内部溢水影響評価において、床ドレンからの流出を考慮する場合については以下のとおりとする。</p> <p>(1) 評価条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同一区画に目皿が複数ある場合は、床ドレン一箇所の閉塞を考慮した上で、他の床ドレン配管からの単位時間あたりの流出を考慮する。</li> <li>床ドレンからの流出流量は、開口の有効面積と当該区画の水位を用いて以下の式より算出する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid red; padding: 10px;"> <math display="block">Q = AC\sqrt{2gH} \quad \dots \dots \quad ③\text{式}</math> <p>Q : 流量(m<sup>3</sup>/s)          A : 開口の有効面積(m<sup>2</sup>)          H : 当該区画の水位(m)          C : 流出流量損失係数 (=0.82)          g : 重力加速度 (m/s<sup>2</sup>)</p> </div>		<p>【女川】</p> <p>設計方針の相違</p> <p>泊は床ドレンからの排水に期待せずに溢水水位を算出し、没水影響評価を実施している。(大飯と同様)</p>
	<p>7. 今後の運用管理について</p> <p>女川原子力発電所原子炉施設保安規定に基づく規定文書として制定する「内部溢水対応要領書(仮称)」に、以下の内容を明記することとする。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p> <p>(1) 内部溢水影響評価において、流下を考慮している開口部は、それがわかるように現場に表示を行うこと。</p> <p>(2) 内部溢水影響評価において、流下を考慮している開口部へ落下防止対策(ネットの設置、フェンスの設置等)を実施する場合は、カープからの越流に影響を及ぼさないように配慮すること。</p>	<p>4. 今後の運用管理について</p> <p>泊発電所原子炉施設保安規定に基づく規定文書として制定する「内部溢水対応要領(仮称)」に、以下の内容を明記することとする。</p> <p>なお、本事項は後段規則での対応が必要となる事項である。(別添2参照)</p> <p>(1) 内部溢水影響評価において、流下を考慮している開口部は、それがわかるように現場に表示を行うこと。</p> <p>(2) 内部溢水影響評価において、流下を考慮している開口部へ落下防止対策(ネットの設置、フェンスの設置等)を実施する場合は、堰からの越流に影響を及ぼさないように配慮すること。</p>	<p>【女川】</p> <p>記載表現の相違</p>